

法学部 法律学科 (2018年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	歴史と政治 PLS110F 藤田 俊	2学期	1	2	1
		1年			
	異文化理解の基礎 ANT110F 神原 ゆうこ	2学期	1	2	2
		1年			
	ことばの科学 LIN110F 漆原 朗子	2学期	1	2	3
		1年			
	国際学入門 IRL100F 伊野 憲治	2学期	1	2	4
		1年			
	生活世界の哲学 PHR110F 高木 駿	1学期	1	2	5
		1年			
	日本の防衛 PLS111F 戸蒔 仁司	2学期	1	2	6
		1年			
	生命と環境 BIO100F 日高 京子 他	1学期	1	2	7
		1年			
	情報社会への招待 INF100F 中尾 泰士	2学期	1	2	8
		1年			
	環境問題概論 ENV100F 廣川 祐司	1学期	1	2	9
		1年			
	環境問題概論 ENV100F 廣川 祐司	2学期	1	2	10
		1年			
可能性としての歴史 HIS200F 藤田 俊	1学期	2	2	11	
	2年				
現代社会と文化 ANT210F 神原 ゆうこ	1学期	2	2	12	
	2年				
言語と認知 LIN210F 漆原 朗子 他	2学期	2	2	13	
	2年				
共生社会論 SOW200F 伊野 憲治	2学期	2	2	14	
	2年				
共同体と身体 PHR210F 閉講	1学期	2	2	14	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	戦争論 PLS210F 戸蒔 仁司	2学期	2	2	15
		2年			
	生命科学と社会 BIO200F 閉講	1学期	2	2	
		2年			
情報社会を読む INF200F 閉講	1学期	2	2		
	2年				
地域資源管理論 ENV200F 閉講	2学期	2	2		
	2年				
■教養演習科目	教養演習 A I (防衛セミナー) GES201F 戸蒔 仁司	1学期	2	2	16
		2年			
	教養演習 A I (発達障がいセミナー) GES201F 伊野 憲治	1学期	2	2	17
		2年			
	教養演習 A I GES201F 石川 敬之	1学期	2	2	18
		2年			
	教養演習 A II GES202F 高木 駿	2学期	2	2	19
		2年			
	教養演習 A II GES202F 石川 敬之	2学期	2	2	20
		2年			
教養演習 B I GES301F 閉講	1学期	3	2		
	3年				
教養演習 B II GES302F 閉講	2学期	3	2		
	3年				
■テーマ科目	自然学のまなざし ENV002F 竹川 大介 他	1学期	1	2	21
		1年			
	動物のみかた ZOL001F 到津の森公園、文学部 竹川大介	2学期	1	2	22
		1年			
地球の生いたち GOL001F 閉講	2学期	1	2		
	1年				
地球の生いたち GOL001F 閉講	2学期	1	2		
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
	備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	くらしと化学 CHM001F 閉講	1学期	1	2	1年	
	くらしと化学 CHM001F 閉講	1学期	1	2	1年	
	現代人のこころ PSY003F 税田 慶昭 他	1学期	1	2	1年	23
	人間と生命 BIO002F 日高 京子	2学期	1	2	1年	24
	環境都市としての北九州 ENV001F 日高 京子 他	2学期	1	2	1年	25
	未来を創る環境技術 ENV003F 上江洲 一也 他	1学期	1	2	1年	26
	私たちと宗教 PHR006F 閉講	2学期	1	2	1年	
	思想と現代 PHR004F 閉講	1学期	1	2	1年	
	思想と現代 PHR004F 閉講	1学期	1	2	1年	
	文化と表象 MCC001F 閉講	2学期	1	2	1年	
言語とコミュニケーション LIN001F 閉講	2学期	1	2	1年		
芸術と人間 PHR001F 真武 真喜子	2学期	1	2	1年	27	
文学を読む LIT001F 閉講	1学期	1	2	1年		
文学を読む LIT001F 閉講	1学期	1	2	1年		
現代正義論 PHR003F 重松 博之	2学期	1	2	1年	28	

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	民主主義とは何か PLS002F 中井 遼	2学期	1	2	29
		1年			
	民主主義とは何か PLS002F 中井 遼	1学期	1	2	30
		1年			
	社会学的思考 SOC002F 稲月 正	1学期	1	2	31
		1年			
	政治のなかの文化 ANT001F 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	人権論 SOC004F 柳井 美枝	1学期	1	2	32
		1年			
	ジェンダー論 GEN001F 高木 駿	1学期	1	2	33
		1年			
	障がい学 SOW001F 伊野 憲治	1学期	1	2	34
		1年			
	共生の作法 LAW001F 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	共生の作法 LAW001F 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	法律の読み方 LAW002F 中村 英樹 他	2学期	1	2	35
		1年			
社会調査 SOC003F 閉講	2学期	1	2		
	1年				
市民活動論 RDE001F 西田 心平	2学期	1	2	36	
	1年				
企業と社会 BUS001F 山下 剛	1学期	1	2	37	
	1年				
現代社会と倫理 PHR002F 閉講	1学期	1	2		
	1年				
現代社会と倫理 PHR002F 閉講	1学期	1	2		
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	現代社会と新聞ジャーナリズム SOC001F 休講	1学期	1	2	38
		1年			
	都市と地域 RDE002F 奥山 恭英	2学期	1	2	39
		1年			
	地域防災への招待 SSS001F 加藤 尊秋 他	1学期	1	2	40
		1年 (2015年度以降入学生)			
	地域防災への招待 SSS001F 未定	1学期	1	2	41
		1年 (2015年度以降入学生)			
	現代の国際情勢 IRL003F 篠崎 香織 他	1学期	1	2	42
		1年			
	開発と統治 IRL002F 閉講	2学期	1	2	43
		1年			
	グローバル化する経済 ECN001F 魏 芳 他	1学期	1	2	44
		1年			
	テロリズム論 PLS001F 閉講	1学期	1	2	45
		1年			
	国際紛争と国連 IRL005F 閉講	2学期	1	2	46
		1年			
	国際紛争と国連 IRL005F 閉講	2学期	1	2	47
		1年			
国際社会と日本 IRL004F 中野 博文 他	2学期	1	2	48	
	1年				
韓国の社会と文化 ARE010F 金 慶湖	2学期	1	2	49	
	1年				
エスニシティと多文化社会 IRL001F 閉講	1学期	1	2	50	
	1年				
歴史の読み方I HIS004F 閉講	1学期	1	2	51	
	1年				
歴史の読み方II HIS005F 閉講	1学期	1	2	52	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	そのとき世界は HIS002F 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	戦後の日本経済 ECN002F 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	ものゝ人間の歴史 HIS003F 閉講	1学期	1	2	
		1年			
人物と時代の歴史 HIS001F 閉講	1学期	1	2		
	1年				
ヨーロッパ道德思想史 PHR005F 高木 駿	2学期	1	2	45	
	1年				
■教職関連科目	日本史 HIS110F 加藤 絢子	1学期	1	2	46
		1年			
	東洋史 HIS120F 植松 慎悟	2学期	1	2	47
		1年			
	西洋史 HIS130F 疇谷 憲洋	1学期	1	2	48
		1年			
	人文地理学 GEO110F 美谷 薫	2学期	1	2	49
	1年				
土地地理学 GEO111F 野井 英明	1学期	1	2	50	
	1年				
地誌学 GEO112F 美谷 薫	2学期	1	2	51	
	1年				
■ライフ・スキル科目	メンタル・ヘルスI PSY001F 寺田 千栄子	1学期	1	2	52
		1年			
	メンタル・ヘルスII PSY002F 閉講	2学期	1	2	
		1年			
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 高西 敏正	1学期	1	2	53
		1年			
フィジカル・ヘルスI HSS001F 柴原 健太郎	1学期	1	2	54	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・スキル科目	フィジカル・ヘルスI HSS001F 豊田 直樹	1学期	1	2	55
		1年			
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 山本 浩二	2学期	1	2	56
		1年			
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 高西 敏正	2学期	1	2	57
		1年			
	フィジカル・ヘルスI HSS001F 柴原 健太郎	2学期	1	2	58
		1年			
	自己管理論 HSS003F 日高 京子 他	1学期	1	2	59
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 山本 浩二	1学期	1	1	60
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (外種目) HSS081F 徳永 政夫	1学期	1	1	61
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) HSS081F 倉崎 信子	1学期	1	1	62
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (ソフトバレー / バレーボール) HSS081F 小幡 博基	1学期	1	1	63
		1年			
	フィジカル・エクササイズI (バレーボール) HSS081F 八板 昭仁	1学期	1	1	64
		1年			
フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) HSS082F 八板 昭仁	2学期	1	1	65	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 徳永 政夫	2学期	1	1	66	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 梨羽 茂	2学期	1	1	67	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (ソフトバレー / バレーボ HSS082F 小幡 博基	2学期	1	1	68	
	1年				
フィジカル・エクササイズII (外種目) HSS082F 梨羽 茂	2学期	1	1	69	
	1年				

法学部 法律学科 (2018年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・スキル科目	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 豊田 直樹	2学期	1	1	70
	1年				
■キャリア科目	キャリア・デザイン CAR100F 眞鍋 和博	1学期	1	2	71
	1年				
	キャリア・デザイン CAR100F 石川 敬之	1学期	1	2	72
	1年				
	キャリア・デザイン CAR100F 見館 好隆	1学期	1	2	73
	1年				
	コミュニケーション実践 CAR111F 閉講	2学期	1	2	
	1年				
	グローバル・リーダーシップ論 CAR112F 閉講	2学期	1	2	
	1年				
	プロフェッショナルの仕事I CAR210F 見館 好隆	1学期	2	2	74
	2年				
プロフェッショナルの仕事II CAR211F 見館 好隆	2学期	2	2	75	
2年					
地域の達人 CAR212F 休講	2学期	2	2		
2年					
サービスラーニング入門I CAR110F 石川 敬之	1学期	1	2	76	
1年					
サービスラーニング入門II CAR180F 石川 敬之	2学期	1	2	77	
1年					
プロジェクト演習I CAR280F 閉講	1学期	2	2		
2年					
プロジェクト演習II CAR281F 閉講	2学期	2	2		
2年					
プロジェクト演習III CAR380F 閉講	1学期	3	2		
3年					
プロジェクト演習IV CAR381F 閉講	2学期	3	2		
3年					

法学部 法律学科 (2018年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教養特講	教養特講I SPL001F 休講	2学期	1	2	
	1年				
	教養特講II (現代社会とエシカル消費) SPL002F 休講	1学期	1	2	
	1年				
教養特講III SPL003F 休講	1学期	1	2		
1年					
教養特講IV SPL004F 休講	2学期	1	2		
1年					
■地域科目	地域の文化と歴史 HIS170F 南 博	1学期	1	2	78
	1年 (2016年度以降入学生)				
	地域の社会と経済 ECN170F 李 錦東	1学期	1	2	79
	1年 (2016年度以降入学生)				
	地域のにぎわいづくり RDE270F 南 博	2学期	2	2	80
	2年 (2016年度以降入学生)				
	北九州市の都市政策 PLC270F 内田 晃	1学期	2	2	81
2年 (2016年度以降入学生)					
まなびと企業研究I CAR270F 小林 敏樹	2学期	2	2	82	
2年 (2016年度以降入学生)					
まなびと企業研究II CAR370F 見館 好隆	1学期	3	2	83	
3年 (2016年度以降入学生)					
■情報教育科目	情報表現 INF230F 閉講	2学期	2	2	
	2年				
	情報メディア演習 INF330F 閉講	1学期	3	2	
3年					
■外国語教育科目 ■第一外国語	英語I (律政群 1-G) ENG101F 伊藤 晃	1学期	1	1	84
	律政群 1 - G				
	英語I (律政群 1-H) ENG101F 木梨 安子	1学期	1	1	85
律政群 1 - H					
英語I (律政群 1-I) ENG101F 下條 かおり	1学期	1	1	86	
律政群 1 - I					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語II (律政群 1 - H) ENG111F 相原 信彦	2学期	1	1	87
		律政群 1 - H			
	英語II (律政群 1 - I) ENG111F 木梨 安子	2学期	1	1	88
		律政群 1 - I			
	英語III (律政群 1 - H) ENG102F マーニー・セイディ	1学期	1	1	89
		律政群 1 - H			
	英語III (律政群 1 - I) ENG102F ジェイムズ・ヒックス	1学期	1	1	90
		律政群 1 - I			
	英語 IV (律政群 1 - H) ENG112F ケネス・ギブソン	2学期	1	1	91
		律政群 1 - H			
	英語IV (律政群 1 - I) ENG112F マーニー・セイディ	2学期	1	1	92
		律政群 1 - I			
	英語V (律政群 2 - E) ENG201F 大塚 由美子	1学期	2	1	93
		律政群 2 - E			
	英語V (律政群 2 - F) ENG201F 安丸 雅子	1学期	2	1	94
		律政群 2 - F			
	英語V (律政群 2 - G) ENG201F 船方 浩子	1学期	2	1	95
		律政群 2 - G			
	英語VI (律政群 2 - F) ENG211F 船方 浩子	2学期	2	1	96
		律政群 2 - F			
英語VI (律政群 2 - G) ENG211F 酒井 秀子	2学期	2	1	97	
	律政群 2 - G				
英語VII (律政群 2 - F) ENG202F クリストファー・オサリバン	1学期	2	1	98	
	律政群 2 - F				
英語VII (律政群 2 - G) ENG202F ロバート・マーフィ	1学期	2	1	99	
	律政群 2 - G				
英語VIII (律政群 2 - F) ENG212F 百武 玉恵	2学期	2	1	100	
	律政群 2 - F				
英語VIII (律政群 2 - G) ENG212F 薬師寺 元子	2学期	2	1	101	
	律政群 2 - G				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	英語IX (英中国済営比人律政3年) ENG301F 伊藤 晃	1学期	3	1	102
		英中国済営比人律政3年			
	英語X (英中国済営比人律政3年) ENG311F 杉山 智子	2学期	3	1	103
		英中国済営比人律政3年			
	英語XI (英中国済営比人律政3年) ENG302F ロバート・マーフィ	1学期	3	1	104
	英中国済営比人律政3年				
英語XII (英中国済営比人律政3年) ENG312F デビット・ニール・マクレラン	2学期	3	1	105	
	英中国済営比人律政3年				
■第二外国語	中国語I (1-a) CHN101F 野村 和代	1学期	1	1	106
		済営人律政群1年			
	中国語I (1-b) CHN101F 板谷 俊生	1学期	1	1	107
		済営人律政群1年			
	中国語II (1-a) CHN111F 野村 和代	2学期	1	1	108
		済営人律政群1年			
	中国語II (1-b) CHN111F 板谷 俊生	2学期	1	1	109
		済営人律政群1年			
	中国語III (1-a) CHN102F 艾文婷	1学期	1	1	110
		済営人律政群1年			
	中国語III (1-b) CHN102F 于 佳	1学期	1	1	111
		済営人律政群1年			
	中国語IV (1-a) CHN112F 艾文婷	2学期	1	1	112
		済営人律政群1年			
	中国語IV (1-b) CHN112F 于 佳	2学期	1	1	113
	済営人律政群1年				
中国語V CHN201F 有働 彰子	1学期	2	1	114	
	英済営人律政群2年				
中国語VI CHN211F 有働 彰子	2学期	2	1	115	
	英済営人律政群2年				
中国語VII CHN202F 未定	1学期	2	1	116	
	英済営人律政群2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	中国語VIII CHN212F 未定	2学期	2	1	117
		英済営人律政群 2年			
	朝鮮語I (1 - a) KRN101F 呉 香善	1学期	1	1	118
		済営律政群 1年			
	朝鮮語I (1 - b) KRN101F 金 京姫	1学期	1	1	119
		済営律政群 1年			
	朝鮮語II (1 - a) KRN111F 金 慶湖	2学期	1	1	120
		済営律政群 1年			
	朝鮮語II (1 - b) KRN111F 金 京姫	2学期	1	1	121
		済営律政群 1年			
	朝鮮語III (1 - a) KRN102F 金 光子	1学期	1	1	122
		済営律政群 1年			
	朝鮮語III (1 - b) KRN102F 呉 珠熙	1学期	1	1	123
		済営律政群 1年			
	朝鮮語IV (1 - a) KRN112F 金 光子	2学期	1	1	124
		済営律政群 1年			
	朝鮮語IV (1 - b) KRN112F 呉 珠熙	2学期	1	1	125
		済営律政群 1年			
	朝鮮語V KRN201F 安 瀨珠	1学期	2	1	126
		済営比人律政群 2年			
朝鮮語VI KRN211F 安 瀨珠	2学期	2	1	127	
	済営比人律政群 2年				
朝鮮語VII KRN202F 金 惠媛	1学期	2	1	128	
	済営比人律政群 2年				
朝鮮語VIII KRN212F 金 惠媛	2学期	2	1	129	
	済営比人律政群 2年				
ドイツ語I GRM101F 古賀 正之	1学期	1	1	130	
	済営人律政 1年				
ドイツ語II GRM111F 古賀 正之	2学期	1	1	131	
	済営人律政 1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	ドイツ語III GRM102F 山下 哲雄	1学期	1	1	132
		済営人律政 1年			
	ドイツ語IV GRM112F 山下 哲雄	2学期	1	1	133
		済営人律政 1年			
	ドイツ語V GRM201F 山下 哲雄	1学期	2	1	134
		英中国済営比人律政 2年			
	ドイツ語VI GRM211F 山下 哲雄	2学期	2	1	135
		英中国済営比人律政 2年			
	ドイツ語VII GRM202F 山下 哲雄	1学期	2	1	136
		英中国済営比人律政 2年			
	ドイツ語VIII GRM212F 山下 哲雄	2学期	2	1	137
		英中国済営比人律政 2年			
	フランス語I FRN101F 山下 広一	1学期	1	1	138
		済営人律政 1年			
	フランス語II FRN111F 山下 広一	2学期	1	1	139
		済営人律政 1年			
	フランス語III FRN102F 中川 裕二	1学期	1	1	140
		済営人律政 1年			
	フランス語IV FRN112F 中川 裕二	2学期	1	1	141
		済営人律政 1年			
フランス語V FRN201F 小野 菜都美	1学期	2	1	142	
	英中国済営比人律政 2年				
フランス語VI FRN211F 小野 菜都美	2学期	2	1	143	
	英中国済営比人律政 2年				
フランス語VII FRN202F 小野 菜都美	1学期	2	1	144	
	英中国済営比人律政 2年				
フランス語VIII FRN212F 小野 菜都美	2学期	2	1	145	
	英中国済営比人律政 2年				
スペイン語I SPN101F 宮城 志帆	1学期	1	1	146	
	中国済営人律政 1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	スペイン語II SPN111F 宮城 志帆	2学期	1	1	147
		中国済営人律政 1年			
	スペイン語III SPN102F 辻 博子	1学期	1	1	148
		中国済営人律政 1年			
	スペイン語IV SPN112F 辻 博子	2学期	1	1	149
		中国済営人律政 1年			
	スペイン語V SPN201F 青木 文夫	1学期	2	1	150
		英中国済営比人律政 2年			
スペイン語VI SPN211F 青木 文夫	2学期	2	1	151	
	英中国済営比人律政 2年				
スペイン語VII SPN202F 辻 博子	1学期	2	1	152	
	英中国済営比人律政 2年				
スペイン語VIII SPN212F 辻 博子	2学期	2	1	153	
	英中国済営比人律政 2年				
■留学生特別科目	日本語I JSL101F 清水 順子	1学期	1	1	154
		留学生 1年			
	日本語II JSL102F 金 元正	1学期	1	1	155
		留学生 1年			
	日本語III JSL103F 小林 浩明	1学期	1	1	156
		留学生 1年			
	日本語IV JSL111F 清水 順子	2学期	1	1	157
		留学生 1年			
日本語V JSL112F 則松 智子	2学期	1	1	158	
	留学生 1年				
日本語VI JSL113F 小林 浩明	2学期	1	1	159	
	留学生 1年				
日本語VII JSL104F 則松 智子	1学期	2	1	160	
	留学生 2年				
日本語VIII JSL114F 清水 順子	2学期	2	1	161	
	留学生 2年				

法学部 法律学科 (2018年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■留学生特別科目	日本事情(人文)A JPS101F 清水 順子	1学期	1	2	162
		留学生 1年			
	日本事情(人文)B JPS102F 則松 智子	2学期	1	2	163
		留学生 1年			
	日本事情(社会)A JPS103F 則松 智子	1学期	1	2	164
		留学生 1年			
	日本事情(社会)B JPS104F 清藤 隆春 他	2学期	1	2	165
		留学生 1年			
■専門教育科目 ■総合科目	法学総論 LAW100M 林田 幸広	1学期	1	2	166
		1年			
	現代法曹論I LAW200M 山田 忠政	2学期	1	2	167
		1年			
	現代法曹論II LAW201M 石井 衆介	1学期	2	2	168
		2年			
	法律実務論I LAW390M 本多 寿之	1学期	3	2	169
		3年			
	法律実務論II LAW391M 細川 眞二	2学期	3	2	170
		3年			
	法学基礎演習I SEM111M 今泉 恵子	1学期	1	2	171
		1年			
	法学基礎演習I SEM111M 山本 健人	1学期	1	2	172
		1年			
	法学基礎演習I SEM111M 岡本 舞子	1学期	1	2	173
	1年				
法学基礎演習I SEM111M 二宮 正人	1学期	1	2	174	
	1年				
法学基礎演習I SEM111M 休講	1学期	1	2		
	1年				
法学基礎演習I SEM111M 近藤 卓也	1学期	1	2	175	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■総合科目	法学基礎演習I SEM111M 重松 博之	1学期	1	2	176
		1年			
	法学基礎演習I SEM111M 清水 裕一郎	1学期	1	2	177
		1年			
	法学基礎演習I SEM111M 高橋 衛	1学期	1	2	178
		1年			
	法学基礎演習I SEM111M 津田 小百合	1学期	1	2	179
		1年			
	法学基礎演習I SEM111M 中村 英樹	1学期	1	2	180
		1年			
	法学基礎演習I SEM111M 大杉 一之	1学期	1	2	181
		1年			
	法学基礎演習I SEM111M 林田 幸広	1学期	1	2	182
		1年			
	法学基礎演習I SEM111M 堀澤 明生	1学期	1	2	183
		1年			
	法学基礎演習I SEM111M 福本 忍	1学期	1	2	184
		1年			
	法学基礎演習I SEM111M 矢澤 久純	1学期	1	2	185
	1年				
法学基礎演習I SEM111M 水野 陽一	1学期	1	2	186	
	1年				
法学基礎演習I SEM111M 休講	1学期	1	2		
	1年				
法学基礎演習I SEM111M 丸山 愛博	1学期	1	2	187	
	1年				
法学基礎演習II SEM112M 今泉 恵子	2学期	1	2	188	
	1年				
法学基礎演習II SEM112M 山本 健人	2学期	1	2	189	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■総合科目	法学基礎演習II SEM112M 岡本 舞子	2学期	1	2	190
		1年			
	法学基礎演習II SEM112M 二宮 正人	2学期	1	2	191
		1年			
	法学基礎演習II SEM112M 休講	2学期	1	2	
		1年			
	法学基礎演習II SEM112M 近藤 卓也	2学期	1	2	192
		1年			
	法学基礎演習II SEM112M 重松 博之	2学期	1	2	193
		1年			
	法学基礎演習II SEM112M 清水 裕一郎	2学期	1	2	194
		1年			
	法学基礎演習II SEM112M 高橋 衛	2学期	1	2	195
		1年			
	法学基礎演習II SEM112M 津田 小百合	2学期	1	2	196
		1年			
	法学基礎演習II SEM112M 中村 英樹	2学期	1	2	197
		1年			
法学基礎演習II SEM112M 大杉 一之	2学期	1	2	198	
	1年				
法学基礎演習II SEM112M 林田 幸広	2学期	1	2	199	
	1年				
法学基礎演習II SEM112M 堀澤 明生	2学期	1	2	200	
	1年				
法学基礎演習II SEM112M 福本 忍	2学期	1	2	201	
	1年				
法学基礎演習II SEM112M 矢澤 久純	2学期	1	2	202	
	1年				
法学基礎演習II SEM112M 水野 陽一	2学期	1	2	203	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■総合科目	法学基礎演習II	2学期	1	2	
	SEM112M 休講	1年			
	法学基礎演習II	2学期	1	2	204
	SEM112M 丸山 愛博	1年			
	外国文献研究I	1学期	2	2	205
	LAW290M 岡本 舞子	2年			
	外国文献研究I	1学期	2	2	
	LAW290M 休講	2年			
	外国文献研究I		2	2	
	LAW290M 休講	2年			
	外国文献研究II	2学期	2	2	206
	LAW291M 今泉 恵子	2年			
	外国文献研究II	2学期	2	2	
	LAW291M 休講	2年			
	外国文献研究II		2	2	
	LAW291M 休講	2年			
	法哲学専門演習I	1学期	3	2	207
	SEM311M 重松 博之	3年			
	法哲学専門演習II	2学期	3	2	208
	SEM312M 重松 博之	3年			
法哲学専門演習III	1学期	4	2	209	
SEM411M 重松 博之	4年				
法哲学専門演習IV	2学期	4	2	210	
SEM412M 重松 博之	4年				
憲法専門演習I	1学期	3	2	211	
SEM311M 山本 健人	3年				
憲法専門演習I	1学期	3	2	212	
SEM311M 中村 英樹	3年				
憲法専門演習II	2学期	3	2	213	
SEM312M 山本 健人	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■総合科目	憲法専門演習II SEM312M 中村 英樹	2学期	3	2	214
		3年			
	憲法専門演習III SEM411M 山本 健人	1学期	4	2	215
		4年			
	憲法専門演習III SEM411M 中村 英樹	1学期	4	2	216
		4年			
	憲法専門演習IV SEM412M 山本 健人	2学期	4	2	217
		4年			
	憲法専門演習IV SEM412M 中村 英樹	2学期	4	2	218
		4年			
	行政法専門演習I SEM311M 近藤 卓也	1学期	3	2	219
		3年			
	行政法専門演習I SEM311M 堀澤 明生	1学期	3	2	220
		3年			
	行政法専門演習II SEM312M 近藤 卓也	2学期	3	2	221
		3年			
	行政法専門演習II SEM312M 堀澤 明生	2学期	3	2	222
		3年			
	行政法専門演習III SEM411M 近藤 卓也	1学期	4	2	223
		4年			
行政法専門演習III SEM411M 堀澤 明生	1学期	4	2	224	
	4年				
行政法専門演習IV SEM412M 近藤 卓也	2学期	4	2	225	
	4年				
行政法専門演習IV SEM412M 堀澤 明生	2学期	4	2	226	
	4年				
刑法専門演習I SEM311M 休講	1学期	3	2		
	3年				
刑法専門演習I SEM311M 大杉 一之	1学期	3	2	227	
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■総合科目	刑法専門演習II SEM312M 休講	2学期	3	2	228
		3年			
	刑法専門演習II SEM312M 大杉 一之	2学期	3	2	229
		3年			
	刑法専門演習III SEM411M 休講	1学期	4	2	230
		4年			
	刑法専門演習III SEM411M 大杉 一之	1学期	4	2	231
		4年			
	刑法専門演習IV SEM412M 休講	2学期	4	2	232
		4年			
	刑法専門演習IV SEM412M 大杉 一之	2学期	4	2	233
		4年			
	刑事訴訟法専門演習I SEM311M 水野 陽一	1学期	3	2	234
		3年			
	刑事訴訟法専門演習II SEM312M 水野 陽一	2学期	3	2	235
		3年			
	刑事訴訟法専門演習III SEM411M 水野 陽一	1学期	4	2	236
		4年			
	刑事訴訟法専門演習IV SEM412M 水野 陽一	2学期	4	2	237
		4年			
刑事学専門演習I SEM311M 藤田 尚	1学期	3	2	238	
	3年				
刑事学専門演習II SEM312M 藤田 尚	2学期	3	2	239	
	3年				
刑事学専門演習III SEM411M 藤田 尚	1学期	4	2	240	
	4年				
刑事学専門演習IV SEM412M 藤田 尚	2学期	4	2	241	
	4年				
社会保障法専門演習I SEM311M 津田 小百合	1学期	3	2	242	
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■総合科目	社会保障法専門演習II SEM312M 津田 小百合	2学期	3	2	240
		3年			
	社会保障法専門演習III SEM411M 津田 小百合	1学期	4	2	241
		4年			
	社会保障法専門演習IV SEM412M 津田 小百合	2学期	4	2	242
		4年			
	労働法専門演習I SEM311M 岡本 舞子	1学期	3	2	243
		3年			
	労働法専門演習II SEM312M 岡本 舞子	2学期	3	2	244
		3年			
	労働法専門演習III SEM411M 岡本 舞子	1学期	4	2	245
		4年			
	労働法専門演習IV SEM412M 岡本 舞子	2学期	4	2	246
		4年			
	国際法専門演習I SEM311M 二宮 正人	1学期	3	2	247
		3年			
	国際法専門演習II SEM312M 二宮 正人	2学期	3	2	248
		3年			
	国際法専門演習III SEM411M 二宮 正人	1学期	4	2	249
		4年			
国際法専門演習IV SEM412M 二宮 正人	2学期	4	2	250	
	4年				
民法専門演習I SEM311M 丸山 愛博	1学期	3	2	251	
	3年				
民法専門演習I SEM311M 福本 忍	1学期	3	2	252	
	3年				
民法専門演習I SEM311M 矢澤 久純	1学期	3	2	253	
	3年				
民法専門演習I SEM311M 清水 裕一郎	1学期	3	2	254	
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■総合科目	民法専門演習II SEM312M 丸山 愛博	2学期	3	2	255
		3年			
	民法専門演習II SEM312M 福本 忍	2学期	3	2	256
		3年			
	民法専門演習II SEM312M 矢澤 久純	2学期	3	2	257
		3年			
	民法専門演習II SEM312M 清水 裕一郎	2学期	3	2	258
		3年			
	民法専門演習III SEM411M 丸山 愛博	1学期	4	2	259
		4年			
	民法専門演習III SEM411M 福本 忍	1学期	4	2	260
		4年			
	民法専門演習III SEM411M 矢澤 久純	1学期	4	2	261
		4年			
	民法専門演習III SEM411M 清水 裕一郎	1学期	4	2	262
		4年			
	民法専門演習IV SEM412M 丸山 愛博	2学期	4	2	263
		4年			
	民法専門演習IV SEM412M 福本 忍	2学期	4	2	264
		4年			
民法専門演習IV SEM412M 矢澤 久純	2学期	4	2	265	
	4年				
民法専門演習IV SEM412M 清水 裕一郎	2学期	4	2	266	
	4年				
民事訴訟法専門演習I SEM311M 休講	1学期	3	2		
	3年				
民事訴訟法専門演習II SEM312M 休講	2学期	3	2		
	3年				
民事訴訟法専門演習III SEM411M 休講	1学期	4	2		
	4年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■総合科目	民事訴訟法専門演習IV SEM412M 休講	2学期	4	2	267
		4年			
	企業法専門演習I SEM311M 今泉 恵子	1学期	3	2	268
		3年			
	企業法専門演習I SEM311M 高橋 衛	1学期	3	2	269
		3年			
	企業法専門演習II SEM312M 今泉 恵子	2学期	3	2	270
		3年			
	企業法専門演習II SEM312M 高橋 衛	2学期	3	2	271
		3年			
	企業法専門演習III SEM411M 今泉 恵子	1学期	4	2	272
		4年			
	企業法専門演習III SEM411M 高橋 衛	1学期	4	2	273
		4年			
	企業法専門演習IV SEM412M 今泉 恵子	2学期	4	2	274
		4年			
	企業法専門演習IV SEM412M 高橋 衛	2学期	4	2	275
		4年			
	現代法曹論0 LAW101M 中村 英樹 他	1学期	1	2	452
	1年				
法社会学専門演習I (読替科目：法社会学専門演習I) SEM301M 林田 幸広	1学期	3	2	453	
	3年				
法社会学専門演習II (読替科目：法社会学専門演習II) SEM302M 林田 幸広	2学期	3	2	454	
	3年				
法社会学専門演習III (読替科目：法社会学専門演習III) SEM401M 林田 幸広	1学期	4	2	455	
	4年				
法社会学専門演習IV (読替科目：法社会学専門演習IV) SEM402M 林田 幸広	2学期	4	2	276	
	4年				
■理論法学科目	法思想史 LAW210M 重松 博之	1学期	2	2	276
		2年			

法学部 法律学科 (2018年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■理論法学科目	外国法 LAW212M 前裕 大志	2学期	2	2	277
		2年			
	日本法制史 LAW312M 休講	2学期 (ペア)	2	4	
		2年			
	法社会学 LAW211M 林田 幸広	1学期	2	2	278
		2年			
	法哲学 LAW310M 重松 博之	2学期	3	2	279
		3年			
	比較法文化論 LAW313M 梁田 史郎	1学期	3	2	280
		3年			
紛争処理論 LAW311M 林田 幸広	2学期	3	2	281	
	3年				
■公法科目	日本国憲法原論 LAW120M 山本 健人	1学期	1	2	282
		1年			
	憲法人権論 LAW220M 中村 英樹	2学期	1	2	283
		1年			
	憲法機構論 LAW221M 中村 英樹	1学期	2	2	284
		2年			
	憲法訴訟論 LAW320M 山本 健人	2学期	2	2	285
		2年			
	行政法総論 LAW121M 近藤 卓也	1学期 (ペア)	2	4	286
		2年			
	行政争訟法 LAW222M 堀澤 明生	2学期	2	2	287
		2年			
	国家補償法 LAW321M 鈴木 崇弘	1学期	3	2	288
	3年				
地方自治法 LAW223M 休講	1学期 (ペア)	3	4		
	3年				
情報公開・個人情報保護法 LAW322M 休講	1学期	3	2		
	3年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■刑事法科目	刑法犯罪論 LAW130M 富川 雅満	2学期 (ヘア)	1	4	289
		1年			
	刑法犯罪各論I LAW230M 大杉 一之	1学期	2	2	290
		2年			
	刑法犯罪各論II LAW330M 大杉 一之	2学期	2	2	291
		2年			
	刑事訴訟法総論 LAW231M 水野 陽一	1学期	2	2	292
		2年			
	刑事訴訟法各論 LAW331M 水野 陽一	2学期	2	2	293
		3年			
	犯罪学 LAW232M 藤田 尚	1学期 (ヘア)	3	4	294
		3年			
	刑事司法政策I LAW332M 藤田 尚	1学期	3	2	295
		3年			
刑事司法政策II LAW333M 藤田 尚	2学期	3	2	296	
	3年				
■社会法科目	社会法総論 LAW140M 岡本 舞子	2学期	1	2	297
		1年			
	社会サービス法 LAW242M 津田 小百合	2学期	2	2	298
		2年			
	所得保障法 LAW243M 津田 小百合	2学期	2	2	299
		2年			
	雇用関係法 LAW240M 岡本 舞子	1学期	2	2	300
		2年			
	労使関係法 LAW241M 岡本 舞子	2学期	2	2	301
		2年			
独占禁止法 LAW340M 諏佐 マリ	集中	3	2	302	
	3年				
知的財産法 LAW341M 小川 明子	集中	3	2	303	
	3年				

法学部 法律学科 (2018年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■社会法科目	環境法 LAW342M 鬼塚 知	1学期	3	2	304
	3年				
	社会法の現代的展開 LAW343M 柴田 滋	2学期	3	2	305
	3年				
■国際関係法科目	国際法I LAW250M 二宮 正人	1学期	2	2	306
	2年				
	国際法II LAW251M 二宮 正人	2学期	2	2	307
	2年				
	国際私法 LAW252M 中林 啓一	1学期	3	2	308
	3年				
	国際取引法 LAW350M 八並 廉	集中	3	2	309
	3年				
	現代国際関係法 LAW351M 二宮 正人	集中	3	2	310
	3年				
現代国際関係法 (英語) LAW351M 休講	集中	3	2		
3年 (英語)					
■民事法科目	民法総則 LAW160M 丸山 愛博	2学期 (ヘア)	1	4	311
	1年				
	物権法 LAW260M 清水 裕一郎	1学期	2	2	312
	1年				
	担保物権法 LAW261M 清水 裕一郎	2学期	2	2	313
	2年				
	債権総論 LAW263M 矢澤 久純	1学期 (ヘア)	2	4	314
	2年				
	債権各論 LAW262M 休講	2学期 (ヘア)	1	4	
	1年				
親族法 LAW264M 矢澤 久純	2学期	2	2	315	
2年					
相続法 LAW265M 矢澤 久純	2学期	2	2	316	
2年					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■民事法科目	民事訴訟法総論 LAW266M 小池 順一	1学期	2	2	317
	2年				
	民事訴訟法各論 LAW267M 小池 順一	2学期	2	2	318
	2年				
	倒産処理法 LAW362M 小池 順一	1学期	3	2	319
	3年				
	民事執行法 LAW363M 休講	集中	3	2	
	3年				
	民事法の理論的展開 LAW360M 休講	1学期	3	2	
	3年				
	民事法の実務的展開 LAW361M 休講	2学期	3	2	
	3年				
■商事法科目	企業活動と法 LAW273M 今泉 恵子	1学期	2	2	320
	2年				
	会社法I LAW270M 休講	1学期	2	2	
	2年				
	会社法II LAW271M 休講	2学期	2	2	
	2年				
	企業取引法I LAW272M 今泉 恵子	2学期	2	2	321
	2年				
	企業取引法II LAW372M 前越 俊之	2学期	3	2	322
	3年				
	証券市場と法 LAW370M 前越 俊之	2学期	3	2	323
	3年				
企業法の現代的展開 LAW371M 高橋 衛	1学期	3	2	324	
3年					
■関連科目A	政治学 PLS100M 上條 諒貴	1学期	1	2	325
	1年				
	都市環境論 PLC111M 吉田 舞	1学期	1	2	326
1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■関連科目A	日本政治論 PLS110M 上條 諒貴	2学期	1	2	327
		1年			
	行政学 PAD100M 黒石 啓太	2学期	1	2	328
		1年			
	NPO論 PLC114M 楢原 真二 他	1学期	1	2	329
		1年			
	政策構想論 PLC110M 大澤 津	1学期	1	2	330
		1年			
	政治過程論 PLS210M 上條 諒貴	2学期	1	2	331
		1年			
	福祉国家論 PLC112M 狭間 直樹	2学期	1	2	332
		1年			
	西洋政治史 PLS111M 村上 悠	1学期	1	2	333
		1年			
	都市経済論 PLC113M 田代 洋久	2学期	1	2	334
		1年			
	公共政策論 PLC211M 楢原 真二	1学期	2	2	335
		2年			
	政策理論特講 PLS213M 森 裕亮	集中	2	2	336
		2年			
政策過程論 PLC212M 申 東愛	1学期	2	2	337	
	2年				
現代政治思想 PLS212M 大澤 津	1学期	2	2	338	
	2年				
地方自治論 PAD211M 黒石 啓太	1学期	2	2	339	
	2年				
都市経営論 PAD213M 田代 洋久	2学期	2	2	340	
	2年				
途上国開発論 PLC215M 吉田 舞	1学期	2	2	341	
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■関連科目A	政策評価論 PLC310M 檀原 真二 他	2学期	2	2	342
		2年			
	政党政治論 PLS211M 中井 遼	1学期	2	2	343
		2年			
	都市政策論 PLC219M 田代 洋久	2学期	2	2	344
		2年			
	福祉政策論 PLC217M 狭間 直樹	1学期	2	2	345
		2年			
	環境政策論 PLC216M 申 東愛	2学期	2	2	346
		2年			
	アジア地域社会論 PLC222M 三宅 博之	2学期	2	2	347
		2年			
	地域統合論 PLS214M 中井 遼	2学期	2	2	348
		2年			
	自治体政策研究 PLC214M 檀原 真二	2学期	2	2	349
		2年			
	公共経営論 PAD212M 狭間 直樹	2学期	2	2	350
		2年			
	政治文化論 PLS215M 大澤 津	2学期	2	2	351
	2年				
地方行政改革論 PAD310M 黒石 啓太	2学期	2	2	352	
	2年				
応用政策特講 PAD214M 湯川 勇人	集中	2	2	353	
	2年				
行政組織論 PAD210M 横山 麻季子	1学期	2	2	354	
	2年				
対外政策論 PLC213M 李 鍾成	1学期	2	2	355	
	2年				
比較政策論 PLC210M 休講	2学期	2	2		
	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■関連科目A	国際機構論I IRL312M 政所 大輔	1学期	3	2	356
		3年			
	国際機構論II IRL313M 政所 大輔	2学期	3	2	357
		3年			
	国際協力論I IRL211M 大平 剛	1学期	3	2	358
		3年			
	国際協力論II IRL212M 大平 剛	2学期	3	2	359
		3年			
	国際人権論 IRL213M 政所 大輔	2学期	3	2	360
		3年			
	国際紛争論 IRL214M 川上 耕平	1学期	3	2	361
		3年			
	倫理学 PHR210M 清水 満	2学期	2	2	362
		2年			
障害者に対する支援と障害者自立支援制度 SOW222M 伊東 良輔	1学期	3	2	363	
	3年				
高齢者に対する支援と介護保険制度 1 SOW220M 休講	1学期	3	2		
	3年				
高齢者に対する支援と介護保険制度 2 SOW221M 休講	2学期	3	2		
	3年				
外国文献研究B SEM392M 朝倉 拓郎	2学期	3	2	364	
	3年				
アジアのएसニシティ政策 PLC224M 徳安 祐子	2学期	2	2	365	
	2年				
■関連科目B	公共経済学 ECN262M 牛房 義明	1学期	2	2	366
		2年			
	国際経済論I ECN240M 休講	1学期	2	2	
	2年				
国際経済論II ECN241M 休講	2学期	2	2		
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■関連科目B	経済地理学I ECN242M 柳井 雅人	1学期	2	2	367
		2年			
	経済地理学II ECN243M 柳井 雅人	2学期	2	2	368
		2年			
	金融論I ECN260M 内田 交謹	1学期	2	2	369
		2年			
	金融論II ECN261M 万 軍民	2学期	2	2	370
		2年			
	経営組織論 BUS212M 山下 剛	1学期	2	2	371
		2年			
	企業ファイナンスI BUS214M 姚 智華	1学期	2	2	372
		2年			
	企業ファイナンスII BUS215M 姚 智華	2学期	2	2	373
		2年			
	経営戦略論 BUS213M 浦野 恭平	2学期	2	2	374
		2年			
	財務会計論I ACC214M 西澤 健次	1学期	2	2	375
		2年			
	財務会計論II ACC215M 西澤 健次	2学期	2	2	376
		2年			
会計監査論 ACC216M 日下 勇歩	2学期	2	2	377	
	2年				
国際貿易論I ECN345M 休講	1学期	3	2		
	3年				
国際貿易論II ECN346M 休講	2学期	3	2		
	3年				
国際金融論I ECN363M 前田 淳	1学期	3	2	378	
	3年				
国際金融論II ECN364M 前田 淳	2学期	3	2	379	
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■関連科目B	産業組織論I ECN341M 佐藤 隆	1学期	3	2	380
	3年				
	産業組織論II ECN342M 佐藤 隆	2学期	3	2	381
	3年				
	証券市場論 BUS330M 久多里 桐子	2学期	3	2	382
	3年				
	中小企業論 BUS313M 吉村 英俊	1学期	3	2	383
	3年				
	財政学I ECN361M 休講	1学期	3	2	
	3年				
	財政学II ECN362M 休講	2学期	3	2	
	3年				
	地方財政論 ECN365M 難波 利光	1学期	3	2	384
	3年				
労働経済学I ECN343M 畔津 憲司	1学期	3	2	385	
3年					
労働経済学II ECN344M 畔津 憲司	2学期	3	2	386	
3年					
人的資源管理論 BUS310M 丸子 敬仁	1学期	3	2	387	
3年					
ビジネス英語研究 ENG232M ブルック 前田	2学期	3	2	388	
3年					
■教職に関する科目 ■必修科目	教職論 EDU111M 楠 凡之	1学期	1	2	389
	1年				
	教育原理 EDU110M 見玉 弥生	1学期	1	2	390
	1年				
発達心理学 PSY222M 税田 慶昭	1学期	2	2	391	
2年					
教育制度論 EDU227M 見玉 弥生	1学期	3	2		
3年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■教職に関する科目 ■必修科目	教育制度論 EDU227M 見玉 弥生	1学期	3	2	392
		3年			
	教育課程論 EDU360M 見玉 弥生	2学期	3	2	393
		3年			
	社会科教育法 A EDU240C 下地 貴樹	1学期	3	2	394
		3年			
	社会科教育法 B EDU241C 吉村 義則	2学期	3	2	395
		3年			
	社会科教育法 C EDU242C 下地 貴樹	1学期	3	2	396
		3年			
	社会科教育法 D EDU243C 下地 貴樹	2学期	3	2	397
		3年			
	公民科教育法 A EDU244C 休講	1学期	3	2	
		3年			
	公民科教育法 B EDU245C 休講	2学期	3	2	
		3年			
	道德教育指導論 EDU262M 船原 将太	2学期	2	2	398
		2年			
	特別活動論 EDU263M 休講	2学期	2	2	
		2年			
教育方法学 EDU260M 休講	2学期	2	2		
	2年				
生徒・進路指導論 EDU261M 休講	2学期	2	2		
	2年				
教育相談 EDU264M 山下 智也	1学期	2	2	399	
	2年				
教育実習 1 EDU380C 休講	2学期	3	2		
	3年				
教育実習 2 EDU480C 休講	1学期	4	2		
	4年				

法学部 法律学科 (2018年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■教職に関する科目 ■必修科目	教育実習 3	1学期	4	2	
	EDU481C 休講	4年			
	教職実践演習 (中・高)	2学期	4	2	
	EDU490C 休講	4年			
■選択科目	教育心理学	2学期	2	2	400
	PSY220M 山下 智也	2年			
	障害児の心理と指導	2学期	2	2	
	PSY223M 休講	2年			
	教育社会学	1学期	2	2	401
	EDU225M 恒吉 紀寿	2年			
	人権教育論	1学期	2	2	402
	EDU228M 河嶋 静代	2年			
	生涯学習学	1学期	2	2	
	EDU220M 休講	2年			
教育工学	2学期	2	2		
EDU265M 休講	2年				

法学部 法律学科 (2018年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ビジョン科目	生活世界の哲学 PHR110F 高木 駿	1学期	1	2	403
	1年				
	日本の防衛 PLS111F 戸蒔 仁司	2学期	1	2	404
	1年				
	生命と環境 BIO100F 日高 京子 他	1学期	1	2	405
	1年				
情報社会への招待 INF100F 中尾 泰士	2学期	1	2	406	
1年					
戦争論 PLS210F 戸蒔 仁司	2学期	2	2	407	
2年					
■テーマ科目	地球の生いたち GOL001F 閉講	2学期	1	2	
	1年				
	自然史へのいざない BIO001F 日高 京子 他	2学期	1	2	408
	1年				
	現代人のこころ PSY003F 福田 恭介	1学期	1	2	409
	1年				
	人間と生命 BIO002F 日高 京子	2学期	1	2	410
	1年				
	思想と現代 PHR004F 閉講	1学期	1	2	
	1年				
	文学を読む LIT001F 閉講	1学期	1	2	
	1年				
	現代正義論 PHR003F 重松 博之	2学期	1	2	411
1年					
社会調査 SOC003F 閉講	2学期	1	2		
1年					
市民活動論 RDE001F 西田 心平	2学期	1	2	412	
1年					
企業と社会 BUS001F 休講	1学期	1	2		
1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■テーマ科目	現代社会と倫理 PHR002F 閉講	1学期	1	2	413
		1年			
	開発と統治 IRL002F 閉講	2学期	1	2	414
		1年			
	グローバル化する経済 ECN001F 魏 芳 他	1学期	1	2	415
		1年			
	国際紛争と国連 IRL005F 閉講	2学期	1	2	416
		1年			
	国際社会と日本 IRL004F 中野 博文 他	2学期	1	2	417
		1年			
	歴史の読み方I HIS004F 閉講	1学期	1	2	418
		1年			
歴史の読み方II HIS005F 閉講	1学期	1	2	419	
	1年				
そのとき世界は HIS002F 閉講	2学期	1	2	420	
	1年				
人物と時代の歴史 HIS001F 閉講	1学期	1	2	421	
	1年				
ヨーロッパ道德思想史 PHR005F 高木 駿	2学期	1	2	422	
	1年				
■ライフ・スキル科目	メンタル・ヘルスI PSY001F 中島 俊介	2学期	1	2	423
		1年			
	メンタル・ヘルスII PSY002F 閉講	2学期	1	2	424
		1年			
■情報教育科目	データ処理 INF101F 廣渡 栄寿	1学期	1	2	425
		1年			
	情報表現 INF230F 閉講	2学期	2	2	426
		2年			
■専門教育科目 ■総合科目	法学総論 LAW100M 小野 憲昭	1学期	1	2	427
		1年			

法学部 法律学科 (2018年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■総合科目	現代法曹論I		1	2	
	LAW200M 休講	1年			
	現代法曹論II		2	2	
	LAW201M 休講	2年			
	法律実務論I		3	2	
	LAW390M 休講	3年			
	法律実務論II		3	2	
	LAW391M 休講	3年			
	法学基礎演習I		1	2	
	SEM111M 休講	1年			
	法学基礎演習II		1	2	
	SEM112M 休講	1年			
	外国文献研究I		2	2	
	LAW290M 休講	2年			
	外国文献研究II		2	2	
	LAW291M 休講	2年			
	法哲学専門演習I		3	2	
	SEM311M 休講	3年			
	法哲学専門演習II		3	2	
	SEM312M 休講	3年			
憲法専門演習I		3	2		
SEM311M 休講	3年				
憲法専門演習II		3	2		
SEM312M 休講	3年				
行政法専門演習I		3	2		
SEM311M 休講	3年				
行政法専門演習II		3	2		
SEM312M 休講	3年				
刑法専門演習I		3	2		
SEM311M 休講	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■総合科目	刑法専門演習II		3	2	3年
	SEM312M 休講				
	刑事訴訟法専門演習I		3	2	3年
	SEM311M 休講				
	刑事訴訟法専門演習II		3	2	3年
	SEM312M 休講				
	刑事学専門演習I		3	2	3年
	SEM311M 休講				
	刑事学専門演習II		3	2	3年
	SEM312M 休講				
	社会保障法専門演習I		3	2	3年
	SEM311M 休講				
	社会保障法専門演習II		3	2	3年
	SEM312M 休講				
	労働法専門演習I		3	2	3年
	SEM311M 休講				
	労働法専門演習II		3	2	3年
	SEM312M 休講				
	国際法専門演習I		3	2	3年
	SEM311M 休講				
国際法専門演習II		3	2	3年	
SEM312M 休講					
民法専門演習I		3	2	3年	
SEM311M 休講					
民法専門演習II		3	2	3年	
SEM312M 休講					
民事訴訟法専門演習I		3	2	3年	
SEM311M 休講					
民事訴訟法専門演習II		3	2	3年	
SEM312M 休講					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■総合科目	企業法専門演習I		3	2	
	SEM311M 休講	3年			
	企業法専門演習II		3	2	
	SEM312M 休講	3年			
■理論法学科目	法思想史		2	2	
	LAW210M 休講	2年			
	外国法		2	2	
	LAW212M 休講	2年			
	日本法制史		2	4	
	LAW312M 休講	2年			
	法社会学		2	2	
	LAW211M 休講	2年			
	法哲学		3	2	
	LAW310M 休講	3年			
	比較法文化論		3	2	
	LAW313M 休講	3年			
紛争処理論		3	2		
LAW311M 休講	3年				
■公法科目	日本国憲法原論	1学期	1	2	419
	LAW120M 山本 健人	1年			
	憲法人権論	2学期	1	2	
	LAW220M 休講	1年			
	憲法機構論		2	2	
	LAW221M 休講	2年			
	憲法訴訟論		2	2	
	LAW320M 休講	2年			
	行政法総論	1学期(ペア)	2	4	
	LAW121M 休講	2年			
行政争訟法		2	2		
LAW222M 休講	2年				

法学部 法律学科 (2018年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■公法科目	国家補償法		3	2	
	LAW321M 休講	3年			
	地方自治法		3	4	
	LAW223M 休講	3年			
	情報公開・個人情報保護法		3	2	
	LAW322M 休講	3年			
■刑事法科目	刑法犯罪論		1	4	
	LAW130M 休講	1年			
	刑法犯罪各論I		2	2	
	LAW230M 休講	2年			
	刑法犯罪各論II		2	2	
	LAW330M 休講	2年			
	刑事訴訟法総論		2	2	
	LAW231M 休講	2年			
	刑事訴訟法各論		3	2	
	LAW331M 休講	3年			
	犯罪学		3	4	
	LAW232M 休講	3年			
刑事司法政策I		3	2		
LAW332M 休講	3年				
刑事司法政策II		3	2		
LAW333M 休講	3年				
■社会法科目	社会法総論	2学期	1	2	
	LAW140M 休講	1年			
	社会サービス法		2	2	
	LAW242M 休講	2年			
	所得保障法		2	2	
	LAW243M 休講	2年			
	雇用関係法		2	2	
	LAW240M 休講	2年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■社会法科目	労使関係法 LAW241M 休講		2	2	2年
	独占禁止法 LAW340M 休講		3	2	
	知的財産法 LAW341M 休講		3	2	3年
	環境法 LAW342M 休講		3	2	
	社会法の現代的展開 LAW343M 休講		3	2	3年
	国際法I LAW250M 休講		2	2	
国際法II LAW251M 休講		2	2	2年	
国際私法 LAW252M 休講		3	2		3年
国際取引法 LAW350M 休講		3	2	3年	
現代国際関係法 LAW351M 休講		3	2		3年
現代国際関係法 (英語) LAW351M 休講		3	2	3年 (英語)	
■民事法科目	民法総則 LAW160M 休講		1		4
	物権法 LAW260M 休講		1	2	1年
	担保物権法 LAW261M 休講		2	2	
	債権総論 LAW263M 休講		2	4	2年

法学部 法律学科 (2018年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■民事法科目	債権各論	2学期 (ペア)	1	4	1年
	LAW262M 休講				
	親族法		2	2	2年
	LAW264M 休講				
	相続法		2	2	2年
	LAW265M 休講				
	民事訴訟法総論		2	2	2年
	LAW266M 休講				
	民事訴訟法各論		2	2	2年
	LAW267M 休講				
	倒産処理法		3	2	3年
	LAW362M 休講				
民事執行法		3	2	3年	
LAW363M 休講					
民事法の理論的展開	1学期	3	2	3年	
LAW360M 休講					
民事法の実務的展開		3	2	3年	
LAW361M 休講					
■商事法科目	企業活動と法		2	2	2年
	LAW273M 休講				
	会社法I	1学期	2	2	2年
	LAW270M 休講				
	会社法II	2学期	2	2	2年
	LAW271M 休講				
	企業取引法I		2	2	2年
LAW272M 休講					
企業取引法II		3	2	3年	
LAW372M 休講					
証券市場と法		3	2	3年	
LAW370M 休講					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■商事法科目	企業法の現代的展開		3	2	
	LAW371M 休講	3年			
■関連科目A	政治学		1	2	
	PLS100M 休講	1年			
	都市環境論	1学期	1	2	420
	PLC111M 吉田 舞	1年			
	日本政治論		1	2	
	PLS110M 休講	1年			
	行政学		1	2	
	PAD100M 休講	1年			
	NPO論	1学期	1	2	
	PLC114M 休講	1年			
	政策構想論		1	2	
	PLC110M 休講	1年			
	政治過程論		1	2	
	PLS210M 休講	1年			
	福祉国家論		1	2	
	PLC112M 休講	1年			
	西洋政治史		1	2	
	PLS111M 休講	1年			
	都市経済論		1	2	
	PLC113M 休講	1年			
	公共政策論		2	2	
	PLC211M 閉講	2年			
	政策理論特講		2	2	
	PLS213M 休講	2年			
	政策過程論		2	2	
	PLC212M 休講	2年			
	現代政治思想		2	2	
	PLS212M 休講	2年			

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■関連科目A	地方自治論	1学期	2	2	2年
	PAD211M 休講				
	都市経営論		2	2	2年
	PAD213M 休講				
	途上国開発論		2	2	2年
	PLC215M 休講				
	政策評価論		2	2	2年
	PLC310M 休講				
	政党政治論		2	2	2年
	PLS211M 休講				
	都市政策論		2	2	2年
	PLC219M 休講				
	福祉政策論	1学期	2	2	2年
	PLC217M 休講				
	環境政策論		2	2	2年
	PLC216M 休講				
	アジア地域社会論		2	2	2年
	PLC222M 休講				
	地域統合論		2	2	2年
	PLS214M 休講				
自治体政策研究		2	2	2年	
PLC214M 休講					
公共経営論		2	2	2年	
PAD212M 休講					
政治文化論		2	2	2年	
PLS215M 休講					
地方行政改革論		2	2	2年	
PAD310M 休講					
応用政策特講		2	2	2年	
PAD214M 休講					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
備考						
■専門教育科目 ■関連科目A	行政組織論 PAD210M 休講		2	2	2年	
	対外政策論 PLC213M 休講		2	2	2年	
	比較政策論 PLC210M 休講		2	2	2年	
	国際機構論I IRL312M 休講		3	2	3年	
	国際機構論II IRL313M 休講		3	2	3年	
	国際協力論I IRL211M 休講		3	2	3年	
	国際協力論II IRL212M 休講		3	2	3年	
	国際人権論 IRL213M 休講		3	2	3年	
国際紛争論 IRL214M 休講		3	2	3年		
倫理学 PHR210M 休講		2	2	2年		
高齢者に対する支援と介護保険制度 1 SOW220M 石塚 優	1学期	3	2	3年	421	
高齢者に対する支援と介護保険制度 2 SOW221M 石塚 優	2学期	3	2	3年	422	
外国文献研究 B SEM392M 休講		3	2	3年		
■関連科目B	ミクロ経済学I ECN112M 朱 乙文	2学期	1	2	1年	423
	ミクロ経済学II ECN210M 朱 乙文	1学期	2	2	2年	424

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
		備考			
■専門教育科目 ■関連科目B	マクロ経済学I ECN113M 田中 淳平	2学期	1	2	425
		1年			
	マクロ経済学II ECN211M 田中 淳平	1学期	2	2	426
		2年			
	公共経済学 ECN262M 休講		2	2	
		2年			
	国際経済論I ECN240M 魏 芳	1学期	2	2	427
		2年			
	国際経済論II ECN241M 魏 芳	2学期	2	2	428
		2年			
	経済地理学I ECN242M 休講	1学期	2	2	
		2年			
	経済地理学II ECN243M 休講	2学期	2	2	
		2年			
	金融論I ECN260M 休講	1学期	2	2	
		2年			
	金融論II ECN261M 休講	2学期	2	2	
		2年			
	経営組織論 BUS212M 休講		2	2	
		2年			
企業ファイナンスI BUS214M 休講		2	2		
	2年				
企業ファイナンスII BUS215M 休講		2	2		
	2年				
経営戦略論 BUS213M 山下 剛	2学期	2	2	429	
	2年				
財務会計論I ACC214M 西澤 健次	1学期	2	2	430	
	2年				
財務会計論II ACC215M 昼のみ開講		2	2		
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■関連科目B	会計監査論		2	2	
	ACC216M 休講	2年			
	国際貿易論I		3	2	
	ECN345M 休講	3年			
	国際貿易論II		3	2	
	ECN346M 休講	3年			
	国際金融論I	1学期	3	2	
	ECN363M 休講	3年			
	国際金融論II	2学期	3	2	
	ECN364M 休講	3年			
	産業組織論I		3	2	
	ECN341M 休講	3年			
	産業組織論II		3	2	
	ECN342M 休講	3年			
	証券市場論		3	2	
	BUS330M 休講	3年			
	中小企業論	1学期	3	2	
	BUS313M 休講	3年			
	財政学I	1学期	3	2	431
	ECN361M 前林 紀孝	3年			
財政学II	2学期	3	2	432	
ECN362M 前林 紀孝	3年				
地方財政論		3	2		
ECN365M 休講	3年				
労働経済学I		3	2		
ECN343M 休講	3年				
労働経済学II		3	2		
ECN344M 休講	3年				
人的資源管理論	1学期	3	2		
BUS310M 休講	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■関連科目B	ビジネス英語研究		3	2	
	ENG232M 休講	3年			
■教職に関する科目 ■必修科目	教職論	1学期	1	2	433
	EDU111M 楠 凡之	1年			
	教育原理	1学期	1	2	434
	EDU110M 児玉 弥生	1年			
	発達心理学	1学期	2	2	435
	PSY222M 税田 慶昭	2年			
	教育課程論	2学期	3	2	436
	EDU360M 児玉 弥生	3年			
	社会科教育法 A	1学期	3	2	
	EDU240C 休講	3年			
	社会科教育法 B	2学期	3	2	
	EDU241C 休講	3年			
	社会科教育法 C	1学期	3	2	
	EDU242C 休講	3年			
	社会科教育法 D	2学期	3	2	
	EDU243C 休講	3年			
	公民科教育法 A	1学期	3	2	437
	EDU244C 下地 貴樹	3年			
	公民科教育法 B	2学期	3	2	438
EDU245C 吉村 義則	3年				
道德教育指導論	2学期	2	2	439	
EDU262M 船原 将太	2年				
特別活動論	2学期	2	2	440	
EDU263M 楠 凡之	2年				
教育方法学	2学期	2	2	441	
EDU260M 下地 貴樹	2年				
生徒・進路指導論	2学期	2	2	442	
EDU261M 楠 凡之	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■教職に関する科目 ■必修科目	教育相談 EDU264M 山下 智也	1学期	2	2	443
		2年			
	教育実習 1 EDU380C 児玉 弥生 他	2学期	3	2	444
		3年			
	教育実習 2 EDU480C 恒吉 紀寿 他	1学期	4	2	445
		4年			
教育実習 3 EDU481C 恒吉 紀寿 他	1学期	4	2	446	
	4年				
教職実践演習 (中・高) EDU490C 楠 凡之 他	2学期	4	2	447	
	4年				
■選択科目	教育心理学 PSY220M 山下 智也	2学期	2	2	448
		2年			
	障害児の心理と指導 PSY223M 税田 慶昭	2学期	2	2	449
		2年			
	教育社会学 EDU225M 恒吉 紀寿	1学期	2	2	450
		2年			
	人権教育論 EDU228M 休講	1学期	2	2	
	2年				
生涯学習学 EDU220M 恒吉 紀寿	1学期	2	2	451	
	2年				
教育工学 EDU265M 休講	2学期	2	2		
	2年				

歴史と政治【昼】

担当者名 藤田 俊 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と歴史との関係性を政治学的視点から総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史について政治学的視点から総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史と政治に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			歴史と政治
			PLS110F

授業の概要 /Course Description

本授業では、第一次世界大戦から太平洋戦争終結までの日本近代史を講義します。授業を通して、学校教育や日常生活の中で学んできた「史実」の根拠となっている史料や諸研究に触れ、「史実」の実態をより深く理解すると共に、「史実」を相対化して歴史を多角的に捉える力の修得を目指します。その上で、近代日本の歴史が、現代の政治・外交・軍事・社会・文化・メディア等のあり方にいかなる影響を与えているのかを考え、各履修生が歴史を身近なものとして捉えられるようにします。

- ・ 本授業の到達目標
「知識」
→日本の近代史を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
「思考・判断・表現力」
→日本の近代史について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
「自立的行動力」
→日本の近代史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

指定はありません。授業では、教員作成のレジュメ・画像・映像等を使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 歴史・「史実」・歴史学
- 第2回 第一次世界大戦―「新しい戦争」の衝撃と影響
- 第3回 白虹事件と関東大震災―「中立」化する言論、台頭する「世論」
- 第4回 政治の大衆化―二大政党制と劇場型政治
- 第5回 軍事の大衆化―戦争にまつわる文化、娯楽、記憶
- 第6回 北伐と革命外交―1920年代の日中関係
- 第7回 ロンドン海軍軍縮会議―「統帥権干犯」をめぐる政治とメディア
- 第8回 満洲事変―「生命線」としての満蒙権益と「熱狂」の創出
- 第9回 政党内閣の崩壊―「協力内閣」運動と五・一五事件
- 第10回 昭和陸軍と二・二六事件
- 第11回 日中戦争の諸相―謀略と和平工作
- 第12回 第二次欧州大戦と日本
- 第13回 新体制運動
- 第14回 日米開戦への道
- 第15回 太平洋戦争の終結と「聖断」

歴史と政治【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験70%、日常の授業への取り組み30%
なお、学期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後は、レジュメ等の配布資料や各自が作成したノートを読み返し、授業中に紹介した参考文献にも目を通しておいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

第1回授業において、授業の進め方や受講する上での注意事項について説明しますので、受講希望者は必ず出席して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

異文化理解の基礎【昼】

担当者名 /Instructor 市原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance

2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
		○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化に関する既存概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			異文化理解の基礎
			ANT110F

授業の概要 /Course Description

本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。（おそらく大部分が）北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではくまられたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。文化に関する日常的な知識は、応用的なものばかりなので、基礎をしっかり学び、総合的な理解力、思索力を身につけることをめざす。

毎回、受講者から事前に提出された課題から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入として広義を進める。本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既存概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身につける手掛かりを学んでほしい。

なお、本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。受講にあたっては、基本的なPC操作環境が整っていることが望ましいです。

（到達目標）

【知識】異文化を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】異文化理解に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】他者と協働して、異文化理解に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

教科書はありません。

予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。なお、講義に関する映画（有料動画の場合もあります）を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません（観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書も用いた課題などは指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己(編)2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか(編)2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

異文化理解の基礎【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：世界を理解するてがかりとしての文化

第I部 文化の基礎としての家族

第2回 伝統的家族の多様性

第3回 家族観の変容

第4回 親族という認識

第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張

第6回 ジェンダーと伝統文化

第7回 文化相対主義の考え方

第8回 伝統文化について：構築主義と本質主義

第9回 レポートの書き方と課題レポート①の説明

第II部 文化と世界観

第10回 儀礼と世界観

第11回 さまざまな信仰心

第12回 宗教と近代化

第13回 不幸への対処としての呪術

第14回 政教分離と世俗化

第15回 課題レポート①の解説と課題レポート②の説明

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート(2回)60%、毎回の授業課題 40%

※毎回の授業課題は、提出時期や授業への貢献によって得点が変わります。

※一度も課題提出がない場合は評価不能(一)です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 毎回何らかの予習・復習のための課題があります。計画的に取り組みましょう。
- ・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』(いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能)などの関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。
- ・ 講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 詳しい評価方法や電子書籍の閲覧方法などは第一回の講義で説明します。
- ・ 提出課題において剽窃などの不正が発覚した場合、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。
- ・ オンデマンド配信となので、時間割通りに受講する必要はありません。ですが、毎週課題があり、その課題は提出時期によって満点が異なります。計画的に受講しましょう。
- ・ 本講義で養われる「コミュニケーション能力」は、今後の実践の機会に向けた考え方を身に着けることを目指しています。授業では、記述を通じたコミュニケーションを実践する機会がありますが、発話を通じた実践機会はないので注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

○○人に××を贈るのはタブーである、といった個別具体的な異文化理解のマニュアルは、必要な時に努力すればおそらく入手できます。この授業では、文化が異なるとはそもそもどういうことかについて、もっと根本に立ち戻って考えたいと思います。あなたは、人間関係をマニュアルで対応しようとする人と、あなた個人の特性を理解しようとする人と、どちらを友人として信頼しますか？

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、社会関係、SDGs10 不平等をなくす

ことばの科学 【昼】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語の様々な側面についての基本的知識を身につけ、言語学の課題を理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動を通して言語学に関する課題を発見し、言語学の手法を用いて分析する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語に関心を持ち、言語および言語学の課題についての意識を高める。	
	コミュニケーション力			
			ことばの科学	LIN110F

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語はじめその他の言語のデータをもとに、「ことば」について考えていきます。

[到達目標]

DP1 知識：言語の様々な側面を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
DP2 技能：ことばの規則性を正しく理解するために必要な技能を身につけている。
DP3 思考・判断・表現力：言語学に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている

教科書 /Textbooks

漆原 朗子（編著）『形態論』（朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻）。朝倉書店、2016年。¥2700＋税。
配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○大津 由紀雄（編著）『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』。ミネルヴァ書房、2009年。
○スティーヴン・ピンカー（著）椋田 直子（訳）『言語を生みだす本能（上）・（下）』。NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ことばの不思議
- 第2回 ことばの要素
- 第3回 ことばの習得
- 第4回 普遍文法と個別文法
- 第5回 ことばの単位(1)：音韻
- 第6回 連濁
- 第7回 鼻濁音
- 第8回 ことばの単位(2)：語
- 第9回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第10回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第11回 ことばの単位(3)：文
- 第12回 動詞の自他
- 第13回 日本語と英語の受動態
- 第14回 数量詞
- 第15回 まとめ

ことばの科学 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度・参加度...10% 課題・期末試験...90%

定期試験を受験しなかった場合は評価不能(一)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業時に指示した文献の講読

事後学習：授業で扱った内容に関する課題の提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、総合的に理解する能力を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会で生起する様々な問題について、地域研究的視点からの理解を習得する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際問題に関して、地域研究的視点から見直す能力を獲得する。
	コミュニケーション力		
			国際学入門 IRL100F

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究（国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など）と②世界の多様化に対応するための研究（地域研究、比較文化論、比較政治論など）である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

（到達目標）

【知識】現代の国際社会で生起する様々な問題を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断力・表現力】現代の国際社会で生起する諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】現代の国際社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
- 第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
- 第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
- 第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
- 第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
- 第13回：地域研究の視点（人間関係）【人間関係】
- 第14回：まとめ
- 第15回：質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)。
レポートを提出した受講者に対してはS~D評価。未提出者に関しては一評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs「16. 平和と公正」

生活世界の哲学【昼】

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	哲学の知識に基づいて人間と生活世界との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生活世界に関する課題を哲学的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生活世界に関する問題を哲学的に解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生活世界の哲学
			PHR110F

授業の概要 /Course Description

社会哲学とは、平たく言えば、「社会って何なの？」に答える学問です。哲学の一つのヴァリエーションです。西洋の哲学は、2500年以上も前に始まったと言われます。そのあいだに、社会の形もさまざまに変化してきました。今日の社会は、大戦以前の社会とは違いますよね。社会の変化に応じて、哲学が提示する答え（理論）も変化してきました。それでは、これまでにはどんな社会があり、哲学はそれをどのように説明してきたのでしょうか？この問いを考えていくのが本講義です。

今年度は、まずは、社会の構成要素である「人間」と「共同体」を、西洋哲学の歴史を辿りつつ考えます。これは基礎編ですね。次に、現代に目を移し、現代に特有の社会的な事象とそれに答える哲学的理論（ジェンダー論、フェミニズム論、優生思想、正義論など）を見ていき、私たちが直面する社会のあり方とそこに潜む問題を考察します。こちらは、応用編です。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業となります。みなさんは、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、授業に参加してください。

【到達目標】

《思考・判断・表現力》哲学的課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

特定の教科書はありません

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- プラトン『国家』(上下), 岩波文庫
- 重田國江『社会契約論 ホッブズ、ヒューム、ルソー、ロールズ』, ちくま新書
- S. サリー『ジュデイス・パトラー』, 育土社
- 米本昌平等『優生学と人間社会』, 講談社現代新書
- 植村邦彦『市民社会とは何か 基本概念の系譜』, 平凡社新書
- 神島裕子『正義とは何か』, 中公新書

などなど。

* 授業中にもご紹介します。

生活世界の哲学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン：哲学って何？
- 第2回 【古代】人間って何？①：（プラトン、アリストテレス）
- 第3回 【古代】共同体って何？①：（プラトン、アリストテレス）
- 第4回 【中世】人間って何？②：（アウグスティヌス）
- 第5回 【中世】共同体って何？②：（アウグスティヌス）
- 第6回 【近代】共同体って何？③：（ホッブス、ロック、ルソー）
- 第7回 【近代】人間って何？③：（カント）
- 第8回 【近代】資本主義って何？（マルクス）
- 第9回 【現代】公共性って何？（ハーバーマス）
- 第10回 【現代】正義って何？（ロールズ）
- 第11回 【現代】ケアって何？
- 第12回 【現代】優生思想って何？
- 第13回 【現代】フェミニズムって何？
- 第14回 【現代】ジェンダーって何？
- 第15回 確認テスト

*（ ）の中は、その回に扱う主な思想家ですが、それ以外の思想家も扱います。書いてないところは、その理論全体をおさえることを目標にしています。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の小テスト 65%
- ・ 確認テスト 35%

* 小テストを4回欠席した場合は、評価不能（ - ）となります。
* 確認テストを受験しない場合も、評価不能（ - ）となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の最後に、その次の回に関連するキーワードをお伝えしますので、それについて辞典・事典やネットで調べてきましょう。このキーワードに関連する問題が、小テストでは出題されます。

履修上の注意 /Remarks

初回は、いわゆるイントロダクション（導入）ですが、講義全体の進め方や成績の付け方についても説明するので、必ず試聴してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

僕は、教員ですが、みなさんのリアクションや質問で学ぶことがたくさんあります（今までそうでしたので）。「教え-教えられる」関係ではなくて、「互いに教え合う」関係になりましょう。みなさんの積極的な参加を楽しみにしています！

キーワード /Keywords

哲学、倫理学、社会学、社会哲学

日本の防衛【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	安全保障や防衛と国民との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	わが国の防衛上の諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	わが国の防衛上の課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			日本の防衛
			PLS111F

授業の概要 /Course Description

安全保障について多角的に検討する授業です。中盤からは防衛問題が中心となります。安全保障・防衛に関心がある受講者はもちろんですが、もともとあまり関心がない、全く知らない、という受講者でも理解できるように丁寧な解説を心がけます。ぜひ、受講してください。

動画は、各回、編集カットをほどこし、BGMやテロップを付け、youYube仕様で配信します。なるべく楽しく学習できるような動画を作りたいと思っています。

到達目標

- 【知識】安全保障を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断】安全保障上の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自律的行動力】安全保障に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを用意します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。適宜指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業は15回で、1回45～60分程度、動画視聴してもらいます。以下は、昨年度配信した動画タイトルですが、今年度は、多少、整理します。(19タイトルありますが、19回授業があるわけではありません)

- 1 ガイダンス / 安全保障の考え方その1 (抑止について)
- 2 安全保障の考え方その2 (国際環境について)
- 3 安全保障とは何か / 専守防衛と日本
- 4 安全保障と外交
- 5 自衛隊の海外派遣
- 6 安全保障の非軍事的な側面
- 7 日米同盟と自衛隊
- 8 自衛隊の任務
- 9 防衛出動 / 存立危機事態と集団的自衛権
- 10 海上警備行動
- 11 企画動画
- 12 安全保障流の地図の読み方
- 13 スクランプル
- 14 弾道ミサイル防衛 (BMD)
- 15 イージス・アショアと代替

日本の防衛【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

1~3回に一度、小テストを実施し、その合計点から成績評価を行います。
小テスト(6回)100%、ただし、小テストの実施回数は若干前後する可能性があります。

※「評価不能(-)」は、小テストを一度も受験していない場合、もしくはその総合得点が0点の場合。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

掲示板を用意するので、質問や感想がある場合、書き込んでください。また、動画のコメント欄も活用できます。

頻繁に小テストがあるので、何回でも動画を視聴して、理解することが事後学習ですが、関連動画の視聴もお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

本講義は遠隔(オンデマンド)授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく退屈しないように、面白い動画づくりを心がけます。

キーワード /Keywords

生命と環境【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	多様な生命とそれを生み出した環境についての基礎知識を獲得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命およびそれを生み出した環境について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身近な生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生命と環境
			BI0100F

授業の概要 /Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。生命とはなにか。生物は何からできており、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では、(1)宇宙と生命がどのような物質からできているか、(2)生物の多様性と影響を与えてきた環境とはどのようなものか、(3)進化の原動力となった突然変異とは何かなどについて広く学ぶとともに、(4)生命や宇宙がこれまでにどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方や考え方についても学びます。

到達目標

【知識】多様な生命とそれを生み出した環境を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】多様な生命とそれを生み出した環境について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

※本講義は遠隔(オンデマンド)授業で行います。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2020年(羊土社)3080円

○もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円

○もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円

宇宙と生命の起源—ビッグバンから人類誕生まで 嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年(岩波ジュニア新書)990円

生命と環境 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ガイダンス (日高・中尾)	
2回	自然科学の基礎 (1) ミクロとマクロ (日高・中尾)	【物質の単位】【自然科学】
3回	自然科学の基礎 (2) 宇宙で生まれた物質 (中尾)	【元素】【原子】【超新星爆発】
4回	自然科学の基礎 (3) 生命と分子 (日高)	【DNA】【タンパク質】
5回	生物の多様性 (1) 生物の分類と系統 (日高)	【種】【学名】【系統樹】
6回	生物の多様性 (2) ウイルスは生物か (日高)	【ウイルス】
7回	生物の多様性 (3) 単細胞生物と多細胞生物 (日高)	【細胞膜】【共生説】
8回	生物の多様性 (4) 生態系と進化 (日高)	【食物連鎖】【絶滅】【進化】
9回	生物の多様性 (5) 多様な生命 (日高)	【生物多様性】
10回	遺伝子の多様性 (1) 遺伝子の名前 (日高)	【突然変異】【遺伝学】
11回	遺伝子の多様性 (2) 多様性を生む生殖 (日高)	【有性生殖】【減数分裂】
12回	科学的な方法とは (1) 科学と疑似科学 (日高・中尾)	【血液型】【星座】
13回	科学的な方法とは (2) 太陽と地球の環境 (中尾)	【太陽活動】【地球温暖化問題】
14回	科学的な方法とは (3) 人類の起源 (日高)	【ミトコンドリア】
15回	質疑応答とまとめ (日高)	

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の確認テスト及びミニレポート 70%
 - ・ 授業への積極的取り組み (質問・ディスカッション等) 20%
 - ・ まとめレポート 10%
- 上記の提出が全くない場合は、評価不能 (一) です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中の課題に沿って学習し、Moodle (e-learningシステム) で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

高校で生物を履修していない者は教科書または参考書を入手し、授業に備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基盤教育センターの専任教員・日高 (生物担当) および中尾 (物理担当) による自然科学の入門講座です。この分野が苦手な者や初めて学ぶ者も歓迎します。参考書やインターネットを活用し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んで下さい。暗記中心の受験勉強とは違った楽しみが生まれるかもしれません。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：
13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

情報社会への招待【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			情報社会への招待
			INF100F

授業の概要 /Course Description

この授業は【遠隔】授業（オンデマンド配信など）です。授業動画を視聴するための環境を準備するか、大学内施設を利用するようにしてください。

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、現在の情報社会を俯瞰的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎とし、変化し続ける情報技術と正しくつき合えるような適応力を身につけることを目指します。

(到達目標)

【技能】情報社会を正しく理解するために必要な技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】情報社会の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

また、この授業で学ぶICT（情報通信技術）は、国連が定めたSDGs（持続可能な開発目標）のうち、「4．質の高い教育をみんなに」「8．働きがいも経済成長も」「9．産業と技術革新の基盤をつくろう」「10．人や国の不平等をなくそう」「17．パートナーシップで目標を達成しよう」に関連していると考えています。授業を通じて、これらの目標についても考えを深めてみてください。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。随時紹介する。

情報社会への招待【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル, 炎上, 個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光, 音, 匂い, 味, 触覚, 電気】
- 3回 コンピュータはどのようにして情報を取り扱うか【2進数, ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置, 出力装置, 解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU, メモリ, 記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS, 拡張子とアプリケーション, 文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換, パケット交換, LAN, IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名, DNS, サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン, 位置情報, GPS, GIS, プライバシ】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス, スパイウェア, 不正アクセス, 詐欺, なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信, ファイアウォール, クッキー, セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア, 防犯カメラ, ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン, Wikipedia, フリーミアム, クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権, コンテンツのデジタル化, クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 100%
 以上の観点から評価した結果が「0点」の場合は「評価不能(一)」と表示されます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「Moodle」に授業資料を提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます(必要な学習時間の目安は予習60分, 復習60分)。
 その他, ICTに関するニュースを視聴するなど, 日常的, 能動的に情報社会に関する事柄に興味をもつことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会, ネットワーク, セキュリティ, SDGs 4. 質の高い教育を, SDGs 8. 働きがい・経済成長, SDGs 9. 産業・技術革命, SDGs 10. 不平等をなくす, SDGs 17. パートナリーシップ

環境問題概論 【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
		○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と「自然・環境」との関係性の総合的な理解、環境問題に関する正しい知識などを身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境問題の根本的な省察、総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	各自が所属する社会が抱える環境問題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
		環境問題概論 ENV100F	

授業の概要 /Course Description

農林水産業の第一次産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」について、基礎的な知識を充足することを目的とする。望ましい人間と自然、または自然を介した人と人との関係性について、環境問題に対する総合的な理解を促すことが狙いである。

また、農林水産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」についての知識を生かし、SDGs（持続可能な開発目標）に関するテーマとして、③食の問題、④捕鯨問題、⑤・⑥山の管理（治水・利水）、そして②経済優先の消費活動に関すること等をテーマに、持続可能な社会となるための考え方を模索する授業である。

（到達目標）

【知識】人間と自然の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】人間と自然の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】人間と自然の関係性における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション -環境問題を見る視点について-
- 第2回 資源の在り方を問う
- 第3回 日本の捕鯨の行方
- 第4回 日本人の自然観
- 第5回 環境と経済の関係性
- 第6回 山を管理するとは？
- 第7回 環境問題の原因と焼畑農業
- 第8回 レポート試験の実施（※レポート試験は日程が前後する可能性があります）
- 第9回 里山の開発① -なぜ里山の宅地開発問題が生じるのか？-
- 第10回 里山の開発② -映画監督 高畑勲氏からのメッセージ-
- 第11回 里山の開発③ -動物視点で見る真の共生の形-
- 第12回 「農業」と SATOYAMAイニシアティブ① -農業の多面的機能-
- 第13回 「農業」と SATOYAMAイニシアティブ② -「共生」社会の在り方-
- 第14回 復習
- 第15回 総括 -おわりに-

環境問題概論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

不定期に何回か実施する課題：20%
小レポート試験：20%
最終試験：60%

- ・ 5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。
- ・ 最終試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本授業は、最終試験での成績評価をするウエイトが高くなっている。そのため、各自で毎回の授業後に最終試験に向けた復習をすることが求められる。また、授業で使用するスライド資料は、学習支援フォルダに掲載しているため、事前の予習も試みてもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題の中でも本授業は都市環境問題や地球温暖化等の問題ではなく、自然環境に特化した授業となる。
特に専門的な知識は必要ないが、中学生レベルの生物および、安易な生態学(食物連鎖等)的な基礎的な知識に対する言及や説明を行うことを想定し、履修していただきたい。

キーワード /Keywords

SDGs3.「健康と福祉」、SDGs 6.「安全な水とトイレ」、SDGs12.「作る責任使う責任」、SDGs14.「海の豊かさ」、SDGs15.「森の豊かさ」に強い関連がある、

環境問題概論 【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
		○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と「自然・環境」との関係性の総合的な理解、環境問題に関する正しい知識などを身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境問題の根本的な省察、総合的な考察をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	各自が所属する社会が抱える環境問題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
		環境問題概論 ENV100F	

授業の概要 /Course Description

農林水産業の第一次産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」について、基礎的な知識を充足することを目的とする。望ましい人間と自然、または自然を介した人と人との関係性について、環境問題に対する総合的な理解を促すことが狙いである。

また、農林水産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」についての知識を生かし、SDGs（持続可能な開発目標）に関するテーマとして、③食の問題、④捕鯨問題、⑤・⑥山の管理（治水・利水）、そして②経済優先の消費活動に関すること等をテーマに、持続可能な社会となるための考え方を模索する授業である。

（到達目標）

【知識】人間と自然の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】人間と自然の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】人間と自然の関係性における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション -環境問題を見る視点について-
- 第2回 資源の在り方を問う
- 第3回 日本の捕鯨の行方
- 第4回 日本人の自然観
- 第5回 環境と経済の関係性
- 第6回 山を管理するとは？
- 第7回 環境問題の原因と焼畑農業
- 第8回 レポート試験の実施（※レポート試験は日程が前後する可能性があります）
- 第9回 里山の開発① -なぜ里山の宅地開発問題が生じるのか？-
- 第10回 里山の開発② -映画監督 高畑勲氏からのメッセージ-
- 第11回 里山の開発③ -動物視点で見る真の共生の形-
- 第12回 「農業」と SATOYAMAイニシアティブ① -農業の多面的機能-
- 第13回 「農業」と SATOYAMAイニシアティブ② -「共生」社会の在り方-
- 第14回 復習
- 第15回 総括 -おわりに-

環境問題概論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

不定期に何回か実施する課題：20%

小レポート試験：20%

最終試験：60%

- ・ 5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。
- ・ 最終試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本授業は、最終試験での成績評価をするウエイトが高くなっている。そのため、各自で毎回の授業後に最終試験に向けた復習をすることが求められる。また、授業で使用するスライド資料は、学習支援フォルダに掲載しているため、事前の予習も試みてもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題の中でも本授業は都市環境問題や地球温暖化等の問題ではなく、自然環境に特化した授業となる。

特に専門的な知識は必要ないが、中学生レベルの生物および、安易な生態学(食物連鎖等)的な基礎的な知識に対する言及や説明を行うことを想定し、履修していただきたい。

キーワード /Keywords

SDGs3.「健康と福祉」、SDGs 6.「安全な水とトイレ」、SDGs12.「作る責任使う責任」、SDGs14.「海の豊かさ」、SDGs15.「森の豊かさ」に強い関連がある、

可能性としての歴史【昼】

担当者名 藤田 俊 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	歴史的過去の可能性に満ちた構造を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史的過去の可能性を発見し、歴史認識の多様性を理解することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	歴史的過去の可能性を自立的に発見・分析し、解決への学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			可能性としての歴史
			HIS200F

授業の概要 /Course Description

本授業では、本来はタブーとされる「歴史のif」に注目し、近代日本の政策決定に参画した政治家・官僚・軍人等の行動とその背景や動機に迫り、歴史とは別の選択肢が存在したのか、存在していたとすれば、異なる選択をした日本はいかなる道を行っていたのかについて考えていきます。講義の中で「あり得たかもしれない歴史」を考察することを通して、予測困難で不透明な未来を考える思考力の涵養を目指します。

・本授業の到達目標

「知識」

→歴史的過去の可能性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

「思考・判断・表現力」

→歴史的過去の可能性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

「自立的行動力」

→歴史的過去の可能性を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

指定はありません。授業では、教員作成のレジユメ・画像・映像等を使用します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 歴史学とは何か
- 第2回 歴史学にとっての「もしも・・・」
- 第3回 この国のかたち—近代日本の国家構想
- 第4回 国民—「日本人」の形成
- 第5回 言語—「共通語」の創成
- 第6回 国土—変動する「国境」
- 第7回 首都—東京以外の選択肢
- 第8回 学校—戦前期日本の教育と「学歴」
- 第9回 軍隊—徴兵制と通過儀礼、兵営と地域社会、前線と統後
- 第10回 日中関係—和平の可能性
- 第11回 日米開戦— the Point of No Return はどこだったのか
- 第12回 原爆投下—マンハッタン計画、軍都小倉、本土決戦
- 第13回 敗戦と占領—異世界型「戦後日本」
- 第14回 天皇制—「象徴」の起源
- 第15回 まとめ—「可能性」としての歴史

可能性としての歴史【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験70%、日常の授業への取り組み30%
なお、学期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後は、レジュメ等の配布資料や各自が作成したノートを読み返し、授業中に紹介した参考文献にも目を通しておいて下さい。

履修上の注意 /Remarks

第1回授業において、授業の進め方や受講する上での注意事項について説明しますので、受講希望者は必ず出席して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と文化【昼】

担当者名 /Instructor 市原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	文化と社会に関する知識を学び、人間と「思想・文化」「国際社会」「地域社会」の関係性について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文化と社会に関する既存概念を根本的に省察したうえで総合的分析を行い、自ら発見した課題の解決に有効な思索ができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	文化と社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代社会と文化
			ANT210F

授業の概要 /Course Description

グローバルな現代世界において、異なる文化同士の共生が必要とされている。しかし、どの文化とも共生が可能になる万能のマニュアルのようなものは存在しない。ケースに応じて対応する能力が必要であり、本講義では、現代社会が抱える文化に関する問題を取り上げながら、判断のための基礎知識を身につけることを目的とする。

講義の前半は、「文化を知る」という行為そのものが持つ政治的意味について講義を行う。後半は、私たちが異なる文化を持つ人々とも認識を共有していると考えがちな身体に関する文化についての講義を行う。外国の文化については解説を無批判にうのみにしてしまいがちであるが、文化を理解することについての前提が正しいか常に問い返すことができるような総合的な知識の獲得をめざす。

(到達目標)

【知識】現代社会と文化の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】現代社会と文化の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】現代社会と文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。ただし、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など(いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能)の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。また、講義に関する映画(有料動画の場合もあります)を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません(観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書を用いた課題などは指示します)。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 池田光穂・奥野克巳編 2007『医療人類学のレッスン』学陽書房
- 太田好信編 2012『政治的アイデンティティの人類学』
- 陳天璽 2005『無国籍』新潮社
- 本多俊和ほか 2011『グローバル化の人類学』放送大学教育振興会
- 塩原良和 2010『変革する多文化主義へ』法政大学出版局

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

現代社会と文化【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：授業の説明 / 本講義において文化とは何を意味するのか

第I部 現代社会において異文化を理解すること

第2回 文化とその認識

第3回 ナショナリズムと文化

第4回 「未開の人々」へのエキゾチズム

第5回 植民地主義と文化

第6回 マイノリティ文化の保護と多文化主義

第7回 多文化主義の可能性と限界

第8回 国籍・人種などの分類の不明瞭さ

第9回 移動する人々と世界

第10回 中間テスト

第II部 文化の違いを超えて？

第11回 近代・ポスト近代という時代の認識と文化

第12回 身体の近代化

第13回 医療の持つ権力と文化

第14回 癒しの多様性

第15回 中間テストの解説と授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テストおよびそのほか課題 40%、期末テスト 60%

※課題の提出など、加点の対象となる活動が全くない場合は評価不能(一)です。

※受講人数、感染状況によってはテストがレポートになる可能性があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ この授業は中間テストほか学期中にさまざまな課題があります。計画的に取り組みましょう。
- ・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など(いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能)の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。
- ・ 高校レベルの世界史、地理、現代社会などに自信がない学生は、背景となる事象を知らないままにせず、調べておきましょう。高校の教科書は図書館にあります。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 評価方法や電子ブックの閲覧方法などは第一回の講義で説明します。
- ・ 提出課題において剽窃などの不正が発覚した場合、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 講義で自分が学んだことを用いて、現代の文化に関する問題を自分なりに理解しようとするのが重要です。意欲的な学生の受講を歓迎します。
- ・ 「異文化理解の基礎」を受講済み・受講中の学生は理解が深まると思います。

キーワード /Keywords

文化、ナショナリズム、植民地主義、グローバリゼーション、近代、身体、SDGs10 不平等をなくす、SDGs 16 平和と公正

言語と認知【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科
松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程, 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
木山 直毅 / Naoki KIYAMA / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	言語と認知に関する学際的領域についての基本的知識を身につけ、課題を理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自身の言語活動や文献講読を通して言語と認知に関する課題を発見し、言語学・心理学・生物学などの手法を用いて分析する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	生涯にわたって言語と認知に関心を持ち、それらを取り巻く課題についての意識を高める。	
	コミュニケーション力			
			言語と認知	LIN210F

授業の概要 /Course Description

言語の習得やコミュニケーションにおける処理はどのように行われるのか。特に、それらはヒトの他の認知能力（視覚、聴覚）や活動（記憶、認識）と同じなのか。また、語彙や構文はどのようにして私たちの頭の中に蓄えられ、用いられるのか。これらの問いについて、言語学(特に生成文法理論と認知言語学)、認知科学、心理学、生物学の側面から学際的に考えていきます。

(到達目標)

DP3 思考・判断・表現力

言語と認知、コミュニケーションの課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

(授業形態)

メディア授業（学習マネジメントシステムMoodleによる遠隔授業（オンデマンド））

受講に必要な機器：パーソナルコンピューター、インターネット接続・通信に必要な環境（WiFi、光ファイバー等）

教科書 /Textbooks

Moodle上の配布資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

言語と認知【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実際の日程により順番が変わる可能性があります。第1回授業時配布の予定表を参照して下さい。

- 第1回 序・授業の進め方・担当者紹介(漆原・全員)
- 第2回 ことばはどのように身につけられるのか(言語習得)(漆原)
- 第3回 ことばはどのように処理されるのか(言語脳内処理・失文法)(漆原)
- 第4回 コミュニケーション行動の初期発達過程(税田)
- 第5回 発達の障害とコミュニケーション(税田)
- 第6回 コミュニケーションにおける発達支援(税田)
- 第7回 脳と心のなりたち(脳のはたらきを支配する遺伝子)(日高)
- 第8回 ことばはなぜヒトに特有なのか(言語と遺伝子)(日高)
- 第9回 ヒューマンエラー(松田)
- 第10回 アフォーダンスとシグニファイアー(松田)
- 第11回 モノの見方と言語表現(認知意味論)(木山)
- 第12回 比喩は文学表現か(メタファー)(木山)
- 第13回 文は語彙の足し算か(構文文法論)(木山)
- 第14回 ことばとジェンダー(漆原)
- 第15回 まとめ:担当者からの課題の講評など(全員)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 20% (最終)課題 16% x 5 = 80%

すべての教員の(最終)課題を提出しない限り評価不能(一)となります。
なお、各回の確認クイズ・小課題が最終課題に含まれるかどうかは各担当教員によって異なります。
各担当教員の説明にしたがってください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習:担当教員あるいはコーディネイターが指示した文献等の講読
事後学習:担当教員ごとの確認クイズ・小課題・レポート等の提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。
*「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

共生社会論 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	● 共生社会の成立を阻む要因に関して、様々な視点から考える能力を習得する。
技能	情報リテラシー	
	数量的スキル	
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 社会の様々なレベルの共生社会の成立を阻む要因の中で、何が最も問題となるかを理解する能力を養う。
関心・意欲・態度	自己管理能力	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	● 共生社会の実現に向けての新たな視座を習得する。
	コミュニケーション力	
		共生社会論
		SOW200F

授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探ってみる。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げの中で、この問題に迫っていきたい。

(到達目標)

【知識】 共生社会の成立を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】 共生社会の成立に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】 他者と協働して、共生社会に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準
- 第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】
- 第3回：異文化共存の方法【一元論的理解VS多元論的理解】
- 第4回：異文化共存の阻害要因①【オリエンタリズム関連DVD視聴】
- 第5回：異文化共存の阻害要因②【オリエンタリズムとは】
- 第6回：オリエンタリズムの克服方法【文化相対主義】
- 第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
- 第8回：自閉症とは【自閉症】
- 第9回：自閉症関連DVDの視聴(医療モデル的作品)【医療モデル】
- 第10回：医療モデル的作品の評価【医療モデル的作品の特徴】
- 第11回：自閉症関連DVDの視聴(文化モデル的作品)【文化モデル】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【文化モデル的作品の特徴】
- 第13回：両作品の比較【3つのモデルとの関連で】
- 第14回：共生社会から共活社会へ【共生社会】【共活社会】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)。

レポートを提出した受講者に対してはS~D評価。未提出者に対しては一評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

本講義受講に当たっては、「国際学入門」や「障がい学」を既に受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs「3．健康と福祉」「16．平和と公正」「17．パートナーシップ」

戦争論 【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と戦争との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	戦争について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	戦争に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			戦争論
			PLS210F

授業の概要 /Course Description

人類の歴史にとり、戦争とは何なのかを深く考えるのがテーマです。戦争形態の変化を歴史の進行に沿って考察していきます。

コロナ対応で、完全に動画配信となります。退屈にならないよう、動画作成に当たって、しっかりと編集カットを行い、BGM、テロップ付きのYouTube仕様で配信するつもりです。(シミュールです。)

到達目標

- 【知識】人間と戦争との関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断】人間と戦争との関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自律的行動力】戦争に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを用意します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。適宜指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回45~60分程度(予定)の動画を視聴してもらいます。以下、昨年度に配信した動画タイトルのリストです。今年度は、多少整理したり、よりパワーアップした新作も作りたいです(できれば)。

- 1 ガイダンス / 戦争から何を学ぶのか
- 2 ホモサピエンスと戦争の起源その1(サルからヒトへ)
- 3 ホモサピエンスと戦争の起源その2(ネアンデルタール人、文明化、戦いの始まり)
- 4 「戦争」の始まり(国家の誕生と絶対主義)
- 5 フランス革命と近代戦
- 6 ナショナリズムの時代と戦争
- 7 厭戦感情と世界大戦
- 8 総力化した戦争
- 9 総力化した戦争その2(塹壕戦の恐怖)
- 10 イデオロギー、プロパガンダ、戦争
- 11 アメリカ的戦争観の影響
- 12 全面化した戦争
- 13 企画動画
- 14 原爆開発と投下
- 15 核兵器と抑止

戦争論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

1～3回に一度、小テストを実施し、その合計点から成績評価を行う。
小テスト(6回)100%、ただし、小テスト実施回数は若干前後する可能性がある。

※小テストを一度も受験していない場合、もしくはその総合得点が0点の場合、「評価不能(-)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

掲示板を用意するので質問はそちらに書き込んでください。また動画のコメント欄に書き込むこともできます。

頻繁に小テストがあるので、動画を何度も見てもらえると事後学習になりますし、勝手に授業とは関係なく「関連動画」が表示されますので、それも参考にしてください。

履修上の注意 /Remarks

本講義は遠隔(オンデマンド)授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく退屈しないように、動画内容を工夫したいと思います。

キーワード /Keywords

教養演習 AI (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 AI
			GES201F

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官（陸海空、尉官・佐官クラス）をほぼ毎回（ゴールデンウィーク明けから）招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (戸蒔)
 - 2回 日本の防衛と自衛隊 (戸蒔)
 - 3回 陸海空自衛隊について (戸蒔)
 - 4回 自衛隊の任務、総論 (戸蒔)
 - 5回～14回 自衛官の招聘、各論のレクチャー
- 現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する予定。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度... 50% レポート... 50%

※3回以上の無断欠席、レポート未提出の場合、いずれも「評価不能(-)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。
授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

教養演習 AI (防衛セミナー) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

上記の注意を必ず守ること。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

※授業の運営方法、評価方法、コロナ対応などについて、初回のガイダンスで詳しく話しますので、履修を希望する人は絶対に出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教養演習 AI (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 AI
			GES201F

授業の概要 /Course Description

発達障害に対する理解を深め、支援の在り方について考える。特に自閉スペクトラム症（障害）を取り上げ、演習・グループワーク等もとりまぜながら、共生のあり方を探っていく。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【コミュニケーション力】他者と協働して、設定されたテーマに関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
- 【自律的行動力】設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

その都度指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、評価方法の説明【オリエンテーション】
- 第2回：発達障害とは【発達障害】
- 第3回：自閉スペクトラム症（障害）とは【自閉スペクトラム症】
- 第4回：自閉スペクトラム症の理解・対応に関する歴史の変遷【歴史の変遷】
- 第5回：障害の捉え方【文化モデル】
- 第6回：支援の基本（1）障害特性の理解【障害特性】
- 第7回：支援の基本（2）構造化の意味と意義【構造化】
- 第8回：構造化演習【演習】
- 第9回：支援の基本（3）コミュニケーション支援の基本的考え方【コミュニケーション支援】
- 第10回：応用行動分析学的アプローチ【応用行動分析学】
- 第11回：支援の基本（4）行動問題への対応【行動問題、冰山モデル】
- 第12回：支援の基本（5）自己認知・理解プログラム【自己認知・理解】
- 第13回：支援の基本（6）余暇支援、QOLの充実【QOL】
- 第14回：支援計画の立て方【支援計画】
- 第15回：まとめ～共生社会から共活社会へむけて～【共生社会、共活社会】

成績評価の方法 /Assessment Method

議論、演習等における参加（貢献）度30%。
課題への対応70%。
出席が全くない受講者に対しては、一（評価不能）評価とする。

教養演習 AI (発達障がいセミナー) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテーマとなることに関してインターネット等で調べてくる。
事後学習としては、学習内容をその都度まとめてみる。

履修上の注意 /Remarks

1年時に「障がい学」を履修済みであることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs 「3 . 健康と福祉」 「16 . 平和と公正」 「17 . パートナーシップ」

教養演習 A I 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A I
			GES201F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センターおよび地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加しながら、様々な知識やスキルの獲得を目指します。また実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

到達目標

- 【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

3回以上無断欠席した場合は、評価不能 (-) とします

教養演習 A1 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておく必要があります。
そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。
また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。
他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

本演習は地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、
忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、
学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

この授業では、ゼミ形式で、ジェンダー論・フェミニズム論に関連する1冊の図書を通読していきます。図書は、研究書レベルのものになります。複数図書の候補を出しますので、参加者の興味関心で初回に決定したいと思います。なお、毎回1200字程度のレジュメ作成が必須となり、課題の量が比較的多い授業となりますので、他の授業との兼ね合いを十分考慮したうえで履修してください。

【到達目標】

《思考・判断・表現力》設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
《コミュニケーション力》他者と協働して、設定されたテーマに関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
《技能》設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

初回のイントロダクションのなかで決定します。
* 教科書の価格は～4,000円ほどのものを予定しています。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション①：この授業について、課題図書の決定
- 第2回 イン트로ダクション②：レジュメの作り方、進め方
- 第3回 演習
- 第4回 演習
- 第5回 演習
- 第6回 演習
- 第7回 演習
- 第8回 演習
- 第9回 授業の中間まとめ
- 第10回 演習
- 第11回 演習
- 第12回 演習
- 第13回 演習
- 第14回 演習
- 第15回 まとめ：レポートについて

教養演習 A II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 各回のレジюме作成 100%
- * レジюмеを4回以上提出しなかった場合は、評価不能 (-) となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ レジюмеの作成
- ・ 前回範囲の復習

履修上の注意 /Remarks

- ・ 初回は、授業全体の説明に加えて、課題図書を決定するので必ず参加してください。
- ・ この授業では、毎回1200字程度のレジюмеの作成が全員必須となり、課題の量が比較的多くなるので、他の授業との兼ね合いを十分考慮したうえで履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

みなさんと同じ本を読み、議論できることを楽しみにしています。

キーワード /Keywords

ジェンダー、フェミニズム、LGBT、SDG 8. ジェンダー平等

教養演習 A II 【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	各演習で設定されたテーマについて、人間との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	各演習で設定されたテーマについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各演習で設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力	●	各演習におけるコミュニケーションを通じ、相互に理解を深め、他者の協調を得ながら、より良い関係を構築できる。
			教養演習 A II
			GES202F

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センターおよび地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加しながら、様々な知識やスキルの獲得を目指します。また実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

到達目標

- 【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自律的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

3回以上無断欠席した場合は、評価不能 (-) とします

教養演習 A II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておく必要があります。
そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。
また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。
他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

本演習は地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、
ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、
忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、
学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

自然学のまなざし【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	自然と人間の営みに関する基本的な視野を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	文系・理系の視点を超えた自然学の論点から環境を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自然に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			自然学のまなざし
			ENW002F

授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま(文化)」と「からだ(自然)」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のまなざし」の講義をつうじて、たくさんの智恵を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。教室の中の講義だけではなく、講義中に紹介するさまざまな活動に参加してほしい。大学生活を変え、自分の生き方を考えるための入り口となればと願っています。

(達成目標) 双方向的な学びを楽しんで下さい。

【知識】

自然の営みを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】

自然の営みについての考え方をを用いて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】

自然の営みに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『風の谷のナウシカ』 1-7宮崎 駿 徳間書店
- 『イルカとナマコと海人たち』 NHKブックス
- 「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司
- 「自然学の未来」黒田末寿

自然学のまなざし【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 竹川
- 第1講 自然学で学ぶこと
- 第2講 今西錦司という人がいた
- 第3講 バックミンスターフラーという人がいた
- 第4講 人類の進化と狩猟採集生活
- 第5講 自然学における日常実践
- 第6講 カボチャ島の自然学【食と資源】
- 第7講 風の谷のナウシカの自然学【闘争と共存】
- 第8講 自然学の視点の重要性
- 岩松
- 第9講 近世の旅にみる自然の名所性
- 第10講 古民家に求める日本の故郷
- 第11講 山村の伝統的景観と村落社会
- 第12講 森林風景の認識と森林文化論
- 第13講 自然を言語化する曖昧さ
- 第14講 木の文化の伝統と変容
- 第15講 9～14講のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- (竹川)
- 講義で紹介するさまざまな活動に参加する . . . 15%
 - 講義で紹介するさまざまな本を読み考える . . . 15%
 - 講義の内容を元に人間の生き方について小論を書く . . . 20%
- (岩松)
- 小レポート...25% 試験...25%
- ・すべてのレポート(小論もふくむ)を提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前半の講義では、専用のウェブサイトを設置し、講義の補足や双方向的なやりとりを進め、課題の提示と提出をおこないます。インタラクティブな学びを楽しんで下さい。

履修上の注意 /Remarks

学ぶことはまねること。さまざまな活動に参加するなかで、ソーシャルスキルは伸びていきます。
講義は教室の中だけでは終わりません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人の暮らしと自然の関わりに興味がある人。好奇心が旺盛な人、受講してください。
大学のもっとも大学らしい、自由で驚きのある講義を心がけています。
そして教えられるのでも覚えるのでもなく、自分から学ぶことを重視します。
講義では、行動すること、考えること、楽しむことを一番に心がけて下さい。

キーワード /Keywords

人類学
環境学
フィールドワーク

動物のみかた 【昼】

担当者名 到津の森公園、文学部 竹川大介
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人と動物の関わりに関する諸問題を理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における自然のあり方を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生命との関わりを多様な視点で考え、人間の営みを再考する。
	コミュニケーション力		
			動物のみかた
			ZOL001F

授業の概要 /Course Description

動物園とそのかかわる事項等を検証し、環境や教育など様々な問題を考える。

動物園は教育機関としてのみならず、情感に影響を与える施設として様々な広がりを持っている。
動物園の本来的な姿を追求し、どうすれば地域の施設として欠くべからざる施設となりうるのかを検証する。

(到達目標)

【知識】

人間と動物の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】

人間と動物の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】

人間と動物の関係性における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

テキストなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『戦う動物園』島泰三編 小菅正夫・岩野俊郎共著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 動物園学概論1 (動物園の歴史)
- 2回 動物園学概論2 (人と公園の歴史)
- 3回 キーパーの仕事1 (動物の飼育と歴史)
- 4回 キーパーの仕事2 (動物園のみかた)
- 5回 キーパーの仕事3 (動物の接し方と飼育員のもう一つの小さな役割)
- 6回 キーパーの仕事4 (どうぶつと人間のくらい)
- 7回 キーパーの仕事5 (動物園とデザイン)
- 8回 キーパーの仕事6 (動物園の植栽)
- 9回・10回 校外実習(到津の森公園)
- 11回 獣医の仕事1 (どうぶつの病気)
- 12回 獣医の仕事2 (どうぶつたちとくらし)
- 13回 動物園学まとめ1 (動物園を振り返る)
- 14回 動物園学まとめ2 (新しい動物園とは)
- 15回 まとめ(外部講師講演)

動物のみかた 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 80% 平常の学習状況 ... 20%
・ レポートを提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め動物園関連の参考書籍をよんでおき、授業終了後にはその日の講義内容をまとめておくこと。

履修上の注意 /Remarks

講義では実際の動物園施設の見学もあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

動物のことだけでなく、動物を知ることによって人間のことも考えてみましょう。
自然のことや地球のことも考えてみましょう

動物園の園長・獣医・飼育員らがオムニバス形式で、動物園のあり方、人と動物の関係性について講義をする。

キーワード /Keywords

動物園、実務経験のある教員による授業

現代人のこころ【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科, 田島 司 / 人間関係学科
田中 信利 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	心理学についての教養的基礎知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	心理学的観点から課題の発見、解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の諸問題を心理学的観点から解決するために学習を続けることができる。
	コミュニケーション力		
			現代人のこころ
			PSY003F

授業の概要 /Course Description

現代の心理学では、人間個人や集団の行動から無意識の世界に至るまで幅広い領域での実証的研究の成果が蓄えられている。この講義は、現代の心理学が明らかにしてきた、知覚、学習、記憶、発達、感情、社会行動などの心理過程を考察する。とくに、現代人の日常生活のさまざまな場面における「こころ」の働きや構造をトピック的にとりあげ、心理学的に考察し、現代人を取り巻く世界について、心理学的な理論と知見から理解する。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

（到達目標）

【思考・判断・表現力】現代人のこころを取り巻く諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

【自律的行動力】現代人のこころを取り巻く課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 動物のもつ自己意識【自己像認知、マークテスト】
- 第3回 自己の発見【自己意識、自己概念】
- 第4回 他者への気づき【アニマシー、バイオリジカルモーション】
- 第5回 他者の心を読む【共感、心の理論】・まとめと小テスト
- 第6回 青年期の自己観・他者観【エゴグラムテスト】【自己意識】
- 第7回 青年期の親子関係【独自性】【結合性】
- 第8回 青年期の友人関係【チャムシップ】【ふれあい恐怖】
- 第9回 青年期の自己の問題【アイデンティティ】【同一性危機】
- 第10回 まとめと小テスト
- 第11回 こころの科学1【科学としての心理学、統計】
- 第12回 こころの科学2【行動主義、客観性】
- 第13回 こころと行動【本能、生得的プログラム】
- 第14回 こころと他者【愛着、葛藤】
- 第15回 まとめと小テスト

現代人のこころ【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題（複数の小テストまたはレポート）・・・100%
各担当教員の指定する課題を提出しなかった場合は、原則評価不能（-）とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、シラバスに記載されているキーワードについて調べておく。
事後学習として、内容の理解を深めるため配布資料やノートをもとに授業の振り返りを行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

臨床心理士としての実務経験のある教員が、日常生活や臨床場面に関わる心理学の理論や各時期の心理的・発達の特徴、人間関係などについてオムニバス形式で解説する。

キーワード /Keywords

実務経験のある教員による授業

人間と生命【昼】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	生命科学の基礎知識を獲得し、身近な問題との関わりを総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命科学に関する基礎知識を用いて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	体や健康など、生命科学に関する身近な課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			人間と生命
			BI0002F

授業の概要 /Course Description

ヒトの体は約37兆個の細胞からなり、生命の設計図である遺伝子には2万数千もの種類がある。近年、「ヒトゲノム計画」が完了し、すべての遺伝情報が明らかとなった。個々の遺伝情報のわずかな違いが体質の違いや個性につながり、これを利用した個の医療が行われる時代も近い。そこで(1)体はどのような物質からできているのか、(2)遺伝子は体の何をどのように決めているのか、(3)細胞の社会とはどういうものでそれが破綻するとどのような疾患につながるのか、(4)体を維持し守るしくみは何かなど、人体を構成する細胞と遺伝子の不思議を学ぶことによって、新しい時代を生き抜くための生命科学の基礎知識を身につけることを目標とする。

到達目標

【知識】生命科学を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】生命科学の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】生命科学に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

※本講義は遠隔(オンデマンド)授業で行います。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2020年(羊土社)3080円

○もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円

○もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円

人間と生命【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ガイダンス	
2回	体を作る物質(1)細胞の構成成分	【多糖・脂質・タンパク質・核酸】
3回	体を作る物質(2)食物分子と代謝	【酵素】【触媒】
4回	体を作る物質(3)遺伝物質DNA	【二重らせん】
5回	体を作るしくみ(1)遺伝子が働くしくみ	【RNA】【セントラルドグマ】
6回	体を作るしくみ(2)遺伝子でできること	【ゲノム】【体質】【遺伝病】
7回	体を作るしくみ(3)発生と分化	【転写因子】【クローン】【iPS細胞】
8回	細胞の社会(1)そのとき染色体は	【細胞周期】【染色体異常】
9回	細胞の社会(2)細胞のコミュニケーション	【受容体】【シグナル分子】
10回	細胞の社会(3)社会の反逆者・がん	【がん遺伝子】
11回	関連ビデオ鑑賞	
12回	体を守るしくみ(1)寿命と老化	【早老症】【テロメア】
13回	体を守るしくみ(2)免疫とウイルス	【ウイルス】【抗体】
14回	体を守るしくみ(3)私たちと微生物	【腸内細菌】
15回	質疑応答・まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の確認テスト及びミニレポート 70%
 - ・ 授業への積極的取り組み(質問・ディスカッション等) 20%
 - ・ まとめレポート 10%
- 上記の提出が全くない場合は、評価不能(一)です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
 事後学習：授業中に与えられた課題に沿って学習し、Moodle (e-learning システム) で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

高校で生物を履修していなかった者は教科書または参考書を入手して備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人体を構成する細胞やその働きを操る遺伝子について、ここ数十年程の間で驚く程いろいろなことがわかってきました。その緻密で精巧なしくみは知れば知るほど興味深いものですが、ヒトの体について良く知ること、生命科学の基礎を学ぶことは、これから皆さんが生きて行く上でも非常に大切です。苦手だからと怯まずに、一緒に頑張りましょう。

キーワード /Keywords

- SDGsとの関連：
 3. すべての人に健康と福祉を

環境都市としての北九州【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
石川 敬之 / 地域共生教育センター, 村江 史年 / Fumitoshi MURAE / 基盤教育センターひびきの分室
松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	環境に関する幅広い基礎知識を獲得する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境にはさまざまな立場からの意見・考え方があることを理解し、自らがとるべき環境行動を判断できる素養を身につける。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	卒業後も誰もが身近なところから環境行動に取り組むことができることを理解する。	
	コミュニケーション力			
			環境都市としての北九州	ENV001F

授業の概要 /Course Description

環境問題の全体像を把握し、持続可能な社会作りに向けた行動の重要性を理解する。そのために、学内の専門分野の異なる教員、学外からは行政・企業・NPO等の実務担当者を講師として迎え、オムニバス形式で様々な視点（自然・経済・市民）から環境問題とそれに対する取り組みについて学習する。北九州市はかつてばい煙に苦しむ街であったが、公害を克服した歴史を踏まえ、現在は環境モデル都市として世界をリードしている。北九州市の実施する「環境首都検定」の受検を通して、市のさまざまなプロジェクトや環境についての一般知識を広く学ぼうが、環境関連施設（環境ミュージアムなど）見学により、その体験を講義での学習につなげる。

到達目標

- 【知識】北九州市の環境問題に対する取り組みを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】北九州市の環境問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自律的行動力】北九州市の環境問題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本講義は遠隔授業（オンデマンド）です。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。一部、ライブで収録する回もありますが、録画したものを後から視聴し、課題に取り組むことができます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

北九州市環境首都検定公式テキスト 1000円（税込み）
http://www.city.kitakyushu.lg.jp/kurashi/menu01_0438.html

環境都市としての北九州【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(日高)
- 2回 持続可能な社会をめざして～ESD～(外部講師)
- 3回 北九州の自然と環境(基盤教育センター・村江)
- 4回 北九州における環境政策(外部講師)
- 5回 環境問題とエネルギー政策(外部講師)
- 6回 環境問題と市民の関わり(外部講師)
- 7回 環境ビジネスとエコタウン事業(大学院マネジメント研究科・松永)
- 8回 施設見学(環境ミュージアム)
- 9回 北九州の環境経済(経済学部・牛房)
- 10回 環境問題とNPO①(都市交通、外部講師)
- 11回 環境問題とNPO②(フードバンク、外部講師)
- 12回 環境問題と企業の取り組み(外部講師)
- 13回 特別講義(外部講師)
- 14回 環境問題と学生の取り組み(地域共生教育センター・石川)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

環境首都検定の成績・・・20%
授業ごとの課題への取り組み(確認テスト・ミニレポート等)・・・70%
期末レポート・・・10%
課題・レポートの提出が全くない場合は評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：北九州市環境首都検定公式テキストで関連する箇所を学習しておくこと。
事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、Moodleで提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

施設見学(環境ミュージアム等)は原則として必須とする。
・見学は授業期間中、レポート提出に間に合うよう、各自で行うこと。
・環境首都検定は12月11日(日)の予定。

*スケジュールは変更の可能性もある。第1回目ガイダンス時に確認すること。
*見学にかかる交通費は自己負担とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は副専攻「環境ESD」と深く関連しています。この講義をきっかけに副専攻にもトライしてみませんか。
<https://www.kitakyu-u.ac.jp/kankyo-esd>

キーワード /Keywords

環境、ESD、SDGs、北九州市

SDGsとの関連について

7. エネルギーをみんなに 12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

未来を創る環境技術【昼】

担当者名 /Instructor 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19~), 永原 正章 / Masaaki NAGAHARA / 環境技術研究所
松本 亨 / Toru MATSUMOTO / 環境技術研究所, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
金本 恭三 / Kyoza KANAMOTO / 環境技術研究所, 河野 智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科 (19~)
白石 靖幸 / Yasuyuki SHIRAISHI / 建築デザイン学科 (19~)

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	環境問題や環境技術に関する正しい知識など、21世紀の市民として必要な基本的事項を理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	授業で学ぶ環境技術の現状や展望を踏まえながら、社会・地域・生活など身の回りに隠れている環境的課題を発見し、課題の重要性や本質を明確化する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	環境問題について自主的・継続的に学習するための、環境技術に対する深い関心と環境への鋭敏な感受性を持つ。	
	コミュニケーション力			
			未来を創る環境技術	ENV003F

授業の概要 /Course Description

環境問題は、人間が英知を結集して解決すべき課題である。環境問題の解決と持続可能な社会の構築を目指して、環境技術はどのような役割を果たし、どのように進展しているのか、今どのような環境技術が注目されているのか、実践例を交えて分かりやすく講義する（授業は原則として毎回担当が変わるオムニバス形式）。

具体的には、北九州市のエネルギー政策、特に洋上風力発電に関する取り組みと連動して、本学の特色のある「環境・エネルギー」研究の拠点化を推進するための活動を、様々な学問分野の視点で紹介する。

授業の到達目標は、以下の通りです。

豊かな「知識」：

環境問題や環境技術を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

次代を切り開く「思考・判断・表現力」：

環境問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

社会で生きる「自律的行動力」：

環境問題に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。オンラインでのグループワークを行うので、スマートフォンではなく、パソコンを利用するのがのぞましい。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

未来を創る環境技術【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス、社会における環境技術の役割
- 第2回：未来を創る空調技術【建築学からのアプローチ】
- 第3回：都市の環境とエネルギー【環境工学からのアプローチ】
- 第4回：未来を創る経済学【経済学からのアプローチ】
- 第5回：人工知能と超スマート社会【情報学からのアプローチ】
- 第6回：未来を創る植物学【生物学からのアプローチ】
- 第7回：未来を予知する保全技術【機械工学からのアプローチ】
- 第8回：北九州市の温暖化対策について【官】
- 第9回：2050年カーボンニュートラル実現に向けてのグリーン成長戦略【官】
- 第10回：再生可能エネルギーの産業【産】
- 第11回：日本における風力発電【産】
- 第12回：洋上風力発電の産業【産】
- 第13回：地域活性化につながる洋上風力発電事業開発のあり方【学】
- 第14回：エネルギーを“つくる”と“つかう”【学】
- 第15回：再生可能エネルギーのメンテナンスとリスクマネジメント【学】

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 30%
レポート70%

5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。
最終レポートを提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。※北方生のみ、ひびきの除く。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前・事後学習については担当教員の指示に従うこと。また、新聞・雑誌等の環境技術に関連した記事にできるだけ目を通すようにすること。期末課題に備えるためにも、授業で紹介された技術や研究が、社会・地域・生活などの身の回りの環境問題解決にどのようにつながり、活かされているか、授業後に確認すること。

履修上の注意 /Remarks

必要事項は、moodleに掲載するので、定期的に確認すること。また、都合により、授業のスケジュールを変更することがある。オンラインでのグループワークも行うので、積極的にディスカッションに参加すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州市における環境エネルギー政策、特に、次世代産業『洋上風力発電』について、現状と将来像を理解できます。皆さんのキャリアプランにもつながると思います。文系学生にもわかりやすい授業内容ですので、「ひびきの」および「北方」両キャンパスの多くの学生の受講を期待しています。

環境技術について、外部講師を招き、実践例を交えて学ぶ。

キーワード /Keywords

持続可能型社会、エネルギー循環、機械システム、建築デザイン、環境生命工学、超スマート社会、Society 5.0、人工知能、自動制御、エネルギー経済、環境経済、実務経験のある教員による授業
「SDGs 7. エネルギーをクリーンに、SDGs 9. 産業・技術革命、SDGs 13. 気候変動対策」

芸術と人間【昼】

担当者名 /Instructor 真武 真喜子 / Makiko Matake / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と芸術との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	芸術について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	芸術に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			芸術と人間
			PHR001F

授業の概要 /Course Description

20世紀後半から現在まで、生き存在し活躍する芸術家の人物像に焦点をあて、その活動する時代背景や社会との関係性を浮かび上がらせる。また美術の歴史の中での位置を確認し、同様の主題によって広がる同時代の動きにつなげてみる。毎回一人のアーティストを選び、作品や展覧会活動を追って紹介しながら、美術一般や現代社会との関係を探り、表現の原動力となるものを考察する。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】現代社会と芸術の関係性について多様な考え方を理解し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】芸術に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「現代アート事典 モダンからコンテンポラリーまで...世界と日本の現代美術用語集」

美術手帖編集部 美術出版社 2009

「現代美術史日本篇 1945-2014」著・中ザワヒデキ アートダイバー 2014

「アート・パワー」現代企画室 ポリス・グロイス著 石田圭子ほか訳 2017

「現代アートとは何か」河出書房新社 2018年 著・小崎哲哉

芸術と人間【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 浜田知明 戦争の目撃者 戦争画と現代美術における反戦・反原発主題の作家と作品
2. ボルタンスキー「暗闇のレッスン」で生と死を見つめる
3. ジャン・デュビュッフェ ART BRUTの世界を開いて
4. 寺山修司 劇的想像力について
5. 高松次郎 存在/不在を見つめる芸術表現
6. フランク・ステラ ミニマルからプロジェクトまで
7. ロバート・スミッソン 大地の改造計画
8. 青木野枝 鉄と生きる 鉄と遊ぶ 彫刻のあり方いろいろ
9. ソフィー・カル フィクションとしての写真
10. 白川昌生 生涯にわたるマイナーとして
11. 山口啓介 原発に抗する
12. ヤノベケンジ 失われた遊園地
13. ナデガタ・インスタント・パーティ 人々を巻き込むプロジェクト
14. 会田誠 道程
15. Chim↑pom 世界を公共空間として認識すること

成績評価の方法 /Assessment Method

課題(2回)・ ・ 50% 毎回moodle上で課題をあげます。15回のうち2回分を選んで回答を送ってください。
レポート・ ・ 40% 13-14回目の授業動画とmoodle アナウンスメントで出題します。学内メール添付で提出してください。
日常の授業への取り組み(出欠、提出物の形式が的確かどうか)・ ・ 10%
課題2回とレポートの提出がそろって評価可能となります。提出ゼロは評価不能、課題のみ、レポートのみではD評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (1)自主練習を行い、授業の内容を反復すること。
- (2)随時、課題を学習支援フォルダに挙げるので、参照し準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

小テストやレポートは、授業の内容を把握しているかどうかよりも、むしろ授業で得た知識を自身の関心においてどのように展開したか、また、展開させたいか、を問うものである。
近隣の展覧会を見て回るなど、日常的にも美術の環境に親しんでいただきたい。

キーワード /Keywords

アートと社会、反戦・反原発、プライベート/パブリック、プロジェクト

現代正義論【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と正義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における正義の問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代社会における正義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代正義論
			PHR003F

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。
 まずは、現代正義論の流れを概観する。次に、現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題をとりあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的な身近な生命倫理にかかわる諸問題をとりあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】現代社会における正義の問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

(遠隔授業)

本講義は遠隔(オンデマンド)授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』(早川書房、2010年)
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』(早川書房、2010年)
- 深田三徳、濱真一郎『よくわかる法哲学・法思想 第2版』(ミネルヴァ書房、2015年)
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』(勁草書房、2006年)
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』(創文社、1995年)
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』(講談社、1997年)
- 瀧川裕英、宇佐美誠、大屋雄裕『法哲学』(有斐閣、2014年)

現代正義論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ～ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ～ 本講義の概観
- [第3回～第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植① ～ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ～ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ～ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ～ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ～ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ～ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ～ ロールズとノージック
- 第10回 現代正義論③ ～ ノージックのリパタリアニズム
- 第11回 現代正義論④ ～ サンデルの共同体主義
- 第12回 現代正義論⑤ ～ 共同体主義【論争】
- 第13回 現代正義論⑥ ～ アマルティア・センの正義論
- 第14回 現代正義論⑦ ～ センとロールズ・ノージック
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%
試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、当該回に扱うテーマについて、自ら予習をしておくこと。授業の後は、各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解の役にたつと思います。

キーワード /Keywords

SDGs10. 不平等をなくす SDGs16. 平和と公正 ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

民主主義とは何か【昼】

担当者名 /Instructor 中井 遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と民主主義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	民主主義について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			民主主義とは何か PLS002F

授業の概要 /Course Description

民主主義 / デモクラシー / 民主制とは何か。まずそれは単に選挙で物事を決めるだけの事ではない。選挙は独裁国家でも実施されている。またそれは善なる無謬のイズムでもない。近現代において多くの抑圧や圧政は「民意」や「国民の意思」の美名のもとに執行されてきた（そして「みんなのためだから」「多数決だから」の名のもとに行われる他者への抑圧は我々の日常でも見られる行為である）。

近代的な自由民主主義はいかにして民主主義の害悪を最小化しつつ実際の決定メカニズムとして運用してきたのか。本講義では、理念とデータの両面から検討する。様々な民主体制がある中で、どのような状況においてその決定の品質が保たれたり、そもそも政治的安定性を維持できるのか、様々な先行研究に基づいて講義・検討する。近年の研究は、理念的には優れた制度とされていたものが実際には劣った現実をもたらしていた（理念とデータにギャップがあった）事なども示している。また、民主主義が何かを知るためには民主主義ではないものが何なのかも知らなければならない。独裁とは何か、なぜ権威主義国家でも選挙が行われるのかを知って初めて、民主主義を知ることにもつながる。これらを知ることを通じてこそ、我々は多様な人々の間における集会的決定を下すことに理解を深めることができる。

本学DP上の到達目標は「民主主義について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている」「民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している」となっている。これに基づき、成績評価と授業計画では以下の4点を重点とする。履修者が適切に学修を進めた場合、以下4点の知的地平へと到達できることを本科目は約束する。

受講者は本講義を通じて、1) 民主主義を冠する複数の思想や歴史を理解し、特に自由民主主義（リベラルデモクラシー）とそれに付随する基礎的諸概念と効果について、複数の相反する考え方も含め理解し説明できるようになる；2) なぜ民主主義が好ましいのか/好ましくないのか、いかなる状況や領域において民主主義は好ましいのか/あるいは特段優れているわけではないのか、複数の相反する理論や実証結果を整理し説明できるようになる；3) 民主主義下における様々な制度的バリエーションについて説明できるようになり、それが実際の民主政治にいかなる影響を与えるのか、実証的根拠とともに説明できるようになる；4) 非民主主義体制ともいえる独裁制がもつバリエーションも説明でき、それが体制変動・民主化に与える影響を理解し、民主主義体制との違いや独裁制下での選挙がもたらす効果について説明できる。また、これらができているかどうか、成績評価の基準となる。

教科書 /Textbooks

指定教科書はない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 宇野重規 (2019) 『民主主義とは何か』
- 待鳥聡史 (2015) 『代議制民主主義-「民意」と「政治家」を問い直す』中央公論新社
- マクファーソン, C.B. (田口訳 1978) 『自由民主主義は生き残れるか』岩波書店
- ダール, R. (高島・前田訳) 『ポリアーキー』岩波書店
- 坂井豊貴 (2015) 『多数決を疑う-社会的選択理論とは何か』岩波書店
- エリカ・フランツ (2021) 『権威主義：独裁政治の歴史と変貌』白水社

民主主義とは何か【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクションと投票参加について理解する。授業全体の方針や進め方について受講者との間に共通理解をもつ。しかる後に、民主主義の基礎的な制度と見られる、選挙に関して、なぜ人は選挙にいったり行かなかつたりするのか、ライカ-の投票参加理論をもとに理解する。
2. 民主主義と隣接概念(自由主義・共和主義)を理解する。民主政-独裁政の差異と君主政-共和政の差異は理論的・現代的な意味において別物であることを理解する。本来別物の自由主義と民主主義が歴史的経緯によって結びついてきたことを知り、時には自由主義と民主主義が衝突しうることも理解する。そのため現代的自由民主主義は自由をまもる諸制度(cf司法の独立)が必然的に含まれることを理解し、現在の自由民主主義指標(Freedom House, PolityIV)は実際にそれらを含めて世界の民主主義度を計測していることを知る。
3. 民主主義の多義性を理解し、最小限定義を示したダールのポリアーキー概念を学び、それが重要視する「競争」と「包摂」の2次元を理解する。自由で競争があっても、そこに参加できるメンバーが少なければ民主主義とは言えない。より総合的な民主主義指標であるところのV-dem指標を知り、それを通じて、たとえば、民主主義の場から女性を排除していた時期のスイスがどのように扱われているか、といった問題を検討する。
4. 直接民主主義と間接民主主義の関係性を理解する。現代において標準的な代議制民主主義の思想と対抗言説を理解する。間接民主制を擁護する側の議論として、シムペーターの競争的民主主義観を理解し、他方で強力な対抗言説としての人民民主主義論・ポピュリズム(とそれらはらむ危険性)について理解を深める。
5. この回より理論を離れて歴史や実証を重視する。こんにちの世界が近現代史上はじめて民主政が多数派となっている事を知り、それをもたらした「第3の波」について学ぶ。ラテンアメリカ、旧共産圏、アジア、世界の様々な地域で一斉に起こった民主化の波は、様々な形態を通じて発生したことを知り、それが定着に成功したり失敗したことがある事を知る。
6. 民主政と独裁政(権威主義体制)を比較検討する。独裁政もまた一定の制度的パフォーマンスをもとに体制維持を合理化していることを知り、民主政と独裁政の間に制度的なパフォーマンスの差があるのか、当為の言説からではなく実際のデータに基づいて理解する。経済的成長に関する古典的研究から、ガバナンスにがんする最新の研究まで触れることを通じて、民主政はどのような領域において独裁政より優れているのか/あるいは優れていないのかを理解する。
7. 権威主義体制の下位分類について理解する。リンスの全体主義論・権威主義論を元に、民主政とは言えなくとも一定の政治的多元性が許容されている制度があることを理解する。現代の権威主義体制の3分類法(軍・議会/党・個人)を知り、それぞれの特徴と、特に議会を通じた権威主義体制があることを把握する。そこから、選挙は民主主義の専売特許でもなんでもなく、時には独裁体制の強化につながり民主主義を棄損するだけである場合もあることを理解する。
8. 政治体制の変動について理解する。第3の波に限らず、体制変動はいかにして発生するか幅広いデータを通じて理解する。また、権威主義体制下における体制変動とは必ずしも民主主義体制への変動(民主化)を意味しないことや、民主主義を維持することと民主化を達成することは別であることなどを理解する。ムーアの階級構造理論と、経済発展(6055ドル仮説)・格差との関連性についての基礎的な実証分析を理解の補助線とする。
9. 独裁制と民主政を理解したうえで、そもそも民主主義という意味決定手続きがいかにして正当化できるか複数の理論を知る。特に、最大多数最大幸福原理とコンドルセ陪審定理(CJT)について学ぶ。最大多数の最大幸福に基づく正当化は容易に多数派の暴政につながりうること、結果合理性の議論としてはCJTが重要な発想である(一方批判もある)ことを理解する。ただし民主政の維持という観点から見た際、選挙結果の不確実性/戦略性こそが重要だとする議論もあることを紹介する。
10. 民主政下の下位分類としての執政制度について理解する。執政長官をいかにして選ぶかという制度が極めて重要であることを知り、大分類として大統領制と議院内閣制について理解する。この際、日本の教科書的な三権分立の理解には不都合もあることを学ぶ。両執政制度に当てはまらない、半大統領制や首相公選制についても理解する。執政制度の差異は民主主義の維持との関連で非常に激しい議論があり、日本の中央政治と地方政治の理解にも重要であることを把握する。
11. 民主政下の下位分類としての選挙制度について理解する。選挙制度を分類する方法としては、特に定数と議席変換方式が重要であり、多数代表性=小選挙区制と比例代表制=複数選挙区制の基礎的な制度設計ないし制度効果について理解する。実際の選挙結果などをもとにその効果について確認する。特に日本の選挙と民主主義を考える上では、多数代表性&複数選挙区制(いわゆる中選挙区制)の効果の理解は不可欠であり、その制度がもつ理論的な効果と課題について理解する。
12. 民主政下の下位分類としての多数決型とコンセンサス型について理解する。同じリベラルデモクラシーの諸国の中でも、実際の民主政の運用は多様であり、様々な制度や運用の組み合わせによってバリエーションを示している。これを民主政の二つの理念系とその中間とみるLijphartの民主主義理論を学ぶ。実際のデータなどを通じて、世界の民主政のバリエーションがどのような次元で区別でき、どのような位置に置くことができるのか理解する。
13. 多文化社会における民主政の実現可能性について理解する。多数派の政治的意思に基づき政治的な決定と介入を行う民主政が、多文化社会において抱える困難を理解し、そのうえで、現実にも多民族国家でありながら民主政を維持してきた国々の観察から生まれた、コンソシエーション(多極共存型)デモクラシー理論を事例とともに習得する。他方で、本理論も多文化社会の権力分有としては万能ではなく、オルタナティブな議論もあることを理解する。
14. 情報通信技術の発展と民主主義の関連性について考える。広義のE-デモクラシーのうち、主に3つの課題について理解する。1つ目は特にSNSの発展が現在そして未来の民主主義に与える影響であり、楽観論と悲観論の双方を理解する。2つ目はインターネット投票であり、先行事例としてのエストニアの状況の解説とその問題点、日本や世界の状況について知る。3つ目はいわゆるAIと民主主義の問題であり、古典的なテクノロジーと民主主義の緊張関係の延長としてこの問題をとらえる視点を涵養する。

民主主義とは何か【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

15. ここまでの授業の整理として各授業内容の定着を図る。授業スピードの進展の調整・授業の休講/補講・授業内での合同イベントの実施など、イレギュラーがあった場合の調整としてもこの回(に相当する回)を用いて、調整を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

各授業後の小テスト/アンケート：40%

期末試験：60%

小アンケート回答なし+期末試験未受験の場合、評価不能「一」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回において参考文献を授業スライドに提示するので、復習やさらなる学習のためにそれを用いる事。また、自習にあつては本シラバスも参考にすること(大事なキーワード類はすべて本シラバスに記入済である)

各回授業後に、その授業の振り返りもしくは次回授業の予習となる、1・2問の簡単な小テストもしくはアンケートを出す。これに回答すること。

なお、事前事後学習とは単に座学に限られない。本講義で学習した知見をもとに、現実に自らが生まれたり住んでいる国や地方の政治について考えたり、受講者同士で議論を交わしたり、関連するTV報道・新聞記事・ネットメディア報道などを購読して自分なりの意見形成をすることが、きわめて重要な事前事後学習となる。

履修上の注意 /Remarks

前期と後期で内容は(時事争点への言及を除き)同じである。自らの履修計画に沿って対応されたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教養科目ゆえ込み入った法学・政治学の知識は必要ない(それがない人を想定して授業を行う)。ただし、高校卒業程度の英語・世界史の知見は必要である。

キーワード /Keywords

SDG5, SDG16

民主主義とは何か【昼】

担当者名 /Instructor 中井 遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と民主主義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	民主主義について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			民主主義とは何か
			PLS002F

授業の概要 /Course Description

民主主義 / デモクラシー / 民主制とは何か。まずそれは単に選挙で物事を決めるだけの事ではない。選挙は独裁国家でも実施されている。またそれは善なる無謬のイズムでもない。近現代において多くの抑圧や圧政は「民意」や「国民の意思」の美名のもとに執行されてきた（そして「みんなのためだから」「多数決だから」の名のもとに行われる他者への抑圧は我々の日常でも見られる行為である）。

近代的な自由民主主義はいかにして民主主義の害悪を最小化しつつ実際の決定メカニズムとして運用してきたのか。本講義では、理念とデータの両面から検討する。様々な民主体制がある中で、どのような状況においてその決定の品質が保たれたり、そもそも政治的安定性を維持できるのか、様々な先行研究に基づいて講義・検討する。近年の研究は、理念的には優れた制度とされていたものが実際には劣った現実をもたらしていた（理念とデータにギャップがあった）事なども示している。また、民主主義が何かを知るためには民主主義ではないものが何なのかも知らなければならない。独裁とは何か、なぜ権威主義国家でも選挙が行われるのかを知って初めて、民主主義を知ることにもつながる。これらを知ることを通じてこそ、我々は多様な人々の間における集会的決定を下すことに理解を深めることができる。

本学DP上の到達目標は「民主主義について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている」「民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している」となっている。これに基づき、成績評価と授業計画では以下の4点を重点とする。履修者が適切に学修を進めた場合、以下4点の知的地平へと到達できることを本科目は約束する。

受講者は本講義を通じて、1) 民主主義を冠する複数の思想や歴史を理解し、特に自由民主主義（リベラルデモクラシー）とそれに付随する基礎的諸概念と効果について、複数の相反する考え方も含め理解し説明できるようになる；2) なぜ民主主義が好ましいのか/好ましくないのか、いかなる状況や領域において民主主義は好ましいのか/あるいは特段優れているわけではないのか、複数の相反する理論や実証結果を整理し説明できるようになる；3) 民主主義下における様々な制度的バリエーションについて説明できるようになり、それが実際の民主政治にいかなる影響を与えるのか、実証的根拠とともに説明できるようになる；4) 非民主主義体制ともいえる独裁制がもつバリエーションも説明でき、それが体制変動・民主化に与える影響を理解し、民主主義体制との違いや独裁制下での選挙がもたらす効果について説明できる。また、これらができているかどうか、成績評価の基準となる。

教科書 /Textbooks

指定教科書はない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 宇野重規 (2019) 『民主主義とは何か』
- 待鳥聡史 (2015) 『代議制民主主義-「民意」と「政治家」を問い直す』中央公論新社
- マクファーソン, C.B. (田口訳 1978) 『自由民主主義は生き残れるか』岩波書店
- ダール, R. (高畠・前田訳) 『ポリアーキー』岩波書店
- 坂井豊貴 (2015) 『多数決を疑う-社会的選択理論とは何か』岩波書店
- エリカ・フランツ (2021) 『権威主義：独裁政治の歴史と変貌』白水社

民主主義とは何か【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクションと投票参加について理解する。授業全体の方針や進め方について受講者との間に共通理解をもつ。しかる後に、民主主義の基礎的な制度と見られる、選挙に関して、なぜ人は選挙にいったり行かなかつたりするのか、ライカ-の投票参加理論をもとに理解する。
2. 民主主義と隣接概念(自由主義・共和主義)を理解する。民主政-独裁政の差異と君主政-共和政の差異は理論的・現代的な意味において別物であることを理解する。本来別物の自由主義と民主主義が歴史的経緯によって結びついてきたことを知り、時には自由主義と民主主義が衝突しうることも理解する。そのため現代的自由民主主義は自由をまもる諸制度(civil司法の独立)が必然的に含まれることを理解し、現在の自由民主主義指標(Freedom House, PolityIV)は実際にそれらを含めて世界の民主主義度を計測していることを知る。
3. 民主主義の多義性を理解し、最小限定義を示したダールのポリアーキー概念を学び、それが重要視する「競争」と「包摂」の2次元を理解する。自由で競争があつても、そこに参加できるメンバーが少なければ民主主義とは言えない。より総合的な民主主義指標であるところのV-dem指標を知り、それを通じて、たとえば、民主主義の場から女性を排除していた時期のスイスがどのように扱われているか、といった問題を検討する。
4. 直接民主主義と間接民主主義の関係性を理解する。現代において標準的な代議制民主主義の思想と対抗言説を理解する。間接民主制を擁護する側の議論として、シムペーターの競争的民主主義観を理解し、他方で強力な対抗言説としての人民民主主義論・ポピュリズム(とそれらはらむ危険性)について理解を深める。
5. この回より理論を離れて歴史や実証を重視する。こんにちの世界が近現代史上はじめて民主政が多数派となっている事を知り、それをもたらした「第3の波」について学ぶ。ラテンアメリカ、旧共産圏、アジア、世界の様々な地域で一斉に起こった民主化の波は、様々な形態を通じて発生したことを知り、それが定着に成功したり失敗したことがある事を知る。
6. 民主政と独裁政(権威主義体制)を比較検討する。独裁政もまた一定の制度的パフォーマンスをもとに体制維持を合理化していることを知り、民主政と独裁政の間に制度的なパフォーマンスの差があるのか、当為の言説からではなく実際のデータに基づいて理解する。経済的成長に関する古典的研究から、ガバナンスに关する最新の研究まで触れることを通じて、民主政はどのような領域において独裁政より優れているのか/あるいは優れていないのかを理解する。
7. 権威主義体制の下位分類について理解する。リンスの全体主義論・権威主義論を元に、民主政とは言えなくとも一定の政治的多元性が許容されている制度があることを理解する。現代の権威主義体制の3分類法(軍・議会/党・個人)を知り、それぞれの特徴と、特に議会を通じた権威主義体制があることを把握する。そこから、選挙は民主主義の専売特許でもなんでもなく、時には独裁体制の強化につながり民主主義を棄損するだけである場合もあることを理解する。
8. 政治体制の変動について理解する。第3の波に限らず、体制変動はいかにして発生するか幅広いデータを通じて理解する。また、権威主義体制下における体制変動とは必ずしも民主主義体制への変動(民主化)を意味しないことや、民主主義を維持することと民主化を達成することは別であることなどを理解する。ムーアの階級構造理論と、経済発展(6055ドル仮説)・格差との関連性についての基礎的な実証分析を理解の補助線とする。
9. 独裁制と民主政を理解したうえで、そもそも民主主義という意味決定手続きがいかにして正当化できるか複数の理論を知る。特に、最大多数最大幸福原理とコンドルセ陪審定理(CJT)について学ぶ。最大多数の最大幸福に基づく正当化は容易に多数派の暴政につながりうること、結果合理性の議論としてはCJTが重要な発想である(一方批判もある)ことを理解する。ただし民主政の維持という観点から見た際、選挙結果の不確実性/戦略性こそが重要だとする議論もあることを紹介する。
10. 民主政下の下位分類としての執政制度について理解する。執政長官をいかにして選ぶかという制度が極めて重要であることを知り、大分類として大統領制と議院内閣制について理解する。この際、日本の教科書的な三権分立の理解には不都合もあることを学ぶ。両執政制度に当てはまらない、半大統領制や首相公選制についても理解する。執政制度の差異は民主主義の維持との関連で非常に激しい議論があり、日本の中央政治と地方政治の理解にも重要であることを把握する。
11. 民主政下の下位分類としての選挙制度について理解する。選挙制度を分類する方法としては、特に定数と議席変換方式が重要であり、多数代表性=小選挙区制と比例代表制=複数選挙区制の基礎的な制度設計ないし制度効果について理解する。実際の選挙結果などをもとにその効果について確認する。特に日本の選挙と民主主義を考える上では、多数代表性&複数選挙区制(いわゆる中選挙区制)の効果の理解は不可欠であり、その制度がもつ理論的な効果と課題について理解する。
12. 民主政下の下位分類としての多数決型とコンセンサス型について理解する。同じリベラルデモクラシーの諸国の中でも、実際の民主政の運用は多様であり、様々な制度や運用の組み合わせによってバリエーションを示している。これを民主政の二つの理念系とその中間とみるLijphartの民主主義理論を学ぶ。実際のデータなどを通じて、世界の民主政のバリエーションがどのような次元で区別でき、どのような位置に置くことができるのか理解する。
13. 多文化社会における民主政の実現可能性について理解する。多数派の政治的意思に基づき政治的な決定と介入を行う民主政が、多文化社会において抱える困難を理解し、そのうえで、現実にも多民族国家でありながら民主政を維持してきた国々の観察から生まれた、コンソシエーション(多極共存型)デモクラシー理論を事例とともに習得する。他方で、本理論も多文化社会の権力分有としては万能ではなく、オルタナティブな議論もあることを理解する。
14. 情報通信技術の発展と民主主義の関連性について考える。広義のE-デモクラシーのうち、主に3つの課題について理解する。1つ目は特にSNSの発展が現在そして未来の民主主義に与える影響であり、楽観論と悲観論の双方を理解する。2つ目はインターネット投票であり、先行事例としてのエストニアの状況の解説とその問題点、日本や世界の状況について知る。3つ目はいわゆるAIと民主主義の問題であり、古典的なテクノロジーと民主主義の緊張関係の延長としてこの問題をとらえる視点を涵養する。

民主主義とは何か【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

15. ここまでの授業の整理として各授業内容の定着を図る。授業スピードの進展の調整・授業の休講/補講・授業内での合同イベントの実施など、イレギュラーがあった場合の調整としてもこの回(に相当する回)を用いて、調整を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

各授業後の小テスト/アンケート：40%

期末試験：60%

小アンケート回答なし+期末試験未受験の場合、評価不能「一」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回において参考文献を授業スライドに提示するので、復習やさらなる学習のためにそれを用いる事。また、自習にあつては本シラバスも参考にすること(大事なキーワード類はすべて本シラバスに記入済である)

各回授業後に、その授業の振り返りもしくは次回授業の予習となる、1・2問の簡単な小テストもしくはアンケートを出す。これに回答すること。

なお、事前事後学習とは単に座学に限られない。本講義で学習した知見をもとに、現実に自らが生まれたり住んでいる国や地方の政治について考えたり、受講者同士で議論を交わしたり、関連するTV報道・新聞記事・ネットメディア報道などを購読して自分なりの意見形成をすることが、きわめて重要な事前事後学習となる。

履修上の注意 /Remarks

前期と後期で内容は(時事争点への言及を除き)同じである。自らの履修計画に沿って対応されたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教養科目ゆえ込み入った法学・政治学の知識は必要ない(それがない人を想定して授業を行う)。ただし、高校卒業程度の英語・世界史の知見は必要である。

キーワード /Keywords

SDG5, SDG16

社会学的思考 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と社会との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる個人と社会との関係について総合的に分析し、現代社会が直面する課題を発見する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	自らが帰属する社会における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
			社会学的思考
			SOC002F

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、人間と社会との関係性を総合的に理解することにある。まず、社会学の基本的な考え方について、E.デュルケム、M.ウェーバーなどの古典的著作を例にとりながら紹介していく。その中で、社会的行為、社会規範、社会制度、社会構造、社会的役割、社会集団等の基本概念についても説明する。さらに、現代の社会問題を社会学的に考えていく。

上記の内容を踏まえ、授業では以下の4点を目標とする。

- (1) 現代社会とはどのような社会なのか、社会学の基礎を学び、それを踏まえた上で現代社会の特性を理解する。
- (2) 多様な生き方を尊重することが望ましい現代において、生活の多様性における実態について理解する。
- (3) どのような社会構造の中で人が生活しているのかを理解することを通して、人と社会のあり方を望ましいあり方について考えることができるようになる。
- (4) 社会問題とは何か、どのような背景によって社会問題は形成されるのかを理解し、社会政策等の社会問題への対策のあり方について考えることができるようになる。

なお、本科目は、SDGs1「貧困をなくそう」、SDGs3「すべての人に健康と福祉を」、SDGs10「人や国の不平等をなくそう」、SDGs17「パートナーシップで目標を達成しよう」に関連するものである。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業であるため、学生は自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められる。

到達目標

【思考・判断・表現力】現代の社会問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】他者と協働して、現代の社会問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

使用しない。

適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『生活からみる社会のすがた』, 稲月正・加来和典・牧野厚史・三隅一人編, 学文社, 2022年3月刊行予定

○ 『現代の社会学的解読』, 山本努・辻正二・稲月正著, 学文社, 2014年, ¥2640 (古書)

『最新 社会福祉士養成講座③ 社会学と社会システム』, 一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編, 中央法規, 2021年, ¥2,750

その他、講義の中で、適宜、紹介する

社会学的思考 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 インTRODクシヨN【社会、社会学】
- 2 社会学的な考え方とは【記述、説明、行為、規範、制度、集団、構造】
- 3 社会学の歴史的展開1 - E.デュルケムの方法【集合意識、機能、自己本位的自殺、アノミー的自殺】
- 4 社会学の歴史的展開2 - M.ウェーバーの方法【理解社会学、社会的行為、意図せざる結果】
- 5 復習と課題解説
- 6 変容する家族【近代家族、核家族、夫婦家族、直系家族、定位家族、生殖家族、小家族化と家族の多様化】
- 7 社会集団と組織【ゲマインシャフト、ゲゼルシャフト、第1次集団、第2次集団、準拠集団、官僚制】
- 8 逸脱と社会統制【機能主義、正機能、逆機能、顕在的機能、潜在的機能、アノミー、ラベリング理論】
- 9 都市【産業都市、都市問題、脱工業化、情報化、分極化した都市、世界都市、アーバニズム、下位文化理論】
- 10 社会階層と社会移動【階級、階層、不平等、社会的資源、ジニ係数、社会移動、開放性係数、地位の非一貫性】
- 11 生活困窮（貧困）と社会的排除【経済的困窮、社会的孤立、社会的排除】
- 12 戦後日本の社会変動【高度経済成長、安定成長、戦後日本型循環モデル、性別役割分業】
- 13 大衆社会とファシズム【ナチズム、社会的性格、権威主義的パーソナリティ、機械的画一性への逃げ込み】
- 14 グローバル化と移民【国際労働力移動、移住システム論、顔の見えない定住化、排外主義】
- 15 授業のまとめと振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

確認小テスト... 40%、課題レポート... 60%とし、総合的に判断する。いずれも、メディア授業の際に出す。提出期限を過ぎた課題・小テストは受け付けできない。

確認小テスト、課題レポートを1回も提出しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業にあたって配布プリント等をよく読んでおくこと。授業の内容を反復学習すること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常生活の中で生じているさまざまな出来事を、いろいろな立場や視点から考える習慣を身につけてもらえるとうれしいです。

キーワード /Keywords

社会的行為、エスノグラフィー、社会集団、社会構造、集合意識、社会規範、自己本位主義、アノミー、理解社会学、合理性、社会的性格、ファシズム、社会的排除、社会的包摂、社会的孤立、貧困、戦後日本型循環モデル
SDGs1「貧困をなくそう」、SDGs3「すべての人に健康と福祉を」、SDGs10「人や国の不平等をなくそう」、SDGs17「パートナーシップで目標を達成しよう」

人権論 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会と人権との関係・歴史や社会の中における人権の重要性を総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間理解に必要とされる人権の意義・重要性について総合的に分析し、直面する課題を発見するとともに解決を模索する。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	社会の中での人権について、自ら課題を発見し、解決のための学びを継続する。	
	コミュニケーション力			
			人権論	SOC004F

授業の概要 /Course Description

「人権問題」といえば特別なものというイメージを抱くかもしれないが、実際には誰にとっても非常に身近なものであって、「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無自覚的に他者の「人権」を侵害しているということがある。

本講義では「人権」についての基本的な概念や現存する人権問題、その社会的背景を考察した上で、自分にとっての人権とは何か、我々の社会が抱える人権問題とは何かについて共に考えていきたい。

(目標)

【思考・判断・表現力】人権に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につける。

【コミュニケーション力】他者と協同して、人権に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につける。

【自立的行動力】人権に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有する。

※本講義は遠隔(オンデマンド)授業なので、学生は自宅・大学などからインターネットを接続して、自身のPCやスマートフォンで、(または大学のPC自習室でイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められる。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』(横田耕一著/(公社)福岡県人権研究所発行 ¥1000)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な参考書は授業時に紹介する。

人権論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|-----------------|--|
| 1 「自分にとっての人権課題」 | オリエンテーション / 自分と人権との関わりを考える。 |
| 2 「人権とは何か」 | 人権とは何かについて解説する。 |
| 3 「人権獲得の歴史」 | 人権獲得の歴史について近代革命を中心に解説する。 |
| 4 「世界人権宣言と人権条約」 | 世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。 |
| 5 「平和と人権」 | 戦争・平和についての解説。 |
| 6 「ハンセン病について」 | ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く社会の状況を解説する。 |
| 7 「教育と人権～識字問題」 | 読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。 |
| 8 「教育と人権～夜間中学」 | 教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。 |
| 9 「部落問題について」 | 現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。 |
| 10 「部落問題について」 | 当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。 |
| 11 「在日外国人と人権課題」 | 在日外国人の現状と人権課題を解説する。 |
| 12 「在日コリアンについて」 | 在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する。 |
| 13 「障害者と人権」 | 障害者の立場からみる人権課題を知る。 |
| 14 「アジアの人権状況」 | アジアの人権問題を事例を交えて解説する。 |
| 15 「まとめ」 | 現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのか、共に考える。 |

※5～14については、状況により順序が入れ替わる場合あり。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業に取り組む姿勢（毎回の課題）【50%】と前期末試験（またはレポート）【50%】により評価する。
- ・ 出席率（課題提出）7割以上の学生のみ前期末試験の受験（またはレポート提出）を認める。
- ・ 出席が7割に満たない場合の評価は（D）、5割に満たない場合は評価不能（-）とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 講義配信後、毎回の課題提出有り、締め切りは厳守のこと
- ・ 教科書及び配布資料は熟読すること。
- ・ 新聞、テレビ、ネットなどを通して、私たちの社会で起きている様々な人権問題に関心を持ち、毎回のコメント用紙に反映させることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

代筆などを含む不正行為を行った場合は、即座に出席が停止され、単位取得は不可となる。
7割以上の出席が満たされない場合は、単位が取得できない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の学ぶ権利を意識して授業に取り組んでほしい。
コロナの影響で、昨年に引き続きオンデマンドで講義を行います。何度でも視聴できるなど、オンデマンドの利点をいかして、講義にのぞんで欲しい。質問や問い合わせには個人メールで常時対応します。

キーワード /Keywords

「すべての人」「人間らしく生きる」
「SDGs 4 質の高い教育を」「SDGs 10 不平等をなくす」「SDGs 16 平和と公正」

ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	社会とジェンダーとの関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人間と社会の理解に必要とされるジェンダーの考え方について総合的に分析し、課題を発見するとともに、解決策を考える。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自が所属する社会においてジェンダーにかかわる課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する。
	コミュニケーション力		
			ジェンダー論
			GEN001F

授業の概要 /Course Description

「女性はわきまえているべき」、「男性は強くあるべき」、こんな言葉をどこかで耳にしたことはありませんか。みなさんの性自認がどうであれ、これを聞いて、納得した人もいるかもしれませんが、違和感を覚えた人もいるでしょう。しかし、どうして納得したり、違和感を覚えたりするのでしょうか。それは、私たちはだれもが、「女性はこういうものだ」「男性はこういうものだ」という性差、知識や規範、すなわち「ジェンダー」を意識しているからです。

本講義では、このジェンダーが何なのかを、思想、歴史、政治、社会運動などとの関係から理解することを目指します。そのなかで、多様な理解を得るためや、現状を知るために、ジェンダー平等やLGBTQをめぐる第一線で活躍する有識者や運動家へのインタビューも行います。

この講義は、遠隔（オンデマンド）授業となります。みなさんは、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、授業に参加してください。

《思考・判断・表現力》ジェンダーに関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

《コミュニケーション力》他者と協働して、ジェンダーに関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

《自律的行動力》ジェンダーに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 中村敏子『女性差別はどう作られてきたか』、集英社新書、2021
- 西井開『『非モテ』からはじめる男性学』、集英社新書、2021
- 森山至貴『LGBTを読みとく：クィア・スタディーズ入門』、ちくま新書、2017
- 千田有紀ら『ジェンダー論をつかむ』、有斐閣、2013

ジェンダー論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション：ジェンダーって何？
- 第2回 ジェンダー規範①：近代国家と家長制
- 第3回 ジェンダー規範②：家族と母性
- 第4回 フェミニズムの変遷
- 第5回 ライフプラン教育と性の管理
- 第6回 ジェンダー規範③：新しいジェンダー規範、モテ
- 第7回 ポストフェミニズムと女子力：
- 第8回 ジェンダー規範④：男らしさ、非モテ
- 第9回 確認テスト①
- 第10回 ジェンダーとセックス
- 第11回 セクシャルマイノリティ
- 第12回 ジェンダーとセクシャリティ：排除の構造
- 第13回 セクシャルマイノリティの排除の実例と包摂の試み
- 第14回 トランスジェンダーバッシング
- 第15回 確認テスト②

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 確認テスト① 50%
- ・ 確認テスト② 50%

* いずれかの確認テストを受験しなかった場合は、評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の最後に、その次の回に関連するキーワードをお伝えしますので、それについて辞典・事典やネットで調べてきましょう。このキーワードに関連する問題が、テストでは出題されます。

履修上の注意 /Remarks

初回は、いわゆるイントロダクション(導入)ですが、講義全体の進め方や成績の付け方についても説明するので、必ず試聴してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

僕は、教員ですが、みなさんのリアクションや質問で学ぶことがたくさんあります(今までそうでしたので)。「教え-教えられる」関係ではなくて、「互いに教え合う」関係になりましょう。

キーワード /Keywords

ジェンダー、フェミニズム、LGBT、SDG 5. ジェンダー平等、SDG 10. 不平等をなくす

障がい学【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	障がいについての様々な捉え方を理解し、多角的に考えていく能力を養う。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	障がいの捉え方に関する3つのモデルの関係性について理解する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	障がい観を見直す視座を習得する。
	コミュニケーション力		
			障がい学
			SOW001F

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、具体的には発達障害である自閉スペクトラム症（障害）を取り上げながら、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。
障害をテーマとした映画等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。

（到達目標）

【知識】障がいについての様々な捉え方を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】障がいの捉え方に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】他者と協働して、障がいに関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障害」に対するイメージ【障害イメージ】
- 第3回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回：自閉スペクトラム症（障害）とは①自閉症の特性【自閉症】
- 第6回：自閉スペクトラム症（障害）とは②自閉症観の変遷【自閉症】
- 第7回：自閉スペクトラム症（障害）支援方法①構造化の意味【構造化】
- 第8回：自閉スペクトラム症（障害）支援方法②コミュニケーション支援【コミュニケーション】
- 第9回：合理的配慮とは【合理的配慮】
- 第10回：文化モデル的作品DVDの視聴①前半【文化モデル的作品】
- 第11回：文化モデル的作品DVDの視聴②後半【文化モデル的作品】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【3つのモデルとの関連で】
- 第13回：3つのモデルの関係性【3モデルの在り方】
- 第14回：共生社会へ向けての課題、自己への問いとしての障がい学【共生社会】【自己への問い】
- 第15回：質問日。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)。
レポートを提出した受講者に対してはS～D評価。未提出者に関しては一評価。

障がい学【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

障害関連の報道等に常に関心をもって接すること。具体的には、授業で、その都度、支持する。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs「3.健康と福祉」「16.平和と公正」「17.パートナーシップ」

法律の読み方 【昼】

担当者名 /Instructor
 中村 英樹 / 法律学科, 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科, 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科
 高橋 衛 / 法律学科, 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科
 今泉 恵子 / 法律学科, 堀澤 明生 / Akio Horisawa / 法律学科
 水野 陽一 / 法律学科, 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
 岡本 舞子 / OKAMOTO MAIKO / 法律学科, 藤田 尚 / 法律学科
 林田 幸広 / 法律学科, 丸山 愛博 / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と法との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法的課題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	法と社会とのつながりを再確認し、その深い理解をもって社会において積極的に行動できる。
	生涯学習力	●	社会における法的課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			法律の読み方
			LAW002F

授業の概要 /Course Description

(到達目標)
【技能】 法律の世界を正しく理解するために必要な技能を身につけている
【思考・判断・表現力】 法的課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている
【自律的行動力】 社会における法的課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

この授業では、法律学科の教員たちが、社会のさまざまな問題を法というフィルターを通して眺めるとどのように捉えられるのかについて講義する。この講義を通じて、法というツールを用いて問題を読み解く技能を獲得することが本授業の目的であり、あわせて、発見したさまざまな課題への対処を考える思考・判断力、そしてそれらを活かして公共的な問題を解決していく自律的行動力を身につけることを目指す。

教科書 /Textbooks

特になし。
 各回、必要な資料があれば配布する（事前にMoodleにアップロードされる場合もあるので確認すること）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各種の法学入門書など。

法律の読み方 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 おからはゴミなのか、劇物を輸入規制しなくていいのか-行政法解釈入門
- 第3回 信じる者は救われる?-法治主義と信頼保護原則
- 第4回 自殺や自傷行為を止めさせると犯罪か?
- 第5回 高齢者の罪は許すべき?
- 第6回 人間はAIとどのように向き合うべきか?-AIと法
- 第7回 電気は「物」か?-物に関する法
- 第8回 契約とは何か?-約束と契約の違い・両者の限界等について
- 第9回 あなたを狙う投資マルチ-マルチ商法と消費者法
- 第10回 保険契約制度により自然災害等に対応できるか?
- 第11回 会社の存在意義は何か?
- 第12回 長時間労働はなぜ起きるのか?
- 第13回 自分の臓器を売る自由?-自己所有権の限界
- 第14回 裁判しない法専門家-ADRとそのねらい
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末のレポートによる (100%)。

期末レポートを提出しなかった場合は、評価不能 (-) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回のテーマについて事前に情報を収集し、自分の考えを整理しておくこと。
事前に資料等の配布がある場合は、授業前に目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

受講態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDG 3. 健康と福祉を、SDG 10. 不平等をなくす、SDG 16. 平和と公正

市民活動論 【昼】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	市民活動と地域社会との関係性について総合的に理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	市民活動に関する総合的な考察をもとに、それが直面する課題を発見することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	地域課題の解決のために、市民活動についての学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			市民活動論 RDE001F

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものか、日本の現実を歴史的に振り返り、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。到達目標としては受講生が自分なりの「政治参加」のあり方を柔軟に考えられるようになることである。

「SDGs」の目標の中の「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

（到達目標）

【知識】市民活動を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【コミュニケーション】他者と協働して、市民活動に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【行動力】市民活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

市民活動論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 検討の枠組みについて
 - 3回 枠組みを使った民衆行動の分析① - 政治と経済
 - 4回 枠組みを使った民衆行動の分析② - 市民
 - 5回 市民活動の<萌芽>① - 政治と経済
 - 6回 市民活動の<萌芽>② - 市民
 - 7回 市民活動の<再生>① - 政治と経済
 - 8回 市民活動の<再生>② - 市民
 - 9回 市民活動の<広がり>① - 政治と経済
 - 10回 市民活動の<広がり>② - 市民
 - 11回 中間まとめ
 - 12回 北九州市における市民活動のうねり
 - 13回 今日の市民活動の<展開>① - 政治と経済
 - 14回 今日の市民活動の<展開>② - 市民
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加姿勢... 50%
期末試験... 50%

最終レポートを提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合があります。その際の積極的な参加が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

この講義は「SDGs」世界を変えるための17の目標に幅広くあてはまるものですが、とくに「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

企業と社会【昼】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	企業と社会に関する諸問題を歴史、思想・文化との関連で理解するための基本的な知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	歴史、思想・文化等の総合的理解を通して、企業と社会に関する諸問題を発見し、主体的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	各自の生活世界から企業と社会に関する諸問題に常に興味を持ち、直面する課題を発見し、解決する力を継続的に涵養することができる。
	コミュニケーション力		
			企業と社会
			BUS001F

授業の概要 /Course Description

企業は、現代社会においてそれなしでは成り立たない存在です。諸個人は一生を通じて何らかの形で企業と関わっていかざるをえません。企業を経営するとは、企業の経営者だけの問題ではなく、企業に関わるすべての人間にとっての問題です。この授業の狙いは、社会の中で企業がどのような原理で存在し、これまで歴史的にどのような側面を有してきたのか、また逆にそのような企業が社会に対してどのような影響を与えているか、現代社会においてこれからの企業はどのように経営されていくべきかを考えることにあります。なお、本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は自宅ないし大学からインターネットに接続して、パソコンやスマートフォン等で授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

(到達目標)

- 【知識】企業と社会に関する諸問題を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】企業と社会の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自律的行動力】企業と社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論 第4版』有斐閣アルマ、2018年、2310円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 三戸公『会社ってなんだ』文真堂、1991年(○)
- 三戸公『随伴の結果』文真堂、1994年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス 【企業の社会における意味の変遷】【6つの企業観】
- 第2回企業と「豊かな社会」【現代における財・サービスの豊かさ】
- 第3回「株式会社」の仕組み① 【株式会社の歴史】【株式会社の機能と構造】
- 第4回「株式会社」の仕組み② 【株式会社の機能と構造】【上場と非上場】
- 第5回社会における「大企業」の意味① 【大企業とは何か】【所有と支配】
- 第6回社会における「大企業」の意味② 【商業社会と産業社会】【企業の性格の変化】
- 第7回社会における「大企業」の意味③ 【官僚制】【科学的管理の展開】
- 第8回社会における「大企業」の意味④ 【環境問題】【随伴の結果】
- 第9回社会における「大企業」の意味⑤ 【コーポレート・ガバナンス】【企業倫理】
- 第10回「家」としての日本企業① 人事における日本企業特有の現象【日本企業と従業員】【契約型と所属型】
- 第11回「家」としての日本企業② 日本企業特有の組織原理【階級制】【能力主義】【企業別組合】
- 第12回「家」としての日本企業③ 日本企業の行動様式【日米の株式会社の違い】【企業結合様式の独自性】
- 第13回「家」としての日本企業④ 「家」の概念 【日本企業の独自性】【家の論理】
- 第14回「家」としての日本企業⑤ 今後の日本の経営 【原理と構造】【家社会】
- 第15回総括

企業と社会【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・60% 小テスト・・・40%

なお、小テスト・学期末試験をまったく受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキスト該当箇所を読んでおいてください。授業後に該当箇所を再読し、復習しておいてください。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

また、適宜、任意のレポート課題を出します。

また該当箇所の参考文献をよく読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

財・サービス 株式会社 大企業 家の論理 社会的器官

SDGs8. 働きがい・経済成長、SDGs12. 作る・使う責任、SDGs15. 環境保全、等の問題と強く関連する。

都市と地域【昼】

担当者名 /Instructor 岡山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	都市と地域について総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	都市と地域について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	都市と地域に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			都市と地域 RDE002F

授業の概要 /Course Description

日本や海外における都市や地域についての紹介や、それらを考察するための概念や枠組み、現状での課題や将来の展望などについて議論する。より幅広く俯瞰的な視点を持つことにより都市や地域を様々な形でまた複眼的に捉え、そこから社会に対する新しい視点が生まれることを促す。

都市と地域という概念の多様さを学びながら実際の事例を通して都市・地域の形状、規模、その成り立ちを考察する。また、その延長として都市・地域間の係わりを社会、経済、交通などの側面から分析する枠組みや手法を紹介する。

「都市と地域」の最終的な目的としては、都市と地域の概念の理解と個々人での定義の形成、それらを基にした柔軟な着想を習得することにある。

【到達目標】

「知識」都市と地域の概念を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
 「思考・判断・表現力」都市と地域の概念を用いて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力身につけている。
 「自律的行動」都市と地域に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本科目はオンラインにて遠隔開講（オンデマンド方式）される予定である。Office365のStreamによる講義配信とMoodleによる課題実施が行われる。このため各自がこれらへの十分なアクセスを準備ないし確保する必要がある。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜文献や資料を紹介する。

都市と地域【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 共通 : クラス紹介および注意事項
- 2回 地域1 : 地域概念:『地域』とは何か?
- 3回 地域2 : 地域学と地域科学
- 4回 地域3 : 地域開発とは
- 5回 地域4 : 地域間という視点
- 6回 地域5 : 地域を分析する
- 7回 地域6 : 地域事例(LQによる分析)
- 8回 地域7 : 地域最終クイズ
- 9回 都市1 : 都市はなぜ存在するか?
- 10回 都市2 : 都市の理論
- 11回 都市3 : 都市の構造
- 12回 都市4 : 都市の変遷・動態
- 13回 都市5 : 都市を分析する
- 14回 都市6 : 都市事例
- 15回 都市7 : 都市最終クイズ

成績評価の方法 /Assessment Method

各週の課題(合計) ... 40% 最終クイズ(2回合計) ... 60%

地域最終クイズまたは都市最終クイズのいずれか一つでも回答の提出がない場合は最終成績が評価不能(-)となる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日頃から「都市」や「地域」という言葉がどのように使われているかを注意深く観察・考察して授業に臨むこと。新聞やTVニュース、もしくはインターネットニュースサイトなどで使われている「都市」や「地域」という言葉の意味を吟味することを心がける。授業で紹介した様々な「都市」や「地域」の概念を授業後に自らの考えと照らし合わせて考察し、身近な事例に当てはめて次回の授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

本授業は毎週行われ講義形式で行われます。授業に毎回出席すること、予習・復習等の準備を行うこと、授業内討論への活発な参加を行うことなどに付け加え、毎週の(Moodleによる)課題への回答、および2回の最終クイズへの回答が必須。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

不正行為が発覚した場合は、当該項目だけでなくすべての点数(授業貢献を含む)が0点になる。

キーワード /Keywords

地域科学、地域学、都市構造、都市政策
SDGs 11. まちづくり

地域防災への招待【昼】

担当者名 /Instructor 加藤 尊秋 / Takaaki KATO / 環境生命工学科 (19~), 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19~)
村江 史年 / Fumitoshi MURAE / 基盤教育センターひびきの分室, 城戸 将江 / Masae KIDO / 建築デザイン学科 (19~)
二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年(2015年度以降入学生)
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
					○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	地域防災に必要な事項をさまざまな視点から学び、地域の持続可能性を高めるための総合的な知識を身につける。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	災害に備えて自ら課題を見だし、改善するための技法を身につける。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観	●	いざ災害が起きた際に自分および周囲の人の身を守るべく最大限の努力をする責任感を身につける。	
	生涯学習力	●	災害時に必要な情報を日頃から集め、いざという時に必要な情報を選別できる能力を生涯にわたって身につける。	
	コミュニケーション力			
			地域防災への招待	SSS001F

授業の概要 /Course Description

本講義では、防災の基礎知識及び自治体の防災体制・対策等を学ぶことを通じ、学生自身の防災リテラシーと地域での活動能力を向上させることを目的とする。
地震や風水害などの代表的な災害のメカニズム、自然災害に対する北九州市の防災体制・対策について、本学および北九州市役所を中心とする専門家が全15回にわたって講義し、防災の基礎、自治体の防災、市民・地域主体の防災の3つの知識を身につける。北方・ひびきのの学生同士、また、学生と講師が協力しながら地域防災のあり方を考える。
さまざまな分野を担当する北九州市役所の職員が講師として参画するため、防災を軸としつつ地方自治体の業務の実際を幅広く知るためにも役立つ。

到達目標

地域防災を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
地域防災の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現することができる。
地域防災に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本科目は、教室とメディア授業の組み合わせで行います。

北方、ないし、ひびきのの教室で対面授業を行い、これをTeamsで同時配信します。また、録画をMoodleに掲載します。学生は、教室、Teamsによるライブ配信、録画のいずれかで授業に参加してください。

また、参加が必須となる北九州市防災公開講座(対面形式の予定)が授業に組み込まれています。

教科書 /Textbooks

なし、授業で必要に応じて資料を配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

京都大学防災研究所編(2011): 自然災害と防災の事典、丸善出版
金吉晴(2006): 心的トラウマの理解とケア、第2版、じほう
片田敏孝(2012): 人が死なない防災、集英社新書

地域防災への招待【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス：災害についての考え方（北九大：加藤）
- 2 組織連携のための課題と訓練（北九大：加藤）
- 3 気象と地震（北九州市危機管理室）
- 4 防災と河川：降雨を安全に流すために（北九州市建設局）
- 5 大災害と消防：最前線で戦う消防をとりまく環境と現状（北九州市消防局）
- 6 学校における防災教育：災害時に主体的に行動する力を育む取組み（北九州市教育委員会）
- 7 災害時のこころのケア（北九州市保健福祉局）
- 8 都市防災：建物の耐震性とは何か（北九大：城戸）
- 9 ジェンダーと防災：地域での実践（北九大：二宮）
- 10 産官学連携による消防技術の革新（北九大：上江洲）
- 11 大学生にもできる防災・災害ボランティア活動（北九大：村江）
- 12 北九州市の防災体制と減災への取組み（北九州市危機管理室）
- 13 学生にもできる防災・災害ボランティア活動（北九大：担当教員一同）
- 14-15 北九州市防災公開講座への参加（外部講師）

北九大講師の回は、オンライン（オンデマンド）講義を予定（教室は使わない）

市派遣講師の回は、北方・ひびきの各キャンパスの教室での実施を予定（来学不能な学生にはTeamsでライブ配信）

14-15回は、北九州市主催の大学生向け防災講座の一環として、通常の講義とは別に、土曜日にオンラインライブ配信を予定（5月中を予定）

成績評価の方法 /Assessment Method

活発な授業参加：20%

レポートおよび小テスト（計6～10回）：80%

成績評価の対象としない場合（北方キャンパス所属者のみ）：レポートないし小テストを6回以上未提出・欠席の場合 ※北方生のみ、ひびきの生除く。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に関連する社会的・技術的事項について予習をしておくこと。授業の後は、学んだ内容の活かし方について考察を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

5月の土曜日1回（午後2コマ）について、北九州市が市内の会場で行う防災講座を組み込む。

このため、受講人数制限がある。

防災講座の会場（小倉駅周辺を予定）への往復の交通費や昼食代は、学生の負担となる。

講義時に復習や次回の講義に向けた予習として読むべき資料を提示するので、各自学習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者は、授業終了後も地域防災について各自が取り組めることを続けて欲しい。そのための学習や活動の機会を北九州市役所と連携して継続的に提供する。

キーワード /Keywords

地域防災、危機管理、大学生の役割、実務経験のある教員による授業

SDGsに関連するゴール（3.健康と福祉を、5.ジェンダー平等、6.水とトイレを、13.気候変動対策）

地域防災への招待【昼】

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年(2015年度以降入学生)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
					○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	地域防災に必要な事項をさまざまな視点から学び、地域の持続可能性を高めるための総合的な知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	災害に備えて自ら課題を見だし、改善するための技法を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	いざ災害が起きた際に自分および周囲の人の身を守るべく最大限の努力をする責任感を身につける。
	生涯学習力	●	災害時に必要な情報を日頃から集め、いざという時に必要な情報を選別できる能力を生涯にわたって身につける。
	コミュニケーション力		
		地域防災への招待	
		SSS001F	

授業の概要 /Course Description

本講義では、防災の基礎知識及び自治体の防災体制・対策等を学ぶことを通じ、学生自身の防災リテラシーと地域での活動能力を向上させることを目的とする。
地震や風水害などの代表的な災害のメカニズム、自然災害に対する北九州市の防災体制・対策について、本学および北九州市役所を中心とする専門家が全15回にわたって講義し、防災の基礎、自治体の防災、市民・地域主体の防災の3つの知識を身につける。北方・ひびきのの学生同士、また、学生と講師が協力しながら地域防災のあり方を考える。
さまざまな分野を担当する北九州市役所の職員が講師として参画するため、防災を軸としつつ地方自治体の業務の実際を幅広く知るためにも役立つ。

到達目標
地域防災を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
地域防災の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現することができる。
地域防災に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本科目は、教室とメディア授業の組み合わせで行います。
北方、ないし、ひびきのの教室で対面授業を行い、これをTeamsで同時配信します。また、録画をMoodleに掲載します。学生は、教室、Teamsによるライブ配信、録画のいずれかで授業に参加してください。
また、参加が必須となる北九州市防災公開講座(対面形式の予定)が授業に組み込まれています。

教科書 /Textbooks

なし、授業で必要に応じて資料を配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

京都大学防災研究所編(2011): 自然災害と防災の事典、丸善出版
金吉晴(2006): 心的トラウマの理解とケア、第2版、じほう
片田敏孝(2012): 人が死なない防災、集英社新書

地域防災への招待【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス：災害についての考え方（北九大：加藤）
- 2 組織連携のための課題と訓練（北九大：加藤）
- 3 気象と地震（北九州市危機管理室）
- 4 防災と河川：降雨を安全に流すために（北九州市建設局）
- 5 大災害と消防：最前線で戦う消防をとりまく環境と現状（北九州市消防局）
- 6 学校における防災教育：災害時に主体的に行動する力を育む取組み（北九州市教育委員会）
- 7 災害時のこころのケア（北九州市保健福祉局）
- 8 都市防災：建物の耐震性とは何か（北九大：城戸）
- 9 ジェンダーと防災：地域での実践（北九大：二宮）
- 10 産官学連携による消防技術の革新（北九大：上江洲）
- 11 大学生にもできる防災・災害ボランティア活動（北九大：村江）
- 12 北九州市の防災体制と減災への取組み（北九州市危機管理室）
- 13 学生にもできる防災・災害ボランティア活動（北九大：担当教員一同）
- 14-15 北九州市防災公開講座への参加（外部講師）

北九大講師の回は、オンライン（オンデマンド）講義を予定（教室は使わない）

市派遣講師の回は、北方・ひびきの各キャンパスの教室での実施を予定（来学不能な学生にはTeamsでライブ配信）

14-15回は、北九州市主催の大学生向け防災講座の一環として、通常の講義とは別に、土曜日にオンラインライブ配信を予定（5月中を予定）

成績評価の方法 /Assessment Method

活発な授業参加：20%

レポートおよび小テスト（計6～10回）：80%

成績評価の対象としない場合（北方キャンパス所属者のみ）：レポートないし小テストを6回以上未提出・欠席の場合 ※北方生のみ、ひびきの生除く。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に関連する社会的・技術的事項について予習をしておくこと。授業の後は、学んだ内容の活かし方について考察を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

5月の土曜日1回（午後2コマ）について、北九州市が市内の会場で行う防災講座を組み込む。

このため、受講人数制限がある。

防災講座の会場（小倉駅周辺を予定）への往復の交通費や昼食代は、学生の負担となる。

講義時に復習や次回の講義に向けた予習として読むべき資料を提示するので、各自学習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者は、授業終了後も地域防災について各自が取り組めることを続けて欲しい。そのための学習や活動の機会を北九州市役所と連携して継続的に提供する。

キーワード /Keywords

地域防災、危機管理、大学生の役割、実務経験のある教員による授業

SDGsに関連するゴール（3.健康と福祉を、5.ジェンダー平等、6.水とトイレを、13.気候変動対策）

現代の国際情勢【昼】

担当者名 /Instructor	篠崎 香織 / 国際関係学科, 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科 大平 剛 / 国際関係学科, ロドルフォ デルガド / Rodolfo Delgado / 英米学科 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科, 白石 麻保 / 中国学科 久木 尚志 / 国際関係学科, 柳 学洙 / 国際関係学科 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科, 政所 大輔 / Daisuke MADOKORO / 国際関係学科																																			
履修年次 1年次 /Year	単位 /Credits	2単位	学期 /Semester	1学期	授業形態 /Class Format	講義	クラス /Class	1年																												
対象入学年度 /Year of School Entrance	<table border="1"> <tr> <th>2011</th><th>2012</th><th>2013</th><th>2014</th><th>2015</th><th>2016</th><th>2017</th><th>2018</th><th>2019</th><th>2020</th><th>2021</th><th>2022</th> </tr> <tr> <td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> </table>												2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022			○	○	○	○	○	○				
2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022																									
		○	○	○	○	○	○																													

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際情勢について理解を深める。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代の国際社会における問題を認識した上で、分析を行い、解決方法を考察する。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代の国際情勢に対して、継続的な関心を持ち、学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代の国際情勢
			IRL003F

授業の概要 /Course Description

現代の国際情勢を、政治、経済、社会、文化などから多面的に読み解きます。近年、国際関係および地域研究の分野で注目されている出来事や言説を紹介しながら講義を進めます。

到達目標

- 【知識】現代の国際情勢を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】現代の国際情勢について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自律的行動力】現代の国際情勢に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本講義はメディア授業です。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

使用しません。必要に応じてレジュメと資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

現代の国際情勢【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回(篠崎)オリエンテーション
- 第2回(北)日系アメリカ人の歴史と今日(1)概況と歴史【アメリカ合衆国】【日系人】【エスニシティ】
- 第3回(北)日系アメリカ人の歴史と今日(2)現代のエスニシティ状況への視座【アメリカ合衆国】【日系人】【エスニシティ】
- 第4回(阿部)米中の技術覇権争いと日本経済【貿易摩擦】【DX革命】【知的財産権】
- 第5回(政所)国際連合の活動と日本【集団安全保障】【国連中心主義】【多国間外交】
- 第6回(政所)国内紛争と国連平和活動【「新しい戦争」】【平和維持活動】【平和構築】
- 第7回(久木)2010年代以降のイギリス(1)【政権交代】【国民投票】
- 第8回(久木)2010年代以降のイギリス(2)【EU離脱】
- 第9回(篠崎)世界文化遺産ベナン島ジョージタウンを歩こう【マレーシア】【マラッカ海峡】【華人】【イスラム教】【ヒンドゥー教】
- 第10回(大平)東南・南アジアにおける安全保障と開発【一帯一路】【Quad】【債務の罠】
- 第11回(デルガド) Becoming an International Citizen in Japan: Carlos Ghosn success story and experience. 【International, Citizen, Japan】
(※英語での講義です)
- 第12回(白石)中進国としての中国経済【経済成長】【SNA】【投資】
- 第13回(柳)朝鮮半島の冷戦体制と南北分断【朝鮮戦争】【体制競争】【民族主義】
- 第14回(柳)北朝鮮の核開発と北東アジアの安全保障【冷戦体制】【駐留米軍】【対話と圧力】
- 第15回(下野)台湾の多元化社会【民主化】【中国】【移民】

※都合により変更もあり得ます。変更がある場合は授業で指示します。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 小テスト(各担当者ごとに最低1回は行います。最少9回、最大14回)100%
- 小テストを1度も受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の担当者の指示に従ってください。授業終了後には復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

この授業は、複数の教員が、各自の専門と関心から国際関係や地域の情勢を論じるオムニバス授業です。授業テーマと担当者については初回授業で紹介します。
小テストを実施する際は、授業の最後に行います。授業中は集中して聞き、質問があればその回のうちに出してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では今の国際情勢を様々な角度から取り上げていきます。授業を通じて自分の視野を広げていききっかけにしてください。

キーワード /Keywords

- SDGsとの関連
- 第4回(阿部)9. 産業・技術革命
- 第5回、第6回(政所)16. 平和と公正
- 第7回(久木)3. 健康と福祉を
- 第8回(久木)10. 不平等をなくす
- 第9回(篠崎)11. まちづくり
- 第11回(デルガド)9. Innovation and Infrastructure (産業・技術革命)
- 第12回(白石)17. グローバル・パートナーシップ
- 第15回(下野)5. ジェンダー平等、10. 不平等をなくす、16. 平和と公正

グローバル化する経済【昼】

担当者名 /Instructor 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科, 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科, 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程
松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	国際経済の諸問題を社会・文化と関わらせつつ理解するための基本的な知識を持っている。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際経済の諸問題を発見し、解決策を自立的に提示することができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	国際経済の諸問題に常に関心と興味を持ち、知識を自主的に探求する姿勢が身につけている。	
	コミュニケーション力			
			グローバル化する経済	ECN001F

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題に取り組むことが求められます。

（到達目標）

【知識】グローバル化する経済を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断】グローバル化する経済について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【行動力】グローバル化社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

グローバル化する経済【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン - グローバル化とは何か
- 2回 自由貿易【比較優位】【貿易の利益】【保護貿易】
- 3回 地域貿易協定【自由貿易協定】【関税同盟】【経済連携協定】
- 4回 企業の海外進出と立地(1)【直接投資】
- 5回 企業の海外進出と立地(2)【人件費】【為替レート】
- 6回 海外との取引の描写【経常収支と資本移動の関係について】
- 7回 先進国と途上国間の資本移動【経済成長と資本移動について】
- 8回 グローバル化とファイナンス(1)【金融市場】【外国人投資家】
- 9回 グローバル化とファイナンス(2)【資産運用】【行動ファイナンス】
- 10回 比較文化心理学(1)【文化と認知】
- 11回 比較文化心理学(2)【文化と感情】
- 12回 国際労働移動(1)【日本における外国人労働者の受け入れ】【賃金決定理論の基礎】
- 13回 国際労働移動(2)【移民と所得分配】【移民の移動パターン】【移民の経済的同化】
- 14回 グローバル化の要因とメリット【消費者余剰】
- 15回 グローバル化のデメリット【所得格差】【金融危機の伝染】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験: 100%。
学期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習を行うこと、また授業の理解に有益な読者や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけてほしい。授業で使用するプリントはMoodleにアップするので、きちんと復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDG 8. 働きがい・経済成長

国際社会と日本【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会の動向と日本の関係について総合的な理解力を有している。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際社会に対する批判的省察をもとに、日本が直面する問題の分析を行い、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際社会と日本のあり方に関して課題を自ら発見し、解決していくために学び続けることができる。
	コミュニケーション力		
国際社会と日本 IRL004F			

授業の概要 /Course Description

戦後日本政治史を講じる。

[到達目標]

- 【知識】 国際社会と日本の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】 国際社会と日本の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自律的行動力】 国際社会と日本のあり方に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

この講義はメディア授業です。毎週、決められた時間にMoodleから受講してください。教科書の他、必要な資料をMoodleにアップすることがあります。

教科書 /Textbooks

五百旗頭真編『第3版補訂版 戦後日本外交史』(有斐閣 2014)、定価税込み2,160円を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンスの時、あるいは授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 戦後日本外交の構図
- 3回 占領下日本の外交1【日本国憲法】【占領改革】
- 4回 占領下日本の外交2【サンフランシスコ講和】【日米安保条約】
- 5回 独立国の条件1【自主外交】【二大政党制】
- 6回 独立国の条件2【日米安保条約改定】
- 7回 経済大国外交の原型1【高度経済成長】
- 8回 経済大国外交の原型2【沖縄復帰】
- 9回 自立的協調の模索1【デタント】
- 10回 自立的協調の模索2【石油危機】
- 11回 「国際国家」の使命と苦悩1【日米同盟】
- 12回 「国際国家」の使命と苦悩2【経済摩擦】
- 13回 冷戦後の外交1【軍縮】【湾岸戦争】
- 14回 冷戦後の外交2【テロとの戦い】
- 15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

- レポート 50% テスト 50%
- ・ 5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。
 - ・ レポートと試験のどちらか一方でも、受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までにあらかじめ資料や教科書で授業内容を調べておくこと。授業終了後には、授業ノートと資料や教科書を照合しながら、理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

複数の先生の担当授業です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業前には予め教科書で該当箇所を学習し、終了後は復習を行うこと。

キーワード /Keywords

近現代 国際関係史 東アジア

韓国の社会と文化【昼】

担当者名 /Instructor 金 慶湖 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	韓国の社会と文化を理解するのに必要な知識を修得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	隣国理解に必要とされる総合的な考察をもとに日韓における諸問題を主体的に思考し、判断することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	韓国に対する興味関心を持続させ、隣国理解のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			韓国の社会と文化
			ARE010F

授業の概要 /Course Description

授業では、適宜映像などを用いながら韓国全般、とりわけ韓国の社会と文化における様々な事象や、歴史を含めた日韓関係のあり方を考えるための幅広い教養的学知を習得し、等身大の韓国について理解を深める。これをベースに異文化理解とは何かについて考えてみる。また、つねに日韓比較的な視点を念頭にしながら自国文化についても見つめなおす時間としたい。

並行して事前事後学習の一環として、日韓の歴史についても学習を深める。

(到達目標)

【知識】韓国の社会と文化に関する基本的な知識を習得している。

【思考・判断・表現力】文化の多様性や理解を深め、適切な思考・判断力・表現力を習得している。

【自立的行動力】設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に無し。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業にて提示

韓国の社会と文化【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 韓国のいろは①【韓国の基本的な知識を知る】
- 3 韓国のいろは②【国を象徴するものを中心に】
- 4 韓国の文字・ハングルの仕組みについて
- 5 韓国人の名字と名前①【苗字について】
- 6 韓国人の名字と名前②【名前について】
- 7 現代韓国社会と文化の特徴I (外部講師)
- 8 ドラマで「植民地時代」を追体験する
- 9 韓国(人)にとって日本(人)とは?
- 10 日本(人)にとって韓国(人)とは?
- 11 韓国における日本大衆文化の受容政策
- 12 グローバル化するK-POP
- 13 現代韓国社会と文化の特徴II (外部講師)
- 14 歴代大統領でみる韓国の社会と文化
- 15 韓国の宗教&詩人・尹東柱

* 上記スケジュール及びテーマはあくまで目安であり、受講生のニーズや進行状況などの都合により変更となる場合もある。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の視聴レポート	40%
毎回のコメントカード	30%
その他、小レポートなど	30%

* 7回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日韓関係にかかわる歴史や問題点などについて学習できる資料と映像を適宜、提示し、課題を課す。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

韓国 社会 文化 歴史 異文化理解 日韓関係

ヨーロッパ道徳思想史【昼】

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	ヨーロッパ道徳思想史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	ヨーロッパ道徳思想史について課題を発見し、総合的に分析することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	ヨーロッパ道徳思想史に関する問題を解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			ヨーロッパ道徳思想史
			PHR005 F

授業の概要 /Course Description

倫理学って何でしょうか？倫理学とは、私たちが行為する際の規範や義務、行為の指標となる善悪の指針、あるいは、振る舞いのために身に着けるべき性格などを探究する学問です。みなさんは大切な約束をやぶり罪悪感を覚えたことがあるでしょうか。なぜ約束をやぶることは悪いのか（あるいは、なぜ約束を守るべきなのか）、倫理学はそんな問いに答えようとしています。

倫理学の始まりは、古代ギリシアにあると言われ、その後も西洋を中心に発展してきた学問で、約2500年もの歴史があります。本講義では、その歴史を踏まえた上で、基礎的な倫理学を、いくつかの種類（義務論、功利主義、徳倫理学、メタ倫理学）に分類して紹介します。つづいて、現代社会において私たちが直面している倫理的（道徳的）問題を考察する応用倫理学を紹介します。応用の倫理学は、そのまま「応用倫理学」と呼ばれ、安楽死／尊厳死、中絶、環境破壊、ケアの問題などのより身近な問題を扱います。さまざまな行為の原理を知ってもらい、より善い人生を歩む糧にさせていただくことが、本講義の目的となります。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業となります。みなさんは、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、授業に参加してください。

【到達目標】

《思考・判断・表現力》倫理思想史における課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

特定の教科書はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 柘植尚則編『入門・倫理学の歴史 24人の思想家』, 梓出版社
- ・ 柘植尚則『プレップ倫理学』, 弘文堂
- ・ ○中島義道『悪について』, 岩波新書
- ・ 品川哲彦『倫理学入門-アリストテレスから生殖技術、AIまで』, 中公新書
- ・ 見玉聡『実践・倫理学: 現代の問題を考えるために』, 勁草書房

などなど。

* 授業中にもご紹介します。

ヨーロッパ道徳思想史【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 【基礎】倫理学って何？
- 第3回 【基礎】義務論って何？(カント)
- 第4回 【基礎】功利主義って何？(ベンタム、ミル)
- 第5回 【基礎】徳倫理学って何？(プラトン、アリストテレス、マッキンタイア)
- 第6回 【基礎】メタ倫理学って何？
- 第7回 【確認テスト①】
- 第8回 【応用】討議倫理学って何？(ハーバーマス)
- 第9回 【応用】生命医療倫理学って何？①
- 第10回 【応用】生命医療倫理学って何？②
- 第11回 【応用】環境倫理学って何？(ネス)
- 第12回 【応用】動物倫理学って何？(シンガー、レーガン)
- 第13回 【応用】ケアの倫理って何？(ギリガン、キテイ)
- 第14回 【応用】情報倫理学って何？
- 第15回 【確認テスト②】

* ()の中は、その回に扱う主な思想家です。書いてないところは、その理論全体をおさえることを目標にしています。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 確認テスト① 50%
- ・ 確認テスト② 50%

* いずれかの確認テストを受験しなかった場合は、評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の最後に、その次の回に関連するキーワードをお伝えしますので、それについて辞典・事典やネットで調べてきましょう。このキーワードに関連する問題が、テストでは出題されます。

履修上の注意 /Remarks

初回は、いわゆるイントロダクシヨN(導入)ですが、講義全体の進め方や成績の付け方についても説明するので、必ず試聴してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

僕は、教員ですが、みなさんのリアクシヨNや質問で学ぶことがたくさんあります(今までそうでしたので)。「教え-教えられる」関係ではなくて、「互いに教え合う」関係になりましょう。みなさんの積極的な参加を楽しみにしています！

キーワード /Keywords

哲学、倫理学、社会学

日本史【昼】

担当者名 /Instructor 加藤 絢子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	日本史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	日本史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	日本史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		日本史	HIS110F

授業の概要 /Course Description

【授業内容】一口に「日本史」といっても、時代によってその国家形態・領土・領民は異なる。本授業では日本の国家形成過程と、その統治下でどのような人たちが日本の歴史に関わってきたのかについて、構造的かつ空間的に学ぶ。
【到達目標】歴史学的手法や、日本史研究の重要なトピックを学び、歴史学的視点から日本史をとらえ、教えることができる能力を身に付けることを目標とする。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回の授業でレジュメ・資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：「日本史」とは：歴史学的手法と、隣接学問分野から
- 第2回：稲作文化の伝来と小国家の分立
- 第3回：ヤマト王権による統合
- 第4回：中央集権化と日本の律令制
- 第5回：武家政権と朝廷の併存
- 第6回：中世における多元的支配
- 第7回：「天下統一」から幕藩体制へ：身分・宗教・対外意識
- 第8回：開国と国境画定
- 第9回：明治立憲体制
- 第10回：本国と植民地の関係
- 第11回：敗戦と占領
- 第12回：日本国憲法の制定
- 第13回：境界地域：沖縄と北海道
- 第14回：移動する人々：出稼ぎ・移民・引揚げ・旧植民地出身者
- 第15回：「日本」の歴史を学ぶ意味

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の課題（30％）と期末試験（70％）によって評価する。
6回以上欠席した場合は、評価不能（-）とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で配布する資料や、紹介する参考書などを事前・事後学習として読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史【昼】

担当者名 植松 慎悟 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	東洋史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	東洋史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	東洋史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	東洋史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			東洋史
			HIS120F

授業の概要 /Course Description

近くて遠い国、中国。わが国の歴史とも密接な関係をもつ中国は、国際的な影響力も大きく、この中国について学ぶことは非常に重要であろう。しかしながら、中国について学ぶとき、多くの現代日本人に欠けている視点が歴史的な考察・分析といえる。
本講義では、「最初の中華帝国」秦王朝、「最長の中華帝国」漢王朝の歴史を主な内容として扱う。とくに、各時代に活躍した改革者を講義の中軸に据え、その人物像や時代背景、改革の内容・結果・影響などを中心に論じる。本講義は、専門的な基礎知識を習得したうえで、東洋史に対する理解・関心を深めることを目標としたものである。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。資料が必要な場合は、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義のガイダンス
 - 2回 古代の中国と日本 -日中交流史-
 - 3回 秦(1) -戦国時代から中国統一へ-
 - 4回 秦(2) -始皇帝の統一政策-
 - 5回 前漢前期(1) -項羽と劉邦-
 - 6回 前漢前期(2) -高祖と冒頓単于-
 - 7回 前漢前期(3) -呂后-
 - 8回 前漢中期(1) -武帝-
 - 9回 前漢中期(2) -昭帝-
 - 10回 前漢中期(3) -宣帝-
 - 11回 前漢後期(1) -元帝-
 - 12回 前漢後期(2) -成帝-
 - 13回 前漢後期(3) -哀帝-
 - 14回 新の王莽 -王莽は「篡奪者」か-
 - 15回 まとめ
- 期末試験(場合によってはレポートなどの課題提出に変更する)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・70% 日常の授業への取り組み・・・30%
*なお、欠席・遅刻・私語など授業態度については、成績評価の際に適宜考慮する。
定期試験を受験しなかった場合、評価不能(-)とする。

東洋史 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本講義では、前回までの内容をふまえ、講義を進めていく。毎回、授業の板書やプリントを見直し、しっかりと復習すること。理解が不十分な部分は、初回で紹介した推薦図書などで確認をとっておくこと。(60分)
予習については、東洋史を含めて書籍・報道などで幅広く知識や教養を身に付けること。特に、大学生として恥ずかしくない読書量を確保すること。(60分)

履修上の注意 /Remarks

本講義は、板書を中心に進めるので、集中して受講すること。初回に講義のガイダンスを行うので、出席すること。
講義の進行具合によって授業計画を変更する場合があります、その際は授業中に指示する。
また、講師および他の学生が円滑な授業を進めるうえで、これを阻害する一切の行為を禁止する。違反した学生に対しては厳正に対処する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義のテーマは、中国史を中心とした東洋史の概説です。なじみのない学生には少々難易度の高い授業になりますので、高校レベルの世界史を独自に学習しておくこと、理解が深まるでしょう。

キーワード /Keywords

中国 歴史 政治 社会 文化 皇帝支配

西洋史【昼】

担当者名 曠谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	西洋史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	西洋史について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	西洋史の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	西洋史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			西洋史
			HIS130F

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。地中海や大西洋、インド洋、東・南シナ海といった海域世界の発展と相互の接続を見ることによって、ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、そして近代世界の形成を理解します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ 【ボックス・モンゴリカ】
 - 2回 ヨーロッパ進出以前のアジア海域世界 【港市国家】
 - 3回 イベリア諸国の形成 【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガルの海外進出【エンリケ航海王子】
 - 5回 新世界到達と「世界分割」【トルデシヤス条約】
 - 6回 ポルトガル海洋帝国の形成① 【香辛料】
 - 7回 ポルトガル海洋帝国の形成② 【点と線の支配】
 - 8回 スペインによる植民地帝国の形成① 【ポトシ】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成② 【モナルキア・イスパニカ】
 - 10回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編①【東インド会社】
 - 11回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編②【砂糖革命】
 - 12回 環大西洋世界の展開① 【第二次英仏百年戦争】
 - 13回 環大西洋世界の展開② 【環大西洋革命】
 - 14回 ヨーロッパ勢力とアジアの海 【近代世界システム】
 - 15回 まとめ 【「コロンブスの交換」】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)
試験を受けなかった場合には、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)。
毎回講義プリントを配布し、それに基づいて講義します。講義後も配布プリントとノートを見直し、整理・復習を心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

特にありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

高校時代に世界史が苦手だった方、大歓迎です。

キーワード /Keywords

13世紀世界システム、中世の危機、「海洋帝国」、植民地化、環大西洋世界

人文地理学【昼】

担当者名 /Instructor 美谷 薫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人文地理の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力	●	人文地理について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	人文地理の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	人文地理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			人文地理学
			GE0110F

授業の概要 /Course Description

人文地理学は、地表上のさまざまな人文・社会現象を、特に地域的差異という視点から明らかにしようとする学問分野です。そのような定義からすると、研究の対象が極めて広範なものに及ぶことから、科学というよりは「ものの見方」に近いものであるとも言えるかもしれません。本講義では、人文地理学の諸分野における基礎概念や研究事例を取り上げ、地域を見る「ツール」としての「地理学的なものの見方や考え方」を習得することを目的とします。

教科書 /Textbooks

特に指定しませんが、地図帳（中学・高校で使用したもので構いません）があると理解が深まると思います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介しますが、主なものとして以下の3点を挙げておきます。
上野和彦・椿真智子・中村康子編 2015. 『地理学基礎シリーズ1 地理学概論 [第2版]』朝倉書店.
○浮田典良編 2003. 『最新地理学用語辞典改訂版』原書房.
○中村和郎・手塚 章・石井英也 1991. 『地理学講座4 地域と景観』古今書院.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン：人文地理学の体系と歴史
- 第2回 人文地理学の基礎概念（1）：地域①（地域概念、等質地域と機能地域）
- 第3回 人文地理学の基礎概念（2）：景観
- 第4回 人文地理学の基礎概念（3）：地域②（地域構造、認知地域）
- 第5回 人文地理学の基礎概念（4）：環境
- 第6回 人文地理学の基礎概念（5）：分布と伝播
- 第7回 人間と社会の地理学（1）：人口
- 第8回 人間と社会の地理学（2）：村落
- 第9回 人間と社会の地理学（3）：都市①（都市概念、都市化、都市システム）
- 第10回 人間と社会の地理学（4）：都市②（都市空間構造、都市変化）
- 第11回 産業と経済の地理学（1）：農業
- 第12回 産業と経済の地理学（2）：工業
- 第13回 産業と経済の地理学（3）：商業
- 第14回 産業と経済の地理学（4）：流通
- 第15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中に実施する作業課題：40点、学期中に実施する作業レポート：20点、期末レポート：40点の合計100点満点で評価します。6回以上欠席した場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習が中心ですが，授業時間内に作業課題が終わらなかった場合は，次回授業までに各自で作業を行ってもらうことがあります。

履修上の注意 /Remarks

各回の講義で簡単な統計資料の分析や図表の読み取りなどの作業を行いますので，出席に際しては，色鉛筆（１２色程度），定規，電卓（スマートフォンのアプリで構いません）を用意してください。履修条件はありませんが，全体として作業量の多い講義ですので，その点はあらかじめご承知おきください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学の「地理学」の内容を紹介する際に，よく「高等学校までの地理とは違う」というようなことが言われます。その中身については，講義中に説明をしますが，高等学校で地理系の科目を履修されなかった方も歓迎します。

キーワード /Keywords

土地地理学 【昼】

担当者名 野井 英明 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と自然との関係性を地理学を通して理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地理学の概念の考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	倫理観を自覚し、社会において積極的に行動できる。
	生涯学習力	●	課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			土地地理学
			GE0111F

授業の概要 /Course Description

地理学は、地球表面で起こる自然・人文の様々な現象を「地域的観点」から究明する科学です。そのため、地理学を学習・研究するためには、位置を知るための地図が必須で、地図は「地理学の言語」と言われるほど重要です。この科目では、地図を通じて基礎的な地理学的知見を深めることを目的とします。あわせて、地図や空中写真を利用して地表の環境を読み取る実習を行い、地理学の基礎的研究手法を学びます。

この授業の学位授与方針に基づく主な到達目標は以下の通りです。
人間と自然の関係性を地理学を通して理解する。
地理学的な考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。
課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。

教科書 /Textbooks

教科書はありません。適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○山本博文監修「古地図から読み解く城下町の不思議と謎」実業之日本社, 2017年, 1650円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地理学では何を学ぶか
- 2回 地図の役割と地図の能力 【地理的情報を整理する働き】
- 3回 地図の歴史 【文字を持たない未開の民族も地図は持っていた】
- 4回 地図にはどのような種類があるか 【地図には様々な種類がある】
- 5回 地図は、どのように作られるか 【地図投影・図法と図式】
- 6回 地図記号と景観1 【地図記号が示す景観】
- 7回 地図記号と景観2 【地図を読む楽しみ】
- 8回 山の地形を地形図から描く1 (講義・実習) 【行ったことのない山の形を地図から描くことができる】
- 9回 山の地形を地形図から描く2 (実習)
- 10回 地図を利用して地表を計測する 【山の堆積を地図から測定できる】
- 11回 地形図を利用して景観を読みとる1 (実習) 【海岸砂丘の環境と土地利用。自然景観を読む】
- 12回 地形図を利用して景観を読みとる2 (実習) 【中世の集落の立地。歴史景観を読む】
- 13回 リモートセンシングと空中写真の利用 【直接行けない場所の状態を知る】
- 14回 空中写真を利用して高さを測定する (講義・実習)
- 15回 衛星データを利用して地表の環境を調べる

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...30% 試験...70%
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に、授業内容に関連する新聞記事やインターネット情報を読む、関連するテレビ番組を見るなどするとより理解が深まります。授業後には、ノートを整理し、配付された資料等をよく読んで理解したうえで、それらを将来的に使えるようファイルボックスなどに整理しておきましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【昼】

担当者名 美谷 薫 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	地誌の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地誌について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	地誌の総合的な理解を通して得られた倫理観を自覚しつつ行動できる。
	生涯学習力	●	地誌に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			地誌学
			GE0112F

授業の概要 /Course Description

地理学は大きく系統地理学と地誌学（地域地理学）の2分野に分けられることが多いですが、系統地理学（自然地理学や人文地理学）がさまざまな事象の地域的差異とその要因を探究するものであるのに対して、地誌学は、それらの知識を活用しながら、地域ごとの特性を明らかにしようとする学問分野です。
本講義では、身近な地域の事例としての北九州市や福岡県、また、より広域の地域としての九州・沖縄地方、日本の諸地域を取り上げながら、地域の特徴を明らかにするための地誌学的な手法を習得することを目標とします。

教科書 /Textbooks

特に指定しませんが、地図帳（中学・高校で使用したもので構いません）があると理解が深まると思います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介しますが、主なものとして以下の3点を挙げておきます。
菊池俊夫編 2011. 『世界地誌シリーズ1 日本』朝倉書店.
矢ヶ崎典隆・加賀美雅弘・牛垣雄矢編 2020. 『地理学基礎シリーズ3 地誌学概論 [第2版]』朝倉書店.
山本正三・谷内 達・菅野峰明・田林 明・奥野隆史編 2006. 『日本総論II (人文・社会編)』, 朝倉書店.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN(1): 地域の見方・考え方
- 第2回 インTRODクシヨN(2): 北九州市を説明する
- 第3回 身近な地域の見方(1): 北九州市と福岡県の自然環境
- 第4回 身近な地域の見方(2): 北九州市と福岡県の歴史・文化環境
- 第5回 身近な地域の見方(3): 北九州市と福岡県の社会・経済環境
- 第6回 広域スケールの地誌(1): 九州・沖縄地方①
- 第7回 広域スケールの地誌(2): 九州・沖縄地方②
- 第8回 広域スケールの地誌(3): 中国・四国地方①
- 第9回 広域スケールの地誌(4): 中国・四国地方②
- 第10回 日本の諸地域(1): 近畿地方
- 第11回 日本の諸地域(2): 中部地方
- 第12回 日本の諸地域(3): 関東地方
- 第13回 日本の諸地域(4): 東北地方
- 第14回 日本の諸地域(5): 北海道地方
- 第15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中に実施する作業課題: 40点, 学期中に実施する作業レポート: 20点, 期末レポート: 40点の合計100点満点で評価します。
6回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習が中心ですが、授業時間内に作業課題が終わらなかった場合は、次回授業までに各自で作業を行ってもらうことがあります。

履修上の注意 /Remarks

各回の講義で簡単な統計資料の分析や図表の読み取りなどの作業を行いますので、出席に際しては、色鉛筆（12色程度）、定規、電卓（スマートフォンのアプリで構いません）を用意してください。履修条件はありませんが、全体として作業量の多い講義ですので、その点はあらかじめご承知おきください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「人文地理学」と同様の内容ですが、大学の「地理学」の内容を紹介する際に、よく「高等学校までの地理とは違う」というようなことが言われます。その中身については、講義中に説明をしますが、高等学校で地理系の科目を履修されなかった方も歓迎します。

キーワード /Keywords

メンタル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 寺田 千栄子 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			メンタル・ヘルス I
			PSY001F

授業の概要 /Course Description

本講義はメンタルヘルスについて精神保健学、社会福祉学、心理学の観点から考察し、人間が健康なところで生活していくための対処方法について学んでいきます。そのために、まず、ライフサイクルを通して、メンタルヘルスに関する基礎知識や精神や行動の異変を理解するためのポイントを学習します。次に、セルフケアの重要性を理解し、自身がメンタルヘルスの問題と向き合うために必要な姿勢を獲得することを目的とします。

なお、授業は遠隔（オンデマンド）授業で実施します。そのため、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

(到達目標)

【自律的行動力】自分自身の心の健康に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 メンタルヘルスを学ぶ目的
- 第2回 メンタルヘルスに関する基礎知識(1)【日本における現状と課題】
- 第3回 ライフサイクルとメンタルヘルス(1)【子ども】
- 第4回 ライフサイクルとメンタルヘルス(2)【大人】
- 第5回 精神と行動の異変(1)【精神症状】
- 第6回 精神と行動の異変(1)【精神疾患】
- 第7回 映画から見るメンタルヘルス
- 第8回 大学生とメンタルヘルス(1)【ボディメイクと摂食障害】
- 第9回 大学生とメンタルヘルス(2)【アディクション】
- 第10回 自己分析
- 第11回 セルフケア①【ストレスの仕組み】
- 第12回 セルフケア②【ストレスマネジメント】
- 第13回 セルフケア③【相談の有用性】
- 第14回 セルフケア④【ソーシャルサポート】
- 第15回 まとめ・小テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 50% 日常の授業への取り組み(課題の提出) 50%

- ・ 5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。
- ・ 小テストを受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに、あらかじめメンタルヘルスに関する自身の身の回りの出来事を見つけてください。授業終了後は、授業内で出した課題をMoode上で入力することを求めます。また、授業で身につけた知識を活用し、自身の健康管理に努めてください。

履修上の注意 /Remarks

授業は遠隔(オンデマンド)授業で実施します。そのため、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私たちが抱える悩みの多くには、メンタルヘルスに関する問題が関与しています。メンタルヘルスに関する問題に対して、「自分には関係ない。」、「気持ちの問題だ。」と考える人も少なくありません。しかし、誰も精神や行動の異変は起こりうる問題です。こころも体も健康に生活していくための方法を、一緒に考えていきましょう。

キーワード /Keywords

メンタルヘルス・セルフケア・ストレス・精神保健福祉学

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

(到達目標)

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】自分自身の健康管理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 運動処方
- 7回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 8回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 9回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 10回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 11回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 12回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 13回 ゲートボール実習(1)(スキルやルールの習得)
- 14回 ゲートボール実習(1)(ゲーム)
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み・・・70% レポート・・・30%

欠席4回以上、レポート未提出の場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。
この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

到達目標
【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
【自立的行動力】自分自身の健康管理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

教科書については、特に必要ありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 コミュニケーションワーク(講義)
- 3回 ソフトバレーボール(実技)
- 4回 生活習慣病の予防と対策(講義)
- 5回 生活習慣病の予防と対策(実技)
- 6回 スポーツ実施の心理的効果について(低強度運動)①(実技)
- 7回 スポーツ実施の心理的効果について(低強度運動)②(実技)
- 8回 スポーツ実施の心理的効果について(中高強度運動)①(実技)
- 9回 スポーツ実施の心理的効果について(中高強度運動)②(実技)
- 10回 スポーツ実施の心理的効果について(データ分析)(講義)
- 11回 フェアプレイ、スポーツマンシップとは(講義)
- 12回 球技を楽しもう①(卓球、バドミントン)(実技)
- 13回 球技を楽しもう②(卓球、バドミントン)(実技)
- 14回 自宅でもできるエクササイズ(ストレッチ、自重トレーニング、チューブトレーニング、HIITなど)
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...70% レポート...30%
4回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理論を受けて実技を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実技）によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口のホワイトボードにも記載するので、確認すること。実技の場合は、運動できる服装と体育館シューズを必ず準備して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルスI【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 豊田 直樹 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

そこで、本授業では、自分自身の健康について身体的・精神的・社会的側面から考え（講義）、年齢、性別、障がいの有無にかかわらず、誰でもできる運動を取り入れ（実習）、生涯にわたる健康の自己管理能力や社会で生きる自律的行動力を養うことを目指していく。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 (講義) 運動と身体の健康
- 3回 (実習) 仲間づくりを意図したウォーミングアップ
- 4回 (実習) 運動強度測定
- 5回 (講義) 運動の効果(精神的側面)
- 6回 (実習) ウエイトトレーニングのやり方
- 7回 (実習) 体脂肪を減らすトレーニング
- 8回 (講義) 運動の効果(身体的側面)
- 9回 (実習) 生涯スポーツ①(バドミントン)
- 10回 (実習) 生涯スポーツ②(アルティメット)
- 11回 (実習) 生涯スポーツ③(卓球)
- 12回 (講義) 身体活動と生活習慣病
- 13回 (講義) 運動の効果(社会的側面)
- 14回 これからのスポーツ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。*実技を伴う科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。運動前、運動後には自宅で体ほぐし運動（ストレッチや体操）を実施し、怪我防止に努めること（ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する）。

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

運動ができる（得意）、できない（不得意）などは一切関係ありません。楽しく気軽に受講できると思います。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・ヘルスI【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

そこで、本授業では、自分自身の健康について身体的・精神的・社会的側面から考え（講義）、年齢、性別、障がいの有無にかかわらず、誰でもできる運動を取り入れ（実習）、生涯にわたる健康の自己管理能力や社会で生きる自律的行動力を養うことを目指していく。

<到達目標>

- 【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 (講義) 運動と身体の健康
- 3回 (実習) 仲間づくりを意図したウォーミングアップ
- 4回 (実習) 運動強度測定
- 5回 (講義) 運動の効果(精神的側面)
- 6回 (実習) ウェイトトレーニングのやり方
- 7回 (実習) 体脂肪を減らすトレーニング
- 8回 (講義) 運動の効果(身体的側面)
- 9回 (実習) レクリエーションスポーツ①(車椅子ソフトボール)
- 10回 (実習) レクリエーションスポーツ②(ベタンク)
- 11回 (実習) レクリエーションスポーツ③(キンボール)
- 12回 (実習) レクリエーションスポーツ④(アルティメット)
- 13回 (講義) 運動の効果(社会的側面)
- 14回 これからのスポーツ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%
4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。*実技を伴う科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。運動前、運動後には自宅で体ほぐし運動（ストレッチや体操）を実施し、怪我防止に努めること（ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する）。

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）

実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

運動ができる（得意）、できない（不得意）などは一切関係ありません。楽しく気軽に受講できると思います。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

(到達目標)

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】自分自身の健康管理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 運動処方
- 7回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 8回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 9回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 10回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 11回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 12回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 13回 ゲートボール実習(1)(スキルやルールの習得)
- 14回 ゲートボール実習(1)(ゲーム)
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み・・・70% レポート・・・30%

欠席4回以上、レポート未提出の場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルスI【昼】

担当者名 /Instructor 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	健康の価値を認識し、自分自身の健康管理能力を獲得する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	運動・栄養・休養の調和のとれた生活習慣についての知識を獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動などを通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・ヘルスI	HSS001F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

到達目標

- 【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
- 【自立的行動力】自分自身の健康管理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

教科書については、特に必要ありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 コミュニケーションワーク(講義)
- 3回 ソフトバレーボール(実技)
- 4回 生活習慣病の予防と対策(講義)
- 5回 生活習慣病の予防と対策(実技)
- 6回 スポーツ実施の心理的効果について(低強度運動)①(実技)
- 7回 スポーツ実施の心理的効果について(低強度運動)②(実技)
- 8回 スポーツ実施の心理的効果について(中高強度運動)①(実技)
- 9回 スポーツ実施の心理的効果について(中高強度運動)②(実技)
- 10回 スポーツ実施の心理的効果について(データ分析)(講義)
- 11回 フェアプレイ、スポーツマンシップとは(講義)
- 12回 球技を楽しもう①(卓球、バドミントン)(実技)
- 13回 球技を楽しもう②(卓球、バドミントン)(実技)
- 14回 自宅でもできるエクササイズ(ストレッチ、自重トレーニング、チューブトレーニング、HIITなど)
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%
4回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理論を受けて実技を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実技）によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口のホワイトボードにも記載するので、確認すること。実技の場合は、運動できる服装と体育館シューズを必ず準備して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自己管理論 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター, 村江 史年 / Fumitoshi MURAE / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康保持増進を行う。
	社会的責任・倫理観	●	人間の総合的理解を通して得られた責任感、倫理観を自覚し、その深い理解をもって社会で積極的に行動する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
		自己管理論	HSS003F

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、生活に必要な考え方と自己管理に関する正しい知識を身に付けることである。様々な情報が氾濫し、次々と新たな問題が発生する現代社会においては、自分自身の意思で物事を決定しつつ、健康的で自律した生活を送ることは容易ではない。このため、様々な角度からの正しい知識を得て、自分だけでなく周囲の人たちも含めて安全で安心に暮らすための意識を高めることが大切である。本授業では、様々な分野の専門家に講義を展開してもらい、以下の習得をめざす。

到達目標

【自律的行動力】自分自身の生活に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する力を身につけている。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業です。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション（基盤教育セ・日高）
- 2回 社会人のマナー（地域連携・木村）
- 3回 身体の健康（保健室看護師）
- 4回 心の健康（相談室・臨床心理士）
- 5回 スポーツと健康（基盤教育セ・山本）
- 6回 災害への備え（基盤教育セ・村江）
- 7回 自転車の交通安全（課題研究）
- 8回 犯罪防止・薬物乱用防止（小倉南警察署・市民文化スポーツ局）
- 9回 消防と救急（消防局予防課・救急課）
- 10回 ブラックバイト（福岡労働局雇用環境）
- 11回 消費者トラブル（消費生活センター）
- 12回 大学生とお金（福岡県金融広報委員会）
- 13回 ハラスメント防止（総務局男女共同参画推進課）
- 14回 市民生活の基本（行政委員会・市民文化スポーツ局・総務課）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業ごとの課題（確認テスト、ミニレポート等）70%
 - ・ 授業への積極的取り組み（質問・ディスカッション等）20%
 - ・ 期末レポート 10%
- 上記の提出が全くない場合は、評価不能（－）です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業開始前までに予め授業テーマについて学習しておくこと。
- ・ 終了後には、授業中に学んだことを振り返り、ミニレポートを締め切りに間に合うように提出すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

様々な分野の専門家に、それぞれのテーマについて講義を展開してもらう。
毎回の授業は一見すると関係性のないテーマのように見えるが、全体を通じて首尾一貫した狙いがある。毎回の授業に積極的に参加し、授業が
目指す考え方を習得して欲しい。

キーワード /Keywords

リスクマネジメント、セルフマネジメント、倫理観、公共性

実務経験のある教員による授業

SDG3 健康と福祉を, SDG5 ジェンダー平等, SDG8 働きがい・経済成長, SDG11 まちづくり, SDG13 気候変動対策

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 実技
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自律的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

< 到達目標 >

- 【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関しての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習・スキル獲得テスト②
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト③

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%
4回以上欠席した場合は評価不能 (-) とします。* 実技科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。運動前、運動後には自宅ですぐに運動 (ストレッチや体操) を実施し、怪我防止に努めること (ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する)。

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障がいの有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズI (外種目) 【昼】

担当者名 徳永 政夫 / 北方キャンパス 非常勤講師
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 実技 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズI	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスやサッカー、ソフトボールなどの屋外で実施するスポーツ実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>
 【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
 【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks
 なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)
 なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 テニス(ストロークの基礎練習)
- 3回 テニス(サーブ・スマッシュの基礎練習)
- 4回 テニス(ゲーム①シングルス)
- 5回 テニス(ゲーム②ダブルス・スキル獲得の確認)
- 6回 サッカー(パスの基礎練習)
- 7回 サッカー(シュート・連携)
- 8回 サッカー(戦術・ルール把握・ゲーム①)
- 9回 サッカー(ゲーム②)
- 10回 サッカー(ゲーム③・スキル獲得の確認)
- 11回 ソフトボール(キャッチボール・守備)
- 12回 ソフトボール(バッティング・ルール解説)
- 13回 ソフトボール(ゲーム①)
- 14回 ソフトボール(ゲーム②)
- 15回 ソフトボール(ゲーム③・スキル獲得の確認)

成績評価の方法 /Assessment Method
 平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%
 4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。*実技科目のため4分の3以上の出席が必要

フィジカル・エクササイズI (外種目) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみることに。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。
基本的にはグラウンドで実技を実施しますが、天候によっては体育館にて実施します。その場合は室内用シューズも準備すること。
テニスに関してはグラウンドの状況上「バドミントン」に変更の可能性があります。第1回ガイダンスで説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 倉崎 信子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、身体活動の理論を踏まえ、レクリエーションスポーツ種目を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そしてその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

< 到達目標 >

【コミュニケーション力】 他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自律的行動力】 自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業内で紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (受講上の注意)
- 2回 体幹トレーニング (1)
- 3回 体幹トレーニング (2)
- 4回～7回 バレーボール (ソフトバレーボール)
- 8回～9回 選択種目 (1) 【バドミントン】 【卓球】スキル確認テスト①
- 10回～11回 選択種目 (2) 【バスケットボール】 【トレーニング】スキル確認テスト②
- 12回～13回 選択種目 (3) 【バレーボール】 【バドミントン】スキル確認テスト③
- 14回 女性のためのエクササイズ (1)
- 15回 女性のためのエクササイズ (2)

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

4回以上欠席した場合は評価不能 (ー) とします。 * 実技科目のため4分の3以上の出席が必要

フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

その種目に関する映像視聴などで、ルールの確認やイメージを持つこと。
運動後のクールダウンは時間を設けて行わないので、各自で主要筋のストレッチをして身体ケアをすること。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること。

本講義では、障害者差別解消法に基づき、障がいの有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズI (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 小幡 博基 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、ソフトバレーおよびバレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。*実技科目のため4分の3以上の出席が必要

フィジカル・エクササイズI (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみることに。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

担当者名 /Instructor 八板 昭仁 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 実技
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズ I	HSS081F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。
この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

- <到達目標>
【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 バス練習(1) <アンダーバス>
- 5回 バス練習(2) <オーバーバス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%
4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。*実技科目のため4分の3以上の出席が必要

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみることに。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 八板 昭仁 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バスケットボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 集団行動(走る(ラン)・跳ぶ(ジャンプ)・投げる(スロー))
- 3回 ボールに慣れる(ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習(レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習(2対1)
- 6回 応用練習(3対2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド)
- 10回 スキルアップ(速攻、スクリーンプレイ)
- 11回 ゲーム(1) ゾーンディフェンス(2-3)
- 12回 ゲーム(2) ゾーンディフェンス(2-1-2)
- 13回 ゲーム(3) マンツーマンディフェンス
- 14回 ゲーム(4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。*実技科目のため4分の3以上の出席が必要

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 徳永 政夫 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実技 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
			フィジカル・エクササイズII
			HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自律的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

< 到達目標 >

- 【コミュニケーション力】 他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自律的行動力】 自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習・スキル獲得テスト②
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト③

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%
4回以上欠席した場合は評価不能 (-) とします。 * 実技科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみること。運動前、運動後には自宅でも体ほぐし運動 (ストレッチや体操) を実施し、怪我防止に努めること (ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する) 。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障がいの有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 梨羽 茂 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実技 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自律的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>
【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習・スキル獲得テスト②
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト③

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み...70% スキル獲得テスト...30%
4回以上欠席した場合は評価不能(－)とします。*実技科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみること。運動前、運動後には自宅で体ほぐし運動(ストレッチや体操)を実施し、怪我防止に努めること(ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する)。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障がいの有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズII (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

担当者名 /Instructor 小幡 博基 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、ソフトバレーおよびバレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <ソフトバレーボール>
- 12回 ゲーム(2) <ソフトバレーボール>
- 13回 ゲーム(3) <バレーボール>
- 14回 ゲーム(4) <バレーボール>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。*実技科目のため4分の3以上の出席が必要

フィジカル・エクササイズII (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみることに。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。
男女混合および生涯スポーツを意図したソフトバレーボールと競技性を重視したバレーボールの両種目を実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズII (外種目) 【昼】

担当者名 /Instructor 梨羽 茂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスやサッカー、ソフトボールなどの屋外で実施するスポーツ実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

< 到達目標 >

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 テニス(ストローウクの基礎練習)
- 3回 テニス(サービス・スマッシュの基礎練習)
- 4回 テニス(ゲーム①シングルス)
- 5回 テニス(ゲーム②ダブルス・スキル獲得の確認)
- 6回 サッカー(パスの基礎練習)
- 7回 サッカー(シュート・連携)
- 8回 サッカー(戦術・ルール把握・ゲーム①)
- 9回 サッカー(ゲーム②)
- 10回 サッカー(ゲーム③・スキル獲得の確認)
- 11回 ソフトボール(キャッチボール・守備)
- 12回 ソフトボール(バッティング・ルール解説)
- 13回 ソフトボール(ゲーム①)
- 14回 ソフトボール(ゲーム②)
- 15回 ソフトボール(ゲーム③・スキル獲得の確認)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。* 実技科目のため4分の3以上の出席が必要

フィジカル・エクササイズII (外種目) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみることを。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。
基本的にはグラウンドで実技を実施しますが、天候によっては体育館にて実施します。その場合は室内用シューズも準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

テニス、サッカー、ソフトボール、SDGs 3. 健康と福祉を

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 豊田 直樹 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 実技 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	身体活動の価値を認識し、運動の重要性を理解する。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生涯にわたるスポーツスキルを獲得する。
	コミュニケーション力	●	身体活動を通してコミュニケーション能力を習得する。
		フィジカル・エクササイズII	HSS082F

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自律的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

< 到達目標 >

- 【コミュニケーション力】 他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自律的行動力】 自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関しての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習・スキル獲得テスト②
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト③

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%
4回以上欠席した場合は評価不能 (-) とします。 * 実技科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。運動前、運動後には自宅でも体ほぐし運動 (ストレッチや体操) を実施し、怪我防止に努めること (ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する) 。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・スキル科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

大学生活を爽りあるものにするための授業です。その為に、現在の社会、経済、環境を理解し、未来に向けてどのように変化していくのかを考えていきます。そして、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の2点をねらいとしています。

- ① 社会、経済、環境の現状と未来について学ぶ
- ② 将来のキャリアに向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく

授業はオンデマンド方式で実施します。「働く」ということを第一線で体験、分析されている外部講師からお話を頂きながら、各自感じたことや学んだことをレポート形式でアウトプットしてもらいます。

※この授業はメディア授業(オンデマンド方式)で実施します。Moodle上にコンテンツを提示します。履修方法については第1回目の授業コンテンツで説明をしますので、必ず見てください。

(到達目標)

【コミュニケーション力】社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

【自律的行動力】自分自身のキャリアに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。オンデマンド形式で動画を配信して授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考になさってください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ① 全体ガイダンス
- ② 学びのアップデート
- ③ 日本の「キャリアデザイン」
- ④ 日本が迎える大きな変化
- ⑤ 情報革命
- ⑥ 日本の働き方と組織の課題～ジェンダー～
- ⑦ 中間振り返り
- ⑧ お金と情報
- ⑨ ビジネスと就活
- ⑩ もう一つのキャリアデザイン
- ⑪ 「働き方」の最新事情
- ⑫ 日本の潮流、世界の潮流
- ⑬ 誰もが持つリーダーシップを知る
- ⑭ キャリアデザイン全体を総括する
- ⑮ 全体振り返り

キャリア・デザイン 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60%
授業内のレポート...20%
まとめのレポート...20%
※授業内レポート、まとめレポートを1度も提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。※北方生のみ、ひびきの生除く。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

初回の講義時に詳細のスケジュールを提示しますので、事前に各テーマについて調べてください。また、各回の授業後には、事前に調べたこととの相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、自分自身のキャリア形成に向けて何をすべきかについて考えを深めてください。

履修上の注意 /Remarks

授業への積極的かつ主体的な参加、また自主的な授業前の予習と授業後の振り返りなど、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。外部講師と連携しての授業を予定しています。詳細は第1回の講義で説明しますので、必ず参加してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は学生の皆さん自身のキャリアにかかわるものになりますので、特段正解があるわけではありません。授業の内容を自分なりに咀嚼しながら、授業の内容に加えて読書やWEBサイトを確認するなど、自主的な学習を進めてください。

人材採用・マネジメントの経験を持つ教員が、卒業後に企業等で働く上で必要となる能力や経験等について解説する。

キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動、実務経験のある教員による授業

★関連するSDGsゴール

「4. 質の高い教育を」「8. 働きがい・経済成長」「9. 産業・技術革命」「12. 作る・使う責任」

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

月曜2限の「キャリア・デザイン」では、皆さんの来るべき将来に向けて「いま何をすべきか」ということを考える授業を行います。皆さんの将来は独立して存在しているわけではなく、現在の延長線上にあります。その意味で、大学生としての時間をいかに過ごすのかは、皆さんのキャリアに直接つながってきます。この授業では、大学生として充実した時間を過ごすためのヒントや刺激を受けられるようなコンテンツをたくさん提供したいと思います。

本授業では、ゲストスピーカーによる講演会も数回開催します。各分野で活躍されている人生の先輩方のお話を聞くことで多くを学ぶことができると思います。また様々な資料（映像・新聞記事・映画・webなど）を用い、それらを題材とすることで皆さんの進むべき道ややるべきことなども考えてもらいます。キャリア（人生デザイン）は他人から教えられるものではなく、自分で考えて切り拓いていくものだと思います。授業を通じてそのためのきっかけが提供できればと思います。

（到達目標）

【コミュニケーション力】社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

【自律的行動力】自分自身のキャリアに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する力を身につけている。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜お伝えします。

キャリア・デザイン 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス キャリアデザインとは
- 第2回 キャリアデザインと大学生活
- 第3回 日本の大学生の姿を通じて
- 第4回 大学生生活の落とし穴とその回避のために
- 第5回 来たるべき未来と皆さんのキャリアデザイン
- 第6回 自分を知る
- 第7回 キャリアは「デザイン」できるのか？
- 第8回 留学とキャリアデザイン
- 第9回 これからの働き方
- 第10回 就職とキャリアデザイン
- 第11回 自分の新たな扉を開く
- 第12回 「幸せ」な人生とは？
- 第13回 作品に学ぶキャリアデザイン
- 第14回 先輩からのメッセージ
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

各回の授業で課すレポートにより評価（100%）
レポートとしての体裁を成していない場合は、また内容や分量に著しい不備がある場合は評価不能（-）とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業終了時に次回の授業内容を伝えますので、前もって関連する知識を学習しておいてください。
また、本授業は「答え」のない授業ですので、各回の授業が終わった後には、自分なりの「答え」を探してもらいたいと思います。関連する映像資料や書籍・新聞記事などを紹介しますので、次回の講義までに各自確認し、自習をして授業に臨んでください（自習時間の目安は60分程度）。

履修上の注意 /Remarks

たくさんの問いかけをしますので、自分の頭でしっかりと考える姿勢をもって授業に望んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1年生だけでなく、2年生以上の学生の受講も歓迎します。

キーワード /Keywords

自分で考え、つくるキャリアデザイン

SDGsとの関連について

3. 健康と福祉を 5. ジェンダー平等 8. 働きがい・経済成長

キャリア・デザイン【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分のキャリアを考え、その為にどのような学生生活を送るのかをデザインする。
	社会的責任・倫理観	●	社会人として求められる能力や素養、マナーを理解できる。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	多様性を受容しつつ、他者と豊かなコミュニケーションをとることができる。
		キャリア・デザイン	CAR100F

授業の概要 /Course Description

< 目的 >

本授業の目的は、後述する「経験学習モデル」を体得し、社会が必要としている力を身に付けることです。近年、少子高齢化やグローバル化、IT化、環境やエネルギー、そして地方創生など、今までのビジネスモデルからの脱却およびイノベーションが求められる中、社会が求める人材も大きく変わりつつあります。日本経済団体連合会（2018年11月）の調査によると、「コミュニケーション能力」が16年連続で第1位、「主体性」が10年連続で第2位となり、「チャレンジ精神」が3年連続第3位となりました。コミュニケーション能力は当然として、主体性・チャレンジ精神といった、多様な人々とチームとなり、その中でも自ら新しい課題に挑戦する力が求められる時代となりました。よってこれらの資質を卒業までに身に付ける必要があります。さらに、2018年9月3日、経団連が従来の「就活」「新卒採用」のルールを廃止すると宣言しました。慌てた政府が引き続きルールを提示していますが、それに拘束力はなく、完全に自由化になりました。

では、多様な人々とチームとなり、その中でも自ら新しい課題に挑戦する力を身に付けるにはどうすればいいのか。それは「経験学習モデル」をぐるぐる回し続けることの楽しさを理解し、実践することに尽きます。機会があれば「すぐ試す」→「振り返る」→「体験の言語化」→「仮説を立てる」→「すぐ試す」・・・。具体的には大学生の本分である学びの深堀、つまり、自分が興味を持つことにとことん時間とコストを注ぎ込んで、学びまくればよい。そしてその学びは書籍や論文を読むだけでなく、仮説を立てて、すぐ試して、振り返って、体験の言語化を行い、そこで得た教訓をもとにまた仮説を立てて、すぐ試すといったモデルをぐるぐる回し続けることができれば、いつでも自らのキャリアを創り出すことができるのです。近年、大企業や地方公共団体に入社・入職することがベストではなくなりました。社会人になってからも、キャリアチェンジは日常的に起こり得るのです。だからこそ、「経験学習モデル」を主体的に回す力が必要なのです。

< 進め方 >

- ①一つ前の授業での学びを授業開始までに実践し、振り返っておく。
- ②授業開始前に「大福帳」を入手し、指定された席に着席する（毎回グループはシャッフルされます）。
- ③授業の冒頭に、実践と振り返りを「大福帳」に記述する。
- ④冒頭のグループワークで、先週の課題の実践と振り返りを発表し、共有する。
- ⑤講義
- ⑥授業終了後、大福帳を提出する。
- ⑦次週までに授業での学びを実践しておく。

以上のように、授業での学び実践し、振り返り、メンバーで共有することを繰り返します。授業の内容は第12回「オタクと心理的安全性」以外はすべて教科書「新しいキャリアデザイン」に書かれていますので、該当するページ（数ページです）を授業前に一読しておいてください（第12回のみMoodleに資料をアップしておきます）。

< 目標 >

経験学習モデル「すぐ試す→振り返る→体験の言語化→仮説を立てる」を理解し、実践できるようになること。よって、本授業の成績は「経験学習モデル」を体得できたかが基本となります。それぞれの授業で提示された課題を実践し、そこからの学びをルーブリックと照らし合わせて採点します。

（到達目標）【コミュニケーション力】社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。【自律的行動力】自分自身のキャリアに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する力を身につけている。

キャリア・デザイン 【昼】

教科書 /Textbooks

見館好隆、保科学世ほか『新しいキャリアデザイン』九州大学出版会 (税込1,980円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- キャロル S.ドゥエック『「やればできる!」の研究-能力を開花させるマインドセットの力』草思社
- アンジェラ・ダックワース『やり抜く力 GRIT (グリット)-人生のあらゆる成功を決める「究極の能力」を身につける』ダイヤモンド社
- 金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
- 渡辺三枝子『新版 キャリアの心理学【第2版】-キャリア支援への発達のアプローチ-』ナカニシヤ出版
- 平木典子『改訂版 アサーション・トレーニング-さわやかな(自己表現)のために』金子書房
- 中原淳・長岡健『ダイアログ 対話する組織』ダイヤモンド社
- 香取一昭・大川恒『ワールド・カフェをやろう!』日本経済新聞出版社
- 金井寿宏『リーダーシップ入門』日本経済新聞社
- J.D.クランボルト、A.S.レヴィン『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社
- リンダ グラットン『ワーク・シフト-孤独と貧困から自由になる働き方の未来図』プレジデント社
- リンダ グラットン、アンドリューススコット『LIFE SHIFT (ライフ・シフト)』東洋経済新報社
- ポール・R・ドーアティほか『HUMAN+MACHINE 人間+マシン: AI時代の8つの融合スキル』東洋経済新報社
- ジェームズ・E・コテほか『若者のアイデンティティ形成-学校から仕事へのトランジションを切り抜ける』東信堂
- 日向野幹也『高校生からのリーダーシップ入門』筑摩書房
- 松尾睦『職場が生きる人が育つ「経験学習」入門』ダイヤモンド社
- 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター『体験の言語化』成文堂
- 伊藤羊一『1分で話せ 世界のトップが絶賛した大事なことだけシンプルに伝える技術』SBクリエイティブ
- ジェームズ W.ヤング『アイデアのつくり方』CCCメディアハウス
- エリン・メイヤー『異文化理解力-相手と自分の真意がわかる ビジネスパーソン必須の教養』英治出版
- 安斎勇樹ほか『問いのデザイン: 創造的対話のファシリテーション』学芸出版社
- エイミー・C・エドモンドソン『恐れのない組織-「心理的安全性」が学習・イノベーション・成長をもたらす』英治出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス・アイデンティティ資本
- 2回 経験から学ぶ力
- 3回 マインドセットとグリット
- 4回 コミュニケーション技法①傾聴
- 5回 コミュニケーション技法②アサーション
- 6回 コミュニケーション技法③リーダーシップ
- 7回 ロジカルシンキング
- 8回 問いを立てる力
- 9回 クリエイティブシンキング
- 10回 デジタルトランスフォーメーション
- 11回 新しい企業団体研究
- 12回 オタクと心理的安全性
- 13回 異文化理解力
- 14回 計画された偶発性
- 15回 自らのキャリアをデザインする

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業への取り組み(学びの実践レポート)・・・70%
最終レポート・・・30%
採点対象のレポートを一度も提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- <通常授業> 授業での学びを次の授業までに実践し、言語化しておいてください。
- <最終レポート> 提示する課題をもとに、授業を振り返り、Moodleで提出してください。

履修上の注意 /Remarks

- <基本事項>
- ※月曜日と火曜日の授業の内容は同じです。
- ※本授業は必修ではありませんが、将来のために大学生活をどう営むかを考える、1年生向けの授業です。よって、私もしくはほかの教員の「キャリアデザイン」のいずれかを履修することをお勧めします。
- ※曜日や時限を間違っても履修しても出席にはなりませんので注意してください。
- <履修者調整について>
- ※ソーシャルディスタンスを確保するために、受講人数の制限があります。もし、上限を超える時は1年生を優先とします。ただし、上限を超えなければ2年生以上も受講できます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

就職活動がほぼ自由化され、以前のように3年生の秋から一斉スタートではなくなりました。そのために、1年生からの日々の授業はもちろん、アルバイトやクラブ活動など「毎日の過ごし方・課題への取り組み方」が皆さんの将来に大きく左右するようになりました。また、夏季や春季

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

の長期休暇などを活用したインターンシップや、長期の地域活動・ボランティアなど、大学生だからこそ取り組むことができる「心が震える瞬間」「先入観を吹っ飛ばす機会」が、将来やりたいことを見出すために重要な要素となります。よって、できるだけ早く「大学生活を豊かにする過ごし方」と「自分探しの楽しみ方」を、授業や授業外課題を通して習得できるように設計しました。たくさんの学生の履修をお待ちしております。

キーワード /Keywords

キャリア、キャリア発達、キャリア形成、大学生活、コミュニケーション、社会人マナー、倫理観、クリエイティブシンキング、ロジカルシンキング、問題解決、課題解決
SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命、SDGs 11.まちづくり、SDGs 15.環境保全
実務経験のある教員による授業

プロフェッショナルの仕事I【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	ロールモデルを参考に、自己を省察し、現在何をすべきかに気づき、自らを成長させるために、主体的・積極的に活動する力を身につける。
	社会的責任・倫理観	●	社会で働く上で必要となるマナーはもちろん、企業団体や自己の利益追求のみならず、自らの仕事で社会に何らかの形で貢献すべきことを学ぶ。
	生涯学習力	●	ロールモデルを参考に、将来自らが生き生きと働くことができる仕事や業界への見通しをつかみ、大学生生活をデザインする力を身につける。
	コミュニケーション力		
		プロフェッショナルの仕事 I	CAR210F

授業の概要 /Course Description

<目的> 現場の第一線で活躍している社会人に教壇に立って頂き、仕事のやりがいや辛さ、そして自らが成長した学生時代の物語を語って頂きます。その話を聴くことで、①ビジネスの現状 ②仕事の現実 ③将来のために大学時代に何をすべきかを学びます。

<進め方>

- ① 授業が始まる前に講演者の企業団体および仕事について、各団体のwebサイトの読み込みはもちろん、図書館所蔵の書籍や雑誌、新聞などを予習して、質問を用意しておきます。
- ② 授業開始後、指定する席に着席し、グループで本日、特にどんなことを知りたいのかについて議論し、講演者に発表します。
- ③ 講演が始まります。第1セッションは「コロナ禍の影響を踏まえた、事業内容」。終了後、質疑応答の時間を作ります。以下、第2セッション「どんな仕事で、やりがいは何か?」、第3セッション「学生時代の何が、今に繋がっているか?」と続き、すべて質疑応答の時間を取ります。
- ④ ラストメッセージのあと、得た新しい知識や払拭できた先入観、将来へのヒントを元に、「将来のために今すべきこと」をレポートにまとめます。

<目標> 様々な企業や団体の第一線で働いている社会人の話を聴くことで、自らの将来の姿を描くことです。そして、大学時代においてどんな大学生活を過ごせば良いかを理解します。

(到達目標)【自律的行動力】自分自身の成長に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。パワーポイントは後日頂いて、Moodleにアップしておきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

登壇する企業団体にまつわる記事などが載っている書籍や雑誌、新聞を図書館で探して読んでください。

例：日経ビジネス、週刊東洋経済、週刊ダイヤモンド、日経MJなど。

プロフェッショナルの仕事【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 全体ガイダンス
第2～15回 各企業・団体の第一線で働く社会人の講演

※以下は過去の実績です（敬称略・順不同）。

<2021年度> Men Impossible (オランダのラーメン屋)、SALASUSU、リ・インベンション、井上純子氏(北九州市議会議員)、タカギ、ペンシル、ETIC、サイバーエージェント、日本放送協会、ソニーコンシューマーセールス、アクセンチュア、九州大学出版会、パデコ、スノーピーク
<2020年度> TOTOインフォム、タカギ、日本航空(JAL)、福岡出入国在留管理局、LINE Fukuoka、日本放送協会(NHK)、春日井製菓、杉養蜂園、JR博多シティ、アクセンチュア、田村ビルズ、アイ・ケイ・ケイ、i-plug
<2019年度> サイバーエージェント、RKB毎日放送、テイクアンドグヴ・ニーズ(T&G)、サニーサイドアップ、チームラボキッズ(teamLab)、労働基準監督官(厚生労働省)、カモ井加工紙(mt)、大創産業(ダイソー)、西日本旅客鉄道(JR西日本)、スノーピーク、全日本空輸(ANA)、本田技研工業(HONDA)、ヤッホーブルーイング、サマンサタバサジャパンリミテッド

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業への取り組み(事前課題)・・・35%
毎回の授業での学び(振り返りレポート)・・・35%
最終レポート・・・30%
なお、採点対象の事前課題やレポートを一度も提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

<通常授業> 登壇する企業団体への質問を用意してください。また、Moodleを確認し、授業で用いるレジュメを読んでおいてください。
<最終レポート> 提示する課題をもとに、授業を振り返り、Moodleで提出してください。

履修上の注意 /Remarks

2022年度より、A101の大人数授業からC教室でのグループワーク主体の形式に変更していますのでご注意ください。さらにソーシャルディスタンスを確保するために、受講人数の制限があります。もし、上限を超える時は2年生を優先とします。ただし、上限を超えなければ3年生以上も受講できます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本学の学生は、首都圏の大学生よりも立地的に、企業・団体に働いている社会人と出会う機会が少なくなっています。そんな中、自分の将来への視野を広げたい、将来のために自分を成長させるヒントを得たいと考えている学生のために設計しました。講演者の皆様は大学生活ではなかなか出会うことができない方ばかりです。また、本学の学生を是非採用したいと考える企業団体です。講演者の皆様が本学の学生のために語ってくれた言葉を聞き逃さず、何かを学ぼうという意思を持ってご参加ください。

※人事経験を持ち、全国の企業団体に人脈を持つ教員が、14団体の人事担当者を招致し、その企業紹介や求める力、そして大学時代の過ごし方についてお話しいただくようにコーディネートする。

キーワード /Keywords

働くこと、成長、キャリア、キャリア発達、大学生生活、将来の見通し、キャリアデザイン、キャリアプランニング、企業研究
SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命
実務経験のある教員による授業

プロフェッショナルの仕事II 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	答えのない課題に対し、多様な人々と共同しながら、主体的・積極的に取り組み、アウトプットを示す力を身につける。	
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	アクティブラーニングを通して、自己を省察し、現在何をすべきかに気付き、自らをコントロールする力を身につける。	
	社会的責任・倫理観	●	アクティブラーニングを通して、社会で働く上で必要となるマナーや素養、能力を身につける。	
	生涯学習力			
	コミュニケーション力			
			プロフェッショナルの仕事II	CAR211F

授業の概要 /Course Description

<目的> 企業団体の現場の課題を題材に、グループで課題解決案を策定・発表し、その企業団体から評価をもらうことで「課題解決スキル」、具体的には、課題にグループで挑戦することを通して、セルフマネジメントおよびリーダーシップを発揮し、試行錯誤を繰り返して、新しい成果を生み出す人材になることを目指します。
本授業の位置づけや狙いは以下の2点です。

1) インターンシップの授業バージョン。企業団体との新しい接点
経団連は2021年3月卒業生から「採用選考に関する指針」を策定しないと発表。つまり、採用活動は自由化・通年化しました。だからこそ3年生は、インターンシップを軸に企業と接点を持ち、吟味し、自分に合う企業はどこか、試行錯誤する必要があります。また、2年生も通年採用だからこそ、3年生同様インターンシップを軸に企業と接点を持ち、吟味し、そのために残りの大学生活をどう過ごせばいいのか、試行錯誤するべきでしょう。しかし、授業期間中に長期のインターンシップに行くのは本末転倒。本授業なら、授業を通してインターンシップ同様の体験ができます。

2) 将来必ず必要となる、答えの無い課題に多様な人々と協働しながら挑戦し、成果を出す力
従来のように講義で学ぶだけの授業では、その知識をテストには活用できても、実際の現場で活用することは難しいでしょう。近年のグローバル化した知識基盤社会において、また高度成長時代を終えた現代日本において望まれる力は、多様で複雑な課題に対応しつつ、イノベーションを創出できる力です。答えのある課題ばかりをこなしていた学生よりも、答えのない課題に対し、グループで対話しながら、提案し、フィードバックをもらって修正し、諦めず有意な提案を行おうとする学生を、企業や団体は望んでいます。本授業はその力の修得を目指して設計されています。

- <授業の進め方>
- ①第1回にてガイダンスを実施します。課題提供団体の理解を深めます。
 - ②第2回にて、課題提供団体からの3つの課題を提示します。この間に挑戦する課題を吟味してください。
 - ③第3回までにグループピングと挑戦する課題決定をします。その後第6回まで、課題解決のために役立つスキルについて講義をします。
 - ④第7回にて教員への相談会を実施します。そして期日に企画書を提出して頂きます。
 - ⑤第8回にて、課題提供団体からのフィードバックを解説します。
 - ⑥第9～12回にて、課題解決のために役立つスキルについて講義し、第13回にて教員への相談会を実施します。
 - ⑦第14・15回にて、課題提供団体に、最終プレゼンテーションを行い、フィードバックを頂きます。

<目標> 現場で働く社会人から自らがプランした案に対してフィードバックを頂き、修正し、最終評価を頂くことで、企業団体に実際に働くために必要とされる「答えの無い課題に多様な人々と協働しながら挑戦し、成果を出す力」を身につけます。そして、その経験を糧に、大学時代においてどんな大学生活を過ごせば良いかを理解します。(到達目標)【自律的行動力】自分自身の成長に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

テキストはありませんが、企業団体の資料はその都度配布します。

プロフェッショナルの仕事II 【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページの閲覧および企業団体訪問、統計資料の収集、アンケートの収集、インタビューなどを行い、中間および最終発表の準備をしてください。

また、以下書籍を参考にしてください。

見館好隆、保科学世ほか『新しいキャリアデザイン』九州大学出版会

○ジェームス W.ヤング『アイデアのつくり方』CCCメディアハウス

○嶋浩一郎『嶋浩一郎のアイデアのつくり方』ディスカヴァー・トゥエンティワン

○加藤昌治『考具 - 考えるための道具、持っていますか?』CCCメディアハウス

○加藤昌治『チームで考える「アイデア会議」 考具 応用編』CCCメディアハウス

○大嶋祥誉『マッキンゼー入社1年目問題解決の教科書』SBクリエイティブ

○大嶋祥誉『マンガで読める マッキンゼー流「問題解決」がわかる本』SBクリエイティブ

茂木健一郎『最高の結果を引き出す質問力：その問い方が、脳を変える!』河出書房新社

○上野千鶴子『情報生産者になる』筑摩書房

○安斎勇樹、塩瀬隆之『問いのデザイン：創造的対話のファシリテーション』学芸出版社

○伊藤羊一『1分で話せ 世界のトップが絶賛した大事なことだけシンプルに伝える技術』SBクリエイティブ

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 ガイダンス

第02回 3つの課題提示と解説 ★ゲスト登壇

第03回 課題解決に資する情報提供①ロジカルシンキング

第04回 課題解決に資する情報提供②問いを立てる力

第05回 課題解決に資する情報提供③クリエイティブシンキング

第06回 課題解決に資する情報提供④デジタルトランスフォーメーション

第07回 教員への相談会

第08回 中間発表に対する評価とフィードバック ★ゲスト登壇

第09回 課題解決に資する情報提供⑤課題解決のケーススタディ

第10回 課題解決に資する情報提供⑥課題解決のケーススタディ

第11回 課題解決に資する情報提供⑦課題解決のケーススタディ

第12回 課題解決に資する情報提供⑧プレゼン資料の作り方

第13回 教員への相談会

第14回 最終発表に対する評価とフィードバック ★ゲスト登壇

第15回 最終発表に対する評価とフィードバック ★ゲスト登壇

※参考

<2021年度の企業団体と課題>

■NHK北九州放送局

課題①北九大の学生全員がフォローしなくなる！コンテンツ（ツイッター企画）を考える

課題②コロナ禍でもできる！子ども向けリアルイベント

課題③どう伝える？どう残す？大学生が考える戦争伝承

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業への取り組み（リフレクション）…56%

最終発表に対する評価（企業団体からの評価と相互評価）…30%

最終レポート…14%

なお、採点対象のリフレクションを一度も提出しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページの閲覧および企業団体訪問、統計資料の収集、アンケートの収集、インタビューなどを行い、中間および最終発表の準備をしてください。また、授業終了後は指定するフォームで授業での学びを言語化してください。

履修上の注意 /Remarks

※第3回で挑戦する課題とグループを決めます。

※課題に対する取り組み（授業時間以外でのグループワークやフィールドリサーチ、統計資料収集など）による、最終発表が評価の3割を占めます。企業団体のリアルな課題に対し、企業団体の現役社員（職員）からの生のフィードバックが頂ける企業な経験を積むことができます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

就職活動のスケジュールが変わり、以前のように3年生の秋から一斉スタートではなくなりました。そのために、夏季や春季の長期休暇などを活用したインターンシップが、将来の見通しを見出すために重要なファクターとなります。しかし、インターンシップは必ずしも希望する学生全てが参加できません（受け入れ企業団体が少ないため）。ゆえに、「授業の中」に企業団体の課題に取り組む機会を作り込み、現場の仕事を体感することで、多くの学生が働くことをイメージすることを狙って設計した授業です。企業団体の方から、直接フィードバックをもらえる機会はなかなかありません。本授業での経験を手掛かりに将来の見通しのヒントを得て、そのヒントを今後の大学生活における学業や課外活動への取組に活かすことを切に願っています。

※人事経験を持ち、全国の企業団体に人脈を持つ教員が、3団体の人事担当者と連携し、課題解決型授業を運営。

プロフェッショナルの仕事II 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
キャリア科目

キーワード /Keywords

キャリア、成長、プレゼンテーション、フィールドリサーチ、マーケティング、クリエイティブシンキング、ロジカルシンキング、リーダーシップ

SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命

実務経験のある教員による授業

サービスラーニング入門I【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域の課題に関心を持ち、気づき、考えられるようになる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	地域で活動する上で求められる自己管理能力を身につける。	
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの重要性を理解する。	
	コミュニケーション力			
			サービスラーニング入門I	CAR110F

授業の概要 /Course Description

本講義は、地域貢献活動（ボランティア活動）に参加するための入門科目として、以下の点を目的としています。

- ・ サービス・ラーニングに向けた基本的知識の学習
- ・ サービス・ラーニングに向けた実践的方法論の習得
- ・ 地域活動に参加している学生との交流を通じた地域活動に対する参加意欲の向上
- ・ 地域活動の実践と学び

また、この講義が目指す到達目標は以下のとおりです

- 【知識】 サービス・ラーニングを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【コミュニケーション力】 社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。
- 【自律的行動力】 地域貢献活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

地域貢献活動の経験を自らの学びや成長につなげていくための授業となります。
関心を持たれた方は受講して下さい。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

サービスラーニング入門I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 サービス・ラーニングの考え方
- 第3回 サービス・ラーニングとボランティア
- 第4回 サービス・ラーニングを行う理由
- 第5回 サービス・ラーニングとしての地域貢献活動（事例紹介）
- 第6回 サービス・ラーニングを通じた自己の学びと成長（先輩登壇）
- 第7回 サービス・ラーニングと地域の変化
- 第8回 これからの社会とサービス・ラーニング
- 第9回 日本における社会貢献活動の歴史
- 第10回 経験学習について
- 第11回 サービス・ラーニングの実践に向けて
- 第12回 良い市民としてのサービス・ラーニング
- 第13回 受講生による実践報告（1）
- 第14回 受講生による実践報告（2）
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

「第一回講義時のレポート+実践報告最終レポート」（55%）+「授業内での小テスト+授業への取り組み」（45%）=合計100%評価

第一回講義のレポートを未提出の方は評価不能（-）とします。

また、実際の地域活動に参加されなかった場合も評価不能（-）となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「サービス・ラーニング」を実際に行うにあたっては、事前の学習、綿密な準備、計画を必要とします。

講義内では、その回の内容に関連した復習用の自習課題（関連する映像資料や書籍・新聞記事などのレビュー）を提示しますので、次回の講義までに各自行ってきてください（自習時間の目安は60分程度）。

受け入れ先についての下調べや打ち合わせのための準備もそうした作業に含まれます。また「サービス・ラーニング」後についても、その活動内容の記録、報告書の作成、および、自らの振り返りなどが必要になります。

履修上の注意 /Remarks

本科目は受講者による「サービス・ラーニング」への参加（ボランティア活動の実施）を前提としています。受講生は、自ら「サービス・ラーニング」（ボランティア）を受け入れてくれる団体を探し、受け入れの交渉を行ない、その後、実際に活動をしてもらいます。このような意味から、本講義では受講者の積極性や自発性を必要とします。そのため、授業の第一回目に、本科目を受講する理由や学びに向けた思いなどを「事前レポート」（1500字程度）として書いてもらい、それを第二回目の授業の際に提出してもらいます。このレポートの提出は単位取得のための必須条件としています。このように本科目では受講生の積極的な参加意欲が必要となりますので、履修の際はご留意下さい。

さらに本講義では、講義時間外の学習・作業も多くあります。受け入れ先の調査や面談のためのアポイント、学習計画書の作成や実習に向くための事前準備などです。こうした課題をこなしつつ、講義と実習の両方に真摯に取り組むことが必要になります。詳細は第一回のガイダンスの際に説明しますので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は全学組織である地域共生教育センターが提供する科目です。この科目をきっかけとして地域活動へ参加していただきたいと思います。また、この講義は第二学期開講の「サービス・ラーニング入門II」と連動していますので、続けて履修されることを望みます。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び

SDGsとの関連について

4. 質の高い教育を 10. 不平等をなくす 16. 平和と公正 17. パートナーシップ

サービスラーニング入門II【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域の課題に気づき、考え、解決に向けて行動が起こせるようになる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	生涯にわたって学び続けることの重要性を理解する。	
	コミュニケーション力	●	他者とともに円滑な活動ができるために必要な、基礎的な力を身につける。	
			サービスラーニング入門II	CAR180F

授業の概要 /Course Description

この授業の目的は、受講生が実際に地域活動に参加し、その実践をふりかえることでより深い学びを得るところにあります。授業では、各学生が自らの参加が参加した「サービスラーニング」の活動内容とそこでの学びを報告し合い、互いの議論を通じて、学習と理解を深めていきます。この授業を通じて多くの学びと気づきを得られることを期待します。

(到達目標)

- 【知識】 サービスラーニングを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【コミュニケーション力】 社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。
- 【自律的行動力】 地域貢献活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

レジメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ガイダンス
- サービス・ラーニング概論①(サービスラーニングの理論枠組み)
- サービス・ラーニング概論②(実践としてのサービスラーニングについて)
- サービス・ラーニングの実践と学び①(受入先の探索)
- サービス・ラーニングの実践と学び②(実践にむけての心構えと準備)
- サービス・ラーニングの実践に向けて①(実習先での学習計画の作成・提出)
- サービス・ラーニングの実践に向けて②(学習計画書の修正・提出)
- 計画発表会①
- 計画発表会②
- 実践報告①
- 実践報告②
- 実践報告③
- 実践報告④
- 受講生による振り返り
- まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

「第一回講義時のレポート+実践報告最終レポート」(55%) + 「授業内での小テスト+授業への取り組み」(45%) = 合計100点評価

第一回講義のレポートを未提出の方は評価不能(-)とします。
また、実際の地域活動に参加されなかった場合も評価不能(-)となります。

サービスラーニング入門II【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「サービス・ラーニング」を実際に行うにあたっては、事前の学習、綿密な準備、計画を必要とします。講義内では、その回の内容に関連した復習用の自習課題（関連する映像資料や書籍・新聞記事などのレビュー）を提示しますので、次回の講義までに各自行ってきてください（自習時間の目安は60分程度）。受け入れ先についての下調べや打ち合わせのための準備もそうした作業に含まれます。また「サービス・ラーニング」後についても、その活動内容の記録、報告書の作成、および、自らの振り返りなどが必要になります。

履修上の注意 /Remarks

本科目は、前期の「サービス・ラーニング入門I」と連動しています。そのため講義内容も「サービス・ラーニング入門I」を履修した学生を対象にしたものとなります。ですので、受講希望者は、原則、1学期の「サービス・ラーニング入門I」を履修してから本科目を登録するようにしてください。「サービス・ラーニング入門I」の単位を取得していない学生の履修を認めないわけではありませんが、上述のように「サービス・ラーニング入門I」の内容を踏まえた講義になりますので、「サービス・ラーニング入門II」から履修しようとする学生に対しては、授業のはじめに別途課題を課します。そして、その課題+「サービス・ラーニング入門IIの課題」の両方を提出して、初めて単位を認めるかたちとします。以上の点を十分に留意し履修登録して下さい。

また本講義は、講義時間外の学習・作業も多くあります。受け入れ先の調査やアポイント、学習計画書の作成、実習に向くための事前準備などです。こうした課題をこなしつつ、講義と実習の両方に真摯に取り組むことを望みます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「サービス・ラーニング入門I」で得られた学びをより深めていくことを目的としています。社会への貢献活動を通じて多くの学びと喜びを得てください。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び、ピアディスカッション

SDGsとの関連について

4. 質の高い教育を 10. 不平等をなくす 16. 平和と公正 17. パートナーシップ

地域の文化と歴史【昼】

担当者名 /Instructor 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年(2016年度以降入学生)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
						○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	北九州・下関地域の文化と歴史を理解し、愛着を持って地域のことを考える力を持つ。
技能	情報活用能力		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	北九州・下関地域の文化と歴史を知ることを通じ、地域の特長・課題を分析・考察できるようにする。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力 コミュニケーション力	●	北九州・下関地域など、自ら関わる地域の文化や歴史に対して継続的に関心を持つ意欲を涵養する。
			地域の文化と歴史
			HIS170F

授業の概要 /Course Description

受講者が学生時代を過ごす北九州・下関地域のあゆみ、及びその過程で生まれた地域における様々な文化に関して基本的な事項を学ぶ。そのことを通じ、自らが関わる地域への関心・愛着を深めるとともに、地域の特長や課題を分析・考察する基礎的な力を得ることを目指す。

授業においては、各トピックに関する北九州・下関地域の第一人者である専門実務家をゲストとしてお招きする回を中心とする。北九州・下関地域出身者のみならず、その他の地域の出身者にとっても、今後の学生生活や就職、社会活動の充実につながる学びを得ることができる内容で構成する。

なお、2022年度において本講義は遠隔(オンデマンド)授業での開講を予定している。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められる。

(到達目標)

【知識】北九州・下関地域の文化と歴史を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】北九州・下関地域の文化と歴史について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】地域の文化と歴史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

地域の文化と歴史【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回： ガイダンス、本授業で対象とする「地域」とは
- 第 2 回： 《歴史》現在の地域
- 第 3 回： 《歴史》古代の地域
- 第 4 回： 《歴史》中世・近世の地域
- 第 5 回： 《歴史》幕末期の地域
- 第 6 回： 《歴史》明治以降の日本の近代化と地域
- 第 7 回： 《歴史》昭和期以降の地域
- 第 8 回： 《文化》北九州市の文化芸術政策の概要
- 第 9 回： 《文化》文芸活動等による地域への政策効果
- 第 10 回： 《文化》地域の漫画文化、ポップカルチャー
- 第 11 回： 《文化》地域の美術、現代アート（北九州市立美術館のコレクション）
- 第 12 回： 《文化》地域の映画文化
- 第 13 回： 《文化》地域の文化財
- 第 14 回： 《文化》地域の文学
- 第 15 回： 《文化》地域の芸術、音楽、演劇

※この授業における「地域」とは、基本的に「北九州・下関地域」を指す。

※ゲスト（各分野の専門実務家）の御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。

※参考： 2021年度のゲストの所属組織例（2022年度も概ね同様の予定だが、変更となる可能性がある）（順不同）

《 北九州市立いのちのたび博物館、北九州市立美術館、北九州市漫画ミュージアム、北九州フィルム・コミッション、北九州芸術劇場、北九州市立文学館、北九州市文化企画課、下関市立歴史博物館、下関市教育委員会文化財保護課 など 》

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み（各回で課す課題への取り組み状況）： 100%

※課題はMoodleで提出することを基本とする。

※正当な理由なく8回以上課題を提出しない場合は、評価不能（-）とする。なお、これはあくまで「評価不能」とする基準であり、7回以下の課題不提出でも単位を取得できない場合はある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：各回授業のテーマに関し、各自、事前に自分自身が知りたい内容を考えて授業に臨むこと。

事後：各回で課す提出課題に取り組むこと。併せて、授業中に興味を持った事項について、各回授業後に各自が文献やインターネット情報等を用いて自主的に調べること。

履修上の注意 /Remarks

授業計画については、ゲストの御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さんが学生時代を過ごす北九州・下関地域の文化や歴史を学ぶことで、皆さんのこれからの学習やキャリア形成、また教養を深める活動にとってプラスとなる知識を得ることができ、さらに、地域に対する関心が増して有意義な学生生活を送ることにつながる授業にしたい。

北九州市・下関市の博物館等の学芸員や文化行政担当者等が、オムニバス形式で各専門分野に関する北九州・下関地域の文化や歴史について解説し、地域への関心や愛着の醸成を図る。

キーワード /Keywords

北九州・下関地域（関門地域）、歴史、文化、文学、芸術

SDGs 4.質の高い教育を、SDGs 11.まちづくり、SDGs 16.平和と公正

実務経験のある教員による授業

地域の社会と経済【昼】

担当者名 李 錦東 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年(2016年度以降入学生)
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
						○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	北九州・下関地域の社会と経済を理解し、愛着を持って地域のことを考える力を持つ。	
技能	情報活用能力			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	北九州・下関地域の社会と経済を知ることを通じ、現在の地域が抱える課題を分析・考察できるようになる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力			
			地域の社会と経済	ECN170F

授業の概要 /Course Description

この授業は、北九州地域の社会的・経済的特性について様々な観点から学び、理解を深めることを通じて、地域の課題を発見し、何をすべきか、自ら考えることを目指しています。

本授業では、各トピックに関して現場での経験や造詣が深い方々をゲストとしてお招きし、皆さんの出身地が北九州であってもその他の地域であっても、学生生活を過ごす北九州地域への理解を深め、また、皆さんのキャリア形成等にとってもためになるお話を聞きます。

(到達目標)

【知識】北九州・下関地域の社会と経済を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】北九州・下関地域の社会と経済について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】地域の社会と経済に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

■要注意!

本講義は遠隔(オンデマンド)授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

地域の社会と経済【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※講義の内容及び順番は、ゲストスピーカーの都合などにより変更しますので、あらかじめご理解ください。

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：北九州の産業と40年周期説
- 第3回：統計からみる北九州の産業
- 第4回：地域の企業①【地元企業関係者等による説明】
- 第5回：地域の企業②【地元企業関係者等による説明】
- 第6回：地域の企業③【地元企業関係者等による説明】
- 第7回：地域の企業④【地元企業関係者等による説明】
- 第8回：地域の企業⑤【地元企業関係者等による説明】
- 第9回：地域の起業環境【NPO等の専門家による説明】
- 第10回：地域のコミュニティ【NPO等の専門家による説明】
- 第11回：地域の取り組み【市役所など行政関係者による説明】
- 第12回：地域の環境ビジネス【関連活動をしている関係者による説明】
- 第13回：地域社会を新しく考えるための思考【NPO等の専門家による説明】
- 第14回：北九州市の人口と未来
- 第15回：まとめー住みたいまち 北九州 -

※地域の企業とは今後日程などの調整が必要です。ご参考までに、2021年度にご登壇していただいた企業(の方)は、次の通りです。①プレミアムホテル門司港総支配人、②極東ファティ㈱代表取締役社長、③ヤフージャパン株式会社 エリアリーダー、④クラウン製パン株式会社総務部、⑤株式会社井筒屋、⑥シャボン玉石けん株式会社社長、などです。

成績評価の方法 /Assessment Method

各回ごとのショートレポート(14回) : 100%

※ ショートレポートのが、授業や講演内容を反映していない・質問などの趣旨とは異なる・内容がチンプンカンプンでよくわからない(理解不能、未提出含む)などと評価された回数が、5回以上だと評価不能になります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

北九州地域の社会や経済に関する情報は常にアップデートされ、メディアでも多く扱われています。平素より地域の現状と変化などについてアンテナを張って、本授業の事前・事後に情報収集に努めましょう。活字新聞、TV、インターネット等も有効に利用してください。また、授業中に興味を持った事項については、皆さんのキャリア形成や知見を広めるなどのために、各自調べて理解を深めていきましょう。

履修上の注意 /Remarks

※※ 授業計画及び内容は、ゲストスピーカーの都合等により、トピックの順番・内容を変更しますので、予めご了承ください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さんの大学時代の4年間を過ごす「北九州」ですが、本科目『(北九州)地域の社会と経済』を受講することで、北九州に対する理解はもちろん、北九州地域への関心や愛着、愛郷心をもてるようになります。また、皆さんの学習やキャリア形成にとってプラスとなる知識や知恵、刺激などを得ることができるよう。ゲストスピーカーは、地域や産業の第一線で活躍活躍している方が多く、彼らの話を聞くことで、皆さんが地域の現状と課題とビジョンを理解し、地域に密着した人材として、地域での活躍ができる切っ掛けやステップを見つけることにつながります。私は、皆さんが大学を卒業した後、4年間過ごしたまちについて、愛着をもって語れる人になってほしいと思っています。

キーワード /Keywords

シビックプライド、地域愛着、グローカル化、地域活性化
SDGs8 . 働きがい・経済成長、SDGs11 . まちづくり

地域のにぎわいづくり【昼】

担当者名 /Instructor 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年(2016年度以降入学生)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
						○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	総合的知識・理解	●	北九州・下関地域におけるにぎわいづくりの可能性や意義を理解し、地域に対する愛着を高める。
技能	情報活用能力		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	北九州・下関地域におけるにぎわいづくりに関する課題を現状に則して把握・分析し、課題解決に向けた方策の検討を行える力を身につける。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
			地域のにぎわいづくり RDE270F

授業の概要 /Course Description

観光やイベントの振興等を通じ北九州・下関地域をにぎわい溢れる地域とするために必要な視点や方策について学ぶ。学生の主体的な学びを重視し、地域のにぎわいづくりに向けた現状と課題を理解し、自らの考えをまとめ、考察すること等を通じ、地域への理解を深め、にぎわいづくりに関する視野を広げることを目指す。

2022年度においては、行政および地域の各種団体等の協力のもと、主にスポーツ・文化芸術関連のイベントや取り組み、観光振興等に着目し、にぎわいづくりの実務に関わっておられるゲストの講話等を通じて、にぎわいづくりの意義や課題、今後求められる視点などについて学んでいく。

(実施方法について)

2022年度において本講義はメディア授業(遠隔授業)での開講を予定している。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められる。

全15回の授業のうち、2ないし3回はリアルタイムのライブ方式(同時双方向型)での実施を予定し、残りの回はオンデマンド方式での実施を予定している。なお、ライブ方式の回においては、リアルタイムでの参加が難しい受講者向けに、授業を収録した動画をオンデマンド方式で配信し課題に取り組むことを可能とする。詳細については第1回授業で説明する。

(到達目標)

【知識】北九州・下関地域におけるにぎわいづくりの可能性や意義を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】北九州・下関地域におけるにぎわいづくりに関して論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】地域のにぎわいづくりに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

地域のにぎわいづくり【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 ガイダンス
- 第 2回 《スポーツ》スポーツとにぎわいづくりの関係性① 【総論】
- 第 3回 《スポーツ》スポーツとにぎわいづくりの関係性② 【事例研究】
 ※第3回はライブ方式(同時双方向型)を予定
- 第 4回 《スポーツ》スポーツとにぎわいづくりの関係性③ 【スタジアム・アリーナ整備】
- 第 5回 《スポーツ》プロスポーツとにぎわいづくり① 【地域社会活性化】
- 第 6回 《スポーツ》プロスポーツとにぎわいづくり② 【地域経済活性化】
- 第 7回 《スポーツ》国際スポーツ大会の開催効果
- 第 8回 《文化芸術》文化芸術とにぎわいづくりの関係性
 ※第8回はライブ方式(同時双方向型)を予定
- 第 9回 《文化芸術》文化財を活かしたにぎわいづくり
- 第10回 《文化芸術》MICEによるにぎわいづくり
- 第11回 《観光等》観光振興によるにぎわいづくり
- 第12回 《観光等》港湾をいかしたにぎわいづくり
- 第13回 《観光等》商業振興によるにぎわいづくり
- 第14回 《観光等》食を活かしたにぎわいづくり
- 第15回 企業の視点からみたにぎわいづくり

※ゲスト(にぎわいづくりの実務家)の御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。
 ※ライブ方式(同時双方向型)の回を上記よりも1回増やして計3回とする可能性がある。第1回授業で説明する。なお、ライブ方式の回においては、リアルタイムでの参加が難しい受講者向けに、授業を収録した動画をオンデマンド方式で配信し課題に取り組むことを可能とする。

※参考：2021年度のゲストの所属組織の例(2022年度においては一部変更を行う)
 《北九州市役所(観光課、クルーズ・交流課、東アジア文化都市推進室、世界体操・新体操選手権推進室)、下関市教育委員会、特定非営利活動法人門司赤煉瓦倶楽部、株式会社ギラヴァンツ北九州、福岡北九州フェニックス株式会社、毎日新聞》

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み(各回で課す課題への取り組み状況)：100%
 ※課題はMoodleで提出することを基本とする。

※正当な理由なく8回以上課題を提出しない場合は、評価不能(-)とする。なお、これはあくまで「評価不能」とする基準であり、7回以下の課題不提出でも単位を取得できない場合はある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：各回授業のテーマに関し、各自、事前に自分自身が知りたい内容を考えて授業に臨むこと。
 事後：各回で課す提出課題に取り組むこと。併せて、授業中に興味を持った事項について、各回授業後に各自が文献やインターネット情報等を用いて自主的に調べること。

履修上の注意 /Remarks

授業計画については、ゲストの御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州を中心とする地域のにぎわいづくりに関し現実に即した視点や取り組み事例等を学ぶことで、学生の皆さんのこれからの多様な学習やキャリア形成にとってプラスとなる知識を得ることが出来る授業をめざす。

民間シンクタンクでまちづくりのコンサルタント実務経験のある教員が、地域活性化の視点からにぎわいづくりの重要性について論じるとともに、北九州市役所や企業・地域団体等でのにぎわいづくり関連事業に取り組んでおられる実務家をゲストとしてお招きし、学生の地域への関心の醸成や理解の深化等を図る。

キーワード /Keywords

観光、イベント、MICE、集客、スポーツをいかしたまちづくり

SDGs 11.まちづくり、SDGs 12.作る・使う責任

実務経験のある教員による授業

北九州市の都市政策 【昼】

担当者名 /Instructor 内田 晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年（2016年度以降入学生）

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
						○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解	●	北九州市の都市政策全般についての知識を習得し、分野ごとの個別政策について理解を深めることで、地域への愛着を高める。	
技能	情報活用能力			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	北九州市の都市政策を知り、地域の政策課題を見極めることで、課題解決に向けた総合的な判断力を身につける。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観	●	北九州市の都市政策を知り、現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高めることで、社会的責任と倫理観を持って行動することができる素養を身につける。	
	生涯学習力			
	コミュニケーション力			
			北九州市の都市政策	PLC270F

授業の概要 /Course Description

北九州市の都市政策について、都市づくり、港湾、産業、保健福祉、環境など分野ごとの政策、及び個別プロジェクトに至るまで包括的に学ぶことで、地域への愛着を深めるとともに、地域の課題を考察するきっかけをつかむことを目指す。

本授業においては、各テーマに関して精通している北九州市役所の担当者等をゲストスピーカーとしてお招きし、北九州市出身者のみならず、市外出身者の双方にとって学びとなるお話をさせていただく。

※2022年度はすべてメディア授業（オンデマンド方式）で実施します。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

（到達目標）

【知識】北九州市の都市政策全般を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】北九州市の都市政策の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】都市政策に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

北九州市の都市政策 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス / 北九州市の都市政策の歴史【五市合併、ルネッサンス構想、「元気発進！北九州」プラン】
- 第2回 北九州市の都市計画【都市計画マスタープラン、立地適正化計画】
- 第3回 北九州市の都市交通政策【環境首都総合交通戦略、モビリティマネジメント】
- 第4回 北九州市の空き家対策、空き家活用【空き家、住宅セーフティネット】
- 第5回 公共施設マネジメント【公共施設管理、公共施設集約化】
- 第6回 市民に親しまれる道づくり【バリアフリー、国家戦略特区を活用した賑わいづくり】
- 第7回 北九州市の港湾政策【響灘コンテナターミナル、北九州空港、インバウンド】
- 第8回 北九州市のコミュニティ施策【まちづくり協議会、自治会、市民センター】
- 第9回 門司区のまちづくり【区政、門司港レトロ、観光】
- 第10回 地元就職【就職支援、UIJターン】
- 第11回 公害克服と環境協力・環境学習【公害克服、環境国際協力、環境ビジネス、ESD、環境首都検定】
- 第12回 環境保全の幅広い取組み【公害防止法令、環境監視、PCB処理、リスクマネジメント、生物多様性】
- 第13回 ごみの適正処理と資源循環【ごみ分別と有料化、資源循環、北九州工コタウン事業、環境未来助成】
- 第14回 地球温暖化と環境エネルギー対策【地球環境問題、京都議定書、再生可能エネルギー】
- 第15回 まとめ / 期末レポートの説明

※ゲストスピーカーは主に行政施策を担当している北九州市役所の担当部局職員の方を想定しています。なお、ゲストスピーカーの御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・20% 毎回の授業レポート・・・30% 期末レポート・・・50%

- ・ 欠席（毎回レポートの不提出を欠席とみなします）が5回以上の場合は、評価不能（-）とします。
- ・ 期末レポートを提出しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の資料を事前にMoodleにUPするので予習をすること。（必要な学習時間の目安は60分）
 授業内容の復習を行うこと。（必要な学習時間の目安は60分）

講義で習得する都市政策に関する知見や情報は、皆さんが普段から居住、通学している市街地に常に存在しています。普段から都市政策やまちづくりの事を意識しながら、まちを観察してみてください。講義中に興味を持った事は、事後に各自調べて理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

毎回授業に出席することが大前提です。出席せずにレポートだけ提出しても評価できません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州市のこれまでの都市づくり、これからの都市づくりを理解する上で、大変参考となる話を聞くことができます。本講義を受けることで、北九州市への愛着が増し、将来的に北九州市に定住する意向を強めてくれることを期待します。

北九州市の都市政策に従事する市職員が、各担当の施策について解説する。

キーワード /Keywords

実務経験のある教員による授業

まなびと企業研究I【昼】

担当者名 /Instructor 小林 敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 2年(2016年度以降入学生)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
						○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	北九州・下関地域の企業特性や現況を認識し、地域企業の動向を総合的に理解する。
技能	情報活用能力		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域企業の課題を認識し、論理的に考察・分析を行い、課題解決を図る基礎力を習得する。
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	仕事や人生で実現したいことを自己認識し、目的意識をもって主体的に行動する力を身に付ける。
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
			まなびと企業研究 I
			CAR270F

授業の概要 /Course Description

北九州・下関地域の企業、団体について現状、課題、展望を認識し、考察することで理解を深めることがねらいです。特に本講義では、地域づくり、まちづくり、都市づくり、地域貢献といった分野についての事業や取り組みに焦点を当てます。本講義で取り上げる業界、分野の視点としては、「経済・産業」、「福祉」、「交通」、「都市計画」、「地域経済」、「まちづくり」、「文化・芸術」、「金融」などを取り上げます。身近な地域企業や地域人材について学ぶことを通じ、働くことの価値、キャリア、幅広い視点から社会動向や自らの将来のビジョンを考える契機になることを期待します。なお、この科目は「主に北九州市や下関市の企業団体を視野に入れた就職活動のプランニング」を目的とした「まなびと企業研究II」(3年次)の準備講座としての役割も果たしています。

(到達目標)

- 【知識】北九州・下関地域における企業の動向を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】北九州・下関地域における企業の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自律的行動力】地域企業に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・北九州市立大学地域戦略研究所・キャリアセンター(2019)「学生による学生のための北九州・下関地域 業界MAP」
<https://manabitopia.jp/pdf/businessmap.pdf> から入手可
- 大室悦賀(2016)「サステイナブル・カンパニー入門: ビジネスと社会的課題をつなぐ企業・地域」学芸出版社
- 饗庭伸ほか(2016)「まちづくりの仕事ガイドブック: まちの未来をつくる63の働き方」学芸出版社
- 日本都市計画学会関西支部(2011)「いま、都市をつくる仕事: 未来を拓くもうひとつの関わり方」学芸出版社
- 山崎亮(2015)「ふるさとを元気にする仕事」筑摩書房
- 山崎亮ほか(2014)「ハードワーク! グッドライフ! 新しい働き方に挑戦するための6つの対話」学芸出版社
- ・北九州・下関まなびとびあホームページ (<https://manabitopia.jp/>)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2~15回 企業・団体等によるプレゼンテーション、質疑、議論(グループワーク)、レポート記述
- 第15回 まとめ

まなびと企業研究I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

各回の講義で出題されるレポート(全14回)・・・90%
質疑応答、議論・・・10%
レポートを7回以上提出しない場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の講義前に、その企業、団体についてホームページ等で調べ、全体像を把握しておく。
毎回の講義後に、その企業、団体についてさらに調べてみる。また、関連する企業や団体についても調べてみる。さらに、講義内で知った取り組み、事業内容を各自が担当してさらに展開すると想定した場合、こういった展開の可能性、方向性があるか検討してみる。

履修上の注意 /Remarks

講義時の途中入室、途中退室は原則禁止とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一般的な企業説明会ではなかなか聞くことができない、業界や企業、団体の地域創生、地域(社会)貢献、まちづくりなどについての事業や取り組みについて重点的に学ぶことができる貴重な機会です。

キーワード /Keywords

企業研究、就職、まちづくり、都市づくり、地域創生、地方創生、地域貢献、社会貢献、CSR、SDGs、地域づくり、地域活性化、関門地域、地域志向

SDGs : Goal11(住み続けられるまちづくりを)

まなびと企業研究II 【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年(2016年度以降入学生)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
						○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標		
知識・理解	総合的知識・理解	●	北九州・下関地域の企業実習を通して企業特性や現況を実践的に捉え、地域企業(現場)の動向を総合的に理解する。	
技能	情報活用能力			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地域企業の事象から問題を見抜き、課題を発見し、論理的に考察・分析を行い、解決策を表現することができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	仕事や人生で実現したいことに目的意識をもち、主体的に行動することで、成果に結びつく力を身に付ける。	
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	地域や社会の情勢に関心を抱き、的確に捉え、課題解決のための学びを持続することができる。	
	コミュニケーション力	●	自己の考えを他者に分かりやすく説明する意欲を高め、積極的に相互関係を築く力を身に付ける。	
			まなびと企業研究II	CAR370F

授業の概要 /Course Description

<目的> 北九州市や下関市および周辺の企業団体を題材にしながら、代表的なキャリアに関する理論やモデルを学び、大学時代の活動を、今後の就職活動を具体的にプランすることが目的です。

2018年9月3日、経団連が従来の「就活」「新卒採用」のルールを廃止すると宣言しました。慌てた政府が引き続きルールを提示していますが、それに拘束力はなく、完全に自由化になりました。みんなと一緒に合同企業説明会に行って進路を選ぶ時代は終わり、自分で進路を見出し、手繰り寄せる時代にすでに変わりました。

そして新型コロナウイルスの流行により、時代の変化は加速しました。コロナ禍における企業倒産は、資金繰り対策や持続化給付金、雇用調整助成金、特別定額給付金などの緊急政策によって抑制できたものの、対人接触業務が前提である「コロナ対人4業種」(宿泊業、飲食サービス業、生活関連サービス業、娯楽業)においては、コロナ感染拡大時に採られた「接触7~8割削減」政策は「対人3割経済」となり、売上現状は止まらず、債務が膨大しています。なお「コロナ対人4業種」は地産地消型なので、地域内の他業種への影響も大きく、地域内の小売り・卸売りに携わる中小企業への影響も否定できません。その突破口となるのが、感染拡大予防に加え国民の福祉を向上させ、かつ新たな機会を生み出す「攻めと守りを両立」させた、暮らしや社会のデジタル化(DX)です。DXによって適切な情報提供・支援提供により安心して暮らせる生活を維持(守り)しながら、同時にDXによってピンチをチャンスと捉え新しいビジネスを創造(攻め)することが、ニューノーマル時代のビジネスの基本路線と言えるでしょう。同時に企業団体は、DXを提案できる力はもちろん、人間にしかできない質の高いコミュニケーションスキルや、答えのない課題に果敢に挑戦するマインド、そしてAIには思いつかない創造性を持つ大学生が求められ、逆にDXを提案する力を持たず、低いコミュニケーション能力や指示されたことしかできない低いマインド、本やネットに載っていることを真似ることしかできない大学生は、社会のどこからも求められないでしょう。

では今、何をすべきでしょうか。それは、本学が持つ北九州や下関地域の企業団体のネットワークを活用しつつ、様々な企業団体について可能な限りアクセスし、自らのキャリアの方向性を明確に掴むことです。本授業では、履修者一人一人のキャリア支援のために作られました。様々なキャリア形成の理論を用いて「自分を知る」、そして本学のネットワークを駆使して「相手(企業団体)を知る」、さらに夏のインターンシップなどに向けてどうすればいいのか「キャリアプランを創る」ことを目標とします。

<進め方> 形式は問題基盤型学習(Problem-based-Learning)です。

【通常授業】あらかじめ課題を提示しますので、課題から学びと、その学びを就職活動にどう活かすかについて発表してください。

【最終課題】北九州市や下関市などの企業団体の一つを選び、取材し、取材したからこそ理解したことを、最終授業でプレゼンします。

<目標> 自分を知る(自己分析)、相手を知る(企業団体研究)、就職活動のプランを創る。

(到達目標) 【知識】北九州・下関地域における企業の動向を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。【思考・判断・表現力】北九州・下関地域における企業の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。【自律的行動力】地域企業に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。資料を随時配布します。

まなびと企業研究II【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 課題を解く時の参考にしてください。
- 見館好隆、保科学世ほか『新しいキャリアデザイン』九州大学出版会
- 金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
- キャロルS.ドゥエック『「やればできる!」の研究-能力を開花させるマインドセットの力』草思社
- アンジェラ・ダックワース『やり抜く力 GRIT (グリット)-人生のあらゆる成功を決める「究極の能力」を身につける』ダイヤモンド社
- リンダ グラットン『ワーク・シフト-孤独と貧困から自由になる働き方の未来図』プレジデント社
- リンダ グラットン、アンドリュースコット『LIFE SHIFT (ライフ・シフト)』東洋経済新報社
- 松尾睦『「経験学習」入門』ダイヤモンド社
- J.D.克蘭ボルツ・A.S.レヴィン『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社
- ジェームス W.ヤング『アイデアのつくり方』CCCメディアハウス
- 嶋浩一郎『嶋浩一郎のアイデアのつくり方』ディスクヴァー・トウエンティワン
- 大嶋祥誉『マッキンゼー流入社1年目問題解決の教科書』SBクリエイティブ
- 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター『体験の言語化』成文堂
- 茂木健一郎『最高の結果を引き出す質問力：その問い方が、脳を変える!』河出書房新社
- 安斎勇樹、塩瀬隆之『問いのデザイン：創造的対話のファシリテーション』学芸出版社
- 伊藤羊一『1分で話せ 世界のトップが絶賛した大事なことだけシンプルに伝える技術』SBクリエイティブ
- 宇田川元一『他者と働く 「わかりあえなさ」から始める組織論』NewsPicksパブリッシング
- 見館好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス
- 2回 振り返りの仕方
- 3回 マインドセット
- 4回 計画された偶発性
- 5回 企業団体研究事例①DX
- 6回 インターンシップ対策(経験学習)
- 7回 グリット(やり抜く力)
- 8回 企業団体研究事例②グリット
- 9回 問いを立てる力
- 10回 デザイン思考
- 11回 企業団体研究事例③VUCA
- 12回 GD対策(アイデアの作り方)
- 13回 自己分析(アイデンティティ資本)
- 14回 面接対策(インプロビゼーション)
- 15回 最終プレゼンテーション(企業団体研究成果発表会)

成績評価の方法 /Assessment Method

通常授業のプレゼンテーション...39%
最終プレゼンテーション...28%
振り返りレポート...28%
最終レポート...5%
なお、採点対象のプレゼンを行わなかった場合や、レポートを一度も提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【通常授業】あらかじめ課題を提示しますので、課題から学びと、その学びを就職活動にどう活かすかについて発表してください。
【最終課題】フィールドワーク先のアポイントメントを取り、取材し、グループメンバーとの議論を重ねて、発表の準備をしてください。なお、アポイントメントについては教員がフォローアップしますので、安心してください。

履修上の注意 /Remarks

3年生の場合は、就職活動のブラッシュアップとお考え下さい。4年生の場合は、就職活動中であればそのまま活用できる内容です。すでに内定をお持ちの場合は、残る大学時代をどう過ごすかについて考える機会にしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業では、就職活動や進学など将来のキャリアについての悩みを払拭し、見通しを立て、自信をもって就職活動などに挑めるように支援します。奮ってご参加ください。また、結果的に北九州市や下関市以外の企業を志望しても問題ありません。

※人事経験を持ち、北九州市や下関市および近郊の企業団体に人脈を持つ教員が、それらの企業団体への訪問を軸とした問題基盤型学習をコーディネート

キーワード /Keywords

キャリア、成長、アイデンティティ、キャリア発達、キャリア形成、キャリアデザイン、プレゼンテーション、フィールドリサーチ、問題基盤型学習、経験学習
SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命
実務経験のある教員による授業

英語I (律政群 1-G) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 1 - G /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込みます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

successful keys to the TOEIC listening and reading test intro 2nd edition ISBN 978-4-342-55261-8 桐原書店 1980円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Daily Life
- 2回 Places
- 3回 People
- 4回 Travel
- 5回 Business
- 6回 Office
- 7回 Technology
- 8回 Personnel
- 9回 Management
- 10回 Purchasing
- 11回 Finances
- 12回 Media
- 13回 Entertainment
- 14回 Health
- 15回 Restaurants

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...90% 授業への取組...10%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- リーディング教材の下調べをしておく。
- リスニングの問題の音声聞く。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語I (律政群 1-H) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
			英語 I
			ENG101F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC(R) L&R テストの演習を取り込みます。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

当授業では、基礎的な文法学習を基に、TOEIC問題を中心に扱ったテキストを用いて、リーディングとリスニングの基礎力をつけていきます。指定学習範囲の予習・復習は必ず行ってください。翌授業の最初に前回授業の復習として小テストを実施します。毎回の小テストは70点以上を取るようになしてください。当クラスの今学期におけるTOEIC目標スコアは、「400点」です。（このスコアは前年度を参考に出しています）

教科書 /Textbooks

PROGRESSIVE STRATEGY FOR THE TOEIC® L&R TEST

著者 松本 恵美子 他共著 成美堂 ¥2,200 (税込み)

☆授業ではTOEIC問題を扱った下記のテキストを教科書として使用し、文法学習については随時プリントを配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○TOEIC公式問題集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション&基礎文法(品詞・句・節)
- 2回 Unit 1 Listening & 基礎文法(文型 1)
- 3回 Unit 1 Reading & 基礎文法(文型 2)
- 4回 Unit 2 Listening & 基礎文法(動詞 1)
- 5回 Unit 2 Reading & 基礎文法(動詞 2)
- 6回 Unit 3 Listening & 基礎文法(動詞 3)
- 7回 Unit 3 Reading & 基礎文法(時制 1)
- 8回 Unit 4 Listening & 基礎文法(時制 2)
- 9回 Unit 4 Reading & 基礎文法(時制 3)
- 10回 Unit 5 Listening & 基礎文法(関係詞1)
- 11回 Unit 5 Reading & 基礎文法(関係詞2)
- 12回 Unit 6 Listening & 基礎文法(関係詞3)
- 13回 Unit 6 Reading & 基礎文法(比較)
- 14回 Unit 7 Listening & 基礎文法(比較)
- 15回 Unit 7 Reading & 基礎文法(特殊構文)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・50%、平常の学習状況(小テストを含む)・・・50%

※最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回授業で文書を配布して説明します。

※ 期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

※欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合には、原則として単位取得が難しくなります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の復習としての小テストの範囲、及び次回の学習範囲は授業の最後に告知します。その範囲を予習・復習してください。また、TOEICの多くの問題に取り組むことによって英語力も上がり、結果としてスコアも高くなります。常日頃から教科書以外の問題集に取り組むことを勧めます。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画や授業内容は、受講生の理解度を見ながら進めていくため、変更が生じる場合がありますが、基本的に、上記の流れで学習を進めていきます。

キーワード /Keywords

英語I (律政群 1 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor 下條 かおり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 1 - 1 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 I	ENG101F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力(リーディング力)と聴く力(リスニング力)の向上を目指します。また、授業の一部に TOEIC(R) L&R テストの演習を取り込みます。

(到達目標)【技能】英語(読む、書く、聞く、話す)を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

語彙 & 文法の復習テスト・ディクテーションテスト・Part 5 テストを実施します。

教科書 /Textbooks

Emiko MATSUMOTO 他、Progressive Strategy for the TOEIC L&R Test、978-4-7819-7233-3、SEIBIDO、2000円(税別)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TEX加藤、TOEIC L&R TEST 出る単特急金のフレーズ、978-4-02-331568-6、朝日新聞出版、890円(税別)
TEX加藤、TOEIC L&R TEST 出る単特急銀のフレーズ、978-4-02-331684-3、朝日新聞出版、890円(税別)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Sightseeing / Guided Tour
- 3回 Restaurant
- 4回 Hotel / Service
- 5回 Employment
- 6回 Entertainment
- 7回 Shopping / Purchases
- 8回 Sports / Health
- 9回 Doctor's Office / Pharmacy
- 10回 Hobbies / Art
- 11回 Education / School
- 12回 Technology / Office Supplies
- 13回 Transportation
- 14回 Travel / Airport
- 15回 Housing / Construction

英語I (律政群 1 - I) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。
欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合には原則として単位の修得が難しくなります。
試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。
小テスト、予習・復習状況、学習への参加度、自主的な発表などから算出した平常点(20%)と筆記試験(80%)にTOEIC® L&Rのスコアを加味して総合的に評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：わからないことを授業中に質問できるように準備しておきましょう。ディクテーションテスト・Part 5テストを実施します。
事後学習：学習した語彙と文法を復習しましょう。語彙&文法の復習テストを実施します。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。
欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合には原則として単位の修得が難しくなります。
試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。
第1回の授業の前に必ず新しい教科書を買ってください。
受講に際しては、テキストと辞書を必ず持参してください。
語彙&文法テストなどの準備が必要なテストに関しては、各自自宅で学習を済ませてテストに臨んでください。
その他詳細は初回講義で説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。
新型コロナウイルスの影響により、リモートクラスに移行することがあります。

キーワード /Keywords

英語II (律政群 1 - H) 【昼】

担当者名 /Instructor 相原 信彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語II	ENG111F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC(R)L&Rテストの演習を取り込みます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

一歩上を目指すTOEIC®LISTENING AND READING TEST: Level 2
北尾泰幸編（朝日出版社、2021）9784255155951
（本体1,700円＋税）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方と予習の仕方について説明。
- 第2回 Part 1 Eating Out
- 第3回 Part 2 Travel
- 第4回 Part 3 Amusement
- 第5回 Part 4 Meetings
- 第6回 Part 5 Personnel
- 第7回 Part 6 Shopping
- 第8回 Part 7 Advertisement
- 第9回 Daily Life
- 第10回 Office Work
- 第11回 Business
- 第12回 Traffic
- 第13回 Finance and Banking
- 第14回 Media
- 第15回 授業のまとめと試験について

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 30%

定期試験 70%

演習という授業の性格上、出席を重視します。最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

英語II (律政群 1-H) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習を重視しますが、やり方については第1回の授業で説明します。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL)を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語II (律政群 1 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー 数量的スキル		
	英語力 その他言語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力 社会的責任・倫理観 生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
			英語 II
			ENG111F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC(R) L&R テストの演習を取り込みます。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

当授業では、基礎的な文法学習を基に、TOEIC問題を中心に扱ったテキストを用いて、リーディングとリスニングの基礎力をつけていきます。指定学習範囲の予習・復習は必ず行ってください。翌授業の最初に前回授業の復習として小テストを実施します。毎回の小テストは70点以上を取るようにしてください。当クラスの今学期におけるTOEIC目標スコアは、「400点」です。（このスコアは前年度を参考に出しています）

教科書 /Textbooks

Tipsで攻略するTOEIC L&Rテスト - Fun and Strategies for TOEIC Listening & Reading Test

著者 Ross Tulloch 他共著 英宝社 ¥2,310(税込み)

☆基礎文法学習として随時プリントを配布する予定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○TOEIC公式問題集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション&基礎文法(品詞・句・節)
- 2回 Chapter 1 Listening & 基礎文法(文型 1)
- 3回 Chapter 1 Reading & 基礎文法(文型 2)
- 4回 Chapter 2 Listening & 基礎文法(動詞 1)
- 5回 Chapter 2 Reading & 基礎文法(動詞 2)
- 6回 Chapter 3 Listening & 基礎文法(動詞 3)
- 7回 Chapter 3 Reading & 基礎文法(時制 1)
- 8回 Chapter 4 Listening & 基礎文法(時制 2)
- 9回 Chapter 4 Reading & 基礎文法(時制 3)
- 10回 Chapter 5 Listening & 基礎文法(関係詞 1)
- 11回 Chapter 5 Reading & 基礎文法(関係詞 2)
- 12回 Chapter 6 Listening & 基礎文法(関係詞 3)
- 13回 Chapter 6 Reading & 基礎文法(比較)
- 14回 Chapter 7 Listening & 基礎文法(比較)
- 15回 Chapter 7 Reading & 基礎文法(特殊構文)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・50%、平常の学習状況(小テストを含む)・・・50%

※最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回授業で文書を配布して説明します。

※ 期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

※欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合には、原則として単位取得が難しくなります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の復習としての小テストの範囲、及び次回の学習範囲は授業の最後に告知します。その範囲を予習・復習してください。また、TOEICの多くの問題に取り組むことによって英語力も上がり、結果としてスコアも高くなります。常日頃から教科書に加えてTOEIC関連の問題集にも取り組んで下さい。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画や授業内容は、受講生の理解度を見ながら進めていくため、変更が生じる場合がありますが、基本的に、上記の流れで学習を進めていきます。

キーワード /Keywords

英語Ⅲ (律政群 1 - H) 【昼】

担当者名 /Instructor マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー 数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
			英語Ⅲ
			ENG102F

授業の概要 /Course Description

Students will explore topics related to contemporary social issues through a variety of listening, reading, writing and speaking activities. Students will be expected to present their thoughts and opinions on a wide variety of topics at an intermediate level of English.

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

World English 2A (3rd ed.), Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase, Cengage Learning, ISBN: 978-0-357-13031-5

¥3,025

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus Review & Introductions
- 2回 Topic 1: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 3回 Topic 1: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 4回 Topic 1: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 5回 Topic 2: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 6回 Topic 2: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 7回 Topic 2: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 8回 Topic 3: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 9回 Topic 3: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 10回 Topic 3: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 11回 Topic 4: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 12回 Topic 4: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 13回 Topic 4: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 14回 Final Test Preparation/Project Presentation
- 15回 Final Test Preparation/ Project Presentation

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks and Participation 30%, Homework 30%, Quizzes and Presentations 20%, Final Exam 20%

Student's not attending the final exam will receive a (-) grade.

英語III (律政群 1 - H) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to complete weekly homework assignments to build writing skills and prepare for topic related idea sharing activities. Weekly preparation and review should take approximately 30 minutes.

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This is an active learning environment and requires active participation and sharing in an all English setting. Enthusiasm and a willingness to speak out and contribute to a positive classroom environment is expected.

キーワード /Keywords

英語Ⅲ (律政群 1 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor ジェイムズ・ヒックス / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 律政群 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅲ	ENG102F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

Students will explore topics related to contemporary social issues through a variety of writing and speaking activities. Students will be expected to present their thoughts and opinions on a wide variety of topics at a low-intermediate level of English. All students will complete assignments to improve vocabulary skills. Students will also improve their listening, discussion, and critical thinking skills.

教科書 /Textbooks

Pathways 1A: Listening, Speaking, and Critical Thinking, (2nd ed.), Chase, National Geographic Learning, ISBN-13: 978-1-337-56255-3 ¥3,091 [税込]

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus and Orientation
- 2回 Topic 1 – Explore, Listening & Discussion
- 3回 Topic 1 – Video, Listening & Critical Thinking
- 4回 Topic 2 – Explore, Listening & Discussion
- 5回 Topic 2 – Video, Listening & Critical Thinking
- 6回 Topic 2 – Expansion
- 7回 Topic 2 Presentation Preparation
- 8回 Topic 2 Presentation
- 9回 Topic 3 – Explore, Listening & Discussion
- 10回 Topic 3 – Video, Listening & Critical Thinking
- 11回 Topic 4 – Explore, Listening & Discussion
- 12回 Topic 4 – Video, Listening & Critical Thinking
- 13回 Topic 5 – Explore, Listening & Discussion
- 14回 Topic 5 – Video, Listening & Critical Thinking
- 15回 Topic 5 Presentation Preparation

英語III (律政群 1 - 1) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks 25%, Participation 20%, Homework 15%, Presentations 20%, Final Test 20%

試験を受験しなかった場合は、評価不能 (ー) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will complete assignments to build vocabulary. Some research will be required both inside and outside of class. Students will make two presentations in class either as an individual or in groups. Regular review of all class materials is highly encouraged in preparation for the final exam. Weekly preparation and review should take from 20 to 25 minutes.

履修上の注意 /Remarks

none

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語 IV (律政群 1 - H) 【昼】

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - H

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語IV	ENG112F

授業の概要 /Course Description

Communicative EnglishIII・ IV (共通)

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course will focus on improving the students' communication skills in English by focusing on speaking and listening skills, improving grammar and building vocabulary. Pair work and group discussions will be used extensively and homework will be required to reinforce the lesson each week.

教科書 /Textbooks

Four Corners 2B (ISBN - 9781108627726)

Cambridge University Press

About ¥2,420

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Orientation
Introductions, Class Rules, Textbook, Homework, Grades
2. "Shopping"
Describing and comparing products. Using comparative adjectives, enough and too. / Opposites, adjectives to describe clothing. /
3. Unit listening and reading practice.
4. "Fun in the City."
Learning to talk about what you can do in a city. / Using "should" and adjectives to describe. / Asking for and giving recommendations.
5. Unit listening and reading practice.
6. "People"
Learning to ask about and talk about people from the past. / Personality adjectives, certainty and uncertainty. / Talking about people you admire.
7. Unit listening and reading practice.
8. Mid-Term Revision
9. "In a Restaurant"
Learning to talk about menus and eating out. / Using present perfect to talk about experiences. / Menu items, ordering food, checking information.
10. Unit listening and reading practice.
11. Entertainment"
Learning to talk about movie habits and opinions. / Using so, too, either, neither. / Giving and making suggestions, types of music and movies.
12. Unit listening and reading practice.
13. "Time for a Change"
Learning to talk about reasons for personal changes. / Using infinitives of purpose, will, may, might. / Reacting to good or bad news.
14. Unit listening and reading practice.
15. Final revision for testing.

成績評価の方法 /Assessment Method

- 33.33% - Final Test
- 33.33% - Homework
- 33.33% - Active participation in class.

試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Homework will be given every week to reinforce what was studied in class. Preparation for future lessons will not be necessary.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Please relax and enjoy the class. Don't worry about making mistakes, just do your best to communicate!

キーワード /Keywords

Listening, Speaking, Vocabulary Building, Grammar Expansion

英語Ⅳ (律政群 1 - 1) 【昼】

担当者名 /Instructor マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 1 - 1

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー 数量的スキル		
	英語力 その他言語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力 社会的責任・倫理観 生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語Ⅳ	ENG112F

授業の概要 /Course Description

Students will explore topics related to contemporary social issues through a variety of listening, reading, writing and speaking activities. Students will be expected to present their thoughts and opinions on a wide variety of topics at an intermediate level of English.

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

World English 2B (3rd ed.), Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase, Cengage Learning, ISBN: 978-0-357-13032-2

¥3,025

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Syllabus Review & Introductions
- 2回 Topic 1: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 3回 Topic 1: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 4回 Topic 1: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 5回 Topic 2: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 6回 Topic 2: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 7回 Topic 2: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 8回 Topic 3: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 9回 Topic 3: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 10回 Topic 3: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 11回 Topic 4: Vocabulary Building, Grammar Review, Role-play and Pair Speaking Practice
- 12回 Topic 4: Listening Practice / Reading & Critical Thinking / Small Group Idea Sharing
- 13回 Topic 4: Expansion Activity / Small or Large Group Presentation
- 14回 Final Test Preparation/Project Presentation
- 15回 Final Test Preparation/ Project Presentation

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks and Participation 30%, Homework 30%, Quizzes and Presentations 20%, Final Exam 20%

Student's not attending the final exam will receive a (-) grade.

英語IV (律政群 1 - I) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to complete weekly homework assignments to build writing skills and prepare for topic related idea sharing activities. Weekly preparation and review should take approximately 30 minutes.

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

This is an active learning environment and requires active participation and sharing in an all-English setting. Enthusiasm and a willingness to speak out and contribute to a positive classroom environment is expected.

キーワード /Keywords

英語V (律政群 2 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 2 - E /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主に TOEIC (R) L&R）の実践的なトレーニングを中心に、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業ではTOEIC 形式に準拠したテキストなどを用いて、リスニングとリーディングの英語力向上を目指します。各種練習問題を通してTOEIC問題形式に慣れるとともに、英語力を高めながらTOEICに対応する力をつけていきます。

教科書 /Textbooks

“Level-up Trainer for the TOEIC Test, Revised Edition”
（著者）Ayako Yokogawa, Tony Cook（セングージ・ラーニング）（¥2,310 [税込]）
ISBN: 978-4-86312-294-9

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『TOEIC®テスト新公式問題集』

英語V (律政群 2-E) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Orientation (授業の進め方やTOEICスコアの反映方法について説明)
- 2回 Pre-test の実施。
- 3回 Unit 1 テキスト形式を知る
- 4回 Unit 2 基本戦略①
- 5回 Unit 3 基本戦略②
- 6回 Unit 4 英文の基本構造を見抜く
- 7回 Unit 5 解答根拠の登場順
- 8回 Unit 6 正解の言い換えパターンを知る
- 9回 Unit 7 機能疑問文を聞き取る
- 10回 Unit 8 動詞の時制を見極める
- 11回 Unit 9 接続詞 vs. 前置詞
- 12回 Unit 10 複数パッセージの攻略
- 13回 Unit 11 続副詞に強くなる
- 14回 Unit 12 NOT型設問のコツ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、期末試験...50%、平常の授業への取組 (小テストを含む)...30%、e-learning 学習状況...20%
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。
最終評価にはTOEIC スコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明しますので、その指示に従いましょう。
①音声ファイルを必ずダウンロードして活用しましょう。
②巻末の「頻出語句リスト」を活用し、単語をどんどん覚えていきましょう。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられていますので、第1回の授業に必ず出席して説明を受けること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。
授業の詳細は、初回の授業で説明します。
授業以外でも英字新聞や英語ニュース等を通して英語にふれるようにしましょう。
予習・復習をしましょう。

キーワード /Keywords

英語V (律政群 2 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2 Year 単位 /Credits 1単位 / 1 Credit 学期 /Semester 1学期 / 1 Semester 授業形態 /Class Format 講義 / 講義 Class クラス /Class 律政群 2 - F / 律政群 2 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC(R) L&Rテスト）の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。また、自分の苦手な個所や課題を発見し、勉強法を工夫して計画を立て、不断の努力を行うことを通じて、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

- ① SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST : INTERMEDIATE 「レベル別TOEIC L&Rテスト実力養成コース：中級編」 番場直之 他著 金星堂 ￥2200(税込)
- ② TOEIC L&R TEST出る単特急 銀のフレーズ TEX加藤 著 朝日新聞出版 ￥979(税込)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit 1 Travel
- 3回 Unit 2 Dining Out
- 4回 Unit 3 Media
- 5回 Unit 4 Entertainment
- 6回 Unit 5 Purchasing
- 7回 Unit 6 Clients
- 8回 Unit 7 Recruiting
- 9回 Unit 8 Personnel
- 10回 Unit 9 Advertising
- 11回 Unit 10 Meetings
- 12回 Unit 11 Finance
- 13回 Unit 12 Offices
- 14回 Unit 13 Daily Life
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(30%)、筆記試験(50%)、e-learning学習状況(20%)

- ・小テストを8回以上受験しなかった場合、または定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。
- ・最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：単語テストの準備
事後学習：学習内容の復習

履修上の注意 /Remarks

- ・ 第1回の授業に必ず出席してください。
- ・ 基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
- ・ 受講に際しては、テキストを必ず持参してください。
- ・ 単語テストなどの事前の準備が必要なテストに関しては、各自自宅で暗記を済ませてテストに臨んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語V (律政群 2 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語V	ENG201F

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC (R) L&R）の実践的なトレーニングを中心に、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業ではTOEIC形式に準拠したテキストを用いて、リーディングとリスニングを中心にして英語力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

“SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC® L & R TEST : INTERMEDIATE”
（著者）早川幸治他共著 金星堂 ¥2,200

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Unit 1 Travel : Listening
- 3回 U. 1 :Reading
- 4回 Unit 2 Dining Out : Listening 、 U. 1単語小テスト
- 5回 U. 2 : Reading
- 6回 Unit 3 Media : Listening 、 U. 2単語小テスト
- 7回 U. 3 : Reading
- 8回 Unit 4 Entertainment : Listening 、 U. 3単語小テスト
- 9回 U. 4 : Reading
- 10回 Unit 5 Purchasing : Listening 、 U. 4単語小テスト
- 11回 U. 5 : Reading
- 12回 Unit 6 Clients : Listening 、 U. 5単語小テスト
- 13回 U. 6 : Reading
- 14回 Unit 7 Recruiting : Listening 、 U. 6単語小テスト
- 15回 U. 7 : Reading、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

最終評価には、TOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。
指定e-learningの学習状況：20%、期末試験：60%、日常の授業への取り組み(小テスト、宿題)：20%
期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指示した予習課題、小テストの準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。
第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の進度、文法説明等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。詳細は初回の授業で説明します。

キーワード /Keywords

英語VI (律政群 2 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 2 - F /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
			英語VI
			ENG211F

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC (R) L&R）の実践的なトレーニングを中心に、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業ではTOEIC形式に準拠したテキストを用いて、リーディングとリスニングを中心にして英語力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

ALL-ROUND TRAINING FOR THE TOEIC® LISTENING AND READING TEST ”
(TOEIC LISTENING AND READING TEST オールラウンド演習) (著者) 石井隆之他共著 成美堂 ¥2,420

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、語彙演習
- 2回 Unit 1 Restaurant : Listening
- 3回 U. 1 : Reading
- 4回 Unit 2 Department Store : Listening 、 U. 1単語小テスト
- 5回 U. 2 : Reading
- 6回 Unit 3 Train Station : Listening 、 U. 2単語小テスト
- 7回 U. 3 : Reading
- 8回 Unit 4 Transportation : Listening 、 U. 3単語小テスト
- 9回 U. 4 : Reading
- 10回 Unit 5 Post Office : Listening 、 U. 4単語小テスト
- 11回 U. 5 : Reading
- 12回 Unit 6 Bank : Listening 、 U. 5単語小テスト
- 13回 U. 6 : Reading
- 14回 Unit 7 Airport : Listening 、 U. 6単語小テスト
- 15回 U. 7 : Reading 、 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

最終評価には、TOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。
指定e-learningの学習状況：20%、期末試験：60%、日常の授業への取り組み(小テスト、宿題)：20%
期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指示した予習課題、小テストの準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。
第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の進度、文法説明等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。詳細は初回の授業で説明します。

キーワード /Keywords

英語VI (律政群 2 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor 酒井 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 律政群 2 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー 数量的スキル		
	英語力 ● 英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力 ● 英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。		
		英語VI	ENG211F

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主に TOEIC (R) L&R）の実践的なトレーニングを中心に、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業では、教科書の TEST 2 を使用して、リスニングとリーディングの英語力向上を目指します。

教科書 /Textbooks

公式 TOEIC(R) Listening & Reading 問題集 8 (国際コミュニケーション協会) (3,300円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

公式 TOEIC(R) Listening & Reading 問題集 1～7 (国際コミュニケーション協会)(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Part 1, Part 5 (1)
- 3回 Part 2, Part 5 (2)
- 4回 Part 3, Part 5 (3)
- 5回 Part 4, Part 5, (4)
- 6回 リスニングのまとめ
- 7回 TOEIC 演習
- 8回 Part 6
- 9回 Part 7 : Single passage (1)
- 10回 Part 7 : Single passage (2)
- 11回 Part 7 : Double passage (1)
- 12回 Part 7 : Double passage (2)
- 13回 Part 7 : Triple passage (1)
- 14回 Part 7 : Triple passage (2)
- 15回 リーディングのまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...30%、平常の学習状況（小テスト、課題等を含む）...50%、e-learning 学習状況...20%
最終評価には TOEIC スコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。
小テストを一回も受験しなかったら、評価不能（－）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明したり Moodle 上に情報を掲載したりするので、その指示に従うこと。

英語VI (律政群 2 - G) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。詳細は、初回の授業で説明する。

キーワード /Keywords

英語VII (律政群 2 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VI	ENG202F

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

(到達目標 - goals)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course aims to continue to consolidate students' basic English skills. The main focus is to further improve writing and speaking ability.

We will aim to complete units 1-6 of the textbook. All language skills will be taught and used in class.

教科書 /Textbooks

Smart Choice 3A, (3rd Ed.) by K. Wilson and M. Boyle (2592yen)
ISBN: 978-0-19-460285-3

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Course introduction, requirements, grading advice.

Week 2: Unit 1: I've been running. Vocabulary, conversation (video), speaking and listening practice, grammar review and practice, pronunciation and longer listening activity.

Week 3: Unit 1: Reading, speaking using pair work, and review of unit p1-5 at the back of the book. Answers given.

Week 4: Unit 2: I wonder what it's about. Vocabulary, conversation (video), speaking and listening practice, grammar review and practice, pronunciation and longer listening activity.

Week 5: Unit 2: Reading, speaking using pair work, and review of unit p6-10 at the back of the book. Answers given.

Week 6: Unit 3: It was painted by Banksy. Vocabulary, conversation (video), speaking and listening practice, grammar review and practice, pronunciation and longer listening activity.

Week 7: Unit 3: Reading, speaking using pair work, and review of unit p11-15 at the back of the book. Answers given.

Week 8: Mid-term exam, based on units 1-3. 中間テスト

Week 9: Unit 4: Who's your best friend? Vocabulary, conversation (video), speaking and listening practice, grammar review and practice, pronunciation and longer listening activity.

Week 10: Unit 4 : Reading, speaking using pair work, and review of unit p20-24 at the back of the book. Answers given.

Week 11: Unit 5: Gotta have it! Vocabulary, conversation (video), speaking and listening practice, grammar review and practice, pronunciation and longer listening activity.

Week 12: Unit 5: Reading, speaking using pair work, and review of unit p25-29 at the back of the book. Answers given.

Week 13: Unit 6: He'd never been abroad. Vocabulary, conversation (video), speaking and listening practice, grammar review and practice, pronunciation and longer listening activity.

Week 14: Unit 6: Reading, speaking using pair work, and review of unit p30-34 at the back of the book. Answers given.

Week 15: まとめ Final exam based on units 4-6. Exam explanation and how to prepare.

成績評価の方法 /Assessment Method

Mid-term exam 50%

Final exam 50%

- ・ 試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。
- ・ If you do not take the final exam, you will receive "-" on your transcript, not "D."

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

As always, I would suggest to anyone to read the contents of the textbook ahead of time.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

I look forward to teaching you.

キーワード /Keywords

英語VII (律政群 2 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 2 - G /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー 数量的スキル			
	英語力 その他言語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力 社会的責任・倫理観 生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語VII	ENG202F

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This is an "Active Learning" style course.

We will work together and enjoy watching videos and conversations in English.

We will then assess each other and make our own videos.

You will be expected to speak and write your thoughts on a variety of topics on paper, in Moodle, and on video.

*Topics range: Social issues (theft, internet, discrimination), brain science (how we learn, memory tips, stress relief), personal growth (empathy vs sympathy, digital addiction, fair assessments)

動画やムードルを多く使うActive Learning授業です。

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、動画作り等でコミュニケーション能力と作文能力の向上をねらいとする。

教科書 /Textbooks

なし
(see MOODLE)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし
(see MOODLE)

英語VII (律政群 2 - G) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction / Writing in Moodle: WHAT IS ACTIVE LEARNING?
第2回 Chapter 1 (社会現象) Video 1: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
第3回 Chapter 1 (社会現象) Video 2: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
第4回 Chapter 1 (社会現象) Video 3: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
第5回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) FINALE UPGRADE WEEK. Upgrade your work and upload to Moodle.
第6回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 1: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
第7回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 2: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
第8回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 3: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
第9回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) FINALE UPGRADE WEEK. Upgrade your work and upload to Moodle.
第10回 "BIG Thinking Sheet": Summarizing your learning from Chapters 1 and 2.
第11回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 1: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
第12回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 2: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
第13回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 3: Discussion, writing, and peer assessment. FINALE/BIG Thinking Sheet.
第14回 "BIG Advice Week": Learn how to do well on the final essay. Upload to Moodle and peer assess each other.
第15回 Writing day: "Final Essay" and "Self-assessments"

成績評価の方法 /Assessment Method

- (a) Chapter 1 (Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
(b) Chapter 2 (Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
(c) Chapter 3 (Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
(d) 英作文試験：フリップやMoodleフォーラム学習のまとめ (Final Essay) 15%
(e) 「Active Learning」自主的な活動の評価(フリップ、動画、投稿等の自主的なアップグレード回数と「深さ」、先生との対話等) 40%

*If you fail to submit the final report, you will be given a (-); you must therefore fully participate in Week 14 and 15.

* 1 4 周目と 1 5 周目の課題をすべて提出しなかった場合は、調査不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず毎週MOODLEにアクセスをして、(1) 宿題や課題等をアップロード、(2) 変更等の確認をする。

Active Learningに積極的に参加しましょう。

履修上の注意 /Remarks

新型コロナウイルスの影響などにより授業形式が変わる可能性があるため(遠隔一対面) 必ず事前にMOODLEにて確認してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生が知って得する「脳の秘密」や流行ってる動画等を観て評価する授業です。完全にActive Learning式の授業です。文法や単語のテストはありませんので、多くの人が思う「典型的」な英語の授業とは一味違います。「考えさせられる」英語ベースの動画を観て自分の深い考えが英語で語れるようになる、「深い」&「楽しい」クラスです。グループでの動画作りもあって、お互いに評価しあってレベルアップして行きます。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。

キーワード /Keywords

Active Learning, video-making, Moodle, peer assessment

英語VIII (律政群 2 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor 百武 玉恵 / Tamae Hyakutake / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 律政群 2 - F /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
思考・判断・表現	その他言語力			
	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業では、毎回250語前後のエッセイを読みながら、文法力・語彙力・聴解力を身に付けていきます。

教科書 /Textbooks

『やさしく読める社会事情』

（著者）Joan McConnell, 山内 圭 成美堂（¥2,090 [税込]）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時やMoodle（学習管理システム）にて適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 Chapter 1 Smokey Bear: A Mascot with a Message
- 3回 Chapter 2 Overtourism is a Problem!
- 4回 Chapter 3 Gender Equality in the Workplace
- 5回 Chapter 4 Changing Definitions of Beauty
- 6回 Chapter 5 Romeo and Juliet: A Tragic Story about Intolerance
- 7回 Chapter 6 Nature and Health
- 8回 Chapter 7 Golden Years and Silver Divorces
- 9回 Chapter 8 Trees: A Gift from Nature
- 10回 Chapter 9 Tattoos
- 11回 Chapter 10 Redefining Gender and Marriage
- 12回 Chapter 11 All the Lonely People
- 13回 Chapter 12 Think Before You Talk, Text, or Tweet
- 14回 Chapter 13 Jeans Go Global!
- 15回 Chapter 14 Helping People with Disabilities

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：50%、平常の授業への取り組み：30%、小テスト：20%

評価不能（－）について

期末試験を受験しなかった場合は、評価不能（－）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明したり、Moodle上に情報を掲載したりするので、その指示に従うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容を変更することがあります。詳細は初回の授業で説明します。

キーワード /Keywords

英語VIII (律政群 2 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor 薬師寺 元子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 律政群 2 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー 数量的スキル		
	英語力 その他言語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力 社会的責任・倫理観 生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語Ⅷ	ENG212F

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。又、この授業は、映像を通して英語圏の文化や人々の考え方を認識すると同時に英語能力を高めることも目的とします。

（到達目標）

[技能]英語(読む、書く、聞く、話す)を用いて、大学初中級レベルで日常生活のニーズを充足できる。

[授業の概要]

- ① 授業開始時に小テスト（10分）を実施する。
- ② 教科書のポイントを押さえながら、Warm-up, Vocabulary Preview, Getting to know the place, Learning More, Listening, Reading, American Voices をやる。

[授業のねらい]

- ① 多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。特に、「ビジネス関連の語彙や表現」を習得し、「TOEICの出題形式」そのものに慣れること。
- ② TOEICの出題形式や問題に慣れるとともに、精読を通じて読解力を身につける。
また、ある程度の内容のある英語を読み、聞き、理解できる力、及び、他人に自分の考えを発信する力を養成する。

教科書 /Textbooks

『American Vibes-People, Places and Perspectives』

著者：Todd Rucynski, Yoko Nakagawa,
2020年1月 発行、 ¥2,970 (税入)
出版社：金星堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

公式TOEIC Listening & Reading 問題集 3 (発行：財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC運営委員会) 等。

授業時やMoodle (学習管理システム) にて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction
- 2回 Chapter 1 Boston, Massachusetts
- 3回 Chapter 2 Maine
- 4回 Chapter 3 New York City 1
- 5回 Chapter 4 New York City 2
- 6回 Chapter 5 Washington, D.C.
- 7回 Chapter 6 Charleston, South Carolina
- 8回 Chapter 7 Savannah, Georgia
- 9回 Chapter 8 Oswego, New York
- 10回 Chapter 9 Austin, Texas
- 11回 Chapter10 Saint Jo, Texas
- 12回 Chapter11 Santa Fe, New Mexico
- 13回 Chapter12 Arizona—Grand Canyon, Route 66
- 14回 Chapter13 Los Angeles 1
- 15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 小テスト、レポート(20%)
- ② 授業参加、授業貢献度(特に自発的、積極的な発表を評価する) (20%)
- ③ 期末考査 (60%)

* 期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

* 欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合には、原則として単位取得が難しくなります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明したり、Moodle 上に情報を掲載したりするので、その指示に従うこと。

履修上の注意 /Remarks

- ① 授業の準備を毎回十分にやること。
- ② 英和辞典、和英辞典、英英辞典を持参のこと。(電子辞書も可)
- ③ 授業中は、携帯電話等の使用を控えること。
- ④ 発表が主体、授業への積極的な参加が要求されるので、十分な予習が必須である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ① 日頃から英語に親しみ、学習する機会を、出来るだけ多く作ること。
- ② 能動的な勉学に徹すること。
- ③ 少々難易度の高い授業になるので、集中して受講すること。

受講生の理解度などに応じて授業計画や授業内容を変更することがある。詳細は、初回の授業で説明する。

キーワード /Keywords

英語Ⅸ (英中国济営比人律政 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国济営比人律政 3 年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語Ⅸ	ENG301F

授業の概要 /Course Description

この授業は、特定のトピックを通じてより高度な英語能力の向上を目的とします。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

【思考・判断・表現力】様々なトピックについて、英語を用いて主体的に自分の意見を表現することができる。

【コミュニケーション力】英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深めることができる。

教科書 /Textbooks

Mark D. Stafford, successful keys to the TOEIC listening and reading test 2, 桐原書店, 1980円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 Unit 1 Daily life
- 第 2 回 Unit 2 Places
- 第 3 回 Unit 3 People
- 第 4 回 Unit 4 Travel
- 第 5 回 Unit 5 Business
- 第 6 回 Unit 6 Office
- 第 7 回 Technology
- 第 8 回 Personnel
- 第 9 回 Management
- 第 10 回 Purchasing
- 第 11 回 Finances
- 第 12 回 Media
- 第 13 回 Entertainment
- 第 14 回 Health
- 第 15 回 Restaurants

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・90% 授業への取り組み・・・10%

試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

リーディング教材の下調べをしておく。
リスニングの問題の音声を聞く。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語X (英中国済営比人律政 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
英語力	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語X	ENG311F

授業の概要 /Course Description

この授業は、応用的な英語能力の定着を目的とします。

具体的には、TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、また比較的難易度の高い英文を読み解きながら文法能力と英語読解力の伸長を目指します。

教科書 /Textbooks

ハリウッド (2) ビデオで見る映画とスターたち (朝日出版) ISBN4-255-15355-8 1,800円

TOEIC 5分間ドリル リスニング3 (マクミラン・ランゲージハウス) ISBN978-4-7773-6258-5 1,000円

その他、適宜、プリントを用います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、授業時に指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	はじめに 英語を学ぶということ	
2回	聴解 (単語と文法の力をつける①)	読解 (単語と文法の力をつける①)
3回	聴解 (単語と文法の力をつける②)	読解 (単語と文法の力をつける②)
4回	聴解 (単語と文法の力をつける③)	読解 (単語と文法の力をつける③)
5回	聴解 (単語と文法の力をつける④)	読解 (文脈を考える①)
6回	聴解 (英語の音に注目する①)	読解 (文脈を考える②)
7回	聴解 (英語の音に注目する②)	読解 (文脈を考える③)
8回	聴解 (英語の音に注目する③)	読解 (言語外の知識を利用する①)
9回	聴解 (英語の音に注目する④)	読解 (言語外の知識を利用する②)
10回	聴解 (多様なアクセントに注目する①)	読解 (言語外の知識を利用する③)
11回	聴解 (多様なアクセントに注目する②)	読解 (言外の意味を捉える①)
12回	聴解 (多様なアクセントに注目する③)	読解 (言外の意味を捉える②)
13回	聴解 (多様なアクセントに注目する④)	読解 (言外の意味を捉える③)
14回	聴解 (音の聞き取りから意味の理解へ)	読解 (文法的な意味を超えたテキスト理解へ)
15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として

学期末試験・小テスト 80%

課題 20%

欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。また、試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。

英語X (英中国济営比人律政 3 年) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業時に指定する課題とリーディング教材の予習・復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語XI (英中国済営比人律政 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次 /3rd Year 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 英中国済営比人律政 3 年 /English Law and Economics 3rd Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。	
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
関心・意欲・態度	自己管理力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。	
			英語 X I	ENG302F

授業の概要 /Course Description

This is a "deep thinking in English" class at the English XI level.
We will work together and enjoy conversations in English.
You will be expected to speak and write your thoughts on a variety of topics.

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。
（到達目標）
【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

ENGLISH XI is an "Active Learning" style course for English XI level students.
We will work together and enjoy watching videos and conversations in English.
We will then assess each other and make our own videos.
You will be expected to speak and write your thoughts on a variety of topics on paper, in Moodle, and on video.

*Topics range: Social issues (theft, internet, discrimination), brain science (how we learn, memory tips, stress relief), personal growth (empathy vs sympathy, digital addiction, fair assessments)

英語XIのレベルにあわせた動画やムードルを多く使うActive Learning授業です。
英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、動画作り等でコミュニケーション能力と作文能力の向上をねらいとする。

教科書 /Textbooks

なし
(see MOODLE)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

英語XI (英中国济営比人律政 3 年) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction / Writing in Moodle: WHAT IS ACTIVE LEARNING?
- 第2回 Chapter 1 (社会現象) Video 1: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第3回 Chapter 1 (社会現象) Video 2: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第4回 Chapter 1 (社会現象) Video 3: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第5回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) FINALE UPGRADE WEEK. Upgrade your work and upload to Moodle.
- 第6回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 1: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
- 第7回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 2: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
- 第8回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 3: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
- 第9回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) FINALE UPGRADE WEEK. Upgrade your work and upload to Moodle.
- 第10回 "BIG Thinking Sheet": Summarizing your learning from Chapters 1 and 2.
- 第11回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 1: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第12回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 2: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第13回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 3: Discussion, writing, and peer assessment. FINALE/BIG Thinking Sheet.
- 第14回 "BIG Advice Week": Learn how to do well on the final essay. Upload to Moodle and peer assess each other.
- 第15回 Writing day: "Final Essay" and "Self-assessments"

成績評価の方法 /Assessment Method

- (a) Chapter 1 (Moodleでの対話、学習フリップと動画のアップロード等) 25%
- (b) Chapter 2 (Moodleでの対話、学習フリップと動画のアップロード等) 25%
- (c) Chapter 3 (Moodleでの対話、学習フリップと動画のアップロード等) 25%
- (d) 試験(Final Essay) 25%
- (e) *Active Learning努力点 (± 20%) の変動が加わります。

数式は $[(a+b+c+d)÷4] ±20%$ です。

*If you fail to submit the final report, you will be given a (-)

*1 4 周目と 1 5 周目の課題をすべて提出しなかった場合は、調査不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず毎週MOODLEにアクセスをして、(1) 宿題や課題等をアップロード、(2) 変更等の確認をする。

*Active Learning努力点が ± 20%の「変動力」もあるので、Active Learningに積極的に参加しましょう。

履修上の注意 /Remarks

新型コロナウイルスの影響などにより授業形式が変わる可能性があるので(遠隔一対面) 必ず事前にMOODLEにて確認してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語XIのレベルにあわせ、学生が知って得する「脳の秘密」や流行ってる動画等を観て評価する授業です。完全にActive Learning式の授業です。文法や単語のテストはありませんので、多くの人が思う「典型的」な英語の授業とは一味違います。「考えさせられる」英語ベースの動画を観て自分の深い考えが英語で語れるようになる、「深い」&「楽しい」クラスです。グループでの動画作りもあって、お互いに評価しあってレベルアップして行きます。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。

キーワード /Keywords

Active Learning, video-making, Moodle, peer assessment

英語XII (英中国济営比人律政 3 年) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国济営比人律政 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
思考・判断・表現	英語力	●	英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、日常生活のニーズを充足することができる。
	その他言語力		
関心・意欲・態度	課題発見・分析・解決力		
	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		英語Ⅱ	ENG312F

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

Content and Language Integrated Learning: this course will present materials on various contemporary issues for discussion during and after class. The focus will be on developing critical thinking skills and academic writing ability.

教科書 /Textbooks

English Central (4 Month Academic Premium)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Electronic dictionary and Internet use

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回: Orientation
- 第 2 回: Case Study 1 - and discussion in class [Speaking, Skills] [Writing Skills]
- 第 3 回: Case Study 2 - and discussion in class [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第 4 回: Case Study 3 - and discussion in class [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第 5 回: Student Presentations (1) [Group Presentation] [Writing Skills]
- 第 6 回: Case Study 4 - and discussion in class [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第 7 回: Case Study 5 - and discussion in class [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第 8 回: Case Study 6 - and discussion in class [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第 9 回: Case Study 7 - and discussion in class [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第 10 回: Student Presentations (2) [Group Presentation] [Writing Skills]
- 第 11 回: Case Study 8 - and discussion in class [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第 12 回: Case Study 9 - and discussion in class [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第 13 回: Case Study 10 - and discussion in class [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第 14 回: Case Study 11 - and discussion in class [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第 15 回: Student Presentations (3) [Group Presentation] [Writing Skills]

成績評価の方法 /Assessment Method

Final grades will combine class participation (45%), presentations (15%) and homework assignments (40%)

Students that fail to submit the final assignments as directed by the instructor will be assessed as (-) 【評価不能】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Check the Moodle site for the course and complete any assignments

英語XII (英中国济営比人律政 3 年) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

Be careful to complete all the homework assignments for this course

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's have fun learning English together

キーワード /Keywords

Topic based discussion and writing

中国語I (1 - a) 【昼】

担当者名 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 済営人律政群 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語 I	CHN101 F

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。

- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要な表現ができるようになることを目指します。
- (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
- (3)この教科書の内容を学ぶことにより、中国に対する理解を深めることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第二課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第三課 総合知識
- 5回 第三課 総合練習
- 6回 第四課 私達はみんな友達です 【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
- 7回 第四課 これは一枚の地図です(本文) 練習
- 8回 第五課 私は最近忙しい 【形容詞の文】【動詞の文】など
- 9回 第五課 あなたはいつ北京へ行きますか(本文) 練習
- 10回 第六課 私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
- 11回 第六課 私は松本葉子です(本文) 練習
- 12回 第七課 私達の学校は九州にあります 【在】【方位詞】【了】など
- 13回 第七課 大学の生活(本文) 練習
- 14回 第八課 あなたは長城に行ったことがありますか【動詞+过】【是……的】など
- 15回 第八課 全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文) 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・60% 小テスト・・20% 日常の授業への取り組み・・20%

※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする (CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など)
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

- 1 . CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
- 2 . 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語I (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語 I	CHN101 F

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。

- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながらか、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要な表現ができるようになることを目指します。
- (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
- (3)この教科書の内容を学ぶことにより、中国に対する理解を深めることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第二課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第三課 総合知識
- 5回 第三課 総合練習
- 6回 第四課 私達はみんな友達です 【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
- 7回 第四課 これは一枚の地図です(本文) 練習
- 8回 第五課 私は最近忙しい 【形容詞の文】【動詞の文】など
- 9回 第五課 あなたはいつ北京へ行きますか(本文) 練習
- 10回 第六課 私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
- 11回 第六課 私は松本葉子です(本文) 練習
- 12回 第七課 私達の学校は九州にあります 【在】【方位詞】【了】など
- 13回 第七課 大学の生活(本文) 練習
- 14回 第八課 あなたは長城に行ったことがありますか【動詞+过】【是……的】など
- 15回 第八課 全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文) 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・ 60% 小テスト・・ 20% 日常の授業への取り組み・・ 20%

※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする (CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など)
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

- 1 . CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
- 2 . 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅱ (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 野村 和代 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅱ	CHN111F

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。

- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながらか、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要な表現ができるようになることを目指します。
- (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
- (3)この教科書の内容を学ぶことにより、中国に対する理解を深めることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可】など
- 2回 第九課 田中さんが病になりました(本文) 練習
- 3回 第十課 私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
- 4回 第十課 雪中に炭を送る(本文) 練習
- 5回 第十一課 彼らが言っていることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
- 6回 第十一課 電話を掛ける(本文) 練習
- 7回 第十二課 私と外灘にコーヒーを飲みに行ってください【要】【“把”構文】など
- 8回 第十二課 ウィンドウショッピング(本文) 練習
- 9回 第十三課 陳紅さんは私に上海に転校して留学してほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
- 10回 第十三課 “福”字を貼る(本文) 練習 【存現文】【因为……所以】など
- 11回 第十四課 私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【“被”の文】
- 12回 第十四課 円明園(本文) 練習 【不但……而且】など
- 13回 第十五課 あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
- 14回 第十五課 日本概況(本文) 練習 【虽然……但是】など
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする (CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など)
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語I、IIIを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語 II	CHN111 F

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。

- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要な表現ができるようになることを目指します。
- (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
- (3)この教科書の内容を学ぶことにより、中国に対する理解を深めることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可以】など
- 2回 第九課 田中さんが病になりました(本文) 練習
- 3回 第十課 私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
- 4回 第十課 雪中に炭を送る(本文) 練習
- 5回 第十一課 彼らが言っていることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
- 6回 第十一課 電話を掛ける(本文) 練習
- 7回 第十二課 私と外灘にコーヒーを飲みに行ってください【要】【“把”構文】など
- 8回 第十二課 ウィンドウショッピング(本文) 練習
- 9回 第十三課 陳紅さんは私に上海に転校して留学してほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
- 10回 第十三課 “福”字を貼る(本文) 練習 【存現文】【因为……所以】など
- 11回 第十四課 私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【“被”の文】
- 12回 第十四課 円明園(本文) 練習 【不但……而且】など
- 13回 第十五課 あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
- 14回 第十五課 日本概況(本文) 練習 【虽然……但是】など
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%

※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする (CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など)
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語I、IIIを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅲ (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 艾文婷 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅲ	CHN102F

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れるようになることを目指します。

- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
- (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
- (3)会話文の学習を通して、場面に応じた中国語会話能力を高めます。
- (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ知識を得ることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 総合知識
- 5回 総合練習
- 6回 第四課 紹介
- 7回 第四課 自己紹介 練習問題
- 8回 第五課 入国・北京紹介
- 9回 第五課 飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
- 10回 第六課 レストランにて・天津紹介
- 11回 第六課 レストランにて、練習問題
- 12回 第七課 道を尋ねる・上海紹介
- 13回 第七課 交通、練習問題
- 14回 第八課 観光する・蘇州と杭州紹介
- 15回 第八課 観光、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%

※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする (CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など)
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

- 1 . CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
- 2 . 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅲ (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 于 佳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅲ	CHN102F

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れるようになることを目指します。

- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
- (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
- (3)会話文の学習を通して、場面に応じた中国語会話能力を高めます。
- (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ知識を得ることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 総合知識
- 5回 総合練習
- 6回 第四課 紹介
- 7回 第四課 自己紹介 練習問題
- 8回 第五課 入国・北京紹介
- 9回 第五課 飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
- 10回 第六課 レストランにて・天津紹介
- 11回 第六課 レストランにて、練習問題
- 12回 第七課 道を尋ねる・上海紹介
- 13回 第七課 交通、練習問題
- 14回 第八課 観光する・蘇州と杭州紹介
- 15回 第八課 観光、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%
※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする (CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など)
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

- 1 . CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
- 2 . 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅳ (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 艾文婷 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅳ	CHN112 F

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れるようになることを目指します。

- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
- (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
- (3)会話文の学習を通して、場面に応じた中国語会話能力を高めます。
- (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ知識を得ることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物をする・義烏と横店紹介
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 お金を両替・西安と洛陽紹介
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルに泊まる・成都紹介
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話を掛ける・昆明紹介
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 興味について語る・広州紹介
- 10回 第十三課 興味、練習問題
- 11回 第十四課 見方について語る・大連紹介
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・日本の紹介
- 14回 第十五課 空港での搭乗手続き・免税店にて
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%

※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする(CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など)
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語Ⅰ、Ⅲを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅳ (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 于 佳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅳ	CHN112 F

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れるようになることを目指します。

- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
- (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
- (3)会話文の学習を通して、場面に応じた中国語会話能力を高めます。
- (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ知識を得ることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物をする・義烏と横店紹介
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 お金を両替・西安と洛陽紹介
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルに泊まる・成都紹介
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話を掛ける・昆明紹介
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 興味について語る・広州紹介
- 10回 第十三課 興味、練習問題
- 11回 第十四課 見方について語る・大連紹介
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・日本の紹介
- 14回 第十五課 空港での搭乗手続き・免税店にて
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%

※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする(CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など)
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語Ⅰ、Ⅲを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅴ	CHN201 F

授業の概要 /Course Description

外国語を学ぶという相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは、日本についての知識を身につけ、外国語で表現するという能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができると思います。

- (1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
- (2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
- (3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 ポイント説明 日本紹介(本文)
- 2回 第二課 ポイント説明
- 3回 第二課 東京(本文)
- 4回 第三課 ポイント説明
- 5回 第三課 横浜(本文)
- 6回 第四課 ポイント説明
- 7回 第四課 富士山と東照宮(本文)
- 8回 第五課 ポイント説明
- 9回 第五課 静岡と名古屋(本文)
- 10回 第六課 ポイント説明
- 11回 第六課 京都(本文)
- 12回 第七課 ポイント説明
- 13回 第七課 奈良(本文)
- 14回 第八課 ポイント説明
- 15回 第八課 大阪(本文)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...60% 日常の授業への取り組み、小テスト等...40%
※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする (CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など)
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語I、II、III、IVを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 有働 彰子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語VI	CHN211F

授業の概要 /Course Description

外国語を学ぶという相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは、日本についての知識を身につけ、外国語で表現するという能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができることと思います。

- (1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
- (2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
- (3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|------|------------|
| 1回 | 第九課 | ポイント説明 |
| 2回 | 第九課 | 宮島と下関(本文) |
| 3回 | 第十課 | ポイント説明 |
| 4回 | 第十課 | 九州(本文) |
| 5回 | 第十一課 | ポイント説明 |
| 6回 | 第十一課 | 福岡(本文) |
| 7回 | 第十二課 | ポイント説明 |
| 8回 | 第十二課 | 佐賀(本文) |
| 9回 | 第十三課 | ポイント説明 |
| 10回 | 第十三課 | 長崎(本文) |
| 11回 | 第十四課 | ポイント説明 |
| 12回 | 第十四課 | 四国(本文) |
| 13回 | 第十五課 | ポイント説明 |
| 14回 | 第十五課 | 仙台と北海道(本文) |
| 15回 | | 総合練習 |

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...60% 日常の授業への取り組み、小テスト等...40%
※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする (CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など)
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語I、II、III、IV、V、VIIを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅶ	CHN202 F

授業の概要 /Course Description

外国語を学ぶという相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは、日本についての知識を身につけ、外国語で表現するという能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができると思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。
- (2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(会話) 練習
- 2回 第二課 東京(会話)
- 3回 第二課 練習
- 4回 第三課 横浜(会話)
- 5回 第三課 練習
- 6回 第四課 富士山と東照宮(会話)
- 7回 第四課 練習
- 8回 第五課 静岡と名古屋(会話)
- 9回 第五課 練習
- 10回 第六課 京都(会話)
- 11回 第六課 練習
- 12回 第七課 奈良と神戸(会話)
- 13回 第七課 練習
- 14回 第八課 大阪(会話)
- 15回 第八課 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%
※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする(CDを聞く、分からない単語を調べる、课文の音読など)
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。
4. 教科書の「練習問題」について、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英済営人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	中国語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		中国語Ⅷ	CHN212F

授業の概要 /Course Description

外国語を学ぶという相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは、日本についての知識を身につけ、外国語で表現するという能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れているかもしれませんが、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができると思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。
- (2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|------|------------|
| 1回 | 第九課 | 宮島と下関(会話) |
| 2回 | 第九課 | 練習 |
| 3回 | 第十課 | 九州(会話) |
| 4回 | 第十課 | 練習 |
| 5回 | 第十一課 | 福岡(会話) |
| 6回 | 第十一課 | 練習 |
| 7回 | 第十二課 | 佐賀(会話) |
| 8回 | 第十二課 | 練習 |
| 9回 | 第十三課 | 長崎(会話) |
| 10回 | 第十三課 | 練習 |
| 11回 | 第十四課 | 四国(会話) |
| 12回 | 第十四課 | 練習 |
| 13回 | 第十五課 | 仙台と北海道(会話) |
| 14回 | 第十五課 | 練習 |
| 15回 | 総合練習 | |

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%
※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする(CDを聞く、分からない単語を調べる、课文の音読など)
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語I、II、III、IV、V、VIIを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。
4. 教科書の「練習問題」について、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

朝鮮語I (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 吳 香善 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 済営律政群 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語 I	KRN101 F

授業の概要 /Course Description

本講義は韓国語をはじめて学習する学生を対象とするので、文字（ハングル）や単語の発音練習に多くの時間を割く。ハングルの読み書きができるようになることを第一目標とし、自己紹介は勿論のこと、簡単な挨拶表現や初歩的な日常会話表現を学ぶ。また、言葉を通して韓国文化への理解を深めることをねらいとする。

到達目標：朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩（改訂版）』（巖基珠ほか、白水社、2200円）、
適宜資料・プリントなどを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『朝鮮語辞典』（小学館、8000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス / 【ハングルの特徴と構成】
- 2回 文字と発音① 【母音字】とその発音
- 3回 文字と発音② 【子音字】とその発音
- 4回 文字と発音③ 【子音字+母音字】とその発音
- 5回 文字と発音④ 【濃音、激音、平音】の発音比較
- 6回 文字と発音⑤ 【二重母音字】とその発音
- 7回 文字と発音⑥ 【パッチム】の読み方と発音
- 8回 【日本の人名・地名をハングルで表記】する方法の練習
- 9回 【簡単な挨拶】の練習 / 教室用語 文字と発音
- 10回 発音ルール① 【有声音化 / 連音化 / 激音化 / 濃音化】
- 11回 発音ルール② 【鼻音化 / 口蓋音化 / 流音化 / その他】
- 12回 まとめと復習
- 13回 体言の肯定文（自己紹介）【～です】、助詞【～は】
- 14回 体言の否定文（自己紹介）【～ではありません】、助詞【～が】
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 30%、小テスト・課題... 30%、定期試験... 40%
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能（-）とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

朝鮮語I (1 - a) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語I (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 京姫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語 I	KRN101 F

授業の概要 /Course Description

この授業では、朝鮮語の基礎を学び身につけます。具体的には、朝鮮語の音韻・語彙・発音の基礎を学んだ上で、4技能(話すこと、聞くこと、書くこと、読むこと)について初級レベルの力を養います。
受講生の殆どは、朝鮮語を本格的に学ぶのは初めてですので、一段一段順を追って学んでいきます。前期の前半は、独特な文字であるハングルの仕組みや、韓国語の音韻を中心に学びます。前期の後半からは、会話文を利用して学習を進めます。
また、韓国・朝鮮の文化についても教科書に沿って学んでいきます。朝鮮語を習得することはもちろん、隣国の異なる文化も学びます。

【到達目標】自己紹介、簡単な挨拶表現、簡単な文章を読み理解することを目標とします。

教科書 /Textbooks

巖基珠・金三順ほか『韓国語初歩(三訂版)』白水社 2019年 2200円+税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語へ旅しよう』初級 朝日出版社 2014年 2500円+税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業案内、韓国語の概要、文字の構成、挨拶表現、基本母音字の練習
- 2回 母音字のドリル、基本子音字の練習
- 3回 激音と濃音
- 4回 文字の復習、読み取りテスト
- 5回 複合母音
- 6回 ハングルの終声(パッチム)
- 7回 発音の変化
- 8回 ハングル表記法及び話してみよう。
- 9回 11課 大学生ですか。
- 10回 12課 会社員ではありません。
- 11回 13課 どこで習いますか。
- 12回 11～13課までの復習、小テスト
- 13回 14課 暑くありませんか。
- 14回 15課 誕生日はいつですか。
- 15回 14～15課までの復習、小テスト

朝鮮語I (1 - b) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

本授業は、各到達目標の達成度を基準として、下記の方法と割合により成績評価します。

- ・ 定期試験 : 50%
- ・ 日常の授業への取り組み : 40% (小テスト4回)
- ・ レポート : 10%

※成績評価の対象としない場合 (評価不能) について

- ・ 5回以上欠席した場合、欠席6回目からは評価不能とします。
- ・ 定期試験を受験しなかった場合は評価不能とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習 : 次の①と②について計30分程度の予習を行うこと。

①次の回で学習予定の部分について、教科書に目を通し、新出語彙はすべて辞書を使い意味を調べる。

②教科書の各課の練習問題は、予め自宅で取り組んだ上で授業に臨む。

復習 : 以下の①~③について計60分程度の復習を行うこと

①ダウンロードした音声を利用し、音声のあとをすぐ追って繰り返し音読ができるようにすること(シャドーイング)。

②ダウンロードした音声を利用し、音声からの書き起こしが正確にできるよう、繰り返し練習すること。

③その他、授業で指示された課題

履修上の注意 /Remarks

- ・ 入門レベルの授業になります。朝鮮語の基本的な動詞や形容詞を用いた文を読んだり書いたりすることができるレベルにある人には不向きです。
- ・ 1回の授業に対して、復習・予習を必ず行ってください。
- ・ 学期中に小テストを複数回実施します。進捗状況に応じて、予告を行っただうえで実施します。
- ・ 授業計画に沿った授業運営を心がけますが、状況によって前後することもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

朝鮮語は、日本語を知っている者にとって大変学びやすい外国語ではありますが、積み重ねが重要である点は他の外国語と同じです。予習・授業・復習のサイクルを止めずに、着実に学習を積み重ねてください。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅱ (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 慶湖 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅱ	KRN111 F

授業の概要 /Course Description

本講義は朝鮮語Ⅰで学習したものを再確認しながら、基本的な単語や日常会話に必要な表現を学ぶ。文法的な知識を増やしつつも、それを実際のコミュニケーションの中で使えるように、語彙力をつけて短文を暗記するという作業に重点をおく。また、言葉を通して韓国文化への理解を深めることをねらいとする。

到達目標：朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩（改訂版）』（叢基珠ほか、白水社、2200円）、
適宜資料やプリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『朝鮮語辞典』（小学館、8000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 どこでならってますか①【指示代名詞】【疑問代名詞】
- 3回 どこでならってますか②【用言の丁寧形】
- 4回 暑くありません【用言の否定形】
- 5回 数詞【漢数字】【固有数字】
- 6回 誕生日はいつですか【体言の打ち解けた丁寧形】
- 7回 どこに住んでいますか①【用言の連用形】
- 8回 どこに住んでいますか②【用言の連用形】の確認と応用
- 9回 先生いらっしゃいますか【電話対応】と【敬語表現】
- 10回 何をお探ですか【買い物】と【敬語表現】
- 11回 何をしましたか①【過去形】
- 12回 何をしましたか②【過去形】の確認と応用
- 13回 何を召し上がりますか①【意思・推量形】
- 14回 何時に会いましょうか②【願望・勧誘形】
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 30%、小テスト・課題... 30%、定期試験... 40%
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

朝鮮語II (1 - a) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅱ (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 京姫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅱ	KRN111 F

授業の概要 /Course Description

この授業では、朝鮮語の基礎を学び身につけます。具体的には、朝鮮語の音韻・語彙・発音の基礎を学んだ上で、4技能(話すこと、聞くこと、書くこと、読むこと)について初級レベルの力を養います。
 受講生の殆どは、朝鮮語を本格的に学ぶのは初めてですので、一段一段順を追って学んでいきます。前期の前半は、独特な文字であるハングルの仕組みや、韓国語の音韻を中心に学びます。前期の後半からは、会話文を利用して学習を進めます。
 また、韓国・朝鮮の文化についても教科書に沿って学んでいきます。朝鮮語を習得することはもちろん、隣国の異なる文化も学びます。
 【到達目標】自己紹介、簡単な挨拶表現、簡単な文章を読み理解することを目標とします。

教科書 /Textbooks

『韓国語初歩(三訂版)』巖基珠・金三順ほか 白水社 2019年 2200円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『韓国語へ旅しよう』初級 李昌圭著 朝日出版社 2014年 2500円+税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 16課 どこに住んでいますか。(打ち解けた丁寧形)
- 3回 17課 先生いらっしゃいますか。(かしこまった尊敬形)
- 4回 18課 何をお探ですか。(打ち解けた尊敬形)
- 5回 16～18課の復習、小テスト
- 6回 19課 何をしましたか。(過去形)
- 7回 20課 何を召し上がりますか。
- 8回 19～20課の復習、小テスト
- 9回 21課 何時にお会いしましょうか。
- 10回 22課 水泳をしています。(進行形)
- 11回 21～22課の復習 我が家に一度遊びに来てください。
- 12回 23課 我が家に一度遊びに来てください。24課 市庁から近いですか。
- 13回 24課 市庁から近いですか。22～24課の復習、小テスト
- 14回 23～24課の復習、小テスト
- 15回 総まとめ

朝鮮語Ⅱ (1 - b) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

本授業は、各到達目標の達成度を基準として、下記の方法と割合により成績評価します。

- ・ 定期試験：50%
- ・ 授業への取り組み：40点 (小テスト4回)
- ・ レポート：10%

成績評価の対象としない場合 (評価不能 (-)) について

- ・ 5回以上欠席した場合、欠席6回目からは評価不能 (-) とします。
- ・ 定期試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習：次の①と②について計30分程度の予習を行うこと。

①次の回で学習予定の部分について、教科書に目を通し、新出語彙はすべて辞書を使い意味を調べる。

②教科書の各課の練習問題は、予め自宅で取り組んだ上で授業に臨む。

復習：以下の①～③について計60分程度の復習を行うこと

①ダウンロードした音声を利用し、音声のあとをすぐ追って繰り返し音読ができるようにすること(シャドーイング)。

②ダウンロードした音声を利用し、音声からの書き起こしが正確にできるよう、繰り返し練習すること。

③その他、授業で指示された課題

履修上の注意 /Remarks

・ 入門レベルの授業になります。朝鮮語の基本的な動詞や形容詞を用いた文を読んだり書いたりすることができるレベルにある人には不向きです。

・ 1回の授業に対して、復習・予習を必ず行ってください。

・ 学期中に小テストを複数回実施します。進捗状況に応じて、予告を行っただえで実施します。

・ 授業計画に沿った授業運営を心がけますが、状況によって前後することもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

朝鮮語は、日本語を知っている者にとって大変学びやすい外国語ではありますが、積み重ねが重要である点は他の外国語と同じです。予習・授業・復習のサイクルを止めずに、着実に学習を積み重ねてください。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ (1 - a) 【昼】

担当者名 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 済営律政群 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅲ	KRN102F

授業の概要 /Course Description

韓国語に初めて接する受講生の韓国語入門である。初級でつまづきやすい発音と文字をしっかりと練習しながら、正確な読み書きの習得を目指す。ペア練習やグループワークを取り入れ、日常生活に必要な挨拶や基礎的表現を覚えていく。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『最新チャレンジ！韓国語』 金順玉・阪堂千津子（白水社） 定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利他（小学館）

『韓国語ビジュアル単語集』 李恩周（高橋書店）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 文字と発音【基本母音】
- 2回 文字と発音【基本子音】
- 3回 文字と発音【激音】【濃音】
- 4回 文字と発音【合成母音字】
- 5回 文字と発音【終声①】【終声②】
- 6回 発音のルール【連音化】【濃音化】
- 7回 発音のルール【激音化】【鼻音化】
- 8回 その他の発音法則
- 9回 【文字の復習】【指定詞の丁寧形】
- 10回 疑問文と応答文【～ですか】【～です】【～ではありません】
- 11回 自己・物を紹介する時の表現【～といます】
- 12回 存在詞の丁寧形【～があります】
- 13回 場所名、時をあらわす単語【～に】【～があります、います】
- 14回 位置を表す単語と助詞【～に】存在詞の否定文【～がありません、いません】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・ 50% 日常の授業への取り組み・ 40% レポートや課題・ 10%
5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

朝鮮語Ⅲ (1 - a) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語は"ハングル"という独自の文字から覚えなければならない言語です。他にも覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張らないと身に付きません。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ (1 - b) 【昼】

担当者名 吳 珠熙 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 済営律政群 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅲ	KRN102F

授業の概要 /Course Description

韓国語に初めて接する受講生の韓国語入門である。初級でつまずきやすい発音と文字をしっかりと練習しながら、正確な読み書きの習得を目指す。ペア練習やグループワークを取り入れ、日常生活に必要な挨拶や基礎的表現を覚えていく。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『最新チャレンジ！韓国語』 金順玉・阪堂千津子（白水社） 定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利他（小学館）

『韓国語ビジュアル単語集』 李恩周（高橋書店）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 文字と発音【基本母音】
- 2回 文字と発音【基本子音】
- 3回 文字と発音【激音】【濃音】
- 4回 文字と発音【合成母音字】
- 5回 文字と発音【終声①】【終声②】
- 6回 発音のルール【連音化】【濃音化】
- 7回 発音のルール【激音化】【鼻音化】
- 8回 その他の発音法則
- 9回 【文字の復習】【指定詞の丁寧形】
- 10回 疑問文と応答文【～ですか】【～です】【～ではありません】
- 11回 自己・物を紹介する時の表現【～といます】
- 12回 存在詞の丁寧形【～があります】
- 13回 場所名、時をあらわす単語【～に】【～があります、います】
- 14回 位置を表す単語と助詞【～に】存在詞の否定文【～がありません、いません】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%

授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%

学期末試験・・・50%

* 以下のような場合は、評価不能（-）とします。

①出席が10回未満の場合

②定期試験を受験しなかった場合

朝鮮語Ⅲ (1 - b) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習をしておくこと。
次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅳ	KRN112F

授業の概要 /Course Description

朝鮮語Ⅲで学んだ基本的知識を踏まえて、発音変化を伴う単語や文章をより正確に読める力を身につける。初級テキストにあげる基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようになることを目標とする。様々なシチュエーションでの実践的な対話力を養成し、会話をするうえで重要である動詞と形容詞に慣れ、より豊かな表現ができることを目指す。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『最新チャレンジ！韓国語』 金順玉・阪堂千津子（白水社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利ほか（小学館）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅲの復習
- 2回 持ち物について尋ねる会話【誰のものですか？】
- 3回 疑問詞を使った表現【～は何/どこですか？】
- 4回 時制や日付【漢数詞①】助詞のまとめ【いつ～しますか？】
- 5回 用言の丁寧形①【へヨ体】【漢数詞②】【電話番号、学年】
- 6回 用言の丁寧形②【へヨ体】【固有数詞①】【何時ですか？】
- 7回 用言の否定形【～しません、～ありません】【一週間の予定】
- 8回 目的表現【～に～しに行きます】好みの表現【～が好きです】
- 9回 数詞まとめ【電話番号、学年、誕生日は？いくらですか？】
- 10回 丁寧形の変則活用
- 11回 用言の尊敬形
- 12回 用言の過去形①【～ました、でした】
- 13回 用言の過去形②【変則活用】
- 14回 意思と推測表現【～するつもりです】動作の進行【～しています】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・ 50% 日常の授業への取り組み・・ 40% レポートや課題・・ 10%
5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

朝鮮語Ⅳ(1 - a) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 吳 珠熙 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営律政群 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅳ	KRN112 F

授業の概要 /Course Description

朝鮮語Ⅲで学んだ基本的知識を踏まえて、発音変化を伴う単語や文章をより正確に読める力を身につける。初級テキストにあげる基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようになることを目標とする。様々なシチュエーションでの実践的な対話力を養成し、会話をするうえで重要である動詞と形容詞に慣れ、より豊かな表現ができることを目指す。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『最新チャレンジ！韓国語』 金順玉・阪堂千津子（白水社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか（小学館）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅲの復習
- 2回 持ち物について尋ねる会話【誰のものですか？】
- 3回 疑問詞を使った表現【～は何/どこですか？】
- 4回 時制や日付【漢数詞①】助詞のまとめ【いつ～しますか？】
- 5回 用言の丁寧形①【へヨ体】【漢数詞②】【電話番号、学年】
- 6回 用言の丁寧形②【へヨ体】【固有数詞①】【何時ですか？】
- 7回 用言の否定形【～しません、～くありません】【一週間の予定】
- 8回 目的表現【～に～しに行きます】好みの表現【～が好きです】
- 9回 数詞まとめ【電話番号、学年、誕生日は？いくらですか？】
- 10回 丁寧形の変則活用
- 11回 用言の尊敬形
- 12回 用言の過去形①【～ました、でした】
- 13回 用言の過去形②【変則活用】
- 14回 意思と推測表現【～するつもりです】動作の進行【～しています】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%
学期末試験・・・50%

* 以下のような場合は、評価不能(-)とします。

- ①出席が10回未満の場合
- ②定期試験を受験しなかった場合

朝鮮語Ⅳ (1 - b) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習をしておくこと。
次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 安 滯珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅴ	KRN201 F

授業の概要 /Course Description

基礎文法に基づいて応用力を伸ばすことに努める。より多くの語彙を習得するために、慣用表現とことわざ意および漢字語を習得するように指導する。それを用いて実際コミュニケーションをする基礎になる文法を学び、作文練習も行う。長文や文学作品が理解できる基礎をしっかりと学習するのを目指したい。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

崔柄珠 『おはよう韓国語2』朝日出版社 2015年。2400円+税。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、『朝鮮語I・II』の復習
- 2回 第1課 過去形・過去形の縮約形、仮定・条件・希望表現
- 3回 第1課 フランスから来ました【練習問題、スキット】
- 4回 第2課 尊敬形・特殊な尊敬形【名詞・助詞】、家族紹介
- 5回 第2課 家族は何名様ですか【練習問題、スキット】
- 6回 第3課 尊敬形の해요体、丁寧な命令形表現
- 7回 第3課 変則用言ドリル、勧誘・意志・確認、婉曲表現
- 8回 第3課 キム・ミンスさんのお宅ですよ【練習問題、スキット】
- 9回 韓国文化紹介、映画鑑賞
- 10回 第4課 変則用言ドリル、用言 + 아서/어서、意志表現【-을래요/르래요】
- 11回 第4課 野菜が多くて体にいいです【練習問題、スキット】
- 12回 第5課 意志・推測【을/르 거예요】、現在連体形
- 13回 第5課 未来意志・推測・婉曲【겠】、～しに・～ために表現。【未来の計画発表】
- 14回 第5課 夏休みに何をしますつもりですか【練習問題、スキット】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50%、 日常の授業への取り組み・課題・小テスト(2回) ...50%
5回以上欠席した場合、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 安 静珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語VI	KRN211F

授業の概要 /Course Description

基礎文法に基づいて応用力を伸ばすことに努める。より多くの語彙を習得し、実際コミュニケーションをする基礎になる文法を学び、作文練習を行う。長文が理解できる基礎をしっかりと学習するのを目指したい。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

崔柄珠 『おはよう韓国語2』朝日出版社 2015年。2400円+税。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、『朝鮮語V』の復習
- 2回 第6課 条件【으면/면 돼요】、尊敬形の過去表現
- 3回 第6課 ㄹ変則ドリル、理由表現【用言+으니까/니까、指定詞・名詞+이니까/니까】
- 4回 第6課 どのように行けばいいですか【練習問題、スキット】
- 5回 第7課 名詞+하고/과/와, 可能・不可能表現
- 6回 第7課 過去連体形【動詞・形容詞・存在詞・指定詞】、意志・約束表現【用言+을/르게요】
- 7回 第7課 写真を添付しますよ【練習問題、スキット】 【メール文を書く】
- 8回 第8課 未来連体形、決心・意図表現、ㄹ変則
- 9回 第8課 みんな一緒に歌を歌いましょう【練習問題、スキット】
- 10回 第9課 ㄹ変則ドリル、義務【用言+아/어야 되다(하다)】
- 11回 第9課 未来形推測【用言+을/르 것 같다】、許可【用言+아/어도 되다】
- 12回 第9課 どんなアルバイトをしていますか【練習問題、スキット】
- 13回 第10課 ㄷ変則ドリル、不可能【못~/~지 못하다】
- 14回 第10課 現在形推測【는 것 같다/은/ㄴ 것 같다/인 것 같다】、経験表現
- 15回 第10課 何にも聞いていませんが【練習問題、スキット】、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50%、 日常の授業への取り組み・課題・小テスト(2回) ...50%
5回以上欠席した場合、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅶ【昼】

担当者名 金 恵媛 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 済営比人律政群
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語Ⅶ	KRN202 F

授業の概要 /Course Description

日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループ発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。基礎レベルの範囲で多彩な文型を無理なく駆使できるようになる。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

金順玉・阪堂千津子・崔栄美 『ちょこっとチャレンジ!韓国語 改訂版』白水社 2017年。2400円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 . オリエンテーション
- 2回 . 第1課 打ち解けた尊敬表現【-(으)세요】を使ってインタビューする。条件・仮定表現【-(으)면】
- 3回 . 第1課意図・計画【-(으)려고 해요】、休暇計画について尋ね合う
- 4回 . 第2課 説明・紹介【-인데】、期間【-L/은 지】、韓国語を習ってからどのくらい経ったか尋ね合う
- 5回 . 第2課動作の順序【-L은 다음에/-기 전에】、自分の日課を順を追って話す
- 6回 . 第1課と第2課まとめ復習、聞き取り、会話文作成発表
- 7回 . 第3課 義務【-아/어야 해요】、丁寧な命令・禁止命令【-(으)세요/-지 마세요】
- 8回 . 第3課 許可・禁止【-아/어도 돼요/-(으)면 안 돼요】、サークルの規則を決めて発表
- 9回 . 第4課 形容詞の連体形、理由表現【-아/어서】
- 10回 . 第4課 決心・約束【-기로 했어요】、約束したことや決心したことについて尋ね合う
- 11回 . 第3課と第4課まとめ復習、聞き取り、会話文作成発表
- 12回 . 第5課 位置を表す語、手段【-로/으로】、家から学校までの交通手段と所要時間をインタビューする
- 13回 . 第5課 動作の順序・連結【-아/어서】、おすすめのスポットを紹介し、道順を教える
- 14回 . 第6課 動詞・存在詞の現在連体形、試行・経験【-아/어 봤어요】
- 15回 . 第6課 物や出来事の状況説明・感想【-는데】、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み・小テスト(2回)・課題...50%
5回以上欠席した場合、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく韓国語で多くのことを話しましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 金 恵媛 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	朝鮮語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		朝鮮語VIII	KRN212F

授業の概要 /Course Description

日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループ発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

金順玉・阪堂千津子・崔榮美 『ちょこっとチャレンジ!韓国語(改訂版)』白水社 2017年。2400円+税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利ほか 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第5・6課 聞き取り、会話文復習
- 2回 第7課 依頼【-아/어 주세요】、勧誘・アドバイス【-아/어 보세요】
- 3回 第7課 より丁寧な依頼【-아/어 주시겠어요?】、買い物している場面を想定して話し合う
- 4回 第8課 理由・根拠【-(으)니까】、感嘆【-네요】、推測【-ㄹ/을 것 같아요】
- 5回 第8課 プレゼントをやりとりする場面を想定して話し合う
- 6回 第7・8課の復習、聞き取り、ペアで会話文を作って発表
- 7回 第9課 かしこまった尊敬、不可能表現【自分ができないことを話し合う】
- 8回 第9課 時間・場合【-(으)ㄹ 때】
- 9回 第10課 傾向【-(으)ㄹ/는 편이에요】、同時・並行動作【-(으)면서】、学習方法をインタビューする
- 10回 第10課 ~するのが【-는 것이(-는게)】、自分の性格・学習スタイルについて話す
- 11回 第9・10課の復習、聞き取り、ペアで会話文を作って発表
- 12回 韓国文化紹介、映画鑑賞
- 13回 第11課 間接話法、インタビューした内容を間接話法を使って発表する
- 14回 第11課 間接話法の過去、間接話法の縮約形【気になっているニュースを友達に伝える】
- 15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み・課題・小テスト(2回)...50%
5回以上欠席した場合、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語で多くのことを話し合しましょう。

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 正之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅰ	GRM101F

授業の概要 /Course Description

現代のドイツは拡大したEU（ヨーロッパ連合）の政治、経済、文化の中心として重要な役割を果たしています。ヨーロッパで最も多くの人々が日常的に用いているドイツ語を学習することを通じて、ドイツ語圏とヨーロッパへの関心、知識および理解を深めていきます。

* 到達目標は、以下の「基盤教育センター 到達目標」の通りです。

「ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。」

* このシラバスは、対面授業を実施することを前提に作成されています。遠隔授業への変更に伴い、授業方法をはじめ、授業内容、成績評価の方法等が変わることがあります。その際には、改めて Moodle でお知らせします。ただし、教科書の変更はありません。

教科書 /Textbooks

『アプファールト<ノイ> スキットで学ぶドイツ語』 飯田道子・江口直光 三修社 2,400円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書は当分の間不要です。必要に応じて、授業開始後に参考書とともに紹介します。

ドイツ語I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマ：あいさつ(1) 文法：人称代名詞
- 第2回 テーマ：人と知り合う 文法：動詞の現在人称変化(規則動詞, sein)
- 第3回 テーマ：紹介(名前・出身地・居住地・職業・趣味) 文法：疑問文の種類と答え方
- 第4回 テーマ：時刻 / あいさつ(2) / 時を表す表現 文法：動詞の現在人称変化(haben)
- 第5回 テーマ：人を誘う / アドレスと携帯番号 文法：動詞の現在人称変化(不規則動詞)
- 第6回 テーマ：食べ物と飲み物 / メール 文法：定動詞第2位の原則, 疑問文の語順
- 第7回 テーマ：道の尋ね方・答え方 文法：duとSie / 命令形
- 第8回 テーマ：位置・方向を表す語 / 建物など 文法：名詞の性 / 定冠詞と不定冠詞
- 第9回 テーマ：～してください 文法：冠詞と名詞の格変化(1・4格)
- 第10回 テーマ：持っている? 持っていない? 文法：否定冠詞と所有冠詞(1・4格)
- 第11回 テーマ：買い物 / 値段 文法：名詞と冠詞の3格 / 複数形
- 第12回 テーマ：プレゼント 文法：人称代名詞の格変化
- 第13回 テーマ：気に入った? 文法：前置詞(1)
- 第14回 テーマ：家族・親戚 文法：否定の語を含む疑問文とその答え方
- 第15回 ドイツ語Iのまとめと補足

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 50% 定期試験 50%

- ・ 次のいずれかの条件に該当するときは「評価不能(一)」となります。
- 1. 出席回数が全授業回数の3分の2未満の場合。
- 2. 正当な理由なく、定期試験を欠席した場合。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 次回の授業で用いる会話表現の意味を確認し、覚えておくこと。
- 今回の授業で学んだ単語や基本文法を定着させるための宿題を完了しておくこと。
- ETV「旅する(ための)ドイツ語」など、授業の理解に役立つ番組を見ておくこと。

履修上の注意 /Remarks

このクラスはドイツ語を初めて習う学生が対象です。受講開始以前のドイツ語の知識は問いません。ただし、毎時間必ず出席してください。遠隔授業では毎週 Moodle を参照してください。担当者への連絡は、通常は Office 365 メールを利用してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常的な会話中心のテキストを用いて、ドイツ語の発音と文法を楽しみながら習得してください。

キーワード /Keywords

ドイツ語への入門 正確な発音と初級文法の習得

ドイツ語II【昼】

担当者名 /Instructor 古賀 正之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語II	GRM111F

授業の概要 /Course Description

ドイツ語学習を通じてドイツとヨーロッパに対する関心や理解を深めます。具体的にはドイツ語の基礎的な技能（初級文法に関する知識および運用力）の習得を目指します。私が担当するドイツ語Iのシラバスも参照してください。教科書はドイツ語Iで使用したものを継続します。

* 到達目標は、以下の「基盤教育センター 到達目標」の通りです。

「ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。」

* このシラバスは、対面授業の実施を前提に作成されています。遠隔授業の実施に伴い、授業方法をはじめ、授業内容、成績評価の方法等が変わることがあります。その際には、改めて Moodle でお知らせします。ただし、教科書の変更はありません。

教科書 /Textbooks

『アプファールト<ノイ> スキットで学ぶドイツ語』 飯田道子・江口直光 三修社 2,400円+税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要な場合には授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テーマ：週末や休暇の予定 文法：分離動詞 / 前置詞と定冠詞の融合形
- 第2回 テーマ：天候 文法：話法の助動詞 / 非人称のes
- 第3回 テーマ：一日の行動・日常生活 文法：分離動詞に似た使い方をする表現 / 形容詞
- 第4回 テーマ：過去のできごと(1) 文法：過去分詞
- 第5回 テーマ：時を表す表現(2) 文法：現在完了
- 第6回 テーマ：過去のできごと(2) 文法：過去基本形 / 過去時制
- 第7回 テーマ：位置の表現 文法：前置詞(2)
- 第8回 テーマ：～がある / 遅刻 / メルヒエン 文法：es gibt...
- 第9回 テーマ：修理 / 家事 文法：受動文
- 第10回 テーマ：開店時間・閉店時間 文法：再帰代名詞と再帰動詞
- 第11回 テーマ：料理 / 比較の表現 文法：比較級・最上級
- 第12回 テーマ：病気 / 色彩 文法：zu不定詞句
- 第13回 テーマ：ふたつの文をひとつにする 文法：従属の接続詞と副文
- 第14回 テーマ：非現実の仮定 文法：接続法2式(非現実話法)
- 第15回 ドイツ語IIのまとめと補足

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み 50% 定期試験 50%

・ 次のいずれかの条件に該当するときは「評価不能(一)」となります。

1. 出席回数が全授業回数の3分の2未満の場合。
2. 正当な理由なく、定期試験を欠席した場合。

ドイツ語II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業で取り扱うドイツ語表現の意味を教科書で確認し、暗誦できるまでになっていること。
今回の授業で学んだ単語や基本文法を定着させるための宿題を完了しておくこと。
ETV「旅する(ための)ドイツ語」など、授業の理解に役立つ番組を見ておくこと。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語IIの授業は、ドイツ語Iで学んだ知識を前提して行われます。
受講開始前にドイツ語Iの学習範囲をもう一度見直しておいてください。
遠隔授業では、毎週 Moodle を参照してください。
担当者への連絡は、通常は Office 365 メールを利用してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ドイツ語Iに続き、日常的な会話中心のテキストを用いて、ドイツ語の発音と文法を楽しみながら習得してください。

キーワード /Keywords

ドイツ語への入門 正確な発音と初級文法の習得

ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅲ	GRM102 F

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じること。

到達目標

日常生活行動をドイツ語で書き、発音する。
例えば、「君のお父さんの職業は何ですか。」とその答え。
Was ist dein Vater von Beruf?
Mein Vater ist Angestellter.

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 名前、出身、住所、挨拶。【規則動詞の現在人称変化、1・2人称、】
- 2回 名前、出身、住所を尋ねる【前置詞、副詞、疑問文、疑問詞】
- 3回 紹介、数字、電話番号【3人称、数詞】
- 4回 各国の国名、車のナンバープレート【名詞の性、定冠詞、所有冠詞】
- 5回 履修科目、言語、曜日【動詞の位置と語順】
- 6回 ドイツと日本の外国人数【冠詞の使い方】
- 7回 趣味、好きなこと、嫌いなこと【否定文の作り方】
- 8回 ドイツ人と日本人の余暇活動【不規則動詞の現在人称変化】
- 9回 好物、外国料理【接続詞】
- 10回 ドイツの食事【頻度を表す副詞】
- 11回 家族、職業、年齢、性格【不定冠詞、否定冠詞、人称代名詞、1(主)格】
- 12回 ドイツと日本の子供の数【名詞の複数形、形容詞、否定文の作り方】
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)。これらのテスト、試験を全て受けない場合、評価は「評価不能」となります。

ドイツ語Ⅲ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun (発音：ツアウン、「垣根」とtownです。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に活かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅳ	GRM112F

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツの文化を知りドイツを身近に感じること。

到達目標

日常生活行動をドイツ語で書き、発音する。
例えば、「君は週末に何をしましたか。」とその答え。
Was hast du am Wochenende gemacht?
Ich habe gejoggt.

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『スツエーネン1 場面で学ぶドイツ語』三修社

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 持ち物、持ち物を尋ねる【指示代名詞】
- 2回 傘はドイツ語でなんと言うか【4(直接目的)格】
- 3回 住居、場所の表現【前置詞、人称代名詞の3格、】
- 4回 家賃はいくらですか、部屋の広さは
- 5回 時刻の表現、テレビを何時間みるか【非人称動詞の主語es】
- 6回 日付、曜日、誕生日、今週の予定
- 7回 大学の建物、道案内、【副詞】
- 8回 交通手段、ドイツの大学【Sieに対する命令形、疑問詞womit】
- 9回 休暇の計画、手紙の書き方【話法の助動詞】
- 10回 ドイツで人気のある休暇先【疑問詞】
- 11回 過去の表現、天気、日記【完了形、過去人称変化】
- 12回 クイズ：ドイツの首都は。再統一はいつ。
- 13回 1回から6回までのキーワードの復習
- 14回 7回から12回までのキーワードの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)。これらのテスト、試験を全て受けない場合、評価は「評価不能」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun (発音：ツアウン、「垣根」) と town です。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に活かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅴ	GRM201 F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。

旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

到達目標

自分の日常生活行動をドイツ語で書き、発音する。
例えば、「君は昼食に何を食べますか。」とその答え。

Was isst du zu Mittag?

Ich esse Udon.

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ザビーネとパウルはハンブルクへ行きます。【時刻表】
- 2回 駅の券売窓口で。【列車の乗り換え】
- 3回 私達は注文したいのですが。【レストランで】
- 4回 部屋は空いていますか？【ホテルで】
- 5回 郵便局へはどう行けばいいですか？【道を教える】
- 6回 円をユーロに両替したいのですが。【銀行で】
- 7回 フライブルクはミュンヘンより暖かいです。【天気】
- 8回 ドイツの休暇の過ごし方。【長期休暇】
- 9回 どこが悪いのですか？【病気】
- 10回 頭痛に効く薬が欲しいのですが。【薬局で】
- 11回 君は彼女に何をプレゼントしますか？【贈り物】
- 12回 ドイツ人はお祝いをするのがとても好きです。【誕生日祝い】
- 13回 ドイツ語でクロスワード遊び。
- 14回 一日の活動を日記に書く。
- 15回 まとめ

ドイツ語Ⅴ【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)。これらのテスト、試験を全て受けない場合、評価は「評価不能」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語VI	GRM211 F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。

旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

到達目標

日常生活行動をドイツ語で書き、発音する。

例えば、「君はもうクリスマスを楽しみにしていますか。」とその答え。

Freust du dich schon auf Weihnachten?

Ja, schon.

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 パーティーに何を着ますか？【服装】
- 2回 このグレーのスラックスはいいかがですか？【お店で】
- 3回 家庭のゴミはどのように分類しますか？【環境問題】
- 4回 ドイツの学校の環境プロジェクト。【無駄を省く】
- 5回 ここで犬を放してはいけません。【禁止】
- 6回 何歳になったら何ができますか？【選挙権】
- 7回 ドイツの学校制度。【教育】
- 8回 パン屋になるためには大学へ行く必要はありません。【資格】
- 9回 あなたは何に興味がありますか？【職業】
- 10回 イースターはなぜ特別なお祭りなのですか？【祝日】
- 11回 イースターのウサギが語ります【祭り】
- 12回 君はクリスマスを楽しみにしていますか？【年末】
- 13回 君達はクリスマスには何をしますか。【年末】
- 14回 クリスマスクッキーの作り方。
- 15回 まとめ

ドイツ語VI 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)。これらのテスト、試験を全て受けない場合、評価は「評価不能」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅶ	GRM202 F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。

旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

到達目標

スマホのGoogleで「heute logo nachrichten」で検索し、子供ニュース「Kindernachrichten」を字幕と共に見て、理解し、シャドーイングする。

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自己紹介、人の紹介、お礼をいうとき、お礼をいわれたとき
- 2回 人に会ったとき、人と別れるとき、知人に会ったとき、人と別れるとき
- 3回 軽く詫びて話しかけるとき、謝るとき、ちょっと席をはずすとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 人と別れるとき、相手の成功を祈るとき、お礼を言うとき
- 6回 相手の言うことが聞き取れないとき
- 7回 理解できないとき、単語が分からないとき、ドイツ語で何と言うか聞くと
- 8回 綴りを聞くと、英語の分る人を探すとき、いい直しをするとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 場所を聞くと、道順・方向を聞くと、距離を聞くと
- 11回 時刻を聞くと、時間を聞くと、曜日を聞くと、日付を聞くと
- 12回 値段を聞くと、数量を聞くと、方法を聞くと、理由を聞くと
- 13回 目的を聞くと、住所を聞くと、出身地を聞くと、生年月日を聞くと
- 14回 ドイツのビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)。これらのテスト、試験を全て受けない場合、評価は「評価不能」となります。

ドイツ語Ⅶ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 英中国済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	ドイツ語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		ドイツ語Ⅷ	GRM212F

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。

旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

到達目標

スマホのGoogleで「heute logo nachrichten」を検索し、子供ニュース「Kindernachrichten」を字幕と共に見て、理解し、シャドーイングする。

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 事情を聞くとき、あることを頼むとき、人に何かを頼むとき
- 2回 両替を頼むとき、助力を求めるとき、助言を求めるとき
- 3回 服を買うとき、席・切符の予約をするとき、人に助言をするとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 相手の助言に応じるとき、相手の助言に応じられないとき、人を誘うとき
- 6回 自分の考え・意見を言うとき、相手の意見を聞くとき、相手の感想を聞くとき
- 7回 相手の発言・意見に同意するとき、関心事について言うとき、希望を言うとき
- 8回 予定・計画を言うとき、相手の都合が合わないとき、相手が気の毒な状態のとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 病状を言うとき、身体の具合を聞くとき、体調を言うとき
- 11回 会う日を相談するとき、会う場所を相談するとき、相手の都合を聞くとき
- 12回 自分の都合を説明するとき、場所と時間を確認するとき、招待に感謝するとき
- 13回 贈り物・お土産を渡すとき、飲み物を聞くとき、料理を勧めるとき
- 14回 ドイツビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)。これらのテスト、試験を全て受けない場合、評価は「評価不能」となります。

ドイツ語VIII 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語 I	FRN101 F

授業の概要 /Course Description

初級文法の習得をとおしてフランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。

到達目標

【技能】フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『新・彼女は食いしん坊！1』（藤田裕二著 朝日出版社 ￥2400＋税）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全12課、配列に従って原則二回で1課進み、1学期は第6課まで終了。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 フランス語の発音とつづり字
- 2回 国籍・職業をいう
- 3回 主語人称代名詞と動詞 etre の使い方
- 4回 名前・持ち物をいう
- 5回 動詞 avoir と冠詞の使い方
- 6回 友人・家族を紹介する
- 7回 第一群規則動詞と所有形容詞の使い方
- 8回 疑問文の作り方
- 9回 人・物を説明する
- 10回 形容詞の使い方
- 11回 電話をかける、近い未来・過去についていう
- 12回 指示形容詞、人称代名詞強勢形の使い方
- 13回 人、物、場所、時についてたずねる
- 14回 疑問詞の使い方
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 期末試験...80%

試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキスト各課の本文(会話文)を付属CDをつかって聴き取りと発音練習をしてください。

事後学習：毎回講義で学んだ文法事項を復習し覚えていってください。

フランス語I【昼】

履修上の注意 /Remarks

仏和辞典を各自用意すること(紙・電子どちらでもよい)
遅くとも2回目の講義までには教科書を用意しておくこと(事情により入手が遅れる場合は、講義開始前に申し出ること)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

連続して欠席すると、講義内容についていくのが困難となります。
正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

はじめて学ぶフランス語

フランス語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 広一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅱ	FRN111F

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、フランス語の日常会話と文章読解・表現の基礎を学びます。

到達目標

【技能】フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『新・彼女は食いしん坊！1』（藤田裕二著 朝日出版社 ￥2400＋税）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書は全12課、配列に従って2学期は第7課から第12課まで。

以下のスケジュールで基本表現を学んでいきます。

- 1回 食べ物・飲み物について
- 2回 部分冠詞、数量の表現について
- 3回 時刻・天候について
- 4回 疑問形容詞と命令形
- 5回 非人称構文と第二群規則動詞について
- 6回 人・物を比較する
- 7回 比較級と最上級の表現
- 8回 人を紹介する
- 9回 補語人称代名詞の使い方
- 10回 代名動詞について
- 11回 過去のことを話す
- 12回 複合過去の作り方
- 13回 未来のことを話す
- 14回 単純未来の作り方
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% 期末試験...80%
試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキスト各課の本文（会話文）を付属のCDをつかって聴き取りと発音練習をしてください。
事後学習：毎回講義で学んだ文法事項を復習し覚えていってください。

履修上の注意 /Remarks

仏和辞典を各自用意すること（紙・電子どちらでもよい）
教科書は1回目の講義から用意しておくこと。
1学期に最低1科目はフランス語の講義を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

正当な理由がある場合をのぞき、遅刻・途中退室は欠席扱いとします。

キーワード /Keywords

フランス語を生きた言葉として実感

フランス語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅲ	FRN102 F

授業の概要 /Course Description

初級フランス語学習の常として、基本的な文法事項の説明はしますが、フランス文化に触れつつ、会話や作文に重点を置きたいと考えています。そしてフランス語を正確に読み、発音できるようになってほしいと思います。発音を学ぶにあたっては、調音点・調音法など音声学的な分類をふまえながら、図あるいは映像を使い、目からも耳からも理解できるようにします。そうしてフランス語の音の学習を重ねていく課程で、我々が日常用いる言葉の構成要素である音の、ふだん意識されることのない側面を認識してもらえればとも思います。またフランス映画を何度か鑑賞し、学習の成果を確認します。

教科書 /Textbooks

シエ・マドレーヌ

東海麻衣子、ジャン＝ガブリエル サントニ 著、朝日出版社刊

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

フランス語Ⅲ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本のアニメをフランス語で見る(1)
〈文法〉フランス語の子音と母音
- 2回 日本のアニメをフランス語で見る(2)
〈文法〉フランス語の読み方
- 3回 自己紹介とあいさつ、フランスという国(1)
〈文法〉名詞の性と数
- 4回 職業について語る、フランスという国(2)
〈文法〉主語人称代名詞、動詞 être、否定形
- 5回 住んでいるところについて語る、世界の中のフランス語(1)
〈文法〉-er 動詞、不定冠詞と定冠詞
- 6回 カフェで注文してみる、世界の中のフランス語(2)
〈文法〉形容詞〔1〕
- 7回 様々な言語について、日本の中のフランス語、フランスの中の日本語(1)
〈文法〉動詞 avoir、疑問文
- 8回 持ち物について語る、日本の中のフランス語、フランスの中の日本語(2)
〈文法〉人称代名詞の強勢形、疑問形容詞、数字 11~20
- 9回 家族について語る、ジャパ・エキスポ(1)
〈文法〉所有形容詞
- 10回 人物を描写してみる、ジャパ・エキスポ(2)
〈文法〉不規則動詞 aller, venir, vouloir、国名につく前置詞
- 11回 インタビュー、フランスの地方の魅力(1)
〈文法〉部分冠詞、指示形容詞
- 12回 さまざまな質問、フランスの地方の魅力(2)
〈文法〉疑問代名詞
- 13回 好きな食べ物について語る、フランスの朝ごはん(1)
〈文法〉疑問副詞、前置詞と定冠詞の縮約
- 14回 服装について語る、フランスの朝ごはん(2)
〈文法〉命令形、-ir 動詞
- 15回 復習と確認(フランス映画の鑑賞と感想)

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の課題(50%)、学期末試験の結果(50%)を総合的に考慮して評価を行います。ただしどちらかに著しい成果をみせた場合には、別途考慮します。また大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語検定試験5級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Cを保証します。定期試験を受験しなかった場合は、評価不能となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

この講義は復習を前提としています。復習を終えた後、余裕があれば予習をしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フランス語は国連公用語の一つであり、英語とともに「国連事務局作業用語」として定義されています。また世界29カ国で公用語として用いられており、利用価値の高い言語です。

キーワード /Keywords

フランス語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 中川 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営人律政1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅳ	FRN112F

授業の概要 /Course Description

1学期と同じくフランス文化に触れつつ、基本的な文法事項を学びながら、より高いレベルの会話力の取得を目指します。フランス語を前期以上に正確に読み発音できるようになってほしいと思います。前期と同様にフランス映画を鑑賞し、学習の成果を確認します。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

シエ・マドレーヌ
東海麻衣子 ジャン＝ガブリエル サントニ著、朝日出版社刊

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典

フランス語Ⅳ 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 スポーツについて語る、フランスのヴァカンス(1)
〈文法〉形容詞(2)
- 2回 朝食について語る、フランスのヴァカンス(2)
〈文法〉数量表現、不規則動詞 savoir, voir, mettre
- 3回 人を誘ってみる、フランスの世界遺産(1)
〈文法〉目的補語人称代名詞
- 4回 行き先を聞く、フランスの世界遺産(2)
〈文法〉非人称構文、数字 21~69
- 5回 日常生活について(1)、フランスのホームパーティー(1)
〈文法〉代名動詞(1)
- 6回 日常生活について(2)、フランスのホームパーティー(2)
〈文法〉代名動詞(2)
- 7回 有名人について語る、フランスのスポーツ(1)
〈文法〉形容詞と副詞の比較級(1)
- 8回 アルバイトについて語る、フランスのスポーツ(2)
〈文法〉形容詞と副詞の比較級(2)
- 9回 レストランで(1)、フランス人の余暇(映画・音楽)(1)
〈文法〉複合過去(1)
- 10回 レストランで(2)、フランス人の余暇(映画・音楽)(2)
〈文法〉複合過去(2)、中性代名詞 en
- 11回 過去について語る(1)、フランスの美術館(1)
〈文法〉半過去(1)
- 12回 過去について語る(2)、フランスの美術館(2)
〈文法〉半過去(2)、中性代名詞 y と le
- 13回 メールを書く、フランスの教育制度
〈文法〉命令形
- 14回 近い未来の計画について話す、フランスの大学生生活
〈文法〉近接未来
- 15回 復習と確認(フランス映画の鑑賞と感想)

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の課題(50%)と学期末試験の結果(50%)を総合的に考慮して評価を行います。ただしどちらかに著しい成果をみせた場合には別途考慮します。また大学の単位認定制度とは別に、本学期中にフランス語検定試験4級以上を獲得した学生には、申し出により成績評価Cを保証します。定期試験を受験しなかった場合は、評価不能となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

この講義は復習を前提としています。復習を終えた後、余裕があれば予習をしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フランス語は国連公用語のひとつであり、英語とともに「国連事務局作業用語」として定義されています。また世界29カ国で公用語として用いられており、利用価値の高い言語です。

キーワード /Keywords

フランス語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅴ	FRN201 F

授業の概要 /Course Description

フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができることを目指します。
1年生で学んだ内容を踏まえ、さらに高度な文法を学んでいきましょう。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、中級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

松村博史他『クロワッサン 2』、朝日出版 2300円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

皆さんの質問や必要に応じて、授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：1課Dialogue、自己紹介
 - 第2回：複合過去の復習
 - 第3回：2課Dialogue、直接目的補語と間接目的補語
 - 第4回：強制形、
 - 第5回：小テスト① 3課Dialogue、代名動詞
 - 第6回：代名動詞の複合過去
 - 第7回：4課Dialogue、中性代名詞、
 - 第8回：指示代名詞
 - 第9回：小テスト②、5課Dialogue
 - 第10回：前未来
 - 第11回：現在分詞とジェロンディフ、過去分詞と受動態
 - 第12回：小テスト③、所有代名詞
 - 第13回：6課
 - 第14回：7課Dialogue、複合過去と半過去
 - 第15回：大過去
- ※上記は目安であり、習熟度によって変わる可能性があります。

フランス語Ⅴ【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト30%
授業中の取り組み20%
期末テスト50%
ただし出席が前提です。
4回以上欠席した場合、または期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習、復習をしっかりと行うこと

履修上の注意 /Remarks

必ず辞書を持参して下さい。紙でも電子辞書でも構いませんが、スマートフォンは不可です。
すでに一年間フランス語を履修した学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語VI	FRN211F

授業の概要 /Course Description

前期に引き続き、フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができることを目指します。
1年生で学んだ内容を踏まえ、さらに高度な文法を学んでいきましょう。
VIではLe petit prince (『星の王子さま』) のリーディングも行います。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、中級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

村松博史『クロワッサン2』、朝日出版、2300円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Le Petit Prince (Antoine de Saint-Exupéry, Gallimard) ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：7課までの復習
- 第2回：8課Dialogue、時を表す接続詞
- 第3回：小テスト①、理由・条件を表す接続詞
- 第4回：長文読解(歌詞)
- 第5回：9課Dialogue、条件法現在
- 第6回：条件法過去
- 第7回：12課
- 第8回：小テスト②、10課Dialogue、関係代名詞
- 第9回：強調構文
- 第10回：11課Dialogue、接続法
- 第11回：小テスト③、リスニング
- 第12回：長文読解(『星の王子さま』狐の話)
- 第13回：長文読解(『星の王子さま』献辞)
- 第14回：長文読解(『星の王子さま』第1章)
- 第15回：長文読解(『星の王子さま』バオバブの話)

※上記はあくまで目安であり、習熟度に合わせて進度が変化する場合があります。

フランス語VI 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト30%
授業中の取り組み20%
期末テスト50%
ただし出席が前提です。
4回以上欠席した場合、または期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習復習をしっかりと行うこと。

履修上の注意 /Remarks

必ず辞書を持参して下さい。紙でも電子辞書でもどちらでも構いませんが、スマートフォンは不可です。
すでに一年間フランス語を学んだ学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅶ	FRN202 F

授業の概要 /Course Description

日常的な場面でのフランス語会話を養うことを中心に、発音や聞き取りの力をつけることも目指します。ペア、またはグループでの会話を通して、なめらかにフランス語で意思疎通が測れるよう練習します。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、中級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

Albéric DERIBLE他『Rythmes & communication』、朝日出版、税別2500円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1) unité 1: 自己紹介 (前半)
- 2) unité 1: 自己紹介 (後半)
- 3) unité 1: 自己紹介 (総括)
- 4) unité 2: 質問する (前半)
- 5) unité 2: 質問する (後半)
- 6) unité 2: 質問する (総括)、小テスト
- 7) unité 3: 買い物をする (前半)
- 8) unité 3: 買い物をする (後半)
- 9) unité 3: 買い物をする (総括)
- 10) unité 4: いつ (前半)
- 11) unité 4: いつ (後半)
- 12) unité 4: いつ (総括)、小テスト
- 13) unité 5: どこ (前半)
- 14) unité 5: どこ (後半)
- 15) unité 5: どこ (総括)

上記は目安であり、受講生の理解度や関心に合わせて変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(2回)・・・40%

期末テスト・・・40%

授業中の取り組み・・・20%

ただし出席が前提です。

4回以上欠席した場合、または期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

会話は復習を、読解は予習を行うこと。

フランス語VII 【昼】

履修上の注意 /Remarks

必ず辞書を持参すること。紙でも電子辞書でもどちらでも構いませんが、スマートフォンは不可です。
すでに一年間フランス語を履修した学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 英中国済営比人律 政2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	フランス語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		フランス語Ⅷ	FRN212F

授業の概要 /Course Description

前期に引き続き、フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができることを目指します。日常的な場面でのフランス語会話を養うことを中心に、発音や聞き取りの力をつけることも目指します。ペア、またはグループでの会話を通して、なめらかにフランス語で意思疎通が測れるよう練習します。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、中級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

Albéric DERIBLE他『Rythmes & communication』、朝日出版、税別2500円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

皆さんからの質問や必要に応じて、授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1) 前期の復習、unité 6：誰(前半)
- 2) unité 6：誰(後半)
- 3) unité 6：誰(総括)、リスニング
- 4) unité 7：何(前半)
- 5) unité 7：何(後半)
- 6) unité 7：何(総括)、小テスト
- 7) unité 8：どのように(前半)
- 8) unité 8：どのように(後半)
- 9) unité 8：どのように(総括)、読解
- 10) unité 9：過去について(前半)
- 11) unité 9：過去について(後半)
- 12) unité 9：過去について(総括)、小テスト
- 13) unité 10：仮定、条件(前半)
- 14) unité 10：仮定、条件(後半)
- 15) 後期の復習、プレゼンテーション

上記は目安であり、受講生の理解度や関心に合わせて変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の取り組み・・・20%
小テスト(2回)・・・40%
プレゼンテーション・・・20%
レポート・・・20%
ただし出席が前提です。
4回以上欠席した場合、またはプレゼンテーションを行わなかった場合は、評価不能(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

会話は復習を、読解は予習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

必ず辞書を持参すること。紙でも電子辞書でもどちらでも構いませんが、スマートフォンは不可です。
すでに一年間フランス語を履修した学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語

スペイン語I【昼】

担当者名 /Instructor 宮城 志帆 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語 I	SPN101 F

授業の概要 /Course Description

スペイン語を初めて学ぶ学生が対象の授業です。文法事項を中心に練習問題や会話文、文化紹介も扱うテキストを使用し、基礎的なスペイン語文法を学習します。授業で新しく学ぶ内容は次週の学習内容のベースとなり、その繰り返しでスペイン語を身につけていきます。そのため復習と予習を毎週しっかりと行って下さい。授業ではスペイン語圏の文化についても紹介する予定です。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

岡田敦美・那須まどり『改訂版 エスピゲータ 一実りのスペイン語I』朝日出版社 2022年 ¥2,530

※初版は2017年ですが、今年改訂版が発行されています。授業では2022年の改訂版を使うので、購入時にしっかり確認して下さい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書を必ず準備して下さい。ただ詳細は初回授業で説明しますので、購入はその後で大丈夫です。

iPhoneやiPadの使用者には「辞書by物書堂」というアプリをお勧めします。アプリ内ストアで、小学館の『西和中辞典』と『和西辞典』がセットになった辞書コンテンツ「小学館 西和中辞典・和西辞典」を買うことができます。Android用としてはLogoVista提供のアプリに白水社『現代スペイン語辞典・和西辞典 改訂版』があります。

代表的な中型辞書として小学館『西和中辞典』、白水社『現代スペイン語辞典』、研究者『プエルタ新スペイン語辞典』、三省堂『クラウン西和辞典』などがあります。小型辞書は小学館『プログレッシブ スペイン語辞典<第2版>カレッジエディション』、『ポケットプログレッシブ 西和・和西辞典』、三省堂『デイリーコンサイズ 西和・和西辞典』などがあります。書店や生協で購入可能です。

電子辞書の使用者には、スペイン語辞書の追加コンテンツもあります。

スペイン語I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン、文字と発音
- 第2回 音節分け、アクセント
- 第3回 名詞の性数、冠詞、形容詞
- 第4回 主格人称代名詞、ser動詞、文の構造
- 第5回 指示語、estar動詞
- 第6回 小テスト1 (1 ~ 3 課)、形容詞、hay
- 第7回 現在形規則活用
- 第8回 規則活用の練習、日付、時間
- 第9回 現在形不規則活用 (語幹母音変化)
- 第10回 直接目的格人称代名詞、muyとmucho
- 第11回 小テスト2 (4 ~ 6 課)、現在形不規則活用 (yo不規則、複合型)
- 第12回 現在形不規則活用 (その他)、間接目的格人称代名詞
- 第13回 gustar型動詞、前置詞格人称代名詞
- 第14回 gustar型動詞の練習、天候
- 第15回 小テスト3 (7・8 課)、地図を使った学習、文化演習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験70%、小テスト(3回)30%
※定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回分の復習と次回分の予習を必ず行って下さい。また教科書やプリントの練習問題について、指定された箇所を解き終えた状態で次の授業を受けて下さい。随時紹介するオンライン資料も次までに確認・視聴しましょう。スペイン放送協会RTVEのWebサイト (<https://www.rtve.es/play/videos/directo/24h/>) やRTVE Noticiasというニュースアプリで、スペイン語のニュースを24時間見ることが出来ます

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語という新しい言語との出会いを楽しみましょう。そのために授業ではスペイン語を使う上での基本ルール (= 文法) を覚えていきます。音楽や映画、書籍、絵画、料理、スポーツなど様々なテーマでスペイン語圏の文化に積極的に触れてみましょう。

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン ラテンアメリカ 言語 外国語 初級文法 異文化理解 国際コミュニケーション

スペイン語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 宮城 志帆 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅱ	SPN111F

授業の概要 /Course Description

1学期の「スペイン語Ⅰ」に引き続き、初級文法の学習を進めます。現在形の再帰動詞及び過去形と完了形を中心に扱います。未来形や接続法も導入することにより、修了後の更なる学習へ繋がるレベルを目指します。スペイン語圏の文化やニュースについても紹介します。(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

岡田敦美・那須まどり『改訂版 エスピギータ 一実りのスペイン語Ⅰ』朝日出版社 2022年 ¥2,530

※1学期「スペイン語Ⅰ」と同じテキストの続きを扱います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1学期で用意した辞書を引き続き使います。その他の参考書は授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 1学期の復習、再帰動詞
- 第2回 無人称文、接続詞que
- 第3回 点過去形規則活用
- 第4回 点過去形規則活用の練習
- 第5回 小テスト1(9・10課)、点過去形不規則活用
- 第6回 点過去形不規則活用の練習、関係代名詞que、所有形容詞後置形
- 第7回 小テスト2(10・11課)、点過去形の練習
- 第8回 現在分詞、不定語・否定語
- 第9回 過去分詞、現在完了形、受動態
- 第10回 小テスト3(12・13課)、比較級
- 第11回 最上級、関係副詞donde
- 第12回 線過去形、過去形の使い分け
- 第13回 小テスト4(14・15課)、過去形の練習、未来形の紹介
- 第14回 過去未来形・命令形・接続法の紹介
- 第15回 2学期の総復習、地図を使った学習、文化演習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験70%、小テスト(4回)30%

※定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回分の復習と次回分の予習を必ず行って下さい。また教科書やプリントの練習問題について、指定された箇所を解き終えた状態で次の授業を受けて下さい。随時紹介するオンライン資料も次までに確認・視聴しましょう。スペイン放送協会RTVEのWebサイト

(<https://www.rtve.es/play/videos/directo/24h/>) やRTVE Noticiasというニュースアプリで、スペイン語のニュースを24時間見ることが出来ます

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「スペイン語II」では過去形や完了形など現在形以外の時制も学びます。辞書にも慣れ表現できることの幅が広がるだけでなく、好きな曲の歌詞が理解できるようになったり、憧れのスポーツ選手のプロフィールやインタビューが読めるようになったりします。覚えることはたくさんありますが、自分の「好き」をスペイン語で楽しむ体験を積み重ねていって欲しいと思います。

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン ラテンアメリカ 言語 外国語 初級文法 異文化理解 国際コミュニケーション

スペイン語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅲ	SPN102 F

授業の概要 /Course Description

この授業では日常会話に必要な語彙や言い回し・会話表現に有効な文法事項を学びながら、簡単なコミュニケーションを取ることを目指します。教科書に従い、語彙の確認、会話の暗記の後、語彙を増やしながら応用の会話もすぐ口から出てくるように何度も練習します。その後アクティビティを通してペアであるいはクラス内でスペイン語で相手に尋ね、また相手から尋ねられたらスペイン語で答える練習をします。スペイン語の知識が全くない人を対象に、スペイン語の読み方・発音・アクセントの規則からはじめます。スペイン語の発音は日本語話者に易しく、発音しやすいのでどんどん単語や文を発音し慣れていきましょう。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『彩りスペイン語Español Colorido』辻博子、野村明衣著、朝日出版社、2021

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

西和・和西辞書については開講時に指示します。開講前に慌てて購入することはありません。

西和辞書として薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1課 スペイン語とスペイン語圏について、スペイン語のアルファベット、発音、アクセント
- 2回 スペイン語の発音とアクセントの確認、挨拶、数字「おはよう。」
- 3回 2課 名詞、冠詞「ロス・アンヘレス」
- 4回 名詞・冠詞の確認
- 5回 3課 形容詞、主語、ser動詞「私は学生です」
- 6回 ser動詞の確認「どちらの出身ですか」
- 7回 ser動詞確認テスト、4課 規則活用動詞「スペイン語を話しますか」
- 8回 規則活用動詞と頻度表現「私は週に2度スペイン語を習います」
- 9回 5課 指示詞、所有詞「これはわたしのです」
- 10回 日付、時間表現「今何時ですか」
- 11回 6課 estar動詞、ser動詞との違い「あの人は今日怒っている」
- 12回 hay、estar動詞との違い「今家にいますか」
- 13回 ser、estar、hayのまとめテスト「今日の恰好はともすてきだね」
- 14回 スペイン語のビデオを見てみよう
- 15回 まとめ

スペイン語Ⅲ【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、 小テスト 30%、 日常の授業への取り組み 20%
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、単語を辞書などを使いあらかじめ調べてくること。授業後には、動詞の活用や表現などを何度も練習し覚えること。

履修上の注意 /Remarks

スペイン語I(文法)の授業を履修しながら(あるいはすでに過去に履修など)であれば、理解度が深まりますし、より多くのスペイン語に接する機会が増えるので、効果的にスペイン語会話が学べます。必修でなくてもぜひ文法の方も履修することを勧めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

初めて接する言語ですから、何度も声に出して発音しましょう。自身で発音し、その音を耳にすることも立派な学習です。

また、スペイン語の音に慣れていくためにインターネット上の素材をどんどん聞いて有効活用しましょう。

参考サイト：

<http://www.rtve.es/> (TVE、スペイン国营放送。テレビとラジオを持つ。)

<http://www.cadena100.es/> (スペインのFMラジオ放送のサイト。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。)

キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン、スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

スペイン語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営人律政 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅳ	SPN112F

授業の概要 /Course Description

1学期と同様、この授業では日常会話に必要な語彙や言い回し・会話表現に有効な文法事項を学びながら、簡単なコミュニケーションを取ることを目指します。教科書に従い、語彙の確認、文法事項の確認、会話の暗記の後、語彙を増やしながら応用の会話もすく口から出てくるように何度も練習します。その後アクティビティを通してペアであるいはクラス内でスペイン語で相手に尋ね、また相手から尋ねられたらスペイン語で答える練習をします。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『彩りスペイン語Español Colorido』辻博子、野村明衣著、朝日出版社、2021 (1学期と同じ)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

西和・和西辞書については開講時に指示します。開講前に慌てて購入することはありません。

西和辞書として薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1学期の復習、7課 不規則活用動詞1、時間表現2「電車は午後3時に出ます」
- 2回 直接目的格人称代名詞、間接疑問文「ルイスはどこに住んでいるか知っていますか」
- 3回 8課 不規則活用動詞2「コーヒーがほしいですか」
- 4回 間接目的格人称代名詞、2つの目的格人称代名詞のまとめ「誰にそれをあげるの」
- 5回 9課 不規則活用動詞3「兄弟はいますか」
- 6回 不規則活用動詞まとめ、前置詞格人称代名詞
- 7回 gustarとgustar型動詞
- 8回 7課～9課 まとめテスト、10課 不定語・否定語、天候表現「今日は寒い」
- 9回 比較表現「私はラウルより背が高い」
- 10回 11課 再帰動詞「私は朝7時に起きます」
- 11回 再帰動詞確認「もう帰っちゃうの」
- 12回 後期まとめ
- 13回 スペイン語のビデオを見てみよう1
- 14回 スペイン語のビデオを見てみよう2
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、小テスト 30%、日常の授業への取り組み 20%
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

スペイン語Ⅳ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、単語を辞書などを使いあらかじめ調べてくること。授業後には、動詞の活用や表現などを何度も練習し覚えること。

履修上の注意 /Remarks

スペイン語Ⅱ(文法)の授業を履修しながら(あるいはすでに過去に履修など)であれば、理解度が深まりますし、より多くのスペイン語に接する機会が増えるので、効果的にスペイン語会話が学べます。必修でなくてもぜひ文法の方も履修することを勧めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語の音に慣れていくためにインターネット上の素材をどんどん聞いて有効活用しましょう。

参考サイト：

<http://www.rtve.es/> (スペイン国营放送)

<http://www.cadena100.es/> (スペインのFMラジオ放送のサイト。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。)

キーワード /Keywords

スペイン語、スペイン、スペイン語圏、中南米、ラテンアメリカ

スペイン語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅴ	SPN201 F

授業の概要 /Course Description

昨年度（1年次）の続きとして、中級程度以上のスペイン語の文法と表現を学びながら、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします。授業を通じて随時スペイン語圏の文化に接することができるような教材も紹介します。

（到達目標）

【技能】スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

昨年のテキストの文法事項の続きをしますが、テキストは用いず、moodleから教材のプリントに文法事項の内容をまとめたものを送るので、それを見ながら、文法事項を積み上げていきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞典：
 スペイン語中辞典（小学館）
 新スペイン語（研究社）
 現代スペイン語辞典（白水社）
 プロGRESSIVスペイン語辞典（小学館）
 級スペイン語辞典（白水社）
 他多数有。
 白水社の別の西和辞典（高橋編）は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。
 和西辞典：
 和西辞典（宮城、コントレラス監修：白水社）
 クラウン和西辞典（三省堂）
 その他
 図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）
 スペインの歴史（立石、関、中川、中塚著：昭和堂）
 スペイン（増田監修：新潮社）
 スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）
 スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）
 スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）
 スペイン語とつきあう本（寿里著：東洋書店）
 スペイン語基礎文法（ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）

スペイン語Ⅴ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 年次の進度が若干異なるため、最初に復習を多めにやります。
- 1 1年の復習(代名詞を中心に)(1)
- 2 1年の復習(代名詞を中心に)(2)
- 3 1年の復習(代名詞を中心に)(3)
- 4 スペイン語の動詞活用の全体像について
- 5 点過去・線過去・現在完了の用法(1)
- 6 同上(2)
- 7 同上(3)
- 8 動詞の派生形とその用法(進行形、完了形、命令形など)(1)
- 7 同上(2)
- 9 未来形・過去未来・過去完了(1)
- 10 同上(2)
- 11 同上(3)
- 12 上記時制も含め、重要な文法事項：複文(副詞節・形容詞節)(1)
- 13 同上(2)
- 14 同上(3)
- 15 点過去と線過去の違いについてと、ここまでの復習(1)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価(小テスト、口頭での答え、作文など)も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は下で述べる平常点を一切加味せず定期試験の点数(80%)だけで評価します。その1/3の条件を満たしている範囲での欠席は構いません。なお、クラブ活動など一切欠席届は認めません。

定期試験が60点以上ならば無条件で単位を認定しますが、60点を下回る場合にも授業中評価が優秀な場合は20%を超えて加点して評価します。平常点は普段の教室でのやりとり(読む、書くなど)や小テストの点数を半期に亘って数値化します。したがって、欠席が多い場合(例えば小テストを受けていないとか、授業中答えていないなど)は授業中評価が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

定期試験80% + 授業中評価20% = 100% で 60% で単位を認定します。

出欠について：全体の回数の3分の1以上の欠席については授業中評価を加点できません。

評価不能：定期試験を受験しなかった場合は評価できませんので、注意して下さい。

なお、新型コロナウイルスの状況によって、オンライン授業になった場合には評価の方法を変更しますが、その時点で詳しく説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

動詞の活用を中心として、学習したことをしっかりと復習しましょう(復習重視で、30分程度は必要になります)。また小テストがある場合はしっかりと準備しましょう(30分程度)。

履修上の注意 /Remarks

上記文法資料に対するプリントなどの補助教材はポータル(moodle)から送ります。授業時に詳しく説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp(北九大メールではなく、こちらに送って下さい)

キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう！

スペイン語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語VI	SPN211F

授業の概要 /Course Description

スペイン語の中級から上級の文法を理解し使えるようにすることを目標にします。詳しくは授業計画を参照。前期のスペイン語Vに引き続き、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

昨年度のテキストの前期の続きを、moodleから補助教材のプリントにテキストの内容をまとめたものを送るので、それを見ながら、文法事項をまとめていきます。

最後にスペイン語版のアニメ（題材未定）を見ながら、表現の聞き取りの練習を楽しみながらやりましょう。

スペイン語Vのプリントもmoodleに残っているので、スペイン語VIから受講の場合も教材はすべてそろいます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

スペイン語中辞典 (小学館)

新スペイン語 (研究社)

現代スペイン語辞典 (白水社)

プログレッシブスペイン語辞典 (小学館)

パスポート初級スペイン語辞典 (白水社)

他多数有。

白水社の別の西和辞典 (高橋編) は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。

和西辞典:

和西辞典 (宮城、コントレラス監修: 白水社)

クラウン和西辞典 (三省堂)

その他

図説スペインの歴史 (川成洋、中西省三編: 河出書房新社)

スペインの歴史 (立石、関、中川、中塚著: 昭和堂)

スペイン (増田監修: 新潮社)

スペインの社会 (寿里、原編: 早稲田大学出版)

スペインの政治 (川成、奥島編: 早稲田大学出版)

スペインの経済 (戸門、原編: 早稲田大学出版)

スペイン語とつきあう本 (寿里著: 東洋書店)

スペイン語基礎文法 (ロボ、大森、広康共訳: ピアソンエデュケーション)

スペイン語VI 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 前期を含め、様々な構文のまとめ(受け身、使役、放任、比較など)(1)
 - 2 同上(2)
 - 3 時制の一致
 - 4 再帰動詞(1)
 - 5 同上(2)
 - 6 いくつかの文法事項(感嘆文、比較表現)
 - 7 同上(2)
 - 8 接続法の活用全般について
 - 9 接続法の用法(1)
 - 10 同上(2)
 - 11 同上(3)
 - 12 スペイン語版アニメ(題材未定)による聞き取りと訳
 - 13 同上(2)
 - 14 同上(3)
 - 15 まとめ
- 授業全体を通じて、スペイン語の表現を覚えるための会話・講読教材を随時学びます。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価(小テスト、口頭での答え、作文など)も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は下で述べる平常点を一切加味せず定期試験の点数(80%)だけで評価します。その1/3の条件を満たしている範囲での欠席は構いません。なお、クラブ活動など一切欠席届は認めません。

定期試験が60点以上ならば無条件で単位を認定しますが、60点を下回る場合にも授業中評価が優秀な場合は20%を超えて加点して評価します。平常点は普通の教室でのやりとり(読む、書くなど)や小テストの点数を半期に亘って数値化します。したがって、欠席が多い場合(例えば小テストを受けていないとか、授業中答えていないなど)は授業中評価が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

定期試験80% + 授業中評価20% = 100% で 60% で単位を認定します。

出欠について: 全体の回数の3分の1以上の欠席については授業中評価を加点できません。

評価不能: 定期試験を受験しなかった場合は評価できませんので、注意して下さい。

なお、新型コロナの状況によって、オンライン授業になった場合には評価の方法を変更しますが、その時点で詳しく説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

活用を中心として、学習したことをしっかりと復習しましょう。(復習重視で、30分程度は必要になります)。また小テストがある場合はしっかり準備しましょう(30分程度)。

履修上の注意 /Remarks

プリントなどの補助教材はmoodleから送ります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール: faoki@fukuoka-u.ac.jp(北九大メールではなく、こちらに送って下さい)

キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう!

スペイン語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅶ	SPN202 F

授業の概要 /Course Description

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳを更に発展させ、聞き取りを強化していきます。

文法表現ではさらに進んだ時制を学び、聞き取り素材の単語とその使われ方を把握します。そのうえで、ニュースを聞き取っていきましょう。ニュースは難しいと思われがちですが、ニュースとは事実関係をはっきりとシンプルに伝えることが目的であるため、複雑な構文で延々と続く長い文章はあまりありません。使用教科書はさらにニュース本文も短く編集しており、理解しやすくなっています。ニュースが難しいと思われる理由は語彙力の問題です。語彙と聞き取りを強化し、ネイティブと会話をしていくときの基礎力を養いましょう。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、話すことができる。また、語彙力を発展させ、ネイティブ並みのスピードで聞き取ることができる。

教科書 /Textbooks

『ニュースで学ぶ中級スペイン語[改訂版] La noticia de hoy[edición revisada]』中島聡子、佐藤佐知、David Taranco著、三修社、2022

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

西和・和西辞書については開講時に指示します。辞書必携です。

西和辞書で薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

和西辞書の利用も必要ですが、詳細は開講時に指示します。前年度使用した辞書がある方は購入する必要はありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前年度スペイン語の復習、1課 現在形と再帰動詞
- 2回 1課 SNSと余暇
- 3回 2課 gustarの用法と不定詞を伴う表現
- 4回 2課 スペインのテニス選手
- 5回 3課 過去時制の使い分け 現在完了と点過去
- 6回 3課 世界で最も古いレストラン
- 7回 4課 過去時制の使い分け 線過去
- 8回 4課 ファッション
- 9回 5課 過去時制の使い分け 点過去・線過去・過去完了
- 10回 5課 養子縁組
- 11回 6課 未来と過去未来 不定詞を伴う助動詞的表現
- 12回 6課 風力発電
- 13回 7課 不定詞を伴う助動詞的表現 おいしいコーヒーの入れ方
- 14回 8課 比較級 エラスムス留学制度
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、日常の授業への取り組み 50%
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキストを読んでわからない単語を調べてくる、ニュースを聞いて正誤問題に答えてみる。単語の聞き取りができない箇所は前後の箇所から意味を推測してみる。

事後学習：ニュース音声を何度も流し、同じように発音する。テキストを見ずにスペイン語をリピートしていく。

履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。

スペイン語初級(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語の1年目を終え、基礎的なことを理解した後は、さらに発展した文法内容で、ネイティブのスピードで聞きとれるように訓練していきます。授業の予習は大変ですが、目にする、耳にする単語を引いて覚えること、ネイティブ並みのスピードで繰り返して発音することを繰り返していると、まったく知らないニュース映像を見た際になにがしか内容が聞き取れてくるかもしれません。繰り返すことで確実に力が付きます。

インターネット上で見られるスペイン語の映像・音声も随時参考にしてください。

<http://www.rtve.es/> (TVE、スペイン国営放送。テレビとラジオを持つ。)

<http://www.cadena100.es/> (スペインのFM放送ラジオ。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。)

また、YoutubeやTwitter, Instagram, Facebookなど、気に入ったSNSを見つけいろいろなスペイン語に触れてみるのも勧めます。

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

スペイン語Ⅷ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力	●	スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	スペイン語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深める。
		スペイン語Ⅷ	SPN212F

授業の概要 /Course Description

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳを更に発展させ、聞き取りを強化していきます。

文法表現ではさらに進んだ時制を学び、聞き取り素材の単語とその使われ方を把握します。そのうえで、ニュースを聞き取っていきましょう。ニュースは難しいと思われがちですが、ニュースとは事実関係をはっきりとシンプルに伝えることが目的であるため、複雑な構文で延々と続く長い文章はあまりありません。使用教科書はさらにニュース本文も短く編集してあり、理解しやすくなっています。ニュースが難しいと思われる理由は語彙力の問題です。語彙と聞き取りを強化し、ネイティブと会話をしていくときの基礎力を養いましょう。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、話すことができる。また、語彙力を発展させ、ネイティブ並みのスピードで聞き取ることができる。

教科書 /Textbooks

『ニュースで学ぶ中級スペイン語[改訂版] La noticia de hoy[edición revisada]』（1学期と同じものを使用）中島聡子、佐藤佐知、David Taranco著、三修社、2022

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

西和・和西辞書については開講時に指示します。辞書必携です。

西和辞書で薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

和西辞書の利用も必要ですが、詳細は開講時に指示します。前年度使用した辞書がある方は購入する必要はありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1学期復習 9課 接続法現在1
- 2回 9課 ホンジュラスの交番
- 3回 10課 接続法現在2
- 4回 10課 育休取得
- 5回 11課 接続法現在3
- 6回 11課 アポロフォビア
- 7回 12課 接続法現在4
- 8回 12課 日本語学習のアドバイス
- 9回 13課 接続法過去1
- 10回 13課 スペインの安楽死
- 11回 14課 接続法過去2
- 12回 14課 チュッパチャップスの歴史
- 13回 15課 条件文
- 14回 15課 地中海に沈んだ夢
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、日常の授業への取り組み 50%
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキストを読んでわからない単語を調べてくる、ニュースを聞いて正誤問題に答えてみる。単語の聞き取りができない箇所は前後の箇所から意味を推測してみる。

事後学習：ニュース音声を何度も流し、同じように発音する。テキストを見ずにスペイン語をリピートしていく。

履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。

スペイン語初級(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ)の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語の1年目を終え、基礎的なことを理解した後は、さらに発展した文法内容で、ネイティブのスピードで聞きとれるように訓練していきます。授業の予習は大変ですが、目にする、耳にする単語を引いて覚えること、ネイティブ並みのスピードで繰り返して発音することを繰り返していると、まったく知らないニュース映像を見た際になにがしか内容が聞き取れてくるかもしれません。繰り返すことで確実に力が付きます。

インターネット上で見られるスペイン語の映像・音声も随時参考にしてください。

<http://www.rtve.es/> (TVE、スペイン国営放送。テレビとラジオを持つ。)

<http://www.cadena100.es/> (スペインのFM放送ラジオ。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。)

また、YoutubeやTwitter, Instagram, Facebookなど、気に入ったSNSを見つけいろいろなスペイン語に触れてみるのも勧めます。

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

日本語I【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Iでは、特に「大学生生活へのオリエンテーション」に焦点を当てる。日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」を学ぶ。さらに、学期最後の1カ月は、チュートリアルを導入し、個別のニーズに応じた授業を提供する。

教科書 /Textbooks

『スタディスキルズ・トレーニング改訂版 - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』(佐々木瑞枝他、The Japan Times)
- 『自律を目指すことばの学習：さくら先生のチュートリアル』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 大学生生活(1)【自己紹介から始めよう】
- 3回 大学生生活(2)【高校と大学の違い/大学について学ぶ】
- 4回 大学生生活(3)【キャンパスツアー】
- 5回 大学生生活(4)【大学教員・職員との付き合い方】
- 6回 大学生生活(5)【図書館ツアー】
- 7回 大学生生活(6)【大学生生活のデザイン】
- 8回 大学生生活(7)【講義の上手な受け方】
- 9回 大学生生活(8)【演習に参加するコツ】
- 10回 大学生生活(9)【大学の定期試験】
- 11回 チュートリアル(1)【学習計画】
- 12回 チュートリアル(2)【振り返り】
- 13回 チュートリアル(3)【修正】
- 14回 チュートリアル(4)【評価】
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 50 %
ポートフォリオ評価 ... 50 % (自己評価30%/ピア評価20%)

・授業の3分の1以上の欠席及び、未提出の課題がある場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め授業範囲を予習し、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

日本語Iと日本語II及び日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学生生活を「自分らしく」「楽しく」過ごせるように応援します。

キーワード /Keywords

生活日本語 大学生生活日本語 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) チュートリアル

日本語II 【昼】

担当者名 /Instructor 金 元正 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。
日本語IIでは、実際に日本語を使う場面で、文字によるコミュニケーション(書く)の能力を伸ばす。「対人性」と「場面性」を理解することで、適切な文章構成・日本語表現ができるようになる。そして、「自己推敲能力」を伸ばすために、自分の書いたものを自己評価し、より良いものに修正する。

教科書 /Textbooks

『中級からの日本語プロフィシエンシーライティング』(由井紀久子他、凡人社)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『日本語Eメールの書き方』(築晶子他、The Japan Times)
『外国人のためのケータイメール@につぼん』(笠井淳子他、アスク)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション【文のスタイル】【配慮】【負担】【良好な関係】【今後のこと】
- 2回 アポイントをとる【PCメール】
- 3回 アドバイスを求める【PCメール】
- 4回 問い合わせる【PCメール】
- 5回 依頼する【PCメール】
- 6回 依頼される【PCメール】
- 7回 報告する【PCメール】
- 8回 謝る【PCメール】
- 9回 お礼を言う【携帯&PCメール】
- 10回 誘う【携帯メール】
- 11回 誘われる【携帯メール】
- 12回 なぐさめる・一緒に喜ぶ【携帯メール】
- 13回 伝言する【メモ】
- 14回 募集する【チラシ】【掲示】
- 15回 【学びを振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み(発表や課題を含む)...70% 期末テスト...30%
(授業の3分の1以上の欠席及び未提出の課題がある場合は、評価不能(一)とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習を行い、提示された課題はMoodleで提出する。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当することがある。
日本語I、日本語II、日本語IIIは、授業内容の関連が深いので、同時受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロフィシエンシー 書く 対人性 場面性

日本語III 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 留学生 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語IIIでは、大学生に求められる日本語文章表現能力の育成を目指す。具体的には、TAE(THINKING AT THE EDGE)を用い、日常的な身体感覚を日本語で展開できるようになることを目標とする。留学生にとって、第二言語である日本語で自己表現を行いながら大学生活を過ごすためには、まず、自己の身体感覚を第二言語で言語化する経験が重要となる。

教科書 /Textbooks

『TAEによる文章表現ワークブック』(得丸さと子、図書文化)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『ステップ式質的研究法-TAEの理論と応用』(得丸さと子、海鳴社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション
【フェルトセンス】 【リラックスのワーク】
- 2回 【色模様のワーク】
- 3回 【オノマトペのワーク】
- 4回 【比喩のワーク】
- 5回 【花束のワーク】
- 6回 【コツのワーク】 【共同詩のワーク】
- 7回 【励ます言葉のワーク】
- 8回 【マイセンテンス】
- 9回 【パターンを見つける】
- 10回 【パターンを交差させる】
- 11回 【自己PR文を作ろう】
- 12回 【資料を使って論じよう】
- 13回 【経験から論じよう】
- 14回 【感想文を書こう】
- 15回 評価【学びを振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・30% 発表・課題・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

三分の一以上の欠席があり、かつ未提出の課題がある場合は、評価不能(一)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に学習目標を確認し、ワークの手順を読んで理解しておく。
学習活動終了後、学習目標に基づき、どんなことができたか、できなかったかなどを振り返る。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定です。
日本語I及び日本語II、日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
日頃から、身体や気持ちの感覚に注意を払ってください。また、ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋がります。
自主的に練習をすることで、授業内容の理解が深まるので、後日繰り返し練習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

誰かが作った言葉のレパートリーから言葉を選択して使用するのではなく、自分の「身体感覚」から発して言葉を作り上げていくのがTAEです。
TAEを身につけることによって、感受性が豊かになると同時に、言葉で表現する意欲も湧いてきます。

キーワード /Keywords

TAE 身体を感じ 日本語の私 母語の私

日本語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Ⅳでは、特に口頭でのコミュニケーション力「スピーチ」に焦点を当てる。ともすれば似通った内容になりがちなスピーチから脱却するために、自分なりの興味や考え、相手の興味を「発見」し、協働で学びながら、スピーチの幅を広げる。さらに、日本語Ⅰ同様、学期最後の一月はチュートリアルを導入し、個別のニーズに応じた授業を提供する。

教科書 /Textbooks

『協働学習で学ぶスピーチ』(渋谷実希他、凡人社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『アカデミック・プレゼンテーション』(三浦香苗他、ひつじ書房)
- 『自律を目指すことばの学習：さくら先生のチュートリアル』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション/聴衆分析と話題選び【戦略】
- 2回 話し手の心得/聞き手の役割【思い込み・相互評価】
- 3回 自己紹介【オリジナリティ】
- 4回 食べたい、あのお昼ご飯【説明力・伝える力】
- 5回 失敗から学ぶ教訓(1)【伝える力】
- 6回 失敗から学ぶ教訓(2)【内容の価値】
- 7回 情報探索【内容の深化・語彙力】
- 8回 質疑応答【内容の深化・聞き手の役割】
- 9回 責任を持って自慢する(1)【責任を伴った発信力】
- 10回 責任を持って自慢する(2)【学びと社会とのつながり】
- 11回 チュートリアル(1)【学習計画】
- 12回 チュートリアル(2)【振り返り】
- 13回 チュートリアル(3)【修正】
- 14回 チュートリアル(4)【評価】
- 15回 総括【一年間を振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...50%
ポートフォリオ評価 ...50%(自己評価...30% ピア評価...20%)

・ 授業の3分の1以上の欠席及び、未提出の課題がある場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め授業範囲を予習すること、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

日本語Ⅳと日本語Ⅴ、日本語Ⅵは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

相手が興味を持ってくれるような自分らしいスピーチを目指します。

キーワード /Keywords

相互評価・内容の価値・多様な視点

日本語V 【昼】

担当者名 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。
日本語Vでは、特に「スタディスキル」と「日本語発想力・読解力・表現力」に焦点を当てる。
「スタディスキル」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。
「日本語発想力・読解力・表現力」では、タスクを用いた自己発信型トレーニングにより、論理的思考力を伸ばす。
(到達目標)
・ 大学生活での学び方を理解し、資料を分析し、発信するなど主体的に学ぶためのスキルを身につけている
・ 仲間と協働し、コミュニケーションし課題解決できる
・ 「論理的思考力」をもとに、自分の意見や主張を相手に伝えることができる

教科書 /Textbooks

『考える・理解する・伝える力が身につく 日本語口ジョカルトレーニング 中級』(西隈俊哉、アルク)
『スタディスキルズ・トレーニング改訂版 - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○佐々木瑞枝他『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』The Japan Times
○石黒圭『この1冊できちんと書ける! 論文・レポートの基本』日本実業出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	オリエンテーション	
2回	スタディスキル(1)アクティブラーニングをやってみよう	論理的思考力(1)リストアップ・マッピング
3回	スタディスキル(2)テーマからトピックを取り出そう	論理的思考力(2)イラストを見て考える
4回	スタディスキル(3)インターネットで情報を探そう	論理的思考力(3)表・グラフの内容を読み取る
5回	スタディスキル(4)本を手にして読んでみよう	論理的思考力(4)マッピングしながら読む
6回	スタディスキル(5)図解で考えよう	論理的思考力(5)登場人物になったつもりで読む
7回	スタディスキル(6)表・グラフを描いてみよう	論理的思考力(6)どちらがいいか考えながら読む
8回	スタディスキル(7)議論の方法を知ろう	論理的思考力(7)理由を考えながら読む
9回	スタディスキル(8)レポートの文章の特徴を知ろう	論理的思考力(8)意味を考えて読んでみる
10回	スタディスキル(9)レジュメを作成してみよう	論理的思考力(9)イラストを見て書いてみる
11回	スタディスキル(10)レポートの基本を知ろう	論理的思考力(10)定義を試してみる
12回	スタディスキル(11)発表の資料を作ろう(テーマ決め・準備)	論理的思考力(11)理由を考えて書いてみる 1
13回	スタディスキル(12)発表をやってみよう(レジュメ作成・準備)	論理的思考力(12)理由を考えて書いてみる 2
14回	スタディスキル(13)発表をやってみよう(発表と自己評価)	
15回	総括 1年間(半期)の学びをふりかえろう(評価)	

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...40% 日常の授業への取り組み(発表や課題を含む)...60%

・ 三分の一以上の欠席があり、かつ未提出の課題がある場合は、評価不能(一)とする

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に本文を読んで予習し、目標や身につけるスキルを確認しておく。事後学習としては、授業や課題を通してどこまで何を身につけることができたか、まだ何が足りていないかをふりかえり、どうしたら目標を達成できるかなどについて考える。

履修上の注意 /Remarks

日本語IVと日本語Vと日本語VIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

日本語V 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

個人の学びだけでなく、仲間とともに調べ、研究し、発表することでさらに豊かな学びを実感してください。

キーワード /Keywords

論理的思考 大学日本語(アカデミック・ ジャパニーズ) ピア・リーディング スタディスキル

日本語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIでは、学生が学び手として互いに協力し合い、課題達成に向けて取り組めるようになることを目指す。具体的には、「自己目標の明確化」を目指すために活動(1)「自己PR」を行う。そして、「能動的読解」のために活動(2)「ブック・トーク」を行い、「外部から得た情報や知識を適切に配列し、引用表現を用いて自分の意見と区別しながら書く」ことを目指すために活動(3)「ブック・レポート」を行う。

教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション：プレゼンテーションとライティング』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『スタディスキルズ・トレーニング：大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己PR(1)【自分を伝える】
- 3回 自己PR(2)【情報を整理する】
- 4回 自己PR(3)【スピーチの準備をする】
- 5回 自己PR(4)【スピーチをする】
- 6回 自己PR(5)【志望動機書 / 学習計画書を読みあう】
- 7回 ブック・トーク(1)【情報を探す】
- 8回 ブック・トーク(2)【情報を読んで伝える】
- 9回 ブック・トーク(3)【アウトラインを書く】
- 10回 ブック・トーク(4)【ポスター発表を準備する】
- 11回 ブック・トーク(5)【発表する】
- 12回 ブック・レポート(1)【書く】
- 13回 ブック・レポート(2)【内容を検討する】
- 14回 ブック・レポート(3)【表現や形式を点検する】
- 15回 総括【全体を振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...40%
ポートフォリオ評価 ...60%(自己評価 30% ピア評価 30%)
(授業の3分の1以上の欠席及び未提出の課題がある場合は、評価不能(－)とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に学習目標を確認し、日本語エクササイズのワークシートを使って各課に必要な日本語表現を勉強しておく。
学習活動終了後、学習目標に基づき、どんなことができたか、できなかったかなどを振り返る。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。
日本語IVと日本語Vと日本語VIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
テキストに付属する「日本語エクササイズ」は、授業外での自主学習とする。なお、2つの課題を発表する際、ビジターを交える可能性がある。
また、ポートフォリオを作成して学習の軌跡を保存することで、自己評価に繋がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・ラーニング 相互リソース化 批判的思考の獲得 社会的関係の構築

日本語VII【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。

日本語VIIでは、日本語で読むことを中心とする。特に大学で必要なクリティカル・リーディング(批判的な読み)ができるようになることを目標とする。書かれたテキストに対して正確に読み取った上で、さらに複眼的な視点から検討するための思考技術を養成する。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聞くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

(到達目標)

- ・ 書かれている内容をさまざまな角度から検討し、批判的に読むことができる
- ・ 書き手の思考の筋道を追いながら問題を探し出し、明確な問いを立て、文章を吟味しながら読む技術を身につけている
- ・ 自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聞きながら仲間と協働的に学ぶことができる

教科書 /Textbooks

『読む力(中上級)』(奥田純子監修、竹田悦子他編著 くろしお出版) ¥1,900

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○『ひとりで読むことからピア・リーディングへ:日本語学習者の読解過程と対話的協働学習』(館岡洋子、東海大学出版会)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【クリティカル・リーディング、複眼思考レッスン】
- 2回 私のニュースの読み方【主張や論点、問題提起、意図】
- 3回 価値の一様性【主張や論点、問題提起、意図】
- 4回 言葉の起源をもとめて【研究動機と仮説の概要】
- 5回 経済学とは何か【分野の概要】
- 6回 思いやり【比較、対照、構造化、アナロジー】
- 7回 住まい方の思想【比較、対照、構造化、アナロジー】
- 8回 決まった道はない。ただ行き先があるのみだ【比較、対照、構造化、アナロジー】
- 9回 メディアがもたらす環境変容に関する意識調査【研究論文の概要】
- 10回 改定 介護概論【目次から読む】
- 11回 ことばの構造、文化の構造【入門書】
- 12回 観光で行きたい国はどこ
- 13回 化粧する脳【現状、展望、原因、問題点】
- 14回 クリティカル・リーディングを磨こう
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...40% 授業への取り組み(課題を含む)...60%

- ・ 三分の一以上の欠席があり、かつ未提出の課題がある場合は評価不能(一)とする

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は、事前に課題の予習をすることを前提として進める。事後学習としては、授業で身につけたスキルを使えるようになったか、自己評価をおこなう。

履修上の注意 /Remarks

日本語VIIおよびVIIIは、授業内容の関連性が深いので連続して履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃からニュースや時事問題に関心を持ち、それに対する自分の意見を持っておいってください。

キーワード /Keywords

クリティカル・リーディング 批判的読み メタ・コンテンツ 全体把握 言語タスク 認知タスク

日本語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 留学生 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIIIでは、日本語で書くことを中心とする。特に、論拠を基に意見を述べる「論証型レポート」を作成することを目標とする。レポートを作成しながら課題に取り組むことで、日本語表現の学習だけでなく、構想からレポートの完成に至る一連の過程を学ぶ。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生の日本語表現(第2版)』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポートの組み立て方』(木下是雄、筑摩書房)
- 『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』(二通信子他、東京大学出版会)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の目的及び必要性を知る【知る/課題の条件を確認する】
- 2回 レポートとは何かを考える【論証型レポート/根拠の大切さを知る】
- 3回 レポートのテーマを考える【構想マップ/練る】
- 4回 情報をカード化する【情報の信頼性/調べる】
- 5回 目標を仮に規定する【情報の整理/絞る】
- 6回 アウトラインを作る【序論・本論・結論】
- 7回 パラグラフライティング【中心文/説明文・指示文】
- 8回 パラグラフライティング【引用/引用文献リスト】
- 9回 文章を点検する【校正/表現の点検】
- 10回 文章を点検する【形式の点検/ピア・レスポンス】
- 11回 レポートの完成【体裁】
- 12回 発表を準備する【発表の意義・レジュメの作成】
- 13回 発表する【話し手/聴き手/司会】
- 14回 発表を踏まえてレポートを修正する【最終稿提出】
- 15回 学習プロセスを振り返る【自己評価・ピア評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...40% レポート・発表...40% ピア評価...20%

・授業の3分の1以上の欠席及び、未提出の課題がある場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに自己のテーマに関する参考文献の収集や精読を行っておくこと、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

日本語VII及びVIIIは、授業内容の関連性が深いので連続して履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えてほしい。

キーワード /Keywords

論証型レポート ピア・ラーニング 論理的思考

日本事情 (人文) A 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

日本事情(人文)Aでは、現代日本人に通ずる伝統文化「茶道」「歌舞伎」を通して、「日本社会・日本文化・日本人とは何か」を考える。そして、文化を理解する視点を持つことで、グローバル化した現代社会の中で、時代に流されない生き方を模索する。具体的には、日本の伝統芸能である「茶道」や「歌舞伎」を主たる題材として、体験学習を行う。その過程で立ち昇る日本文化について、クラス内で議論を重ねて行く。それらの過程で一人ひとりが、改めてそれぞれの文化を見つめ直し、気づきを得ることをもう一つのねらいとする。授業では、日本語の古語があまり得意ではない受講者のために、できるだけ視覚的聴覚的に工夫を凝らすことで理解を促進する。

教科書 /Textbooks

毎回レジュメを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『茶の湯六ヶ国語会話』(淡交社編集局、淡交社)
- 『「お茶」の学びと人間教育』(梶田勲一、淡交社)
- 『表千家茶道十二月』(千宗左、日本放送出版協会)
- 『歌舞伎入門事典』(和角仁・樋口和宏、雄山閣出版)
- 『歌舞伎登場人物事典』(古井戸秀夫、白水社)
- 『歌舞伎のびっくり満喫図鑑』(君野倫子、小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【伝統文化】【現代生活】
- 2回 茶道(1)茶道の世界をのぞく【茶室】【茶道具】【わびさびの世界】
- 3回 茶道(2)茶道から歴史を学ぶ【千利休】
- 4回 茶道(3)現代に続く伝統【工芸】【作法】
- 5回 茶道(4)体験する【薄茶をいただく】
- 6回 歌舞伎(1)歌舞伎の世界をのぞく【人間国宝】【女形】【大道具】
- 7回 歌舞伎(2)歌舞伎から歴史を学ぶ【江戸の町と町民文化】
- 8回 歌舞伎(3)演じる【竹本・義太夫】【現代に残る名台詞】
- 9回 歌舞伎(4)歌舞伎を観る【仮名手本忠臣蔵大序・三段目・四段目】
- 10回 歌舞伎(5)現代のサムライ【切腹】【武士道】
- 11回 歌舞伎(6)忠臣蔵と現代社会【世界観】【義】
- 12回 歌舞伎(7)魅力【大衆性】【芸術性】
- 13回 伝統文化と現代社会(1)日本へ与えた影響【文化の伝承】【サブカルチャー】
- 14回 伝統文化と現代社会(2)外国へ与えた影響【文化の融合】【新しい文化】
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート...40% ポートフォリオ評価60%(自己評価...20% ピア評価...20% 教師評価...20%)

・ 授業への3分の1以上の欠席及び、未提出の課題がある場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め指定された教材を視聴しておくこと、授業終了後には指示された課題を行い、復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学期の途中ではあるが、希望者を募り6月に博多座へ歌舞伎鑑賞に行く予定である。
日頃から伝統的な文化(日本文化や自国文化を問わず)に興味を持っていると授業を楽しみやすいと思う。
美しい所作(身のこなしや箸の持ち方、茶や菓子の頂き方)についても実践する。

キーワード /Keywords

茶道 歌舞伎 日本文化 自文化 異文化 伝統文化 現代生活 サブカルチャー 文化の伝承

日本事情 (人文) B 【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

言語の学習と密接な関係にある文化について考える。文化とは何か、文化を学ぶとはいったいどのようなものであるのかを考えるにあたって、「境目」「母性」と「父性」の間をゆれる」「ことばと文化を結ぶために」の3つの読み物を題材とする。これらの題材を、各自の考えをまとめるためのリソースや共通の土台としながら、クラス内で議論していく。最終的には一人ひとりが自分にとっての文化「私にとって文化とは」をレポートとしてまとめていく。

(到達目標)

- ・ 複数のリソースをもとに、自分自身の考えをつくっていくことができる
- ・ クラス内での対話を通して自分の考えをつかみ、相手にわかるように表現できる
- ・ 文化に対する問題意識や価値観を認識し、自分の考えをレポートとしてまとめる

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川上弘美『あるようなないような』中公文庫
河合隼雄「『母性』と『父性』の間をゆれる」『国語総合』大修館書店
細川英雄『日本語教育と日本事情—異文化を超える—』明石書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 「境目」を読む
- 3回 「境目」について話し合う
- 4回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」を読む
- 5回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」について話し合う
- 6回 「ことばと文化を結ぶために」を読む
- 7回 「ことばと文化を結ぶために」について話し合う
- 8回 文化観を比較する
- 9回 その他の読み物を読む
- 10回 レポートの作成 (1) 「私にとって文化とは何か」
- 11回 ピア・リーディング クラスメートのレポートを読んでコメントする
- 12回 レポートの作成 (2) 修正する
- 13回 完成したレポートをクラス内でピア・リーディングする
- 14回 完成したレポートをクラス内でピア・リーディングし、相互評価・自己評価する
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...50% 日常の授業への取り組み (発表や課題を含む) ...50%

- ・ 三分の一の欠席があり、かつ未提出の課題がある場合は評価不能 (-) とする

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は課題の予習を前提として進める。事前に配布された読み物を読み、わからない語句については事前に調べておくこと。また、事後学習として自分自身の考えをもう一度まとめ、深めておく。

履修上の注意 /Remarks

受講者が多数の場合、2年次以上の学生を優先する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化 比較 交換 対話

日本事情 (社会) A 【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

「日本事情 (社会)」は、実際に生活している日本社会がどのような社会であるのかを理解するための授業である。そのため、常に幅広い分野から日本を知るリテラシーを身につけることを共通の目標に据える。ここでいう日本社会とは、過去から現在に、そして未来へと続く社会を想定している。また、日本社会を知るのは、当事者個々人であり、決して共通の見解を求めるものではなく、「日本社会で生活している私」「日本語を使う私」の意識化を試みる。

「日本事情 (社会) A」では、さまざまな文化的背景を持つ人々が生活する日本社会においてどのような問題や課題があるのかを知り、それぞれの事柄を多角的にとらえ、自国の現状と比較しながら自分たちの問題として考えていく。

各テーマやトピックについて主体的に学び、知識を得ることで自分自身の考えや意見を持つ。また、自分自身の体験や生活の中で感じたことについて仲間と意見を交わすことで、分析能力やコミュニケーション能力の育成を図る。

(到達目標)

- ・ 幅広い分野から日本について知る
- ・ 様々なテーマについて主体的に学び、自分自身の意見を持つ
- ・ クラスで意見交換することで、分析能力やコミュニケーション能力を身につける

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『異文化理解入門』(原沢伊都夫、研究社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション
- 2回 「異文化を理解する①」(概要・事例・理解)
- 3回 「異文化を理解する②」(比較・考える・表現する)
- 4回 「多文化共生社会①」(概要・事例・理解)
- 5回 「多文化共生社会②」(比較・考える・表現する)
- 6回 「コロナ社会①」(概要・事例・理解)
- 7回 「コロナ社会②」(比較・考える・表現する)
- 8回 「就職活動①」(概要・事例・理解)
- 9回 「就職活動②」(比較・考える・表現する)
- 10回 「日本社会と子ども①」(概要・事例・理解)
- 11回 「日本社会と子ども②」(比較・考える・表現する)
- 12回 「無縁社会①」(概要・事例・理解)
- 13回 「無縁社会②」(比較・考える・表現する)
- 14回 「発表」
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...40% 授業への取り組み・発表...60%

・ 三分の一以上の欠席があり、かつ未提出の課題がある場合は評価不能 (-) とする

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテーマについて調べ、自分の考えをまとめてくること。
事後学習では、クラスメートの考えや新しい情報を知った上で、もう一度自分の考えをまとめ直すようにしておく。

履修上の注意 /Remarks

外国人留学生対象の授業であるが、言語能力としての「読む」「書く」「話す」「聞く」に高い日本語能力が求められる。必ず初回のオリエンテーションには参加すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃から身の回りの問題や社会に関心を持ち、それに対する自分の考えを持っておいください。

キーワード /Keywords

文化 社会 多様性 課題 分析

日本事情 (社会) B 【昼】

担当者名 /Instructor 清藤 隆春 / 国際教育交流センター, 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター
友松 史子 / 国際教育交流センター, 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

「日本事情(社会)」は、実際に生活している日本社会がどのような社会であるのかを理解するための授業である。そのため、常に幅広い分野から日本を知るリテラシーを身につけることを共通の目標に据える。

ここでいう日本社会とは、過去から現在に、そして未来へと続く社会を想定している。また、日本社会を知るのは、当事者個々人であり、決して共通の理解を求めるものではなく、「日本で生活している私」「日本語を使う私」の意識化を試みる。

授業では、在日外国人、特に留学生を対象とした研究論文や調査研究を読み進め、単に知識を得るだけでなく、自分自身の過去及び現在を理解し、未来を描くことに繋がられるように、クリティカル・リーディングを行う。そして、留学生や元留学生にまつわる言説を分析し、自分の人生を自分で切り拓けるようになることを目指す。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岡益巳・深田博己『中国人留学生と日本』白帝社
- 坪谷美欧子『「永続的ソジョナー」中国人のアイデンティティ-中国からの日本留学にみる国際移民システム』有信堂
- 葛文綺『中国人留学生・研修生の異文化適応』溪水社
- 吉沅洪『日中比較による異文化適応の実際』溪水社
- 榎本博明(2002)『<ほんとうの自分>のつくり方-自己物語の心理学』講談社現代新書
- 高松里(2015)『ライフストーリー・レビュー入門』創元社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業オリエンテーション
- 第2回 「研究論文を読む」「調査報告を読む」とは：クリティカル・リーディングの復習
- 第3回 クリティカル・リーディングの実践：研究論文を読む
- 第4回 留学生や元留学生にまつわる言説(1) 日本社会の中の外国人という視点から
- 第5回 言説の考察(1)
- 第6回 留学生や元留学生にまつわる言説(2) 留学の意義と留学に対する評価の視点から
- 第7回 言説の考察(2)
- 第8回 自己物語とアイデンティティ
- 第9回 自己物語を書こう(1) 自己物語の実際
- 第10回 自己物語を書こう(2) 自己物語の書き方
- 第11回 自己物語を読もう(1) 論理実証モードと物語モード
- 第12回 自己物語を読もう(2) 共感から共鳴へ
- 第13回 自己物語を語り直そう
- 第14回 留学生のキャリア発達
- 第15回 「ほんとうの自分」のつくり方

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...30% 課題...30% レポート40%

三分の一以上の欠席があり、かつ未提出の課題がある場合は、評価不能(一)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前半は、研究論文、エッセイをリソースとした学習を行うため、予習タスクをします。
事後学習では、各研究論文、エッセイでの学習を統合するための作業をします。

履修上の注意 /Remarks

外国人留学生対象の授業ではあるが、言語技能としての「読む」「書く」「話す」「聞く」に高い日本語能力が求められ、かつ、情報リテラシーや批判的思考力に基づく理論構築を目指していくので、初回のオリエンテーションに必ず参加して、履修するかどうかを判断しよう。
授業は課題に対する予習を前提として進めます。また、ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋がります。

日本事情 (社会) B 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さん一人一人の日本での経験を活かしながら、「日本社会」を学びたいと思います。

キーワード /Keywords

言説 留学生のキャリア発達 自己物語

法学総論【昼】

担当者名 林田 幸広 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	法学の理論的・基礎的な問題の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法学上の課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える法学に関連した諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学総論

LAW100M

授業の概要 /Course Description

この授業は1年次・第一学期に配当されていることからわかるように、法学部の専門科目を学ぶにあたって必要な基礎知識や基本的な法学の考え方を習得するための科目です。各分野の法律は個々バラバラにあるわけではなく、それらを一貫した背景や考え方をもっています。そうしたいわば「太い幹」を概説することが授業の中心におかれます。この授業を通して受講者が①法学の全体像を大まかにでもイメージできるようになること、②この先に学ぶ個別の法律がその全体といかなる関係にあるのかを意識できるようになること。大きくこの二点を本講義のねらいとします。以下に到達目標も示します。

(到達目標)

【知識】法学の初歩的な知識を身につけている

【技能】法学的アプローチを行うための基礎的な技法を身につけている

【思考・判断・表現力】社会的な問題に対し、法的に考え判断することができる

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。授業はテーマごとに配布するレジュメをもとに進めます。各回の内容やテーマに関連した文献が紹介できる場合には、授業の中でお伝えします。なお、最新の六法を各自で持参してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 伊藤正己・加藤一郎編、『現代法学入門〔第4版〕』、有斐閣双書、2005年。
- 稲正樹ほか、『法学入門』、北樹出版、2019年。
- 中山竜一、『ヒューマニティーズ 法学』、岩波書店、2009年。
- 三ヶ月章、『法学入門』、弘文堂、1982年。

法学総論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス&イントロ：実年齢の変更は裁判で認められる（べき）か…【法化社会】
- 2回 法の目的①：もしも法がなかったら？…【法の支配】と【法治主義】
- 3回 法の目的②：法が法である条件は？…【法と道徳】、【法と強制】
- 4回 法の目的③：法は正義の味方ではない…【法における正義】
- 5回 立憲主義①：個人を起点に社会秩序を考える理由…【社会契約論】
- 6回 立憲主義②：もしボディガードが殴ってきたら？…【国家＝権力】の両義性、【違憲審査】
- 7回 立憲主義③：多数決で決めてはいけないもの…【民主主義】、【公／私の区別】
- 8回 法の体系①：さまざまな分類…【法の位階】、【公法／私法】、【実体法／手続法】
- 9回 法の体系②：民事と刑事、原理から見る「守備範囲」…【私的自治】、【国家刑罰権】
- 10回 法の体系③：賛成ですか / 反対ですか、それはなぜですか？…【死刑制度】
- 11回 法の体系④：近代法から現代法へ…【法の機能】から法体系を俯瞰する
- 12回 裁判と法①：裁判の種類と関連性…【裁判制度】、【裁判手続】
- 13回 裁判と法②：法解釈と思考法…【要件-効果】
- 14回 裁判と法③：選ばれたらどうします？…【国民の司法参加】
- 15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業に関連した小課題のできばえ…………… 30%
- ・ 授業全体の内容についての理解度をはかる定期試験… 70%
- ・ 定期試験を受験しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 【事前学習】：配布プリントを確認し、意味の分からない言葉を調べ、疑問箇所をピックアップしておいてください。
- 【事後学習】：授業後、講義内容を自身で振り返るようにしてください。概念の内容だけでなく、概念どうしのつながりを理解してください。

履修上の注意 /Remarks

法（学）には、たいてい原則のようなものが備わっています。しかし同時に例外的な考えをとることも少なくありません。この授業で扱うのは体系的な考え方ですので、受講者はまず原理や原則を着実に理解するようにしてください。そしてそのうえで、各分野の例外的な考えや細かい考えに繋げていってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ほとんどの学生が横並びに同じスタートラインを切れるところが法学の「強み」だと思います。臆することなく、着実なスタートをしましょう。

いうまでもなく法学は、社会的公正さという私たちの社会の基礎となる（べき）秩序を構想します。よってこの授業はSDGsのなかでもとりわけ「10. 人や国の不平等をなくそう」の目標に関連しています

キーワード /Keywords

法の目的、法の機能

現代法曹論I【昼】

担当者名 /Instructor 山田 忠政 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 現代法曹制度やそれが抱える課題の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代法曹論 I

LAW200M

授業の概要 /Course Description

北九州市立大学法学部法律学科出身の現役弁護士による実務家講義です。

私が「北九大学法1年生のときに知りたかったことや聞きたかったこと」に基づいて、法律の勉強の仕方、大学での過ごし方、進路のことなどお話しします。

また、講義のテーマにもなっている、法曹三者（裁判官、検察官、弁護士）及びその他法律に関わる様々な職業（司法書士、裁判所書記官、検察事務官など）の役割、現代的意義も本講義でお話しします。

なお、外部講師による特別講演の開催は諸般の事情を見て判断します。

（到達目標）

【技能】法曹・準法曹の実務の理解に必要な情報を収集・分析することができる

【コミュニケーション力】法律専門職の役割を学ぶことを通じて、協働して法的問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている

【自律的行動力】法律専門職の役割を学ぶことを通じて、より良い社会の実現に向けて行動する姿勢を身につけている

教科書 /Textbooks

テキストは使用しませんが、講義には最新版の六法を持参してください（出版社等は問いません）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

下記スケジュールの変更を要するときは、事前にお知らせします。

- 1回 オリエンテーション 本講義について
- 2回 法律学の基礎知識（1）
- 3回 法律学の基礎知識（2）
- 4回 憲法の基礎知識・学び方
- 5回 民法の基礎知識・学び方
- 6回 刑法の基礎知識・学び方
- 7回 刑事裁判の基礎知識・学び方
- 8回 民事裁判の基礎知識・学び方
- 9回 法曹三者に関する基礎知識
- 10回 法曹に必要なマインドとスキル（1）
- 11回 法曹に必要なマインドとスキル（2）
- 12回 裁判官の業務・役割
- 13回 検察官の業務・役割
- 14回 弁護士の業務・役割
- 15回 総まとめ

現代法曹論I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

出席・・・・・・・・ 50%

レポート・・・・・・・・ 50%

但し、【欠席が5回を超える場合】【学期末レポートが未提出】【形式を守っていない学期末レポート課題】については、評価不能(一)とします。

* 出席確認として、講義の終わりにレポート提出を求める場合があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テーマについて事前に調べて講義や講演に臨むことをおすすめします。

講義内容等の変更がある場合には、事前にお知らせします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私の情報については、私の事務所ホームページ (<https://typ-lawoffice.com/>) をご覧ください。

キーワード /Keywords

現代法曹論II 【昼】

担当者名 /Instructor 石井 衆介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	現代法曹制度やそれが抱える課題の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代法曹論II

LAW201M

授業の概要 /Course Description

本講義では、法曹（裁判官・検察官・弁護士）が果たしている役割や課題について理解を深め、基本的な法的知識を習得するとともに、法曹に求められる論理的思考（法的三段論法）、事実調査、発信等を具体的なケースを題材に演習形式で体験していただくことで、実践力を高めることを目的とします。

（到達目標）

- 【技能】法曹・準法曹の実務の理解に必要な基礎的な技法を身につけている
- 【コミュニケーション力】法律専門職の役割を学ぶことを通じて、協働して法的問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている
- 【自律的行動力】法律専門職の役割を学ぶことを通じて、より良い社会の実現に向けて行動する姿勢を身につけている

教科書 /Textbooks

指定なし。
レジュメ・資料を毎回配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最新版 六法（発行元、種類は問いません。小六法でも構いません。）
その他、各回の講義の際に参考文献をお知らせします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- < 全 15 回 >
- 第1回 導入講義 - 「法」とは、法曹の役割、刑事と民事、法曹養成など
 - 第2回 法的三段論法、事実の発見と証明
 - 第3回 刑事法（1） - 刑事手続きの基本知識
 - 第4回 刑事法（2） - 検察官・弁護人の役割
 - 第5回 刑事法（3） - その他の問題（裁判員、少年事件）
 - 第6回 民事法（1） - 民事手続きの基本的知識・構造
 - 第7回 民事法（2） - 交通事故
 - 第8回 民事法（3） - 労働
 - 第9回 演習① - 民事事件を題材にした事案分析
 - 第10回 演習① - 意見発表・再反論の検討
 - 第11回 演習① - 講評
 - 第12回 民事法（4） - 離婚
 - 第13回 演習② - 家事事件を題材にした事案分析
 - 第14回 演習② - 意見発表・再反論の検討
 - 第15回 演習② - 講評、講義全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 70%
平常点30%（講義中の取り組み、演習結果、レポート、欠席による減点等により判断。詳細は第1回講義で改めて説明します。）
なお、期末試験を受験しなかった場合は評価不能（－）とします。

現代法曹論II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

引用した制度や条文は、授業終了後に復習することにより、理解が深まります。
日頃から、新聞、テレビ、インターネット等で報道されている法的問題・社会問題について関心を持ち、何よりも「自分の意見」を持つよう心がけて生活して下さい。

履修上の注意 /Remarks

受講者数により演習の実施方法を決定します。詳細は、講義の中で適宜お知らせします。
なお、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、遠隔授業の実施や演習形式を講義に変更することがありますので、あらかじめご了承ください。詳細は授業の際にお伝えします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

法は、私たちの社会に欠かせないものです。本講義で学ぶ知識や法曹の思考過程は、将来法律家になる・ならないにかかわらず、社会に出た後も多くの場面で役に立つと思われます。みなさんの主体的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

法律実務論I【昼】

担当者名 /Instructor 本多 寿之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	法曹・準法曹の実務の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法律実務論 I

LAW390M

授業の概要 /Course Description

「街の身近な法律家」と呼ばれる司法書士の、主に不動産登記手続き、民事・家事裁判手続きの実務について解説します。
 不動産登記手続きでは、不動産取引の実際と、司法書士が安全な不動産取引の実現のため法律家として担っている役割、日本の不動産登記制度の持つ機能や効果と、登記簿、登記申請などについて解説をします。
 民事・家事裁判手続きでは、これらの裁判手続きの特徴、実際の民事裁判手続きがどのように進められるか、司法書士が市民の権利実現と紛争解決のために裁判手続きにおいて担っている役割などを解説します。
 いずれも、民法などの実体法が社会生活でどのように適用され、そこで生じる権利が不動産登記法、民事訴訟法などの手続法によってどのように反映・実現されていくのか、司法書士の実務を通してより具体的なものとして理解することを大きな目的としています。
 その他、司法書士制度の歴史、背景や役割、隣接法律専門職との関係などについても解説をします。
 司法書士試験合格を目指す学生においては、関係法令の概要について学習ができ、実務内容を通して法令が適用される具体的な場面を知ること、法令の理解に役立ちます。
 また、司法書士試験の受験を考えていない学生においても、法律専門職の実務内容を通して、社会生活における法令の果たす機能のいくつかの例を理論的、具体的に学ぶことができます。
 商業登記・成年後見を中心とした「法律実務論II」を合わせて受講すると、司法書士の実務の全体を学ぶことができます。

(到達目標)

- 【技能】法曹・準法曹の実務の理解に必要な情報を収集・分析することができる
- 【コミュニケーション力】法律専門職の実務内容を学ぶことを通じて、協働して法的問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている
- 【自律的行動力】法律専門職の実務内容を学ぶことを通じて、より良い社会の実現に向けて行動する姿勢を身につけている

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。
講義の進捗に応じ、講義レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

法律実務論I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 日本の法律専門職と司法書士
- 2回 司法書士の実務と民法との関係
- 3回 司法書士の実務の全体像
- 4回 不動産取引の実際
- 5回 不動産取引における司法書士の役割と不動産登記
- 6回 不動産登記法I(総論・登記簿等)
- 7回 不動産登記法II(登記申請・所有権の登記)
- 8回 不動産登記法III(登記申請・抵当権その他の登記)
- 9回 不動産取引と不動産登記(まとめ)
- 10回 民事・家事裁判手続きの種類と概要
- 11回 民事訴訟I(民事訴訟の仕組み)
- 12回 民事訴訟II(民事訴訟の実際・訴状の構成)
- 13回 成年後見制度と不動産登記手続き、民事・家事裁判手続き
- 14回 司法書士制度の歴史、背景と隣接法律専門職との関係
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

提出課題・・・20%
 学期末試験・・・70%
 日常の授業への取り組み・・・10%
 提出課題を提出せず、かつ、学期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の前には、自分の普段の生活において、自分の行う行為(買い物、住居の賃貸など)が法令、特に民法と関連していないかを意識して、法令と日常生活との関係を考えてみてください。
 講義では、法令が日常生活においても機能していることを解説しますので、それを踏まえて、契約に伴う債権・債務関係、債務の履行の内容(対抗要件の具備)などを改めて確認してください。契約書の例を挙げて、民法等の法令を確認している部分、または修正している部分等を解説するので、各種契約書を目にすることがあれば、民法等の法令との関係を考えてみてください。これらのことにより、社会生活における法令の果たす機能を実際に体験・実感でき本講義の理解が深まります。

履修上の注意 /Remarks

講義で配布したレジユメは、その後の講義で使用することがあるので、各自ファイリングして講義の際に必ず持参してください。
 コンパクトなもので構いませんので民法が収録された六法を持参してください。
 授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に取り組むことを心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

民法を既に受講していた場合、本講義の理解がより深いものになります。
 また、普段から法律に関係しながら生活していることを知っていただくために、民法が身近な生活に関連した法律であること具体例をいくつか紹介します。

キーワード /Keywords

司法書士 不動産 登記 民事裁判 家事裁判 国家試験 成年後見 民法

法律実務論II 【昼】

担当者名 細川 眞二 / HOSOKAWA SHINJI / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	法曹・準法曹の実務の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法律実務論II

LAW391M

授業の概要 /Course Description

司法書士試験を目指す学生に対して、司法書士の業務を紹介しながら、試験科目の一つである商業登記法に対応した講義を行います。また、将来会社設立を考えている学生にも、会社法と会社の登記がどのように連動しているのかを理解していただきます。さらに、司法書士の新しい業務である成年後見人やADR（裁判外紛争解決手続）についても紹介します。

(到達目標)

【技能】法曹・準法曹の実務の理解に必要な基礎的な技法を身につけている

【コミュニケーション力】法律専門職の実務内容を学ぶことを通じて、協働して法的問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている

【自律的行動力】法律専門職の実務内容を学ぶことを通じて、より良い社会の実現に向けて行動する姿勢を身につけている

教科書 /Textbooks

商業登記法入門（有斐閣）神崎満治郎著
また、適宜レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

成年後見教室（実務実践編・課題検討編）（成年後見センター・リーガルサポート編）日本加除出版 各¥2,500
ADR理論と実践（和田仁孝編）有斐閣 ¥2,200

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 商業登記と司法書士
- 2回 成年後見制度と司法書士
- 3回 ADR制度と司法書士
- 4回 会社設立①（取締役会設置会社）
- 5回 会社設立②（一人会社）
- 6回 変更登記
- 7回 役員変更
- 8回 募集株式発行
- 9回 組織再編
- 10回 会社合併
- 11回 会社分割
- 12回 解散・その他の登記
- 13回 任意後見制度とホームロイヤー
- 14回 法定後見制度
- 15回 メディエーション（コンフリクトマネジメント）

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 日常の授業への取り組み・・・30% 小テスト（2回）・・・10%
期末試験を受けなかった場合は評価不能（－）とします。

法律実務論II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に関連する会社法の条文を事前に目を通し、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

「会社法」を既に受講した場合は、本講義の理解がより深いものになります。
民法の行為能力、後見、保佐、補助を理解していると本講義の理解が深まります。
法律実務論Iの不動産登記法を中心として司法書士講座を履修すると司法書士業務の全体が理解できます。
予習・復習その他正規の授業時間以外の学習に主体的に取り組むことを心がけてください（特に、下記のメッセージ欄も参照のこと）。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実務で使う申請書、議事録、契約書などを多く配布するので、その整理や復習することが授業の理解をより高めますので注意してください。

キーワード /Keywords

会社設立 役員変更 新株発行 合併 会社分割 成年後見制度 後見人 保佐人 補助人 ADR 裁判外紛争解決手続 メディエーション
調停人

法学基礎演習I【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 I

SEM111M

授業の概要 /Course Description

法学基礎演習Iの目標は、これから法学部で学ぶさまざまな法制度の現状と課題を学ぶために必要かつ有益な知識と技能能力（条文の読み方、六法の使い方、判例の読み方、データベースの使い方、文献の引用方法など）の習得を目的とします。すなわち、主に次のことを学びます。

- (1) 社会で生じている実際の事件や紛争、そして、それらを解決するための法システムに存在する問題点を発見する方法
- (2) 問題点を検討するにあたり、資料・文献を検索・収集する方法（図書館の利用方法、法律文献の調べ方等も含む）
- (3) 収集した資料を精読・分析する方法
- (4) ゼミ内で検討結果としての自分の考えを発表する方法
- (5) 論点についてお互いに討論する方法

（到達目標）

【技能】法的な問題点を抽出し、法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている。

【コミュニケーション力】他の参加者と議論をしながら、協働して法的問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】法的問題への関心を持ち続け、より良い社会の実現に向けて行動する姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

弥永真生著『法律学習マニュアル』最新版（有斐閣）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、ゼミを進める中で指示していくことにします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ゼミの運営方針を確認し、役割分担を決める。
授業の受け方・講義ノートの取り方・レポート作成上の注意を学ぶ。
- 第2回 パソコンを利用して情報を検索したり、図書館等を利用して実際の情報や資料を入手する方法を学ぶ。
- 第3回 各自、興味のある法律問題・事件について調べる。
そのうえで候補テーマに関して、文献資料や判例等がどの程度存在しているのか調査する。
- 第4回 各自、問題・テーマを決定して、それについての報告を行う準備をする。
- 第5回 文献の要約の仕方を学ぶ。
- 第6回 報告書（レジユメ）の作り方、口頭発表の仕方・討論の仕方について学習する。
報告者の順番を決める。
- 第7回 レポートの作成方法を学ぶ。
- 第8回～第15回 報告順番に従って、毎回、担当者が報告を行い、参加者全員で議論する。

法学基礎演習I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

必須の課題（報告の他、レポート作成を含む。）への取り組み50%
ディスカッションへの参加度50%
一評価不能：ゼミへの参加（出席）がまったくなかった場合
D評価：最低合格点60点（ゼミ自体への参加度＝出席を含む）に満たなかった場合。
無断欠席、ならびに、ゼミを3分の1以上欠席した場合には、参加度が著しく低くなります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に積極的に取り組むことが求められます。
具体的には以下のとおりです。
1、報告者にはレジユメの作成と参加者への配布を行うこと
2、報告者以外の受講者は、事前に報告予定者のレジユメを読み込みみんでおき、質問事項を準備すること
3、事後的に論点についての議論を振り返ったうえで、自説をまとめておくこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 1、ゼミへの積極的な参加を希望します。
- 2、報告者は、翌週の講義回においては報告担当者のために「司会者」の役割を果たすことになります。
- 3、2名以上のグループ学習・討論の機会が設けられることがあります。
- 4、3年生や4年生の先輩をオンラインゲストとして招待して学修生活上のアドバイスを受ける機会を設けることも検討中です。

キーワード /Keywords

文献検索、レジユメの作成、ディスカッション、文献引用法

法学基礎演習I【昼】

担当者名 山本 健人 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 I

SEM111M

授業の概要 /Course Description

本演習は、これから法学を学ぶ者にとって必要な知識と技能（条文の読み方、六法の使い方、判例の読み方、データベースの使い方、文献の引用方法など）の習得を目的とします。

（到達目標）

【技能】 法的な問題点を抽出し、法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている。

【コミュニケーション力】 他の参加者と議論をしながら、協働して法的問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】 法的問題への関心を持ち続け、より良い社会の実現に向けて行動する姿勢を身につけている

教科書 /Textbooks

長谷部恭男『法律学の始発駅』（有斐閣、2021年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 弥永真生『法律学習マニュアル〔第4版〕』（有斐閣、2016年）

佐藤望ほか『アカデミック・スキルズ〔第3版〕』（慶應義塾大学出版会、2020年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス

第2回 法学の学び方

第3回 リーガルリサーチ①：法令・判例・文献の探し方

第4回 リーガルリサーチ②：文献の種類と文献引用の仕方

第5～10回 基本的な文献購読

第11～14回 デイバートまたはグループ報告

第15回 まとめ

※受講人数、受講者の希望等によって、内容を変更することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への積極的取組み(40%)、報告(40%)、レポート(20%)

無断欠席及び本人の責めに帰すべき理由による欠席が5回以上の場合は評価不能(－)とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示された授業外学習を行うこと。

情報収集、レジюме作成、レポート作成などを行うこと

履修上の注意 /Remarks

法学基礎演習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、SDGsの目標4に関連しています。

キーワード /Keywords

法学基礎演習I【昼】

担当者名 岡本 舞子 / OKAMOTO MAIKO / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 I

SEM111M

授業の概要 /Course Description

本演習は、①ディベートや②判例の分析、議論を通じて、法律を学ぶ上での基礎的知識を修得し、法的思考の基本を身につけることを目的とします。

具体的には、①受講生が自身の関心に基づきテーマを決め、グループでディベートを行います。②重要判決を取り上げ、受講生に判決の内容を報告してもらい、議論します。受講生の報告を中心に進めますが、法律の基本的な内容や関連判例は、教員のほうからフォローします。

(到達目標)

【技能】 法的な問題点を抽出し、法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている

【コミュニケーション力】 他の参加者と議論をしながら、協働して法的問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている

【自律的行動力】 法的問題への関心を持ち続け、より良い社会の実現に向けて行動する姿勢を身につけている

教科書 /Textbooks

特に指定しません。必要に応じて、レジュメ・資料等を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション、メールの書き方
- 第2回 法学入門①【六法の使い方、条文の構造、法学における議論の特徴】
- 第3回 法学入門②【法の種類、制定法の階層】
- 第4回 法学入門③【法の適用一裁判所・裁判手続】
- 第5回 データベースの使い方、文献の引用方法、ディベートのテーマ決め
- 第6回 ディベートの準備
- 第7回 ディベートの準備
- 第8回 ディベート
- 第9回 レポートの書き方、法学入門④【判例の意義、探し方、読み方】
- 第10回 判例報告の準備
- 第11回 判例報告の準備
- 第12回 判例報告の準備
- 第13回 判例報告①
- 第14回 判例報告②
- 第15回 判例報告③

※ディベートのテーマや報告判例は、受講生の関心を考慮し、開講後に決定します。

※具体的なスケジュールは変更する可能性があります。

法学基礎演習I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

発言を通じた授業への参加度合い50%、報告・レポートの内容50%
5回以上欠席した場合は、評価不能(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：演習で扱う資料や判決を読んでくること。
事後学習：学習した内容を振り返り、自身の関心に基づき、さらに文献等を調べ、理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、SDGsの「8.働きがいも経済成長も」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

法学基礎演習I【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 I

SEM111M

授業の概要 /Course Description

本クラスでは、国際問題を題材にし、受講者に対しそれらを法的に分析していくプロセスを実践させることで、①法情報検索技術の習得、②プレゼンテーション能力の向上、③討論能力の向上を目指しています。

到達目標は、

- 【技能】 法的な問題点を抽出し、法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている
- 【コミュニケーション力】 他の参加者と議論をしながら、協働して法的問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている
- 【自律的行動力】 法的問題への関心を持ち続け、より良い社会の実現に向けて行動する姿勢を身につけている

となります。

具体的には、

- 法情報検索技術の基礎を身につける、
 - 知識や情報を集めて自分の意見を言うことができる、
 - チームを組んで特定の課題に取り組むことができる、
 - ディスカッションやプレゼンテーションを通じ、自分の考えをわかりやすく述べるることができる、
- とします。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。
基礎ゼミの理解に必要な資料は、必要に応じ、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については、別途、指示します。

法学基礎演習I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 コースガイダンス，大学メールの確認

【PartI：リーガルスキルの基礎を学ぶ】

第02回 法学・法律学を学ぶにあたって：六法の使い方

第03回 法学・法律学を学ぶにあたって：条文の読み方

【PartII：リーガルリサーチの基礎を学ぶ】

第04回 学術的リサーチの基礎を学ぼう（OPAC，CiNii，法律データベースなどの使い方）

第05回 北九州市立大学図書館や法学部資料室を探検しよう

第06回 実践課題：関心のあるテーマについて<Buddy Work>

第07回 成果報告会①：前半のチーム

第08回 成果報告会②：後半のチーム

【PartIII：実際の判決文を読んでみる】

第09回 実際の判決文を読む①：判決文の構造を知る

第10回 実際の判決文を読む②：争点ごとに整理しながら読む【原告の主張】【被告の主張】

第11回 実際の判決文を読む③：争点ごとに整理しながら読む【裁判所の判断】

第12回 実際の判決文を読む④：検討，判例報告の作法を知る

【PartIV：法学部生として生き残る】

第13回 大学生としてのレポートの作法を学ぶ（文献の引用方法を含む）

第14回 法律の答案の作法を学ぶ（論述問題への挑戦）

第15回 まとめ と 夏休みの課題

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）を基準として評価することになります。

授業への参加と貢献...30%

PartIの課題...10%

PartIIの課題...25%

PartIIIの課題...25%

PartIVの課題...10%

3回以上欠席した場合には、評価不能（一）とします。なお2回まで欠席することを認めているわけではありませんのでご注意ください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。

また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

履修上の注意 /Remarks

予習、復習やサブゼミなど、正規の授業時間外にも真摯に取り組むことが要求されるゼミです。

この点を十分に理解し、自覚と責任感を持って、ゼミに参加されることを期待します。

IとIIをセットで受講してください。

欠席や遅刻は、ゼミの運営に支障をきたし、授業やグループでの作業に深刻な影響を与えることになります。やむを得ず、欠席等する場合には、必ず事前に連絡を入れてください。無断欠席や度重なる遅刻など、参加状況が悪い場合には、その後のゼミ受講を認めませんので、受講申請にあたってはこの点に注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

法学部法律学科へようこそ。あなたの夢は何ですか。

この一年間は、その実現にとって必要な基礎を固める大切な時期となります。一緒にがんばりましょう。

キーワード /Keywords

【法的分析等に関する基礎技術の習得】

法学基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅰ

SEM111M

授業の概要 /Course Description

本演習は、これから法学を学ぶ者にとって必要な知識と技能（条文の読み方、六法の使い方、判例の読み方、データベースの使い方、文献の引用方法など）の習得を目的とします。演習前半では、法学の基礎知識と法令・判例・文献の調べ方をはじめとするリーガル・リサーチの方法を学習します。演習後半では、死刑制度や裁判員制度をめぐるディベート、および憲法の重要判例を題材にしたグループ報告を行ってまいります。また、裁判傍聴をはじめとする学外活動を行うこともあります。

（到達目標）

【技能】 法的な問題点を抽出し、法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている。

【コミュニケーション力】 他の参加者と議論をしながら、協働して法的問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】 法的問題への関心を持ち続け、より良い社会の実現に向けて行動する姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス（授業内容の説明など）

第2～8回 法学の基礎知識またはリーガル・リサーチ

第9～14回 ディベートまたはグループ報告

第15回 まとめ

※受講人数、受講者の希望等によって、内容を変更することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告50%、日常の授業への取組み50%

※出席回数0回の場合は、評価不能（－）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜、教員が指示する課題に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、SDGsの目標4に関連しています。

キーワード /Keywords

法学基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅰ

SEM111M

授業の概要 /Course Description

「社会契約説」に関する代表的な古典的著作を精読することによって、法学の基礎理論を学ぶことを、本演習の目的とする。
これらの著作は、法学をこれから学ぶ者が一読しておくべき、古典的名著である。また、それと同時に、J・ロールズやR・ノージックなどの現代正義論との関連からも、その理論的射程が再検討されるべきものでもある。本演習では、古典と現代という二重の問題意識をもちつつ、以下のテキストを読み進めていきたい。
これまでおそらくは教科書的知識のみで知っているつもりとなっていたであろう古典的著作を、翻訳でではあれ、直接読むことにより、必ずやなんらかの点において知的に触発されるものがあると思われる。既読者にとっても、いずれの著作も、読むたびに新たな発見や関心を喚起するような性質をもった名著である。また、実定法学を学ぶ上でも、これらの著作からは、理論的基礎として大いに得るものがあるであろう。
なお、上記に加えて、文献の引用方法やデータベースの使い方についても学ぶ。

(到達目標)

- 【技能】 法的な問題点を抽出し、法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている。
- 【コミュニケーション力】 他の参加者と議論をしながら、協働して法的問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
- 【自律的行動力】 法的問題への関心を持ち続け、より良い社会の実現に向けて行動する姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

ジョン・ロック『統治二論』（岩波文庫、1320円）
ルソー『社会契約論 / ジュネーヴ草稿』（光文社古典新訳文庫、933円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ロック『全訳 統治論』（柏書房）
- 浜林正夫『ロック』（研究社出版）
- 森村進『ロック所有論の再生』（有斐閣）
- 西嶋法友『ルソーにおける人間と国家』（成文堂）
- 川合清隆『ルソーとジュネーヴ共和国』（名古屋大学出版局）

法学基礎演習I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
- 第2回 ロック『統治二論』第1回(自然状態についてなど)
(あらかじめ報告者を決め、その報告をもとに議論をしながらテキストを順に読み進める。以下同様)
- 第3回 ロック『統治二論』第2回(所有権についてなど)
- 第4回 ロック『統治二論』第3回(政治社会と統治の目的についてなど)
- 第5回 ロック『統治二論』第4回(父親の権力、政治権力、専制権力についてなど)
- 第6回 ロック『統治二論』第5回(統治の解体についてなど)
- 第7回 ロック『統治二論』第6回(『統治二論』前編についてなど)
- 第8回 ルソー『社会契約論/ジュネーブ草稿』第1回(社会契約についてなど)
- 第9回 ルソー『社会契約論/ジュネーブ草稿』第2回(一般意志についてなど)
- 第10回 ルソー『社会契約論/ジュネーブ草稿』第3回(政府一般についてなど)
- 第11回 ルソー『社会契約論/ジュネーブ草稿』第4回(政府の設立についてなど)
- 第12回 ルソー『社会契約論/ジュネーブ草稿』第5回(投票や公民宗教についてなど)
- 第13回 ルソー『社会契約論/ジュネーブ草稿』第6回(主権についてなど)
- 第14回 ルソー『社会契約論/ジュネーブ草稿』第7回(法の制定についてなど)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...40% 質問等の状況...30% 日常の演習への取り組み...30%
特別な理由なく、担当した報告をしなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回に扱う予定の箇所を事前にきちんと読み、報告者に対する質問を事前に必ず考え、予習し準備しておくこと。授業の後は、レジュメ等をもとに内容を整理し、復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

この授業は、SDGsの「10.人や国の不平等をなくそう、16.平和と公正をすべての人に」の目標に関連しています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ジョン・ロック『統治二論』(岩波文庫)は、2010年11月に文庫版として出版されました。それまでの岩波文庫版は、『市民政府論』の名で、『統治二論』の後編だけが訳出・刊行されていました。本演習では、後編を中心に扱いますが、前編についても第7回目に概観をする予定です。

キーワード /Keywords

社会契約 自然状態 統治 主権 一般意志

法学基礎演習I【昼】

担当者名 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 I

SEM111M

授業の概要 /Course Description

この授業では、我が国の法体系、法令の基礎知識（条文の読み方、六法の使い方など）、裁判制度の基礎知識、判例や法律文献の探し方、文献の引用方法など、これから法学を学習するために必要な基本的な知識・技能を習得することに加え、民法の有名な判例を受講者全員で読むことを通して、法律文献を読む力を養成することを目標とする。

（到達目標）

【技能】法的な問題点を抽出し、法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている

【コミュニケーション力】他の参加者と議論をしながら、協働して法的問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている

【自律的行動力】法的問題への関心を持ち続け、より良い社会の実現に向けて行動する姿勢を身につけている

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 我が国の法体系
- 第3回 法令・裁判制度の基礎知識
- 第4回 判例・法律文献の探し方
- 第5回 文献の引用方法
- 第6回 宇奈月温泉事件-大審院昭和10年10月5日判決(1)【事実の概要（前半）】
- 第7回 宇奈月温泉事件-大審院昭和10年10月5日判決(2)【事実の概要（後半）】
- 第8回 宇奈月温泉事件-大審院昭和10年10月5日判決(3)【判決理由（前半）】
- 第9回 宇奈月温泉事件-大審院昭和10年10月5日判決(4)【判決理由（後半）】
- 第10回 宇奈月温泉事件-大審院昭和10年10月5日判決(5)【補足説明】
- 第11回 信玄公旗掛松事件-大審院大正8年3月3日判決(1)【事実の概要】
- 第12回 信玄公旗掛松事件-大審院大正8年3月3日判決(2)【判決理由（前半）】
- 第13回 信玄公旗掛松事件-大審院大正8年3月3日判決(3)【判決理由（後半）】
- 第14回 信玄公旗掛松事件-大審院大正8年3月3日判決(4)【補足説明】
- 第15回 まとめ

* 授業の内容は、受講者の希望や授業の進行状況等に応じて、一部変更することがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...100%

正当な理由なく無断で8回以上欠席した場合は、評価不能（-）とする。

法学基礎演習I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示された予習，復習その他の授業外学習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

導入科目（法学総論・日本国憲法原論・民法入門）をあわせて受講することが望ましい。

授業には必ず最新の六法（ポケット六法等の小型のもので良い）を持参すること。

なお，授業に関する連絡は原則として大学のメールを通して行うので，常にメールを確認することができるよう，各自のスマートフォンに Outlook アプリをインストールしておくことを強く推奨する（詳細は初回授業で説明）。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

法学を学習する上で必要な基本的な知識・技能を確実に身につけられるように，積極的に授業に参加してもらいたい。

また，新型コロナウイルスの接触感染を予防するとともに，SDGsの「つくる責任 つかう責任」「陸の豊かさを守ろう」を達成するための取り組みとして，この授業における資料の配布は極力Moodle上で行う。

キーワード /Keywords

法学 民法

法学基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅰ

SEM111M

授業の概要 /Course Description

主に私法（民法・商法）に関連する判例・文献等を素材として、法学に関する基本的なトレーニング（条文の読み方、六法の使い方、データベースの使い方などを含む）を行います。報告やディベート等を通じて、プレゼンテーションやコミュニケーションの能力を高めることや、法学に必要な情報の収集・整理のためのスキルや法的分析力を身につけることを目的とします。

（到達目標）

【技能】法的な問題点を抽出し、法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている。

【コミュニケーション力】他の参加者と議論をしながら、協働して法的問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】法的問題への関心を持ち続け、より良い社会の実現に向けて行動する姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

最初の授業で指示します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～3回 法を学ぶ意義や法の役割を学ぶ。
- 4回～9回 ディベートをやってみよう
- 10回～14回 各担当者による報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、日常の授業への取り組み...50%
(ゼミを放棄したと認められる場合は「-」となります。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

履修上の注意 /Remarks

法学総論や民法入門と併せて受講すると効果的に学習できると思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

法学基礎演習I【昼】

キーワード /Keywords

法学基礎演習I【昼】

担当者名 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 I

SEM111M

授業の概要 /Course Description

本演習は、主として1年次生を対象とし、法学を学ぶ上での基礎的知識の修得を目的とする。

とはいえ、この科目は「演習」科目であるから、教員からの指示に従うという「受け身」的姿勢ではなく、自らの問題関心を基礎とした積極的な調査・報告を行い、率直な意見を述べ他人と討論する能力を身につけることが必要とされる。間違いを恐れず、積極的に発言・参加することを求める。

具体的には、前半で、法律学特有の言葉や言い回し、法の構造などについてレクチャーすると共に、大学での勉強に欠かせない図書館の使い方や文献検索の仕方などについて身につける。後半では、初学者にとって最もなじみやすいと思われる「判例」を用いて、抽象的に書かれた法の具体的な適用・解釈の方法を学ぶ。

(到達目標)

【技能】 法的な問題点を抽出し、法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている

【コミュニケーション力】 他の参加者と議論をしながら、協働して法的問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている

【自律的行動力】 法的問題への関心を持ち続け、より良い社会の実現に向けて行動する姿勢を身につけている

教科書 /Textbooks

特に使用しない。必要に応じてレジュメ・資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に使用しない。必要に応じて適切なものを指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 法律基礎講座①～法律の構造について
- 第3回 法律基礎講座②～専門的な法律用語
- 第4回 法律基礎講座③～法律のヒエラルキーを知ろう
- 第5回 判例・文献の調べ方①～「判例」とは何か～図書館に足繁く通おう！
- 第6回 判例・文献の調べ方②～図書館を活用しよう
- 第7回 判例・文献の調べ方③～法令・文献等の引用表記
- 第8回 判決文を読み込む①～判決書の構造
- 第9回 判決文を読み込む②～事案・当事者の主張の把握
- 第10回 判決文を読み込む③～グループ報告
- 第11回 判決文を読み込む④～裁判所の判断を読み解こう
- 第12回 判決文を読み込む⑤～グループ報告
- 第13回・第14回 各グループによる事案報告会
- 第15回 まとめ

* 具体的な実施スケジュール・方法などは、ゼミ生の人数・関心などを考慮し、開講後に決定する。

法学基礎演習I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の演習への貢献度に応じて総合的に判断する。以下の記述は、あくまでおおよその目安として考えてほしい。

ゼミへの参加・受講態度・・・70% 課題等提出状況及び内容・・・30%

* 無断欠席は、即ゼミ放棄とみなします。また、理由はどうかあれ、出席率が2/3に満たない場合は、単位認定しません。いずれも成績評価を「Z」とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

(事前学習) 次回取り上げる題材について、あらかじめ目を通し、疑問点をまとめる。

(事後学習) 学習した内容を振り返り、課題に取り組むことで知識の定着を図る。

履修上の注意 /Remarks

単に出席しているだけでは何の能力も身に付きません。積極的に発言・参加してください。

何度か課題を出します。それまでの演習で学んだことをフルに活用してチャレンジしましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この演習は、SDGs10(人や国の不平等をなくそう)及び16(平和と公平をすべての人に)の目標と関連しています。

キーワード /Keywords

法学基礎演習I【昼】

担当者名 中村 英樹 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 I

SEM111M

授業の概要 /Course Description

(到達目標)

- 【技能】 法的な問題点を抽出し、法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている
- 【コミュニケーション力】 他の参加者と議論をしながら、協働して法的問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている
- 【自律的行動力】 法的問題への関心を持ち続け、より良い社会の実現に向けて行動する姿勢を身につけている

本演習は

- ①大学（法学部）で学ぶための基礎となる知識を身につけること
- ②社会的問題に対する関心を高めることを目的とする。

そのために、原則として各回を前半と後半に分け、前半部では指定教科書の講読を中心として、法学的な基礎知識の習得を行う。後半部では、法学に関連する問題を扱ったドキュメンタリー等を視聴した上で議論を行い、社会的問題関心を涵養する。これらを通じて、以降の専門教育へのスムーズな導入を図るとともに、自ら学ぶ姿勢を身につける。

教科書 /Textbooks

道垣内弘人『プレップ法学を学ぶ前に 第2版』（弘文堂、2017年）（1000円＋税）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 法学入門書各種
- 大橋洋一『法学テキストの読み方』（有斐閣、2020年）
 - 横田明美『カフェパウゼで法学を』（弘文堂、2018年）
 - 横田明美ほか『法律学習Q&A』（有斐閣、2019年）
 - 吉田利宏『法学のお作法』（法律文化社、2015年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス（演習の目的・概要説明など）
- 第2回 グループディスカッション
- 第3回 法学とは何か（1）
- 第4回 法学とは何か（2）
- 第5～13回 前半：テキスト講読・法学的基礎能力の習得、後半：社会的課題の検討
- 第14回 総合討論
- 第15回 まとめ

- ※参加者の人数等により内容は変更する可能性があります。
- ※大学施設案内や図書館利用方法、データベースの使い方等のガイダンスも実施する予定です。
- ※「法学基礎演習I」または「II」で、条文の読み方や六法の使い方、判例の読み方も扱う予定です。
- ※文献の引用方法についても扱う予定です。

法学基礎演習I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

各回の主体的参加状況：70%
中間課題：30%

原則として、3分の1(5回)以上欠席した場合は単位を認めません(評価は「一」とします)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書講読に関しては、各回内容の予習・復習。
取り上げる社会的課題について主体的に情報を収集して検討すること。

履修上の注意 /Remarks

演習(ゼミ)とは参加者全員で雰囲気を作り上げていく、いわばチームでの学習である。したがって、無断欠席や正当な理由のない遅刻などに対しては、厳しく対処する。

本演習は「法学基礎演習II」と連続性を持って実施する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学時代は、社会へ出て行くための「助走期間」に喩えられる。如何に助走したかによって、社会への飛び出し方が変わってくるはずである。本演習では、みなさんが「きちんと助走する」ことができるように手助けしていきたいと考えている。

この授業は、SDGsの5「ジェンダー平等を実現しよう」、10「人や国の不平等をなくそう」、16「平和と公平をすべての人に」という目標に関連しています。

キーワード /Keywords

法学基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅰ

SEM111M

授業の概要 /Course Description

テーマ「法学の基礎技術（1）」

現代社会においては、さまざまな問題が絶え間なく発生しています。これらの問題を解決するために、法学は、どのようにアプローチしていくことができるのでしょうか。

法学の各分野に共通する基礎的知識を整理しながら、ノート・テイキングや文献読解の方法、レポート・レジュメの作成、ディスカッションの方法、法令・判例・文献資料などの法情報の検索方法や収集方法、引用法といった法学を学ぶ基本的な技術を学んでいきます。また、現代社会の重要なテーマを通じて、法学のものの考え方、基本的な原理や思想、思考方法を育てていきましょう。

この演習では、①学習の基本的技術の習得、②法学の基礎知識の修得と、③法を支える基本的思考の理解を目的とします。

（到達目標）

【技能】法的な問題点を抽出し、法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている。

【コミュニケーション力】他の参加者と議論をしながら、協働して法的問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】法的問題への関心を持ち続け、より良い社会の実現に向けて行動する姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

初回の講義において、テキストや参考書について説明します。

①六法（2022年版・令和4年版）

『ポケット六法』（有斐閣）や『デイリー六法』（三省堂）、『法学六法』（信山社出版）といった「最新の」六法を必携してください（種類・出版社を問わない。）。

②テキストを指定しません。随時必要な資料を参照してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

この他、随時、必要と思われる文献や資料を紹介していきます。

道垣内弘人『プレップ法学を学ぶ前に』2版（弘文堂・2017.11）ISBN: 9784335313264、1,100円（税込）。

○山下純司 / 深町晋也 / 高橋信行『学生生活の法学入門』（弘文堂・2019.12）ISBN: 9784335356988、2,420円（税込）。

○法制執務・法令用語研究会『条文の読み方』2版（有斐閣・2021.03）ISBN: 9784641126268、990円（税込）。

○井田良ほか『法を学ぶ人のための文章作法』2版（有斐閣・2019.12）ISBN: 9784641126121、2,090円（税込）。

○田高寛貴 / 原田昌和 / 秋山靖浩『リーガル・リサーチ&レポート』2版（有斐閣・2019.12）ISBN: 9784641126114、1,870円（税込）。

○早川吉尚『法学入門（有斐閣ストゥディア）』（有斐閣・2016.03）ISBN: 9784641150324、1,980円（税込）。

法学基礎演習I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ※諸事情により内容を変更し、進捗状況が前後することがあります。
- 1回 ガイダンス(演習の運営方針の説明、自己紹介、大学メール・Moodleの利用法など)
 - 2回 正解のない問題
 - 3回 六法の使い方・条文の読み方①
 - 4回 六法の使い方・条文の読み方②
 - 5回 六法の使い方・条文の読み方③
 - 6回 ファシリテーションの技術
 - 7回 法学の論理(理論編)
 - 8回 法学の論理(実践編)
 - 9回 情報を収集する(1)ヴァーチャル図書館見学
 - 10回 情報を収集する(2)情報検索実習(新聞記事・法令・判例と裁判例・文献の検索)
 - 11回 情報を収集する(3)文献引用の方法
 - 12回 文献の読み方を学ぶ(1)キー・センテンスの発見
 - 13回 文献の読み方を学ぶ(2)パラグラフ・リーディングと文献の要約・主張の発見
 - 14回 文献の読み方を学ぶ(3)文献を読み解くとは(クリティカル・リーディング)
 - 15回 文章を書く(1)レポートの要素と構成(主題と要旨)・文献リストをつくる

成績評価の方法 /Assessment Method

試験を行いません。平常点を基礎に成績評価を行います。
提出されたレポート等(30%)、演習における報告内容(20%)、およびディスカッションにおける発言状況・内容(50%)を総合的に評価します(カッコ内は評価の全体に占める割合です。)
5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ①担当した課題(テーマ)について、関連する資料を収集・検討して、レポート・レジюмеを作成して提出してください。担当者の報告に基づいて、ディスカッションを行って理解を深めていきます。担当者以外の者は、摘要(summary)を作成して演習に臨んでください。
- ②演習後は、学んだ事項や疑問点について、関連資料を参照して再検討したうえでノートを作成してください。

履修上の注意 /Remarks

「法学基礎演習I」は、「法学基礎演習II」と連続して展開することを予定しています。「法学基礎演習II」も併せて履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現実社会の問題解決には、これが正解という“真理”を求めることはできません。最善・最良と考えられる方策を提示することができるだけです。だからこそ、自分の考えを支える価値観が、そしてそれを他人に説得する能力が重要となります。演習は、履修者自身が探究し、知識を取得し、理解を深める場です。この演習を通じて、そうした自分自身の価値観や思考方法といった、法を考える基本的な視座を創り上げていってください。積極的な活動を期待しています。

キーワード /Keywords

法学 法学入門 法学の基礎

法学基礎演習I【昼】

担当者名 林田 幸広 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 I

SEM111M

授業の概要 /Course Description

学部を問わず、いわゆる演習（ゼミ）に求められる要素はいくつかありますが、とりわけ参加者の主体性・積極性という点においては（少なくとも他の講義に比べ）いささが強く求められると思います。誤解を恐れて言い換えれば、ゼミは参加者の「自由」の程度が高いということです。しかしながらその一方で、ゼミには「お作法」のようなものがあるのも事実です。例えば、「読む・調べる・まとめる・報告する・議論する・理解を深める」といった一連の流れは、残念ながら / 当然ながら「自由」ではなく、それなりの「読み方・調べ方・まとめ方・報告の仕方など」があります。このことを踏まえ、本ゼミは、参加者全員が、そうした最低限の「お作法」をゆづくりでも / 着実に習得することを最大のねらいとします。とりわけ、①「まとめ」としてのレジユメの作成、およびそれを基にした②「報告」、そして③「議論」ができるようになることを暫定的なゴールにしておきたいと思います。

その暫定的なゴールに向けて、前半に指定テキスト（教科書）・後半にいわゆる判例を素材に用います。

（到達目標）

【技能】

法的な問題点を抽出し、法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている

【コミュニケーション力】

他の参加者と議論をしながら、協働して法的問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている

【自律的行動力】

法的問題への関心を持ち続け、より良い社会の実現に向けて行動する姿勢を身につけている

教科書 /Textbooks

前半は、吉永一行編『法学部入門（第3版）』、法律文化社、2020年．を使用します。

後半で使用する判例については追って提示します。

また適宜、レジユメや補助資料を配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 弥永真生『法律学習マニュアル（第4版）』、有斐閣、2016年．

他は適宜指示します。

法学基礎演習I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※以下は、参加者の人数等によって変更となる場合があります。

- 第1回 ガイダンス(演習の目的・概要・進行方法などの説明、大学からの情報確認方法の周知)
- 第2回 レジюме作成の実践例
- 第3～9回 上記テキスト(吉永:2020)を使用したレジюме作成・報告・議論
- 第10～14回 判例を読む(指定された判例を読み、レジюме作成・報告・議論)
- 第15回 全体のまとめ

※第3～14回のなかで、適宜、六法の使い方や条文の読み方についての基本を学習します。また、図書館ツアーやデータベースの活用法を習得するための時間をとります。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ①報告の準備(レジюмеのできばえ)……40%
 - ②報告の内容(説明/質疑への応答)……30%
 - ③議論への貢献度……30%
- ※5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 【事前学習】：
報告者は、前もってレジюмеを作成しゼミ生分のコピーを持参してきてください。他の参加者は、自分なりの論点や疑問点を携えて報告後の議論に参加する準備をしてください。
- 【事後学習】：
ゼミ中に出た論点や問題点を整理して理解を深めてください。場合によっては、新たな文献や資料にあたってください。

履修上の注意 /Remarks

- ・無断の欠席・遅刻は厳正に取り扱います(欠席・遅刻する際は、かならず担当者に連絡してください)。
- ・最低限やるべきことはやってください。やるべきことがわからない場合は遠慮なくその都度担当者に尋ねてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・本ゼミの場合、「正解/不正解」の区別はさほど意味を持ちません。自分なりに一生懸命と取り組み、発話/傾聴することを重視します。
 - ・積極性に自信のある学生の参加はもちろん歓迎しますが、(半歩でも)積極性を身に着けた方がいい力手、と思っている(だけの)学生も大歓迎いたします。
- いうまでもなく、法学は社会的公正さの実現を目指す学知です。よってこの授業はSDGsの目標のうち、とりわけ「10.人や国の平等をなくそう」に関連しています。

キーワード /Keywords

法学基礎演習I【昼】

担当者名 堀澤 明生 / Akio Horisawa / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 I

SEM111M

授業の概要 /Course Description

本演習は法学を学ぶにあたり、基本的な文献を読解する能力を得るとともに、自身で表現するための練習を行います。
まずは、テキストを精読しますが、あわせて、辞書を引く力、文献を調査する能力、レジユメを作成する能力、議論能力など、今後の大学での学習の基礎体力を身につけます。

(到達目標)

【技能】

法的な問題点を抽出し、法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている。

【コミュニケーション力】

他の参加者と議論をしながら、協働して法的問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】

法的問題への関心を持ち続け、より良い社会の実現に向けて行動する姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

道垣内弘人『プレップ 法学を学ぶ前に [第二版] 』(弘文堂, 2017) 1,100円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

戸田山和久『最新版 論文の教室～レポートから卒論まで』(NHK出版, 2022年) 1,540円

横田明美『カフェパウゼで法学を～対話で見つける〈学び方〉』(弘文堂, 2018) 2,178円

※このほか、演習中に適宜紹介を行います。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 自己紹介、ゼミのガイダンスー大学メールの確認方法について

第2回 法学学習の基礎——六法の使い方

第3回 図書館ガイダンス(予定)

第4回 文献引用・レポート作成について

第5回～9回 文献講読

第10回 各参加者による報告・議論

第11回 各参加者による報告・議論

第12回 各参加者による報告・議論

第13回 各参加者による報告・議論

第14回 各参加者による報告・議論

第15回 演習全体の総括討論

【参加者の状況を見て割合が変動することがあります】

法学基礎演習I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

以下の諸点を総合的に判断し、評価を行います。

1. 演習への積極的取組み(20%)
2. 報告(50%)
3. 報告レジюмеを基にしたペーパー(30%)

報告及びペーパー提出のいずれも行わなかったときには、成績評価不能(一)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告担当者は事前にレジюмеを作成し、参加人数分出力をして持参してください。

各参加者はテキストを熟読し、論点の整理や疑問点をまとめるなどの学習を行ったうえで演習に臨んでください。

演習での解説や参加者による報告内容及び議論をメモやノートにまとめ、期末ペーパーに反映させてください。

履修上の注意 /Remarks

3回以上の正当な理由なき欠席を認めません。演習は、参加者たちによって作り上げていくものです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学という空間において、アカデミック・スキルを一通り学ぶことは必須となる。

演習の前期では主として「読むこと」に重きを置く。

※この授業は、SDGs目標4に関連しています。

キーワード /Keywords

文献調査，引用

法学基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅰ

SEM111M

授業の概要 /Course Description

この演習（ゼミ）では、法（律）学を学ぶうえで必須となる基礎的知識、思考、およびスキルなどを身につけることを最大の目的とします。具体的には、大学における学問（法学）に対する臨み方から始まり、法律（学）文献の調べ方、法学的議論の方法（論）、インターネット・データベース等を利用した（裁）判例などの検索（いわゆる「リーガル・リサーチ」）、および判例の読み方（「法的三段論法」に基づく判決理由の論理構造の解析）の基礎を学びます。

なお、この演習は、3・4年次ゼミ（○○専門演習Ⅰ～Ⅳ）において、各自関心を持った法分野の研究をする際に、必須となるスキルを低学年次段階で修得することを想定しています。

この演習では、上記各種の営みを通じて、「話す（ディスカッション）」、「（議論の相手方の話しをしっかりと理解しながら）聴く」、「自身の法的判断等を（レポート、文献書評、および判例評釈等のかたちで）書く・表現する」、および「（法学文献や判決理由を精確に）読む」力を涵養します。しっかりとした法律学科での「学び」の基礎・基本をこの演習で固めてください。

※この科目の到達目標は、下記の通りです。

【「法学基礎演習Ⅰ」の到達目標】

DP2・技能：法的な問題点を抽出し、法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている。

DP4・コミュニケーション力：他の参加者と議論をしながら、協働して法的問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

DP5・自律的行動力：法的問題への関心を持ち続け、より良い社会の実現に向けて行動する姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

①松本 恒雄ほか（編）『日本法への招待 第3版』（有斐閣、2014年）；定価（2,900円＋税）

②いしかわ まりこほか（指宿 信ほか監修）『リーガル・リサーチ 第5版』（日本評論社、2016年）；定価（1,800円＋税）

③最新版（年度）の小型六法（判例六法でも、もちろんよい。）

※上記「3点セット」を必ず購入・毎回持参してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

※演習（ゼミ）の中で適宜、紹介します。

法学基礎演習Ⅰ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※以下の計画・内容は、あくまで「めやす」です。受講人数・各ゼミ生の理解度等により修正される場合があります。
 ※なお、新型コロナウイルス感染拡大状況により、遠隔授業（Microsoft teamsを用いたリアルタイム対話型形式や対面との複合形態<いわゆる「ハイブリッド型」ゼミ>など）に変更となる回が生じる可能性があります。
 よって、ゼミ生の皆さんは、moodle（コース・トピック、掲示板、およびアナウンスメントメール）や教員からのメール等をこまめに確認して、しっかりとゼミ受講に関する情報収集・確認に努めてください。

- 第1回 ガイダンス：自己紹介、グループ・報告順の決定、期末定期試験および期末レポート等についての説明。
 第2回 議論の仕方を学び、実践する①：グループ討論（議論の素材は教員が用意します。）
 第3回 議論の仕方を学び、実践する②：グループ討論（紛争解決の種々のあり方を理解する。）
 第4回 議論の仕方を学び、実践する③：グループ討論（身近な「もめごと＝紛争」の法的解決・まとめ）
 第5回 リーガル・リサーチ①：図書館ツアー（5月GW明け頃を予定。遠隔授業となった場合は、図書館ツアー動画を各自視聴してもらいます。課題提出を求めます。）
 第6回 リーガル・リサーチ②：法学文献の調べ方、判例検索方法（インターネット・データベースの活用）を学ぶ。
 第7回 リーガル・リサーチ③：より高度な法学文献・判例（評釈）等の検索方法を学ぶ。
 第8回 「判例」とは何か？①：三段論法とは何か？議論しながら学ぶ。
 第9回 「判例」とは何か？②：三段論法から「法的三段論法」へ。「法的三段論法」の論理構造を議論しながら学ぶ。
 第10回 「判例」とは何か？③：「法的三段論法」の実践・応用訓練。実際の最高裁判決を読んでみよう！（最（二小）判 昭和60年11月29日 民集39巻7号1719頁の検討①：事実の概要と裁判経過）
 第11回 「判例」とは何か？④：「法的三段論法」の実践的訓練。実際の最高裁判決を読んでみよう！（最（二小）判 昭和60年11月29日 民集39巻7号1719頁の検討②：上告理由および判決理由の解析。「判例（定立された規範）の射程」の測定など）
 第12回 グループ報告：教科書①掲載の判決についての判例研究報告・質疑応答（グループA）。
 ※なお、グループ報告は今年度、2グループを想定しています。1グループ5～6名の予定です。
 第13回 グループ報告：教科書①掲載の判決についての判例研究報告・質疑応答（グループA）および教員による補論。
 第14回 グループ報告：教科書①掲載の判決についての判例研究報告・質疑応答（グループB）。
 第15回 グループ報告：教科書①掲載の判決についての判例研究報告・質疑応答（グループB）および教員による補論並びに1学期ゼミの「まとめ」
- ※8月初旬に期末レポートを提出していただきます。内容は「法（法学）」に関する【文献書評】です。対象文献は、「法（法学）」を題材とするものであれば、論文、教科書、小説（ライトノベルを含む）などジャンルは問いません（ただし、マンガおよび資格試験等問題集は不可とします。）。「読書感想文」ではなく、【書評】を執筆してください。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ※授業中の発言内容、議論への積極的参加の度合い、グループ報告（判例研究報告）の内容など.....50%
 ※期末レポート（文献書評）の内容.....30%
 ※期末定期試験（orオンデマンド非同時進行型期末定期試験）の成績.....20%
 （※福本担当の「法学基礎演習Ⅰ」では期末定期試験を実施するので必ず受験すること！）
 【注意】（正当な理由のない）レポート未提出者や期末定期試験未受験者には、原則として単位を付与しません。
 【成績評価において「評価不能（－）」となる基準】全15回のゼミのうち、正当な理由なく6回以上ゼミを欠席した場合、期末レポート提出や期末定期試験受験の有無に関係なく、「評価不能（－）」となります。ただし、新型コロナウイルス感染や濃厚接触者該当、その他、病気・けが、または忌引きなどを除きます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 【事前学習】この演習では、研究報告の準備以外に、事前準備（予習）が多く課せられます。たとえば、次の週に扱うテーマや報告グループの扱う判決について、様々な視点から質問することができるように、様々な文献等を読み、解らないところなどを調べてくることが要求されます。なお、この予習に必要な学習時間の目安は90分です。
 【事後学習】ゼミで扱った内容やグループで報告した判決について、ゼミ生各個人でも復習を兼ねて、疑問点などを整理したミニ・ペーパーを作成していただく予定です。なお、この復習に必要な学習時間の目安は60分です。

履修上の注意 /Remarks

事前連絡（無理な場合は「事後遅滞なき連絡」）のない「無断欠席」や「遅刻等」に対しては、退ゼミ処分も含めて厳しい態度で臨みます。「ほう（報告）・れん（連絡）・そう（相談）」がしっかりできるゼミ生になってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講ゼミ生には、受け身ではなく、能動的な学修姿勢を強く望みます。黙って座っているだけでは平常点は0点です。よって、「緊張感」を持ってゼミに臨んでくださいね。ですが、変な「緊張」はしなくて構いません。ゼミの雰囲気自体は毎年度、至極アットホームです（これまでの経験上ね.....笑）。

キーワード /Keywords

論理的思考・法的思考の基礎を固める、「法的三段論法」、リーガル・リサーチ、法学徒としての在り方、判決研究の基礎

法学基礎演習I【昼】

担当者名 矢澤 久純 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 I

SEM111M

授業の概要 /Course Description

1年生の最初の科目であるので、法学の学習をするための情報収集・分析などの基本的な能力を身につけることが、最大の目標である。内容としては、まずは「法学」というものの基礎を身につけ、次に法学の中の最も基本的な分野である民法を学習することにした。裁判所の判決などを見ながら、法学部での学習に慣れていってもらいたいことを心がける。
なお、1年前期に開講されている科目について、できるだけ、試験対策など学生同士の情報交換の場になると良いと思っている。
この授業に参加することで、法学及び民法学の考え方が養われるであろう。

到達目標

- 【技能】 法的な問題点を抽出し、法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている
- 【コミュニケーション力】 他の参加者と議論をしながら、協働して法的問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている
- 【自立的行動力】 法的問題への関心を持ち続け、より良い社会の実現に向けて行動する姿勢を身につけている

教科書 /Textbooks

使用せず。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば、授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ガイダンス、なぜ法学を学ぶのか、法学の特徴（「ある（sein）」と「あるべき（sollen）」）
- 六法のひき方の説明、成文法の理解
- 法文のための用語の説明（法文の構造編）
- 法文のための用語の説明（法文の作成編）（1）
- 法文のための用語の説明（法文の作成編）（2）
- 法文のための用語の説明（法文の作成編）（3）
- 不文法というものの理解
- 裁判制度の説明、レポートの書き方の説明
- 判決文の説明
- 裁判官の判断根拠（事実と法の絡み合い）
- 1 1 法学に関する情報検索（文献と法令編）
- 1 2 法学に関する情報検索（判例編）
- 1 3 西洋における私法・私法学の歴史と法学方法論
- 1 4 日本における私法・私法学の歴史と法学方法論
- 1 5 まとめ
(上記の順番は、変わることがありうる。)

法学基礎演習I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

一定の回数、報告をやってもらい、毎回、何らかの質問を出してもらうことを考えてはいるが、新型コロナウイルス問題の終息が見えてこないため、担当教員による講義のみになることもありうる。普段の授業態度で評価する。従って、平常点100%ということになる。「一」(パー)についてであるが、この科目は、いかなる理由であれ、単位を取得できないと判断される場合には、一律、「D」となる。「一」(パー)が付くことはない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

法学の一般論について学びながら、主として民法関連の判決を取り扱うので、事前学習(予習)としては、重要な判決については実際に判決文を読んで、論点を考えることが重要となる。事後学習としては、扱われた判決の論点について、図書館の各種資料で調査して、授業の内容を復習することが重要である。目安の時間としては、事前学習45分、事後学習45分である。

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室外でのいわゆる「ゼミ活動」なるものは、絶対に行わない。よくありがちな初回の「自己紹介」なるものも、行わない。

キーワード /Keywords

法学、民法

法学基礎演習Ⅰ【昼】

担当者名 水野 陽一 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅰ

SEM111M

授業の概要 /Course Description

受講生の関心に応じてテーマを決定する。刑事訴訟法に限らず、刑法、刑事政策といった、刑事法全般に関わるテーマについて考察する。法学部における専門教育のために必要となる体系的思考力を身につけることを目的とする。未知の問題に対しても積極的に自ら考え、解答を導出していける力を身につけることを目指す。
刑事法学以外にも、大学生活を送る際に必要となる法学以外の教養、一般常識等についても確認する。例えば、メールの書き方をはじめとする、ビジネスマナーに類することも学んで頂きます。
法学の学びに不可欠な判例の読み方をはじめ、レポートの書き方、答案の書き方なども説明する予定。
また、図書館見学、資料収集の方法を学ぶ機会ももつてくれる予定。刑務所見学等、施設見学を行う予定。

到達目標

技能：法的な問題点を抽出し、法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている。
コミュニケーション力：他の参加者と議論をしながら、協働して法的問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
自律的行動方法：法的問題への関心を持ち続け、より良い社会の実現に向けて行動する姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に応じて適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講者の関心に応じて適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 授業形態等の決定、イントロダクション。
第2回 ゼミで扱うテーマの決定。
第3回～6回 大学生活を送る際に必要となるスキルについて（メールの書き方、ビジネスマナー等）。
第7回～10回 受講者の関心に応じて、具体的な社会的問題を素材として法を学ぶ。
第11回～14回 受講者の関心のあるテーマについて、グループごとに報告、ディスカッション。
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度、レポートの評価での総合点(授業態度50%、レポートの評価50%)で総合評価する。
無断欠席を繰り返した場合、評価不能(一)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習として各回のテーマについて教科書等の該当箇所を確認すること。復習として講義中に配布したレジュメ等を確認し、わからない箇所をそのままにしないこと。

履修上の注意 /Remarks

無断欠席は厳禁。やむを得ず欠席する場合は連絡をすること。

法学基礎演習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学生生活の4年間は、あっという間に過ぎていきます。この期間で、法学はもちろん、それ以外でも何でもいいので、何かこれに打ち込んだというものを見つけて卒業してください。いわゆるガクチカ(学生時代に頑張ったこと)の内容は、そのまま皆さんの卒業後の進路に影響します。学生時代を過ごした証を残したい!という気持ちを持った方の受講を希望します。

この授業はSDGsの「人や国の不平等をなくそう」、「平和と公平をすべての人に」、「働きがいも経済成長も」、「産業と技術革新の基盤をつくろう」、「パートナーシップで目標を達成しよう」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

法学基礎演習I【昼】

担当者名 丸山 愛博 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 I

SEM111M

授業の概要 /Course Description

この演習では、法学を学ぶ上での基礎的な力、とりわけ説得的に議論を展開する方法及び判例の読み方、を身につけるとともに、コミュニケーション力を鍛えることも目的とします。コミュニケーション力の向上も目的ですので、演習中は積極的に発言することが求められます。

(到達目標)

【技能】 法的な問題点を抽出し、法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている

【コミュニケーション力】 他の参加者と議論をしながら、協働して法的問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている

【自律的行動力】 法的問題への関心を持ち続け、より良い社会の実現に向けて行動する姿勢を身につけている

教科書 /Textbooks

道垣内弘人『プレップ法学を学ぶ前に(第2版)』(弘文堂、2017年)1000円+税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○(オンラインで閲覧可能) 田高寛貴ほか『リーガル・リサーチ&レポート(第2版)』(有斐閣、2019年)1700円+税

道垣内弘人『自分で考えるちょっと違った法学入門(第4版)』(有斐閣、2019年)2000円+税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス(自己紹介、演習の進め方・成績評価方法の説明など)
- 第2回法律学は説得の学問である(1)ケーキの分け方を考える
- 第3回法律学は説得の学問である(2)マンションのエレベーターの修理
- 第4回社会と法(1)新聞記事を手掛かりに報告
- 第5回社会と法(2)新聞記事を手掛かりに報告
- 第6回社会と法(3)新聞記事を手掛かりに報告
- 第7回法学における議論の特徴を学ぶ(輪読+質疑応答)
- 第8回法解釈の諸方法について学ぶ(輪読+質疑応答)
- 第9回法の体系と形式について学ぶ(輪読+質疑応答)
- 第10回法の適用について学ぶ(輪読+質疑応答)
- 第11回法の担い手について学ぶ(輪読+質疑応答)
- 第12回判決の読み方(1)(輪読+質疑応答)
- 第13回判決の読み方(2)(輪読+質疑応答)
- 第14回判例の調べ方を学び、判例百選に触れる
- 第15回レジュメの作り方とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中の発表内容及び発言70%、レポートやレジュメなどの成果物30%

なお、5回以上欠席したときは、成績評価は、原則として「評価不能」となります。

法学基礎演習I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

演習では積極的に発言することが求められます。発言をするためには、事前の学習が不可欠です。指定された文献等は全員が必ず読んでから演習に参加してください。

事後学習は、演習で使用した資料を読み返して分からないことが無いかを確認してください。分からないことがあった場合には、各自で調べて、それでも分からない場合には次回の演習で質問してください。

履修上の注意 /Remarks

授業計画・内容については、履修者数や履修者の理解度に応じて変更することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本学に着任して2年目です。少し慣れてきましたがまだまだ分からないこともあるので、みなさんの意見を聞きながらより良い演習にしていきたいと思っています。復習になるかもしれませんが、基礎の基礎から始めるつもりです。

キーワード /Keywords

法学入門 法的思考力

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 II

SEM112M

授業の概要 /Course Description

法学基礎演習IIでは、法学基礎演習Iにおいてすでに学修したこと、すなわち、
①事件や紛争、法システムに含まれている法的問題を発見する方法、
②問題を検討するために必要な資料文献等の検索・収集方法（図書館の利用方法、法律文献の調べ方等も含む）、
③文献資料の分析方法など、
を前提に、さらに進んで、「裁判の役割と判例の読み方」を学びます。

第一段階：裁判所の判例・下級審の裁判例が実際に果たしている重要な機能を学びます。

（判例とは何か、どのようにして作られ、実務をどのように拘束するかについて学びます。）

第二段階：受講生各自が、一番興味のある法律問題を取り扱った実際の判例を選択して、報告します。

報告者は、当該判例の紹介と批評を行います。

その後、受講者全員で、当該判例の考え方や報告者の批評のあり方・内容等について、自由に議論します。

（到達目標）

- ・ 法的な問題点を抽出し、法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている。
- ・ 他の参加者と議論をしながら、協働して法的問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
- ・ 法的問題への関心を持ち続け、より良い社会の実現に向けて行動する姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

適宜、ゼミを進める中で指示していくことにします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、ゼミを進める中で指示していくことにします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

受講者自身が選択した判例（裁判例）につき、判例評釈の報告を行い、報告書を作成します。

第1回 ゼミの運営方針の説明、報告分担箇所・報告者の決定

第2回 民事判例の機能

第3回 民事判例の学び方

第4回 刑事判例の機能

第5回 刑事判例の学び方

第6回 憲法判例の機能と学び方

第7回 判例報告用のレジュメを作る練習をする

第8回～第15回 受講者による各自が選んだ判例の発表と討論

法学基礎演習II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

必須の課題（報告の他、レポート作成を含む。）への取り組み50%
ディスカッションへの参加度50%
一評価不能：ゼミへの参加（出席）がまったくなかった場合
D評価：最低合格点60点（ゼミ自体への参加度＝出席を含む）に満たなかった場合。
無断欠席、ならびに、ゼミを3分の1以上欠席した場合には、参加度が著しく低くなります。
正当な理由なき「頻繁なる遅刻」は、ゼミへの参加度が「著しく低い」と見なします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ①自ら興味を抱く裁判例を選択しておくこと。
- ②各自が順次行う（あるいは期末に提出する）判例報告を準備しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に積極的に取り組むことが求められます。
報告者には、以下の点が求められます。
1, 報告概要（レジюме）を作成し、報告時には、参加者全員にレジюме等の資料を配布すること。
2, 報告に際しては判例の論旨を要約し、そこから論点を皆に提示すること。
3, 事案についての質疑に回答できるように、判決全文を手元に用意して報告に臨むこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミへの積極的な参加を希望します。

キーワード /Keywords

判例の機能、判例の読み方、判例評釈

法学基礎演習Ⅱ【昼】

担当者名 山本 健人 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅱ

SEM112M

授業の概要 /Course Description

本演習は、法学基礎演習Ⅰで習得した知識と技能（条文の読み方、六法の使い方、判例の読み方、データベースの使い方、文献の引用方法など）のさらなる向上を目的とします。演習の前半は判例の読み方を中心に扱います。演習の後半では履修者の興味関心に応じたテーマの報告と検討を行います。

（到達目標）

【技能】法的な問題点を抽出し、法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている。

【コミュニケーション力】他の参加者と議論をしながら、協働して法的問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】法的問題への関心を持ち続け、より良い社会の実現に向けて行動する姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

上田健介ほか『憲法判例50！〔第2版〕』（有斐閣、2020年）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○青木人志『判例の読み方』（有斐閣、2017年）

○中野次雄ほか『判例とその読み方（三訂版）』（有斐閣、2009年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス

第2回 判例とその読み方

第3～8回 基本的な憲法判例の購読と検討

第9～14回 履修者による報告と討論

第15回 まとめ

※受講人数、受講者の希望等によって、内容を変更することがあります

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への積極的取り組み(30%)、報告(40%)、レポート(30%)

無断欠席及び本人の責めに帰すべき理由による欠席が5回以上の場合は評価不能(－)とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示された授業外学習を行うこと。

情報収集、レジュメ・報告資料の作成、レポートの提出などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、SDGs目標4に関連しています。

キーワード /Keywords

法学基礎演習Ⅱ【昼】

担当者名 岡本 舞子 / OKAMOTO MAIKO / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅱ

SEM112M

授業の概要 /Course Description

本演習は、①ディベート、②グループディスカッション、③判例の分析、議論を通じて、法律を学ぶ上での基礎的知識を修得し、法的思考の基本を身につけることを目的とします。

具体的には、①受講生が自身の関心に基づきテーマを決め、グループでディベートを行います。②法学の基本的テーマに関する文献を読み、グループディスカッションを行い、法的問題についての理解を深めます。③重要判決を取り上げ、受講生に判決の内容を報告してもらい、議論します。

(到達目標)

【技能】法的な問題点を抽出し、法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている

【コミュニケーション力】他の参加者と議論をしながら、協働して法的問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている

【自律的行動力】法的問題への関心を持ち続け、より良い社会の実現に向けて行動する姿勢を身につけている

教科書 /Textbooks

特に指定しません。必要に応じて、レジュメ・資料等を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○野田進＝松井茂記編著『新・シネマで法学』（有斐閣、2014年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 ディベートの準備
- 第3回 ディベートの準備
- 第4回 ディベート
- 第5回 グループディスカッション①
- 第6回 グループディスカッション②
- 第7回 グループディスカッション③
- 第8回 グループディスカッション④
- 第9回 判例報告の準備
- 第10回 判例報告の準備
- 第11回 判例報告の準備
- 第12回 判例報告①
- 第13回 判例報告②
- 第14回 判例報告③
- 第15回 まとめ

※ディベート、グループディスカッションのテーマや報告判例は、受講生の関心を考慮し、開講後に決定します。

※具体的なスケジュールは変更する可能性があります。

法学基礎演習II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

発言を通じた授業への参加度合い50%、報告・レポートの内容50%
5回以上欠席した場合は、評価不能(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：演習で扱う資料や判決を読んでくること。
事後学習：学習した内容を振り返り、自身の関心に基づき、さらに文献等を調べ、理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、SDGsの「5. ジェンダー平等を実現しよう」「8. 働きがいも経済成長も」「10. 人や国の不平等をなくそう」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 II

SEM112M

授業の概要 /Course Description

本クラスでは、国際問題を題材にしたディベートを通じ、受講者に対し、与えられたテーマを論理的に分析・討論していくプロセスを実践させることで、①法情報検索技術の習得、②プレゼンテーション能力の向上、③討論能力の向上を目指します。

また北九州市立大学が国際交流協定を結んでいる海外の協定大学からの短期留学生との合同授業を予定しています（渡日時のみ）。

到達目標は、

- 【技能】 法的な問題点を抽出し、法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている
 - 【コミュニケーション力】 他の参加者と議論をしながら、協働して法的問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている
 - 【自律的行動力】 法的問題への関心を持ち続け、より良い社会の実現に向けて行動する姿勢を身につけている
- となります。

具体的には、

- 法情報検索技術を身につける、
- 知識や情報を集めて自分の意見を客観的に表現することができる、
- チームを組んで特定の課題に積極的に取り組むことができる、
- ディベートを通じ、相手の意見や質問をきちんと踏まえた上で、自分の意見をわかりやすく述べるができる、
- 短期留学生との交流を通じ、異文化に対する受容性を深める、とします。

教科書 /Textbooks

テキストは指定しません。基礎ゼミの理解に必要な資料は、必要に応じ、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については、別途、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 コースガイダンス，夏休みの成果の発表
- 第2回 ディベートとは①：実践ビデオを見る
- 第3回 ディベートとは②：文献から紐解く，ディベート【テーマA】の発表とグループ分け
- 第4回 ディベート【テーマA】に関する基礎調査
- 第5回 プレーンストーミングとチャート作り
- 第6回 立論シートの作成
- 第7回 相手側立論シートに基づく反駁準備，当日の役割・担当決め
- 第8回 Let's Debate! 【A】
- 第9回 総括，ディベート【テーマB】の発表とグループ分け
- 第10回 ディベート【テーマB】に関する基礎調査
- 第11回 プレーンストーミングとチャート作り
- 第12回 立論シートの作成
- 第13回 相手側立論シートに基づく反駁準備，当日の役割・担当決め
- 第14回 Let's Debate! 【B】
- 第15回 まとめ

法学基礎演習II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの貢献...20%
ディベートテーマAへの取組...40% (準備作業...15% , ディベート...25%)
ディベートテーマBへの取組...40% (準備作業...15% , ディベート...25%)

3回以上欠席した場合には、評価不能(一)とします。なお2回まで欠席することを認めているわけではありませんのでご注意ください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。
また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

履修上の注意 /Remarks

予習、復習やサブゼミなど、正規の授業時間外にも真摯に取り組むことが要求されるゼミです。
この点を十分に理解し、自覚と責任感を持って、ゼミに参加されることを期待します。

IとIIをセットで受講してください。

欠席や遅刻は、ゼミの運営に支障をきたし、授業やグループでの作業に深刻な影響を与えることになります。やむを得ず、欠席等する場合には、必ず事前に連絡を入れてください。無断欠席や度重なる遅刻など、参加状況が悪い場合には、その後のゼミ受講を認めませんので、受講申請にあたってはこの点に注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ディベートを通じ、Iで培った力をさらに伸ばしていきましょう。

キーワード /Keywords

【国際問題の分析】 【ディベート】 【留学生との交流】

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 II

SEM112M

授業の概要 /Course Description

本演習は、法学基礎演習Iで習得した知識と技能（条文の読み方、六法の使い方、判例の読み方、データベースの使い方、文献の引用方法など）のさらなる向上を目的とします。演習前半では、前期に引き続き、法学の基礎知識とリーガル・リサーチの方法を学習したうえで、憲法的重要判例を題材にしたグループ報告を行ってまいります。演習後半では、受講者が関心のあるテーマについてレポートを執筆してまいります。また、裁判傍聴をはじめとする学外活動を行うこともあります。

（到達目標）

- 【技能】 法的な問題点を抽出し、法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている。
- 【コミュニケーション力】 他の参加者と議論をしながら、協働して法的問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
- 【自律的行動力】 法的問題への関心を持ち続け、より良い社会の実現に向けて行動する姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス（授業内容の説明など）
 - 第 2～ 6回 法学の基礎知識またはリーガル・リサーチ
 - 第 7～10回 グループ報告
 - 第11～14回 レポートの執筆指導
 - 第15回 まとめ
- ※受講人数、受講者の希望等によって、内容を変更することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告40%、日常の授業への取組み40%、レポート20%
※出席回数0回の場合は、評価不能（－）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜、教員が指示する課題に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、SDGs の目標 4 に関連しています。

法学基礎演習II 【昼】

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 II

SEM112M

授業の概要 /Course Description

「社会契約説」をテーマとし、それに関する代表的な古典的著作を精読することによって、法学の基礎理論を学ぶことを、本講義の目的とする。この点では、法学基礎演習Iと同様の問題意識のもとで、同様の主題を発展的・継続的に扱う。

法学基礎演習Iでは、ロック、ルソーの著作をとりあげたが、法学基礎演習IIでは、さらにルソーの別の著作と、カントの「永遠平和のために」他をとりあげる。法学基礎演習IとIIを継続して受講することにより、ロック、ルソー、カントの社会契約説の考え方の基本を学ぶことができる。実定法学を学ぶ上でも、これらの著作からは、理論的基礎として大いに得るものがあるであろう。

なお、上記に加えて、条文の読み方、六法の使い方、判例の読み方の基本についても学ぶ。

(到達目標)

【技能】法的な問題点を抽出し、法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている。

【コミュニケーション力】他の参加者と議論をしながら、協働して法的問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】法的問題への関心を持ち続け、より良い社会の実現に向けて行動する姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

ルソー『人間不平等起源論』（光文社古典新訳文庫、743円）

カント『永遠平和のために / 啓蒙とは何か 他3編』（光文社古典新訳文庫、700円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ルソー『社会契約論』（光文社古典新訳文庫）

カント『啓蒙とは何か 他四篇』（岩波文庫、713円）

法学基礎演習II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
- 第2回 ルソー『人間不平等起源論』第1回（献辞と序について）
（あらかじめ報告者を決め、その報告をもとに議論をしながら、テキストを読み進める。以下同様。）
- 第3回 ルソー『人間不平等起源論』第2回(自然状態についてなど)
- 第4回 ルソー『人間不平等起源論』第3回（憐れみの情についてなど）
- 第5回 ルソー『人間不平等起源論』第4回（文明についてなど）
- 第6回 ルソー『人間不平等起源論』第5回（不平等についてなど）
- 第7回 ルソー『人間不平等起源論』第6回（原注についてなど）
- 第8回 ルソー『人間不平等起源論』第7回（ルソーについてのまとめ）
- 第9回 カント「啓蒙とは何か」
- 第10回 カント「世界市民という視点からみた普遍史の理念」
- 第11回 カント「人類の歴史の憶測的な起源」
- 第12回 カント「万物の終焉」
- 第13回 カント「永遠平和のために」前半部
- 第14回 カント「永遠平和のために」後半部
- 第15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...40% 質問等の状況...30% 日常の演習への取り組み...30%
特別な理由なく、担当した報告をしなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回に扱う予定の箇所を事前にきちんと読み、報告者に対する質問を事前に必ず考え、予習し準備しておくこと。授業の後は、レジュメやテキストをもとに内容を整理し、復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、SDGsの「10.人や国の不平等をなくそう、16.平和と公正をすべての人に」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

自然状態 自然法

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 II

SEM112M

授業の概要 /Course Description

この授業では、1学期に引き続き、民法の有名な判例を受講者全員で読むことを通して、法律文献を読む力を養成することを目標とする。

(到達目標)

【技能】 法的な問題点を抽出し、法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている

【コミュニケーション力】 他の参加者と議論をしながら、協働して法的問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている

【自律的行動力】 法的問題への関心を持ち続け、より良い社会の実現に向けて行動する姿勢を身につけている

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 1学期の基本事項の確認
- 第3回 事情変更の原則-大審院昭和19年12月6日判決(1)【事実の概要(前半)】
- 第4回 事情変更の原則-大審院昭和19年12月6日判決(2)【事実の概要(後半)】
- 第5回 事情変更の原則-大審院昭和19年12月6日判決(3)【判決理由(前半)】
- 第6回 事情変更の原則-大審院昭和19年12月6日判決(4)【判決理由(後半)】
- 第7回 女性の再婚禁止期間の合憲性-最高裁平成27年12月16日大法廷判決(1)【事実の概要】
- 第8回 女性の再婚禁止期間の合憲性-最高裁平成27年12月16日大法廷判決(2)【多数意見(前半)】
- 第9回 女性の再婚禁止期間の合憲性-最高裁平成27年12月16日大法廷判決(3)【多数意見(後半)】
- 第10回 女性の再婚禁止期間の合憲性-最高裁平成27年12月16日大法廷判決(4)【補足意見(前半)】
- 第11回 女性の再婚禁止期間の合憲性-最高裁平成27年12月16日大法廷判決(5)【補足意見(後半)】
- 第12回 女性の再婚禁止期間の合憲性-最高裁平成27年12月16日大法廷判決(6)【意見】
- 第13回 女性の再婚禁止期間の合憲性-最高裁平成27年12月16日大法廷判決(7)【反対意見(前半)】
- 第14回 女性の再婚禁止期間の合憲性-最高裁平成27年12月16日大法廷判決(8)【反対意見(後半)】
- 第15回 まとめ

* 授業の内容は、受講者の希望や授業の進行状況等に応じて、一部変更することがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...100%

正当な理由なく無断で8回以上欠席した場合は、評価不能(-)とする。

法学基礎演習II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示された予習，復習その他の授業外学習を必ず行うこと。

履修上の注意 /Remarks

導入科目（法学総論・日本国憲法原論・民法入門）を1学期に受講済みであることが望ましい。
授業には必ず最新の六法（ポケット六法等の小型のもので良い）を持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1学期に引き続き，積極的に授業に参加してもらいたい。
また，新型コロナウイルスの接触感染を予防するとともに，SDGsの「つくる責任 つかう責任」「陸の豊かさを守ろう」を達成するための取り組みとして，この授業における資料の配布は極力Moodle上で行う。

キーワード /Keywords

法学 民法

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 II

SEM112M

授業の概要 /Course Description

1学期の法学基礎演習Iに引き続き、主に私法（民法・商法）に関連する判例・文献等を素材として、法学に関する基本的なトレーニング（判例の読み方、文献の引用方法などを含む）を行います。また、後半には各自が選択したテーマについて報告してもらいます。

（到達目標）

【技能】法的な問題点を抽出し、法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている。

【コミュニケーション力】他の参加者と議論をしながら、協働して法的問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】法的問題への関心を持ち続け、より良い社会の実現に向けて行動する姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

最初の授業で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～8回 判例の分析
- 9回～14回 各自が選択したテーマについて個別報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、日常の授業への取り組み...50%
(ゼミを放棄したと認められる場合は「-」となります。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

履修上の注意 /Remarks

法学総論や民法総則と併せて受講すると効果的に学習できると思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 II

SEM112M

授業の概要 /Course Description

本演習は、主として1年次生を対象とし、法学を学ぶ上での基礎的知識の修得を目的とする。原則として、津田が担当する法学基礎演習Iの受講者を対象とする。引き続き、自らの問題関心を基礎とした積極的な調査・報告を行い、率直な意見を述べ他人と討論する能力を身につける。

(到達目標)

- 【技能】 法的な問題点を抽出し、法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている
- 【コミュニケーション力】 他の参加者と議論をしながら、協働して法的問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている
- 【自律的行動力】 法的問題への関心を持ち続け、より良い社会の実現に向けて行動する姿勢を身につけている

教科書 /Textbooks

特に使用しない。必要に応じ、レジュメ・資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に使用しない。必要に応じ適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

本演習では、図書館の使い方や文献の探し方などを一応身につけていることを前提に、初学者にとって最もなじみやすいと思われる「判例」を用いて、抽象的に書かれた法の具体的適用・解釈の方法を学ぶ。取り上げる判例は、参加者の問題関心をも考慮したうえで決定する。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 判例研究のための文献収集
- 第3回 データベース利用法
- 第4回 各グループによる判例研究
- 第5回 判例の選択及び後半報告グループ分け
- 第6回・第7回 報告グループ①による報告と受講者全員による討論・意見交換
- 第8回・第9回 報告グループ②による報告と受講者全員による討論・意見交換
- 第10回 中間反省会
- 第11回・第12回 報告グループ③による報告と受講者全員による討論・意見交換
- 第13回・第14回 報告グループ④による報告と受講者全員による討論・意見交換
- 第15回 まとめ

法学基礎演習II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加状況(出席、報告内容、議論に対する姿勢など)、学期末レポートの内容などをもとに総合的に評価する。下記の記載はあくまでおおよその目安である。

ゼミへの参加・受講態度・・・70% 課題等提出状況及び内容・・・30%

*無断欠席は、即ゼミ放棄とみなします。また、理由はどうかあれ、出席率が2/3に満たない場合、単位認定しません。いずれも場合も、成績評価は「Z」とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

(事前学習) 次回取り上げる題材に目を通し、疑問点を抽出する。

(事後学習) 学習した内容を振り返り、課題に取り組むことを通じて知識を定着させる。

履修上の注意 /Remarks

「演習」の成立は、皆さんの積極的な参加如何で決まると言っても過言ではありません。報告グループ以外の人も、毎回、何らかの発言を求めます。予習・復習その他の授業外学習に積極的に取り組むことが重要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この演習は、SDGs10(人や国の不平等をなくそう)及び16(平和と公平をすべての人に)の目標と関連しています。

キーワード /Keywords

法学基礎演習Ⅱ【昼】

担当者名 中村 英樹 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅱ

SEM112M

授業の概要 /Course Description

(到達目標)

- 【技能】 法的な問題点を抽出し、法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている
- 【コミュニケーション力】 他の参加者と議論をしながら、協働して法的問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている
- 【自律的行動力】 法的問題への関心を持ち続け、より良い社会の実現に向けて行動する姿勢を身につけている

本演習は

- ①大学（法学部）で学ぶための基礎となる知識を見つけること
 - ②社会的問題に対する関心を高めること
- を目的とする。

そのために、原則として各回を前半と後半に分け、前半部では実際の判決文や法学の専門文献（初歩的なもの）の読解を中心として、法学的な基礎知識の習得を行う。後半部では、法学に関連する問題を扱ったドキュメンタリー等を視聴した上で議論を行い、社会的問題関心を涵養する。これらを通じて、以降の専門教育へのスムーズな導入を図るとともに、自ら学ぶ姿勢を身につける。

教科書 /Textbooks

- 【「法学基礎演習Ⅰ」と同じ】
- 道垣内弘人『プレップ法学を学ぶ前に 第2版』（弘文堂、2017年）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 法学入門書各種
- 大橋洋一『法学テキストの読み方』（有斐閣、2020年）
 - 横田明美『カフェパウゼで法学を』（弘文堂、2018年）
 - 横田明美ほか『法律学習Q&A』（有斐閣、2019年）
 - 吉田利宏『法学のお作法』（法律文化社、2015年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス（演習の目的・概要説明など）
- 第2～9回 前半：判例読解・法学的基礎能力の習得、後半：社会的課題の検討
- 第10～14回 前半：法学文献読解・法学的基礎能力の習得、後半：社会的課題の検討
- 第15回 全体のまとめ

- ※参加者の人数等により内容は変更する可能性があります。
- ※レジュメの作り方等の学習のため、個別報告を科す可能性もあります。

法学基礎演習II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

各回の議論への主体的参加状況：70%
中間課題：10%
学期末レポート：20%

原則として、3分の1(5回)以上欠席した場合は単位を認めません(評価は「一」とします)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

判例読解・法学文献読解に関しては、各回内容の予習・復習。
取り上げる社会的課題について主体的に情報を収集して検討すること。

履修上の注意 /Remarks

演習(ゼミ)とは参加者全員で雰囲気を作り上げていく、いわばチームでの学習である。したがって、無断欠席や正当な理由のない遅刻などに対しては、厳しく対処する。

本演習は「法学基礎演習I」と連続性を持って実施する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学時代は、社会へ出て行くための「助走期間」に喩えられる。如何に助走したかによって、社会への飛び出し方が変わってくるはずである。本演習では、みなさんが「きちんと助走する」ことができるように手助けしていきたいと考えている。

この授業は、SDGsの5「ジェンダー平等を実現しよう」、10「人や国の不平等をなくそう」、16「平和と公平をすべての人に」という目標に関連しています。

キーワード /Keywords

法学基礎演習Ⅱ【昼】

担当者名 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅱ

SEM112M

授業の概要 /Course Description

テーマ「法学の基礎技術（2）」

現代社会においては、さまざまな問題が絶え間なく発生しています。これらの問題を解決するために、法学は、どのようにアプローチしていくことができるのでしょうか。

法学の各分野に共通する基礎的知識を整理しながら、ノート・テイキングや文献読解の方法、レポート・レジュメの作成、ディスカッションの方法、法令・判例・文献資料などの法情報の検索方法や収集方法、引用法といった法学を学ぶ基本的な技術を学んでいきます。また、現代社会の重要なテーマを通じて、法学のものの考え方、基本的な原理や思想、思考方法を育てていきましょう。

この演習では、①学習の基本的技術の習得、②法学の基礎知識の修得と、③法を支える基本的思考の理解を目的とします。

（到達目標）

【技能】法的な問題点を抽出し、法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている。

【コミュニケーション力】他の参加者と議論をしながら、協働して法的問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自律的行動力】法的問題への関心を持ち続け、より良い社会の実現に向けて行動する姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

初回の講義において、テキストや参考書について説明します。

①六法（2022年版・令和4年版）

『ポケット六法』（有斐閣）や『デイリー六法』（三省堂）、『法学六法』（信山社出版）といった「最新の」六法を必携してください（種類・出版社を問わない。）。

②テキストを指定しません。随時必要な資料を参照してください。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

この他、随時、必要と思われる文献や資料を紹介していきます。

道垣内弘人『プレップ法学を学ぶ前に』2版（弘文堂・2017.11）ISBN: 9784335313264、1,100円（税込）。

○山下純司 / 深町晋也 / 高橋信行『学生生活の法学入門』（弘文堂・2019.12）ISBN: 9784335356988、2,420円（税込）。

○法制執務・法令用語研究会『条文の読み方』2版（有斐閣・2021.03）ISBN: 9784641126268、990円（税込）。

○井田良ほか『法を学ぶ人のための文章作法』2版（有斐閣・2019.12）ISBN: 9784641126121、2,090円（税込）。

○田高寛貴 / 原田昌和 / 秋山靖浩『リーガル・リサーチ&レポート』2版（有斐閣・2019.12）ISBN: 9784641126114、1,870円（税込）。

○早川吉尚『法学入門（有斐閣ストゥディア）』（有斐閣・2016.03）ISBN: 9784641150324、1,980円（税込）。

法学基礎演習II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ※諸事情により内容を変更し、進捗状況が前後することがあります。
- 1回 文章を書く(2)課題レポートの比較検討～優れたレポートとは？
 - 2回 判例を学ぶ(1)判例とは何か？
 - 3回 判例を学ぶ(2)判例理論と学説、射程
 - 4回 判例を学ぶ(3)判例を探せ
 - 5回 判例を学ぶ(4)判例評釈の方法
 - 6回 プレゼンテーションを学ぶ(1)プレゼンテーションとディスカッション①
 - 7回 プレゼンテーションを学ぶ(2)プレゼンテーションとディスカッション②
 - 8回 プレゼンテーションを学ぶ(3)プレゼンテーションとディスカッション③
 - 9回 プレゼンテーションを学ぶ(4)プレゼンテーションとディスカッション④
 - 10回 プレゼンテーションを学ぶ(5)プレゼンテーションとディスカッション⑤
 - 11回 判例を学ぶ(5)判例報告①
 - 12回 判例を学ぶ(6)判例報告②
 - 13回 判例を学ぶ(7)判例報告③
 - 14回 判例を学ぶ(8)判例報告④
 - 15回 判例を学ぶ(9)判例報告⑤

成績評価の方法 /Assessment Method

試験を行いません。平常点を基礎に成績評価を行います。
提出されたレポート等(30%)、演習における報告内容(20%)、およびディスカッションにおける発言状況・内容(50%)を総合的に評価します(カッコ内は評価の全体に占める割合です。)
5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ①担当した課題(テーマ)について、関連する資料を収集・検討して、レポート・レジюмеを作成して提出してください。担当者の報告に基づいて、ディスカッションを行って理解を深めていきます。担当者以外の者は、摘要(summary)を作成して演習に臨んでください。
- ②演習後は、学んだ事項や疑問点について、関連資料を参照して再検討したうえでノートを作成してください。

履修上の注意 /Remarks

「法学基礎演習II」は、「法学基礎演習I」と連続して展開することを予定しています。「法学基礎演習I」も併せて履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現実社会の問題解決には、これが正解という“真理”を求めることはできません。最善・最良と考えられる方策を提示することができるだけです。だからこそ、自分の考えを支える価値観が、そしてそれを他人に説得する能力が重要となります。演習は、履修者自身が探究し、知識を取得し、理解を深める場です。この演習を通じて、そうした自分自身の価値観や思考方法といった、法を考える基本的な視座を創り上げていってください。積極的な活動を期待しています。

キーワード /Keywords

法学 法学入門 法学の基礎

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 林田 幸広 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 II

SEM112M

授業の概要 /Course Description

本演習では、法学基礎演習Iでおおむね習得できた（ことになっている）ゼミでの「お作法」を再確認することから始めます（この意味で、法学基礎演習Iのシラバスも参照ください）。その上で、各自がテーマを決め、報告・議論を行うことを中心とします。なお、最終成果物として、各自が設定したテーマごとに、小レポートを作成することを予定しています。ちなみにレポートにもお作法（体裁）があります。そのお作法を意識し、体裁が整ったレポートを作成することをめざします。

（到達目標）

【技能】

法的な問題点を抽出し、法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている

【コミュニケーション力】

他の参加者と議論をしながら、協働して法的問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている

【自律的行動力】

法的問題への関心を持ち続け、より良い社会の実現に向けて行動する姿勢を身につけている

教科書 /Textbooks

レジュメや資料を配布する予定です。テキスト（教科書）を使用する場合は、参加者に提示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ゼミを進めていく中で適宜、参加者に提示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※以下は、参加者の人数等によって変更となる場合があります。

- 第1回 ガイダンス（演習の目的、概要、進行方法などの説明）
- 第2～4回 共通の文章をテーマに「お作法」（レジュメ作成・報告・議論）を思い出す作業
- 第5回 各自のテーマを報告
- 第6～9回 テーマに基づく報告・議論（1周目）
- 第10回 レポート作成の際のポイント確認
- 第11～14回 1周目の報告・議論で得た知見を反映させて、テーマに基づく報告・議論（2周目）
- 第15回 全体のまとめ

法学基礎演習II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ①レジュメの作成と報告 (30%)
 - ②議論への貢献度 (30%)
 - ③小レポート (40%)
- ※5回以上欠席した場合は、評価不能 (-) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】：

報告者は、前もってレジュメを作成しゼミ生分のコピーを持参してきてください。他の参加者は、自分なりの論点や疑問点を携えて報告後の議論に参加する準備をしてください。

【事後学習】：

ゼミ中に出た論点や問題点を整理して理解を深めてください。場合によっては、新たな文献や資料にあたるなどして、小レポートの作成に備えてください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 無断の欠席・遅刻は厳正に取り扱います (欠席・遅刻する際は、かならず担当者に連絡してください) 。
- ・ 最低限やるべきことはやってください。やるべきことがわからない場合は遠慮なく担当者に尋ねてください。
- ・ 各自が設定するテーマは広く社会問題 (+ それに関連した判例) です。法概念や判例評釈を直接取り扱い高度な解釈論を身につけるトレーニングを期待していると期待はずれとなりますのでご注意ください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 本ゼミの場合、「正解 / 不正解」の区別はさほど重要ではありません。自分なりに一生懸命と取り組み、発話 / 傾聴することを重視します。
- ・ いうまでもなく、法学は社会的公正さの実現を目指す学知です。よってこの授業はSDG s の目標のうち、とりわけ「10.人や国の平等をなくそう」に関連しています

キーワード /Keywords

法学基礎演習Ⅱ【昼】

担当者名 堀澤 明生 / Akio Horisawa / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅱ

SEM112M

授業の概要 /Course Description

後期は、表現することを中心とします。
法学部における学習の基本となる、判例を用いた学習についての基本を学びます。
判例の検討にあたっては、いかなる条文による制度が問題になっており、当該事案で特に争点となる文言を裁判所がどのように解釈したのか、その事案では事実をどのように評価したかを検討してください。
そのうえで、自身の選択した判例を素材に報告・レポートを行う、法的にコミュニケーションする力を身に着けます。

(到達目標)

【技能】

法的な問題点を抽出し、法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている。

【コミュニケーション力】

他の参加者と議論をしながら、協働して法的問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】

法的問題への関心を持ち続け、より良い社会の実現に向けて行動する姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介します。

横田明美『カフェパウゼで法学を』(弘文堂, 2018) 2,178円

田高 寛貴ほか『リーガル・リサーチ&レポート [第二版] -- 法学部の学び方 (有斐閣, 2019) 1,870円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス

第2回～第3回 文献講読

第4回 判例調査・学習の方法

第5回～第7回 判例講読

第8回～第12回 判例報告、ディベート

第13・14回 法律文書の作成方法

第15回 まとめ

【参加者の状況、人数に応じて変動することがあります】

法学基礎演習II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

以下の点を考慮して、評価を行います。

授業への取り組み状況 20%

判例報告 30%

期末ペーパー 50%

判例報告及びペーパー提出のいずれも行わなかった場合には成績評価不能(一)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】

文献講読にあたっては、事前に当該文献を精読し、それぞれのパラグラフについて「こういうことが書いてある」というのを自分の言葉で説明できるようになっておくこと。判例報告にあたっては、事前にレジユメを配布しておくこと。

【事後学習】

判例報告後、ディベートなどで問題となった事項を反映させておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業を通じて、法学部生としての文章の型を身につけましょう。

※この授業は、SDGs目標4に関連しています。

キーワード /Keywords

法学基礎演習Ⅱ【昼】

担当者名 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅱ

SEM112M

授業の概要 /Course Description

法学基礎演習Ⅰの内容を承（う）けて、より高度な法的思考（特に、最高裁判所が下した判決（理由）を読む際の「法的三段論法」の駆使・錬磨）、法学文献・判例評釈等の批判的・分析的読み方、および判例（判決理由）の精確な読み方・扱い方（判例（判決理由中において定された規範）の抽出方法・その射程範囲の測定・分析手法、および判例評釈執筆手法）などを修得することがこの演習（ゼミ）の最大の目的・目標です。

法学基礎演習Ⅱと異なり、本演習では、報告の内容面（質の高さ）やレポート課題等の完成度をより厳しく評価します。また、本格的な民事判例研究報告（主に債権法・契約法分野）を課すなど、その内容は、3・4年次に履修することになる「○○専門演習Ⅰ～Ⅳ」に近いものとなります。法的思考をフル回転させて、活発な議論に受講ゼミ生全員が積極的に参加されることを切に望みます。

※なお、この科目の到達目標は下記の通りです。

【「法学基礎演習Ⅱ」の到達目標】

DP2・技能：法的な問題点を抽出し、法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている。

DP4・コミュニケーション力：他の参加者と議論をしながら、協働して法的問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

DP5・自律的行動力：法的問題への関心を持ち続け、より良い社会の実現に向けて行動する姿勢を身につけている。

※上記各目標につき、「法学基礎演習Ⅰ」よりも高い水準での到達を求めます。

教科書 /Textbooks

①窪田充見＝森田宏樹（編）『民法判例百選Ⅱ 債権 [第8版]（別冊ジュリスト238号）』（有斐閣、2018年）；定価（2,300円＋税）

②最新版（年度）の小型六法（※小型六法は、毎年10月頃に新年度版が刊行されるので、できる限り2023年度版六法を購入・持参すること！）

※上記「2点セット」を必ず購入・持参してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

※演習のなかで適宜紹介します。

さしあたり、このシラバスでは、○陶久利彦『法的思考のすすめ〔第2版〕』（法律文化社、2011年）；定価（1,800円＋税）のみ紹介しておきます。「法学基礎演習Ⅰ」の復習、同Ⅱの予習に最適な内容です。

法学基礎演習II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※以下の計画・内容は「めやす」です。受講人数や各ゼミ生の理解度・習熟度等により適宜、修正・変更される場合があります。
 ※なお、新型コロナウイルス感染拡大状況により、遠隔授業（Microsoft teamsを用いたリアルタイム対話型形式や対面との複合形態<いわゆる「ハイブリッド型」ゼミ>など）に変更となる回が生じる可能性があります。
 よって、ゼミ生の皆さんは、moodleや教員からのメール等をこまめに確認し、しっかりとゼミ受講に関する情報等の収集に努めてください。

- 第1回 ガイダンス：報告グループ&報告順の決定。期末レポート（判例評釈）等についての説明。
 第2回 最高裁判決の読み方の復習①：【法的三段論法の練磨・復習】—最（二小）判 昭和60年11月29日 民集39巻7号1719頁を素材として（事実概要・裁判経過の復習を通じて民事裁判の基本構造の復習も行います。）—
 第3回 最高裁判決の読み方の復習②：【法的三段論法の練磨・復習】—最（二小）判 昭和60年11月29日 民集39巻7号1719頁を素材として（判決理由を「法的三段論法」に依拠して精確に分析していきます。）—
 第4回 最高裁判決の読み方の復習③【法的三段論法の練磨：復習&次のステップへ！】第3回のおつぎ&「カフェー丸玉女給事件」の分析（大判 昭和10年4月25日 新聞3835号5頁）その②（戦前の判決文〔大審院判決〕の読み方&民事裁判の基本構造の理解を深めましょう。）
 第5回 キャリアセンター・ツアー（ゼミ生の皆さんには、自身のキャリア・プランについてもしっかりと考えてもらいたいと想っています。※遠隔授業となった場合は、ツアー動画を視聴してもらう予定（課題研究）です。）
 第6回 「カフェー丸玉女給事件」その①（第1審判決を精読・議論します。）
 第7回 「カフェー丸玉女給事件」その②（第2審判決〔差戻前控訴審〕を精読・議論します。）
 第8回 「カフェー丸玉女給事件」その③（大審院判決〔上告理由を含む〕を精読・議論します。）
 第9回 「カフェー丸玉女給事件」その④【完】（大審院判決の判旨の解析【法的三段論法の応用編】）
 第10回 民事判例研究報告（グループA・1回目；事案の理解・判旨の読み方【法的三段論法】）。
 ※グループ（今年度は3グループを想定します。各グループ3~4名）で採り上げる判決は、教科書①記載の「最高裁」判決とします（「大審院」判決の報告希望を妨げるものではありませんが、事実関係の読み取りが難解ですので、特段の事情がない場合、最高裁判決とします。）。民法学（債権法・契約法）の基本書・体系書、各種判例評釈、および調査官解説（最高裁判所判例解説民事篇）等を熟読して、「質の高い」民事判例研究報告を行ってください。また、報告担当でないグループも、報告グループの採り上げた判決につき、質問や意見を発表することができるように準備をしておいてください。
 第11回 民事判例研究報告（グループA・2回目；規範の抽出・射程についての議論および教員による補論）。
 第12回 民事判例研究報告（グループB・1回目；事案の理解・判旨の読み方【法的三段論法】）。
 第13回 民事判例研究報告（グループB・2回目；規範の抽出・射程についての議論および教員による補論）。
 第14回 民事判例研究報告（グループC・1回目；事案の理解・判旨の読み方【法的三段論法】）。
 第15回 民事判例研究報告（グループC・2回目；規範の抽出・射程についての議論および教員による補論）並びに、法学基礎演習IIの「まとめ」（1年間の基礎ゼミの「まとめ」）

※令和5年2月初旬、期末レポートを提出していただきます（7,000字程度）。内容は各グループで報告した最高裁（または大審院）判決についての【判例評釈】です。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ※授業中の発言内容、議論への積極的参加の度合い、報告に当たっていないときの予・復習状況.....50%
 ※民事判例研究報告の内容（レジュメの構成・報告・議論の質の高さおよび内容）.....20%
 ※期末レポート（判例評釈）の内容.....30%（期末レポート未提出者には、原則として単位を付与しません。）
 【注意】正当な理由なき無断遅刻・無断欠席は、ゼミの受講を放棄したものと「推定」します。
 【成績評価において「評価不能（－）」となる基準】全15回のゼミのうち、正当な理由なく6回以上ゼミを欠席した場合、期末レポート提出の有無・内容の出来に関係なく「評価不能（－）」となります。ただし、新型コロナウイルス感染や濃厚接触者該当、その他、病気・けが、または忌引きなどによる欠席を除きます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 【事前学習】本演習では、報告準備以外の事前学習（予習）が「法学基礎演習I」以上に多く課せられます（つまり、負担はより大きくなります）。たとえば、報告担当でないグループも、報告グループが採り上げる判決について、種々の観点から質問・指摘などができるように、各種判例評釈、調査官解説、および民法学（主に債権法・契約法分野）の基本書・体系書等を熟読の上、ゼミに臨むことが求められます。その他、毎回の演習前までに、事前に熟読してくるべき資料等を指示しますので、それらについても熟読してくることが求められます。なお、この予習に必要な学習時間の目安は120分です。
 【事後学習】各ゼミ生には、判決理由の分析等で解からなかった点を箇条書きにしたペーパーの提出を求める予定です。なお、この復習に必要な学習時間の目安は45分です。

履修上の注意 /Remarks

「法学基礎演習I」の負担で厳しいと思っている受講生にとっては、過酷な演習になると思われます。覚悟を持って臨んでください（.....とちょっと大げさに書いてみました。実際はそこまで厳しくはありません・笑）。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学は「学問」をやる場所です。「遊び」に来るところではありません。真剣に学問・研究に取り組んでくださいね.....と少しでもプレッシャーをかけてみました。

キーワード /Keywords

最高裁（および大審院）判決の読み方、法的三段論法、民事裁判の基本構造、（定立された）規範の射程、民事判決研究、債権法、契約法、自分のキャリア・プランを考える

法学基礎演習Ⅱ 【昼】

担当者名 矢澤 久純 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅱ

SEM112M

授業の概要 /Course Description

基礎演習Ⅰの続きとして、法学の中の基本分野である民法を、判決を検討しながら学習する。2年生になると専門科目が増えるわけであるが、それらの学習に耐えられるような基本的能力を身につけることが目標となる。

『判例百選』シリーズを使う予定であるが、現物を購入する必要はない。

この授業に参加すると、民法学の考え方が養われる。

到達目標

【技能】法的な問題点を抽出し、法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている

【コミュニケーション力】他の参加者と議論をしながら、協働して法的問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている

【自立的行動力】法的問題への関心を持ち続け、より良い社会の実現に向けて行動する姿勢を身につけている

教科書 /Textbooks

使用せず。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば、授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 行為能力に関する問題
- 3 公序良俗に関する問題
- 4 慣習に関する問題
- 5 法律行為に関する問題
- 6 虚偽表示に関する問題
- 7 錯誤に関する問題
- 8 詐欺・強迫に関する問題
- 9 代理に関する問題
- 10 時効に関する問題
- 11 物権変動に関する問題
- 12 登記に関する問題
- 13 即時取得に関する問題
- 14 占有に関する問題
- 15 まとめ

法学基礎演習II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

一定の回数、報告をやってもらい、また、毎回、質問を出してもらうことを考えてはいるが、新型コロナウイルス問題の終息が見えてこないため、担当者による講義のみになることもありうる。普段の報告や授業態度で評価する。従って、平常点100%ということになる。「一」(パー)についてであるが、この科目は、いかなる理由であれ、単位を取得できないと判断される場合には、一律、「D」となる。「一」(パー)が付くことはない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

民法関連の判決を取り扱うので、事前学習(予習)としては、重要な判決について実際に判決文を読んで、論点を考えることが重要となる。事後学習としては、扱われた判決の論点について、図書館の各種資料で調査して、議論の内容を復習することが重要である。目安の時間としては、事前学習45分、事後学習45分である。

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教室外でのいわゆる「ゼミ活動」なるものは、絶対に行わない。

キーワード /Keywords

法学、民法、物権、債権

法学基礎演習Ⅱ【昼】

担当者名 水野 陽一 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習Ⅱ

SEM112M

授業の概要 /Course Description

受講生の関心に応じてテーマを決定する。刑事訴訟法に限らず、刑法、刑事政策といった、刑事法全般に関わるテーマについて考察する。法学部における専門教育のために必要となる体系的思考力を身につけることを目的とする。未知の問題に対しても積極的に自ら考え、解答を導出していける力を身につけることを目指す。
具体的な社会的問題を取り上げ、法的な問題点等を解説することを通じて、法を学ぶということの具体的なイメージを持てるようにする。

到達目標

技能：法的な問題点を抽出し、法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている。
コミュニケーション力：他の参加者と議論をしながら、協働して法的問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
自律的行動方法：法的問題への関心を持ち続け、より良い社会の実現に向けて行動する姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に応じて適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講者の関心に応じて適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 授業形態等の決定、テーマの選択
第2回～15回 選択されたテーマについて、担当者が報告する。それに基づいて議論を行う。
※ゼミの具体的な内容は、受講者の関心に応じて、適宜調整していく予定。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度、レポートの評価での総合点(授業態度50%、レポートの評価50%)で総合評価する。
無断欠席を繰り返した場合、評価不能(－)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習として各回の報告者が行うテーマについて教科書等の該当箇所を確認すること。復習として報告者が配布したレジュメを確認し、わからない箇所は教科書等を使って知識の確認をすること。

履修上の注意 /Remarks

報告テーマについての予習、復習が求められる。無断欠席は厳禁。やむを得ず欠席する場合は連絡をすること。

法学基礎演習II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学生生活の4年間は、あっという間に過ぎていきます。この期間で、法学はもちろん、それ以外でも何でもいいので、何かこれに打ち込んだというものを見つけて卒業してください。いわゆるガクチカ（学生時代に頑張ったこと）の内容は、そのまま皆さんの卒業後の進路に影響します。学生時代を過ごした証を残したい！という気持ちを持った方の受講を希望します。

この授業はSDGsの「人や国の不平等をなくそう」、「平和と公平をすべての人に」、「働きがいも経済成長も」、「産業と技術革新の基盤をつくろう」、「パートナーシップで目標を達成しよう」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

法学基礎演習II 【昼】

担当者名 丸山 愛博 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学基礎演習 II

SEM112M

授業の概要 /Course Description

この演習では、法律学基礎演習Iと同様に、法律学を学ぶ上での基礎的な力を身につけるとともに、コミュニケーション力を鍛えることも目的とします。この演習では、特に、判例・学説を読む力及び説得的に議論を展開できる能力を身につけることを目的とします。なお、コミュニケーション力の向上も目的ですので、演習中は積極的に発言することが求められます。

(到達目標)

【技能】法的な問題点を抽出し、法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている

【コミュニケーション力】他の参加者と議論をしながら、協働して法的問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている

【自律的行動力】法的問題への関心を持ち続け、より良い社会の実現に向けて行動する姿勢を身につけている

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○潮見佳男 = 道垣内弘人『民法判例百選①総則・物権(第8版)』(有斐閣、2018年) 2200円 + 税

○(オンラインで閲覧可能) 田高寛貴ほか『リーガル・リサーチ&レポート(第2版)』(有斐閣、2019年) 1700円 + 税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回ガイダンス(自己紹介、演習の進め方・成績評価方法の説明など)

第2回前提知識の確認(権限外の行為の表見代理)

第3回高裁判決を読む(大阪高判昭31・12・20民集14巻2号260頁)

第4回最高裁判決を読む(最判昭35・2・19民集14巻2号250頁)

第5回違いを分析して討論する

第6回学説を読む(1)代理権に限定する説

第7回学説を読む(2)事実行為も含むとする説

第8回違いを分析して討論する

第9回ディベート(1)選択的夫婦別姓

第10回ディベート(2)消滅時効制度の要否

第11回個別報告(1)

第12回個別報告(2)

第13回個別報告(3)

第14回個別報告(4)

第15回個別報告(5)

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中の発表内容及び発言70%、レポートやレジュメなどの成果物30%

なお、5回以上欠席したときは、成績評価は、原則として「評価不能」となります。

法学基礎演習II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

演習では積極的に発言することが求められます。発言をするためには、事前の学習が不可欠です。指定された文献等は全員が必ず読んでから演習に参加してください。

事後学習は、演習で使用した資料を読み返して分からないことが無いかを確認してください。分からないことがあった場合には、各自で調べて、それでも分からない場合には次回の演習で質問してください。

履修上の注意 /Remarks

授業計画・内容については、履修者数や履修者の理解度に応じて変更することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本学に着任して2年目です。少し慣れてきましたがまだまだ分からないこともあるので、ゼミ生の意見を聞きながらより良い演習にしていきたいと思っています。

キーワード /Keywords

法学入門 法的思考力

外国文献研究I【昼】

担当者名 岡本 舞子 / OKAMOTO MAIKO / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 外国文献の購読を通じ、必要な法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

外国文献研究 I

LAW290M

授業の概要 /Course Description

外国法や外国の法制度を知ることで、日本法および日本の法制度を考える契機としていきたいと思っております。担当教員の主たる研究領域がドイツ労働法なので、ドイツの労働法の入門書の一部を邦訳、輪読することを予定しています。入門書を中心としつつ、適宜、関連判例も取り扱います。

(到達目標)

【技能】外国法について調べるための基礎的な技法を身につけている

【思考・判断・表現力】外国法を参照した思考・判断を行うことができる

【コミュニケーション力】他の参加者と議論しながら、協働して法的問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている

教科書 /Textbooks

Abbo Junker, Grundkurs Arbeitsrecht, 20. Aufl., C.H.Beck, 2021.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

§ 1. Grundlagen des Arbeitsrechts .

第2回 I. Gegenstand und Aufgabe, S. 1-9(1)

第3回 I. Gegenstand und Aufgabe, S. 1-9(1)

第4回 II. Europäisches Arbeitsrecht, S. 10-18(1)

第5回 II. Europäisches Arbeitsrecht, S. 10-18(2)

第6回 III. Grundgesetz und Arbeitsrecht, S. 18-28(1)

第7回 III. Grundgesetz und Arbeitsrecht, S. 18-28(2)

第8回 IV. Rechtsquellen des Arbeitsrechts, S. 28-36(1)

第9回 IV. Rechtsquellen des Arbeitsrechts, S. 28-36(2)

第10回 V. AGB-Kontrolle von Arbeitsbedingungen, S. 36-41(1)

第11回 V. AGB-Kontrolle von Arbeitsbedingungen, S. 36-41(2)

第12回 VI. Normenkonkurrenzen im Arbeitsrecht, S. 41-43(1)

第13回 VI. Normenkonkurrenzen im Arbeitsrecht, S. 41-43(2)

4. Inhalt des Arbeitsverhältnisses

第14回 I. Arbeitspflicht als Hauptleistungspflicht, S. 109-120(1)

第15回 I. Arbeitspflicht als Hauptleistungspflicht, S. 109-120(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容(レポート・レジュメ含む)70%、討論および発言内容30%

5回以上欠席した場合、評価不能(一)とします。

外国文献研究I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】担当者は、担当箇所日本語訳を作成してきてください。担当箇所を精読してだけでなく、必要に応じて、その背景にある法制度などについても調べてきてください。

【事後学習】担当者は、演習終了後に、演習での検討を踏まえて修正した日本語訳を作成してきてください。

履修上の注意 /Remarks

この講座では、ドイツ語の原書講読を行います。したがって、何らかのドイツ語講座を受講した経験があり、ドイツ文法についてひと通りは理解していて、平易な文章であれば、辞書を利用して読むことができる程度の能力を有していることを求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

外国文献研究II 【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	外国文献の購読を通じ、必要な法的情報を収集・分析・整理する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

外国文献研究II

LAW291M

授業の概要 /Course Description

商事法（企業活動に関する法）上のテーマを取り扱った「ドイツ語あるいは英語の」文献を輪読します。これを通して、外国の法制度とともに紛争解決のあり方の違いについても知ることができるとともに、そこからさらに、日本法および日本の法制度を考える契機となることが期待されます。

（到達目標）

【技能】外国法について調べるための基礎的な技法を身につけている。

【思考・判断・表現力】外国法を参照した思考・判断を行うことができる。

【コミュニケーション力】他の参加者と議論をしながら、協働して法的問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

受講者が興味を抱いているテーマを扱っている文献を適宜セレクトしたうえで、受講生にコピーを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

テーマ毎に、その都度、指示します。なお、受講生の読解力や興味関心に応じて、当初の輪読箇所やテキスト自体を変更する場合があります。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス・ゼミ運営方針の説明
受講者各自が、今一番興味を抱いている企業関連の問題について発表する。
いくつかの共通テーマに絞り込みを行う。
- 第2回 テーマを決定して、それに応じたメインの文献、関連文献をセレクトする。
輪読のための準備作業を行う。
(1)各自の担当箇所、担当順番の決定
(2)担当箇所の内容紹介レジュメの作成・提出方法の説明
- 第3回～第14回
担当者による担当箇所の内容報告
日本の状況との違いなどについて議論
- 第15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容（レポート及びレジュメ作成を含む）...70% 授業及びディスカッションへの参加度...30%

※必要に応じて、報告のほかにレポートの提出を求めることもあります。

※提出されたレポートも報告内容に含めて総合的に評価します。

一評価不能：授業への参加（出席）がまったくなかった場合

D評価：最低合格点60点（参加度＝出席状況を含む）に満たなかった場合。

無断欠席、ならびに、授業を3分の1以上欠席した場合には、参加度が著しく低くなります。

正当な理由なき「頻繁なる遅刻」は、授業への参加度が「著しく低い」と見なします。

外国文献研究II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】当日に実施予定の輪読箇所を見ただけでは、当該文献の趣旨を把握することは難しいものです。そこで、受講者全員が、文献全体のアウトライン（少なくとも鍵となる主題文）をつかんでおくことが、授業を有意義なものにするうえで非常に大切になります。報告担当者は、担当箇所の日本語訳等をレジュメとして準備し、当日までに配布しておいてください。

【事後学習】各回で邦訳し切れなかった部分の邦訳については事後学習として実施します。また、報告担当者は、演習終了後に、演習での検討を踏まえて修正した日本語訳を配布してください。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語あるいは英語の文献資料を読解するために必要かつ十分な語学力を有している場合には、「文献研究」としての本講義の受講は快適かつ有意義なものになるでしょう。また、参加者の準備が不十分な場合には、再度、同箇所について読み直しが必要になる場合もあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較法

法哲学専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法哲学に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法哲学専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

これまでの3年次のゼミでは、現代正義論を主題として、次のようなテキストを読み進めてきた。ロールズ『公正としての正義』（木鐸社）、ドゥワオーキン『権利論』（木鐸社）、ドゥワオーキン『法の帝国』（未来社）、ノージック『アナーキー・国家・ユートピア』（木鐸社）、D・ラスマッセン編『普遍主義対共同体主義』（日本経済評論社）、クカサス、ペティット『ロールズ』（勁草書房）、ドゥワオーキン『権利論II』（木鐸社）、有賀誠他編『ポスト・リベラリズム』（ナカニシヤ出版）、アマルティア・セン『不平等の再検討』（岩波書店）、ロールズ『公正としての正義 再説』（岩波書店）、永井彰他編『批判的社会理論の現在』（晃洋書房）、ロールズ『万民の法』（岩波書店）、ユルゲン・ハーバーマス『他者の受容』（法政大学出版局）、アクセル・ホネット『正義の他者』（法政大学出版局）、ハーバーマス『事実性と妥当性(上)』（未来社）、ハーバーマス『公共性の構造転換（第2版）』（未来社）、ロールズ『政治哲学史講義I』（法政大学出版局）、ナンシー・フレイザー/アクセル・ホネット『再配分が承認か？』（法政大学出版局）、G・A・コーエン『自己所有権・自由・平等』（青木書店）、ロバート・B・ピピン『ヘーゲルの実践哲学』（法政大学出版局）、アクセル・ホネット『物象化 承認論からのアプローチ』（法政大学出版局）、ロナルド・ドゥワオーキン『裁判の正義』（木鐸社）、アクセル・ホネット『私たちのなかの私 承認論研究』（法政大学出版局）、ポール・リクール『正義をこえて 公正の探求1』（法政大学出版局）、J・S・ミル『自由論』関口正司訳（岩波文庫）などである。

本年は、その延長上で、マイケル・サンデル『実力も運のうち』（早川書房、2021年）をテキストとして取り上げる。「運」についての考察は、今日においてもなお、平等について考察するうえで、重要な示唆を与え続けている。また、現代正義論について考察する上でも、同書は重要な問題提起を行っている。これらの問題を批判的に検討することが、この授業の目的である。

（到達目標）

【技能】法哲学上の問題の解決に必要な情報を自ら収集・分析・整理するための基礎的な技法を身につけている。

【思考・判断・表現力】法哲学に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。

【コミュニケーション力】他の参加者と議論をしながら、協働して法哲学上の問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

マイケル・サンデル『実力も運のうち 能力主義は正義か？』鬼澤忍訳（早川書房、2021年）、2200円＋税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』（ハヤカワ文庫、2011年）

法哲学専門演習I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とサンデル
- 第2回 プロローグ
- 第3回 大学入試と能力
- 第4回 勝者と敗者
- 第5回 能力と道徳
- 第6回 市場と能力
- 第7回 教育と不平等
- 第8回 学歴による分断
- 第9回 能力主義
- 第10回 市場と功績
- 第11回 選別装置
- 第12回 選別と社会的評価
- 第13回 労働と承認
- 第14回 能力と共通善
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...40% 質問等の状況...30% 日常の演習への取り組み...30%
特別な理由なく、担当した報告をしなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回で扱う予定のテキストの箇所を事前に読み、報告者に対する質問をきちんと考え予習しておくこと。授業の後は、テキストやレジュメをもとに内容を整理し、復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、SDGsの「10.人や国の不平等をなくそう、16.平和と公正をすべての人に」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

サンデル 能力主義 正義 運 平等

法哲学専門演習II【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法哲学に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法哲学専門演習II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

法哲学専門演習Iでは、現代正義論に関連する文献を講読したが、法哲学専門演習IIでは、「現代正義論」という主題に限定することなく、広い意味で法哲学にかかわるテーマについて、すなわち、「法・国家・正義・自由・権利・生命・環境」等の法哲学的な主題にかかわる範囲で、各参加者が関心を抱くテーマについて自由研究報告を行い、ゼミ論集へとまとめる。

(到達目標)

【技能】法哲学上の問題の解決に必要な情報自ら収集・分析・整理するための基礎的な技法を身につけている。

【思考・判断・表現力】法哲学に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。

【コミュニケーション力】他の参加者と議論をしながら、協働して法哲学上の問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

特に予め指定しない。各報告者が、その都度、参考文献等を指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

同上

法哲学専門演習II【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
- 第2回 自由研究構想発表
- 第3回 自由研究報告①【法】（【】内は例示。以下同様）
（ゼミ参加者が関心を抱くテーマについて、順番に自由研究報告を行い、それをめぐって全員で討論する。以下同様）
- 第4回 自由研究報告②【国家】
- 第5回 自由研究報告③【正義】
- 第6回 自由研究報告④【自由】
- 第7回 自由研究報告⑤【権利】
- 第8回 自由研究報告⑥【生命】
- 第9回 自由研究報告⑦【環境】
- 第10回 自由研究報告⑧【法と国家】
- 第11回 自由研究報告⑨【自由と正義】
- 第12回 自由研究報告⑩【生命と環境】
- 第13回 自由研究報告⑪【法哲学】
- 第14回 『ゼミ論集』編集の打ち合わせ
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...40% 質問等の状況...30% 日常の演習への取り組み...30%
特別な理由なく、自由研究（ゼミ論）の報告と提出をしなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回に扱われる予定の問題について事前に調べ、報告者に対する質問を考え予習しておくこと。授業の後は、レジユメ等をもとに内容を整理し、復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

法哲学専門演習IIでは特に、研究主題への参加者の興味や問題意識が重要となり、参加者の自主性も問われるため、参加者は、予め研究したい主題の輪郭をつかんだ上で、ゼミに臨んで欲しい。なお、この授業は、SDGsの「10.人や国の不平等をなくそう、16.平和と公正をすべての人に」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

自由研究報告 ゼミ論集 法 国家 正義 自由 権利 生命 環境

法哲学専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 4年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 法哲学に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法哲学専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

旧カリキュラムのもとでの3年生向けのゼミでは、現代正義論を主題として、次のようなテキストを読み進めてきた。ロールズ『公正としての正義』（木鐸社）、ドゥワオーキン『権利論』（木鐸社）、ドゥワオーキン『法の帝国』（未来社）、ノージック『アナーキー・国家・ユートピア』（木鐸社）、D・ラスマツセン編『普遍主義対共同体主義』（日本経済評論社）、クカサス、ペティット『ロールズ』（勁草書房）、ドゥワオーキン『権利論II』（木鐸社）、有賀誠他編『ポスト・リベラリズム』（ナカニシヤ出版）、アマルティア・セン『不平等の再検討』（岩波書店）、ロールズ『公正としての正義 再説』（岩波書店）、永井彰他編著『批判的社会理論の現在』（晃洋書房）、ロールズ『万民の法』（岩波書店）、ユルゲン・ハーバーマス『他者の受容』（法政大学出版局）、アクセル・ホネット『正義の他者』（法政大学出版局）、ハーバーマス『事実性と妥当性(上)』（未来社）、ハーバーマス『公共性の構造転換（第2版）』（未来社）、ロールズ『政治哲学史講義I』（岩波書店）、ナンシー・フレイザー / アクセル・ホネット『再配分か承認か?』（法政大学出版局）、G・A・コーエン『自己所有権・自由・平等』（青木書店）、ロバート・B・ピピン『ヘーゲルの実践哲学』（法政大学出版局）などである。

新カリキュラムのもとで始まった4年生ゼミでは、その延長上で、アクセル・ホネット『見えないこと 相互主体性理論の諸段階について』（法政大学出版局）、M.J.サンデル『リベラリズムと正義の限界（原著第二版）』（勁草書房）、ユルゲン・ハーバーマス『事実性と妥当性（下）』（未来社、2003年）、村岡晋一『ドイツ観念論 - カント・フィヒテ・シェリング・ヘーゲル』（講談社、2012年）、酒匂一郎『法哲学講義』（成文堂、2019年）、瀧川裕英・宇佐美誠・大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）をテキストとしてとりあげることによって、現代正義論およびその前提となる諸理論について考察してきた。今年、カント『道徳形而上学の基礎づけ』を、テキストとしてとりあげる。同書は、法哲学の中心問題でもある「自由」について、道徳法則との関連から考察している。このゼミでは、同書を手掛かりとして、現代正義論の前提の一つともなっているカントの自由をめぐる理論について、概観すると同時に、批判的に検討することをめざす。

（到達目標）

【技能】法哲学上の問題の解決を図るための基礎的な技法を身につけている。

【思考・判断・表現力】法哲学的思考に基づいた判断のプロセスや結論を、口頭や文書で論理的に表現することができる。

【コミュニケーション力】他の参加者と議論をしながら、協働して法哲学上の問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

カント『道徳形而上学の基礎づけ』（光文社古典新訳文庫、2012年）、1067円＋税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中山元『自由の哲学者カント カント哲学入門「連続講義」』（光文社、2013年）

カント『実践理性批判』（光文社古典新訳文庫、2013年）

カント『永遠平和のために / 啓蒙とは何か 他3編』（光文社古典新訳文庫、2006年）

法哲学専門演習Ⅲ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに ～ テキスト選択と参考文献の指示など
- 第2回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める①【自由】
- 第3回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める②【批判】
- 第4回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める③【啓蒙】
- 第5回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める④【感性】
- 第6回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑤【悟性】
- 第7回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑥【理性】
- 第8回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑦【幸福】
- 第9回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑧【道徳】
- 第10回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑨【判断力】
- 第11回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑩【自然】
- 第12回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑪【宗教】
- 第13回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑫【悪】
- 第14回 テキストを参加者で分担報告して、議論しながら読み進める⑬【政治哲学】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...40% 質問等の状況...30% 日常の演習への取り組み...30%
特別な理由なく、担当した報告をしなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回で扱う予定のテキストの箇所を事前に読み、報告者に対する質問をきちんと考え予習しておくこと。授業の後は、テキストやレジュメをもとに内容を整理し、復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、SDGsの「10.人や国の不平等をなくそう、16.平和と公正をすべての人に」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

カント 自由 道徳 自律 批判

法哲学専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	法哲学に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法哲学専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

法哲学専門演習Ⅲでは、現代正義論に関連する文献を講読したが、法哲学専門演習Ⅳでは、広い意味で法哲学にかかわるテーマについて、すなわち、「法・国家・正義・自由・権利・生命・環境」等の法哲学的な主題にかかわる範囲で、各参加者が関心を抱くテーマについて自由研究報告を行い、ゼミ論集へとまとめる。

(到達目標)

【技能】法哲学上の問題の解決を図るための基礎的な技法を身につけている。

【思考・判断・表現力】法哲学的思考に基づいた判断のプロセスや結論を、口頭や文書で論理的に表現することができる。

【コミュニケーション力】他の参加者と議論をしながら、協働して法哲学上の問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

特に予め指定しない。各報告者が、その都度、参考文献等を指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

同上

法哲学専門演習Ⅳ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに
- 第2回 自由研究構想発表
- 第3回 自由研究報告①【法哲学】（【】内は例示。以下同様）
（ゼミ参加者が関心を抱くテーマについて、順番に自由研究報告を行い、それをめぐって全員で討論する。以下同様）
- 第4回 自由研究報告②【法と国家】
- 第5回 自由研究報告③【正義と自由】
- 第6回 自由研究報告④【環境と生命】
- 第7回 自由研究報告⑤【法】
- 第8回 自由研究報告⑥【国家】
- 第9回 自由研究報告⑦【正義】
- 第10回 自由研究報告⑧【自由】
- 第11回 自由研究報告⑨【権利】
- 第12回 自由研究報告⑩【生命倫理と法哲学】
- 第13回 自由研究報告⑪【環境倫理と法哲学】
- 第14回 『ゼミ論集』編集の打ち合わせ
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...40% 質問等の状況...30% 日常の演習への取り組み...30%
特別な理由なく、自由研究（ゼミ論）の報告と提出をしなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回に扱われる予定の問題について事前に調べ、報告者に対する質問を考え予習しておくこと。授業の後は、レジユメ等をもとに内容を整理し、復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

法哲学専門演習IIでは特に、研究主題への参加者の興味や問題意識が重要となり、参加者の自主性も問われるため、参加者は、予め研究したい主題の輪郭をつかんだ上で、ゼミに臨んで欲しい。なお、この授業は、SDGsの「10.人や国の不平等をなくそう、16.平和と公正をすべての人に」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

自由研究報告 ゼミ論集 法 国家 正義 自由 権利 生命 環境

憲法専門演習Ⅰ【昼】

担当者名 山本 健人 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	憲法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法専門演習Ⅰ

SEM311M

授業の概要 /Course Description

本演習は、①具体的なケースを前提に憲法上の論点を抽出し、自分自身の意見をもつこと、②自分自身とは異なる主張を理解すること、③憲法的な主張を説得的に行う技能を身につけることを目的とする。また、憲法の専門学習を通じて、読解力やプレゼン力、傾聴力、質問力といった社会人にとって必須となるスキルを伸ばすことを目的とする。

本演習は以下の手順で進めることを予定している。

- （1）報告担当者①が指定教科書の該当箇所についてレジュメを作成した上で報告を行い、それをもとに全員で検討を行う。
- （2）報告担当者②が各回のテーマに関連する特定の主張を行い、報告者以外の参加者と討論する。

（到達目標）

【技能】憲法学上の問題の解決に必要な情報を自ら収集・分析・整理するための基礎的な技法を身につけている

【思考・判断・表現力】憲法学に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

【コミュニケーション力】他の参加者と議論をしながら、協働して憲法学上の問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている

教科書 /Textbooks

山本龍彦＝横大道聡編『憲法学の現在地』（日本評論社、2020年）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス

第2回 ウォーミングアップ①

第3回 ウォーミングアップ②

第4～14回 報告および討論

第15回 まとめ

※受講人数、受講者の希望等によって、内容を変更することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告50%、授業への積極的参加50%

無断欠席及び本人の責めに帰すべき理由による欠席が5回以上の場合は評価不能（－）とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜、教員が指示する課題に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

憲法専門演習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、SDGsの5「ジェンダー平等を実現しよう」、10「人や国の不平等をなくそう」、16「平和と公平をすべての人に」という目標に関連しています。

キーワード /Keywords

憲法専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 中村 英樹 / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	憲法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

(到達目標)

- 【技能】憲法学上の問題の解決に必要な情報を自ら収集・分析・整理するための基礎的な技法を身につけている
- 【思考・判断・表現力】憲法学に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる
- 【コミュニケーション力】他の参加者と議論をしながら、協働して憲法学上の問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている

本演習は、憲法の専門的学習を通じて、社会人となるために必須となる「読み（調べて）」「書き（まとめて）」「話す（主張する）」力に加えて、「自ら問いを立て、答えを出す」力を身につけることを目的とする。
Iの進行の形式は次のとおり。まず指定テキスト（下記「教科書」参照）を全員で分担講読する。各回の報告担当者がレジュメを作成した上で報告を行い、それをもとに全員で検討・議論を行う形で進めていく。

教科書 /Textbooks

加藤一彦・坂口正二郎・只野雅人 / 編著『フォーカス憲法』（北樹出版、2020年）（定価3000円＋税）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス（演習の目的・概要説明、報告テーマ・順序決定など）
- 第2回 レジュメ作成の方法等
- 第3回 （“肩慣らし”として）グループ・ディスカッション
- 第4～14回 テキストの分担講読（報告及び議論）
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告準備・報告への取り組み（レジュメ作成含む）：50%
各回の議論への主体的参加状況：50%

原則として、3分の1（5回）以上欠席した場合は単位を認めません（評価は「一」とします）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

自分の担当回の報告には、レジュメ作成も含めて入念な事前準備が求められる。指定テキストは、憲法学で議論されているさまざまなテーマについて具体的事例を用意し、対立する主張、考えるべき課題等を整理したものである。各テーマ7ページ前後の叙述であるが、その内容を理解するためには、十分な読み込みや補足的調査が必要となる。

各回報告者以外の参加者も、議論に参加する準備として、毎回少なくとも指定テキストを十分に読み込んでおくことが求められる。

憲法専門演習I【昼】

履修上の注意 /Remarks

演習（ゼミ）とは参加者全員で雰囲気を作り上げていく、いわばチームでの学習である。したがって、無断欠席や正当な理由のない遅刻などに対しては、厳しく対処する。

本演習は「憲法専門演習II」と連続性を持って実施するので、セットで受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

この授業は、SDGsの5「ジェンダー平等を実現しよう」、10「人や国の不平等をなくそう」、16「平和と公平をすべての人に」という目標に関連しています。

憲法専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 山本 健人 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	憲法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

本演習は、①具体的なケースを前提に憲法上の論点を抽出し、自分自身の意見をもつこと、②自分自身とは異なる主張を理解すること、③憲法的な主張を説得的に行う技能を身につけることを目的とする。また、憲法の専門学習を通じて、読解力やプレゼン力、傾聴力、質問力といった社会人にとって必須となるスキルを伸ばすことを目的とする。

本演習は以下の手順で進めることを予定している。

- 報告担当者①が指定教科書の該当箇所についてレジュメを作成した上で報告を行い、それをもとに全員で検討を行う。
- 報告担当者②が各回のテーマに関連する特定の主張を行い、報告者以外の参加者と討論する。

(到達目標)

【技能】憲法学上の問題の解決に必要な情報を自ら収集・分析・整理するための基礎的な技法を身につけている

【思考・判断・表現力】憲法学に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

【コミュニケーション力】他の参加者と議論をしながら、協働して憲法学上の問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている

教科書 /Textbooks

横大道聡編『憲法判例の射程（第2版）』（弘文堂、2020年）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス

第2回 ウォーミングアップ①

第3回 ウォーミングアップ②

第4～14回 報告および討論

第15回 まとめ

※受講人数、受講者の希望等によって、内容を変更することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告50%、授業への積極的参加50%

無断欠席及び本人の責めに帰すべき理由による欠席が5回以上の場合は評価不能（－）とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜、教員が指示する課題に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

憲法専門演習II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、SDGsの5「ジェンダー平等を実現しよう」、10「人や国の不平等をなくそう」、16「平和と公平をすべての人に」という目標に関連しています。

キーワード /Keywords

憲法専門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 中村 英樹 / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	憲法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法専門演習 II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

(到達目標)

- 【技能】憲法学上の問題の解決に必要な情報を自ら収集・分析・整理するための基礎的な技法を身につけている
- 【思考・判断・表現力】憲法学に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる
- 【コミュニケーション力】他の参加者と議論をしながら、協働して憲法学上の問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている

本演習は、憲法の専門的学習を通じて、社会人となるために必須となる「読み（調べて）」「書き（まとめて）」「話す（主張する）」力に加えて、「自ら問いを立て、答えを出す」力を身につけることを目的とする。

「演習I」を踏まえて「演習II」では、「演習III」「演習IV」で論文を執筆するための準備を行う。

具体的には、参加者がそれぞれ「①論文のテーマ（問い）」、「②そのテーマ（問い）をめぐる社会状況や憲法学における議論状況、関連する判例」、「③自分の見解」をまとめたレジュメを作成して報告し、それに基づいて全員で検討・議論を行うという形で進めていく。

最終的に、論文の全体構成を練り上げることを目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指導する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス (演習の目的・概要説明、報告順決定など)

第2～14回 各自が決定したテーマに関する報告及び議論

第15回 論文執筆に向けたまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告準備・報告への取り組み (レジュメ作成含む) : 40%

各回の議論への主体的参加状況 : 40%

学期末レポートの内容 : 20%

原則として、3分の1 (5回) 以上欠席した場合は単位を認めません (評価は「一」とします)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

自分の担当回の報告には、レジュメ作成も含めて入念な事前準備が求められる。自分の立てた問いに答えるために必要な内容を、十分に・丁寧に調べてまとめることが必要となる。

報告回の前回までにレジュメを完成させて、事前に全員に配布すること。

報告者以外の参加者は、あらかじめ配布レジュメを十分に読み込んでおき、報告者にとって有益な質問・意見を述べるのが求められる。

憲法専門演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

演習（ゼミ）とは参加者全員で雰囲気を作り上げていく、いわばチームでの学習である。したがって、無断欠席や正当な理由のない遅刻などに対しては、厳しく対処する。

本演習は「憲法専門演習I」と連続性を持って実施するので、セットで受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

この授業は、SDGsの5「ジェンダー平等を実現しよう」、10「人や国の不平等をなくそう」、16「平和と公平をすべての人に」という目標に関連しています。

憲法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 山本 健人 / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	憲法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

履修者の関心のある憲法学分野のテーマに関して専門的研究を深めた上で、「憲法専門演習Ⅳ」と併せて論文（1万5千字～2万字程度）を執筆・完成させることを目的とする。

「Ⅲ」においては、研究テーマの決定及び論文の概要（全体構成）を完成させるところまでを目指す。

（到達目標）

【知識】憲法上の問題の解決を図るための基礎的な技法を身につけている

【思考・判断・表現力】憲法学的思考に基づいた判断のプロセスや結論を、口頭や文書で論理的に表現することができる【コミュニケーション力】他の参加者と議論をしながら、協働して憲法上の問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要となる文献や資料等については、個別に相談の上で指導する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス（目的や概要、スケジュールの説明など）

第2～5回 論文テーマの決定

第6～14回 論文指導

第15回 まとめ

※受講人数、受講者の希望等によって、内容を変更することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、日常の授業への取組み50%

※レポート未提出かつ出席回数0回の場合は、評価不能（－）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜、教員が指示する課題に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、SDGsの目標3,10,11,16に関連しています。

キーワード /Keywords

憲法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 中村 英樹 / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	憲法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

(到達目標)

【知識】 憲法上の問題の解決を図るための基礎的な技法を身につけている

【思考・判断・表現力】 憲法学的思考に基づいた判断のプロセスや結論を、口頭や文書で論理的に表現することができる

【コミュニケーション力】 他の参加者と議論をしながら、協働して憲法上の問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている

憲法学分野の講義や演習で学んだ内容、身につけた力を基礎として、参加者各自が関心を持つテーマに関して専門的研究を深めた上で、「憲法専門演習Ⅳ」と併せて論文（12,000字程度）を執筆・完成させることを目的とする。

「Ⅲ」においては、研究テーマの決定及び論文の概要（全体構成）を完成させるところまでを目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要となる文献や資料等については、個別に相談の上で指導する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス（目的や概要、スケジュールの説明など）

第2～5回 研究テーマの決定

第6～15回 研究報告・検討

成績評価の方法 /Assessment Method

報告準備・報告への取り組み（報告資料作成含む）：40%

各回の議論への主体的参加状況：40%

論文概要（全体構成）の内容：20%

定期的な指導を受けなかった場合は、原則として単位を認めません（評価は「一」とします）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、研究の進捗状況に関する報告資料を準備すること。

それをもとにして検討を行い、次回の報告に反映させること。

履修上の注意 /Remarks

本演習は「憲法専門演習Ⅳ」と連続性を持って実施するので、セットで受講することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

論文を執筆・完成させることを目的とするので、着実に粘り強く研究を進める意欲のある者の受講を強く希望します。

憲法専門演習Ⅲ【昼】

キーワード /Keywords

この授業は、SDGsの5「ジェンダー平等を実現しよう」、10「人や国の不平等をなくそう」、16「平和と公平をすべての人に」という目標に関連しています。

憲法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 山本 健人 / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	憲法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

履修者の関心のある憲法分野のテーマに関して専門的研究を深めた上で、「憲法専門演習Ⅲ」と併せて論文（1万5千字～2万字程度）を執筆・完成させることを目的とする。

「Ⅳ」においては、「Ⅲ」で完成させた論文概要（全体構成）に基づいて、ゼミ論文を完成させることを目指す。

（到達目標）

【知識】憲法上の問題の解決を図るための基礎的な技法を身につけている

【思考・判断・表現力】憲法学的思考に基づいた判断のプロセスや結論を、口頭や文書で論理的に表現することができる【コミュニケーション力】他の参加者と議論をしながら、協働して憲法上の問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要となる文献や資料等については、個別に相談の上で指導する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス（目的や概要、スケジュールの説明など）

第2～15回 論文指導・中間報告

※受講人数、受講者の希望等によって、内容を変更することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

中間報告：20%

中間報告への主体的参加状況：20%

論文の内容：60%

※定期的な指導を受けなかった場合、または論文を完成させられなかった場合、原則として評価は「-」とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜、教員が指示する課題に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、SDGsの目標3,10,11,16に関連しています。

憲法専門演習Ⅳ【昼】

キーワード /Keywords

憲法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 中村 英樹 / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 憲法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

(到達目標)

【知識】 憲法上の問題の解決を図るための基礎的な技法を身につけている

【思考・判断・表現力】 憲法学的思考に基づいた判断のプロセスや結論を、口頭や文書で論理的に表現することができる

【コミュニケーション力】 他の参加者と議論をしながら、協働して憲法上の問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている

憲法学分野の講義や演習で学んだ内容、身につけた力を基礎として、参加者各自が関心を持つテーマに関して専門的研究を深めた上で、「憲法専門演習Ⅲ」と併せて論文（12,000字程度）を執筆・完成させることを目的とする。

「Ⅳ」においては、「Ⅲ」で完成させた論文概要（全体構成）に基づいて、さらに研究を専門化、精緻化させながらゼミ論文を完成させることを目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要となる文献や資料等については、個別に相談の上で指導する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス

第2～15回 研究報告・検討～論文作成

成績評価の方法 /Assessment Method

報告準備・報告への取り組み（報告資料作成含む）：30%

各回の議論への主体的参加状況：30%

論文の内容：40%

※定期的な指導を受けなかった場合、または論文を完成させられなかった場合、原則として単位は認定しません（評価は「-」となります）。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、研究の進捗状況に関する報告資料を準備すること。

それをもとにして検討を行い、次回の報告に反映させること。

履修上の注意 /Remarks

本演習は「憲法専門演習Ⅲ」と連続性を持って実施するので、セットで受講することが望ましい（「Ⅳ」のみで論文を完成させることはかなりの困難を伴う）。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

論文を執筆・完成させることを目的とするので、着実に粘り強く研究を進める意欲のある者の受講を強く希望します。

憲法専門演習Ⅳ【昼】

キーワード /Keywords

この授業は、SDGsの5「ジェンダー平等を実現しよう」、10「人や国の不平等をなくそう」、16「平和と公平をすべての人に」という目標に関連しています。

行政法専門演習I【昼】

担当者名 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 行政法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政法専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

本演習では、行政法の重要判例を題材に、各回の担当班がグループ報告またはディベートを行った後、そのテーマについて受講者全員で議論します。受講者が、①行政法の体系的な理解を深める、②法的・論理的思考力を涵養する、③その他、社会人にとって必要な素養を習得することを目的とします。また、裁判傍聴をはじめとする学外活動を行うこともあります。

(到達目標)

【技能】行政法学上の問題の解決に必要となる情報を自ら収集・分析・整理するための基礎的な技法を身につけている。

【思考・判断・表現力】行政法学に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。

【コミュニケーション力】他の参加者と議論をしながら、協働して行政法学的問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス(授業内容の説明など)

第2～14回 グループ報告またはディベート

第15回 まとめ

※受講人数、受講者の希望等によって、内容を変更することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告50%、日常の授業への取組み50%

※出席回数0回の場合は、評価不能(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜、教員が指示する課題に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、SDGsの目標3,10,11,16に関連しています。

キーワード /Keywords

行政法専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 堀澤 明生 / Akio Horisawa / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 行政法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政法専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

行政法総論の基本的な最高裁判例について、逐語的に、単語を調べたり、接続しに気をつけつつ読んでいきます。そのなかで、事案を具体的に理解し、個別法の条文に目を通し、そして最高裁がどのような論理でそれを解釈適用したか、判例としてどの程度の射程を持っているのかを具体的に考えます。各報告者には事前に判例について注釈をつけ、関連する文献を予習しておくことが求められます。

(到達目標)

【技能】

行政法上の問題の解決に必要な情報を自ら収集・分析・整理するための基礎的な技法を身につけている。

【思考・判断力・表現力】

行政法学に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。

【コミュニケーション力】

他の参加者と議論をしながら、協働して行政法上の問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

担当者から紹介を行う。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下はあくまでも例である。学生と事前に相談を行う。

- 第一回 ガイダンス
- 第二回 担当教員による判例報告
- 第三回 判例報告：法律による行政の原理
- 第四回 判例報告：法解釈の誤りによる違法
- 第五回 判例報告：行政裁量
- 第六回 判例報告：行政裁量
- 第七回 判例報告：行政計画と裁量
- 第八回 判例報告：法規命令
- 第九回 判例報告：法規命令
- 第十回 判例報告：行政契約
- 第十一回 判例報告：条例の違法
- 第十二回 判例報告：行政契約
- 第十三回 判例報告：行政上の強制執行
- 第十四回 判例報告：行政罰
- 第十五回 判例報告：行政指導

行政法専門演習I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

各回のとりくみ：20点
担当報告：50点
報告の評釈化：30点
報告及び評釈のいずれも行わなかった場合には、成績評価不能（－）とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に担当学生同士で図書館やWeb会議で報告準備を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

行政法総論を未履修の場合には必ず並行して履修すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政法専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 行政法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政法専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

本演習では、行政法の重要判例を題材に、各回の担当班がグループ報告またはディベートを行った後、そのテーマについて受講者全員で議論します。受講者が、①行政法の体系的な理解を深める、②法的・論理的思考力を涵養する、③その他、社会人にとって必要な素養を習得することを目的とします。また、裁判傍聴をはじめとする学外活動を行うこともあります。

(到達目標)

【技能】行政法学上の問題の解決に必要となる情報を自ら収集・分析・整理するための基礎的な技法を身につけている。

【思考・判断・表現力】行政法学に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。

【コミュニケーション力】他の参加者と議論をしながら、協働して行政法学的問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス(授業内容の説明など)

第2～14回 グループ報告またはディベート

第15回 まとめ

※受講人数、受講者の希望等によって、内容を変更することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告50%、日常の授業への取組み40%、レポート10%

※出席回数0回の場合は、評価不能(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜、教員が指示する課題に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、SDGsの目標3,10,11,16に関連しています。

キーワード /Keywords

行政法専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 堀澤 明生 / Akio Horisawa / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 行政法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政法専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

行政救済法・国家補償法等の基本的な最高裁判例について、逐語的に読んでいきます。
そのなかで、事案を具体的に理解し、個別法の条文に目を通し、そして最高裁がどのような論理でそれを解釈適用したか、判例としてどの程度の射程を持っているのかを具体的に考えます。
各報告者には事前に判例について注釈をつけ、関連する文献を予習しておくことが求められます。

(到達目標)

【技能】

行政法上の問題の解決に必要な情報を自ら収集・分析・整理するための基礎的な技法を身につけている。

【思考・判断力・表現力】

行政法学に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。

【コミュニケーション力】

他の参加者と議論をしながら、協働して行政法学的問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

初回に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

担当者から紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一回：処分性に関する判例
- 第二回：処分性に関する判例
- 第三回：原告適格に関する判例
- 第四回：原告適格に関する判例
- 第五回：原告適格に関する判例
- 第六回：訴えの利益に関する判例
- 第七回：訴えの利益に関する判例
- 第八回：当事者訴訟に関する判例
- 第九回：当事者訴訟に関する判例
- 第十回：司法権に関する判例
- 第十一回：国家賠償法1条に関する判例
- 第十二回：国家賠償法1条に関する判例
- 第十三回：国家賠償法2条に関する判例
- 第十四回：損失補償に関する判例
- 第十五回：予備日

行政法専門演習II【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

普段の授業への取り組み：20点
報告：50点
報告の評釈化：30点

報告及び報告の評釈化のいずれも行わなかった場合には、成績評価不能(一)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前の報告準備においては、事前に段落ごとに判例に注釈を加えること。
報告後は、指摘を参考にして評釈を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

行政争訟法・国家補償法が履修済みであることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

行政法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 行政法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

受講者が関心のある行政法のテーマについて、最終的にゼミ論文を執筆することを念頭に、個別指導を行います。論文執筆を通じて、受講者がより専門的な行政法理論を理解するとともに、分析力、表現力といった能力を身につけることを目的とします。また、裁判傍聴をはじめとする学外活動を行うこともあります。

(到達目標)

【技能】行政法規を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている。

【思考・判断・表現力】行政法学的思考に基づいた判断のプロセスや結論を口頭や文書で論理的に表現することができる。

【コミュニケーション力】他の参加者と議論をしながら、協働して行政法学的問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス(授業内容の説明など)

第2回 論文テーマの決定

第3～14回 論文指導

第15回 まとめ

※受講人数、受講者の希望等によって、内容を変更することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、日常の授業への取組み50%

※レポート未提出かつ出席回数0回の場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜、教員が指示する課題に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、SDGsの目標3,10,11,16に関連しています。

キーワード /Keywords

行政法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 堀澤 明生 / Akio Horisawa / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 行政法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

行政法は、種々の新しい問題と付き合わざるを得ません。
そうした問題に対して、法学というものは、おそらく、社会学や経済学等に比べていくぶん古びた道具立てながらも——強制力を最終的には有する規範を用いることができる学問として、やはり参画することが期待されています。
今年度は、個人情報保護法制の変革を扱います。
講義の最終回程度までに、専門演習Ⅳで報告又は執筆する内容のタイトルとアウトラインを完成させましょう。
そうすることで、現代の政策問題に行政法的にアプローチしつつも、自分自身でそうしたアプローチとは違った方向についても目を向ける能力を養います。

教科書 /Textbooks

初回に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

宇賀克也『新・個人情報保護法の逐条解説』（有斐閣、2021）7,150円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第一回 ガイダンス
第二回 情報公開法について①
第三回 情報公開法について②
第四回～十四回 個人情報保護法の改正について
第十五回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 50%
期末の論文アウトライン 50%
論文アウトラインを提出しなかった場合には、成績評価不能(一)となる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に自身で設定したテーマについて文献調査を行うことが求められる。
報告者は事前にレジユメを作成し、ゼミに送付すること。
なお、毎回、責任質問者を設定し、中心的に質問をすることを求めることを計画している。

履修上の注意 /Remarks

行政法専門演習Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

論文の執筆にあたって、種々の法令やコンメンタール、議会資料を精力的に調査することが必要とされます。
こうした調査についての勘所を得ることも、皆さんが如何なる分野に将来進まれるのであれ、重宝するものです。

行政法専門演習Ⅲ【昼】

キーワード /Keywords

行政法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 行政法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

受講者が関心のある行政法のテーマについて、最終的にゼミ論文を執筆することを念頭に、個別指導を行います。論文執筆を通じて、受講者がより専門的な行政法理論を理解するとともに、分析力、表現力といった能力を身につけることを目的とします。また、裁判傍聴をはじめとする学外活動を行うこともあります。

(到達目標)

【技能】行政法規を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている。

【思考・判断・表現力】行政法学的思考に基づいた判断のプロセスや結論を口頭や文書で論理的に表現することができる。

【コミュニケーション力】他の参加者と議論をしながら、協働して行政法学的問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス（授業内容の説明など）

第2～14回 中間報告

第15回 まとめ

※受講人数、受講者の希望等によって、内容を変更することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

論文50%、日常の授業への取組み50%

※出席回数0回の場合は、評価不能（－）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜、教員が指示する課題に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、SDG s の目標3,10,11,16に関連しています。

キーワード /Keywords

行政法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 堀澤 明生 / Akio Horisawa / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 行政法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

行政法専門演習Ⅲで設定したテーマについて論文の完成を目指す。
受講生は担当回において設定したテーマについての調査を行った結果を報告し、質疑に応えられるよう準備すること。

教科書 /Textbooks

初回の授業で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回の授業で指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第一回 目標の確認
第二回～十四回 報告・質疑
第十五回 まとめ

学生らの状況に応じて、必要な文献の理解の確認などにも答える。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での報告40% 期末レポート 60%
提出期限内にレポートを提出しなかった場合には、成績評価不能（－）とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にゼミ生に向けて報告者はレジユメを送付すること。
平素より文献調査を行い、報告による質疑で得た課題を論文執筆に活かすように。

履修上の注意 /Remarks

行政法専門演習Ⅲを履修済みであること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いよいよ最後の学期です。がんばりましょう。

キーワード /Keywords

刑法専門演習I【昼】

担当者名 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 刑法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑法専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

「刑法の基本問題の探求（1）」

刑法の基本事項を確認しつつ、刑法総論および刑法各論の基本的な問題についての理解を深めると同時に、法的思考力を育成することを目的とします。判例や学説を整理するだけでなく、それらの主張に「なぜ?」、「どうして?」という疑問を投げかけることで、刑法の論理を解きほぐしていきたいと思えます。体系的に展開される講義と連携して、刑法理論における基礎的事項や概念の体系的な理解を深めることも目的です。

- 目的
- ① 法学の基本的な知識の確認
 - ② 法学の基礎的な能力の修得（問題発見能力・論理的思考力・説得力）
 - ③ 法を支える基本的思考の理解
 - ④ 刑法学の基本問題の考察（刑法理論の体系的理解）

※研究論文（ゼミ論文）の執筆は任意です。研究論文（ゼミ論文）の執筆を特に希望する者は科目担当者に相談してください。（到達目標）

【技能】刑法学上の問題を解決するために必要な文献資料を分析・整理するための基本的な技能を習得している。

【思考・判断・表現力】刑法学上の問題を刑法解釈論に基づいて論理的に思考・判断することができる。

【コミュニケーション力】他の参加者との議論の中で、それぞれの立場を尊重しつつ、他者の見解を分析的に理解する能力を習得している。

教科書 /Textbooks

初回の講義において、テキストや参考書について説明します。

① 六法（2022年版・令和4年版）

『ポケット六法』（有斐閣）や『デイリー六法』（三省堂）、『法学六法』（信山社出版）といった「最新の」六法を必携してください（種類・出版社を問わない。）。

② 刑法総論・刑法各論の基本書

著者を指定しません。各自の選択に委ねます。予習・復習、および自習のため、いずれかの基本書を必携してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

開講時に基本的な文献を紹介するほか、随時、必要と思われる文献を紹介します。

○井田良 / 大塚裕史 / 城下裕二 / 高橋直哉 『刑法演習サブノート210問』（弘文堂・2020.04）ISBN: 9784335358098、3,190円（税込）。

○井田良ほか 『法を学ぶ人のための文章作法』2版（有斐閣・2019.12）ISBN: 9784641126121、2,090円（税込）。

○佐伯仁志 / 橋爪隆（編） 『刑法判例百選I総論』8版（有斐閣・2020.11）ISBN: 9784641115507、2,530円（税込）。

○佐伯仁志 / 橋爪隆（編） 『刑法判例百選II各論』8版（有斐閣・2020.11）ISBN: 9784641115514、2,750円（税込）。

刑法専門演習I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

刑法総論・刑法各論の授業内容を踏まえて、基本的な論点を考察する。

※諸事情により内容を変更し、進捗状況が前後することがあります。

- 1回 ガイダンス(方針の説明・報告の配分など)
- 2回 正解のない問題
- 3回 研究レポートの構成と内容
- 4回 ファシリテーションとは?
- 5回 法学の論理とは(1)理論編
- 6回 法学の論理とは(2)実践編
- 7回 事例研究(1)
- 8回 事例研究(2)
- 9回 事例研究(3)
- 10回 事例研究(4)
- 11回 事例研究(5)
- 12回 事例研究(6)
- 13回 事例研究(7)
- 14回 事例研究(8)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験を行いません。平常点を基礎に成績評価を行います。

提出されたレポート・レジュメ等(50%)、演習における報告内容(20%)、およびディスカッションにおける発言状況・内容(30%)により総合的に評価します(カッコ内は評価の全体に占める割合です。)

5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (1) 報告者は、担当したテーマ(課題)について学習してレポートを作成し、事前に提出・配布してください(報告1週間前)。
 - (2) 報告者以外の者は、摘要(summary)を作成して演習に参加してください。演習後は、ディスカッションでの検討を元に再度摘要を作成し直すと効果的です。
 - (3) 報告者は、レポートに基づいて、事例分析、争点整理、問題の所在、判例の概要、学説の概要、自説と根拠を報告してください。
 - (4) 報告者が、報告に続くディスカッションでの検討をリードして議論を進めてください。
 - (5) 報告者は、ディスカッションでの検討をもとにしてレポートを再度作成して提出してください(報告1週間後)。再提出されたレポートを活動記録としてまとめます。
- * レポート等の提出や配布には、「学習支援システム UKK Moodle」を利用します。

履修上の注意 /Remarks

履修者の皆さんの積極的な参加と発言を期待しています。

少なくとも「刑法総論」および「刑法各論I・II」を履修していること(または履修中であること。)を求めます(「授業の概要」を参照してください。)。また、「刑法専門演習I」は、「刑法専門演習II・III・IV」と連続して展開することを予定しています。これらの科目もあわせて履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく、しかし、しっかりと学びましょう。

キーワード /Keywords

刑事法 刑法 犯罪論 刑罰論 刑法総論 刑法各論

刑法専門演習II 【昼】

担当者名 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 刑法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑法専門演習 II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

「刑法の基本問題の探求（2）」

刑法の基本事項を確認しつつ、刑法総論および刑法各論の基本的な問題についての理解を深めると同時に、法的思考力を育成することを目的とします。判例や学説を整理するだけでなく、それらの主張に「なぜ?」、「どうして?」という疑問を投げかけることで、刑法の論理を解きほぐしていきたいと思えます。体系的に展開される講義と連携して、刑法理論における基礎的事項や概念の体系的な理解を深めることも目的です。

- 目的
- ① 法学の基本的な知識の確認
 - ② 法学の基礎的な能力の修得（問題発見能力・論理的思考力・説得力）
 - ③ 法を支える基本的思考の理解
 - ④ 刑法学の基本問題の考察（刑法理論の体系的理解）

※ 研究論文（ゼミ論文）の執筆は任意です。研究論文（ゼミ論文）の執筆を特に希望する者は科目担当者に相談してください。（到達目標）

【技能】 刑法学上の問題を解決するために必要な文献資料を分析・整理するための基本的な技能を習得している。

【思考・判断・表現力】 刑法学上の問題を刑法解釈論に基づいて論理的に思考・判断することができる。

【コミュニケーション力】 他の参加者との議論の中で、それぞれの立場を尊重しつつ、他者の見解を分析的に理解する能力を習得している。

教科書 /Textbooks

初回の講義において、テキストや参考書について説明します。

① 六法（2022年版・令和4年版）

『ポケット六法』（有斐閣）や『デイリー六法』（三省堂）、『法学六法』（信山社出版）といった「最新の」六法を必携してください（種類・出版社を問わない。）。

② 刑法総論・刑法各論の基本書

著者を指定しません。各自の選択に委ねます。予習・復習、および自習のため、いずれかの基本書を必携してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

開講時に基本的な文献を紹介するほか、随時、必要と思われる文献を紹介します。

○井田良 / 大塚裕史 / 城下裕二 / 高橋直哉 『刑法演習サブノート210問』（弘文堂・2020.04）ISBN: 9784335358098、3,190円（税込）。

○井田良ほか 『法を学ぶ人のための文章作法』2版（有斐閣・2019.12）ISBN: 9784641126121、2,090円（税込）。

○佐伯仁志 / 橋爪隆（編） 『刑法判例百選I総論』8版（有斐閣・2020.11）ISBN: 9784641115507、2,530円（税込）。

○佐伯仁志 / 橋爪隆（編） 『刑法判例百選II各論』8版（有斐閣・2020.11）ISBN: 9784641115514、2,750円（税込）。

刑法専門演習II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

刑法総論・刑法各論の授業内容を踏まえて、基本的な論点を考察する。

※諸事情により内容を変更し、進捗状況が前後することがあります。

- 1回 ガイダンス(方針の説明・報告の配分など)
- 2回 判例と裁判例、判例理論について
- 3回 事例分析の方法・判例研究の方法
- 4回 事例研究(1)
- 5回 事例研究(2)
- 6回 事例研究(3)
- 7回 事例研究(4)
- 8回 事例研究(5)
- 9回 事例研究(6)
- 10回 事例研究(7)
- 11回 事例研究(8)
- 12回 事例研究(9)
- 13回 事例研究(10)
- 14回 事例研究(11)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験を行いません。平常点を基礎に成績評価を行います。

提出されたレポート・レジュメ等(50%)、演習における報告内容(20%)、およびディスカッションにおける発言状況・内容(30%)により総合的に評価します(カッコ内は評価の全体に占める割合です。)

5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (1) 報告者は、担当したテーマ(課題)について学習してレポートを作成し、事前に提出・配布してください(報告1週間前)。
 - (2) 報告者以外の者は、摘要(summary)を作成して演習に参加してください。演習後は、ディスカッションでの検討を元に再度摘要を作成し直すと効果的です。
 - (3) 報告者は、レポートに基づいて、事例分析、争点整理、問題の所在、判例の概要、学説の概要、自説と根拠を報告してください。
 - (4) 報告者が、報告に続くディスカッションでの検討をリードして議論を進めてください。
 - (5) 報告者は、ディスカッションでの検討をもとにしてレポートを再度作成して提出してください(報告1週間後)。再提出されたレポートを活動記録としてまとめます。
- * レポート等の提出や配布には、「学習支援システム UKK Moodle」を利用します。

履修上の注意 /Remarks

履修者の皆さんの積極的な参加と発言を期待しています。

少なくとも「刑法総論」および「刑法各論I・II」を履修していること(または履修中であること。)を求めます(「授業の概要」を参照してください。)。また、「刑法専門演習II」は、「刑法専門演習I・III・IV」と連続して展開することを予定しています。これらの科目もあわせて履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく、しかし、しっかりと学びましょう。

キーワード /Keywords

刑事法 刑法 犯罪論 刑罰論 刑法総論 刑法各論

刑法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	刑法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

「刑法理論の実践（1）」

刑法学の講義・演習において修得した知識と理解を基礎にして、刑法の重要判例を素材に刑法理論の実践的な適用を学びます。単なる知識の確認に留まることがないように、判例・学説の分析に基づいて事案を具体的かつ緻密に考察を進めていきます。自己の考察を説得的な文章で表現することを重視します。

※研究論文（ゼミ論文）の執筆は任意です。研究論文（ゼミ論文）の執筆を特に希望する者は科目担当者に相談してください。（到達目標）

【技能】刑法学上の問題を自ら発見し、分析・整理するための基本的な技能を習得している。

【思考・判断・表現力】身近な事象の中から刑法学に関する課題を発見することができる。

【コミュニケーション力】他の参加者との議論の中で、自分と反対の立場にたつて、自分の考えを批判的に検証する姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

初回の講義において、テキストや参考書について説明します。

①六法（2022年版・令和4年版）

『ポケット六法』（有斐閣）や『デイリー六法』（三省堂）、『法学六法』（信山社出版）といった「最新の」六法を必携してください（種類・出版社を問わない。）。

②刑法総論・刑法各論の基本書

著者を指定しません。各自の選択に委ねます。予習・復習、および自習のため、いずれかの基本書を必携してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

開講時に基本的な文献を紹介するほか、随時、必要と思われる文献を紹介します。

○井田良 / 大塚裕史 / 城下裕二 / 高橋直哉 『刑法演習サブノート210問』（弘文堂・2020.04）ISBN: 9784335358098、3,190円（税込）。

○井田良ほか 『法を学ぶ人のための文章作法』2版（有斐閣・2019.12）ISBN: 9784641126121、2,090円（税込）。

○佐伯仁志 / 橋爪隆（編） 『刑法判例百選I総論』8版（有斐閣・2020.11）ISBN: 9784641115507、2,530円（税込）。

○佐伯仁志 / 橋爪隆（編） 『刑法判例百選II各論』8版（有斐閣・2020.11）ISBN: 9784641115514、2,750円（税込）。

刑法専門演習III 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※諸事情により内容を変更し、進捗状況が前後することがあります。

- 1回 ガイダンス(方針の説明・報告の配分など)
- 2回 研究レポートの構成と内容
- 3回 事例分析の方法・判例研究の方法
- 4回 事例研究(1)
- 5回 事例研究(2)
- 6回 事例研究(3)
- 7回 事例研究(4)
- 8回 事例研究(5)
- 9回 事例研究(6)
- 10回 事例研究(7)
- 11回 事例研究(8)
- 12回 事例研究(9)
- 13回 事例研究(10)
- 14回 事例研究(11)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験を行いません。平常点を基礎に成績評価を行います。

提出されたレポート・レジュメ等(50%)、演習における報告内容(20%)、およびディスカッションにおける発言状況・内容(30%)により総合的に評価します(カッコ内は評価の全体に占める割合です。)

5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (1) 報告者は、担当したテーマ(課題)について学習してレポートを作成し、事前に提出・配布してください(報告1週間前)。
 - (2) 報告者以外の者は、摘要(summary)を作成して演習に参加してください。演習後は、ディスカッションでの検討を元に再度摘要を作成し直すと効果的です。
 - (3) 報告者は、レポートに基づいて、事例分析、争点整理、問題の所在、判例の概要、学説の概要、自説と根拠を報告してください。
 - (4) 報告者が、報告に続くディスカッションでの検討をリードして議論を進めてください。
 - (5) 報告者は、ディスカッションでの検討をもとにしてレポートを再度作成して提出してください(報告1週間後)。再提出されたレポートを活動記録としてまとめます。
- * レポート等の提出や配布には、「学習支援システム UKK Moodle」を利用します。

履修上の注意 /Remarks

履修者の皆さんの積極的な参加と発言を期待しています。

少なくとも「刑法総論」および「刑法各論I・II」を履修していること(または履修中であること。)を求めます(「授業の概要」を参照してください。)。また、「刑法専門演習III」は、「刑法専門演習I・II・IV」と連続して展開することを予定しています。これらの科目もあわせて履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく、しかし、しっかりと学びましょう。

キーワード /Keywords

刑事法 刑法 犯罪論 刑罰論 刑法総論 刑法各論

刑法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 刑法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

「刑法理論の実践（2）」

刑法学の講義・演習において修得した知識と理解を基礎にして、刑法の重要判例を素材に刑法理論の実践的な適用を学びます。単なる知識の確認に留まることがないように、判例・学説の分析に基づいて事案を具体的かつ緻密に考察を進めていきます。自己の考察を説得的な文章で表現することを重視します。

※研究論文（ゼミ論文）の執筆は任意です。研究論文（ゼミ論文）の執筆を特に希望する者は科目担当者に相談してください。（到達目標）

【技能】刑法学上の問題を自ら発見し、分析・整理するための基本的な技能を習得している。

【思考・判断・表現力】身近な事象の中から刑法学に関する課題を発見することができる。

【コミュニケーション力】他の参加者との議論の中で、自分と反対の立場にたつて、自分の考えを批判的に検証する姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

初回の講義において、テキストや参考書について説明します。

①六法（2022年版・令和4年版）

『ポケット六法』（有斐閣）や『デイリー六法』（三省堂）、『法学六法』（信山社出版）といった「最新の」六法を必携してください（種類・出版社を問わない。）。

②刑法総論・刑法各論の基本書

著者を指定しません。各自の選択に委ねます。予習・復習、および自習のため、いずれかの基本書を必携してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

開講時に基本的な文献を紹介するほか、随時、必要と思われる文献を紹介します。

○井田良 / 大塚裕史 / 城下裕二 / 高橋直哉 『刑法演習サブノート210問』（弘文堂・2020.04）ISBN: 9784335358098、3,190円（税込）。

○井田良ほか 『法を学ぶ人のための文章作法』2版（有斐閣・2019.12）ISBN: 9784641126121、2,090円（税込）。

○佐伯仁志 / 橋爪隆（編） 『刑法判例百選I総論』8版（有斐閣・2020.11）ISBN: 9784641115507、2,530円（税込）。

○佐伯仁志 / 橋爪隆（編） 『刑法判例百選II各論』8版（有斐閣・2020.11）ISBN: 9784641115514、2,750円（税込）。

刑法専門演習Ⅳ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※諸事情により内容を変更し、進捗状況が前後することがあります。

- 1回 ガイダンス(方針の説明・報告の配分など)
- 2回 事例研究(1)
- 3回 事例研究(2)
- 4回 事例研究(3)
- 5回 事例研究(4)
- 6回 事例研究(5)
- 7回 事例研究(6)
- 8回 事例研究(7)
- 9回 事例研究(8)
- 10回 事例研究(9)
- 11回 事例研究(10)
- 12回 事例研究(11)
- 13回 事例研究(12)
- 14回 事例研究(13)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験を行いません。平常点を基礎に成績評価を行います。

提出されたレポート・レジュメ等(50%)、演習における報告内容(20%)、およびディスカッションにおける発言状況・内容(30%)により総合的に評価します(カッコ内は評価の全体に占める割合です。)

5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (1) 報告者は、担当したテーマ(課題)について学習してレポートを作成し、事前に提出・配布してください(報告1週間前)。
 - (2) 報告者以外の者は、摘要(summary)を作成して演習に参加してください。演習後は、ディスカッションでの検討を元に再度摘要を作成し直すと効果的です。
 - (3) 報告者は、レポートに基づいて、事例分析、争点整理、問題の所在、判例の概要、学説の概要、自説と根拠を報告してください。
 - (4) 報告者が、報告に続くディスカッションでの検討をリードして議論を進めてください。
 - (5) 報告者は、ディスカッションでの検討をもとにしてレポートを再度作成して提出してください(報告1週間後)。再提出されたレポートを活動記録としてまとめます。
- * レポート等の提出や配布には、「学習支援システム UKK Moodle」を利用します。

履修上の注意 /Remarks

履修者の皆さんの積極的な参加と発言を期待しています。

少なくとも「刑法総論」および「刑法各論Ⅰ・Ⅱ」を履修していること(または履修中であること。)を求めます(「授業の概要」を参照してください。)。また、「刑法専門演習Ⅳ」は、「刑法専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」と連続して展開することを予定しています。これらの科目もあわせて履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく、しかし、しっかりと学びましょう。

キーワード /Keywords

刑事法 刑法 犯罪論 刑罰論 刑法総論 刑法各論

刑事訴訟法専門演習Ⅰ【昼】

担当者名 水野 陽一 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 刑事訴訟法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑事訴訟法専門演習Ⅰ

SEM311M

授業の概要 /Course Description

受講生の関心に応じてテーマを決定する。刑事訴訟法に限らず、刑法、刑事政策といった、刑事法全般に関わるテーマについて考察する。体系的思考力・刑事法的思考力を身につけることを目的とする。未知の問題に対しても積極的に自ら考え、解答を導出していける力を身につけることを目指す。また、他大学とのゼミ交流会へ参加する場合がある。この他にも、刑務所等の施設見学を予定。

到達目標

技能：刑事法上の問題の解決を図るための基礎的な技法を身につけている。

思考・判断・表現力：刑事法上の思考に基づいた判断のプロセスや結論を、口頭や文書で論理的に表現することができる。

コミュニケーション力：他の参加者と議論をしながら、協働して刑事法上の問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に応じて適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講者の関心に応じて適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 受講生の希望を考慮して、授業形態、テーマの決定

第2回～15回 設定したテーマについて学生が主体となって報告、議論を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席状況、議論への参加状況を考慮して行う(100%)。

無断欠席を繰り返した場合、評価不能(－)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業準備として、報告担当者はレジュメ作成を行うこととなります。他の受講者についても、議論に参加するために報告テーマについて教科書等を用いて内容を把握するようにしてください。授業後には、各回の内容について各自復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

出席が前提となるので、疾病、就職試験等のやむを得ない場合を除き欠席はしないようにしてください。無断欠席は厳禁。欠席・遅刻の場合は必ず連絡を取ること。

報告の準備に時間が必要です。報告者以外にも予習が求められます。

ゼミで学んだ知識を前提としながら議論を発展させていくので、各回毎の復習が必要となります。

刑事訴訟法専門演習I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミナールは学生主体で運営していくものです。積極的な参加を希望します。

この授業はSDGsの「人や国の不平等をなくそう」、「平和と公平をすべての人に」、「働きがいも 経済成長も」、「産業と技術革新の基盤をつくろう」、「パートナーシップで目標を達成しよう」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

刑事訴訟法専門演習II 【昼】

担当者名 水野 陽一 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 刑事訴訟法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑事訴訟法専門演習 II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

受講生の関心に応じてテーマを決定する。刑事訴訟法に限らず、刑法、刑事政策といった、刑事法全般に関わるテーマについて考察する。体系的思考力・刑事法的思考力を身につけることを目的とする。未知の問題に対しても積極的に自ら考え、解答を導出していける力を身につけることを目指す。また、他大学とのゼミ交流会へ参加する場合がある。この他にも、刑務所等の施設見学を予定。

到達目標

技能：刑事法上の問題の解決を図るための基礎的な技法を身につけている。

思考・判断・表現力：刑事法学的思考に基づいた判断のプロセスや結論を、口頭や文書で論理的に表現することができる。

コミュニケーション力：他の参加者と議論をしながら、協働して刑事法上の問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に応じて適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講者の関心に応じて適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 受講生の希望を考慮して、授業形態、テーマの決定

第2回～15回 設定したテーマについて学生が主体となって報告、議論を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席状況、議論への参加状況を考慮して行う(100%)。

無断欠席を繰り返した場合、評価不能(－)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業準備として、報告担当者はレジュメ作成を行うこととなります。他の受講者についても、議論に参加するために報告テーマについて教科書等を用いて内容を把握するようにしてください。授業後には、各回の内容について各自復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

出席が前提となるので、疾病、就職試験等のやむを得ない場合を除き欠席はしないようにしてください。無断欠席は厳禁。欠席・遅刻の場合は必ず連絡を取ること。

報告の準備に時間が必要です。報告者以外にも予習が求められます。

ゼミで学んだ知識を前提としながら議論を発展させていくので、各回毎の復習が必要となります。

刑事訴訟法専門演習II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミナールは学生主体で運営していくものです。積極的な参加を希望します。

この授業はSDGsの「人や国の不平等をなくそう」、「平和と公平をすべての人に」、「働きがいも 経済成長も」、「産業と技術革新の基盤をつくろう」、「パートナーシップで目標を達成しよう」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

刑事訴訟法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 水野 陽一 / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 刑事訴訟法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑事訴訟法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

受講生の関心に応じてテーマを決定する。刑事訴訟法に限らず、刑法、刑事政策といった、刑事法全般に関わるテーマについて考察する。体系的思考力・刑事法的思考力を身につけることを目的とする。未知の問題に対しても積極的に自ら考え、解答を導出していける力を身につけることを目指す。また、他大学とのゼミ交流会へ参加する場合があります。この他にも、刑務所等の施設見学を予定。

到達目標

技能：刑事法上の問題の解決を図るための基礎的な技法を身につけている。
思考・判断・表現力：刑事法上の思考に基づいた判断のプロセスや結論を、口頭や文書で論理的に表現することができる。
コミュニケーション力：他の参加者と議論をしながら、協働して刑事法上の問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

関心に応じて適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

関心に応じて適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回~15回 関心に応じたテーマについて報告、議論。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度、報告の内容での総合点(授業態度50%、報告の内容の評価50%)で総合評価する。
無断欠席を繰り返した場合、評価不能(－)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業準備として、報告担当者はレジュメ作成を行うこととなります。他の受講者についても、議論に参加するために報告テーマについて教科書等を用いて内容を把握するようにしてください。授業後には、各回の内容について各自復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

報告の準備に時間が必要です。報告者以外にも予習が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミは学生主体で行うものです。積極的な参加が求められます。

この授業はSDGsの「人や国の不平等をなくそう」、「平和と公平をすべての人に」、「働きがいも経済成長も」、「産業と技術革新の基盤をつくろう」、「パートナーシップで目標を達成しよう」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

刑事訴訟法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 水野 陽一 / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 刑事訴訟法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑事訴訟法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

受講生の関心に応じてテーマを決定する。刑事訴訟法に限らず、刑法、刑事政策といった、刑事法全般に関わるテーマについて考察する。体系的思考力・刑事法的思考力を身につけることを目的とする。未知の問題に対しても積極的に自ら考え、解答を導出していける力を身につけることを目指す。また、他大学とのゼミ交流会へ参加する場合があります。この他にも、刑務所等の施設見学を予定。

到達目標

技能：刑事法上の問題の解決を図るための基礎的な技法を身につけている。
思考・判断・表現力：刑事法上の思考に基づいた判断のプロセスや結論を、口頭や文書で論理的に表現することができる。
コミュニケーション力：他の参加者と議論をしながら、協働して刑事法上の問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

関心に応じて適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

関心に応じて適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回~15回 関心に応じたテーマについて報告、議論。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度、報告の内容での総合点(授業態度50%、報告の内容の評価50%)で総合評価する。
無断欠席を繰り返した場合、評価不能(一)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業準備として、報告担当者はレジュメ作成を行うこととなります。他の受講者についても、議論に参加するために報告テーマについて教科書等を用いて内容を把握するようにしてください。授業後には、各回の内容について各自復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

報告の準備に時間が必要です。報告者以外にも予習が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミは学生主体で行うものです。積極的な参加が求められます。

この授業はSDGsの「人や国の不平等をなくそう」、「平和と公平をすべての人に」、「働きがいも経済成長も」、「産業と技術革新の基盤をつくろう」、「パートナーシップで目標を達成しよう」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

刑事学専門演習I【昼】

担当者名 藤田 尚 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	刑事学に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑事学専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

本演習は、犯罪学及び刑事政策の分野において、受講生自身がテーマを選定し、報告することにより、法的な問題解決能力を身に付けることを目的とする。演習内容としては、個別報告を中心に、受講生全員で報告内容をディスカッションしながら進めていく。また、希望があれば、刑務所参観等を実施する。

(到達目標)

【技能】 刑事学上の問題を解決するために必要となる情報を自ら収集・分析・整理することができる。

【思考・判断・表現力】 刑事学に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。

【コミュニケーション力】 他の参加者と議論をしながら、協働して刑事学上の問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし。

必要に応じて、レジュメ及び資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 川出敏裕 = 金光旭共著『刑事政策(第2版)』成文堂(2018年)。
- 藤本哲也『刑事政策概論(第7版)』青林書院(2015年)。
- 藤本哲也『よくわかる刑事政策』ミネルヴァ書房(2011年)。
- 藤本哲也『犯罪学原論』日本加除出版(2003年)。
- 守山正 = 安部哲夫共著『ビギナーズ刑事政策(第3版)』成文堂(2017年)。
- 守山正 = 小林寿一共著『ビギナーズ犯罪学(第2版)』成文堂(2020年)。
- 瀬川晃『犯罪学』成文堂(1998年)。
- 大谷實『刑事政策講義(新版)』弘文堂(2009年)。
- 法務省法務総合研究所編『令和3年版 犯罪白書』日経印刷株式会社(2022年)。
- 国家公安委員会・警察庁『令和3年版 警察白書』日経印刷株式会社(2021年)。

刑事学専門演習I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 テーマの設定
- 第3回 テーマの発表
- 第4回 個別報告(1)
- 第5回 個別報告(2)
- 第6回 個別報告(3)
- 第7回 個別報告(4)
- 第8回 個別報告(5)
- 第9回 個別報告(6)
- 第10回 個別報告(7)
- 第11回 個別報告(8)
- 第12回 個別報告(9)
- 第13回 個別報告(10)
- 第14回 個別報告(11)
- 第15回 まとめ

* 受講人数によっては、内容を変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度70%、レポート30%の総合評価とする。
ただし、3分の1以上欠席した場合は、評価不能(一)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】各回のテーマに関する文献に目を通すこと。

【事後学習】授業で取り上げた内容に関して、わからない用語等があれば教科書等で調べ、知識の定着を図ること。

履修上の注意 /Remarks

この授業は、犯罪を減少させるための政策や福祉との連携等を考えることから、SDGsの「16: 平和と公平をすべての人に」及び「3: すべての人に健康と福祉を」の目標に関連しています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習は、講義とは異なり、自分で課題を見つけ、解決策を見出す場です。
問題意識を持ち、積極的に授業へ参加しましょう。

キーワード /Keywords

刑事法、犯罪学、刑事政策

刑事学専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 藤田 尚 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 刑事学に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑事学専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

本演習の目的は、「刑事学専門演習Ⅰ」で学んだ法的思考や問題解決能力をさらに発展させることに主眼を置いている。そのため、「刑事学専門演習Ⅰ」と併せて受講することが望ましい。授業の進め方に関しては、個別報告を基に受講生全員でディスカッションを行う。また、希望があれば、刑務所参観等を実施する。

(到達目標)

【技能】刑事学上の問題を解決するために必要となる情報を自ら収集・分析・整理することができる。

【思考・判断・表現力】刑事学に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。

【コミュニケーション力】他の参加者と議論をしながら、協働して刑事学上の問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし。

必要に応じて、レジュメ及び資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 川出敏裕＝金光旭共著『刑事政策（第2版）』成文堂（2018年）。
- 藤本哲也『刑事政策概論（第7版）』青林書院（2015年）。
- 藤本哲也『よくわかる刑事政策』ミネルヴァ書房（2011年）。
- 藤本哲也『犯罪学原論』日本加除出版（2003年）。
- 守山正＝安部哲夫共著『ビギナーズ刑事政策（第3版）』成文堂（2017年）。
- 守山正＝小林寿一共著『ビギナーズ犯罪学（第2版）』成文堂（2020年）。
- 瀬川晃『犯罪学』成文堂（1998年）。
- 大谷實『刑事政策講義（新版）』弘文堂（2009年）。
- 法務省法務総合研究所編『令和3年版 犯罪白書』日経印刷株式会社（2022年）。
- 国家公安委員会・警察庁『令和3年版 警察白書』日経印刷株式会社（2021年）。

刑事学専門演習II【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 テーマの選定
- 第3回 テーマの発表
- 第4回 個別報告(1)
- 第5回 個別報告(2)
- 第6回 個別報告(3)
- 第7回 個別報告(4)
- 第8回 個別報告(5)
- 第9回 個別報告(6)
- 第10回 個別報告(7)
- 第11回 個別報告(8)
- 第12回 個別報告(9)
- 第13回 個別報告(10)
- 第14回 個別報告(11)
- 第15回 まとめ

* 受講人数によっては、内容を変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度70%、レポート30%の総合評価とする。
ただし、3分の1以上欠席した場合は、評価不能(一)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】各回のテーマに関する文献に目を通すこと。

【事後学習】授業で取り上げた内容に関して、わからない用語等があれば教科書等で調べ、知識の定着を図ること。

履修上の注意 /Remarks

この授業は、犯罪を減少させるための政策や福祉との連携等を考えることから、SDGsの「16:平和と公平をすべての人に」及び「3:すべての人に健康と福祉を」の目標に関連しています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「刑事学専門演習I」で学んだ内容をさらに深められるような授業にしましょう。

キーワード /Keywords

刑事法、犯罪学、刑事政策

刑事学専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 藤田 尚 / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 労働法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

労働法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

本演習は、個別報告を通して、法的思考や問題解決能力を身に付け、受講生全員で討論を行うことにより、社会に出た際に必要となるプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を養うことを目的とする。

個別報告に関しては、犯罪学のテーマを選択する場合には、理論を基に考察を行い、刑事政策のテーマを選択する場合には、犯罪の原因を究明し、それに対する対策を考える必要がある。犯罪学や刑事政策の知識を前提に進めるため、事前に犯罪学や刑事司法政策の授業を受講することが望ましい。

希望があれば、刑務所参観等を実施する。

(到達目標)

【技能】 刑事学上の問題を自ら発見し、問題解決を図るための基礎的な技法を身につけている。

【思考・判断・表現】 刑事学的思考に基づいた判断のプロセスや結論を口頭や文書で論理的に表現することができる。

【コミュニケーション力】 他の参加者と議論をしながら、協働して刑事学上の問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている

教科書 /Textbooks

なし。

必要に応じて、レジュメ及び資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 川出敏裕 = 金光旭共著『刑事政策(第2版)』成文堂(2018年)。
- 藤本哲也『刑事政策概論(第7版)』青林書院(2015年)。
- 藤本哲也『よくわかる刑事政策』ミネルヴァ書房(2011年)。
- 藤本哲也『犯罪学原論』日本加除出版(2003年)。
- 守山正 = 安部哲夫共著『ピギナーズ刑事政策(第3版)』成文堂(2017年)。
- 守山正 = 小林寿一共著『ピギナーズ犯罪学(第2版)』成文堂(2020年)。
- 瀬川晃『犯罪学』成文堂(1998年)。
- 大谷實『刑事政策講義(新版)』弘文堂(2009年)。
- 法務省法務総合研究所編『令和3年版 犯罪白書』日経印刷株式会社(2022年)。
- 国家公安委員会・警察庁『令和3年版 警察白書』日経印刷株式会社(2021年)。

刑事学専門演習Ⅲ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 テーマの設定
- 第3回 テーマの発表
- 第4回 個別報告(1)
- 第5回 個別報告(2)
- 第6回 個別報告(3)
- 第7回 個別報告(4)
- 第8回 個別報告(5)
- 第9回 個別報告(6)
- 第10回 個別報告(7)
- 第11回 個別報告(8)
- 第12回 個別報告(9)
- 第13回 個別報告(10)
- 第14回 個別報告(11)
- 第15回 まとめ

* 受講人数によっては、内容を変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度70%、レポート30%の総合評価とする。
ただし、3分の1以上欠席した場合は、評価不能(一)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】各回のテーマに関する文献に目を通すこと。

【事後学習】授業で取り上げた内容に関して、わからない用語等があれば教科書等で調べ、知識の定着を図ること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、犯罪を減少させるための政策や福祉との連携等を考えることから、SDGsの「16: 平和と公平をすべての人に」及び「3: すべての人に健康と福祉を」の目標に関連しています。

すでにゼミのいろはは心得ていると思いますので、最後に研究というものに従事してから卒業しましょう。

キーワード /Keywords

刑事法、犯罪学、刑事政策

刑事学専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 藤田 尚 / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 労働法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

労働法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

本演習は、「刑事学専門演習Ⅲ」と同様、個別報告を通して、法的思考や問題解決能力を身に付け、受講生全員で討論を行うことにより、社会に出た際に必要となるプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を養うことを目的とする。したがって、「刑事学専門演習Ⅲ」と併せて受講することが望ましい。

希望があれば、刑務所参観等を実施する。

(到達目標)

【技能】 刑事学上の問題を自ら発見し、問題解決を図るための基礎的な技法を身につけている。

【思考・判断・表現】 刑事学的思考に基づいた判断のプロセスや結論を口頭や文書で論理的に表現することができる。

【コミュニケーション力】 他の参加者と議論をしながら、協働して刑事学上の問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている

教科書 /Textbooks

なし。

必要に応じて、レジュメ及び資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 川出敏裕＝金光旭共著『刑事政策（第2版）』成文堂（2018年）。
- 藤本哲也『刑事政策概論（第7版）』青林書院（2015年）。
- 藤本哲也『よくわかる刑事政策』ミネルヴァ書房（2011年）。
- 藤本哲也『犯罪学原論』日本加除出版（2003年）。
- 守山正＝安部哲夫共著『ビギナーズ刑事政策（第3版）』成文堂（2017年）。
- 守山正＝小林寿一共著『ビギナーズ犯罪学（第2版）』成文堂（2020年）。
- 瀬川晃『犯罪学』成文堂（1998年）。
- 大谷實『刑事政策講義（新版）』弘文堂（2009年）。
- 法務省法務総合研究所編『令和3年版 犯罪白書』日経印刷株式会社（2022年）。
- 国家公安委員会・警察庁『令和3年版 警察白書』日経印刷株式会社（2021年）。

刑事学専門演習Ⅳ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 テーマの設定
- 第3回 テーマの発表
- 第4回 個別報告(1)
- 第5回 個別報告(2)
- 第6回 個別報告(3)
- 第7回 個別報告(4)
- 第8回 個別報告(5)
- 第9回 個別報告(6)
- 第10回 個別報告(7)
- 第11回 個別報告(8)
- 第12回 個別報告(9)
- 第13回 個別報告(10)
- 第14回 個別報告(11)
- 第15回 まとめ

* 受講人数によっては、内容を変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度70%、レポート30%の総合評価とする。
ただし、3分の1以上欠席した場合は、評価不能(一)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】各回のテーマに関する文献に目を通すこと。

【事後学習】授業で取り上げた内容に関して、わからない用語等があれば教科書等で調べ、知識の定着を図ること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、犯罪を減少させるための政策や福祉との連携等を考えることから、SDGsの「16: 平和と公平をすべての人に」及び「3: すべての人に健康と福祉を」の目標に関連しています。

社会に出る最後の場として、自由に研究するもよし、生涯の友を見つけるもよし。最後に楽しみながら勉学に勤めましょう。

キーワード /Keywords

刑事法、犯罪学、刑事政策

社会保障法専門演習Ⅰ【昼】

担当者名 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 社会保障法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会保障法専門演習Ⅰ

SEM311M

授業の概要 /Course Description

社会保障法判例研究（又は基本文献講読）を中心に行う。
実際の判決文を一つ一つ丁寧に読み進めることを通じて、講義では触れられない詳細な法理論を身につける訓練をする。
また、判例研究以外にも、受講者の希望によって、一定のテーマに特化した報告という形態も考えられる。

（到達目標）

【技能】社会保障法学上の問題点を抽出し、問題解決に必要な情報を自ら収集・分析・整理することが「できる」

【思考・判断・表現力】社会保障法学に関する課題に対し、法的思考に基づいた判断を行うことが「できる」

【コミュニケーション力】他の参加者と議論をしながら、協働して社会保障法学における諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけていく

教科書 /Textbooks

特に使用しない。必要に応じて適宜資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

取り上げる判例や報告順序等については、受講者と相談の上決定する。

基本的に2回の演習で1つの判例・テーマを取り上げ、グループによる報告・検討を基礎に、全員で討論を行う。これを通じて、当該問題・課題に対する自らの見解をまとめあげる。

第1回 オリエンテーション

第2回・第3回 第1報告・討論・意見交換

第4回・第5回 第2報告・討論・意見交換

第6回・第7回 第3報告・討論・意見交換

第8回 中間相互評価会

第9回・第10回 第4報告・討論・意見交換

第11回・第12回 第5報告・討論・意見交換

第13回・第14回 第6報告・討論・意見交換

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席状況、報告内容、討論への参加等、総合的に勘案して評価する。

ゼミへの参加・・・100%

* 無断欠席は、即ゼミ放棄とみなします。また、理由はどうかあれ、出席率が2/3に満たない場合、単位認定しません。いずれも場合も、成績評価は「Z」とします。

社会保障法専門演習I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (事前学習) 次回取り上げる題材に目を通し、疑問点を抽出する。
- (事後学習) 学習した内容を振り返り、課題に取り組むことを通じて知識を定着させる。

履修上の注意 /Remarks

2学期に開講する「社会保障法専門演習II」も併せて受講すること。
「社会法総論」「社会サービス法」「所得保障法」の講義を受講していると、関心も深まりやすく、多くの視点から分析できるようになる。
各回のテーマ理解に必要な基本的事項は、予習・復習により理解の定着を図り、その他の授業外学習に積極的に取り組むことが重要。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この演習は、SDGs 1 (貧困をなくそう)、3 (すべての人に健康と福祉を)、10 (人や国の不平等をなくそう) 及び16 (平和と公平をすべての人に) の目標と関連しています。

キーワード /Keywords

社会保障法専門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 社会保障法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会保障法専門演習 II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

1学期に社会保障法専門演習Iを受講した者を対象とし、引き続き社会保障法判例研究（又は基本文献講読）を中心に行う。

（到達目標）

【技能】社会保障法上の問題点を抽出し、問題解決に必要な情報を自ら収集・分析・整理することが出来る

【思考・判断・表現力】社会保障法に関する課題に対し、法的思考に基づいた判断を行うことが出来る

【コミュニケーション力】他の参加者と議論をしながら、協働して社会保障法における諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけてい

教科書 /Textbooks

特に使用しない。必要に応じて適宜レジュメ・資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

取り上げる判例や報告順序等については、受講者と相談の上決定する。

第1回 オリエンテーション

第2回・第3回 第1報告・討論・意見交換

第4回・第5回 第2報告・討論・意見交換

第6回・第7回 第3報告・討論・意見交換

第8回 中間相互評価会

第9回・第10回 第4報告・討論・意見交換

第11回・第12回 第5報告・討論・意見交換

第13回・第14回 第6報告・討論・意見交換

第15回 今年度全体の総まとめと来年度の課題設定

成績評価の方法 /Assessment Method

出席状況、報告内容、議論への参加等を総合的に勘案して評価する。

ゼミへの参加状況・・・100%

* 無断欠席は、即ゼミ放棄とみなします。また、理由はどうかあれ、出席率が2/3に満たない場合、単位認定しません。いずれも場合も、成績評価は「Z」とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

（事前学習）次回取り上げる題材に目を通し、疑問点を抽出する。

（事後学習）学習した内容を振り返り、課題に取り組むことを通じて知識を定着させる。

社会保障法専門演習II 【昼】

履修上の注意 /Remarks

1学期に開講する「社会保障法専門演習I」も併せて受講すること。
「社会法総論」「社会サービス法」「所得保障法」の講義を受講していると、関心も深まりやすく、多くの視点から分析できるようになります。
各回のテーマ理解に必要な基礎的事項については、予習・復習により定着を図り、その他の授業外学習に積極的に取り組むことが重要。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この演習は、SDGs 1 (貧困をなくそう)、3 (すべての人に健康と福祉を)、10 (人や国の不平等をなくそう) 及び16 (平和と公平をすべての人に) の目標と関連しています。

キーワード /Keywords

社会保障法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 社会保障法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会保障法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

主として「社会保障法専門演習Ⅰ・Ⅱ」を昨年度以前に受講済みの者を対象とし、社会保障法分野において、自らの関心のある特定のテーマを設定し、それについての判例及び学術論文を輪読・討論する。
最終的には、2学期終了時に一定のゼミ論文を作成・提出してもらう。そのための指導の一環として位置付けているので、その点を考慮した上、受講すること。

(到達目標)

【技能】 社会保障法を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている

【思考・判断・表現力】 社会保障法における課題に対する法的判断について、口頭や文章で「論理的に表現することが」できる

【コミュニケーション力】 他の参加者と議論をしながら、協働して社会保障法学における諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけてい

教科書 /Textbooks

特に使用しない。各人の研究テーマに応じて、適宜資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は受講者と相談の上決定する。

第1回 各自の問題関心の具体化

第2回～第3回 それぞれの問題関心に沿った学術文献を探す

第4回～第14回 各自持ち寄った文献を参加者全員で輪読し討論する。

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席状況、報告内容、議論への参加等を総合的に勘案して評価する。

ゼミへの参加状況・・・100%

*ゼミへの出席が無い、提出物を提出しないなど、ゼミ論への取り組み状況を確認することができない場合は、成績評価は「Z」とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

(事前学習) 次回取り上げる題材に目を通し、疑問点を抽出する。

(事後学習) 学習した内容を振り返り、課題に取り組むことを通じて知識を定着させ、自身の論文に活かす。

履修上の注意 /Remarks

時間帯等については、受講者と相談の上決定する。

各自が問題関心をしっかり持ち、論文執筆に向け努力を怠らないことが重要。

そのため、講義等を通じて指摘された事項について、各自予習・復習を行うとともに、自発的な授業外学習に積極的に取り組むことが重要。

社会保障法専門演習III 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この演習は、SDGs 1 (貧困をなくそう)、3 (すべての人に健康と福祉を)、10 (人や国の不平等をなくそう) 及び16 (平和と公平をすべての人に) の目標と関連しています。

キーワード /Keywords

社会保障法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 社会保障法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会保障法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

津田の担当する「社会保障法専門演習Ⅲ」を受講済みの者を対象とし、1学期に引き続き、自らの関心のある特定のテーマについて、ゼミ論文を作成・提出するための指導を行う。

(到達目標)

【技能】 社会保障法を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている

【思考・判断・表現力】 社会保障法における課題に対する法的判断について、口頭や文章で論理的に表現することができる

【コミュニケーション力】 他の参加者と議論をしながら、協働して社会保障法学における諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている

教科書 /Textbooks

特に使用しない。各人の研究テーマに応じて適宜資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

詳細は受講生と相談の上決定する。

第1回 1学期および夏季休業期間中の総括

第2回～第14回 各受講者の論文指導

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

出席状況、報告内容、議論への参加等を総合的に勘案して評価する。

ゼミへの参加状況・・・100%

*ゼミへの出席が無い、提出物を提出しないなど、ゼミ論への取り組み状況を確認することができない場合、成績評価は「Z」とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

(事前学習) 自身の論文に向き合い、疑問点・課題を抽出する。

(事後学習) 学習した内容を振り返り、課題に取り組むことを通じて知識を定着させ、論文に反映させる。

履修上の注意 /Remarks

時間帯等については、受講生と相談の上決定する。

ゼミ論執筆のため、各自予習・復習を怠らず、講義等を通じて指摘された事項についての授業外学習に積極的に取り組むことが重要。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この演習は、SDGs 1 (貧困をなくそう)、3 (すべての人に健康と福祉を)、10 (人や国の不平等をなくそう) 及び16 (平和と公平をすべての人に) の目標と関連しています。

社会保障法専門演習Ⅳ【昼】

キーワード /Keywords

労働法専門演習I 【昼】

担当者名 岡本 舞子 / OKAMOTO MAIKO / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 労働法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

労働法専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

本演習の目的は、労働法に関する判例を読みながら、労働法の基礎的知識からやや専門的な知識までを学び、労働問題に対する一定の法的判断を行う能力を身につけることにあります。

ゼミでは、受講生に判決の内容を報告してもらい、議論します。判例研究のやり方、作法、楽しみを学びながら、労働法の基礎知識の定着を目指します。また、近時の重要判決を読むことで、最近の労働問題の傾向も見たいと思います。

(到達目標)

【技能】労働法学上の問題点を抽出し、問題解決に必要な情報を自ら収集・分析・整理することができる

【思考・判断・表現力】労働法学に関する課題に対し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

【コミュニケーション力】他の参加者と議論をしながら、協働して労働法学における諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている

教科書 /Textbooks

特に指定しません。必要に応じて、レジュメ・資料等を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○野田進＝山下昇＝柳澤武編『判例労働法入門（第7版）』（有斐閣・2021年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

具体的なスケジュールや実施方法は、受講生の人数・関心を考慮し、開講後に決定します。

- 第1回 オリエンテーション、判例・文献の調べ方
- 第2回 判例研究の方法、文献の引用方法
- 第3回 シネマで法学
- 第4回 シネマで法学（ディスカッション）、判例報告の準備
- 第5回 判例報告①
- 第6回 判例報告②
- 第7回 判例報告③
- 第8回 判例報告④
- 第9回 判例報告⑤
- 第10回 判例報告⑥
- 第11回 判例報告⑦
- 第12回 判例報告⑧
- 第13回 判例報告⑨
- 第14回 判例報告⑩
- 第15回 判例報告⑪

労働法専門演習I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

発言を通じた授業への参加度合い50%、報告・レポートの内容50%
5回以上欠席した場合は、原則として、評価不能(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：報告者は、担当する判例について講義するつもりで、しっかり準備してください。報告者でない受講生にも、毎回、自身の考えや意見を提示していただきます。

事後学習：学習した内容を振り返り、自身の関心に基づいて、さらに文献等を調べ、理解を深めることが重要です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、SDGsの「1. 貧困をなくそう」「3. すべての人に健康と福祉を」「5. ジェンダー平等を実現しよう」「8. 働きがいも経済成長も」「10. 人や国の不平等をなくそう」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

労働法専門演習II【昼】

担当者名 岡本 舞子 / OKAMOTO MAIKO / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 労働法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

労働法専門演習II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

本演習の目的は、労働法に関する判例を読みながら、労働法の基礎的知識からやや専門的な知識までを学び、労働問題に対する一定の法的判断を行う能力を身につけることにあります。

各人が関心のあるテーマを選択し、それに関する判例の検討を中心としつつ、ときには統計データの考察や外国法との比較なども行いながら、日本の現状を分析し、検討してもらいます。

(到達目標)

【技能】労働法学上の問題点を抽出し、問題解決に必要な情報を自ら収集・分析・整理することができる

【思考・判断・表現力】労働法学に関する課題に対し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

【コミュニケーション力】他の参加者と議論をしながら、協働して労働法学における諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている

教科書 /Textbooks

特に指定しません。必要に応じて、レジュメ・資料等を配布します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○野田進＝山下昇＝柳澤武編『判例労働法入門（第7版）』（有斐閣・2021年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

具体的なスケジュールや実施方法は、受講生の人数・関心を考慮し、開講後に決定します。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文献講読とディスカッション
- 第3回 文献講読とディスカッション
- 第4回 文献講読とディスカッション
- 第5回 判例報告①
- 第6回 判例報告②
- 第7回 判例報告③
- 第8回 判例報告④
- 第9回 判例報告⑤
- 第10回 判例報告⑥
- 第11回 判例報告⑦
- 第12回 判例報告⑧
- 第13回 判例報告⑨
- 第14回 判例報告⑩
- 第15回 判例報告⑪

成績評価の方法 /Assessment Method

発言を通じた授業への参加度合い50%、報告・レポートの内容50%
5回以上欠席した場合は、原則として、評価不能(－)とします。

労働法専門演習II【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：報告者は、担当判例について講義するつもりで、しっかり準備してください。報告者でない受講生にも、毎回、自身の考えや意見を提示していただきます。

事後学習：学習した内容を振り返り、自身の関心に基づいて、さらに文献等を調べ、理解を深めることが重要です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、SDGsの「1. 貧困をなくそう」「3. すべての人に健康と福祉を」「5. ジェンダー平等を実現しよう」「8. 働きがいも経済成長も」「10. 人や国の不平等をなくそう」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

労働法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 岡本 舞子 / OKAMOTO MAIKO / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 4年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 労働法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
 所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

労働法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

本演習の目的は、労働問題の中から各人が関心に応じて選択したテーマについて、一定の成果物（ゼミ論文）を完成させることです。
 たとえば、治療と労働の両立、育児・介護と仕事の両立、固定残業代、長時間労働、正社員と非正社員との処遇格差といった労働法における現代的課題について、各自が判例の検討、文献の調査・分析、統計データの分析、外国法との比較などを行い、報告し、議論するという形で、演習を進めます。

（到達目標）

【技能】労働法を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている

【思考・判断・表現力】労働法における課題に対する法的判断について、口頭や文章で論理的に表現することができる

【コミュニケーション力】他の参加者と議論をしながら、協働して労働法学における諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている

教科書 /Textbooks

特に指定しません。必要に応じて、レジュメ・資料等を配布します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○野田進＝山下昇＝柳澤武編『判例労働法入門（第7版）』（有斐閣・2021年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

具体的なスケジュールや実施方法は、受講生の人数・関心を考慮し、開講後に決定します。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 論文構想報告
- 第3回 論文構想報告
- 第4回 論文進捗報告①
- 第5回 論文進捗報告②
- 第6回 論文進捗報告③
- 第7回 論文進捗報告④
- 第8回 論文進捗報告⑤
- 第9回 論文進捗報告⑥
- 第10回 論文進捗報告⑦
- 第11回 論文進捗報告⑧
- 第12回 論文進捗報告⑨
- 第13回 論文進捗報告⑩
- 第14回 論文進捗報告⑪
- 第15回 論文進捗報告⑫

成績評価の方法 /Assessment Method

発言を通じた授業への参加度合い50%、報告・レポートの内容50%
 論文進捗報告をしなかった場合、評価不能（－）とします。

労働法専門演習Ⅲ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：報告者は、担当テーマについて講義するつもりで、しっかり準備してください。報告者でない受講生にも、毎回、自身の考えや意見を提示していただきます。

事後学習：学習した内容を振り返り、自身の関心に基づいて、さらに文献等を調べ、理解を深めることが重要です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、SDGsの「1. 貧困をなくそう」「3. すべての人に健康と福祉を」「5. ジェンダー平等を実現しよう」「8. 働きがいも経済成長も」「10. 人や国の不平等をなくそう」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

労働法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 岡本 舞子 / OKAMOTO MAIKO / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 労働法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

労働法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

本演習の目的は、労働問題の中から各人が関心に応じて選択したテーマについて、一定の成果物（ゼミ論文）を完成させることです。
たとえば、治療と労働の両立、育児・介護と仕事の両立、固定残業代、長時間労働、正社員と非正社員との処遇格差といった労働法における現代的課題について、各自が判例の検討、文献の調査・分析、統計データの分析、外国法との比較などを行い、報告し、議論するという形で、演習を進めます。

（到達目標）

【技能】労働法を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている

【思考・判断・表現力】労働法における課題に対する法的判断について、口頭や文章で論理的に表現することができる

【コミュニケーション力】他の参加者と議論をしながら、協働して労働法学における諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている

教科書 /Textbooks

特に指定しません。必要に応じて、レジュメ・資料等を配布します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○野田進＝山下昇＝柳澤武編『判例労働法入門（第7版）』（有斐閣・2021年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

具体的なスケジュールや実施方法は、受講生の人数・関心を考慮し、開講後に決定します。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 個別報告
- 第3回 論文進捗報告①
- 第4回 論文進捗報告②
- 第5回 論文進捗報告③
- 第6回 論文進捗報告④
- 第7回 論文進捗報告⑤
- 第8回 論文進捗報告⑥
- 第9回 論文進捗報告⑦
- 第10回 論文進捗報告⑧
- 第11回 論文進捗報告⑨
- 第12回 論文進捗報告⑩
- 第13回 論文進捗報告⑪
- 第14回 論文進捗報告⑫
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発言を通じた授業への参加度合い50%、報告・レポートの内容50%
ゼミ論文を提出しなかった場合、評価不能（－）とします。

労働法専門演習Ⅳ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：報告者は、担当テーマについて講義するつもりで、しっかり準備してください。報告者でない受講生にも、毎回、自身の考えや意見を提示していただきます。

事後学習：学習した内容を振り返り、自身の関心に基づいて、さらに文献等を調べ、理解を深めることが重要です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、SDGsの「1. 貧困をなくそう」「3. すべての人に健康と福祉を」「5. ジェンダー平等を実現しよう」「8. 働きがいも経済成長も」「10. 人や国の不平等をなくそう」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

国際法専門演習I 【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	国際法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

本クラスでは、いわゆる「国際問題」に関連する「事例」や「判例（国内判例も含む）」等の研究を通じ、国際社会を規律する主要な法体系としての「国際法」が、規範の面で、またそれを担保するシステムの面で、どのような現状に置かれているのか、また、国際政治や国際経済などどのようにかかわってきているのか、その理解をより一層深めていくことを目的とします。また社会人基礎力として必要とされる諸能力の涵養を目指します。

到達目標は、

- 【技能】国際法上の問題の解決に必要な情報を自ら収集・分析・整理するための基礎的な技法を身につけている
- 【思考・判断・表現力】国際法に関する課題に対し、法的思考に基づいた判断を行うことができる
- 【コミュニケーション力】他の参加者と議論をしながら、協働して国際法における諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけているとなります。

具体的には、

- 知識や情報を集めて自分の考えを導き出すことができる、
- チームを組んで特定の課題に誠実に取り組むことができる、
- ディベートやディスカッション、プレゼンテーションを通じ、相手の意見や質問をきちんと踏まえた上で、自分の意見をわかりやすく述べるることができる、
- 問題の処理にあたって、理論に加えて、実社会とのつながりを意識することができる
- 責任感を身につける、とします。

教科書 /Textbooks

位田隆一ほか編『コンサイス条約集（第2版）』（三省堂、2015年） 1500円+税
必要な参考資料等は、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、必要に応じ、適宜、指示する予定です。

国際法専門演習I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 顔合わせ，キャリア形成と演習，コースガイダンス，係決め等
 第2回 ゼミ生の主張「将来の私と2021年度の目標・行動計画」（各自4分），演習としての年間活動計画の策定
 第3回 リサーチの仕方（Web情報を中心に）

■【テーマ（グループで自由選定）】に関する概要調査書面及び文献リスト作成（両資料配布）と報告（PPT利用）

- 第4回 グループ作業①：調査の進め方・役割分担の確認，テーマリサーチ
 第5回 グループ作業②：調査結果の持ち寄りとグループでの調整，プレゼン資料の作成
 第6回 プレゼンテーション①（報告と質疑応対）（各グループ30分）
 第7回 プレゼンテーション②（報告と質疑応対）（各グループ30分）

■【日本における「男女共同参画」の現状と課題】についての調査研究と報告（PPT利用，資料配布）

- 第8回 グループ作業①：調査の進め方・役割分担の確認，テーマリサーチ
 第9回 グループ作業②：各自での調査結果の持ち寄りとグループでの調整
 第10回 グループ作業③：主張等の整理とプレゼン資料の作成
 第11回 プレゼンテーション①（報告と質疑応対）（グループ60分，パワーポイント使用） Group A/B
 第12回 プレゼンテーション②（報告と質疑応対）（グループ60分，パワーポイント使用） Group A/B
 第13回 グループディスカッション①
 第14回 グループディスカッション②

■ 夏休みの課題

- 第15回 まとめ，4年次の研究テーマについて考える

* 受講者数などを考慮し、受講者の同意を得て、授業計画や内容を変更する場合がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には、出席状況、報告・課題などへの取り組み状況、授業態度、貢献度（積極的な発言など）を基準として評価することになります。

- ゼミへの参加...100%
- 課題①への取り組み...40%
- 課題②への取り組み...40%
- 授業への貢献...20%

3回以上欠席した場合には、評価不能（－）とします。なお2回まで欠席することを認めているわけではありませんのでご注意ください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。
 また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

履修上の注意 /Remarks

実際の指導は選抜時より始まります。予習、復習やサブゼミなど、正規の授業時間外にも真摯に取り組むことが要求されるゼミです。受講申請にあたってはこの点に注意してください。
 国際法専門演習IIとセットで受講してください。
 4年次にゼミ論文作成のための研究指導の受講を希望する学生を優先します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の夢の実現に向かってがんばってください。

キーワード /Keywords

【事例 / 判例研究を通じた国際法の基本的運用力の涵養】 【社会人基礎力の涵養】 【SDGs_Goal 5&16】

国際法専門演習II【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	国際法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法専門演習 II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

本クラスでは、学生が社会に出る / 出ようとするときに、国際法ゼミで勉強してきたことを少しでも活かすことができるようにするためのプログラムを用意します。つまりなぜこの仕事・進路を選ぼうとしているのかとの問いに対し、大学の国際法ゼミで勉強してきたなかで○○の点に興味を持ったからですと明確に答えられるようにするためのプログラムです。ここまでやりましたと胸を張って言えるものを、頑張って一緒に作って行きましょう。

到達目標は、

- 【技能】国際法上の問題の解決に必要な情報を自ら収集・分析・整理するための基礎的な技法を身につけている
- 【思考・判断・表現力】国際法に関する課題に対し、法的思考に基づいた判断を行うことができる
- 【コミュニケーション力】他の参加者と議論をしながら、協働して国際法における諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけているとなります。

具体的には、

- 知識や情報を集めて自分の考えを客観化することができる、
- チームを組んで特定の課題に真摯に取り組むことができる、
- ディベートやディスカッション、プレゼンテーションを通じ、相手の意見や質問をきちんと踏まえた上で、自分の意見をよりわかりやすく述べることができる、
- 問題の処理にあたって、理論に加えて、実社会とのつながりを深く意識することができる
- 責任感に基づいた行動ができる、とします。

教科書 /Textbooks

必要な参考資料等は、適宜、配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、必要に応じ、適宜、指示する予定です。

国際法専門演習II【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第01回 コースガイダンス，1学期の振り返り，2学期の取り組み，個別面談，役職決め

■課題『Briefing & Free Discussion - 要約力，討論力をつける』

- ①時事対策も意識し，要約力・討論力を涵養するために，ブリーフィングとフリーディスカッションを行います（40分/set）。
- ②担当者は，1）時事問題の概要をA4・1枚の「ポンチ絵」資料にまとめてくる。当該資料を全員に配布し，冒頭に7分のブリーフィングを行う。2）その後，30分のフリーディスカッションを実施するので，差配する。3）最後に，議論の様子を3分程度にまとめ，二宮に報告する。なおその他の参加者は，当日までに，下調べなど事前の準備をきっちりと行ってこよう。

第02回 グループ作業： グループ分け，時事問題の選定

第03回 プレゼンテーション：時事問題①，時事問題②

第04回 プレゼンテーション：時事問題③，時事問題④

第05回 プレゼンテーション：時事問題⑤，まとめ

■課題『Group Discussion - 集団力，協調力をつける』

- ①面接対策も意識し，討論力を涵養するために，グループディスカッションやグループワークを行います。
- ②担当者は，***までに，「テーマ」案を2-3用意し（原則，是非を問う形式とし，法学部/国際法演習としての適性にも留意する）とともに，それぞれ面接の実施組織とその概要を特定してきてください。また採用担当者として，当日の「運営」をお願いします。また最後に講評を行ってまいります。なお参加者は，当日までに，事前の準備をきっちりと行ってきてください。

第06回 グループ作業： グループ分け，テーマ等(第1-3候補，Groupごと)の打合せ

第07回 Group Discussion のテーマ等協議・確定

第08回 Group Discussion① 「テーマA」（企業A）（担当：A1・A2）

第09回 Group Discussion② 「テーマB」（市役所B）（担当：B1・B2）

第10回 Group Discussion③ 「テーマC」（企業C）（担当：C1・C2）

第11回 Group Discussion④ 「テーマD」（県庁D）（担当：D1・D2）

第12回 Group Discussion⑤ 「テーマE」（省庁E）（担当：E1・E2）

■課題『卒業研究 - ゼミ論文のテーマ等を考える』

第13回 卒業研究としてのゼミ論文とは？

第14回 テーマ発表①（各15分×5名）

第15回 テーマ発表②（各15分×5名）

* 受講者数などを考慮し，受講者の同意を得て，授業計画や内容を変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加の程度をもとに総合的に評価します。具体的には，出席状況，報告・課題などへの取り組み状況，授業態度，貢献度（積極的な発言など）を基準として評価することになります。

- ゼミへの参加...100%
- 課題①への取り組み...40%
- 課題②への取り組み...40%
- 授業への貢献...20%

3回以上欠席した場合には，評価不能（－）とします。なお2回まで欠席することを認めているわけではありませんのでご注意ください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アサインメントに従い，事前学習を行い，授業にのぞむことを求めます。
また指示に従い，事後学習を進め，授業の理解を深めることを求めます。

履修上の注意 /Remarks

予習，復習やサブゼミなど，正規の授業時間外にも真摯に取り組むことが要求されるゼミです。
受講申請にあたってはこの点に注意してください。
国際法専門演習Iとセットで受講してください。4年次にゼミ論文作成のための研究指導の受講を希望する学生を優先します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

夢の実現に向かってがんばってください。

キーワード /Keywords

【キャリアと国際法】【SDGs_Goal1-17（学生の選択による）】

国際法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	国際法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

本演習は、ゼミ論文の作成等を通じ、国際法を極めたいと考える学生に対し、開放されるものです。
受講者には、各自の問題意識に基づきテーマを設定してもらい、それをゼミ論文にまとめていく過程を通じて、現実の国際社会が抱えているさまざまな問題についての理解を深め、国際社会における国際法の役割について考えてもらいたいと思います。

到達目標は、

- 【技能】国際法を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている
- 【思考・判断・表現力】国際法における課題に対する法的判断について、口頭や文章で論理的に表現することができる
- 【コミュニケーション力】他の参加者と議論をしながら、協働して国際法における諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけているとなります。

具体的には、

- 国際法の領域において、関心に基づき、問題の所在を明確化し、研究論文の対象となるテーマを設定することができる、
- 関連文献を渉猟し、適切に、リストを作成することができる、
- 先行研究論文を丁寧に読み込み、詳細なレジメを作成し、文献報告を行うことができる、
- 研究の中間成果として、「はじめに」を書きあげ、それに沿ったアウトラインを作成することができる、とします。

教科書 /Textbooks

テキストは、設定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、必要に応じ、適宜、指示する予定です。

国際法専門演習Ⅲ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業は、受講者それぞれに対し個別に行われるものと、受講者全員に対し集団的に実施されるものとで構成されます。実際のスケジュールは、受講者のニーズに合わせて決定されるため、現段階では、確定できません。開講後、相談を通じ、それぞれのメニューをすみやかに決定していきます。

第I段階

- ①問題意識の確認→ゼミ論文のテーマ設定
- ②論文作成の可能性の探究→関連文献リストの作成

第II段階

- ①問題の所在の明確化→事実関係等の整理
- ②先行研究の整理→文献報告
- ③関連文献の整理→情報カードの作成・蓄積

第III段階 ゼミ論文のアウトラインの作成・報告会

予定

- 第1回 インTRODクシヨン【ゼミ論文作成の流れの理解】
- 第2回 問題意識の確認①【ゼミ論文のテーマに関する個別相談・指導】
- 第3回 問題意識の確認②【ゼミ論文のテーマの設定・報告会①】
- 第4回 論文作成の可能性の探究【関連文献リストの作成・読み込みスケジュールの策定・報告会②】
- 第5回 関連文献等の読み込みによる事実関係等の整理と問題の所在の明確化【個別相談・指導】
- 第6回 問題の所在の明確化【論文の意義の明確化・報告会③】
- 第7回 先行研究の精読とレジュメ作成，報告A【文献A】
- 第8回 先行研究の精読とレジュメ作成，報告B【文献B】
- 第9回 先行研究の精読とレジュメ作成，報告C【文献C】
- 第10回 先行研究の精読とレジュメ作成，報告D【文献D】
- 第11回 先行研究の精読とレジュメ作成，報告E【文献E】
- 第12回 関連文献の整理①【進捗状況の相談・指導：第1次】
- 第13回 関連文献の整理②【進捗状況の相談・指導：第2次】
- 第14回 ゼミ論文のアウトラインの構想【個別相談・指導】
- 第15回 ゼミ論文のアウトラインの報告会④【章・節・項レベルの目次設定，「はじめに」の文章化】

成績評価の方法 /Assessment Method

指導されたアサインメントの実施状況をもとに評価します。

- アサインメントの実施状況...100%
- ・ 報告会での報告 (4 回) 10%×4
 - ・ 文献報告 40%
 - ・ 相談・指導への対応状況 20%

論文完成に向けてすべてのステップをこなすことが必要です (時期は相談の上柔軟に対応します)。一つでもステップをこなさなかった場合には、評価不能 (-) となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。
また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

履修上の注意 /Remarks

各回の指導に基づき、作業をこなしていただく必要があります。そのため授業以外に十分な勉強時間を確保していただくことになります。受講希望者は、申告前の所定の期間内に、受講の目的との関連で必要とする指導内容について、自分なりに明確にした上で、相談に来てください。
国際法専門演習Ⅳとセットで受講してください。
なお無断欠席をした者はもちろん欠席が複数回にわたる者や、やる気の感じられない者に対しては、本研究論文指導の受講を放棄したものとみなし、その後のいっさいの指導を行わない可能性もあるので、自覚を持ってがんばってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業時に「大学時代、これだけは一生懸命に勉強しました。」と、自信を持って、胸を張って、言えるようになるために、一緒にがんばりましょう。

キーワード /Keywords

【ゼミ論文】【課題研究】【SDGs_Goals 1-17 (学生のテーマによる)】

国際法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	国際法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

本演習は、ゼミ論文の作成等を通じ、国際法を極めたいと考える学生に対し、開放されるものです。受講者には、各自の問題意識に基づきテーマを設定してもらい、それをゼミ論文にまとめていく過程を通じて、現実の国際社会が抱えているさまざまな問題についての理解を深め、国際社会における国際法の役割について考えてもらいたいと思います。

到達目標は、

【技能】国際法を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている

【思考・判断・表現力】国際法における課題に対する法的判断について、口頭や文章で論理的に表現することができる

【コミュニケーション力】他の参加者と議論をしながら、協働して国際法における諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけているとなります。

具体的には、

- 「はじめに」において、論文の目的を確定し、論証にかなうアウトラインを適切に設定することができる、
- 中間報告を通じ、適切な情報を、適切に配置し、論証の精度を高めることができる。
- 期限までに、適切に注を配置した初稿を提出することができる、
- 指摘事項に適切に対応し、期限までに、完成稿を提出することができる、とします。

教科書 /Textbooks

テキストは、設定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、必要に応じ、適宜、指示する予定です。

国際法専門演習Ⅳ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業は、受講者それぞれに対し個別に行われるものと、受講者全員に対し集団的に実施されるものとで構成されます。実際のスケジュールは、受講者の人数やニーズに合わせて決定されるため、現段階では、確定できません。開講後、相談を通じ、それぞれのメニューをすみやかに決定していきます。

第Ⅳ段階

- ①ゼミ論文アウトラインの確定
- ②ゼミ論文の中間報告

第Ⅴ段階

- ①ゼミ論文初稿の提出→添削指導→修正
- ②ゼミ論文第2稿の提出→添削指導→再修正

第Ⅵ段階

ゼミ論文完成稿の提出→ゼミ論文集に

予定

- 第1回 インTRODクシヨン【ゼミ論文完成までの流れ】
- 第2回 アウトラインの確定【報告会】
- 第3回 中間報告に向けた進捗状況のチェック①【第1章，個別相談・指導】
- 第4回 中間報告に向けた進捗状況のチェック②【第2章，個別相談・指導】
- 第5回 中間報告に向けた進捗状況のチェック③【第3章，個別相談・指導】
- 第6回 中間報告と質疑応答①【担当A】
- 第7回 中間報告と質疑応答②【担当B】
- 第8回 中間報告と質疑応答③【担当C】
- 第9回 中間報告と質疑応答④【担当D】
- 第10回 中間報告と質疑応答⑤【担当E】
- 第11回 中間報告と質疑応答⑥【担当F】
- 第12回 初校の提出と相互チェック【添削指導】
- 第13回 二校の提出【添削指導】
- 第14回 最終校の提出
- 第15回 まとめ【論文集の作成】

成績評価の方法 /Assessment Method

指導されたアサインメントの実施状況とゼミ論文をもとに評価します。

アサインメントの実施状況...50%

- ・アウトラインの確定 10%
- ・中間報告 30%
- ・相談・指導への対応状況 10%

ゼミ論文...50%

- ・初稿 10% (相互チェック含む)
- ・最終稿 40%

論文完成に向けてすべてのステップをこなすことが必要です(時期は相談の上柔軟に対応します)。一つでもステップをこなさなかった場合や、ゼミ論文を期限までに提出しなかった場合には、評価不能(一)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。
また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

履修上の注意 /Remarks

各回の指導に基づき、作業をこなしていただく必要があります。そのため授業以外に十分な勉強時間を確保していただくことになります。受講希望者は、申告前の所定の期間内に、受講の目的との関連で必要とする指導内容について、自分なりに明確にした上で、相談に来てください。

国際法専門演習Ⅲとセットで受講してください。

なお無断欠席をした者はもちろん欠席が複数回にわたる者や、やる気の感じられない者に対しては、本研究論文指導の受講を放棄したものとみなし、その後のいっさいの指導を行わない可能性もあるので、自覚を持ってがんばってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

あともう一踏ん張りです。卒業時に「大学時代、これだけは一生懸命に勉強しました。」と、自信を持って、胸を張って、言えるようになるために、一緒にがんばりましょう。

キーワード /Keywords

【ゼミ論文】【課題研究】【ゼミ論文集】【SDGs_Goals 1-17 (学生のテーマによる)】

民法専門演習I【昼】

担当者名 丸山 愛博 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

この演習では、法的課題を発見し、分析して解決策を考え、それを他者に伝えることができる力を身につけることを目的とします。具体的には、民法総則に関する判例（結論が破棄差戻又は破棄自判であるもの）を素材として、原審と最高裁でどの部分で判断が分かれたのかを分析することになります。原則として、2回で1つの判例を分析し、前半は当該判例を読み解くのに必要な知識の確認、後半は学生による分析の報告とします。

（到達目標）

- 【技能】民法学上の問題の解決に必要な情報を自ら収集・分析・整理するための基礎的な技法を身につけている
- 【思考・判断・表現力】民法学に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる
- 【コミュニケーション力】他の参加者と議論をしながら、協働して民法学上の問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 佐久間毅ほか『民法I総則（第2版補訂版）』（有斐閣リーガルクエスト、2020年）2600円＋税
- 佐久間毅『民法の基礎1総則（第5版）』（有斐閣、2020年）3100円＋税
- （オンラインで閲覧可能）田高寛貴ほか『リーガル・リサーチ&レポート(第2版)』（有斐閣、2019年）1700円＋税
- 潮見佳男＝道垣内弘人『民法判例百選①総則・物権（第8版）』（有斐閣、2018年）2200円＋税
- 山本敬三『民法講義総則（第3版）』（有斐閣、2011年）4500円＋税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス（自己紹介、演習の進め方・成績評価方法の説明など）
- 第2回信義則（1）問題の所在の確認
- 第3回信義則（2）最判平14・3・28民集56巻3号662頁についての報告
- 第4回後見人の追認拒絶（1）問題の所在の確認
- 第5回後見人の追認拒絶（2）最判平6・9・13民集48巻6号1263頁の報告
- 第6回法人の目的の範囲（1）問題の所在の確認
- 第7回法人の目的の範囲（2）最判平8・3・19民集50巻3号615頁の報告
- 第8回公序良俗違反（1）問題の所在
- 第9回公序良俗違反（2）最判平15・4・18民集57巻4号366頁の報告
- 第10回強行法規違反の法律行為の効力（1）
- 第11回強行法規違反の法律行為の効力（2）最判平11・2・23民集53巻2号193頁の報告
- 第12回94条2項の類推適用（1）
- 第13回94条2項の類推適用（2）最判昭45・9・22民集24巻10号1424頁
- 第14回詐欺における善意の第三者と登記（1）
- 第15回詐欺における善意の第三者と登記（2）最判昭49・9・26民集28巻6号1213頁の報告

民法専門演習I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中の発表内容及び発言70%、レポートやレジユメなどの成果物30%
なお、5回以上欠席したときは、成績評価は、原則として「評価不能」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

演習では積極的に発言することが求められます。発言をするためには、事前の学習が不可欠です。指定された文献等は全員が必ず読んでから演習に参加してください。

事後学習は、演習で使用した資料を読み返して分からないことが無いかを確認してください。分からないことがあった場合には、各自で調べて、それでも分からない場合には次回の演習で質問してください。

履修上の注意 /Remarks

授業計画・内容については、履修者数や履修者の理解度に応じて変更することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本学に着任して2年目です。少し慣れてきましたがまだまだ分からないこともあるので、ゼミ生の意見を聞きながらより良い演習にしていきたいと思っています。

キーワード /Keywords

民法 民法総則 判例分析

民法専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

テーマ：「契約法判決研究（民事判例研究報告および判例評釈執筆）」

本演習では、民法（財産法分野）、なかでも債権法（特に、契約法）分野に関わる重要判決の分析を通じて、最高裁（または大審院）がその判決理由の中で示した（定立した）と考えられる「規範（判例）」の抽出および当該規範の「射程」等の精緻な検討を行う。

ゼミ生諸君は、まず、「専門演習I」において、民事判例研究報告、質疑・応答および教員による解説・補論等を通じて、判決の読み方（判例（規範）の分析手法）の基礎・基本を徹底的に叩き込まれることになる。この「法的思考（法的三段論法に依拠した判決理由の分析）の練磨」を通じて、判例評釈を執筆する基礎体力を涵養していただく。

さらに、ゼミ生同士の議論や教員との議論（「規範」の抽出をめぐって。また、債権（契約法）法上の種々の諸制度に関する知識・理解に関して。）を通じて、自身の見解（法的思考・判断のプロセスおよび判断）を、他者に対して解かりやすく、説得力あるかたちで正確に発信する力（議論は当然のこと、判例評釈を執筆するというかたちにおいても。）も養われるであろう。

ちなみに、今年度演習においても、2017（平成29）年6月公布、2020（令和2）年4月1日施行の改正（現行）民法（債権法）について、その内容・論点を逐次フォローする。そして、改正前民法下および改正民法（現行民法）下において、研究報告で扱う判決の位置づけ等がどのように変容するかについても、議論・考究を深めていく。

よって、これら種々の【力】を向上させるためにも、報告・議論等への積極的参加は、本演習における絶対的義務であることを申し述べておく。

※この科目の到達目標は下記の通りである。

【「民法専門演習I」到達目標】

DP2 技能：民法学上の問題の解決に必要な情報を自ら収集・分析・整理するための基礎的な技法を身につけている。

DP3 思考・判断・表現力：民法学に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。

DP4 コミュニケーション力：他の参加者と議論をしながら、協働して民法学の問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

①窪田 充見＝森田 宏樹（編）『民法判例百選II 債権 [第8版]（別冊ジュリスト238号）』（有斐閣、2018年）；定価（2,300円＋税）

②最新版（年度）の六法（判例六法が望ましいが、通常の小型六法でも構わない。）

③民法（債権各論または契約法）の基本書・体系書（改正民法対応のものを1冊必ず購入・持参すること。また、改正前民法下の基本書も別に1冊用意しておいてもらいたい。こちらは古書や図書館蔵書のコピーでもよい。）

④潮見佳男『民法（債権関係）改正法の概要』（一般社団法人 金融財政事情研究会、2017年）；定価（3,200円＋税）

※上記「4点セット（5冊）」を毎回必ず持参すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

※演習のなかで適宜紹介する。

民法専門演習Ⅰ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※以下の計画・内容は、ゼミ受講人数や各ゼミ生の理解度等により若干修正される可能性があるため、めやすである。
 ※新型コロナウイルス感染拡大状況により、遠隔授業（Microsoft teamsを用いたリアルタイム対話型形式や対面との複合形態、いわゆる「ハイブリッド型」形式など）に変更となる回が生じる可能性がある。よって、ゼミ生諸君は、moodleや教員からのメール等を通じて、こまめに情報収集・確認に努められたい。

- 第1回：ガイダンス（自己紹介、報告ペア・グループおよび報告順の決定、成績評価方法についての説明）
 第2回：「法的思考」の再確認①-最（二小）判 昭和60年11月29日 民集39巻7号1719頁の検討① 事実概要・裁判経過の分析- 民事裁判の基本構造の復習も兼ねて（法的三段論法の錬磨）
 第3回：「法的思考」の再確認②-最（二小）判 昭和60年11月29日 民集39巻7号1719頁の検討② 上告理由・判決理由の解析（法的三段論法の錬磨・応用）-
 第4回：改正民法・債権法（＝現行民法）によって影響を受ける最高裁判決の分析①：最（二小）判 昭和43年2月23日 民集22巻2号281頁を素材として-事案の理解および最高裁の判決理由の論理構造の検討【法的三段論法に依拠した解析】-
 第5回：改正民法・債権法（＝現行民法）によって影響を受ける最高裁判決の分析②：最（二小）判 昭和43年2月23日 民集22巻2号281頁を素材として-改正前民法下における当該判決の位置づけが今次改正によってどのように変容していくと考えられるかについて議論を深める-
 第6回：ゼミ生ペア（2022年度は10名予定。ペア5組）Aによる「民事判例研究報告」および質疑応答①（判旨の理解〔定立された規範の抽出〕）
 第7回：ゼミ生ペアAによる「民事判例研究報告」および質疑応答②・完（判決の射程等の分析、改正前&現行民法下における当該判決の位置づけについての分析、および教員による補足）
 第8回：ゼミ生ペアBによる「民事判例研究報告」および質疑応答①（判旨の理解〔定立された規範の抽出〕）
 第9回：ゼミ生ペアBによる「民事判例研究報告」および質疑応答②・完（判決の射程等の分析、改正前&現行民法下における当該判決の位置づけについての分析、および教員による補足）
 第10回：ゼミ生ペアCによる「民事判例研究報告」および質疑応答①（判旨の理解〔定立された規範の抽出〕）
 第11回：ゼミ生ペアCによる「民事判例研究報告」および質疑応答②・完（判決の射程等の分析、改正前&現行民法下における当該判決の位置づけについての分析、および教員による補足）
 第12回：ゼミ生ペアDによる「民事判例研究報告」および質疑応答①（判旨の理解〔定立された規範の抽出〕）
 第13回：ゼミ生ペアDによる「民事判例研究報告」および質疑応答②・完（判決の射程等の分析、改正前&現行民法下における当該判決の位置づけについての分析、および教員による補足）
 第14回：ゼミ生ペアEによる「民事判例研究報告」および質疑応答①（判旨の理解〔定立された規範の抽出〕）
 第15回：ゼミ生ペアEによる「民事判例研究報告」および質疑応答②・完（判決の射程等の分析、改正前&現行民法下における当該判決の位置づけについての分析、および教員による補足）および1学期演習の「まとめ」（※夏休みの課題についての協議等を含む。）

※8月初旬、民事判例研究報告で扱った判決の「判例評釈」を期末レポート（8,000字以上）として提出してもらおう。

成績評価の方法 /Assessment Method

※演習における発言内容、議論への積極的参加の度合い、報告内容など.....75%
 ※期末レポート（判例評釈）の内容.....25%
 【注意】期末レポート（判例評釈）未提出者には原則、単位を付与しないので注意すること。
 【成績評価において「評価不能（－）」となる基準】全15回のゼミのうち、正当な理由なく6回以上ゼミを欠席した場合、期末レポート提出の有無・内容の出来に関係なく「評価不能（－）」とする。ただし、新型コロナウイルス感染や濃厚接触者該当、その他、病気・けが、または引 ききなどによる欠席を除く。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】報告に当たっていないゼミ生には、報告担当ゼミ生が扱う判決について、各種評釈および調査官解説などを熟読し、ゼミにおいて積極的かつ的確な質問ができるよう入念に準備をしていくことが求められる。なお、この予習に必要な学習時間の目安は120分である。
 【事後学習】民事判例研究報告で扱われた最高裁判決が改正民法（＝現行民法）下においてどのような位置づけを与えられるかについて、ゼミでの議論を踏まえ、ミニ・ペーパーを作成することが求められる。この復習に必要な学習時間の目安は60分である。

履修上の注意 /Remarks

教科書③および④をゼミ開講後、できる限り早い段階（できれば、ゼミ開講前）で通読しておくことが望ましい。民事判例研究報告の準備等を入念に行うのは当然のことである。その他、注意点として、民法（財産法）科目は当然のこと、民事訴訟法の基本書・体系書もできればゼミと並行して読んでおいてもらいたい。ゼミにおける議論に大いに役立ち、議論の内容の深みが増すものと想われる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

2022年度・新生福本民法ゼミは、これまでの正統な当ゼミの伝統を受け継ぎ、アットホームな雰囲気を守りつつも、厳しいゼミでありたいと想っています。ゼミは、ゼミ生が主役です。旺盛な議論を期待しています。

キーワード /Keywords

債権法（契約法）判決研究、法的三段論法、判例評釈の手法、改正民法（現行民法）下における従来の最高裁判決の位置づけを考える、規範の射程の測定

民法専門演習I【昼】

担当者名 矢澤 久純 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

近時、話題となっている民法（特に債権法分野）改正について考える。民法改正をめくっては、2017年5月に改正法が成立したわけであるが、学習という観点からは、『別冊NBL126号 債権法改正の基本方針』（商事法務、2009年）も重要である。この授業では、その中の前の4分の1について考えることとしたい。常に、改正前民法、基本方針、改正後民法の三者を比較検討することが望まれる。この授業は、法律学科所定のいわゆるゼミ募集で選抜された者のみが受講資格を有する。この授業に参加することで、民法の考え方が養われるであろう。

到達目標

- 【技能】民法学上の問題の解決に必要な情報を自ら収集・分析・整理するための基礎的な技法を身につけている
- 【思考・判断・表現力】民法学に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる
- 【コミュニケーション力】他の参加者と議論をしながら、協働して民法学の問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている

教科書 /Textbooks

なし。上記の『債権法改正の基本方針』（商事法務）は、図書館で閲覧すれば足りる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 民法典の対象と編別について、法律行為
- 3回 意思表示（錯誤まで）
- 4回 意思表示（詐欺以降）
- 5回 代理、授權
- 6回 表見代理、無権代理
- 7回 無効、取消、条件、期限
- 8回 期間、時効等
- 9回 債権・通則、契約の成立
- 10回 契約の無効及び取消、契約の内容
- 11回 債権の基本的効力
- 12回 強制履行、損害賠償
- 13回 解除
- 14回 受領遅滞、期間制限、事情変更
- 15回 まとめ

民法専門演習I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業のときに一定の回数、出席し、かつ報告をしていることを前提に、レポート……100%
「一」(パー)についてであるが、この科目は、いかなる理由であれ、単位を取得できないと判断される場合には、一律、「D」となる。「一」(パー)が付くことはない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

主として民法総則及び債権総論関連の判決を取り扱うので、事前学習(予習)としては、重要な判決について実際に判決文を読んで、論点を考えることが重要となる。事後学習としては、報告された判決の論点について、図書館の各種資料で調査して、議論の内容を復習することが重要である。目安の時間としては、事前学習60分、事後学習30分である。

履修上の注意 /Remarks

他の科目と同様、六法は、持参することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

債権、債権法改正、民法改正

民法専門演習I【昼】

担当者名 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

物権法・担保物権法の判例研究を行う。

取り扱う判例は、受講者の希望等を踏まえて変更することも可能である（下記の「授業計画・内容」は一例である）。

授業の進め方については、原則として、2週間（2回）で1つの判例を分析する予定である。

1週目は、指定された判例を理解する上で必要な基礎知識を確認する。

そして2週目は、指定された判例について、受講者が判例解説を各自で事前に読んできていることを前提に、その判例の意義・学説の状況・結論の妥当性等を受講者全員で議論する。

この授業を通して、判例解説を読んでその内容を理解する力、判例を多面的に分析する力を養成する。

（到達目標）

【技能】民法学上の問題の解決に必要な情報を自ら収集・分析・整理するための基礎的な技法を身につけている

【思考・判断・表現力】民法学に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

【コミュニケーション力】他の参加者と議論をしながら、協働して民法学上の問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている

教科書 /Textbooks

潮見佳男・道垣内弘人編『民法判例百選I 総則・物権（第8版）』（有斐閣，平成30年） 本体2,200円＋税

このほか、Moodle上で適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

民法専門演習I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 判例研究の基礎知識
- 第3回 物権的請求権(1)【基礎知識の確認】
- 第4回 物権的請求権(2)【判例研究】
- 第5回 時効取得と登記(1)【基礎知識の確認】
- 第6回 時効取得と登記(2)【判例研究】
- 第7回 共同相続と登記(1)【基礎知識の確認】
- 第8回 共同相続と登記(2)【判例研究】
- 第9回 明認方法(1)【基礎知識の確認】
- 第10回 明認方法(2)【判例研究】
- 第11回 即時取得(1)【基礎知識の確認】
- 第12回 即時取得(2)【判例研究】
- 第13回 留置権(1)【基礎知識の確認】
- 第14回 留置権(2)【判例研究】
- 第15回 まとめ

* 授業の内容は、受講者の希望や授業の進行状況等に応じて、一部変更することがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...100%
正当な理由なく無断で8回以上欠席した場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中の議論に参加できるように、判例解説等の指定された部分を事前にしっかりと読み込んで内容を理解しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担保物権法を前年度までに受講済みであることが履修の条件である。
授業には必ず最新の六法(ポケット六法等の小型のもので良い)を持参すること。
受講者の希望に応じて、ゼミ合宿等の課外活動を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

事前に十分な準備をした上で、授業中は積極的に議論に参加してもらいたい。
また、新型コロナウイルスの接触感染を予防するとともに、SDGsの「つくる責任 つかう責任」「陸の豊かさを守ろう」を達成するための取り組みとして、この授業における資料の配布は極力Moodle上で行う。

キーワード /Keywords

民法 物権法 担保物権法 判例研究

民法専門演習II 【昼】

担当者名 丸山 愛博 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習 II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

この演習では、民法専門演習Iから引き続き、法的課題を発見し、分析して解決策を考え、それを他者に伝えることができる力を身につけることを目的とします。具体的には、民法総則に関する判例（結論が破棄差戻又は破棄自判であるもの）を素材として、原審と最高裁でどの部分で判断が分かれたのかを分析することにします。原則として、2回で1つの判例を分析し、前半は当該判例を読み解くのに必要な知識の確認、後半は学生による分析の報告とします。

（到達目標）

- 【技能】民法学上の問題の解決に必要な情報を自ら収集・分析・整理するための基礎的な技法を身につけている
- 【思考・判断・表現力】民法学に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる
- 【コミュニケーション力】他の参加者と議論をしながら、協働して民法学の問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 佐久間毅ほか『民法I総則（第2版補訂版）』（有斐閣リーガルクエスト、2020年）2600円＋税
- 佐久間毅『民法の基礎I総則（第5版）』（有斐閣、2020年）3100円＋税
- （オンラインで閲覧可能）田高寛貴ほか『リーガル・リサーチ&レポート(第2版)』（有斐閣、2019年）1700円＋税
- 潮見佳男＝道垣内弘人『民法判例百選①総則・物権（第8版）』（有斐閣、2018年）2200円＋税
- 山本敬三『民法講義I総則（第3版）』（有斐閣、2011年）4500円＋税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス（自己紹介、演習の進め方・成績評価方法の説明など）
- 第2回意思表示の到達(1) 問題の所在の確認
- 第3回意思表示の到達(2) 最判平10・6・11民集52巻4号1034頁の報告
- 第4回外観法理と109条(1) 問題の所在の確認
- 第5回外観法理と109条(2) 最判昭35・10・21民集14巻12号2661頁の報告
- 第6回110条の正当理由の判断(1)
- 第7回110条の正当理由の判断(2) 最判昭51・6・25民集30巻6号665頁の報告
- 第8回無権代理人の責任(1) 問題の所在の確認
- 第9回無権代理人の責任(2) 最判昭62・7・7民集41巻5号1133頁の報告
- 第10回本人の無権代理人相続(1) 問題の所在の確認
- 第11回本人の無権代理人相続(2) 最判昭37・4・20民集16巻4号955頁の報告
- 第12回無権代理人の本人相続(1) 問題の所在の確認
- 第13回無権代理人の本人相続(2) 最判平5・1・21民集47巻1号265頁の報告
- 第14回時効援用の効果(1) 問題の所在の確認
- 第15回時効援用の効果(2) 最判昭61・3・17民集40巻2号420頁の報告

民法専門演習II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中の発表内容及び発言70%、レポートやレジユメなどの成果物30%
なお、5回以上欠席したときは、成績評価は、原則として「評価不能」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

演習では積極的に発言することが求められます。発言をするためには、事前の学習が不可欠です。指定された文献等は全員が必ず読んでから演習に参加してください。

事後学習は、演習で使用した資料を読み返して分からないことが無いかを確認してください。分からないことがあった場合には、各自で調べて、それでも分からない場合には次回の演習で質問してください。

履修上の注意 /Remarks

授業計画・内容については、履修者数や履修者の理解度に応じて変更することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本学に着任して2年目です。少し慣れてきましたがまだまだ分からないこともあるので、ゼミ生の意見を聞きながらより良い演習にしていきたいと思っています。

キーワード /Keywords

民法 民法総則 判例分析

民法専門演習II 【昼】

担当者名 /Instructor 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

テーマ：「改正民法（現行法）債権各論文献研究およびゼミ論文執筆」。本演習の目的・目標は、次の二つである。一つは、輪読形式による研究報告を通じて、ゼミ生みんなで「債権各論の体系書・基本書（平成29年民法〔債権関係〕改正対応のもの）を批判的に分析し、読破すること（おそらく、読破は4年ゼミに持ち越されることになろう。）」である。この研究を通じて、ゼミ生諸君には、文献渉猟や問題点・課題の発見等といった専門分野のより高度なスキルを身につけてもらいたい。山野目民法を存分に味わおう！

もう一つは、「専門演習I」で培った債権法（債権各論分野）に関する重要判決（判例）・学説についての知見および改正民法（現行民法）についての知見を駆使して、ゼミ生諸君の研究成果を「ゼミ論文（卒業論文の途中段階）」という「かたち」で結実させることである。さらに、他者（他のゼミ生および教員等）との議論を重ねることで、自身の見解（法的思考のプロセスおよび法的判断）を他者に対して解かりやすく、説得的に伝える力を一層向上させることも本演習の目的といえる。「専門演習II」では、「書く力による発信＝ゼミ論文の執筆・添削指導」に最も重点を置く。

これら一連の営みを通じて、ゼミ生諸君には、4年次に履修する必修科目「民法専門演習III・IV（福本担当クラス）」で執筆予定の「卒業研究論文」への「基礎固め」をしっかりと行ってもらいたい。

※この科目の到達目標は下記の通りである。

【「民法専門演習II」到達目標】

DP2 技能：民法学上の問題の解決に必要な情報を自ら収集・分析・整理するための基礎的な技法を身につけている。

DP3 思考・判断・表現力：民法学に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。

DP4 コミュニケーション力：他の参加者と議論をしながら、協働して民法学の問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

※専門演習IIでは、これら到達目標を同Iよりも高い水準に置く。

教科書 /Textbooks

- ①山野目 章夫『民法概論4 債権各論』（有斐閣、2020年）；定価（3,800円＋税）
 - ②最新版（年度）の六法（※判例六法が望ましい。）
 - ③教科書①以外の民法（債権各論）の体系書・基本書（改正民法対応必須。ゼミ論文執筆用）1冊
- ※上記「3点セット」を毎回必ず持参すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

※演習のなかで適宜紹介する。

民法専門演習II【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※以下の授業計画・内容は、ゼミ受講人数等により変更される可能性もあるので、あくまで「めやす」である。
 ※新型コロナウイルス感染拡大状況により、遠隔授業（Microsoft teamsを用いたリアルタイム対話型形式や、対面との複合形態、いわゆる「ハイブリッド型」形式など）に変更となる回が生じる可能性がある。よって、ゼミ生諸君はmoodleや教員からのメール等を通じて、こまめに情報収集・確認に努められたい。

※「ゼミ論文（当ゼミでは、3年次2学期から卒業論文執筆を開始する。）」執筆は、個人戦である。よって、文献輪読を進めている期間中、オフィスアワー、メールやteamsによる個別指導等を積極的に受けること。また、添削されたゼミ論文の内容は、きちんと修正し、添削指導をさらに受けること。指導を全く受けずに論文を執筆しても評価しない。

- 第1回：ガイダンス（ゼミ論文〔卒業論文〕の研究テーマ設定および確認）
- 第2回：（※2022年度ゼミ生10名の予定）教科書①輪読箇所の確認（契約総論～使用貸借〔1～168頁〕までの読破を目指す。残り〔賃貸借以降〕は、4年ゼミで輪読する。）および報告順等の決定
- 第3回：文献輪読①（※以下、報告担当者はレジュメを作成の上、20～30分程度で報告すること。残りの時間で議論・質疑応答・補論を行う。）〔教科書①：1～20頁【第1章＜契約法序説＞契約の基本原則・契約の成立】〕
- 第4回：文献輪読②（教科書①：20～35頁【第1章＜契約法序説＞契約の効力（同時履行の抗弁権の手前まで）】）
- 第5回：文献輪読③（教科書①：35～48頁【第1章＜契約法序説＞契約の効力・契約上の地位の移転】）
- 第6回：文献輪読④（教科書①：49～63頁【第1章＜契約法序説＞契約の解除】）
- 第7回：文献輪読⑤（教科書①：63～82頁【第1章＜契約法序説＞定型約款】※契約総論分野読破！）
- 第8回：文献輪読⑥（教科書①：83～97頁【第2章＜贈与＞】）
- 第9回：文献輪読⑦（教科書①：99～120頁【第3章＜売買＞買主の義務の手前まで】）
- 第10回：文献輪読⑧（教科書①：120～137頁【第3章＜売買＞残り部分&第4章＜交換＞】）
- 第11回：文献輪読⑨（教科書①：139～153頁【第5章＜消費貸借＞】）
- 第12回：文献輪読⑩（教科書①：155～168頁【第6章＜使用貸借＞】）※第7章賃貸借以降は、4年ゼミで輪読する。
- 第13回：文献輪読予備日（検討不十分だった箇所等について集中的な議論・質疑応答を行う。）
- 第14回：ゼミ生による「ゼミ論文報告会」①および論文指導（ゼミ生5名：1名10分報告。40分指導）
- 第15回：ゼミ生による「ゼミ論文報告会」②（ゼミ生5名：1名10分報告。40分指導）および専門演習IIの「まとめ」

※令和5年2月初旬に「ゼミ論文（卒業論文の途中経過を6,000字程度で完結させる）」を提出してもらおう。

成績評価の方法 /Assessment Method

※ゼミ中の発言内容、議論への積極的参加の度合い、報告内容（文献輪読）など……70%
 ※「ゼミ論文」の内容（論文執筆過程の評価も含む。）……30%
 【注意】「ゼミ論文」未提出者には、原則として単位を付与しない。
 【成績評価において「評価不能（－）」となる基準】全15回のゼミのうち、正当な理由なく6回以上ゼミを欠席した場合、「ゼミ論文」提出の有無・内容の出来に関係なく「評価不能（－）」とする。ただし、新型コロナウイルス感染や濃厚接触者該当、その他、病気・けが、または忌引きなどによる欠席を除く。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】；文献輪読の際、次回扱う箇所について、解からない箇所を箇条書きにしたペーパーを作成し、ゼミ生間で情報（疑問点）・理解共有を図ることが求められる。なお、この予習に必要な学習時間の目安は90分である。

【事後学習】；ゼミ論文の添削を受けて、その内容をしっかりと原稿内容修正に活かすことが求められる。なお、この復習に必要な学習時間の目安は90分である。

履修上の注意 /Remarks

教科書①をゼミ開講までに、できる限り読み進めておくことが肝要である（夏休みに必ずサラッと一読しておくこと！）。また、輪読報告の準備を入念に行うことは当然である。なお、「ゼミ論文（卒業論文）」については、添付ファイルで原稿（途中経過）を適時、教員に送信することが望まれる。「専門演習」もIIIになると、もはや受け身での学修姿勢では、ゼミに在籍している意味はなくなってしまう。この点、特に留意されたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「2022年度福本ゼミ」は、常にアットホームな雰囲気にと考えています。「厳しくも温かみのあるゼミ」でありたいと想っています。ゼミの主役はゼミ生。キラリと光る内容の「ゼミ論文」、大いに期待しています。

キーワード /Keywords

契約法文献研究、山野目民法学説の批判的分析・検討、債権各論、改正民法（現行法）、ゼミ論文（卒業論文の途中段階）執筆

民法専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 矢澤 久純 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

近時、話題となっている民法（特に債権法分野）改正について考える。民法改正をめくっては、2017年5月に改正法が成立したわけであるが、学習上は、『別冊NBL126号 債権法改正の基本方針』（商事法務、2009年）も重要である。この授業では、全体を4分割したと仮定して、第二の4分の1の部分について考えることとしたい。常に、改正前民法、基本方針、改正後民法の三者を比較検討することが望まれる。

この授業は、法律学科所定のいわゆる「ゼミ募集」で選抜された者のみが受講資格を有する。
この授業に参加することで、民法の考え方が養われるであろう。

到達目標

- 【技能】民法学上の問題の解決に必要な情報から自ら収集・分析・整理するための基礎的な技法を身につけている
- 【思考・判断・表現力】民法学に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる
- 【コミュニケーション力】他の参加者と議論をしながら、協働して民法学上の問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 債権者代位権
- 3 詐害行為取消権の要件
- 4 詐害行為取消権の効果
- 5 弁済・総則
- 6 弁済による代位、供託
- 7 相殺、更改、一人計算
- 8 免除、混同、債権時効の対象及び時効期間
- 9 債権時効障害
- 10 債権時効期間満了の効果
- 11 債権譲渡
- 12 債務引受、契約上の地位の移転
- 13 有価証券
- 14 多数の債権者
- 15 まとめ

民法専門演習II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業のときに一定の回数、出席し、かつ報告をしていることを前提に、レポート……100%
「一」(パー)についてであるが、この科目は、いかなる理由であれ、単位を取得できないと判断される場合には、一律、「D」となる。「一」(パー)が付くことはない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

主として債権総論関連の判決を取り扱うので、事前学習(予習)としては、重要な判決について実際に判決文を読んで、論点を考えることが重要となる。事後学習としては、報告された判決の論点について、図書館の各種資料で調査して、議論の内容を復習することが重要である。目安の時間としては、事前学習60分、事後学習30分である。

履修上の注意 /Remarks

他の法律科目と同様に、六法は、持参することが望まれる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

債権、債権法改正、民法改正

民法専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、物権法・担保物権法の判例研究を行う。

取り扱う判例は、受講者の希望等を踏まえて変更することも可能である（下記の「授業計画・内容」は一例である）。

授業の進め方については、原則として、2週間（2回）で1つの判例を分析する予定である。

1週目は、指定された判例を理解する上で必要な基礎知識を確認する。

そして2週目は、指定された判例について、受講者が判例解説を各自で事前に読んできていることを前提に、その判例の意義・学説の状況・結論の妥当性等を受講者全員で議論する。

この授業を通して、判例解説を読んでその内容を理解する力、判例を多面的に分析する力を養成する。

（到達目標）

【技能】民法学上の問題の解決に必要な情報を自ら収集・分析・整理するための基礎的な技法を身につけている

【思考・判断・表現力】民法学に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

【コミュニケーション力】他の参加者と議論をしながら、協働して民法学上の問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている

教科書 /Textbooks

潮見佳男・道垣内弘人編『民法判例百選I 総則・物権（第8版）』（有斐閣，平成30年） 本体2,200円＋税

このほか、Moodle上で適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

民法専門演習II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 1学期の基本事項の確認
- 第3回 抵当権の効力の及ぶ範囲(1)【基礎知識の確認】
- 第4回 抵当権の効力の及ぶ範囲(2)【判例研究】
- 第5回 抵当権の物上代位(1)【基礎知識の確認】
- 第6回 抵当権の物上代位(2)【判例研究】
- 第7回 抵当権に基づく妨害排除請求(1)【基礎知識の確認】
- 第8回 抵当権に基づく妨害排除請求(2)【判例研究】
- 第9回 法定地上権(1)【基礎知識の確認】
- 第10回 法定地上権(2)【判例研究】
- 第11回 譲渡担保権者の清算義務(1)【基礎知識の確認】
- 第12回 譲渡担保権者の清算義務(2)【判例研究】
- 第13回 所有権留保(1)【基礎知識の確認】
- 第14回 所有権留保(2)【判例研究】
- 第15回 まとめ

* 授業の内容は、受講者の希望や授業の進行状況等に応じて、一部変更することがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...100%
正当な理由なく無断で8回以上欠席した場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中の議論に参加できるように、判例解説等の指定された部分を事前にしっかりと読み込んで内容を理解しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担保物権法を前年度までに受講済みであることが履修の条件である。
授業には必ず最新の六法(ポケット六法等の小型のもので良い)を持参すること。
受講者の希望に応じて、ゼミ合宿等の課外活動を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

事前に十分な準備をした上で、授業中は積極的に議論に参加してもらいたい。
また、新型コロナウイルスの接触感染を予防するとともに、SDGsの「つくる責任 つかう責任」「陸の豊かさを守ろう」を達成するための取り組みとして、この授業における資料の配布は極力Moodle上で行う。

キーワード /Keywords

民法 物権法 担保物権法 判例研究

民法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 丸山 愛博 / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

この演習では、法的課題を発見し、分析して解決策を考え、それを他者に伝えることができる力を身につけることを目的とします。特に、議論を通じてプレゼンテーション力及びコミュニケーション力を鍛錬することに重点を置きます。
この演習の内容は大きく前半と後半に分かれます。前半は、民法判例百選IIに収録されている判例から選んで報告者に報告をしてもらい、その報告をもとに議論します。後半は、こちらで用意した事例問題（債権法分野を予定）について、原告側報告者と被告側報告者に分かれて方向をもらい、それらの報告をもとに議論します。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 山本敬三監修『民法4債権総論』（有斐閣ストゥディア、2018年）2100円＋税
- 中田裕康『債権総論（第4版）』（岩波書店、2020年）4800円＋税
- 潮見佳男『プラクティス民法債権総論（第5版補訂）』（信山社、2020年）5000円＋税
- 窪田充見＝森田宏樹『民法判例百選②債権（第8版）』（有斐閣、2018年）2300円＋税
- 潮見佳男ほか編『詳解改正民法』（商事法務、2018年）6500円＋税
- 筒井健夫＝村松秀樹『一問一答民法（債権関係）改正』（商事法務、2018年）3600円＋税
- 大村敦志＝道垣内弘人編『解説民法（債権法）改正のポイント』（有斐閣、2017年）3200円＋税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス（自己紹介、演習の進め方・成績評価方法の説明など）
- 第2回判例報告(1)
- 第3回判例報告(2)
- 第4回判例報告(3)
- 第5回判例報告(4)
- 第6回判例報告(5)
- 第7回判例報告(6)
- 第8回判例報告(7)
- 第9回事例演習(1)
- 第10回事例演習(2)
- 第11回事例演習(3)
- 第12回事例演習(4)
- 第13回事例演習(5)
- 第14回事例演習(6)
- 第15回事例演習(7)

民法専門演習Ⅲ【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中の発表内容及び発言70%、レポートやレジユメなどの成果物30%
なお、5回以上欠席したときは、成績評価は、原則として「評価不能」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

演習では積極的に発言することが求められます。発言をするためには、事前の学習が不可欠です。指定された文献等は全員が必ず読んでから演習に参加してください。

事後学習は、演習で使用した資料を読み返して分からないことが無いかを確認してください。分からないことがあった場合には、各自で調べて、それでも分からない場合には次回の演習で質問してください。

履修上の注意 /Remarks

授業計画・内容については、履修者数や履修者の理解度に応じて変更することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本学に着任して2年目です。少し慣れてきましたがまだまだ分からないこともあるので、ゼミ生の意見を聞きながらより良い演習にしていきたいと思っています。

キーワード /Keywords

民法 債権法 債権法改正

民法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

テーマ：「債権法分野を考察対象とした卒業研究論文の執筆および債権総論文献輪読（3年次より引き続き）」

本演習の目的は次の2点である。1点目は、各ゼミ生の個人戦として、「債権法分野に関わる学術論文（卒業研究論文；20,000字程度）」を1年かけて執筆してもらう。その基礎作業として、1学期「専門演習Ⅲ」では、卒業研究中間論文を「期末レポート」として執筆してもらう（10,000字以上が望ましい。）。本演習では、2学期「専門演習Ⅳ（必修）」において各ゼミ生の研究成果を「卒業研究論文」という可視的な“かたち”で示すため、その基礎作業を自律的に行ってもらうことが主たる内容となる（個別指導が主となる。）。

2点目は、ゼミ生全員の取組みとして、後掲・指定教科書（3年次2学期から分析を続けている債権総論の文献）の輪読を行う。この輪読作業を通じて、ゼミ生各位には、卒業研究論文執筆に必要な平成29年改正前民法および改正（現行）民法における債権総則上の諸制度にかかる高度な知識の涵養に努めてもらう。

いずれにせよ、3年次「専門演習Ⅰ・Ⅱ」以上に、「高度な文献読解力、法的思考、および忍耐&根気」が要求される。したがって、生半可な気持ちでの履修は認めない。また、本演習では、上記輪読報告を通じたプレゼンテーション能力の一層の向上も目指していく。なお、4年次1学期は、就職活動等の活発な時期でもあるから、論文個別指導や文献輪読について、それらのベースや作業量につき、各ゼミ生の進捗に応じて一定の配慮はする予定である。

※この科目の到達目標は、下記の通りである。

【「民法専門演習Ⅲ」到達目標】

DP2 技能：民法を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている。

DP3 思考・判断・表現力：民法学的思考に基づいた判断のプロセスや結論を口頭や文書で論理的に表現することができる。

DP4 コミュニケーション力：他の参加者と議論をしながら、協働して民法学的問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

①内田貴『民法Ⅲ 第4版 債権総論・担保物権』（東京大学出版会、2020年）；定価（3,900円＋税）

※ただし、ゼミ生との協議の結果、輪読する文献を変更する場合がある。その場合は、できる限り新年度開講後すぐに新しく指定した教科書を購入していただく。なお、変更しない場合は3年次ゼミから引き続き検討する文献なので、3年次からの持ち上がりゼミ生は購入不要である。

②最新版（年度）の六法（※判例六法が望ましい。）

③受講ゼミ生が3年次ゼミで使用していた①以外の債権法（契約法）体系書（改正前民法にも対応のものが望ましい。）

※上記3点セットを毎回持参すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

※参考書については、ゼミ中に適宜、情報提供する。

民法専門演習Ⅲ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※以下の計画・各回の内容は、受講ゼミ生の理解度、卒業研究論文の進捗状況等により変更される場合がある。
 ※新型コロナウイルス感染拡大状況により、遠隔授業（Microsoft teamsを用いたリアルタイム対話型形式や対面との複合形態、いわゆる「ハイブリッド型」など）に変更となる回が生じる可能性がある。ゼミ生諸君は、moodleや教員からのメール等を通じて、こまめに正確な情報収集・確認に努められたい。

第1回：ガイダンス ※3年次の研究テーマから変更する者は、事前に教員まで必ず相談すること。※4年次から当ゼミに参加する者は、できる限り早期に卒業研究論文のテーマを案出・提示すること。

第2回：各ゼミ生から、1学期研究計画を発表してもらう（1人5分程度。計画をしっかりと立てて、ゼミの時間外にも研究室に出向く、teamsやメール等で研究成果を送信するなどして、自主的に個別指導を受けること。）。

第3回：文献輪読（上掲指定教科書①）箇所および報告担当順の協議・決定。

第4回：文献輪読と質疑応答①【指定教科書①<第2部 債権の効力 第4章 債務不履行（415条論・債務不履行の要件）>（※この回は、特定の報告者を設けず全員で議論する。）】

※以降、ゼミ生は、正規ゼミの時間およびそれ以外の時間においても、卒業研究論文につき個別指導を積極的に受けること。

第5回：文献輪読と質疑応答②【指定教科書①<第2部 債権の効力 第4章 債務不履行（415条論・債務不履行に基づく損害賠償）>（※報告者A：今年度はゼミ生10名と想定）】

第6回：文献輪読と質疑応答③【指定教科書①<第2部 債権の効力 第4章 債務不履行（416条論・相当因果関係説）>（※報告者B）】

第7回：文献輪読と質疑応答④【指定教科書①<第2部 債権の効力 第4章 債務不履行（416条論・義務射程、保護範囲、平井理論の検討）>（※報告者C）】

第8回：文献輪読と質疑応答⑤【指定教科書①<第2部 債権の効力 第4章 債務不履行（417条以下。過失相殺や賠償者代位など）>（※報告者D）】

第9回：文献輪読と質疑応答⑥【指定教科書①<第2部 債権の効力 第5章 第三者による債権侵害>（※報告者E）】

第10回：文献輪読と質疑応答⑦【指定教科書①<第3部 金融取引法-金銭債権の履行確保 第6章 金銭債権の履行確保に関する諸制度>（※報告者F）】

第11回：文献輪読と質疑応答⑧【指定教科書①<第3部 金融取引法-金銭債権の履行確保 第7章 代物弁済>（※報告者G）】

第12回：文献輪読と質疑応答⑨【指定教科書①<第3部 金融取引法-金銭債権の履行確保 第8章 債権譲渡（意義・改正前民法との制度立付けの相違）>（※報告者H）】

第13回：文献輪読と質疑応答⑩【指定教科書①<第3部 金融取引法-金銭債権の履行確保 第8章 債権譲渡（債権譲渡禁止特約、将来債権の譲渡など）>（※報告者I）】

第14回：文献輪読と質疑応答⑪（完）【指定教科書①<第3部 金融取引法-金銭債権の履行確保 第8章 債権譲渡（債権譲渡の対抗要件論）>（※報告者J）】

第15回：まとめ（ゼミ生による卒業研究中間論文報告会：1人10分弱で報告を行うこと。）

※8月初旬に「卒業研究中間論文」（10,000字以上が「望ましい」。）を期末レポートとして提出してもらう。

成績評価の方法 /Assessment Method

※研究姿勢（論文個別指導を積極的に受けたか否かを含む。）、文献輪読における報告内容および質疑・応答への積極的参加の度合い、中間論文報告会の内容……70%
 ※期末レポートの内容（卒業研究中間論文）……30%
 【注意事項】原則として、上記「中間論文」を提出しない者には単位は付与しない。
 【成績評価において「評価不能（－）」となる基準】全15回のゼミのうち、正当な理由なく6回以上ゼミを欠席した場合、期末レポート（卒業研究中間論文）提出の有無・内容の出来に関係なく「評価不能（－）」とする。ただし、新型コロナウイルス感染や濃厚接触者該当、その他、病気がけが、または忌引きなどによる欠席を除く。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】指定教科書①を事前に熟読し、債権総論上の諸制度について理解を深めておくことが求められる。適宜、ゼミ中にペーパーの提出や発言を求める予定である。なお、この予習に必要な学習時間の目安は90分である。
 【事後学習】文献輪読各回の終了後、理解できなかった点等につき、箇条書きで質問ペーパーの作成・提出を求める予定である。なお、この復習に必要な学習時間の目安は60分である。

履修上の注意 /Remarks

教員が事前に指示した文献・資料等を必ず調べる（卒業研究中間論文執筆について）。また、添削内容を必ず原稿の内容に活かすこと。文献輪読については、報告担当に当たっていないときでも、該当頁を熟読し、上掲・事前学習を進めること。これらの作業をコツコツとこなすことが肝要である。よって、これらの作業を怠る者には単位は付与しない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

じっくり腰を据えて、4年間の研究成果の土台を創り上げていこう！併せて、内田民法の批判的考察を続けよう！

キーワード /Keywords

卒業研究論文（中間論文）執筆、高度な文献輪読、内田民法批判、債権総論、契約法

民法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 矢澤 久純 / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

近時、話題となっている民法（特に債権法分野）改正について考える。2017年5月に民法改正法が成立したが、しかし、学習という観点からは『別冊NBL126号 債権法改正の基本方針』（商事法務、2009年）も重要である。この授業では、全体を4分割したと仮定して、第三の4分の1の部分について考えることとしたい。常に、改正前民法、基本方針、改正後民法の三者を比較検討することが望まれる。この科目の履修は、法律学科所定のゼミ募集において、担当者から出席可と言われた者に限る。この講義に参加することで、民法の考え方が養われるであろう。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 多数の債務者
- 3 一般の保証
- 4 連帯保証、根保証
- 5 売買の意義と成立
- 6 売主の義務
- 7 売買の場合の各種担保責任
- 8 買主の義務
- 9 特殊の売買、交換、贈与の意義と成立
- 10 贈与の効力
- 11 特殊の贈与
- 12 賃貸借の意義と成立、第三者との関係
- 13 賃貸人の義務、賃借人の義務
- 14 賃貸借の終了、使用貸借
- 15 まとめ、レポートの提出

なお、受講生の関心により、上記のテーマに加え、別のテーマの発表となることもありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業のときに一定の報告をしていることを前提に、レポート 100%

「一」（パー）についてであるが、この科目は、いかなる理由であれ、単位を取得できないと判断される場合には、一律、「D」となる。「一」（パー）が付くことはない。

民法専門演習Ⅲ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

主として債権総論及び各論関連の判決を取り扱うので、事前学習（予習）としては、重要な判決について実際に判決文を読んで、論点を考えることが重要となる。事後学習としては、報告された判決の論点について、図書館の各種資料で調査して、議論の内容を復習することが重要である。

履修上の注意 /Remarks

受講期間を通して授業外学習に積極的に取り組むことが期待される。
他の民法科目と同様に、六法は、持参することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

債権、債権法改正、民法改正

民法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

受講者が各自関心を持っている物権法・担保物権法の判例について、判例研究をしてもらう。
毎回の授業は、担当者による判例研究の報告と、それに対する質疑応答という形で進めていく予定である。
判例研究を通して、判例を様々な角度から分析する力を養成する。

(到達目標)

【技能】民法を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている

【思考・判断・表現力】民法学的思考に基づいた判断のプロセスや結論を口頭や文書で論理的に表現することができる

【コミュニケーション力】他の参加者と議論をしながら、協働して民法学的問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている

教科書 /Textbooks

潮見佳男・道垣内弘人編『民法判例百選! 総則・物権（第8版）』（有斐閣，平成30年） 本体2,200円＋税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 判例研究の方法，報告の割り当て
- 第3回～第14回 判例研究（報告担当者による報告，質疑応答）
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み（報告の内容，質疑応答への参加状況などを総合的に評価）…100%
正当な理由なく一度も判例報告を行わなかった場合は，評価不能（-）とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告担当者は，割り当てられた授業日に確実に報告ができるように，責任を持って準備を行うこと。
それ以外の受講者は，次回の報告担当者が報告予定の判例に関する基礎知識を事前に確認しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担保物権法を前年度までに受講済みであることが望ましい。
授業には必ず最新の六法（ポケット六法等の小型のもので良い）を持参すること。
受講者の希望に応じて，ゼミ合宿等の課外活動を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的に授業に参加してもらいたい。
また，新型コロナウイルスの接触感染を予防するとともに，SDGsの「つくる責任 つかう責任」「陸の豊かさを守ろう」を達成するための取り組みとして，この授業における資料の配布は極力Moodle上で行う。

民法専門演習Ⅲ【昼】

キーワード /Keywords

民法 物権法 担保物権法 判例研究

民法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 丸山 愛博 / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

この演習では、民法専門演習Ⅲに引き続き、法的課題を発見し、分析して解決策を考え、それを他者に伝えることができる力を身につけることを目的とします。特に、課題発見・分析・解決力及びプレゼンテーション力を鍛錬に重点を置きます。
この演習の内容は大きく前半と後半に分かれます。前半は、こちらで用意したテーマ（いわゆる1行問題）について報告者に報告してもらい、その報告をもとに議論します。後半は、令和に入ってから出された民法分野の最高裁判決について、その意義を報告者に報告してもらい、その報告をもとに議論します。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 山本敬三監修『民法4債権総論』（有斐閣ストゥディア、2018年）2100円＋税
- 中田裕康『債権総論（第4版）』（岩波書店、2020年）4800円＋税
- 潮見佳男『プラクティス民法債権総論（第5版補訂）』（信山社、2020年）5000円＋税
- 窪田充見＝森田宏樹『民法判例百選②債権（第8版）』（有斐閣、2018年）2300円＋税
- 潮見佳男ほか編『詳解改正民法』（商事法務、2018年）6500円＋税
- 筒井健夫＝村松秀樹『一問一答民法（債権関係）改正』（商事法務、2018年）3600円＋税
- 大村敦志＝道垣内弘人編『解説民法（債権法）改正のポイント』（有斐閣、2017年）3200円＋税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス（自己紹介、演習の進め方・成績評価方法の説明など）
- 第2回テーマ研究(1) 債務と責任
- 第3回テーマ研究(2) 債務不履行と不法行為の競合
- 第4回テーマ研究(3) 履行補助者の故意・過失と債権法改正
- 第5回テーマ研究(4) 債権者代位権の制度趣旨と制度の拡張
- 第6回テーマ研究(5) 不動産の二重譲渡と詐害行為取消権
- 第7回テーマ研究(5) 連帯債務の絶対的効力事由と債権法改正
- 第8回テーマ研究(6) 相殺の担保的機能
- 第9回最新判例研究(1)
- 第10回最新判例研究(2)
- 第11回最新判例研究(3)
- 第12回最新判例研究(4)
- 第13回最新判例研究(5)
- 第14回最新判例研究(6)
- 第15回最新判例研究(7)

成績評価の方法 /Assessment Method

演習中の発表内容及び発言70%、レポートやレジュメなどの成果物30%

民法専門演習Ⅳ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

演習では積極的に発言することが求められます。発言をするためには、事前の学習が不可欠です。指定された文献等は全員が必ず読んでから演習に参加してください。

事後学習は、演習で使用した資料を読み返して分からないことが無いかを確認してください。分からないことがあった場合には、各自で調べて、それでも分からない場合には次回の演習で質問してください。

履修上の注意 /Remarks

授業計画・内容については、履修者数や履修者の理解度に応じて変更することがあります。

なお、5回以上欠席したときは、成績評価は、原則として「評価不能」となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本学に着任して2年目です。少し慣れてきましたがまだまだ分からないこともあるので、ゼミ生の意見を聞きながらより良い演習にしていきたいと思っています。また、演習の最後ですので、総まとめとして、自らの興味関心に基づいて研究をしてもらいます。

キーワード /Keywords

民法 債権法 債権法改正

民法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

テーマ：債権法分野を分析対象とした卒業研究論文の執筆および債権総論文献輪読（4年次1学期より引き続き）

1学期「専門演習Ⅲ」における研究内容を承（う）けて開講される本演習の目的は、次の2点である。1点目は、各ゼミ生の個人戦として、「債権法分野に関わる学術論文（卒業研究論文；20,000字程度）」の執筆を引き続き行い、完成させることである。本演習では、ゼミ生の研究成果を「卒業研究論文」という可視的な“かたち”で残すべく、その基礎・応用作業（文献・資料渉猟、咀嚼、研究ノート作成、および論文執筆）を自主的に行ってもらおう（よって、論文の添削等については個別指導が主となる）。)

2点目は、ゼミ生全員の取組みとして、1学期「専門演習Ⅲ」に引き続き、内田 貴 東大名誉教授の民法体系書（債権総論）の批判的考察を兼ねた文献輪読を行う。この輪読作業を通じて、ゼミ生各位には、卒業研究論文執筆に必要な平成29年改正前民法および改正（現行）民法における債権総論上の諸制度にかかるより高度な知識・識見の涵養に努めてもらう。

以上、相当ハイレベルな演習となるので、生半可な気持ちでは到底「最終目標」に到達できない。よって、中途半端な受講態度は一切認めないので注意すること。なお、本演習では、法的問題点の抽出、文献収集・渉猟の力を高め、また、論文課題・分析基軸の設定を通じた課題発見・分析力等の向上、プレゼンテーション能力の一層の向上・完成をも目指すものとする。

※この科目の到達目標は、下記の通りである。

【「民法専門演習Ⅳ」到達目標】

DP2 技能：民法を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている。

DP3 思考・判断・表現力：民法学的思考に基づいた判断のプロセスや結論を口頭や文書で論理的に表現することができる。

DP4 コミュニケーション力：他の参加者と議論をしながら、協働して民法学的問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

①内田 貴『民法Ⅲ 第4版 債権総論・担保物権』（東京大学出版会、2020年）；定価（3,900円＋税）

※「民法専門演習Ⅲ（4年次1学期）」から引き続き検討する文献なので、新たに購入は不要。なお、ゼミ生との協議の結果、輪読文献を変更する場合は、1学期「民法専門演習Ⅲ」と変わらない。

②最新版（年度）の六法（※判例六法が望ましい。）

③受講ゼミ生が普段使用している①以外の債権法（契約法）体系書（改正前民法にも対応のものが望ましい。）

※上記3点セットを毎回持参すること。

※なお、卒業研究論文執筆に当たっては、各ゼミ生の研究テーマに必要な文献・資料・裁判例等につき、各自、図書館でコピーを取る、文献貸出しを受ける、または古書を購入する等すること。教員も適宜、参照すべき文献等を指示・用意する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

※参照すべき文献・資料等は、ゼミ生および教員が適宜、収集・渉猟する。

民法専門演習Ⅳ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※以下の計画・内容は、各ゼミ生の研究進捗状況等により軌道修正される場合がある。よって、めやすに過ぎない。
 ※新型コロナウイルス感染拡大状況により、遠隔授業（Microsoft teamsを用いたリアルタイム対話型ゼミや、対面との複合形態、いわゆる「ハイブリッド型」など）に変更となる回が生じる可能性がある。ゼミ生諸君は、moodleや教員からのメール等を通じて、しっかりと情報収集・確認に努められたい。

第1回：ガイダンス ※1学期から研究テーマやむを得ずを変更する者は、事前に必ず相談すること。
 第2回：各ゼミ生から、2学期研究計画を発表してもらう（1人7～8分程度。計画をしっかりと立てて、ゼミの正規時間外にも研究室に向く、teamsやメール等で研究成果を送信するなどして、自主的に論文指導を受けること。）
 第3回：文献輪読（上掲・指定教科書①）箇所および報告担当順の協議・決定。
 第4回：文献輪読と質疑応答①【指定教科書①<第3部 金融取引法-金銭債権の履行確保 第8章 債権譲渡（債務者の抗弁、債権譲渡と相殺、その他債権譲渡に関する論点）>（※この回は、特定の報告者を設けず全員で議論する。）】
 ※以降、ゼミ生は、正規のゼミの時間以外においても、卒業研究論文につき個別指導を積極的に受けること。
 第5回：文献輪読と質疑応答②【指定教科書①<第3部 金融取引法-金銭債権の履行確保 第9章 債務引受・契約上の地位の移転（併存的債務引受）>（※報告者A：今年度はゼミ生10名と想定）】
 第6回：文献輪読と質疑応答③【指定教科書①<第3部 金融取引法-金銭債権の履行確保 第9章 債務引受・契約上の地位の移転（免責的債務引受）>（※報告者B）】
 第7回：文献輪読と質疑応答④【指定教科書①<第3部 金融取引法-金銭債権の履行確保 第9章 債務引受・契約上の地位の移転（契約上の地位の移転）>（※報告者C）】
 第8回：文献輪読と質疑応答⑤【指定教科書①<第3部 金融取引法-金銭債権の履行確保 第10章 相殺（相殺の意義・法的性質・相殺適状）>（※報告者D）】
 第9回：文献輪読と質疑応答⑥【指定教科書①<第3部 金融取引法-金銭債権の履行確保 第10章 相殺（相殺の行使方法・効果）>（※報告者E）】
 第10回：文献輪読と質疑応答⑦【指定教科書①<第3部 金融取引法-金銭債権の履行確保 第10章 相殺（差押えと相殺）>（※報告者F）】
 第11回：文献輪読と質疑応答⑧【指定教科書①<第3部 金融取引法-金銭債権の履行確保 第10章 相殺（相殺の担保的機能、ネットイングなどの三当事者間相殺など）>（※報告者G）】
 第12回：文献輪読と質疑応答⑨【指定教科書①<第3部 金融取引法-金銭債権の履行確保 第11章 責任財産の保全（債権者代位権）>（※報告者H）】
 第13回：文献輪読と質疑応答⑩【指定教科書①<第3部 金融取引法-金銭債権の履行確保 第11章 責任財産の保全（詐害行為取消権）>（※報告者I）】
 第14回：文献輪読と質疑応答⑪【指定教科書①<第3部 金融取引法-金銭債権の履行確保 第12章 保証-人的担保>（※報告者J）】
 第15回：まとめに代えて：文献輪読と質疑応答⑫（完）【指定教科書①<第3部 金融取引法-金銭債権の履行確保 第13章 多数当事者の債権債務関係>（※最終回は、特定の報告者を設けず全員で議論する。）】
 ※以上で債権総論部分完全読破。
 ※なお、別途日程を設けて、Microsoft teamsによる遠隔会議により、「卒業研究論文報告会」を行う予定（12月中旬）である。
 ※2023（令和5）年2月初旬：卒業研究論文提出（20,000字程度）

成績評価の方法 /Assessment Method

研究姿勢（卒論指導（個別指導）を積極的に受けたか否かも含む。）40% + 文献輪読報告の内容20% + 卒業研究論文の内容40% = 合計100%で評価する。
 【成績評価において「評価不能（一）」となる基準】全15回のゼミのうち、正当な理由なく6回以上ゼミを欠席した場合、卒業研究論文提出の有無・内容の出来に関係なく「評価不能（一）」とする。ただし、新型コロナウイルス感染や濃厚接触者該当、その他、病気・けが、または忌引きなどによる欠席を除く。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】卒論指導の際、教員が次回指導時まで調べておくこと等を指示した文献・資料等については、必ず涉獵・咀嚼し、研究（原稿執筆）内容に活かすこと。なお、この予習に必要な学習時間の目安は90分である。
 【事後学習】添削指導を受けた後、書き直した原稿を逐次メール等（添付ファイルで原稿送信）で教員に送付すること。この復習に必要な学習時間の目安は90分である。

履修上の注意 /Remarks

就活・公務員試験勉強が忙しいことなどを理由に指導を積極的に受けない者には、特段の事情のない限り、単位を付与しない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

2016（平成28）年度より、4年ゼミが必修となったことで、本演習における「研究成果」の可視化は、従前以上に重要となった。卒業研究論文完成という「大目標」を達成しようと頑張るゼミ生には、教員も最大限サポートさせていただく。一生の思い出になるような研究活動をしよう！諸君の奮励努力を切に望む次第である。

キーワード /Keywords

卒業研究論文執筆、内田 貴の民法学とその批判的検討、契約法、債権総論文献輪読

民法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 矢澤 久純 / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

近時、話題となっている民法（特に債権法分野）改正について考える。民法改正をめぐっては、2017年5月に改正法が成立したわけであるが、学習上は、『別冊NBL 126号 債権法改正の基本方針』（商事法務、2009年）も重要である。この授業では、全体を4分割したと仮定して、最後の4分の1の部分について考えることとしたい。常に、改正前民法、基本方針、改正後民法の三者を比較検討することが望まれる。そして、受講生が関心を持ったテーマについての小論文執筆も予定している。いわゆる卒論については、もし小論文を卒論にまで高めたいという希望者がいれば、一定の指導を行う。無理に卒論を書く必要はない。この科目の履修は、法律学科所定のゼミ募集で担当者から出席可と言われた者に限る。この講義に参加することで、民法の考え方が養われるであろう。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要があれば指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 消費貸借
- 3 ファイナンス・リース
- 4 役務提供
- 5 請負
- 6 委任
- 7 寄託
- 8 雇用
- 9 組合
- 10 終身定期金、和解
- 11 第三者のためにする契約
- 12 継続的契約等、法律に基づく債権
- 13 受講生の興味を持ったテーマの小論文発表の準備（資料収集と問題点の指摘）
- 14 受講生の興味を持ったテーマの小論文発表と検討（議論）
- 15 まとめ、レポート（小論文）の提出

なお、受講生の関心により、上記のテーマに加え、別のテーマの発表となることもありうる。

民法専門演習Ⅳ【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に所定の報告をやっていることを前提に、レポート(小論文).....100%
「一」(パー)についてであるが、この科目は、いかなる理由であれ、単位を取得できないと判断される場合には、一律、「D」となる。「一」(パー)が付くことはない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

主として債権各論関連の判決を取り扱うので、事前学習(予習)としては、重要な判決について実際に判決文を読んで、論点を考えることが重要となる。事後学習としては、報告された判決の論点について、図書館の各種資料で調査して、議論の内容を復習することが重要である。

履修上の注意 /Remarks

受講期間を通して授業外学習に積極的に取り組むことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

債権、債権法改正、民法改正

民法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル	●	民法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	●	自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力	●	コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

1学期に引き続き、受講者が各自関心を持っている物権法・担保物権法の判例について、判例研究をしてもらう。
毎回の授業は、担当者による判例研究の成果の報告と、それに対する質疑応答という形で進めていく予定である。
判例研究を通して、判例を様々な角度から分析する力を養成する。

(到達目標)

【技能】民法を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている

【思考・判断・表現力】民法学的思考に基づいた判断のプロセスや結論を口頭や文書で論理的に表現することができる

【コミュニケーション力】他の参加者と議論をしながら、協働して民法学的問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている

教科書 /Textbooks

潮見佳男・道垣内弘人編『民法判例百選! 総則・物権（第8版）』（有斐閣，平成30年） 本体2,200円＋税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス，報告の割り当て
第2回～第14回 判例研究（報告担当者による報告，質疑応答）
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み（報告の内容，質疑応答への参加状況などを総合的に評価）…100%
正当な理由なく一度も判例報告を行わなかった場合は，評価不能（-）とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告担当者は，割り当てられた授業日に確実に報告ができるように，責任を持って準備を行うこと。
それ以外の受講者は，次回の報告担当者が報告予定の判例に関する基礎知識を事前に確認しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担保物権法を前年度までに受講済みであることが望ましい。
授業には必ず最新の六法（ポケット六法等の小型のもので良い）を持参すること。
受講者の希望に応じて，ゼミ合宿等の課外活動を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的に授業に参加してもらいたい。
また，新型コロナウイルスの接触感染を予防するとともに，SDGsの「つくる責任 つかう責任」「陸の豊かさを守ろう」を達成するための取り組みとして，この授業における資料の配布は極力Moodle上で行う。

民法専門演習Ⅳ【昼】

キーワード /Keywords

民法 物権法 担保物権法 判例研究

企業法専門演習I【昼】

担当者名 今泉 恵子 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 企業法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業法専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

本演習では、企業者間の商取引、企業と消費者との商取引に関わる法的問題を取り扱った文献や重要判例の分析・検討を行う。この作業を通して、商取引法・金融取引法についての理解を深めます。

本演習の目標は、ゼミ参加者がみずから選択した文献あるいは判例について、ゼミ内で報告討論することによって、企業法上の問点や課題を発見したり、それらに取り組む楽しさを味わうこと、そして、企業法上のテーマに関する情報を収集・分析・整理するスキルを磨き、プレゼンテーションやディスカッションの能力を高めることにあります。

以上の目標達成のため、まず、各自で、研究テーマを設定する作業を行います。

そして、毎回、順番に従って、報告者が報告した内容について、質疑応答後、自由にディスカッションを行います。前回の報告者が、次の回の報告者のために、司会者を務めます。

最終的には、期末に報告したテーマをレポートとしてまとめることを目指します。

(到達目標)

- ・ 企業法に関する課題の解決に必要な情報を自ら収集・分析・整理するための基礎的な技法を身につけている。
- ・ 企業法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。
- ・ 他の参加者と議論をしながら、協働して企業法に関する課題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

テキスト・参考文献については、各自のテーマ毎に、適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

テキスト・参考文献については、各自のテーマ毎に、適宜指示します。

企業法専門演習I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ゼミの運営方針を確認し、判例研究・事例研究の意義を学ぶ。
- 第2回 研究テーマを決め、効果的な報告を行うための技術を再確認する
- 1, 選択を希望する判例・事例等について、問題意識を確認・明確化する。
 - 2, 担当候補判例を暫定的に決定する。
 - 3, 報告要旨(レジュメ)作成の方法について学ぶ。報告順番を決定する。
- 第3回 受講者各自で、暫定候補テーマについてさらに詳しくリサーチする
- 1, 関連する裁判例や判例解説の有無や件数を図書館等で検索してみる。
 - 2, 候補テーマがゼミでの報告対象にしやすい判例かどうか、見極める。
- 第4回～第15回 各担当者による報告と参加者全員による討論
- 1, 報告担当者は次の役割を担います。
 - ①前週までにテーマ関連情報(事件・裁判例・献名等)を受講者全員に予告すること
 - ②発表日に向け、必要に応じて、司会者と協議しておくこと
 - ③事(件)案の概要、判決要旨については簡潔に文書化しておくこと。
 - ④争点に関する学説・判例の状況も簡単にまとめておくこと。
 - ⑤理由を明示しながらテーマについての自己の見解を表明すること
 - ⑥質問等に答えながら、自己の見解を展開していくこと
 - 2, 他の参加者は次の役割を担います。
 - ①翌週報告予定のテーマについてあらかじめ頭に入れておくこと。
 - ②報告後の質疑応答に参加すること
 ※文献紹介の場合には、担当者が、文献概要について報告します。さらに、論旨展開のあり方についての評価・批評なども行います。それを受けて参加者全員で議論します。
 - 3, 講義担当教員は、以上の内容が効果的に行われ、かつ、テーマについての理解や関心がより深まるように、司会者と協力して適時に適切なアドバイスや情報提供を行います。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 必須の課題(報告の他、レポート作成を含む。)への取り組み50%
- ゼミディスカッションへの参加度50%
- 一評価不能:ゼミへの参加(出席)がまったくなかった場合
- D評価:最低合格点60点(ゼミ自体への参加度=出席を含む)に満たなかった場合。
無断欠席、ならびに、ゼミを3分の1以上欠席した場合には、参加度が著しく低くなります。
正当な理由なき「頻繁なる遅刻」は、ゼミへの参加度が「著しく低い」と見なします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 1, 報告担当者は、報告発表の要旨=レジュメを事前に作成し、参加者人数分用意すること。
- 2, 報告者以外のゼミ参加者は、次回報告予定のテーマに関する議論状況等を予習した上で、ゼミに参加すること。
- 3, 報告者は、ゼミでの議論を振り返り、事後的に再度、論点に関する自説をまとめ直し、必要な資料の補充に努めること。

履修上の注意 /Remarks

- ・原則として、企業法専門演習IとIIは、セットで受講してください。
- ・授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に積極的に取り組むことが重要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業後の希望進路を意識しながら研究テーマを設定することなどを通して、ゼミ学習と業界研究を効率的に行うことができるよう工夫することが重要です。
必要に応じて、4年生ゼミとの合同で、研究発表会、インターンシップ体験談発表会、就職活動報告会、キャリア資格取得情報交換会なども開催する予定です。

キーワード /Keywords

商取引 企業取引 金融取引 銀行取引 保険取引 証券取引

企業法専門演習I【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 企業法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業法専門演習 I

SEM311M

授業の概要 /Course Description

会社法に関する重要判例の分析を通じて、会社法の理解を深めること、情報の収集・整理のためのスキルや法的分析力・論理的思考力を身につけること、プレゼンテーションやコミュニケーションの能力を高めることを目的とします。

(到達目標)

【技能】 企業法に関する課題の解決に必要な情報を自ら収集・分析・整理するための基礎的な技法を身につけている。

【思考・判断・表現力】 企業法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。

【コミュニケーション力】 他の参加者と議論をしながら、協働して企業法に関する課題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

最初の授業で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～15回 個別報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、日常の授業への取り組み...50%
(ゼミを放棄したと認められる場合は「-」となります。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行ってください。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

履修上の注意 /Remarks

会社法を履修済みであることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業法専門演習Ⅱ【昼】

担当者名 今泉 恵子 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 企業法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業法専門演習Ⅱ

SEM312M

授業の概要 /Course Description

本演習では、次の①～④に関わる法律問題を対象とする判例・論文等の分析・検討を行います。

- ①企業間の取引、
- ②企業と国 / 地方公共団体との取引、
- ③公法人が行う収益事業、
- ④企業と一般消費者との取引など

本演習は、受講者がゼミ形式の授業をすでに経験し、法律文献の読み方についての基礎知識があることを前提に実施されるものです。参加者が選択した文献・判例について、報告・討論する能力を高めると共に、期末にレポートを作成することが最終目標となります。

(到達目標)

- ・ 企業法に関する課題の解決に必要な情報を自ら収集・分析・整理するための基礎的な技法を身につけている。
- ・ 企業法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。
- ・ 他の参加者と議論をしながら、協働して企業法に関する課題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

テキストは、特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自が選択した判例・文献に応じて、その都度、参考文献を指示する予定です。

企業法専門演習II【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション 判例研究・事例研究の意義を再確認する。
 第2回 研究テーマを選択にあたっての問題意識を確認・明確化する。
 第3回～第14回 各担当者による判例についての報告と参加者全員による討論
- (1) 報告担当者は次の役割を担います。
- ①前週までにテーマ関連情報(事件・裁判例・献名等)を受講者全員に予告すること
 - ②発表日に向け、必要に応じて、司会者と協議しておくこと
 - ③事(件)案の概要、判決要旨については簡潔に文書化しておくこと。
 - ④争点に関する学説・判例の状況も簡単にまとめておくこと。
 - ⑤理由を明示しながらテーマについての自己の見解を表明すること
 - ⑥質問等に答えながら、自己の見解を展開していくこと
- (2) 他の参加者は次の役割を担います。
- ①翌週報告予定のテーマについてあらかじめ頭に入れておくこと。
 - ②報告後の質疑応答に参加すること
- ※文献紹介の場合には、担当者が、文献概要について報告します。
 さらに、論旨展開のあり方についての評価・批評なども行います。
 それを受けて参加者全員で議論します。
- (3) 講義担当教員は、以上の内容が効果的に行われ、かつ、
 テーマについての理解や関心がより深まるように、
 司会者と協力して適時に適切なアドバイスや情報提供を行います。
- 第15回 今年度の総括と来年度の課題(研究テーマ)設定ないしは絞り込み

成績評価の方法 /Assessment Method

- 必須の課題(報告の他、レポート作成を含む。)への取り組み50%
 ゼミディスカッションへの参加度50%
 一評価不能:ゼミへの参加(出席)がまったくなかった場合
 D評価:最低合格点60点(ゼミ自体への参加度=出席を含む)に満たなかった場合。
 無断欠席、ならびに、ゼミを3分の1以上欠席した場合には、参加度が著しく低くなります。
 正当な理由なき「頻繁なる遅刻」は、ゼミへの参加度が「著しく低い」と見なします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 1.報告担当者は、報告発表の要旨=レジュメを事前に作成した上で、そのコピーを参加者人数分用意し、教員研究室前のテーブルの上に提出しておくこと
- 2.報告者以外のゼミ参加者は、上記コピーを事前に受領して目を通したり、自らも関連資料に目を通したりして、問題点・争点等を把握した上でゼミに参加すること
- 3.議論を振りかえって、論点に関する自説を事後的に再度まとめ直すこと

履修上の注意 /Remarks

- ・原則として、企業法専門演習IとIIは、セットで受講してください。
- ・授業中に指示された範囲の予習・復習をはじめ、授業外学習に積極的に取り組むことが重要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・必要に応じて、4年生と合同の研究報告会、インターンシップ体験談発表会、就職活動体験談発表会等を実施する予定です。

キーワード /Keywords

企業法専門演習II【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 企業法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業法専門演習II

SEM312M

授業の概要 /Course Description

会社法に関する重要判例の分析を通じて、会社法の理解を深めること、情報の収集・整理のためのスキルや法的分析力・論理的思考力を身につけること、プレゼンテーションやコミュニケーションの能力を高めることを目的とします。

(到達目標)

【技能】 企業法に関する課題の解決に必要な情報を自ら収集・分析・整理するための基礎的な技法を身につけている。

【思考・判断・表現力】 企業法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。

【コミュニケーション力】 他の参加者と議論をしながら、協働して企業法に関する課題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～15回 個別報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、日常の授業への取り組み...50%
(ゼミを放棄したと認められる場合は「-」となります。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

履修上の注意 /Remarks

会社法を履修済みであることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 企業法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

企業取引法・金融取引法に関する重要判例などの分析検討を通じて、企業取引法・金融取引法に関する理解をさらに深めることを目的とします。
また、情報の収集・整理のためのスキルや法的分析力・論理的思考力をさらに高め、卒業後の進路を見据えた上でのプレゼンテーションやコミュニケーションの能力を磨くことを目的とします。
なお、この授業は受講者それぞれに対して個別に実施されるものと、受講者全員に対して集団的に実施されるものとから成り立っています。卒業レポートを作成することが具体的な最終目標となります。

(到達目標)

- ・ 企業法を解釈・適用するための基礎的な技法を身につける。
- ・ 法的思考に基づいた判断のプロセスや結論を口頭や文書で論理的に表現することができる。
- ・ 他の参加者と議論をしながら、協働して企業法に関する課題の解決に向けて取り組む姿勢を身につける。

教科書 /Textbooks

最初の授業で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実際のスケジュールの詳細については、受講者のニーズに合わせて受講者と相談の上で決定します。

- 第1回 (1)運営方針についてのガイダンス
(2)各自が関心を持っているテーマについての発表を通して問題意識を明確化する
- 第2回～第3回 自分の問題関心に沿った卒業レポート作成の難易度を査定する作業を各自が行う
図書・データベース等の情報検索を通して関連文献リストを、各自作成する。
- 第4回～第12回 個別報告とディスカッション
- 第13回～第15回 卒業レポート提出へ向けたアウトライン第一次中間報告会
(目次設定・これまでの参考文献一覧、夏休みに読む参考文献目録の提出)

成績評価の方法 /Assessment Method

必須の課題(報告の他、レポート作成を含む。)への取り組み50%

ゼミディスカッションへの参加度50%

一評価不能:ゼミへの参加(出席)がまったくなかった場合

D評価:最低合格点60点(ゼミ自体への参加度=出席を含む)に満たなかった場合。

無断欠席、ならびに、ゼミを3分の1以上欠席した場合には、参加度が著しく低くなります。

正当な理由なき「頻繁なる遅刻」は、ゼミへの参加度が「著しく低い」と見なします。

企業法専門演習Ⅲ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の授業外学習に積極的・主体的に取り組むこと
報告時の議論を振り返り、再度、関連する追加資料にあたったうえで、レポートの作成に努めること

履修上の注意 /Remarks

- ・ 時間帯等については、受講者と相談の上で決定します。
- ・ 企業法専門演習Ⅰ・Ⅱをすでに受講済であることが望ましい。
- ・ 企業法専門演習Ⅲ・Ⅳは、原則としてセットで受講してください。
- ・ 必要に応じて、3年ゼミ生と合同で研究発表会、インターンシップ体験談発表会、就職活動体験談発表会等を実施する予定です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業法専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 企業法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業法専門演習Ⅲ

SEM411M

授業の概要 /Course Description

コーポレート・ガバナンスやM&Aに関する新しい判例等の検討により、会社法に関する理解を更に深めることを目的とします。

【技能】 企業法を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている。

【思考・判断・表現力】 法的思考に基づいた判断のプロセスや結論を口頭や文書で論理的に表現することができる。

【コミュニケーション力】 他の参加者と議論をしながら、協働して企業法に関する課題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

最初の授業で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～15回 個別報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、日常の授業への取り組み...50%
(ゼミを放棄したと認められる場合は「-」となります。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

履修上の注意 /Remarks

会社法を履修済みであることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 企業法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

本演習は、企業取引法・金融取引法に関する重要判例の分析を通じて、企業取引法・金融取引法の理解をさらに深めることをねらいとしています。

また、受講者各自は、学期末における卒業レポートの提出に向けて、第2次中間報告を行うとともに、卒業後の進路を見据えた上でのプレゼンテーションやコミュニケーションの能力を磨くことを目的に、進路希望先の機関・企業・団体等に特徴的な法的問題について議論する機会も、適宜、設ける予定です。

(到達目標)

- ・ 企業法を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている。
- ・ 法的思考に基づいた判断のプロセスや結論を口頭や文書で論理的に表現することができる。
- ・ 他の参加者と議論をしながら、協働して企業法に関する課題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

最初の授業で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業は、受講者それぞれに対して個別指導の形で実施されるものと、受講者全員に対して集団的に実施されるものにより成り立っています。スケジュールの詳細は、受講者のニーズに合わせて受講者と相談の上で決定します。

- 第1回 1学期および夏休み期間中の研究活動の総括と今後の流れの確認
各自が決定している卒業レポートのテーマ概要についての発表を通して、問題意識を明確化する。
- 第2回～第14回 各受講者による第2次中間報告会、各受講者に対する個別論文指導
- 第15回 総まとめ（卒業レポート提出へ向けた最終校正作業の確認）

成績評価の方法 /Assessment Method

中間報告および日常の授業への取り組み：50%、卒業レポート：50%
一評価不能：ゼミへの参加（出席及び報告）がまったくなかった場合
D評価：最低合格点60点（ゼミ自体への参加度＝出席を含む）に満たなかった場合。
無断欠席、ならびに、ゼミを3分の1以上欠席した場合には、参加度が著しく低くなります。
正当な理由なき「頻繁なる遅刻」は、ゼミへの参加度が「著しく低い」と見なします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告者は事前にレジメを作成して受講者に配布すること
受講期間を通して、卒業レポート作成へ向けた課外学習に積極的に取り組むこと

企業法専門演習Ⅳ【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 時間帯等については、受講者と相談の上で決定します。
- ・ 企業法専門演習Ⅰ・Ⅱをすでに受講済であることが望ましいです。
- ・ 企業法専門演習Ⅲ・Ⅳは、原則としてセットで受講してください。
- ・ 必要に応じて、3年ゼミ生と合同で、研究発表会、インターンシップ体験談発表会、就職活動体験談発表会等を実施する予定です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業法専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	
技能	専門分野のスキル	● 企業法に関する法的情報を収集・分析・整理するスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	● 自らの思考・判断のプロセス・結論を口頭や文章で明確に説明できる力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	● コミュニケーション実践を通じ、多様な意見の尊重、他者との相互理解、協働して問題発見・解決に取り組むことの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業法専門演習Ⅳ

SEM412M

授業の概要 /Course Description

コーポレート・ガバナンスやM&Aに関する最近の論点の検討を通じて、会社法に関する理解を更に深めることを目的とします。

【技能】企業法を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている。

【思考・判断・表現力】法的思考に基づいた判断のプロセスや結論を口頭や文書で論理的に表現することができる。

【コミュニケーション力】他の参加者と議論をしながら、協働して企業法に関する課題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

最初の授業で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の授業で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～15回 個別報告とディスカッション

成績評価の方法 /Assessment Method

報告...50%、日常の授業への取り組み...50%
(ゼミを放棄したと認められる場合は「-」となります。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

履修上の注意 /Remarks

会社法を履修済みであることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代法曹論 0 【昼】

担当者名 中村 英樹 他
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
						○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会における多様な法律実務の意義と役割を理論と実践の双方から理解する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代法曹論 0

LAW101M

授業の概要 /Course Description

(到達目標)

- 【知識】法学部卒業生としての強みを活かしたキャリア形成に必要な情報を収集・分析することができる
- 【コミュニケーション力】他者と協働して法的問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている
- 【自律的行動力】法的問題への関心とキャリア意識を持ち続け、より良い社会の実現に向けて行動する姿勢を身につけている

本講義は、法学部の学生に卒業後の進路を意識しながら法律学を学習するきっかけを与えるとともに、法学部卒業生としての強みを活かしてどのような道を進むことができるのか、さまざまなモデルを提供しようとするものである。
具体的には、国の行政機関・司法機関、地方公共団体の現場、法科大学院教員・実務法曹等の方々、学外講師として各1回の講義を担当し、それぞれの職務内容を紹介しながら、職務経験を通して見えてくる「法を学ぶことの意義」「法を学ぶ者の役割」などについて講義を行う。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業科目です。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴することが求められます。
原則として、Moodleから資料等をダウンロードして、授業動画をオンデマンドで視聴してください。
毎回、Formsを利用して出席（動画視聴）の確認を行います。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。
Moodleでレジュメその他の資料を配布して講義を進める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時、必要と思われる資料を紹介する。
『ポケット六法』（有斐閣）や『デイリー六法』（三省堂）、『法学六法』（信山社出版）といった「最新の」六法（2022年・令和4年版）が手もとにあるとよい（種類・出版社を問わない。）。

現代法曹論Ⅰ 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 憲法を学ぶ社会的意義【法科大学院教員】
- 3回 労働法を学ぶ社会的意義【法科大学院教員】
- 4回 法律関連資格とそのキャリアパス【特定行政書士】
- 5回 税理士の仕事【税理士】
- 6回 公務員の職種と業務・国家資格の取得
- 7回 国家公務員の仕事～税務と法律～【税務署】
- 8回 警察官の仕事【警察官】
- 9回 矯正施設の仕事【刑務官等】
- 10回 実務法曹と法律隣接職、そのキャリアパス【弁護士】
- 11回 裁判官の仕事【裁判官】
- 12回 裁判所の仕事【裁判所職員】
- 13回 地方公務員の仕事と法律（県）【県庁】
- 14回 地方公務員の仕事と法律（市）【市役所】
- 15回 まとめとレポート課題

※講師の都合等で内容や順番が変更となることがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート（100％）で評価する。
ただし、5回以上欠席した者にはレポートの提出資格を認めない。

5回以上欠席の場合、または期末レポートを提出しなかった場合は、評価不能（－）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 【予習】 指定された範囲の資料等に目を通して講義に臨むこと。
- 【復習】 講義終了後は、講義内容をノートに要約するなどして復習すること。

履修上の注意 /Remarks

この科目を履修後に「現代法曹論Ⅰ」や「現代法曹論Ⅱ」、「法律実務論Ⅰ」や「法律実務論Ⅱ」を履修することで、講義内容をさらに発展させることができる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義は、法科大学院をはじめ、政府諸機関や地方公共団体と連携して開講する講座です。現場の第一線で働く実務家を招聘して現実社会と法学とを結びつけることで、受講者のキャリア形成を促進するものとなることを期待しています。

キーワード /Keywords

法学 法学入門 法律関連職 法律関連資格 国家公務員 地方公務員 特別職公務員 キャリア・デザイン

この授業は、SDGsの16「平和と公平をすべての人に」という目標に関連しています。

法思想史【昼】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	法思想史の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法思想史上の課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	社会が抱える諸問題に対する自らの関心を高め、様々な法思想の歴史を学ぶことにより、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法思想史

LAW210M

授業の概要 /Course Description

本講義では、古代から中世、近代を経て現代に至る西洋法思想の伝統をたどることにより、法と正義をめぐる基礎的な視座を探究する。具体的には、「自然法論と法実証主義」という伝統的な法思想上の思考枠組や現代正義論との関連などを意識しながら、各時代の代表的な法思想家の説をとりあげ検討することによって、その探究のための手掛かりを得ることとする。各時代の代表的な法思想との対比によって、現代に生きるわれわれが有している法的思考様式の特徴を捉えたうえでそれを相対化することもまた、可能となるであろう。

(到達目標)

【知識】法思想史に関する知識を体系的に身につけている。

【技能】法思想史の理解に必要な情報を収集・分析・整理することができる。

【思考・判断・表現力】法思想史の理解を通じて課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際には、適宜レジュメや資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

下記の参考書のうち、酒匂一郎『法哲学講義』（成文堂、2019年）については、講義の中で適宜言及したいと考えている。入手可能であれば、参考書として理解に役立つと思われる。

酒匂一郎『法哲学講義』（成文堂、2019年）

○深田三徳、濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想 第2版』（ミネルヴァ書房、2015年）

○田中成明、竹下賢、深田三徳、亀本洋、平野仁彦『法思想史[第2版]』（有斐閣、1997年）

○三島淑臣『法思想史[新版]』（青林書院、1993年）

長谷部恭男『法とは何か 法思想史入門』（河出ブックス、2015年）

瀧川裕英、宇佐美誠、大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）

○竹下賢・角田猛之・市原靖久・桜井徹編『はじめて学ぶ法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2010年）

○中山竜一『二十世紀の法思想』（岩波書店、2000年）

○F・ハフト『正義の女神の秤から』（木鐸社、1995年）

法思想史【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 法思想史とは
- 第2回 「自然法論と法実証主義」をめぐる法思想史① ~ J・ロックの自然権論
- 第3回 「自然法論と法実証主義」をめぐる法思想史② ~ 近代的自然法論
- 第4回 「自然法論と法実証主義」をめぐる法思想史③ ~ 古典的自然法論(トマス・アキナスなど)
- 第5回 法思想史とは(中間考察) ~ 「法典論争」(サヴィニーなど)
- 第6回 「自然法論と法実証主義」をめぐる法思想史④ ~ ケルゼンの純粹法学
- 第7回 「自然法論と法実証主義」をめぐる法思想史⑤ ~ ハートの法の概念: J・オースティンとハート
- 第8回 「法と正義」をめぐる法思想史① ~ J・ロールズの功利主義批判: ペンサムやミルとの関連から
- 第9回 「法と正義」をめぐる法思想史② ~ J・ロールズの正義論
- 第10回 「法と正義」をめぐる法思想史③ ~ R・ノージックのリバタリアニズム: J・ロールズとの関連から
- 第11回 「法と正義」をめぐる法思想史④ ~ R・ノージックのリバタリアニズム: J・ロックとの関連から
- 第12回 「法と正義」をめぐる法思想史⑤ ~ R・ドゥオーキンの権利論
- 第13回 「法と正義」をめぐる法思想史⑥ ~ R・ドゥオーキン(裁判と法解釈)
- 第14回 「法と正義」をめぐる法思想史⑦ ~ 共同体主義: アリストテレスとの関連から
- 第15回 法思想史のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%
試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前には、テキストの巻末の索引を利用しながら該当箇所を読み、予習すること。講義後には、各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

履修上の注意 /Remarks

「現代正義論」を1年次に受講していれば、より理解しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、SDGsの「10.人や国の不平等をなくそう、16.平和と公正をすべての人に」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

自然法論 法実証主義 正義論 権利論

外国法【昼】

担当者名 前裕 大志 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	外国法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	外国法における課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える外国法に関連した諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

外国法

LAW212M

授業の概要 /Course Description

「外国法」は、日本法を省察する際の比較対照の素材として有用である（いわば「外なる外国法」）だけでなく、法継受や学術交流などにより日本法それ自体の形成・発展に大きな影響を残しているもの（いわば「内なる外国法」）でもあります。本科目では、まず、歴史・社会・統治機構・法源の観点から、外国法を学ぶ意義について概観します。その後、主にドイツ法を素材として、その憲法構造や統治機構・権利保障のあり方などについて、日本法との異同も踏まえながら概説します。

（到達目標）

【知識】外国法に関する知識を体系的に身につけている

【技能】外国法の理解に必要な情報を収集・分析・整理することができる

【思考・判断・表現力】外国法の理解を通じて課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

なし。各回につきレジユメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

村上淳一＝守矢健一 / ハンス・ペーター・マルチュケ『ドイツ法入門〔改訂第9版〕』（有斐閣、2018年）

○初宿正典訳『ドイツ連邦共和国基本法—全訳と第62回改正までの全経過』（信山社、2018年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション・本講義の基本情報
- 第2回 外国法とは何か
- 第3回 外国法を学ぶ意義（1）【歴史の観点】
- 第4回 外国法を学ぶ意義（2）【社会の観点①：法・立法と社会】
- 第5回 外国法を学ぶ意義（3）【社会の観点②：法学説と社会】
- 第6回 外国法を学ぶ意義（4）【統治機構の観点①：裁判所制度】
- 第7回 外国法を学ぶ意義（5）【統治機構の観点②：政治部門の諸類型】
- 第8回 ドイツ法（1）【憲法構造の基本原則①：民主制】
- 第9回 ドイツ法（2）【憲法構造の基本原則②：連邦制】
- 第10回 ドイツ法（3）【憲法構造の基本原則③：法治国家・社会国家】
- 第11回 ドイツ法（4）【連邦の立法・連邦議会】
- 第12回 ドイツ法（5）【連邦議会の選挙制度】
- 第13回 ドイツ法（6）【連邦大統領・連邦政府】
- 第14回 ドイツ法（7）【連邦憲法裁判所】
- 第15回 まとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験100%

定期試験を受験しなかった場合は評価不能（－）とします。

外国法【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義に先立ってレジユメを学習支援システムMoodleにアップロードしますので、毎回、事前学習として通覧するようにしてください。
事後学習として、上記の参考書なども参照しながら、毎回の講義内容をよく復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

外国法、ドイツ法、比較法

法社会学【昼】

担当者名 林田 幸広 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	法社会学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法社会学上の課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える法社会学に関連した諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法社会学

LAW211M

授業の概要 /Course Description

法社会学は、実定法解釈学とは異なる視角から、法 / 規範現象を観察・分析し、言語化する学問です。

みなさんが普段学んでいる法解釈学が、法システムの「内部」に関する学知だとするならば、ひとまず法社会学は、法システムをその「外部」から観察していく学知であるといえ、法や社会規範が、社会の中で、いかなる意味や機能を纏っているのかにつき、多様なアプローチを用いつつ考察していくのが大きな特徴です。

「自明（＝当たり前）」と思っていたことでも、ちょっとだけ視点をずらせば、まったく違った見え方になる—こうした経験は、多少なりとも、みなさんお持ちではないでしょうか。それと同じように、法社会学というメガネを通して眺めてみれば、日々の現実が、実は、さまざまな仕組みの複雑な関係の上にして多分に「偶発的に」成立していることが見えてきます。本講義を通じて、まずはこの「自明性を相対化する思考」（＝別様でもありえた / ありえる視点）を実感していただければと思います。

でもそれは、社会の裏側を知るためでも黒幕（！）の存在を暴くためでもありません。ましてや、他人を批判・非難して自己満足するためのものでもありません。わたしたちの社会のなかで生じる現象は、どんな些細なことであれ、決して一枚岩ではないことを知ること、そして現実への単純な意味づけを求めてしまいがちな自分自身の感性をリフレクシブに高めていくこと、さらにそうした現実に応答しうるための柔軟な思考を磨くこと、これらをみなさんが日々主体的に実践していくことをいくらかでもお手伝いできれば、本講義の目的の大半は達成されたことになりそうです。

もし私たちの社会が単純明快に見えるとすれば（ちなみに「実は裏で〇×が糸を引いている！」類の陰謀観もまた、ある意味究極の明快さ＝単純さを持ってますよね）、それを自明視させている「仕掛け」こそが問われるべきでしょうし、ひょっとしてそれは観察者自身のメガネが曇っているからなのかもしれません。

目先の効用・有効性とは距離をとった地点から、法的・社会的現象を理論的に思考する。「何でそんなことを考える必要があるのか」「決まりきっているではないか」という地点を「あえて」踏み越え / 追い込み考えてみる。そんな知的 / 時間的余裕をもてるこそ「大学生の特権」だとすれば、本講義はまさにその「特権」を最大限に行使してゆく、ということになるでしょうか。このように、講義のねらいはいささか抽象的です。少なくとも、定型の正しい情報の教授 / 暗記をすればよしとする向きにはまったく！期待に沿えないと思います。ポイントは、講義を聴き終えた時に「多様で柔軟な思考」のノリや勘どころをどのくらい「実感」できるか—ですが最終的には、それはみなさん方一人ひとりの日常「実践」にかかっています。

受講生には、こうした法社会学的思考の多元性やその意義を理解してもらい、それを以って法解釈学的な知見を豊饒化してもらおうとともに、日々の生活の中での問題発見・問題構築の力を養っていくことを望んでいます。

さしあたり、「役に立つ / 立たない」、「よい / わるい」、「自明（フツー） / ヘン」といった背髄反射的に立ち現れる枠組みを横に置いて、社会の規範現象を分析できるようになることをねらいとします。以下に到達目標も示しておきます。

（到達目標）

【知識】法社会学に関する基礎的な知見を身につけている

【技能】法社会学的分析に求められる基本的な情報を収集・整理することができる

【思考・判断・表現力】法社会学の基礎的知見を通じて課題を発見し、解決策や代替案を表現できる

教科書 /Textbooks

使用しません。テーマごとにレジユメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

林田幸広 / 土屋明広 / 小佐井良太 / 宇都義和編、『作動する法 / 社会』、ナカニシヤ出版、2021年。
そのほかは講義中に指示します。

法社会学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション(講義の進め方等についての説明)
- 2回 法社会学的観察とは何か(1)【法システムの「内部」と「外部」】という視点
- 3回 法社会学的観察とは何か(2)【法社会学的アプローチの多元性】
- 4回 法社会学的観察とは何か(3)【法社会学の学問的出自と歴史的系譜】
- 5回 社会秩序の根拠は何か(1)法学における【秩序問題】
- 6回 社会秩序の根拠は何か(2)社会学における【秩序問題】
- 7回 現代社会における法の機能(1)【法機能】の多元化
- 8回 現代社会における法の機能(2)【現代法化論】の両義性
- 9回 フリーライダー問題にみる社会制度の陥穽(1)【フリーライダー問題】の「かたち」
- 10回 フリーライダー問題にみる社会制度の陥穽(2)【「正解」の出ない社会問題】への対処例と悩みどころ
- 11回 フリーライダー問題にみる社会制度の陥穽(3)【ゲーム理論】を援用した対処とその問題
- 12回 現代法化社会を考える(1)法と【権力】
- 13回 現代法化社会を考える(2)法と【リスク】
- 14回 現代法化社会を考える(3)法と【主体】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業で扱ったテーマに関連した課題への取り組み…30%
 - ・ 全編論述式の定期試験…70%
- (より詳しくは初回講義時に説明しますので必ず出席してください)
※定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：プリントが事前に配布される際には、それに目を通し、自分なりに概要や流れを掴んでおくこと。意味の分からない語句については自分なりに調べたうえで授業に臨むこと。
事後学習：授業終了後には、配布されたレスポンスペーパーに、その回のコメントや感想などを書いてください。その際、なぜそう考えるのかの理由と、考えに伴って新たに生まれてくる(ハズの)問いを自分なりの言葉で説明するように心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

抽象的・論理的思考を厭わないでください。いっけん「あたりまえなこと」を前に、それが「なぜ/いかにして」あたりまえになっているのかを、折に触れて考えるようにしてください。
初回の講義において、講義の運営方法や評価方法、そして法社会学という学問分野の「ノリ」の一端を紹介しますので、必ず出席の上お聞き逃しの無いように願います。そのうえで、あなた自身が本講義にどのように取り組んでいくのかにつき、自己決定してください(この場合の自己決定には自己責任が伴います)。なお、補助資料(プリント)を配布することがありますが、再配布(増刷)はいたしませんので、その都度の配布時に受けとるようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、法学の隣接科目に興味があり抽象思考を厭わない方々を歓迎します。逆に、(授業)理解と(情報)暗記を同一視される向きには全くそぐいません(蛇足ながら、この点前もって強くお伝えしておきます)。(唯一の)正解にたどり着かないと不安な方は、不安になるばかりだと思います。そんな授業です。

キーワード /Keywords

法哲学【昼】

担当者名 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	法哲学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法哲学上の課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える法哲学に関連した諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法哲学

LAW310M

授業の概要 /Course Description

現代社会が抱える諸問題や実定法学が投げかける具体的な諸問題を考える上で、思考枠組みとしての法理論は不可欠である。人間の共同生活を考える上で不可欠なものとしての法を捉え直すための基本的な視座を探究することが、本講義の目的とするところである。

(到達目標)

【知識】法哲学に関する知識を体系的に身につけている。

【技能】法哲学の理解に必要な情報を収集・分析・整理することができる。

【思考・判断・表現力】法哲学の理解を通じて課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際には、適宜レジュメや資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

下記の参考書のうち、酒匂一郎『法哲学講義』（成文堂、2019年）については、講義の中で適宜言及したいと考えている。入手可能であれば、参考書として理解に役立つと思われる。

酒匂一郎『法哲学講義』（成文堂、2019年）

○深田三徳、濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想 第2版』（ミネルヴァ書房、2015年）

瀧川裕英、宇佐美誠、大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）

森村進『法哲学講義』（筑摩書房、2015年）

○竹下賢・角田猛之・市原靖久・桜井徹編『はじめて学ぶ法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2010年）

○平野仁彦、亀本洋、服部高宏著『法哲学』（有斐閣、2002年）

○三島淑臣編『法哲学入門』（成文堂、2002年）

○大橋智之輔、三島淑臣、田中成明編『法哲学綱要』（青林書院、1990年）

田中成明『現代法理学』（有斐閣、2011年）

○田中成明、竹下賢、深田三徳、亀本洋、平野仁彦『法思想史』[第2版]（有斐閣、1997年）

○中山竜一『二十世紀の法思想』（岩波書店、2000年）

○レイモンド・ワックス『法哲学』（岩波書店、2011年）

法哲学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 法哲学とは ~ 概要説明
- 第2回 法と道徳① ラートブルフの法律を越える法
- 第3回 法と道徳② ハート・フラー論争
- 第4回 法と道徳③ 悪法論 ~ ドイツの戦後処理をめぐって
- 第5回 法と道徳④ ハート・デブリン論争 ~ 法による道徳の強制
- 第6回 法と道徳⑤ 理論史1 ~ カント
- 第7回 法と道徳⑥ 理論史2 ~ ラートブルフ
- 第8回 法と強制① ~ ケルゼンの純粋法学
- 第9回 法と強制② ~ 法と合意形成
- 第10回 法・社会・国家① ~ エールリッヒ・ケルゼン論争
- 第11回 法・社会・国家② ~ M・ヴェーバーと形式法の実質化
- 第12回 法・社会・国家③ ~ ハーバーマースと法化
- 第13回 法と生命 ~ 安楽死・尊厳死
- 第14回 法と正義
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%
試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前には、テキストの巻末の索引を利用しながら該当箇所を読み、予習すること。講義後には、各回の講義で配布したレジюмеや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

履修上の注意 /Remarks

「法思想史」を受講していれば、より理解しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、SDGsの「10.人や国の不平等をなくそう、16.平和と公正をすべての人に」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

法と道徳 法と強制 ケルゼン ハート

比較法文化論 【昼】

担当者名 /Instructor 梁田 史郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	比較法文化論の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法文化を比較する上での課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力	●	社会が抱える諸問題に対する自らの関心を高め、法文化間の比較をすることにより、法と社会とのつながりを再確認する。	
	コミュニケーション力			

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

比較法文化論

LAW313M

授業の概要 /Course Description

本講義は、現行日本の民法が古代ローマ法の強い影響を受けていることについて歴史的事実を確認したうえで、古代ローマ法と現行法における具体的法制度の検討を通じて、法文化を認識することを目的とします。

日本は明治以来、西欧の法制度、法システムを継受してきました。私法の一般法と位置付けられる民法は、これまで様々な改正を経ていたとはいえ、現在も明治31年（1898年）施行の民法典（いわゆる「明治民法」）を基礎にしています。明治民法は編纂の経緯からいって諸外国民法の比較法の産物ということもできますが、なかでも、明治23年（1890年）公布の旧民法（ボワソナード民法）を介してフランス民法の影響や、当時最先端と位置付けられた19世紀ドイツのパンデクテン法学の成果ともいえるドイツ民法草案の影響を強く受けています。この両者は中世以来の、主に古代ローマ法を素材として作り上げられたといわれるヨーロッパ学識的法文化の成果といってもよいものです。

本講義では古代ローマの法制度がどのように形を変えて現在に受け継がれているかを確認していきます。

（到達目標）

【知識】 比較法文化に関する知識を体系的に身につけている

【技能】 法文化を認識・比較するための基礎的な技法を身につけている

【思考・判断】 比較法文化に関する課題を発見し、それに対する判断を表現する基本的な能力を身につけている

教科書 /Textbooks

ウルリッヒ・マンテ『ローマ法の歴史』（ミネルヴァ書房・2008年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ピーター・スタイン『ローマ法とヨーロッパ』（ミネルヴァ書房・2003年）

原田慶吉『ローマ法（改訂版）』（有斐閣・1955年）○

ゲオルク・クリンゲンベルク『ローマ債権法講義』（大学教育出版・2001年）○

ゲオルク・クリンゲンベルク『ローマ物権法講義』（大学教育出版・2007年）○

勝田有恒 / 森征一 / 山内進（編著）『概説西洋法制史』（ミネルヴァ書房・2004年）○

比較法文化論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 比較法文化の対象としてのローマ法の意義
- 第3回 ローマ法史概説
- 第4回 十二表法までの先史および原史時代【最古の所有権訴訟】
- 第5回 十二表法までの先史および原史時代【握取行為による儀式的な所有権移転】
- 第6回 十二表法までの先史および原史時代【問答契約と拘束行為による債務の設定】
- 第7回 十二表法の新たな法【握取行為の改革一言明と使用取得】
- 第8回 十二表法の新たな法【不法行為の法律効果】
- 第9回 十二表法から共和制末まで【法律訴訟】【アクィリウス法の損害賠償法】
- 第10回 十二表法から共和制末まで【方式書訴訟】
- 第11回 ローマ法の古典期【古典期法学】【訴権による訴訟手続き】
- 第12回 ローマ法の古典期【契約法のさらなる発展】
- 第13回 ローマ法の古典期【引渡しは有因か無因か】
- 第14回 ローマ法の継受
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート100%で評価します。中間レポート、または期末レポートを提出しなかった場合は評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習として指定された範囲のテキストを熟読し、関連のある現行民法の法制度を確認すること。また復習として講義内容について参考図書などで理解を深めること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

履修上の注意 /Remarks

出席が10回に満たない場合は単位を与えない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ある程度の民法の素養があることが望ましいのですが、講義中に解説するので必須ではありません。

キーワード /Keywords

ローマ法、民法、家制度、相続、握取行為、問答契約、訴権

紛争処理論 【昼】

担当者名 林田 幸広 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 紛争処理に関する理論の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 紛争処理上の課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える紛争処理上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

紛争処理論

LAW311M

授業の概要 /Course Description

紛争処理論は法社会学の一分野です。よって、みなさんが普段学んでいる実定法解釈学とは別の視角から、広義の法 / 規範現象を観察・分析・理論化していく、というスタンスは法社会学と共通です。そのうえで、本講義は、法に期待される重要な機能である民事紛争処理というテーマに照準をあわせ、それを法社会的に考察していきます。

いうまでもなく、裁判をはじめとする司法システムには、日々さまざまな種類の紛争が持ち込まれます。その意味で司法は、それら多様な紛争を事案として受け入れ、法的な判断を下していく、まさに「法の現場」である、といえるでしょう。そしてその「現場」において - - いわゆる法的三段論法をはじめとする - - 法解釈学的「知」が発揮されるのであり、また、そうした「専門知」の行使を通じて（こそ）、紛争は「解決」へと至る、といったストーリーは、（とりわけ法学にとってみれば）それほど疑われる余地はない = 疑ってはいけない？ のかもしれません。しかし、そうした法的判断や「専門知」は、さまざまな形態を纏っているハズの個々別々の紛争を、法特有の論理へと「加工」してゆく側面をもっているのではないのでしょうか。そして時として、紛争の「総体」を切り縮めたり、紛争の「文脈」を削ぎ落としたりする場面を生じさせるのではないのでしょうか。

本講義は、こうした問題関心に基づき、まずは、紛争の多主体性・主観性・連続性を視野化することで、紛争の把握や解決が実はとても困難であることを提示したいと思います。その上で、本来的に把握・解決困難な紛争に対し、裁判をはじめとする民事の紛争処理手続は、いかなる対応が可能なのかについて、法解釈学とは異なる視角から考えてゆきます。その際、中心に置かれるのは紛争当事者の視点です。具体的には、実際に紛争を抱える素人当事者が、自身の力で、「法の現場」である司法の中で、紛争と向きあい折り合っていく可能性を検討してみたいと思います。さらに、その場合に求められる「専門知」とはどのようなものかについても、法専門職論として、あわせて考えたいと思います。

以上から示唆されるように、本講義は、紛争を直ちに固定化・対象化し、迅速かつオートマティックに効率よく処理していく技法（スキル） - - ましてやそれがリーガルマインドだなんて！ - - の体得に向けられるのではなく、ある意味でそれとは正反対の思考、すなわち、紛争のもつダイナミズムを直視した上で、それにいかにして向き合っていくのかについて考えることとなります（よって本講義は、紛争を管理・解決する為の「ノウハウ」や「技術」、ひいては「正しい方法」 - - そういうものが実際にアレばの話ですが - - などを求める期待には全く応えられません）。紛争事案に法を「あてはめる」のではなく、紛争当事者にとっての解決とは何か、その場合法や専門家は何をなすうのか、といった「問い」と併走する講義です。

以上を踏まえ、専門知を批判的に再構築し、実践的に活用していく必要性和方途について考えることをねらいします。以下に到達目標も示しておきます。

（到達目標）

【知識】 民事紛争処理に関する基礎的な知見を身につけている

【技能】 民事紛争処理のプロセスを分析するための基礎的な技法を身につけている

【思考・判断・表現力】 民事紛争処理のあり方について課題を発見し、解決策や代替案を表現できる

教科書 /Textbooks

使用しません。テーマに沿ったレジュメと補助資料を配布して進めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

林田幸広 / 土屋明広 / 小佐井良太 / 宇都義和編、『作動する法 / 社会』、ナカニシヤ出版、2021年。
そのほかの参考文献については講義中に指示します。

紛争処理論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション：授業の進め方等について説明します
- 2回 紛争概念の再構成（1）：【紛争の多主体性】…紛争主体は「甲と乙と丙」だけか？
- 3回 紛争概念の再構成（2）：【紛争の主観性】…命はカネにかえられる？
- 4回 紛争概念の再構成（3）：【紛争の連続性】…「判決+執行」で本当に紛争は終わるか？
- 5回 紛争概念の再構成（4）：【紛争解決の困難性】…法的解決 / 生活実態との乖離
- 6回 法=権利とは何か？（1）：西欧継受の法=権利…権利による【近代化】
- 7回 法=権利とは何か？（2）：権利観念の氾濫と拡散…【法の三類型モデル】
- 8回 法=権利とは何か？（3）：当事者同士の【共同体】…【権利の言説】
- 9回 法専門職の臨界（1）：弁護士偏在の理由と変化…需要の掘り起こしと【公設事務所】
- 10回 法専門職の臨界（2）：弁護士像（モデル）の変遷…社会正義とビジネスを超えて？
- 11回 法専門職の臨界（3）：弁護士と当事者のかかわり…【関係】と【協働】
- 12回 当事者主体の紛争処理に向けて（1）：【ADR】の多層性
- 13回 当事者主体の紛争処理に向けて（2）：【専門知】のあやうさ
- 14回 当事者主体の紛争処理に向けて（3）【メデイエーション論】の可能性
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業で扱ったテーマに関連した課題への取り組み…30%
 - ・ 全編論述式の定期試験…70%
- (より詳しくは初回講義時に説明しますので必ず出席してください)
※定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：プリントが事前に配布される際には、それに目を通し、自分なりに概要や流れを掴んでおくこと。意味の分からない語句については自分なりに調べたうえで授業に臨むこと。
事後学習：授業終了後には、配布されたレスポンスペーパーに、その回のコメントや感想などを書いてください。その際、なぜそう考えるのかの理由と、考えに伴って新たに生まれてくる(ハズの)問いを自分なりの言葉で説明するように心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

紛争処理という名称から、ごくたまに、国際紛争や武力衝突をテーマにした科目と勘違いする学生さんがいますが、本科目が扱うのは、国内の民事司法による紛争処理です。
皆さんが普段学んでいる法解釈学的思考が、実際の紛争現場に対していかなる作用を果たしているのか、そこに問題は無いのか、ということに常に念頭においておくこと。
事前に配布する資料をかならず通読しておくこと。
本講義は民事の紛争処理過程について考察しますが、法社会学同様、法解釈学的視点とは違った角度からの講義です。この点注意してください(「法社会学とはいかなる学問領域なのか」についての総論めいたお話は法社会学で扱っていますので、法社会学を受講している方が、よりスムーズに本講義に入ってゆけると思われます)。なお、同一プリントの再配布(増刷)はいたしませんので、その都度の配布時に受けとるようにしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「法は何のためにあるのか」- - 少なくとも民事の紛争に限って言えば、法は、紛争を抱えた当事者たちのためにあるべきでしょう。本講義は、この「素朴な命題」を愚直に受け止め、話をすすめていきます。なお、本講義は—法社会学と同様—(授業)理解と(情報)暗記を同一視される向きには全くそぐいません(蛇足ながら、この点前もってお伝えしておきます)。むしろ正解や情報の暗記を苦手とする(=正解を覚えること自体に懐いたる疑問を抱く)方のほうがひょっとしたら向いているのかもしれない。憶えるのではなく考え/批判すること、その用意がある方を歓迎します。

キーワード /Keywords

日本国憲法原論【昼】

担当者名 山本 健人 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	憲法全体の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、憲法学的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身に付ける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える憲法に関わる諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本国憲法原論

LAW120M

授業の概要 /Course Description

本講義では、憲法学及び日本国憲法の基礎的知識を学ぶことで、その全体像を把握することを目的とします。
とりわけ、今後憲法学を深めていく上で、躓きやすいポイントや最重要と思われる点に絞って講義します。

(到達目標)

【知識】 憲法学および近代立憲主義に関する基礎的知識を身に付ける。

【技能】 憲法学および近代立憲主義を歴史的または社会的問題と結びつける基礎的な技法を身に付ける。

【思考・判断・表現力】 憲法学および近代立憲主義に関する課題を発見し、法的または政治学的思考に基づいた判断を行うことができるようになる。

教科書 /Textbooks

片桐直人＝井上武史＝大林啓吾『一歩先への憲法入門』（有斐閣、2021年）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法〔第7版〕』（岩波書店、2019年）
- 新井誠＝曾我部真裕＝佐々木くみ＝横大道聡『憲法I・II（第2版）』（日本評論社、2021年）
- 上田健介＝尾形健＝片桐直人『憲法判例50！〔第2版〕』（有斐閣、2020年）
- 長谷部恭男ほか『憲法判例百選I・II〔第7版〕』（有斐閣、2019年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス・憲法とは何か①—憲法の基礎
- 第2回 憲法とは何か②—近代立憲主義・日本国憲法の基本原理
- 第3回 日本国憲法史・天皇制
- 第4回 平和主義
- 第5回 統治機構①—国会 / 立法権
- 第6回 統治機構②—内閣 / 行政権
- 第7回 統治機構③—裁判所 / 司法権
- 第8回 統治機構④—地方自治制度
- 第9回 人権総論①—人権の理念と憲法上の権利
- 第10回 人権総論②—憲法上の権利の射程
- 第11回 人権総論③—憲法上の権利の限界と違憲審査の方法
- 第12回 人権各論①—国家からの自由
- 第13回 人権各論②—国家による自由・国家への自由
- 第14回 人権各論③—包括的基本権
- 第15回 憲法の改正

日本国憲法原論【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験70% + 小テスト30%
期末試験を受験しなかった場合は評価不能(一)とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業計画や講義の進行を参考に、指定教科書の次回講義該当部分を予め読んでおくこと。
また、各回の内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、SDGsの5「ジェンダー平等を実現しよう」、10「人や国の不平等をなくそう」、16「平和と公平をすべての人に」という目標に関連しています。

キーワード /Keywords

憲法総論、基本的人権、統治機構

憲法人権論【昼】

担当者名 中村 英樹 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	憲法学における人権分野の体系的な理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、憲法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える人権に関する諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法人権論

LAW220M

授業の概要 /Course Description

〈到達目標〉

【知識】 憲法学の人権論に関する知識を体系的に身につけている

【技能】 憲法学の人権論に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている

【思考・判断・表現力】 憲法学の人権論に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

憲法学の中の、人権論といわれる分野を学ぶ。

本科目ではまず、憲法（特に立憲主義憲法）でさまざまな「人権」が保障されている理由を、人権という概念をめぐる思想史、憲法史、権利の体系論などの総論的内容を通じて学ぶ。次に、「自由権」「社会権」など類型化された憲法上の権利の検討へと進む。その際には、「なぜ表現の自由は特に手厚い保障が必要とされるのか」「なぜ現代国家は社会権の保障を必要とするのか」といった原理的考察を重視する（判例の詳細な検討は「憲法訴訟論」に譲る）。

以上の内容を学ぶことで、人権が「憲法上の権利」として保障されていることの意義、具体的適用のあり方、社会における問題状況等への理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

斎藤一久・堀口悟郎 編『図録 日本国憲法 第2版』（弘文堂、2021年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 新井誠ほか『憲法II 人権 第2版』（日本評論社、2021年）
- 芦部信喜『憲法 第7版』（岩波書店、2019年）
- 長谷部恭男『憲法 第7版』（新世社、2018年）
- 安藤高行ほか『新・エッセンス憲法』（法律文化社、2017年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 人権とは何か①-近代国家と人権
- 第2回 人権とは何か②-人権思想の歴史
- 第3回 人権（憲法上の権利）の類型
- 第4回 権利の制約原理：公共の福祉
- 第5回 包括的基本権（幸福追求権）
- 第6回 平等権①-憲法の求める平等
- 第7回 平等権②-具体的事例
- 第8回 思想・良心の自由
- 第9回 信教の自由
- 第10回 表現の自由①-優越的地位
- 第11回 表現の自由②-さまざまな制限と違憲審査
- 第12回 経済的自由
- 第13回 社会権
- 第14回 参政権
- 第15回 国家賠償請求権と損失補償請求権

憲法人権論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内容の理解度をはかる定期試験による（100％）。

定期試験を受験しなかった場合は、評価不能（－）とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業計画やレジュメを参考に、指定教科書や参考図書の次回講義該当部分をあらかじめ読んでおくこと。

授業で使ったパワーポイントは動画にして一定期間公開する予定なので、事後学習に活用すること。

履修上の注意 /Remarks

「日本国憲法原論」をあらかじめ履修しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基本的人権 憲法上の権利

この授業は、SDGsの5「ジェンダー平等を実現しよう」、10「人や国の不平等をなくそう」、16「平和と公平をすべての人に」という目標に関連しています。

憲法機構論 【昼】

担当者名 中村 英樹 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	憲法学における統治機構分野の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、憲法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代政治における諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法機構論

LAW221M

授業の概要 /Course Description

〈到達目標〉

【知識】 憲法学の統治機構論に関する知識を体系的に身につけている

【技能】 憲法学の統治機構論に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている

【思考・判断・表現力】 憲法学の統治機構論に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

日本国憲法が定めている国家の統治権行使の仕組み、すなわち統治機構について概説する。

本科目ではまず、国民主権、民主主義（民主制）、権力分立といった統治機構の基本原則を整理して理解する。その上で、立法権を担当する国会、行政権を担う内閣、司法権を担う裁判所を中心に、憲法およびその具体化法（憲法附属法）が国家の統治の仕組みをどのように定めているか、その下でどのような運用が行われているかを具体的に学ぶ。

以上の内容を学ぶことで、統治機構の全体構造や各国家機関の相互関係を理解することを目指す。

また、現実の政治過程などへの関心も喚起するような内容としたい。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業科目です。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴することが求められます。

あらかじめMoodleからレジュメをダウンロードした上で、各回の音声入りパワーポイント動画を視聴してください。

教科書 /Textbooks

斎藤一久・堀口悟郎 編『図録 日本国憲法 第2版』（弘文堂、2021年）

※ただし、同書の初版である『図録 日本国憲法』（弘文堂、2018年）をすでに持っている方は、そちらを使っても結構です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○新井誠ほか『憲法I 総論・統治 第2版』（日本評論社、2021年）

○芦部信喜『憲法 第7版』（岩波書店、2019年）

○安藤高行ほか『新・エッセンス憲法』（法律文化社、2017年）

○安念潤司 編著『論点日本国憲法 第2版』（東京法令出版、2014年）

憲法機構論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 総論 -全体の導入
- 第2回 国民主権と民主主義
- 第3回 象徴天皇制
- 第4回 内閣(国の行政組織)① -内閣と行政権
- 第5回 内閣(国の行政組織)② -議院内閣制
- 第6回 内閣(国の行政組織)③ -内閣と行政各部
- 第7回 内閣(国の行政組織)④ -内閣の運営と責任
- 第8回 国会① -国会の地位
- 第9回 国会② -衆議院と参議院
- 第10回 国会③ -国会の活動
- 第11回 国会④ -国会議員
- 第12回 国会⑤ -政党と会派
- 第13回 裁判所① -司法権と裁判所
- 第14回 裁判所② -違憲審査制
- 第15回 地方自治

成績評価の方法 /Assessment Method

中間課題×2回(30%) + 期末試験または期末レポート(70%)による。
対面試験が可能な場合は期末試験を実施し、対面試験が不可能な場合は期末レポートを課します。

中間課題を一度も提出しなかった場合は、評価不能(一)とします。
中間課題を提出していても、定期試験を受験しなかった、または期末レポートを提出しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業計画やレジユメを参考に、指定教科書や参考図書の次回講義該当部分をあらかじめ読んでおくこと。
また、国会や内閣等の動向、注目の裁判などの報道に関心を持ち、講義内容と関連づけて考察すること。

履修上の注意 /Remarks

「日本国憲法原論」を受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国民主権 民主主義 権力分立 国会 内閣 裁判所 地方自治

この授業は、SDGsの5「ジェンダー平等を実現しよう」、10「人や国の不平等をなくそう」、16「平和と公平をすべての人に」という目標に関連しています。

憲法訴訟論 【昼】

担当者名 山本 健人 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	憲法訴訟の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、憲法学的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える憲法訴訟に関わる諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

憲法訴訟論

LAW320M

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、憲法学のうち憲法訴訟論と呼ばれる領域について、最高裁判所による日本国憲法に関する問題の判断方法及びそれに対する学説による整理を学習することを目的とする。

(到達目標)

【知識】憲法訴訟または憲法判例に関する実践的知識を身につけている。

【技能】憲法訴訟または憲法判例において法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている。

【思考・判断・表現力】憲法訴訟または憲法判例における課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。

教科書 /Textbooks

小山剛『憲法上の権利の作法〔第3版〕』（尚学社、2016年）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 木下昌彦責任編集『精読憲法判例〔人権編〕』（弘文堂、2018年）
- 木下昌彦責任編集『精読憲法判例〔統治編〕』（弘文堂、2021年）
- 横大道聡編『憲法判例の射程〔第2版〕』（弘文堂、2020年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション：憲法問題の考え方
- 第2回 裁判所と司法権
- 第3回 違憲審査制度・憲法判断の方法
- 第4回 消極的権利①：基本判例（薬事法事件と泉佐野市民会館使用不許可事件）の読解
- 第5回 消極的権利②：保護領域と制限
- 第6回 消極的権利③：制限の正当化
- 第7回 積極的権利①：基本判例（堀木事件ほか）の読解
- 第8回 積極的権利②：裁量縮減・裁量統制
- 第9回 包括的基本権
- 第10回 平等権
- 第11回 選挙権・選挙制度
- 第12回 政教分離
- 第13回 司法権の限界
- 第14回 司法的救済の諸問題
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の課題30% + 期末試験70%
期末試験を受験しなかった場合は評価不能（－）とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書の該当頁及び関連判例を予め読んでおくこと

憲法訴訟論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、SDGsの5「ジェンダー平等を実現しよう」、10「人や国の不平等をなくそう」、16「平和と公平をすべての人に」という目標に関連しています。

キーワード /Keywords

憲法訴訟、違憲審査

行政法総論【昼】

担当者名 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 4単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	行政法学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える行政法学上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政法総論

LAW121M

授業の概要 /Course Description

行政法とは、主として、国や地方公共団体の活動をコントロールするさまざまな法の総称です。本講義では、行政法の基礎理論、行政の行為形式、行政手続や情報公開といった諸制度について概説します。そのうえで受講者が、行政法の基本的知識を修得することを目的とします。

(到達目標)

【知識】行政法学の作用法および組織法に関する知識を体系的に身につけている。

【技能】行政法学の作用法および組織法に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている。

【思考・判断・表現力】行政法学の作用法および組織法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回の講義で指示します。

行政法総論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、行政法とは
- 第2回 行政法の基本原則(1)【法律による行政の原理】
- 第3回 行政法の基本原則(2)【行政法の一般原則】
- 第4回 行政組織(1)【行政組織の概念】
- 第5回 行政組織(2)【国、地方の行政組織】
- 第6回 行政立法(1)【法規命令】
- 第7回 行政立法(2)【行政規則】
- 第8回 行政行為(1)【行政行為の概念、類型】
- 第9回 行政行為(2)【行政行為の効力】
- 第10回 行政行為(3)【行政行為の瑕疵】
- 第11回 行政行為(4)【職権取消しと撤回】
- 第12回 行政行為(5)【行政行為の附款】
- 第13回 行政裁量(1)【行政裁量の概念】
- 第14回 行政裁量(2)【裁量の存否】
- 第15回 行政裁量(3)【裁量審査】
- 第16回 中間レポート
- 第17回 行政契約
- 第18回 行政指導
- 第19回 行政計画
- 第20回 行政の実効性確保手段(1)【行政上の強制執行】
- 第21回 行政の実効性確保手段(2)【行政罰】、即時強制
- 第22回 行政調査
- 第23回 行政手続(1)【行政手続の意義】
- 第24回 行政手続(2)【申請処分手続と不利益処分手続】
- 第25回 行政手続(3)【手続の瑕疵の効果】
- 第26回 行政情報(1)【情報公開制度】
- 第27回 行政情報(2)【情報公開争訟】
- 第28回 行政情報(3)【公文書管理制度、個人情報保護制度】
- 第29回 公法と私法
- 第30回 期末レポート

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート80%、中間レポート20%
※期末レポートおよび中間レポートを提出しなかった場合は、評価不能(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の講義後に、授業内容を復習してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、SDGsの目標3,10,11,16に関連しています。

キーワード /Keywords

行政争訟法 【昼】

担当者名 /Instructor 堀澤 明生 / Akio Horisawa / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2単位 /Semester 2学期 2学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	行政争訟法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力	●	現代社会が抱える行政争訟法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。	
	コミュニケーション力			

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政争訟法

LAW222M

授業の概要 /Course Description

行政法総論において勉強した「法律による行政の原理」などの、国民の権利を守るための原理は、行政救済法と呼ばれる領域によってその実効性を確保されます。

行政争訟法では、違法行為の是正を行政自身に求める行政上の不服申立てと、裁判所に求める行政訴訟につき概説し、多くの裁判例を通じて、どのようにして私人が違法な行政活動から救済されるかについて理解してもらいます。

(到達目標)

【1 知識】

行政法学の救済法のうち行政争訟に関する知識を体系的に身につけている。

【2 技能】

行政法学の救済法のうち行政争訟に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている。

【3 思考・判断・表現力】

行政法学の救済法のうち行政争訟に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。

教科書 /Textbooks

村上裕章『スタンダード行政法』（有斐閣、2021）2,970円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

※いずれも授業開始までに新版が出ていればそちらを用いること。

予習復習用に

中原茂樹『基本行政法[第三版]』（日本評論社、2018）3,740円

板垣勝彦『公務員を目指す人に贈る行政法教科書』（法律文化社、2019）2,750円

判例集として

宇賀克也ほか『行政判例百選II [7版]』（有斐閣、2017）2,530円

行政争訟法 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスー行政法総論と行政争訟
- 第2回 行政上の不服申立て
- 第3回 処分性(1)——処分性の概念
- 第4回 処分性(2)——近時の判例における処分性
- 第5回 原告適格(1)——原告適格の判断基準
- 第6回 原告適格(2)——近時の判例
- 第7回 訴えの利益
- 第8回 その他の訴訟要件、取消訴訟の審理
- 第9回 取消訴訟の判決 小テスト(予定)
- 第10回 執行停止制度
- 第11回 無効等確認訴訟、不作為の違法確認訴訟
- 第12回 義務付け訴訟
- 第13回 差止訴訟
- 第14回 当事者訴訟
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト20%、期末試験80%
期末試験を受験しなかった場合、成績評価不能(一)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回において行政訴訟の判例を学ぶが、当該事件において問題となった条文を事前に読み込むことなく授業を理解するのは不可能に近い。事前にレジュメのアップロードを行うので、ぜひ条文を参照したうえで各判例を検討しておいてほしい。

履修上の注意 /Remarks

行政法総論を履修していることを前提とする。
また民事訴訟法の科目を履修していることは、本科目の理解において助けになる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

判例をかなりの数扱うことになるため、予習を必ず行うこと。

※この授業はSDGs目標10,11に関連しています。

キーワード /Keywords

処分性、原告適格、訴えの利益 当事者訴訟、実効的権利救済

国家補償法【昼】

担当者名 鈴木 崇弘 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国家補償法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国家補償法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国家補償法

LAW321M

授業の概要 /Course Description

行政の諸活動により私人に被害が生じた場合に金銭等の給付により救済する制度を国家補償という。この国家補償は、原因となる行政の諸活動が違法か適法かにより国家賠償と損失補償に分かれる。この国家賠償と損失補償につき、本講義で解説をする。この解説をもとに、受講者が、国家補償の構造につき理解することを目的とする

(到達目標)

【知識】国家補償に関する知識を体系的に取得する。

【技能】行政法令を解釈・適用する能力を取得する。

【思考・判断・表現力】国家補償における論点につき法的思考に基づき分析する能力を取得する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない（講義のベースは、高木光『行政法』（有斐閣、2015年）である）。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

大橋洋一『行政法II〔第4版〕』（有斐閣、2021年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 行政救済法、国家補償法とは
- 第02回 国家賠償法1条の基本構造
- 第03回 広義説
- 第04回 不法行為法と国家賠償法
- 第05回 公権力発動要件欠如説、職務行為基準説
- 第06回 不作為
- 第07回 立法及び司法活動の違法
- 第08回 営造物責任
- 第09回 営造物責任
- 第10回 費用負担者、民法との関係
- 第11回 損失補償
- 第12回 損失補償
- 第13回 損失補償
- 第14回 国家補償の谷間
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験100%

試験では、①法令の正確な解釈並びに行政法理論及び裁判例の分析、②問題になりうる事象に対して救済が与えられ得るか、を問う。

期末試験を受験しなかった場合は評価不能（－）とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書の該当箇所の読み込みと授業後の復習。各回4時間相当

国家補償法 【昼】

履修上の注意 /Remarks

憲法、行政法総論を履修していることが望ましい

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、SDG s の目標3,10,11,16に関連する。

キーワード /Keywords

刑法犯罪論【昼】

担当者名 富川 雅満 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 2学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	刑法総論の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	法と社会とのつながりを理解し、現代社会における犯罪の成否に関する諸問題について、自らの関心を高める。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑法犯罪論

LAW130M

授業の概要 /Course Description

刑法は、犯罪と刑罰に関する学問領域である。中でも、刑法総論は、各犯罪に共通する論点を扱う領域で、個別の犯罪類型に関する固有の論点を扱う刑法各論とは、網目の縦系と横系のような関係にある。とりわけ、刑法総論は、犯罪の体系に関わる学問領域であるから、刑法総論を通して学修することで、刑法の全体像を把握することになる。

(到達目標)

【知識】刑法総論に関する基本的な知識を体系的に習得している。

【技能】刑法各論に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を習得している。

【思考・判断・表現力】刑法総論に関する法的問題を発見し、その問題に対する判断を表現する基本的な能力を習得している。

教科書 /Textbooks

教科書は、各自、自分にとって理解しやすいもの、使いやすいものを選ぶと良い。

参考として、以下の2冊を推奨するほか、その他の教科書についても初回授業で紹介を行う予定である。

大塚裕史=十河太郎=塩谷毅=豊田兼彦『基本刑法I総論(第3版)』(日本評論社、2019年)

只木誠『コンパクト刑法総論』(新世社、2018年)

後者の方が初学者向けであり、講義予習に一読するには適しているが、講義後の復習や発展的な問題について学ぶには少し物足りない。

なお、レジュメはMoodleを通じて配布する予定である。各自DLした上で、受講してほしい。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library:○)

判例学習用参考書

○十河太郎=豊田兼彦=松尾誠紀=森永真綱『刑法総論判例50!』(有斐閣、2016年)

○佐伯仁志=橋爪隆『刑法判例百選I総論[第8版]』(有斐閣、2020年)

前者が初学者向けであり、極めて平易である。後者の難易度は高いが、発展的な問題に触れるには適している。

そのほかの判例学習用参考書、事例検討学習用参考書については、講義初回で紹介する。

刑法犯罪論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 刑法の基本体系
- 第2回 因果関係の基礎
- 第3回 不作為犯の基礎
- 第4回 故意、錯誤の基礎(1)：故意論、具体的事実の錯誤
- 第5回 故意、錯誤の基礎(2)：抽象的事実の錯誤、その他の錯誤
- 第6回 過失の基礎
- 第7回 違法論・違法性阻却事由の概要
- 第8回 正当防衛の基礎
- 第9回 緊急避難の基礎
- 第10回 未遂犯の基礎(1)：実行の着手論
- 第11回 未遂犯の基礎(2)：不能犯論、中止犯論
- 第12回 共犯の基礎(1)：共犯の概要、間接正犯
- 第13回 共犯の基礎(2)：共同正犯
- 第14回 共犯の基礎(3)：狭義の共犯
- 第15回 責任能力の理論と実情
- 第16回 ケーススタディ「刑法総論の基礎篇」
- 第17回 因果関係の発展問題
- 第18回 故意の発展問題
- 第19回 錯誤の発展問題
- 第20回 過失の発展問題
- 第21回 正当防衛の発展問題
- 第22回 責任論の発展問題
- 第23回 実行の着手論の発展問題
- 第24回 中止犯論の発展問題
- 第25回 共犯の発展問題(1)
- 第26回 共犯の発展問題(2)
- 第27回 共犯の発展問題(3)
- 第28回 罪数論
- 第29回 刑罰論
- 第30回 罪刑法定主義

ただし、履修者の理解度等の理由により、講義の順番を変更することがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(100%)
定期試験を受験しなかった場合は評価不能(一)とする。
なお、新型コロナウイルスの感染状況に応じて、定期試験をレポート等に代替することがある。
詳細は、初回講義にて説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・事前学習
内容：講義で扱うテーマについて、教科書等を一読。
目的意識：テーマの概要を把握。理解できない点を事前に把握。
- ・事後学習
内容：講義中に取ったノートをまとめ直すほか、内容について教科書等と照らし合わせる。
目的意識：知識の定着化。理解できている点と理解できていない点の整理。
予習・講義・復習を通じて、理解できなかった点については、担当教員に相談してもらえれば、さらなる理解へのアドバイスを行う。

履修上の注意 /Remarks

講義形式で行うが、担当教員が提示した質問に対して、受講者に回答してもらうことがよくある。
講義では条文を参照することが多いため、六法を持っていくなど、条文をその場で確認できるようにしておくこと。その他の資料については、レジュメを配布する予定であるが、レジュメを事後的に読むだけでは、講義内容を十分に理解することは難しい。受講者自身が効果的に復習するためにも、受講者は担当教員による解説をノートにまとめていくことが必要である。したがって、ノートテイキングができる準備をして、受講することが求められる。なお、やむを得ない事情によりノートテイキングに困難がある者については、担当教員に個別に相談してもらえれば、対応の方法を協議する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

刑法総論は抽象的な議論が多いことに加え、各テーマの関連性が強いので、理解に難しいところがある。まずは、刑法総論の全体像を把握しておくことが良いであろう(講義も、同一テーマを基礎編と応用編に分けて、全体像の把握ができるように計画している)。わからないポイントも、そのほかのテーマを学修することでわかることがある。まずは、刑法の全体像を把握するように努めてほしい。
質問については随時受け付けている。遠慮なく、担当教員を学修に「使って」ほしい。

キーワード /Keywords

刑事法 刑法 刑法総論

刑法犯罪各論I【昼】

担当者名 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 刑法各論の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 法と社会とのつながりを理解し、現代社会における犯罪の成否に関する諸問題について、自らの関心を高める。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑法犯罪各論I

LAW230M

授業の概要 /Course Description

「刑法各論の体系的展開(1)」

この講義が対象とする「刑法各論」は、殺人罪や窃盗罪という個別の具体的な犯罪の成立要件を、個々の犯罪ごとに明らかにする法領域です。刑法各論においては、個人的法益に対する罪のうち人身に対する罪（財産罪を除く。）と国家的法益に対する罪を取り上げます。具体的な事例をもとに、刑法各論の基本概念と各犯罪類型の要件解釈論を検討したうえで、各要件の規範的意義を理解学んでいきます。また、刑法各論における重要問題についての考え方を学んでください。

この講義では、刑法学の学習を通じて、社会科学で要求される問題発見能力、体系的思考力、論理的思考力を身につけていきます。（到達目標）

【知識】刑法各論に関する基本的な知識を体系的に習得している。

【技能】刑法各論に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を習得している。

【思考・判断・表現力】刑法各論に関する法的問題を発見し、その問題に対する判断を表現する基本的な能力を習得している。

教科書 /Textbooks

講義で用いるPPTスライド資料を配布します。「学習支援システム UKK Moodle」から各自がダウンロードしてください。

初回の講義において、テキストや参考書について説明します。

①六法（2022年版・令和4年版）

『ポケット六法』（有斐閣）や『デイリー六法』（三省堂）、『法学六法』（信山社出版）といった「最新の」六法を必携してください（種類・出版社を問わない。）。

②刑法総論のテキスト（基本書）

講義の予習・復習、および自習のため、テキスト（基本書）を必携してください。選択は受講者に委ねます。

推奨...大塚裕史 / 十河太郎 / 塩谷毅 / 豊田兼彦『基本刑法II各論』2版（日本評論社・2018.04）ISBN: 9784535522404、4,290円（税込）。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

1. 入門書

井田良『入門刑法学・各論』2版（有斐閣・2018.03）ISBN: 9784641139343、2,200円（税込）。

2. 判例を学ぶための判例評釈集

○十河太郎 / 豊田兼彦 / 松尾誠紀 / 森永真綱『START UP刑法各論判例50!』（有斐閣・2017.12）ISBN: 9784641139268、1,980円（税込）。

○山口厚 / 佐伯仁志（編）『刑法判例百選II各論（別冊ジュリスト）』8版（有斐閣・2020.11）ISBN: 9784641115514、2,750円（税込）。

3. 学説を理解するための基本書

○井田良『講義刑法学・各論』2版（有斐閣・2020.12）ISBN: 9784641139473、4,840円（税込）。

○西田典之 / 橋爪隆（補訂）『（法律学講座双書）刑法各論』7版（弘文堂・2018.03）ISBN: 9784335304798、4,400円（税込）。

4. 事例の解法を学ぶための参考書

○島伸一（編著）『たのしい刑法II各論』2版（弘文堂・2017.10）ISBN: 9784335357107、3,630円（税込）。

伊藤真（監修） / 伊藤塾『予備試験論文5刑法』2版（弘文堂・2021.08）ISBN: 9784335304286、3,080円（税込）。

刑法犯罪各論Ⅱ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ※諸事情により進捗状況が前後することがあります。
- 1回 ガイダンス・刑法各論の基礎
 - 2回 生命に対する罪(1)殺人罪・墮胎罪(人の始期と終期)
 - 3回 生命に対する罪(2)自殺関与罪・囑託同意殺人罪
 - 4回 生命に対する罪(3)遺棄罪(遺棄概念と遺棄罪の種類)
 - 5回 身体に対する罪(1)暴行罪と傷害罪①(暴行行為の性質・傷害概念)
 - 6回 身体に対する罪(2)暴行罪と傷害罪②(傷害罪の故意・同時傷害の特例)
 - 7回 自由に対する罪(1)逮捕監禁罪・脅迫罪・略取誘拐罪
 - 8回 自由に対する罪(2)強制わいせつ罪・強制性交等罪
 - 9回 私生活の平穩に対する罪 住居侵入罪・秘密侵害罪
 - 10回 名誉・信用に対する罪(1)名誉毀損罪と侮辱罪
 - 11回 名誉・信用に対する罪(2)信用毀損罪・業務妨害罪
 - 12回 国家の存立に対する罪 内乱罪・外患誘致罪・私戦予備陰謀罪
 - 13回 国家の作用に対する罪(1)公務執行妨害罪・逃走罪・犯人蔵匿罪・証拠隠滅罪
 - 14回 国家の作用に対する罪(2)偽証罪・虚偽告訴罪・職権濫用罪
 - 15回 国家の作用に対する罪(3)賄賂罪の基礎・収賄罪の諸類型・贈賄罪

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験...20%、期末試験...80%
各試験の形式については、講義の際に説明します。また、感染症等の状況により、試験の実施方法を変更する可能性もあります。定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキスト(基本書)の該当箇所を熟読したうえで、分からない言葉を調べ、疑問点やよく解らない箇所にマーキングをしてください。できれば講義該当箇所の記載内容を要約して講義に臨みましょう(必要な学習時間の目安は60分)。疑問を持って講義に臨むことが重要です。積極的に質問して、それらの疑問を講義の中で解消していきましょう。
講義ではしっかりノートを取りましょう。知らなかった事項や不足していた事項をメモしておいて、講義後にノートを整理して基本書・参考書・判例集等で不足事項を補いましょう(必要な学習時間の目安は60分)。
講義で取り上げた事例について1,000字から1,500字程度の解答を作成することを勧めます。講義をもとに自分の解答を批判的に検討して、解説と自分の解答との論理展開の違いを考えてみましょう。不足していた知識を補足するだけでなく、自分の考え方を修正することを狙いとしています。
※「論理」:思考や議論の順序や関連性、物事の法則的な結び付き。

履修上の注意 /Remarks

この講義では「刑法総論」を一定程度理解していることを前提に講義を行います。そこで、この科目を受講する前に「刑法総論」を受講していることを推奨します。また、この科目を承継し、刑法各論の中核的問題を扱う「刑法各論Ⅱ」を受講することを強く推奨します。さらに、「刑事訴訟法Ⅰ・Ⅱ」、「犯罪学」および「刑事司法政策Ⅰ・Ⅱ」、関連する他の刑事法系科目を受講することも勧めます。
余裕がある方には「法学検定試験」の受験を勧めます(毎年11月下旬から12月初頭に実施、出願は9月から10月)。この試験は法学に関する学力を客観的に評価する試験です。夏季休業期間を活用して問題集に取り組むことで、憲法・民法・刑法といった基本法科目について、基本的な知識や能力を身に付けることができるでしょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

犯罪の成否とその根拠という共通の関心についても、さまざまな考え方があることを知り、どのようにして問題を説得的に説明して解決していくのか、その方法の一端を学んで頂ければと思います。

キーワード /Keywords

刑事法 刑法 犯罪論 刑罰論 刑法総論 刑法各論

刑法犯罪各論II 【昼】

担当者名 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	刑法各論の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	法と社会とのつながりを理解し、現代社会における犯罪の成否に関する諸問題について、自らの関心を高める。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑法犯罪各論II

LAW330M

授業の概要 /Course Description

「刑法各論の体系的展開（2）」

この講義が対象とする「刑法各論」は、殺人罪や窃盗罪という個別の具体的な犯罪の成立要件を、個々の犯罪ごとに明らかにする法領域です。刑法各論IIにおいては、刑法各論Iに続けて、個人的法益に対する罪のうち財産罪（刑法各論の中核的問題）と社会的法益に対する罪を取り上げます。

具体的な事例をもとに、刑法各論の基本概念と各犯罪類型の要件解釈論を検討したうえで、各要件の規範的意義を理解学んでいきます。また、刑法各論における重要問題についての考え方を学んでください。

この講義では、刑法学の学習を通じて、社会科学で要求される問題発見能力、体系的思考力、論理的思考力を身につけていきます。（到達目標）

【知識】刑法各論に関する基本的な知識を体系的に習得している。

【技能】刑法各論に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を習得している。

【思考・判断・表現力】刑法各論に関する法的問題を発見し、その問題に対する判断を表現する基本的な能力を習得している。

教科書 /Textbooks

講義で用いるPPTスライド資料を配布します。「学習支援システム UKK Moodle」から各自がダウンロードしてください。初回の講義において、テキストや参考書について説明します。

①六法（2022年版・令和4年版）

『ポケット六法』（有斐閣）や『デイリー六法』（三省堂）、『法学六法』（信山社出版）といった「最新の」六法を必携してください（種類・出版社を問わない）。

②刑法総論のテキスト（基本書）

講義の予習・復習、および自習のため、テキスト（基本書）を必携してください。選択は受講者に委ねます。

推奨...大塚裕史 / 十河太郎 / 塩谷毅 / 豊田兼彦『基本刑法II各論』2版（日本評論社・2018.04）ISBN: 9784535522404、4,290円（税込）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1. 入門書

井田良『入門刑法学・各論』2版（有斐閣・2018.03）ISBN: 9784641139343、2,200円（税込）。

2. 判例を学ぶための判例評釈集

○十河太郎 / 豊田兼彦 / 松尾誠紀 / 森永真綱『START UP刑法各論判例50!』（有斐閣・2017.12）ISBN: 9784641139268、1,980円（税込）。

○山口厚 / 佐伯仁志（編）『刑法判例百選II各論（別冊ジュリスト）』8版（有斐閣・2020.11）ISBN: 9784641115514、2,750円（税込）。

3. 学説を理解するための基本書

○井田良『講義刑法学・各論』2版（有斐閣・2020.12）ISBN: 9784641139473、4,840円（税込）。

○西田典之 / 橋爪隆（補訂）『（法律学講座双書）刑法各論』7版（弘文堂・2018.03）ISBN: 9784335304798、4,400円（税込）。

4. 事例の解法を学ぶための参考書

○島伸一（編著）『たのしい刑法II各論』2版（弘文堂・2017.10）ISBN: 9784335357107、3,630円（税込）。

伊藤真（監修） / 伊藤塾『予備試験論文5 刑法』2版（弘文堂・2021.08）ISBN: 9784335304286、3,080円（税込）。

刑法犯罪各論II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ※諸事情により進捗状況が前後することがあります。
- 1回 ガイダンス・財産罪(1) 財産罪の基礎と窃盗罪①
 - 2回 財産罪(2) 財産罪の基礎と窃盗罪②
 - 3回 財産罪(3) 毀棄隠匿罪
 - 4回 財産罪(4) 強盗罪
 - 5回 財産罪(5) 強盗罪の諸問題(事後強盗・強盗致死傷罪)
 - 6回 財産罪(6) 詐欺罪・恐喝罪
 - 7回 財産罪(7) 詐欺罪の諸問題
 - 8回 財産罪(8) 横領罪・背任罪
 - 9回 財産罪(9) 盗品関与罪
 - 10回 公共危険罪(1) 騒乱罪・多衆不解散罪・出水罪・水利妨害罪・往来妨害罪
 - 11回 公共危険罪(2) 放火罪・失火罪(放火罪の基礎・焼損)
 - 12回 公共危険罪(3) 放火罪・失火罪(公共危険の発生とその認識)
 - 13回 公共の信用に対する罪(1) 文書偽造罪(文書偽造罪の基礎・文書概念・偽造概念)
 - 14回 公共の信用に対する罪(2) 通貨偽造罪・有価証券偽造罪
 - 15回 風俗に対する罪 わいせつ罪・重婚罪・賭博罪・死体損壊遺棄罪

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験... 20%、期末試験... 80%
各試験の形式については、講義の際に説明します。また、感染症等の状況により、試験の実施方法を変更する可能性もあります。定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキスト(基本書)の該当箇所を熟読したうえで、分からない言葉を調べ、疑問点やよく解らない箇所にマーキングをしてください。できれば講義該当箇所の記載内容を要約して講義に臨みましょう(必要な学習時間の目安は60分)。疑問を持って講義に臨むことが重要です。積極的に質問して、それらの疑問を講義の中で解消していきましょう。
講義ではしっかりノートを取りましょう。知らなかった事項や不足していた事項をメモしておいて、講義後にノートを整理して基本書・参考書・判例集等で不足事項を補いましょう(必要な学習時間の目安は60分)。
講義で取り上げた事例について1,000字から1,500字程度の解答を作成することを勧めます。講義をもとに自分の解答を批判的に検討して、解説と自分の解答との論理展開の違いを考えてみましょう。不足していた知識を補足するだけでなく、自分の考え方を修正することを狙いとしています。
※「論理」: 思考や議論の順序や関連性、物事の法則的な結び付き。

履修上の注意 /Remarks

この講義では「刑法総論」「刑法各論I」を一定程度理解していることを前提に講義を行います。そこで、この科目を受講する前に「刑法総論」と「刑法各論I」を受講していることを推奨します。さらに、「刑事訴訟法I・II」、「犯罪学」および「刑事司法政策I・II」、関連する他の刑事法系科目を受講することも勧めます。
余裕がある方には「法学検定試験」の受験を勧めます(毎年11月下旬から12月初頭に実施、出願は9月から10月)。この試験は法学に関する学力を客観的に評価する試験です。夏季休業期間を活用して問題集に取り組むことで、憲法・民法・刑法といった基本法科目について、基本的な知識や能力を身に付けることができるでしょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

犯罪の成否とその根拠という共通の関心についても、さまざまな考え方があることを知り、どのようにして問題を説得的に説明して解決していくのか、その方法の一端を学んで頂ければと思います。

キーワード /Keywords

刑事法 刑法 犯罪論 刑罰論 刑法総論 刑法各論

刑事訴訟法総論【昼】

担当者名 水野 陽一 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	刑事訴訟法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	法と社会とのつながりを理解し、現代社会における刑事手続に関する諸問題について、自らの関心を高める。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑事訴訟法総論

LAW231M

授業の概要 /Course Description

本講義では、具体的事例を中心に刑事訴訟の基本構造、特に捜査の終結までについて概説する。簡潔且つ明瞭な解説を行いながら密度の濃い内容を提供し、未知の問題にも、原理原則に立ち返り、自ら正解を導出できる力を養うことを目標とする。

到達目標

知識：刑事訴訟法学の訴訟構造、捜査手続に関する知識を体系的に身につけている。
技能：刑事訴訟法（訴訟構造、捜査手続）に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を習得している。
思考・判断・表現力：刑事訴訟法（訴訟構造、捜査手続）に関する法的問題を発見し、その問題に対する判断を表現する基本的な能力を習得している。

教科書 /Textbooks

講義初回で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「刑事訴訟法判例百選〔第10版〕」（有斐閣、2017年）、○「刑事訴訟法の争点」（有斐閣、2013年）等。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、刑事訴訟法の目的と構造
- 第2回 刑事訴訟の関与者 (1)【法曹三者】
- 第3回 刑事訴訟の関与者 (2)【その他の訴訟参加者】
- 第4回 捜査総説
- 第5回 令状主義と強制処分法定主義
- 第6回 捜査の端緒
- 第7回 証拠の収集保全 (1)【捜索・差押え】
- 第8回 証拠の収集保全 (2)【鑑定、検証等】
- 第9回 逮捕
- 第10回 無令状捜索・差押
- 第11回 勾留
- 第12回 別件逮捕・勾留に関する問題
- 第13回 被疑者の取調べ、自己負罪拒否権
- 第14回 被疑者の防御権、接見交通権に関する問題
- 第15回 捜査の終結後の事件処理、公訴提起に関わる諸問題、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(100%)
定期試験を受験していない場合、評価不能(－)となります。

刑事訴訟法総論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業準備として、講義で扱うテーマについて教科書等を用いて内容を把握するようにしてください。授業後には、各回の内容について各自復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

刑事訴訟法を学ぶ際に、憲法学に関する議論の理解が前提となる部分が多く、憲法を履修していることが望ましいです。また、刑法上の概念が問題となる場面もあるので、刑法の履修が済んでいる、または平行して履修するとよいでしょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各自が選択した教科書の該当部分を読んである程度予習してくることをすすめます。授業後の復習はしておいてください。質問等も歓迎です。市民の司法参加が行われる時代です。刑事裁判の基本構造、理念などを十分に理解しておく必要があると思います。

この授業はSDGsの「人や国の不平等をなくそう」、「平和と公平をすべての人に」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

刑事訴訟法、公正な裁判

刑事訴訟法各論【昼】

担当者名 水野 陽一 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	刑事訴訟法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	法と社会とのつながりを理解し、現代社会における刑事手続に関する諸問題について、自らの関心を高める。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑事訴訟法各論

LAW331M

授業の概要 /Course Description

本講義では、具体的事例を中心に公判の開始（公訴提起）から、裁判の終結（確定判決）までを中心に概説する。法学的思考方法を身につけ、未知の問題にも原理原則に立ち返り、自ら正解を導出できる力を養うことを目標とする。

到達目標

知識：刑事訴訟法学の公判手続、執行手続に関する知識を体系的に身につけている。
技能：刑事訴訟法（公判手続、執行手続）に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を習得している。
思考・判断・表現力：刑事訴訟法（公判手続、執行手続）に関する法的問題を発見し、その問題に対する判断を表現する基本的な能力を習得している。

教科書 /Textbooks

講義初回で指示します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○「刑事訴訟法判例百選〔第10版〕」（有斐閣、2017年）、○「刑事訴訟法の争点」（有斐閣、2013年）等。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 公訴の提起（起訴便宜主義、起訴状一本主義）
- 第2回 審判対象論
- 第3回 訴因の特定・変更
- 第4回 訴訟条件
- 第5回 公判の諸原則、公判期日の手続
- 第6回 裁判員制度
- 第7回 被害者参加
- 第8回 公判の準備（公判前整理手続、証拠開示）
- 第9回 証拠裁判主義
- 第10回 自由心証主義、証拠能力と証明力
- 第11回 違法収集証拠排除法則
- 第12回 自白法則
- 第13回 伝聞法則
- 第14回 裁判
- 第15回 上訴、再審

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(100%)
定期試験を受験していない場合、評価不能(－)となります。

刑事訴訟法各論【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業準備として、講義で扱うテーマについて教科書等を用いて内容を把握するようにしてください。授業後には、各回の内容について各自復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

刑事訴訟法を学ぶ際に、憲法、刑法の知識が必要となる場面があります。これらの講義を履修済み、平行して履修するのがよいでしょう。また、刑事訴訟法総論で学んだ知識(捜査の終了まで)が前提となります。復習しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各自が選択した教科書の該当部分を読んである程度予習してくることをすすめます。授業後の復習はしておいてください。質問等も歓迎です。市民の司法参加が行われる時代です。刑事裁判の基本構造、理念などを十分に理解しておく必要があると思います。

この授業はSDGsの「人や国の不平等をなくそう」、「平和と公平をすべての人に」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

刑事訴訟法、公正な裁判

犯罪学【昼】

担当者名 藤田 尚 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 4単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	犯罪学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)			
	生涯学習力	●	法と社会とのつながりを理解し、現代社会における犯罪学上の諸問題について、自らの関心を高める。	
	コミュニケーション力			

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

犯罪学

LAW232M

授業の概要 /Course Description

犯罪学とは、「なぜ人は犯罪を犯すのか」という犯罪原因を究明し、対策を立てる学問である。広義の犯罪学は、上述の犯罪原因論と犯罪対策論の両方を意味するが、本講義では、狭義の犯罪学である犯罪原因論を取り上げることとする。犯罪学の歴史は長く、近代犯罪学の始まりは19世紀前半といわれている。いつの時代も人間の異常行動をいかに理論付けて説明するかが問題であり、今現在も人間行動を完全に説明できる理論は存在していない。したがって、本講義では、「なぜ人は犯罪を犯すのか」ということを研究してきた古典的な理論から、「なぜその人は犯罪を止めたのか」というような視点が変化した最新の理論を取り上げつつ、犯罪を多角的な視点から分析することによって、論理的思考を身に付け、自己の見解を論じられるようにすることを目標とする。

(到達目標)

【知識】犯罪学に関する基礎的な知識を体系的に身につけている。

【技能】犯罪学理論の理解に必要な情報を収集・分析することができる。

【思考・判断・表現力】犯罪学の課題について、犯罪学理論に基づき、自己の見解を論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

なし。

レジュメを基に講義を行う。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 藤本哲也『犯罪学原論』日本加除出版(2003年)。
- 藤本哲也『刑事政策概論(第7版)』青林書院(2015年)。
- 守山正=小林寿一共著『ビギナーズ犯罪学(第2版)』成文堂(2020年)。
- 瀬川晃『犯罪学』成文堂(1998年)。

犯罪学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス(授業の進め方及び犯罪学の学び方について)
- 第2回 犯罪学とは何か
- 第3回 犯罪学の歴史①(古典的犯罪学)
- 第4回 犯罪学の歴史②(近代の犯罪学)
- 第5回 社会解体理論
- 第6回 文化伝播理論
- 第7回 異質的接触理論
- 第8回 異質的同一化理論
- 第9回 文化葛藤理論
- 第10回 下層階級文化理論
- 第11回 アノミー理論
- 第12回 非行副次文化理論
- 第13回 異質的機会理論
- 第14回 非行漂流理論・非行中和技術理論・潜在的価値理論
- 第15回 自己観念論・牽制理論
- 第16回 ラベリング理論
- 第17回 新犯罪学理論
- 第18回 批判的犯罪学理論
- 第19回 急進的犯罪学理論
- 第20回 社会的紐帯理論
- 第21回 合理的選択理論
- 第22回 修復的司法
- 第23回 被害者学理論
- 第24回 環境犯罪学
- 第25回 状況的犯罪予防論
- 第26回 防犯環境設計論
- 第27回 日常活動理論
- 第28回 ライフコース理論
- 第29回 デジスタンス理論
- 第30回 まとめ

* 講義内容は上記の通りであるが、必要に応じて、変更する場合もある。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト30%、定期試験70%の総合評価とする。
ただし、定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 【事前学習】各回のテーマに関する文献に目を通すこと。
- 【事後学習】レジユメを再度読み直し、わからない用語等があれば教科書等で調べて知識の定着を図り、疑問点があれば、積極的に質問すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、犯罪の原因は何かを考え、犯罪をなくすためにはどうすべきかを考える政策への懸け橋になることから、SDGsの「16: 平和と公平をすべての人に」の目標に関連しています。

犯罪心理学とは異なり、理論を中心に扱うため、少々、難しい印象を受けますが、なぜ犯罪を犯すのかを自分なりに考えてみましょう。

キーワード /Keywords

刑事法、犯罪学

刑事司法政策I【昼】

担当者名 藤田 尚 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	刑事司法政策の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	法と社会とのつながりを理解し、現代社会における刑事司法政策上の諸問題について、自らの関心を高める。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑事司法政策 I

LAW332M

授業の概要 /Course Description

刑事政策とは、犯罪の原因を探求し、その原因に基づいて犯罪を防止するための対策を講じるものである。本講義では、刑事政策の総論として刑事司法全体を説明し、刑事司法政策IIでは、各論を中心とする各種犯罪について言及する。講義を通して、統計等に基づき、客観的に犯罪原因を分析した上で対策を考え、自分の見解が述べられることを目標とする。将来、社会へ出た際に、本講義で培った論理的思考を活かし、問題の解決に役立てていただきたい。

(到達目標)

【知識】 刑事司法政策に関する基礎的な知識を体系的に身につけている。

【技能】 刑事司法政策の理解に必要な情報を収集・分析・整理することができる。

【思考・判断・表現力】 刑事司法政策の課題について、法的思考に基づき、自己の見解を論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

なし。

レジュメを基に講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 川出敏裕＝金光旭共著『刑事政策（第2版）』成文堂（2018年）。
- 藤本哲也『刑事政策概論（第7版）』青林書院（2015年）。
- 藤本哲也『よくわかる刑事政策』ミネルヴァ書房（2011年）。
- 守山正＝安部哲夫共著『ヒギナーズ刑事政策（第3版）』成文堂（2017年）。
- 大谷實『刑事政策講義（新版）』弘文堂（2009年）。
- 法務省法務総合研究所編『令和3年版 犯罪白書』日経印刷株式会社（2022年）。
- 国家公安委員会・警察庁『令和3年版 警察白書』日経印刷株式会社（2021年）。

刑事司法政策I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス(授業の進め方と刑事政策の学び方について)
- 第2回 刑事政策とは何か
- 第3回 犯罪統計と暗数
- 第4回 刑罰制度の概要
- 第5回 死刑
- 第6回 自由刑
- 第7回 財産刑
- 第8回 猶予制度
- 第9回 保安処分
- 第10回 保護処分
- 第11回 犯罪者処遇の概要
- 第12回 施設内処遇①受刑者の矯正処遇
- 第13回 施設内処遇②受刑者の法的地位
- 第14回 施設内処遇③受刑者処遇の近年の動向
- 第15回 中間処遇制度

* 講義内容は上記の通りであるが、必要に応じて、変更する場合もある。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト30%、定期試験70%の総合評価とする。
ただし、定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】各回のテーマに関する文献に目を通すこと。

【事後学習】レジュメを再度読み直し、わからない用語等があれば教科書等で調べて知識の定着を図り、疑問点があれば、積極的に質問すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、犯罪を減少させるための政策や福祉との連携等を考えることから、SDGsの「16: 平和と公平をすべての人に」及び「3: すべての人に健康と福祉を」の目標に関連しています。

犯罪者がどのような刑を受け、どのようにして社会復帰を果たすのかについて学びましょう。

キーワード /Keywords

刑事法、刑事政策

刑事司法政策II 【昼】

担当者名 藤田 尚 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	刑事司法政策の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	法と社会とのつながりを理解し、現代社会における刑事司法政策上の諸問題について、自らの関心を高める。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

刑事司法政策II

LAW333M

授業の概要 /Course Description

刑事政策とは、犯罪の原因を探求し、その原因に基づいて犯罪を防止するための対策を講じるものである。刑事司法政策Iでは、刑事政策の総論として刑事司法全体を説明するが、本講義である刑事司法政策IIでは、各論を中心とする各種犯罪について言及する。講義を通して、統計等に基づき、客観的に犯罪原因を分析した上で対策を考え、自分の見解が述べられることを目標とする。将来、社会へ出た際に、本講義で培った論理的思考を活かし、問題の解決に役立てていただきたい。

(到達目標)

【知識】 刑事司法政策に関する基礎的な知識を体系的に身につけている。

【技能】 刑事司法政策の理解に必要な情報を収集・分析・整理することができる。

【思考・判断・表現力】 刑事司法政策の課題について、法的思考に基づき、自己の見解を論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、レジュメを基に講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 川出敏裕 = 金光旭共著『刑事政策(第2版)』成文堂(2018年)。
- 藤本哲也『刑事政策概論(第7版)』青林書院(2015年)。
- 藤本哲也『よくわかる刑事政策』ミネルヴァ書房(2011年)。
- 守山正 = 安部哲夫共著『ビギナーズ刑事政策(第3版)』成文堂(2017年)。
- 大谷實『刑事政策講義(新版)』弘文堂(2009年)。
- 法務省法務総合研究所編『令和3年版 犯罪白書』日経印刷株式会社(2022年)。
- 国家公安委員会・警察庁『令和3年版 警察白書』日経印刷株式会社(2021年)。

刑事司法政策II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス(刑事司法制度の流れ)
- 第2回 社会内処遇①社会内処遇制度の概要
- 第3回 社会内処遇②更生保護制度
- 第4回 社会内処遇③保護観察
- 第5回 少年非行
- 第6回 高齢者犯罪
- 第7回 女性犯罪
- 第8回 精神障害者の犯罪
- 第9回 暴力団犯罪
- 第10回 来日外国人犯罪
- 第11回 薬物犯罪
- 第12回 交通犯罪
- 第13回 常習犯罪
- 第14回 ファミリー・バイオレンス
- 第15回 犯罪被害者に対する施策

* 講義内容は上記の通りであるが、必要に応じて、変更する場合もある。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト30%、定期試験70%の総合評価とする。
ただし、定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】各回のテーマに関する文献に目を通すこと。
【事後学習】レジュメを再度読み直し、わからない用語等があれば教科書等で調べて知識の定着を図り、疑問点があれば、積極的に質問すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、犯罪を減少させるための政策や福祉との連携等を考えることから、SDGsの「16: 平和と公平をすべての人に」及び「3: すべての人に健康と福祉を」の目標に関連しています。

刑事司法政策IとIIは、内容が繋がっているため、併せて受講することが望ましいです。
また、理解を深めるためには、刑法と刑事訴訟法を受講しておくことをお勧めします。

キーワード /Keywords

刑事法、刑事政策

社会法総論 【昼】

担当者名 岡本 舞子 / OKAMOTO MAIKO / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 社会法の基本的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える社会法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会法総論

LAW140M

授業の概要 /Course Description

社会法は、私たちの日々の生活や職業活動を支える重要な法領域です。社会法として捉えられるのは、主として労働法と社会保障法であり、本講義では、これら2領域の基本的な問題について学びます。
講義では、具体的事例を挙げながら、労働者が労働する過程で起こる諸問題（労働法領域）や、私たちが生活する上で生じる諸問題（社会保障法領域）に、法がどのように関わるのかについて、理解を深めます。
(到達目標)
【知識】社会法の意義を理解し、労働法及び社会保障法に関する基礎的知識を身につけている
【技能】社会法（特に労働法及び社会保障法）を学ぶための基礎的スキルを身につけている
【思考・判断・表現力】社会法学（特に労働法及び社会保障法）に関する基礎的な課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

特に指定しません。適宜、レジユメ・資料等を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

予定は以下の通りですが、順序等につき変更の可能性もあります。

第1回 インタロダクション～社会法とは？
第2回 労働法上の当事者
第3回 労働契約の締結過程と成立
第4回 労働条件決定システム
第5回 賃金に関する規制
第6回 労働時間に関する規制
第7回 年次有給休暇・休業に関する規制
第8回 労働契約の終了
第9回 労災保険①【労災補償制度の意義・沿革、労災保険の仕組み】
第10回 労災保険②【業務災害】
第11回 労災保険③【通勤災害、保険給付の内容】
第12回 労災民訴
第13回 雇用保険①【雇用保険制度の意義・沿革、適用関係、求職者給付】
第14回 雇用保険②【その他の給付、雇用保険二事業、求職者支援】
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート・・・100%
期末レポートを提出しなかった場合、評価不能（－）とします。

社会法総論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：配布資料に目を通すこと。

事後学習：文献等を読み、授業で扱った内容を理解すること。学習した内容をまとめ、知識を定着させること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、SDGsの「1. 貧困をなくそう」「3. すべての人に健康と福祉を」「5. ジェンダー平等を実現しよう」「8. 働きがいも経済成長も」「10. 人や国の不平等をなくそう」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

社会サービス法【昼】

担当者名 /Instructor 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会サービス法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える社会サービス法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会サービス法

LAW242M

授業の概要 /Course Description

本講義では、「社会保障法」と捉えられる分野の中で、「社会サービス法」という枠組みとして、主に、医療、社会福祉サービスに関する基本的な構造を理解し、そこで露呈する理論的な諸問題について「法的」視点からの概観・検討を行う。

近年、社会保障関連法は、社会構造の変化、人口構成の変動などにより、大きな転換期を迎えている。「社会サービス法」領域においても、次世代育成戦略に伴う子ども子育て支援関連法や障害者総合支援法の制定、障害者分野と介護保険との統合問題、福祉領域における契約制度導入による危険負担の変化など、制度の根本的改革が行われたことによる問題も多く出現してきており、また、医療保障をめくっても増大する国民医療費の負担に各制度がどのように対応すべきであるのかなど積み残された課題も多い。

本講義では、まず第一に、各制度を概観し仕組みを理解することが必要であるが、制度自体を知ることが目的ではなく、その知識を前提に具体的な法的紛争が生じた場合に「法」はどのように対処することになるのかを知ることに主眼がある。

(到達目標)

【知識】 社会サービス法領域に関する知識を体系的に身につけている

【技能】 社会サービス法領域における課題の解決に必要な法令を解釈・適用するための基礎的スキルを身につけている

【思考・判断・表現力】 社会サービス法領域における課題に対し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

テキストは使用せず配布レジюмеで進行予定。レジюмеは、Moodleで事前配布する。

ただし、本講義において用いる諸法律の条文を用意する必要がある。かなり多くの法律が必要となるため、社会保障関連法が掲載されている六法を使用することを推奨する（当該六法等必要な情報は、初回講義時に指示するので必ず出席すること）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しないが、必要に応じて講義中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義の進行計画としては、おおよそ以下のように予定しているが、受講者の理解・反応等を見ながら進度を調整することもある。

- 第1回 インTRODクシヨン～「社会サービス法」とは？
- 第2回 医療保険の保険関係（保険者・被保険者）
- 第3回 保険医療の仕組み①～保険医療機関と保険医
- 第4回 保険医療の仕組み②～保険医療関係における問題
- 第5回 医療保険の保険給付
- 第6回 医療保険の財政
- 第7回 高齢者の医療保障
- 第8回 医療供給体制に関する法制
- 第9回 社会福祉の法体系とその展開
- 第10回 社会福祉の給付方式
- 第11回 サービス利用の法律関係
- 第12回 福祉サービスの提供体制
- 第13回 権利擁護システム
- 第14回 不服申立制度
- 第15回 まとめ

社会サービス法【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、期末試験の成績のみで評価する(期末試験...100%)。

* 期末試験未受験者は「Z」評価とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

(事前学習) 配布されたレジユメに目を通し、疑問点を抽出する。

(事後学習) 学習した内容を振り返り、知識を定着させる。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 「社会保障法」としての一体的な理解をするためには、「所得保障法」との同時受講が望ましい。
- ・ 応用科目としての性格が非常に強いので、「民法総則」「債権総論」「債権各論」「行政法総論」「憲法人権論」などの基礎科目(憲法・民法・行政法領域)を履修していることが望ましい。特に他学部・他学科生にとってはより高度な内容になると考えられるので、上記基礎科目等を履修していることが一層望まれる。そのため、これら基礎科目の履修を終えた3年次以降に履修するとより理解しやすくなる。
- ・ 授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に取り組むことが重要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義は、SDGs 1(貧困をなくそう)、3(すべての人に健康と福祉を)、10(人や国の不平等をなくそう)及び16(平和と公平をすべての人に)の目標と関連しています。

キーワード /Keywords

所得保障法【昼】

担当者名 /Instructor 津田 小百合 / Sayuri TSUDA / 法律学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	所得保障法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える所得保障法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

所得保障法

LAW243M

授業の概要 /Course Description

本講義では、「社会保障法」と捉えられる分野の中で、「所得保障法」という枠組みとして、年金、公的扶助（生活保護）等についての基本的な構造理解、「法的」諸問題の概観・検討を行う。

近年、社会保障関連法は、社会構造の変化、人口構成の変動などにより、大きな転換期を迎えている。「所得保障法」領域においても、年金制度の統合問題や財政負担問題等についての検討も行なわれているし、ニュースでも話題になった生活保護の不正受給や保護基準の問題なども議論となっている。

本講義では、単なる制度の概観だけにとどまらず、「法的」角度からの社会保障への理解を深める。

（到達目標）

【知識】 所得保障法領域に関する知識を体系的に身につけている

【技能】 所得保障法領域における課題の解決に必要な法令を解釈・適用するための基礎的技能を身につけている

【思考・判断・表現力】 所得保障法領域における課題に対し、法的思考に基づいた判断を行うことが出来る

教科書 /Textbooks

テキストは使用せず配布レジюмеで進行予定。

レジюмеはMoodleを利用して事前配布する予定。

ただし、関連する諸法律の条文を用意する必要がある。その際、社会保障関連法が掲載されている六法を使用することを推奨する（当該六法等必要な事項は、初回講義時に指示するので必ず出席すること）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しないが、必要に応じ講義中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

大まかには以下のような予定で進行するが、受講者の反応や希望等により前後・変更することもある。

- 第1回 インTRODクシヨン～「所得保障法」とは？
- 第2回 公的年金保険の構造
- 第3回 公的年金保険の保険関係
- 第4回 公的年金保険の保険給付①（老齢給付・障害給付）
- 第5回 公的年金保険の保険給付②（遺族給付）
- 第6回 公的年金保険の保険給付③（年金給付の調整・離婚分割）
- 第7回 公的年金保険の財政及び不服申立
- 第8回 公的年金制度と私的年金制度
- 第9回 我が国における公的扶助制度、生活保護制度の基本原則①（生保1・2条）
- 第10回 生活保護制度の基本原則②（生保4条）
- 第11回 生活保護実施に関する4つの原則
- 第12回 保護の種類と方法
- 第13回 保護の実施機関とプロセス
- 第14回 不服申立制度
- 第15回 まとめ

所得保障法 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として期末試験のみで評価する（期末試験...100％）。

* 期末試験未受験者は「Z」評価とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

（事前学習） 配布されたレジюмеに目を通し、疑問点を抽出する。

（事後学習） 学習した内容を振り返り、知識を定着させる。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 「社会保障法」としての一体的な理解のためには、「社会サービス法」との同時受講が望ましい。
- ・ 応用科目としての性格が非常に強いため、「民法総則」「債権総論」「債権各論」「行政法総論」「憲法人権論」などの基礎科目（憲法・民法・行政法領域）を履修していることが望ましい。特に他学部・他学科生にとってはより高度な内容になると考えられるので、上記基礎科目等を履修していることが一層望まれる。そのため、これら基礎科目の履修を終えた3年次以降に履修するとより内容を理解することができると思われる。
- ・ 授業中に指示された予習・復習その他の授業外学習に取り組むことが重要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義は、SDGs 1（貧困をなくそう）、10（人や国の不平等をなくそう）及び16（平和と公平をすべての人に）の目標と関連しています。

キーワード /Keywords

雇用関係法 【昼】

担当者名 岡本 舞子 / OKAMOTO MAIKO / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 雇用関係法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 雇用関係法と社会のつながりを確認し、雇用関係法をめぐる現代的な諸問題に対する関心を高める。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

雇用関係法

LAW240M

授業の概要 /Course Description

労働法は、一般に、個別的労働関係法（雇用関係法）、集团的労働関係法（労使関係法）、労働市場法に分類されます。この授業では、個々の労働者と使用者の関係を規律する法分野である個別的労働関係法を中心に学びます。

本講義の目的は、個別的労働関係法に関する知識の修得、論点について一定の法的判断を行う能力を身につけること、現代的な課題に対する関心を高めることにあります。講義では、労働契約の成立、展開、終了という労働契約の展開過程に沿って重要論点を検討します。

（到達目標）

【知識】雇用関係法領域に関する知識を体系的に身につけている

【技能】雇用関係法領域における課題の解決に必要な法令を解釈・適用するための基礎的技能を身につけている

【思考・判断・表現力】雇用関係法領域における課題に対し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

野田進＝山下昇＝柳澤武編『判例労働法入門（第7版）』（有斐閣・2021年）3,300円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

予定は以下のとおりですが、順序等につき変更する可能性もあります。

- 第1回 インタロダクション（労働法の役割）
- 第2回 労働法上の当事者
- 第3回 労働契約の成立
- 第4回 労働契約上の権利・義務
- 第5回 就業規則と労働契約
- 第6回 賃金
- 第7回 労働時間、休憩・休日と年次有給休暇
- 第8回 人事異動・配転・出向
- 第9回 労働契約の変更
- 第10回 休業・退職
- 第11回 安全衛生と労災補償
- 第12回 懲戒
- 第13回 労働契約の終了（解雇、退職とその他の法律関係）
- 第14回 非典型雇用（パート、有期、派遣労働）
- 第15回 雇用平等、労働者の自由と人権

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト（2回）・・・100%

小テストを2回とも受けなかった場合、評価不能（－）とします。

雇用関係法 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：次回の授業内容について、教科書の該当箇所を読むこと。

事後学習：判例や文献を読み、授業で扱った内容を理解すること。学習した内容をまとめ、知識を定着させること。

履修上の注意 /Remarks

「社会法総論」を先に受講すれば、本講義の理解がより深いものになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、SDGsの「1. 貧困をなくそう」「3. すべての人に健康と福祉を」「5. ジェンダー平等を実現しよう」「8. 働きがいも経済成長も」「10. 人や国の不平等をなくそう」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

労使関係法 【昼】

担当者名 岡本 舞子 / OKAMOTO MAIKO / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 労使関係法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 労使関係法と社会のつながりを確認し、労使関係法をめぐる現代的な諸問題に対する関心を高める。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

労使関係法

LAW241M

授業の概要 /Course Description

労働法は、一般に、個別的労働関係法（雇用関係法）、集团的労働関係法（労使関係法）、労働市場法に分類されます。この授業では、労働組合と使用者の関係を規律する法分野である集团的労働関係法を中心的に学びます。

本講義の目的は、集团的労働関係法に関する知識の修得、論点について一定の法的判断を行う能力を身につけること、現代的な課題に対する関心を高めることにあります。

（到達目標）

【知識】 労使関係法領域に関する知識を体系的に身につけている

【技能】 労使関係法領域における課題の解決に必要な法令を解釈・適用するための基礎的技能を身につけている

【思考・判断・表現力】 労使関係法領域における課題に対し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

野田進＝山下昇＝柳澤武編『判例労働法入門（第7版）』（有斐閣・2021年）3,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

予定は以下のとおりですが、順序等につき変更する可能性もあります。

第1回 インTRODクシヨン

第2回 労組法上の当事者

第3回 労働組合の組織と運営

第4回 団体交渉

第5回 労働協約①【労働協約の成立、労働協約と労働契約】

第6回 労働協約②【労働協約の拡張適用、労働協約の更新と終了】

第7回 団体行動序説

第8回 組合活動

第9回 争議行為①【争議行為の保障、正当性】

第10回 争議行為②【争議行為と賃金、正当性のない争議行為の責任】

第11回 争議行為③【ロックアウト、労働争議の調整】

第12回 不当労働行為①【不当労働行為制度の意義と目的、不利益取扱い、正当な理由のない団交拒否】

第13回 不当労働行為②【支配介入、複数組合並存下の不当労働行為、賃金・昇格差別の立証】

第14回 不当労働行為③【救済】

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト（2回）・・・100%

小テストを2回とも受けなかった場合、評価不能（－）とします。

労使関係法 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：次回の授業内容について、教科書の該当箇所を読むこと。

事後学習：判例や文献を読み、授業で扱った内容を理解すること。学習した内容をまとめ、知識を定着させること。

履修上の注意 /Remarks

前期開講の「雇用関係法」を事前に履修しておくことが望ましいです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、SDGsの「8.働きがいも経済成長も」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

独占禁止法【昼】

担当者名 /Instructor 諏佐 マリ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	独占禁止法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える独占禁止法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

独占禁止法

LAW340M

授業の概要 /Course Description

「経済憲法」または「経済の基本法」と呼ばれる独占禁止法によって規制される行為、および違反行為に対してとられる措置の内容を学びます。まず、独占禁止法の執行・運用を中心的に担っている公正取引委員会の組織およびその手続について学びます。そのうえで、違反行為に対する公正取引委員会およびそれ以外の主体による措置についても学びます。そして、具体的な違反行為としての、カルテル・談合や、「私的独占」行為、競争制限的な合併、「不正な取引方法」などについて、具体的な事例に接しながら理解してもらいます。

(到達目標)

【知識】 独占禁止法に関する知識を体系的に身につけている

【技能】 独占禁止に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている

【思考・判断・表現力】 独占禁止法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

この講義で扱う独占禁止法は2019年に大きく改正されていますが、それを反映した適当な教科書が、このシラバス入力段階ではありません。したがって、ここで教科書の指定はできない状況です。改正法が反映されていないため、購入の必要はありませんが、教科書に準ずる参考書として、土田和博ほか『条文から学ぶ独占禁止法（第2版）』（有斐閣、2019年）があります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

金井貴嗣ほか編「経済法判例・審決百選（第2版）」（有斐閣、2017年）2800円＋税

泉水文雄『経済法入門』（有斐閣、2018年）3700円＋税

岸井大太郎ほか『経済法（第9版）』（有斐閣、2020年）2700円＋税

独占禁止法【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 独占禁止法の目的と仕組み
- 2 公正取引委員会の組織と手続
- 3 違反行為に対する民事上の責任
- 4 違反行為に対する刑事上の責任
- 5 競争制限行為の禁止
- 6 「私的独占」行為の禁止
- 7 「不当な取引制限」行為の禁止
- 8 事業者団体の行為の規制
- 9 企業集中規制
- 10 「不公正な取引方法」の禁止(1) 取引拒絶行為の規制
- 11 「不公正な取引方法」の禁止(2) 不当廉売行為の規制
- 12 「不公正な取引方法」の禁止(3) 不当顧客誘引行為の規制
- 13 「不公正な取引方法」の禁止(4) 拘束条件付取引の規制
- 14 「不公正な取引方法」の禁止(5) 優越的地位の濫用の規制
- 15 国際的な経済活動の展開と独占禁止法

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(60%)および授業への取り組み(40%)。定期試験を受験しなかった場合は評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に必要な読書等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

集中講義形式で行われる授業のため、授業への出席が成績評価の大前提となります。必ず手元で独占禁止法等の条文を確認できるように準備しておいてください。授業においては、民法・民事訴訟法・刑法・刑事訴訟法等の条文の参照も求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

集中講義形式で行われる授業のため、授業への出席が成績評価の大前提となります。

キーワード /Keywords

独占禁止法、消費者、競争、経済活動の自由、公正取引委員会

知的財産法 【昼】

担当者名 /Instructor 小川 明子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 集中
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	知的財産法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える知的財産法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

知的財産法

LAW341M

授業の概要 /Course Description

知的財産に係る権利について学ぶ。まず、知的財産法全体を概観し、その後特許法と著作権法を中心に講義する。適宜重要判例についても解説する。

(到達目標)

【知識】 知的財産法に関する知識を体系的に身につけている

【技能】 知的財産に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている

【思考・判断・表現力】 知的財産法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

毎回、レジュメ、資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『たのしい著作権法2019』小川明子 ISBN 978-4-9903935-5-7 楽しい著作権法2021

『標準特許法第7版』高林龍 ISBN 978-4641243453

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 オリエンテーション、知的財産とは
- 2 知的財産の特色
- 3 発明とは
- 4 特許要件
- 5 権利主体
- 6 特許取得
- 7 特許権と著作権
- 8 著作権の客体
- 9 作者の権利
- 10 著作者の権利
- 11 著作者人格権
- 12 著作権の主体
- 13 保護期間
- 14 著作隣接権
- 15 テスト、解答解説

知的財産法 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内での小レポート 30%
筆記テスト（遠隔講義の場合、レポートとします） 50%
平常の学習状況 20%
筆記テストを受験あるいはレポートを提出しなかった場合は評価不能（－）とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

知的財産に係るニュースに興味を持つこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

知的財産が如何に日々の生活に係ることかを認識し、講義を楽しんでください。

キーワード /Keywords

環境法 【昼】

担当者名 /Instructor 鬼塚 知 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	環境法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える環境法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

環境法

LAW342M

授業の概要 /Course Description

一定程度の学力・理解力があることを前提に、法解釈における思考力を鍛えるとともに、いわゆる環境法の考え方を学ぶことを目標とする。受講生の数を踏まえ、授業内容等は考慮するが、小テストをこまめに実施することで知識の定着・応用力を養っていく。

教科書 /Textbooks

毎回にて講師作成のレジュメ等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講師が必要に応じ紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～第4回 法解釈について・基礎的知識の確認
- 第5回～第14回 いわゆる環境法（廃棄物処理法、環境影響評価法など）
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み姿勢 30%
定期試験 70%
※新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、定期試験はレポートにすることがある。
※定期試験ないしレポートを受験しなければ評価不能（-）となる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

昨年の講義を踏まえ、基礎的な知識を重点的に理解してほしい。すなわち、環境法においては、民法・行政法における知識が最低限必要となるため、日々、同法についてしっかりと学んでほしい。

履修上の注意 /Remarks

前述のとおり、環境法は民法・行政法の応用科目である。同法について最低限度の講義は行うが、これらの理解が乏しい場合、環境法の内容を理解するためには相応の努力が必要と考える。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生間の文章力について格差が著しい。その原因は、そもそも文章に触れる時間及び文章を書く時間の差にあると思う。文章力は文章を書くことで確実に上達する能力であるとともに、一般社会に出た際に間違いなく必要になる能力である。そのため、これらの能力を講義を通して向上させたいと考えている。

キーワード /Keywords

社会法の現代的展開 【昼】

担当者名 /Instructor 柴田 滋 / Shigeru Shibata / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会法における現代的問題の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える社会法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

社会法の現代的展開

LAW343M

授業の概要 /Course Description

労働法、社会保障法、衛生法、経済法などの部門で構成される社会法は、戦後福祉国家に必須の法分野として拡充整備されてきましたが、20世紀末葉以降の経済社会的背景の変貌に伴って新たな課題を抱え、大きな転換期にあります。今日、どのような社会法を選択するかということは、健全な福祉国家を持続するうえで、一つの重大な課題となっています。社会法の現代的展開を題材とするこの授業では、以下の内容と到達目標に基づいて講義を行います。

《講義内容の概要》

第1部「現代社会法の概要」では、社会法の歴史と現代における労働法と社会保障法の基礎的な規律内容について、実定法学的観点から学習します。

第2部「社会法の基本法理」では、人間性の自由と社会法の理念との関係、資本主義秩序と社会法の現実的目的との関係、市民法による社会統合と社会法の役割・性格との関係といった社会法の多面的な関係について、法哲学や法制史的な観点も踏まえて考察し、社会法の存在意義と基本法理についての総論的な学習を行います。

第3部「社会法思想の現代的展開」では、市民法理に関する議論や社会法原理に関する議論を踏まえて、社会法の理念・現実的目的・方法に関する現代的な社会法思想の展開について学習します。

第4部「社会法改革の現代的展開」では、経済社会的背景の変貌に対応して進められている実定社会法改革の動向について、その背景、基調および課題を学習します。

《到達目標》

【知識】社会法の体系的知識を修得し、社会法の現代的課題に関する多面的な知識を身につけている。

【技能】社会法の意義、内容、法的性格を理解し、社会法を解釈・適用するための基礎的な技能を身につけている。

【思考・判断】広い視野から社会法の現代的課題を発見し、法的思考に基づいた論理的な判断を行うことができる。

教科書 /Textbooks

柴田滋著「社会法総論-社会法の基本法理とその現代的展開」大学教育出版 ISBN978-4-86429-346-4. 2800円
および、パワーポイント資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ジョン・ロック著「市民政府論」、フリードリヒ・ハイエク著「隷属への道」、我妻栄「新憲法と基本的人権」『民法研究VIII憲法と私法』、その他は講義において案内します。

社会法の現代的展開 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業は、内容を4部で構成し、各回ごとに以下の内容で講義を行います。

【第1部 現代社会法の概要】

- 第1.回福祉国家における社会法の体系的発展 : 福祉国家の三類型、社会法体系の形成
- 第2.回現代労働法の概要① : 資本主義実体的労働関係法、雇用主の優越権の制限、
- 第3.回現代労働法の概要② : 労働契約自由の制限、労働者の経営・生産物分配への集团的関与の推進
- 第4.回現代社会保障法の概要① : 自立生活に関する市民法の基礎規律、所得保障の社会保険
- 第5.回現代社会保障法の概要② : 費用保障の社会保険、公的扶助と社会手当、社会福祉サービス

【第2部 社会法の基本法理】

- 第6.回社会法の原理論的定義 : 法の原理の三要素と法原理論、社会法の定義的意義
- 第7.回社会法の理念-人間本性の自由と法の理念 : 人間本性の自由、自由実現の条件、J.ロッキの自然の法
- 第8.回社会法の現実的前提-資本主義 : 資本主義の基礎システムと排除・貧困、貧困発生メカニズムと対策
- 第9.回社会法の目的、部門、方法 : 社会法の必然的な部門展開、社会法規律分野における法理の分裂

【第3部 社会法思想の現代的展開】

- 第10.回市民法問題に関する諸見解 : 労働契約に関する議論、資本主義的私的所有権に関する議論
- 第11.回社会法思想の現代的展開 : 生存権保障論、自由至上主義、自立支援論、範型論的社会法論

【第4部 社会法改革の現代的展開】

- 第12.回市場原理主義の浸透と構造改革 : 市場原理主義的グローバリゼーション、小さな政府と規制緩和
- 第13.回近年の労働法改革の動向と展望 : 労働力流動化、雇用主の優越権制限、労働法の停滞と個別労働紛争
- 第14.回近年の社会保障法の改革動向と展望 : 社会保障法の基調転換と機能低下、貧困支援の新制度の導入
- 第15.回社会保障財政の現況と課題 : 国民生活と経済との調和、平和で健全な資本主義

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み(比重30%)、および定期試験(比重70%)によって評価します。
なお、定期試験を受験しなかった場合は評価不能(一)とします。定期試験は記述式試験(すべて持込み可)で行います。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの内容を補足し解説するパワーポイント資料を配布するので、これらの教材を活用して、講義内容の全体的関連を理解するように心がけて、予習復習をしてください。予習・復習に必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。

履修上の注意 /Remarks

社会法は多岐の部門にわたります。その現代的展開を題材とするこの科目では、社会法総論、労働法、所得保障法、社会サービス法など、社会法に属する他の科目の一つでも履修しているとわかりやすいと思います。
ただし、この講義では、それらの科目を履修していなくても問題なく履修できるように、第1部で社会法の概要を講義することとしています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の内容は、公法と私法にまたがる内容や法理念論から実定法論にわたる内容を含み、また、経済社会政策と実定社会法改革との関連などを含んでいきますので、やや難易度の高い講義になります。しかし、第1回から第15回目まで、系統的に内容を展開していますので、各回の要点を把握して系統的な内容の関連を把握するようにすれば、わかりやすいと思います。

キーワード /Keywords

非正規雇用、格差と貧困、人間本性の自由とJ.ロッキの「労働所有論」、A.メンガーの全労働収益権・生存権、労務賃貸借 (locatio conductio operarum)、自由至上主義と生存権保障論的社会法論、個人の尊厳と自立支援、市場原理主義的構造改革

国際法I【昼】

担当者名 /Instructor 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法I

LAW250M

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。

国際法を一つのシステムとして捉え、国際法とは何か【法源論】【法の性質】、それはどのように形成され【法の定立】、実際に運用されていくのか【法の実施・履行】、【法の適用・解釈】、違反した場合どうなるのか【国際責任】、紛争はどのように処理されるのか【紛争解決】などの問題を取り扱っていきます。

到達目標は、

【知識】 国際法に関する知識を体系的に身につけている

【技能】 国際法を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている

【思考・判断・表現力】 国際法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。

となります。

具体的には、

- 国際法とは何を指すのか、慣習国際法の問題も含め、説明できる、
- 国際法がどのように作られるのか、その定立のプロセスを法制度として、説明できる、
- 締結された国際約束が国内社会でどのように取り扱われているのか、また国際約束の目的の実現のために国際社会が国内社会に対してどのように働きかけているのか、説明できる、
- 国際法における任意規範と強行規範の議論を、条約の無効の問題も含め、説明できる、
- 国際法への違反があった場合、どのような責任が発生するのか、紛争を処理するためにどのような国際制度があるのか、力による解決は認められるのか、それらの課題も含め、説明できる、とします。

教科書 /Textbooks

横田洋三編『国際社会と法』（有斐閣・2010） 2800円+税

位田隆一ほか編『コンサイス条約集（第2版）』（三省堂、2015年） 1500円+税

Moodleにある講義レジュメ等は、各自、印刷して授業に持ってくるようにしてください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、初回講義時に指示します。

国際法I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際社会における法律作り，国内社会における国際法」

- 第2回 条約の締結
- 第3回 条約への留保
- 第4回 条約の効力
- 第5回 条約の国内適用

第II部「特別法と一般法」

- 第6回 条約と第三国
- 第7回 慣習国際法の成立
- 第8回 慣習国際法の法典化
- 第9回 条約の無効

第III部「国際社会における秩序の維持」

- 第10回 国際責任の成立
- 第11回 国際責任の追及と解除
- 第12回 紛争の平和的解決義務と武力行使の禁止
- 第13回 自衛権
- 第14回 国際司法裁判所(ICJ)

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

予習（事前学習課題）、復習（事後学習課題）および学期末試験で評価します。

予習（事前学習）課題...16.5% 復習（事後学習）課題...21.5% 学期末試験...62.0%

なおボーダーラインにあるときは、その他のアサインメントの実施状況等も加味し、総合的に判断します。

学期末試験を受験しなかった場合には、評価不能（－）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習、復習を前提とした講義を展開します。

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。

また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

詳細は、北方ムードルの情報で確認してください。

履修上の注意 /Remarks

「国際法II」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

4つの願いがあります。

国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国際法の現状と限界を学習し、現在の国際社会の姿を正しく理解してほしい。そして国際法は、自分たちの問題であることを認識してほしい。

キーワード /Keywords

【国際法の定立】、【国際法の実施・履行】、【国際法の適用・解釈】、【国際責任】、【紛争解決】、【SDGs_Goal 16】

国際法Ⅱ【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際法Ⅱ

LAW251M

授業の概要 /Course Description

国際社会を規律する主要な法体系としての国際法について、その基本的枠組みの修得を目指します。

国際社会の基本構成単位としての国家が有する「主権」に注目し、国際法上、国家とは何か【国家の要件】【承認】、国家にはどのような権利が認められ、義務が課されるのか【国家の基本的権利・義務】、それはどのように行使され、どこまで認められるのか【領域】【個人】【管轄権の競合と調整】【国際法によるコントロール】などを取り扱います。

到達目標は、

【知識】国際法に関する知識を体系的に身につけている

【技能】国際法を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている

【思考・判断・表現力】国際法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。

となります。

具体的には、

- 国家システム(state system)の現状と課題を把握し、説明できる、
- 国際社会における主権国家の機能や役割を正しく理解し、説明できる、
- 国益、共通利益、国際社会の公益について、自らの問題として、積極的に考えることができる、
- 国家の基本的権利や義務の議論を正しく理解し、説明できる、
- 個人が国際法においてどのように取り扱われてきているか、その主体性について説明できる、
- 領域に対する国家の権限を正しく理解し、説明できる、とします。

教科書 /Textbooks

横田洋三編『国際社会と法』（有斐閣・2010） 2800円+税

位田隆一ほか編『コンサイス条約集（第2版）』（三省堂、2015年） 1500円+税

学習支援フォルダーにある講義レジュメ等は、各自、印刷して授業に持ってくるようにしてください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、初回講義時に指示します。

国際法II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 コースガイダンス

第I部「国際法上の国家」

第2回 国家と国家承認

第3回 政府承認

第4回 国家の基本的権利

第5回 国家の基本的義務

第II部「国際法主体としての個人」

第6回 人権の国際的保障：枠組み・基準設定

第7回 人権の国際的保障：監視・技術支援

第8回 国際犯罪

第9回 国際刑事裁判所(ICC)

第III部「陸・海・空と国際法」

第10回 陸と国際法：領土取得の権原

第11回 陸と国際法：領域主権

第12回 海と国際法：海上交通

第13回 海と国際法：海洋資源

第14回 空と国際法

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

予習(事前学習)課題、復習(事後学習)課題、学期末試験で評価します。

予習(事前学習)課題...16.5% 復習(事後学習)課題...21.5% 学期末試験...62.0%

なおボーダーラインにあるときは、その他のアサインメントの実施状況なども加味し、総合的に判断します。

学期末試験を受験しなかった場合には、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習、復習を前提とした講義を展開します。

アサインメントに従い、事前学習を行い、授業にのぞむことを求めます。

また指示に従い、事後学習を進め、授業の理解を深めることを求めます。

詳細は北方モデルの情報で確認してください。

履修上の注意 /Remarks

「国際法I」と併せて受講すると学習効果があがります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

5つの願いがあります。国際問題に関心を持ってほしい。国際問題を法的に検討する視角を身につけてほしい。国家システム(state system)の現状と課題を把握してほしい。国際社会における主権国家の機能・役割を正しく理解してほしい。そして国益、共通利益、国際社会の公益について、積極的に考えてほしい。

キーワード /Keywords

【国家の要件】【承認】【国家の基本的権利・義務】【領域】【個人】【管轄権の競合と調整】【国際法によるコントロール】【SDGs_Goal16】

国際私法【昼】

担当者名 /Instructor 小林 啓一 / NAKABAYASHI KEIICHI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際私法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際私法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際私法

LAW252M

授業の概要 /Course Description

この講義を履修することによって、たとえば以下のような問題を解決できるようになることが期待される。

1. 日本人が外国人と婚姻をすると日本人の苗字はどうか。
2. 日本人同士がハワイで法律上有効な婚姻をした場合、あらかじめ日本法上の婚姻届を提出することが必要か。
3. 外国企業に雇用された日本人がその解雇をめぐる日本の裁判所で争うことができるか。
4. 日本人同士が外国で言い争って負傷した場合、その損害賠償額の算定基準はどうか。
5. 裁判による離婚しか認められない国出身の外国人と離婚する場合に、日本で協議離婚は可能か。

現在では国境を越えることは比較的容易であるから、私法上の問題（契約や婚姻など）も国境を越えて生じることがある。国際私法はこのような問題を解決する法（準拠法）を決定するための国内法である。この授業では、国際私法とはどのような法律か、いかなる問題が国際私法によって解決できるかという点について、できるだけ身近な具体例を用いながら考えてみたい。

（到達目標）

【知識】国際私法に関する知識を体系的に身につけている

【技能】国際私法を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている

【思考・判断・表現力】国際私法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

使用しません（授業時の口頭説明や板書等）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

野村美明ほか編『新・ケースで学ぶ国際私法（第2版）』（法律文化社、2020年）

中西康ほか著『国際私法（第2版）』（有斐閣、2018年）○

国際私法【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 国際私法序論【国際私法の意義と必要性、法的性質】
- 2回 国際私法総論(1)準拠法の決定【法性決定、連結点の意味】
- 3回 国際私法総論(2)準拠法の特定【反致、公序】
- 4回 婚姻の準拠法【国際結婚と法】
- 5回 離婚、親子関係の準拠法【国際離婚と法】
- 6回 国際家族法上のその他の問題【氏、相続など】
- 7回 契約の準拠法(1)【当事者自治の原則】
- 8回 契約の準拠法(2)【特徴的給付、消費者契約、労働契約】
- 9回 不法行為の準拠法【一般不法行為、生産物責任、名誉毀損】
- 10回 自然人、法人【渉外的法律関係の主体と準拠法】
- 11回 国際財産法上のその他の問題【知的財産、物権、債権譲渡】
- 12回 国際民事訴訟法(1)【財産関係事件の国際裁判管轄】
- 13回 国際民事訴訟法(2)【身分関係事件の国際裁判管轄】
- 14回 国際民事訴訟法(3)【外国判決の承認執行】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...100%
期末試験を受験しなかった場合は評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前の学修は特に必要としないが、参考文献やレジュメを中心に事後の学修をおこなうことが求められる。

履修上の注意 /Remarks

国際私法では、他の分野ではあまり聴くことのない独特の概念が多発する(たとえば実体法ってよく聞くけど、実質法とはなに?)。重要なポイントについては繰り返し言及するので、ノートをとること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生殖補助医療(代理出産)や親による子の奪い合いなど、国際私法に関連する時事的な話題にも言及したいと思っています。

キーワード /Keywords

国際私法、国際契約、国際家族法

国際取引法 【昼】

担当者名 八並 廉 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際取引法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際取引法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際取引法

LAW350M

授業の概要 /Course Description

本講義では、物品・資金・技術の移転や役務の提供が国境を越えて行われる取引に関する法律問題を検討する。
国家法や国際法に限らず、国際取引に関わるソフト・ローや国際慣習についても議論する。
最終的には、具体的な国際取引の事実関係から、法律問題を発見し、その解決方法を考察することができるようになることを目的とする。

(到達目標)

【知識】国際取引法に関する知識を体系的に身につけている

【技能】国際取引法を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている

【思考・判断・表現力】国際取引法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業担当教員による解説(レジュメ・板書・パワーポイントを使用)を主とした形態であり、適宜、学生との問答を通じて、関連する知識を深めていく(講義形式)。学生の理解度を把握しながら進めるため、Moodle等によりコメントを寄せてもらうこともある。

- 第1回：ガイダンス・国際取引法総論
- 第2回：国際物品売買契約
- 第3回：インコタームズ
- 第4回：ウィーン売買条約
- 第5回：国際運送
- 第6回：保険
- 第7回：国際支払・信用状
- 第8回：生産物責任
- 第9回：代理店 / 販売店
- 第10回：世界貿易機関
- 第11回：国際知的財産
- 第12回：国際取引と環境訴訟
- 第13回：ブロックチェーン / スマートコントラクト
- 第14回：文化財の国際取引
- 第15回：総括・法の多元化と国際取引

上記授業計画は適宜調整することがある。また、受講者の関心に合わせて、議題を追加 / 調整することも検討する。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験50%、Moodle等によるコメント25%、日常の授業への取り組み25%で、総合評価する。

国際取引法 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜参考文献を紹介するので、予習・復習に活用してほしい。また、授業中の発言やMoodle等で寄せられた質問には、フィードバックするので復習に活用してほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代国際関係法【昼】

担当者名 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際関係法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える国際関係法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代国際関係法

LAW351M

授業の概要 /Course Description

この授業は、夏休みの集中講義期間に行われます。

難民問題を題材に具体的事例の検討を進めながら、問題となる国際法上の論点を取り上げ、その学習を通じ、国際法の専門知識に関する基本的枠組みの習得を目指します。

到達目標は、

- 国際法の体系的理解に必要な基礎知識を獲得する、
- 難民問題に関する課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける、
- 現代社会が抱える難民問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認することができる、とします。

This class will be offered in summer school session.

In this class, we will examine specific cases relating to refugee issues with be focused on international legal issues. You could learn the basic framework of international law.

The goal of this class is as follows:

- To acquire the basic knowledge necessary for the systematic understanding of international law;
- To develop your competence to judge comprehensively so that you can discover issues related to refugee issues and propose any solutions, based on legal analysis and logical thinking;
- To raise your interest in refugee issues in modern society and reaffirm the link between law and society.

教科書 /Textbooks

ありません。

必要な資料は、適宜、配布します。

No textbooks. Related materials will be distributed as needed.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回授業時に、紹介します。

References will be introduced in the first class.

現代国際関係法 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

『イントロダクション』

Day 1

第01回 コースガイダンス

『難民問題の現状を知る』

Day 1

第02回 UNHCRのデータから，現在の難民の発生状況や受け入れ状況を学ぼう

第03回 担当した，上位の出身国，受入国の現状を調べてみよう

Day 2

第04回 プレゼンとディスカッション「現代の難民問題にはどのような特徴がみられるか」

『法的保護：日本の難民認定制度とその運用について考える』

Day 2

第05回 日本の難民認定者数や難民受入率の現状を学ぼう

第06回 担当した，諸外国の難民認定制度の状況を調べてみよう

Day 3

第07回 プレゼンとディスカッション「日本のこれからの難民認定制度はどうあるべきか」

『物的保護：公平な負担と責任分担について考える』

Day 3

第08回 UNHCR・WFP・UNICEFなどの人道援助活動の現状について学ぼう

第09回 担当した，人道援助の実施上の課題について調べてみよう

Day 4

第10回 プレゼンとディスカッション「活動継続資金の確保と難民問題への国際的な関心の維持」

『恒久的解決としての自発的帰還：難民を生み出す根本原因の解決について考える』

Day 4

第11回 恒久的解決の3つの手法とともに，自発的帰還の現状について学ぼう

第12回 担当した，自発的帰還の実施上の課題について調べよう

Day 5

第13回 プレゼンとディスカッション「軍事的介入による難民を生み出す根本原因の解決」

『まとめ』

Day 5

第14回 難民として日本で暮らす_人権と多文化共生社会

第15回 まとめ

INTRODUCTION

Day 1

Class 01 Orientation

STATUS-QUO OF REFUGEE ISSUES

Day 1

Class 02 Learn about Refugee Situations in the World, REFWORLD

Class 03 Examine top 10 countries, origin and host

Day 2

Class 04 Presentation and Discussion, Some Aspects of Modern Refugee Issues

LEGAL PROTECTION: Refugee Recognition System and its Operation in Japan

Day 2

Class 05 Learn about Current Numbers and Rates of Recognition of Refugee Status in Japan

Class 06 Examine Status-quo of Refugee Recognition Systems in other Countries

Day 3

Class 07 Presentation and Discussion, Desirable Japanese Refugee Recognition System

MATERIAL ASSISTANCE: Burden and Responsibility Sharing

Day 3

Class 08 Learn about the Current Activities of Humanitarian Assistance, UNHCR, WFP, and UNICEF

Class 09 Examine Issues in Implementing Humanitarian Assistance

Day 4

Class 10 Presentation and Discussion, Ensuring Continuation Funds and Maintaining International Interest in Refugee Issues

VOLUNTARY REPATRIATION: Dissolution of the Root Causes of Refugees

Day 4

現代国際関係法 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Class 11 Learn about 3 Options of Durable Solutions and Voluntary Repatriation
 Class 12 Examine Issues in Implementing Voluntary Repatriation
 Day 5
 Class 13 Presentation and Discussion, Dissolving the root causes of refugees through military intervention

 CONCLUSION
 Day 5
 Class 14 Living in Japan as a refugee _ Human Rights and Realization of Multicultural Society
 Class 15 Wrap-up

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取組...50% (貢献...10% , プレゼン...20% , ディスカッション...20%)
 レポート...50%

Participation in classes...50% (Contribution to classes...10%, Presentation...20%, Discussion...20%)
 Essay...50%

4回以上欠席した場合には、評価不能 (ー) とします。
 If you are absent more than four times, your grades will be "Hyoka-Funo, 【一】".

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

4回のプレゼンが課されます。担当となった課題について、事前学習を進めてください。また4回のディスカッションが実施されます。事後学習として、授業内容の整理も含め、ディスカッションの振り返りを行ってください。

Four presentations will be given. Please prepare for the assigned task. There will be four discussions class. As a follow-up study, please review the contents of the class and the results of the discussion.

履修上の注意 /Remarks

授業は日本語で実施しますが、英語の資料を積極的に紹介し、受講生にはその活用を求める予定です。受講にあたっては、この点に注意してください。

Classes will be done in Japanese. However, you would be asked to learn by using English materials actively. Please keep this in mind when taking the course.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習・復習の時間として2コマ分の時間を確保しています。相応の作業を伴いますので、夏休み中の暑い時期で大変ですが、頑張ってください。

It is necessary to ensure 180 minutes for preparation and review. It will be hard work in the hot season during summer vacation. Please do your best.

キーワード /Keywords

「難民 Refugee」「国境 Border」「領域 Territory」「難民条約 Convention Relating to the Status of Refugees・議定書 Protocol -」「カルタヘナ宣言 Cartagena Declaration on Refugees」「OAU難民条約 OAU Convention Governing the Specific Aspects of Refugee Problems in Africa」「UNHCR規程 Statute of the UNHCR」「法的保護 Legal Protection」「難民認定 Recognition of Refugee Status」「出入国管理 Immigration Control」「裁量 Discretion」「物的保護 Material Assistance」「負担と責任の分担 Burden and Responsibility Sharing」「人道援助アクセス Access to Humanitarian Assistance」「one UN」「恒久的解決 Durable Solutions」「現地定住 Local Integration」「第3国定住 Resettlement」「自発的帰還 Voluntary Repatriation」「軍事介入 Military Intervention」「強制措置 Enforcement Measures」「保護する責任 Right to Protect」「多文化共生社会 Multicultural (simbiotic) Society」「社会統合 Social Integration」

民法総則【昼】

担当者名 丸山 愛博 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 4単位 学期 2学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	民法に共通する諸概念や基本的考え方の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える民法通則上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民法総則

LAW180M

授業の概要 /Course Description

民法は、日常生活の法といわれることがあります。つまり、日常生活に関わる法律であると。もっとも、日常生活と一口に言っても、そこでは様々なことが行われています。ですから、民法は、具体的にどの部分に関わるのかが疑問に感じられるでしょう。この点について、民法は①家族関係、②財産、③契約に関係するとされています。なんだか漠然とした答えですが、民法は広く日常生活に関係しているというイメージを持って頂ければそれで十分です。

このように広い対象を規律する法律が民法ですから、その条文の数はかなり多く(1050条!)、それゆえに5つの大きなまとまり(「編」という)に分けられています。その第一編が「総則」であり、「総則」には、続く第二編「物権」と第三編「債権」とに共通するルールが定められています。この「総則」(1条~169条)がこの講義で扱う範囲となります。

この講義では、民法典の全体像をしっかりと把握した上で、民法総則が扱っているルールを正確に理解し、基本的な法解釈ができるようになることを目的とします。願わくは、解釈の面白さに目覚めて欲しいと思います。

なお、この講義は、原則としてオンライン(動画を各自で視聴する方式)で実施します。各動画に簡単なクイズを付けて、それへの解答を以て出席確認とします。

(到達目標)

【知識】民法学の民法総則に関する知識を体系的に身につけている

【技能】民法学の民法総則に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている

【思考・判断・表現】民法学の民法総則に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

佐久間毅ほか『民法I総則(第2版補訂版)』(有斐閣リーガルクエスト、2020年)2600円+税
適宜レジュムも配布します

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 佐久間毅『民法の基礎1総則(第5版)』(有斐閣、2020年)3100円+税
- 潮見佳男=道垣内弘人『民法判例百選①総則・物権(第8版)』(有斐閣、2018年)2200円+税
- 大村敦志=道垣内弘人編『解説民法(債権法)改正のポイント』(有斐閣、2017年)3200円+税
- 山野目章夫『民法概論1民法総則』(有斐閣、2017年)3200円+税
- 山本敬三『民法講義I総則(第3版)』(有斐閣、2011年)4500円+税

民法総則【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回ガイダンス、民法の意義
第2回民法の基本原則、民法総則とは
第3回人①（権利能力、意思能力）
第4回人②（行為能力、未成年者）
第5回人③（成年後見制度、任意後見）
第6回人④（住所、不在者、失踪宣告）
第7回法人①（法人総論）
第8回法人②（法人の対外関係、権利能力なき社団）
第9回物
第10回法律行為①（定義、意義）
第11回法律行為②（成立、解釈）
第12回法律行為③（法律行為の有効性判断）
第13回意思表示①（意思表示の構造、心裡留保）
第14回意思表示②（通謀虚偽表示）
第15回意思表示③（錯誤）
第16回意思表示④（詐欺・強迫による意思表示、消費者契約法）
第17回代理①（代理総論、成立要件）
第18回代理②（無権代理）
第19回代理③（無権代理人の責任、無権代理と相続）
第20回代理④（代理権授与表示による表見代理）
第21回代理⑤（権限外行為の表見代理）
第22回代理⑥（代理権消滅後の表見代理）
第23回無効・取消し
第24回条件・期限、期間
第25回時効①（時効総論、正当化根拠）
第26回時効②（取得時効）
第27回時効③（消滅時効）
第28回時効④（時効の完成猶予・更新）
第29回時効⑤（時効の援用、時効利益の放棄）
第30回民法改正について（債権法改正、成人年齢引下げ）

成績評価の方法 /Assessment Method

中間レポートと期末レポートの2回のレポートで評価します。
各レポートの配点は50点ずつです。
2回のレポート提出が必須であり、いずれか一方又は双方のレポートが未提出の場合は、成績評価は「評価不能」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に教科書の該当頁を一読してから講義に出席してください。
事後には、論点を中心に、とりわけ、判例の理論構成に注意して講義ノートを作成してください。

履修上の注意 /Remarks

講義を視聴する際には、手元に六法と教科書をご用意ください。
スライドに条文を載せることは、原則として行いません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

上で述べたように、総則には、物権編と債権編に共通するルールが定められていることから抽象度が高いために、初学者には難しく感じられるかもしれません。具体例を多く取り上げるなどの工夫をして講義を進めますので、辛抱強くコツコツと学習に取り組んでください。

キーワード /Keywords

民法総則、権利の主体、法律行為、意思表示、代理、時効

物権法 【昼】

担当者名 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 物権法に関わる諸規定・判例・学説の学習を通じ、民法学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 物権法をめぐる法的課題を発見し、法的な分析と論理的思考に基づいて、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える民法に関わる諸問題に対して、物権法の視点から自らの関心を高め、民法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

物権法

LAW260M

授業の概要 /Course Description

この授業では、民法第2編「物権」（民法175条～398条の22）のうち、「担保物権法」の授業で取り扱う内容を除いた部分について講義を行う。全15回の講義を通して、物権法の基本的事項に関する知識と法解釈の技能を身につけてもらうことが、この授業の目的である。

（到達目標）

【知識】民法学の物権法に関する知識を体系的に身につけている

【技能】民法学の物権法に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている

【思考・判断・表現力】民法学の物権法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

淡路剛久ほか『民法II－物権（第4版補訂）』（有斐閣Sシリーズ，令和元年） 本体1,900円＋税
このほか，Moodle上で適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

潮見佳男・道垣内弘人編『民法判例百選I 総則・物権（第8版）』（有斐閣，平成30年） 本体2,200円＋税
このほか，必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス，序論(1)【物権の意義と性質】
- 第2回 序論(2)【物権の種類，物権の客体】，物権の優先的効力
- 第3回 物権的請求権，物権の変動
- 第4回 不動産物権変動における公示(1)【公示方法としての登記，「対抗」の意義】
- 第5回 不動産物権変動における公示(2)【登記を必要とする物権変動】
- 第6回 不動産物権変動における公示(3)【第三者の範囲，登記の手続】
- 第7回 動産物権変動における公示
- 第8回 動産物権変動における公示（続き），立木等の物権変動と明認方法，物権の消滅
- 第9回 占有権(1)【意義，占有の成立と態様】
- 第10回 占有権(2)【占有権の取得，占有の効果，占有権の消滅】
- 第11回 所有権(1)【意義，所有権の内容，相隣関係，所有権の取得】
- 第12回 所有権(2)【共有，建物の区分所有】
- 第13回 地上権，永小作権
- 第14回 地役権
- 第15回 入会権，まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...10%，期末レポート...90%
期末レポートを提出しなかった場合は，評価不能（-）とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

この授業では予習を行う必要はないが，授業終了後は必ず復習を行い，理解を定着させること。

物権法 【昼】

履修上の注意 /Remarks

民法入門・民法総則を受講済みであることが望ましい。
授業中に条文を参照することができるように、受講時には必ず最新の六法（ポケット六法等の小型のもので良い）を手元に用意しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回の授業で分からないことは放置せず、メール等を利用して積極的に質問して欲しい。
また、新型コロナウイルスの接触感染を予防するとともに、SDGsの「つくる責任 つかう責任」「陸の豊かさを守ろう」を達成するための取り組みとして、この授業における資料の配布は極力Moodle上で行う。

キーワード /Keywords

民法 物権

担保物権法【昼】

担当者名 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 担保物権法に関する諸規定・判例・学説の学習を通じ、民法学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 担保物権法をめぐる法的課題を発見し、法的な分析と論理的思考に基づいて、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える民法に関わる諸問題に対して、担保物権法の視点から自らの関心を高め、民法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

担保物権法

LAW261M

授業の概要 /Course Description

この授業では、民法第2編「物権」（民法175条～398条の22）に規定されている担保物権（典型担保）及び民法典に規定がない担保物権（非典型担保）について講義を行う。全15回の講義を通して、担保物権法の基本的事項に関する知識と法解釈の技能を身につけてもらうことが、この授業の目的である。

（到達目標）

【知識】民法学の担保物権法に関する知識を体系的に身につけている

【技能】民法学の担保物権法に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている

【思考・判断・表現力】民法学の担保物権法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

淡路剛久ほか『民法II-物権（第4版補訂）』（有斐閣Sシリーズ，令和元年） 本体1,900円＋税
このほか、Moodle上で適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

近江幸治『民法講義III 担保物権（第2版補訂）』（成文堂，平成19年） 本体3,300円＋税 ○
道垣内弘人『担保物権法 第4版』（有斐閣，平成29年） 本体3,200円＋税 ○
潮見佳男・道垣内弘人編『民法判例百選I 総則・物権（第8版）』（有斐閣，平成30年） 本体2,200円＋税
このほか、必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス，担保物権とは何か？
- 第2回 留置権
- 第3回 先取特権
- 第4回 質権
- 第5回 抵当権(1)【抵当権の意義，設定，被担保債権・目的物の範囲】
- 第6回 抵当権(2)【物上代位】
- 第7回 抵当権(3)【抵当権の実行】
- 第8回 抵当権(4)【第三取得者の保護，抵当権の侵害】
- 第9回 抵当権(5)【抵当権の処分，消滅，共同抵当】
- 第10回 抵当権(6)【法定地上権】
- 第11回 抵当権(7)【根抵当権】
- 第12回 非典型担保とは何か？，譲渡担保(1)【譲渡担保の意義】
- 第13回 譲渡担保(2)【譲渡担保権の設定，効力】
- 第14回 譲渡担保(3)【譲渡担保権の実行，消滅】，所有権留保
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...10%，期末レポート...90%
期末レポートを提出しなかった場合は，評価不能（-）とする。

担保物権法 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

この授業では予習を行う必要はないが、授業終了後は必ず復習を行い、理解を定着させること。

履修上の注意 /Remarks

物権法を受講済みであることが望ましい。

授業中に条文を参照することができるように、受講時には必ず最新の六法（ポケット六法等の小型のもので良い）を手元に用意しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回の授業で分からないことは放置せず、メール等を利用して積極的に質問して欲しい。

また、新型コロナウイルスの接触感染を予防するとともに、SDGsの「つくる責任 つかう責任」「陸の豊かさを守ろう」を達成するための取り組みとして、この授業における資料の配布は極力Moodle上で行う。

キーワード /Keywords

民法 担保物権

債権総論【昼】

担当者名 矢澤 久純 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 4単位 学期 1学期(ペア) 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力(学生が卒業時に身に付ける能力)」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	債権総論に関わる諸規定・判例・学説の学習を通じ、民法学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	債権総論をめぐる法的課題を発見し、法的な分析と論理的思考に基づいて、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える民法に関わる諸問題に対して、債権総論の視点から自らの関心を高め、民法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

債権総論

LAW263M

授業の概要 /Course Description

私たちの生活においては、常に何らかの債権が発生している(例えば、スーパーで買い物をした場合など)。この講義では、債権について一般的に規定している「債権総論」と呼ばれる部分について講じる。債権総論分野の諸問題について学習することで、法的な分析や論理的思考に基づいて解決方法を提示することができるようにならねばならない。また、債権総論分野の諸問題を学習することで、民法と(現代)社会とのつながりも再確認できるはずである。

21世紀に入って、債権法の改正が民法学専門家の間で話題となっていたところ、2017(平成29)年5月に、ついに改正法が成立し、2020年4月1日より施行されている。これは、120年に一度と言われるほどの大改正である。従って、この新民法(債権法)を学ばないわけにはいかないのであるが、他方で、大改正後の現行民法を知るためには、大改正前の民法及び判例について一定の知識が必要であることも事実である。そこで、大改正前民法にもきちんと触れながら、現行民法について考えてゆきたい。

この授業は、教室での対面方式で実施することが、一応、予定されている。

到達目標

- 【知識】民法学の債権総論に関する知識を体系的に身につけている
- 【技能】民法学の債権総論に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている
- 【思考・判断・表現力】民法学の債権総論に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

特定の一書をいわゆる「教科書」として使用することは、ない。従って、特定の書籍の販売は、ない。しかし、学習上、有意義な書籍については、開講時に紹介する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『有斐閣Sシリーズ 民法III 債権総論 第4版』、有斐閣、2018年5月、本体価1,900円

債権総論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回(週) 1, ガイダンス、民法典債権編の概観、2, 債権とは何か(物権との違い)
- 2回(週) 3, 民法典に「債権総則」は必要か、4, 債権に基づく妨害排除請求の可否、第三者による債権侵害
- 3回(週) 5, 債務と責任、特定物債権、6, 種類債権、利息債権
- 4回(週) 7, 履行の強制、8, 債務不履行(履行遅滞、履行不能)
- 5回(週) 9, 債務不履行(不完全履行)、安全配慮義務は必要か、10, 帰責事由の問題
- 6回(週) 11, 債務不履行の現代的問題(履行拒絶、説明義務違反等)、12, 損害賠償の範囲
- 7回(週) 13, 損害賠償の調整、14, 受領遅滞
- 8回(週) 15, 債権者代位権、16, 債権者代位権の転用
- 9回(週) 17, 詐害行為取消権の法的性質・要件、18, その効果
- 10回(週) 19, 債権の消滅一般、弁済、20, 債権者らしい者に対する弁済
- 11回(週) 21, 相殺の要件、22, 差押えと相殺
- 12回(週) 23, 債権の譲渡性、債権譲渡の対抗要件(対債務者)、24, 債権譲渡の対抗要件(対第三者)
- 13回(週) 25, 異議を留めない承諾、26, 多数当事者の債権関係
- 14回(週) 27, 連帯債務、不真正連帯債務は必要か、28, 保証債務
- 15回(週) 29, 債権法改正のその他の議論、30, まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

持ち込み一切不可の定期試験(60分)……100%の予定であるが、新型コロナウイルス問題の終息が見えてこない状況にあるため、現時点で確定的なことは何も言えない。確定次第、Moodle上で、必ず通知するので、それをきちんと見ること。

「-」(パー)については、指定された成績評価方法に参加しなかった場合に、「-」(パー)となる。例えば、レポートが成績評価方法として指定された場合に、そのレポートを指定の方法で提出しなかったときに、「-」(パー)となる。指定の方法で提出したが、その内容が不合格と判定される場合に、「D」となる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、講じる箇所について、法文と参考書(債権総論の本であれば、何でも良い)の該当箇所を読むことが望ましい。予習をすることはもちろん大事ではあるが、むしろ、内容が難しいので、講義で触れられた点についての復習を心がけることをお勧めする。重点的に復習すべき箇所は、毎回の講義で示す。さらに、時間があれば、講義で触れた裁判例の判決原文を読むと良いであろう。目安の時間としては、毎回、予習20分、復習70分である。

履修上の注意 /Remarks

俗に言うレジユメ等は、一切、配布しない。板書もしないので、とにかく自分で、ノートや教科書に担当者が話したことを書くべきである。「民法総則」及び「物権法」が履修済である方が、理解しやすい。また、「債権各論1及び2」、「担保物権法」、家族法(親族・相続)も併せて学習することを勧める。

受講期間を通して授業外学習に積極的に取り組むこと。

この講義では、講義中の写真撮影及び録音は厳禁である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

上記

キーワード /Keywords

債権、債権法改正、民法改正

親族法 【昼】

担当者名 矢澤 久純 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 親族法に関わる諸規定・判例・学説の学習を通じ、民法学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 親族法をめぐる法的課題を発見し、法的な分析と論理的思考に基づいて、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える民法に関わる諸問題に対して、親族法の視点から自らの関心を高め、民法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

親族法

LAW264M

授業の概要 /Course Description

民法典第四編親族編について学習する。民法総則と同時期の開講となっているため、民法総則の内容にも留意しながら、学習してゆく。近時、民法の改正が続いており、親族法分野については大きな変動はないものの、改正内容に留意しながら、すべての者が関わるであろう親族分野の法的問題の理解を深めることを目指す。

注意事項：この科目は、教室での対面方式ではなく、オンデマンド方式で実施することが決定しています。

到達目標

- 【知識】民法学の相続法に関する知識を体系的に身につけている
- 【技能】民法学の相続法に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている
- 【思考・判断・表現力】民法学の相続法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

特定の一書をいわゆる「教科書」として使用することは、ない。従って、特定の書籍の販売は、ない。しかし、学習上、有意義な書籍については、開講時に紹介する。近時、民法の改正が続いており、開講時までに改訂版が発売される可能性もあり、現時点では、特定の書籍の指摘ができない。初回の説明をよく聞くこと。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋朋子他『有斐閣アルマ 民法7 親族・相続 第6版』、有斐閣、2020年3月、本体価2,400円(上記の事情により、この書籍も開講時までに改訂版が発売される可能性があるため、もしも購入するのであれば、購入時期に注意して下さい。)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、民法典全体の内容確認と親族法の位置づけ
- 第2回 民法総則と親族法、親族法の変遷
- 第3回 家事事件の処理手続、氏名と戸籍、親族の範囲
- 第4回 婚姻の成立、婚約
- 第5回 内縁、婚姻の無効及び取消し
- 第6回 婚姻の効力
- 第7回 離婚の成立
- 第8回 離婚の効力(1) - - 離婚給付
- 第9回 離婚の効力(2) - - 子の看護と養育費
- 第10回 実子(1) - - 嫡出子
- 第11回 実子(2) - - 嫡出でない子
- 第12回 養子
- 第13回 親権
- 第14回 後見、扶養
- 第15回 まとめ、他分野への展望

親族法 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

新型コロナウイルス問題の終息が見えてこない現時点では未定であるが、レポートになると思います。開講後の決定時に、Moodleに載せるという方法で、必ず通知するので、それをきちんと見ること。

「-」（バー）については、指定された成績評価方法に参加しなかった場合に、「-」（バー）となる。例えば、レポートが成績評価方法として指定された場合に、そのレポートを指定の方法で提出しなかったときに、「-」（バー）となる。指定の方法で提出したが、その内容が不合格と判定される場合に、「D」となる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、講じる箇所について、法文と参考書（親族法の本であれば、何でも良い）の該当箇所を読むことが望ましい。予習をすることはもちろん大事ではあるが、むしろ、内容が難しいので、講義で触れた点についての復習を心がけることをお勧めする。さらに、時間があれば、講義で触れた裁判例の判決原文を読むと良いであろう。目安の時間としては、毎回、予習20分、復習70分である。

履修上の注意 /Remarks

民法が大きく改正されているので、必ず、2022年版以降の六法を用意して下さい。

俗に言うレジユメ等は、一切、配布しない。

この講義では、講義中の写真撮影及び録音は厳禁である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なし

キーワード /Keywords

親族、相続、家族法、身分法、民法、民法典、相続法改正

相続法 【昼】

担当者名 矢澤 久純 / 法律学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 相続法に関する諸規定・判例・学説の学習を通じ、民法学の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 相続法をめぐる法的課題を発見し、法的な分析と論理的思考に基づいて、その解決方法等の提示に至る総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える民法に関する諸問題に対して、相続法の視点から自らの関心を高め、民法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

相続法

LAW265M

授業の概要 /Course Description

民法典第五編相続編について学習する。相続分野については、2018（平成30）年に大きな改正が行われた。相続分野の改正としては約40年ぶりの大きな改正であり、新しい制度も定められている。さらに、2021（令和3）年にも改正が行われた。この講義では、これらの改正内容に留意しながら、ほとんどすべての者が関わるであろう相続というものの理解を深めることを目指す。その際、相続編はあくまでも「民法典」という大きな体系の中の一部（第五編）であるという点を重視する。

到達目標

- 【知識】民法学の相続法に関する知識を体系的に身につけている
- 【技能】民法学の相続法に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている
- 【思考・判断・表現力】民法学の相続法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

特定の一書をいわゆる「教科書」として使用することは、ない。従って、特定の書籍の販売は、行われない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋朋子他『有斐閣アルマ 民法7 親族・相続 第6版』、有斐閣、2020年3月、本体価2,400円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、民法典全体の内容確認と相続法の位置づけ
- 第2回 相続の根拠、相続人の種類
- 第3回 内縁の配偶者、代襲相続、相続の順位
- 第4回 相続分、相続欠格、推定相続人の廃除
- 第5回 相続財産の範囲
- 第6回 相続と無権代理、相続と登記
- 第7回 遺産共有、相続分の取戻し
- 第8回 遺産分割、特別受益、寄与
- 第9回 単純承認、限定承認、相続の放棄、財産分離
- 第10回 相続人の不存在、特別縁故者
- 第11回 遺言(1) - 意義、方式
- 第12回 遺言(2) - 効力
- 第13回 配偶者居住権
- 第14回 遺留分
- 第15回 まとめ、他分野への展望

成績評価の方法 /Assessment Method

新型コロナウイルス問題の終息が見えてこないため、すべての関係者の安全を特に重視し、レポートとする。レポートの詳細は、開講後にMoodleに載せるので、必ずそれをきちんと見ること。
この科目では、いかなる理由であれ、単位を与えることができない場合はすべて、「D」となる。従って、この科目では、「-」は存在しない。

相続法 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、講じる箇所について、法文と参考書（相続法の本であれば、何でも良い）の該当箇所を読むことが望ましい。予習をすることはもちろん大事ではあるが、むしろ、内容が難しいので、講義で触れられた点についての復習を心がけることをお勧めする。さらに、時間があれば、講義で触れた裁判例の判決原文を読むと良いであろう。目安の時間としては、毎回、予習 20 分、復習 70 分である。

履修上の注意 /Remarks

民法が改正されているので、もし真面目に学習したいのであれば、2022（令和4）年版以降の六法を用意して下さい。
この授業では、俗に言うレジユメなるものは、一切、配布しない。レジユメがないと受講できないという者がこの授業を履修すれば、その者にとって悪い結果を伴うこととなる。
この講義では、講義中の写真撮影及び録音は厳禁である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

上記

キーワード /Keywords

相続、相続法、家族法、身分法、民法、民法典、相続法改正

民事訴訟法総論【昼】

担当者名 小池 順一 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	民事訴訟法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える民事訴訟法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民事訴訟法総論

LAW266M

授業の概要 /Course Description

民事訴訟法における判決手続に関する基本的な知識について解説する。

(到達目標)

【知識】民事訴訟法に関する知識を体系的に身につけている

【技能】民事訴訟法に関する法令を解釈運用するための基礎的な技法を身につけている

【思考 判断 表現力】民事訴訟法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

山本弘ほか著 『民事訴訟法 第3版』 (有斐閣 2018) (有斐閣アルマ)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高橋宏志ほか編 『民事訴訟法判例百選(第5版)』 (有斐閣 2015)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 民事訴訟とは 【各種訴訟】 【判決手続】
- 第2回 訴訟手続の概要について 【手続の流れ】
- 第3回 当事者 【当事者能力】 【訴訟能力】
- 第4回 裁判所 【裁判権】 【管轄】
- 第5回 訴えの提起 【訴えの種類】
- 第6回 訴えの利益 【訴えの利益】 【当事者適格】
- 第7回 争点整理手続1 【弁論準備手続】
- 第8回 争点整理手続2 【弁論準備手続】
- 第9回 口頭弁論1 【処分権主義】 【弁論主義】
- 第10回 口頭弁論2 【口頭弁論】
- 第11回 証拠1 【証拠】
- 第12回 証拠2 【証明責任】
- 第13回 訴訟の終了1 【判決】 【既判力】
- 第14回 訴訟の終了2 【既判力】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

定期試験を受験しなかった場合は評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に教科書を読み、理解できない点を把握しておく。図書館の参考文献を利用して、その点について、自分で調べる。
授業を受講して理解できなかった点について、図書館の参考文献を利用して、調査する。

民事訴訟法総論【昼】

履修上の注意 /Remarks

テキスト、参考文献等を利用しての授業の予習、配布プリントを利用しての復習をかかさないようにすること。
民法の知識を修得していることが望ましい。
民事訴訟法IIを履修する前に、民事訴訟法Iを履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的かつ自主的な学習を期待します。

キーワード /Keywords

民事訴訟法各論【昼】

担当者名 小池 順一 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	民事訴訟法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える民事訴訟法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

民事訴訟法各論

LAW287M

授業の概要 /Course Description

民法や商法などの実体法において、ある権利が定められていても、実際にはその権利の内容が実現されない場合がある。実体法規を適用するための前提となる事実関係などについて当事者間で意見が対立することにより権利の存否が分からなかったり、または権利の存在が明らかでも相手方が任意の履行に応じないといったことがあるからである。このように、当事者間で民事紛争が生じたときに、それを解決して権利の内容を実現させるための制度の一つとして、民事訴訟がある。本科目では、民事訴訟を規律する法律である民事訴訟法に関する重要問題について解説する。

(到達目標)

【知識】民事訴訟法に関する知識を体系的に身につけている

【技能】民事訴訟法に関する法令を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている

【思考・判断・表現力】民事訴訟法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

山本弘ほか著『民事訴訟法(第3版)』(有斐閣、2018)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊藤真『民事訴訟法(第6版)』(有斐閣、2018)

松本博之・上野泰男『民事訴訟法(第8版)』(弘文堂、2015)

高橋宏志ほか編『民事訴訟法判例百選(第5版)』(有斐閣、2015)

民事訴訟法各論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|---------|--------------------------|
| 1回 | ガイダンス | |
| 2回 | 当事者 | 【当事者能力】 |
| 3回 | 代理人 | 【法定代理人・任意代理人】 |
| 4回 | 裁判所I | 【管轄】 |
| 5回 | 裁判所II | 【民事裁判権】 |
| 6回 | 訴えの提起I | 【訴えの種類】 |
| 7回 | 訴えの提起II | 【二重起訴】 |
| 8回 | 口頭弁論I | 【処分権主義】 |
| 9回 | 口頭弁論II | 【弁論主義】 |
| 10回 | 証拠I | 【自白】 |
| 11回 | 証拠II | 【違法収集証拠】 |
| 12回 | 判決I | 【既判力の時的限界】 【口頭弁論終了後の承継人】 |
| 13回 | 判決II | 【既判力の客観的範囲】 【訴訟の終了】 |
| 14回 | まとめI | 【当事者】から【訴えの提起II】まで |
| 15回 | まとめII | 【口頭弁論I】から【判決II】まで |

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験(100%)によって評価する。
遠隔授業の場合は、レポート(100%)によって評価する。
定期試験を受験しなかった場合は評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書により授業内容に該当する範囲を予習する。
授業で学んだ重要な原則・手続を中心に復習する。

履修上の注意 /Remarks

履修条件は設けないが、民事訴訟法を理解するためには、民法、商法、会社法などの基礎知識が必要である。
また、発展的な内容を扱うため、「民事訴訟法I」を履修済みであることが望ましい。
授業の進行状況などによって、予定を変更することがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

倒産処理法 【昼】

担当者名 小池 順一 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	倒産処理法制度の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える倒産処理法制度上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

倒産処理法

LAW362M

授業の概要 /Course Description

バブル崩壊後の長期にわたる景気低迷に加え、新型コロナウイルスの拡大により、先行きの見えない経済不況が続いている。このような時代において、倒産はごく稀な現象ではない。わたしたちの社会生活にも倒産がさまざまなかたちで関わる可能性は否定できないといっていよう。

倒産処理法は、債務者が経済的破綻状態になったときに、利害関係人の権利を公平に調整するための法体系である。現行の倒産処理法は、破産手続、特別清算手続、民事再生手続および会社更生手続の4つの手続により構成される。本科目では、倒産処理法のうち最も中心的な役割を果たしている破産手続の概要を解説する。

(到達目標)

【知識】倒産処理法に関する知識を体系的に身につけている

【技能】倒産処理法に関する知識を体系的に身につけている

【思考・判断・表現力】倒産処理法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

中嶋弘雅ほか著『現代倒産手続法』（有斐閣 2013）（有斐閣アルマ）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

松下淳一・菱田雄郷編『倒産判例百選(第6版)』（有斐閣、2021）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、倒産とは
- 2回 倒産処理制手続きの概要
- 3回 破産手続の開始
- 4回 債権の行使 1
- 5回 債権の行使 2
- 6回 担保権の行使
- 7回 相殺権の行使
- 8回 取戻権の行使
- 9回 否認権の行使 1
- 10回 否認権の行使 2
- 11回 破産財団をめぐる契約・権利関係 1 (売買契約)
- 12回 破産財団をめぐる契約・権利関係 2 (賃貸借契約)
- 13回 破産財団をめぐる契約・権利関係 3 (その他契約)
- 14回 配当、免責、破産手続の終了
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験100%

定期試験を受験しなかった場合は評価不能(一)とします。

倒産処理法 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書により授業内容に該当する範囲を予習する。
授業で学んだ手続および手続における実体法上の権利関係を中心に復習する。

履修上の注意 /Remarks

民法、民事訴訟法を履修済みであることが望ましい。
なお、授業の進行状況などによって予定を変更することがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

企業活動と法 【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	企業法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱えている、企業法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業活動と法

LAW273M

授業の概要 /Course Description

ビジネスには様々な法律が関係してきます。「商法」は、企業法として、個人であれ、法人であれ、およそビジネスを行う主体やその活動自体を規律する法です。

本講義では、商事に関する基本法である『商法典』中の「商法総則」と「商行為編」の部分、ならびに、『会社法典』中の「会社法総則」の部分でそれぞれ定められている諸規定の中から、最も重要かつ基本的なルールをいくつか取り上げ、それらの立法趣旨、基本構造、解釈適用上の問題点について、具体的事例に即しながら解説します。

また、必要な限りで『不正競争防止法』など、商事に関する特別法上のルールについても適宜、取り上げていきます。

本講義では、受講を通して、受講者が現代型企業ビジネスが抱えている今日的な法律問題や課題に関心をもち、法解釈や立法でどのような解決が可能であるかについて、自ら考える能力を高めることを目指します。

(到達目標)

- ・ 企業法に関する基礎的な知識を身につけている。
- ・ 企業法を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている。
- ・ 企業法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。

教科書 /Textbooks

テキストについては、最初の講義で指示します。

六法については、最新版であることが望ましいです（毎回、必ず持参してください）。

Moodleにある講義レジュメ等は、各自、印刷して授業に持ってくるようにしてください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については、最初の講義時、ならびに、必要に応じて随時、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概略，以下の順で進みますが，受講生の関心・理解度等により，進度・順番が変わりうることをご了解願います。

- 第1回 商法の学習法—新聞を読もう！ 民法との関連を見よう！ 条文に立ち返ろう！
- 第2回 商人・商行為とは何か
- 第3回 商法の特徴(1)【營利主義】
- 第4回 商法の特徴(2)【外観主義】
- 第5回 商法の特徴(3)【公示主義】
- 第6回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール（1）【商号・商標】
- 第7回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール（2）商法総則・会社法総則による保護
- 第8回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール（3）不正競争防止法上の保護
- 第9回 企業名・商品名・トレードマークなどに関するルール（4）名板貸人の責任
- 第10回 現代型取引と名板貸制度
- 第11回 企業活動を補助する人々をめぐる法的問題（1）【商業使用人とは何か】
- 第12回 企業活動を補助する人々をめぐる法的問題（2）【支配人の権限】【支配人の権限濫用】
- 第13回 企業活動を補助する人々をめぐる法的問題（3）【表見支配人】【支配人の義務】
- 第14回 営業・事業譲渡をめぐる法律問題
- 第15回 総まとめ

企業活動と法 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

①事後学習課題30%、②中間テストもしくは中間レポート40%、③学期末レポート30%で評価します。
なお、その他のアサインメントの実施状況等も加味し、総合的に判断する場合があります。
一評価不能：上記の必須課題①②③のすべてが未提出だった場合
D評価：1つ以上の必須課題が提出されたが、最低合格点60点に満たなかった場合

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Moodle上もしくはそこにアップされた講義レジュメ等には、随時、以下の事項が記載されていきます。
①予習すべき教科書の箇所や予習課題、②授業後に取り組むべき復習課題、③レポート提出用の課題など。
予習、復習を前提とした講義を展開します。
指示された事前学習を行い、授業にのぞむとともに、指示された範囲の復習を心がけ、課題に積極的に取り組むことにより、授業の理解を深めるようにしてください。
詳細は、Moodleの情報で確認してください。

履修上の注意 /Remarks

1、本講義が対象とする「商法」は、応用科目としての性格が非常に強いものです。つまり、私人間の取引活動を規律する基本法としての『民法』を、ビジネス世界により適合するように、補完・修正したものです。従って、「民法総則」「債権総論」「債権各論」「物権法」「会社法」「民事訴訟法」などの諸科目をすでに受講しているか、または、並行して受講する場合は、本講義の理解がより容易にかつ深いものになります。
2、Moodleにある講義レジュメ等は、各自、印刷して、初回からの分もファイルして授業に持ってくるようにしてください。テキスト・レジュメ・裁判例プリントなどを持参しないで受講すると、授業の理解度が著しく低くなります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

商法総則、会社法総則、不正競争防止法

企業取引法I【昼】

担当者名 /Instructor 今泉 恵子 / 法律学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	企業取引法(商取引法)の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える企業取引法(商取引法)上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業取引法 I

LAW272M

授業の概要 /Course Description

本年度の講義の対象テーマとなる「企業取引」とは、個人や企業の経済生活に伴う様々な偶然のリスクが現実のものとなった場合において、その際の経済的損失をカバーし、あるいは経済的ニーズに応えるために締結される保険契約に関連する法取引を取り扱います。

また、本講義のねらいは、私保険・営利保険としての「保険契約制度」の体系的かつ基本的枠組みを理解することにあります。

火災保険・自動車保険・生命保険など、私たちの日常生活にとって身近な保険に関する「法解釈論上ならびに立法論上」の諸問題や保険犯罪を取り上げながら、保険法体系の全体像をできるだけ平易に説明することを目指します。

また、現在社会において実際に取引されている保険商品の実態、証券投資取引におけるのと同様の説明義務違反をめぐる紛争や保険募集の適正性に関わる問題点についても、できるかぎり言及する予定です。

(到達目標)

- ・ 保険法に関する基礎的な知識を身につけている。
- ・ 保険法を解釈・適用するための基礎的な技法を身につけている 保険法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた 判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

テキストについては、最初の講義で指示します。

六法については、最新版であることが望ましいです(毎回、必ず持参してください)。

Moodleにある講義レジュメ等は、各自、印刷して授業に持ってくるようにしてください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献については、最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概ね、以下の通りですが、受講生の関心・理解の度合い等により、進度や順番が変わる可能性があることにつき、ご了承ください。(【】はキーワード)

- 第1回 保険制度の目的と役割 【大数の法則】【収支相当の原則】【給付反対給付均等の原則】
- 第2回 保険契約の種類と特徴 【損害保険】【生命保険】【傷害疾病定額保険】【保険契約約款】
- 第3回 保険法改正の概要
- 第4回 保険業と保険勧誘に関する法規制【保険業法】【消費者契約法】【金融商品取引法】
- 第5回 保険契約成立までの法的問題(1)告知義務制度の背景 告知者とその相手方
- 第6回 保険契約成立までの法的問題(2)告知義務の内容 【告知事項】
- 第7回 保険契約成立までの法的問題(3)告知義務違反の効果 【因果関係の不存在】
- 第8回 保険契約成立までの法的問題(4)告知義務のまとめ
- 第9回 保険契約成立までの法的問題 被保険利益をめぐる問題
- 第10回 保険契約成立後の事情変更・失効に関わる諸問題(リスクの著しい増加や減少など)
- 第11回 保険事故が発生した場合の法的問題 通知義務、保険会社の免責事項(損保の場合)
- 第12回 保険事故が発生した場合の法的問題 約款における免責条項の有効性
- 第13回 生命保険契約・傷害保険に特有の問題
- 第14回 損害保険契約に特有の問題 【火災保険】【自動車賠償責任保険】
- 第15回 総まとめ

企業取引法I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

①事後学習課題30%、②中間テストもしくは中間レポート40%、③学期末レポート30%で評価します。
なお、その他のアサインメントの実施状況等も加味し、総合的に判断する場合があります。
—評価不能：上記の必須課題①②③のすべてが未提出だった場合
D評価：1つ以上の必須課題が提出されたが、最低合格点60点に満たなかった場合

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Moodle上もしくはそこにアップされた講義レジュメ等には、随時、以下の事項が記載されていきます。
①予習すべき教科書の箇所や予習課題、②授業後に取り組むべき復習課題、③レポート提出用の課題など。
予習、復習を前提とした講義を展開します。
指示された事前学習を行い、授業にのぞむとともに、指示された範囲の復習を心がけ、課題に積極的に取り組むことにより、授業の理解を深めるようにしてください。
詳細は、Moodleの情報で確認してください。

履修上の注意 /Remarks

Moodleにある講義レジュメ等は、各自、印刷して、初回からの分もファイルして授業に持ってくるようにしてください。テキスト・レジュメ・裁判例プリントなどを持参しないで受講すると、授業の理解度が著しく低くなります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1, 企業活動に関連する「企業活動と法」や「会社法」と合わせて履修する場合は、より深く問題点を理解することができます。
2, また、私的生活全般に関わる一般取引法である「民法」の諸科目をすでに受講済みであるが並行履修する場合には、効率的な学習ができるでしょう。

キーワード /Keywords

損害保険、生命保険、傷害疾病定額保険、自賠責保険、火災保険、地震保険、医療保険、

企業取引法Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 前越 俊之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 企業取引法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 企業取引法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業取引法Ⅱ

LAW372M

授業の概要 /Course Description

われわれの日常生活では、モノを購入する場合、現金で支払いをする事が多い。最近では、電子マネーで支払いをすることも増えている。金額の大きいモノを買う場合は、クレジットカードで支払いをする者もいる。しかし、企業が企業活動において取引をする場合、現金を用いることはなく、今日でも手形で支払いをするのが主流である。従って、例えば、就職後、職場で手形を振出したり、あるいは手形を受け取ったりするかもしれない。法（とりわけ私法）は、通常は、常識に従って行動している者の味方である。ところが、企業決済に関わる手形・小切手法の問題は、技術的な側面が強く、単に常識に従って行動していただいただけでは、思わぬ失敗を犯しかねない。マンガでも「ナニワ金融道」の中で、手形を届けることを頼まれた従業員が、相手方に「受取り署名をしてくれ」と騙されて、手形に裏書署名をして莫大な金額の責任を負う話があった。

本講義を通じて手形・小切手法を学ぶことで、手形・小切手が社会の中でどのように使われているのか、なぜ手形・小切手が企業決済に使われているのかを理解することができる。また、手形・小切手を取り扱う場合の基本的な考え方を理解し、手形・小切手に関係する者たち（振出人、受取人、所持人等）の利害調整に関し法律上のルールを制定法、判例等の具体例を通じて理解することができる。

（到達目標）

【知識】支払決済法に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】支払決済法を解釈・運用するための基礎的な技法を身につけている。

【思考・判断】支払決済法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。

教科書 /Textbooks

大塚龍児他「商法Ⅲ - 手形・小切手〔第5版〕」（有斐閣Sシリーズ・2018年）2,400円。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

①体系書：川村正幸「手形・小切手法〔第4版〕」（新世社・2018年）、早川徹「手形・小切手法〔第2版〕」（新世社・2018年）、関俊彦「金融手形小切手法〔新版〕」（商事法律研究会・2003年）。

②判例：神田秀樹他編「手形小切手判例百選〔第7版〕」（別冊ジュリスト222号）（有斐閣・2014年）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 手形・小切手法を学ぶこと
- 第2回 手形・小切手は社会の中でどのように使われているか【為替手形、約束手形、小切手】
- 第3回 手形・小切手を法律はどのようなものと考えているか（1）【有価証券】
- 第4回 手形・小切手を法律はどのようなものと考えているか（2）【証拠証券、免責証券、金券】
- 第5回 手形・小切手を法律はどのようなものと考えているか（3）【原因関係、商業手形、融通手形】
- 第6回 手形・小切手を振り出してみる（1）【手形署名、手形行為】
- 第7回 手形・小切手を振り出してみる（2）【手形理論、権利外観理論】
- 第8回 手形・小切手を振り出してみる（3）【民法の意思表示の瑕疵に関する条項と手形行為】
- 第9回 手形・小切手を振り出してみる（4）【会社による手形振出、手形の偽造・変造】
- 第10回 手形・小切手を振り出してみる（5）【手形要件】
- 第11回 手形・小切手を振り出してみる（6）【白地手形】
- 第12回 手形を満期前に譲渡する（1）【裏書、裏書の連続】
- 第13回 手形を満期前に譲渡する（2）【人的抗弁の制限】
- 第14回 手形が盗まれてしまった！（1）【善意取得】
- 第15回 手形が盗まれてしまった！（2）【公示催告、除権決定、手形訴訟】

企業取引法II【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、定期試験によって評価する。講義の進行、学習効果という観点から、小テスト、レポート等を課す場合がある。この場合は、定期試験90%、小テスト・レポート等10%を目安として総合的に評価する。期末試験を受験しなかった場合は評価不能(-)とします。
 なお、新型コロナ・ウイルス問題の状況によって、定期試験の実施に困難がある場合は、大学の方針の下で、評価方法につき変更を生じる場合がある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義を受ける前にテキストを予習した上で講義に出席すること。また、講義前にMoodleに講義レジュメ、資料等をアップしておくので、これに目を通して予習しておくこと。予習せずに講義を聞いただけで、手形・小切手の問題を理解することは困難である(手形・小切手法のみならず、他の法律分野の問題も、同様だと推量するが...)。受講者は予習を行い、よく分からない点、疑問に感じたこと等を講義中に解決し、もし講義を聞いても疑問が解消しない場合は、質問をするなどして、講義の場を疑問解決の場として活用すると、学習効果が高くなる。予習時間60分。
 講義後は、講義中に採ったノートを整理して、どのような内容を学んだのか、適宜、復習すること。復習時間60分。

履修上の注意 /Remarks

講義中に、判例に代表される紛争事件について、受講者の意見を聞くことがある。法律の問題を理解するためには、暗記ではなく、「自分だったら問題をどのように解決するか」を考えることが必要である。丸暗記するのではなく、考えてみること(プロセス)が重要である。「なぜこのようなルールとなり、制度になっているのか」、考えるプロセスがあつて、はじめて知識は、身についたものとなり、役に立つ知識となる。
 講義中に、手形法、小切手法、商法、会社法、民法、民事訴訟法等の条文を参照する。従って、講義に出席する際は、(できれば最新の)六法(但し、コンパクトなものでよい)を持ってくること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

約束手形 為替手形 小切手 有価証券 企業決済 企業金融

証券市場と法 【昼】

担当者名 /Instructor 前越 俊之 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	金融商品取引法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	金融商品取引法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

証券市場と法

LAW370M

授業の概要 /Course Description

証券市場は言うまでもなく企業の資金調達場である。また、われわれ一般市民においても、その資産の一部を証券投資に回している。1929年10月24日合衆国を襲った「暗黒の木曜日」は、単に証券取引所での証券価格の大暴落ととどまらず、企業の倒産、大量の失業者・破産者の発生、最終的には世界大戦に至るほどの経済の低迷を招いた。近年でも、やはり合衆国におけるサブプライム問題に端を発した、2008年9月の「リーマン・ショック」は、世界的な金融危機を招いた事件であった。証券市場は、証券を保有する者に限らず、経済活動のインフラストラクチャーとして、われわれの生活にも大きな影響を持っている。

本講義を受講することで、金融商品、証券市場、上場会社の情報開示、公認会計士による財務諸表監査の意義、証券会社の投資勧誘規制、投資者保護の意味等について、その基本的な仕組みとその関係を知ることができる。おもに「金融商品取引法」を中心に講義が進むが、悪文で知られる同法の条文について、同法の体系、趣旨を踏まえ、個別の問題（粉飾決算に関する損害賠償請求、インサイダー取引規制、証券会社の説明義務違反等）を同法がどのように規制し、どのように解決しようとしているのかを知ることができる。講義は、総論部分（第1回～第4回）の後、情報開示（第5回～第9回）、市場規制（第10回～第11回）および投資勧誘規制（第12回～第15回）まで、全体で4部構成である。（到達目標）

【知識】金融商品取引法に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】金融商品取引法を解釈・運用するための基礎的な技法を身につけている。

【思考・判断】金融商品取引法に関する課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。

教科書 /Textbooks

徳本穰編「スタンダード商法Ⅳ 金融商品取引法」（法律文化社・2021年2月）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

近藤光男＝吉原和志＝黒沼悦郎「金融商品取引法入門〔第4版〕」（商事法務研究会・2015年）、河本一郎＝大武泰南他「新・金融商品取引法読本」（有斐閣・2014年）、松尾直彦「金融商品取引法〔第6版〕」（商事法務研究会・2021年）。

証券市場と法 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 百年に一度の危機?! 証券市場の暴落で大損あるいは大儲けした人【大恐慌から生まれた証券取引】
- 第2回 金融商品とは何か?(1)【有価証券、デリバティブ取引】
- 第3回 金融商品とは何か?(2)【ニクソン・ショック、ポートフォリオ・セレクション、金融自由化】
- 第4回 金融商品取引法の目的【投資者保護、自己責任原則】
- 第5回 発行会社として情報を開示する(1)【有価証券届出書、目論見書、有価証券報告書】
- 第6回 発行会社として情報を開示する(2)【内部統制、内部統制報告書、財務諸表に対する会計士監査】
- 第7回 粉飾決算で投資者から訴えられた!【粉飾決算】
- 第8回 粉飾決算で投資者から訴えられた!【有価証券報告書虚偽記載、発行会社・役員等の責任】
- 第9回 企業買収に関する情報開示【TOB、5%ルール】
- 第10回 証券市場はどのように規制されているのか?(1)【相場操縦、風説の流布・偽計取引】
- 第11回 証券市場はどのように規制されているのか?(2)【インサイダー取引】
- 第12回 金融商品取引業者とは何だろうか?【証券会社、登録制】
- 第13回 証券会社は顧客を喰い物にしていないか?(1)【適合性原則】
- 第14回 証券会社は顧客を喰い物にしていないか?(2)【説明義務】【指導助言義務】
- 第15回 証券会社は顧客を喰い物にしていないか?(3)【金融庁、証券取引等監視委員会】

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、定期試験によって評価する。講義の進行、学習効果の観点から、小テスト、レポート等を課す場合がある。その場合は、定期試験90%、小テスト・レポート等10%を目安として総合的に評価する。期末試験を受験しなかった場合は評価不能(-)とします。
 なお、新型コロナウイルス問題の状況によって、定期試験の実施に困難がある場合は、大学の方針の下で、評価方法につき変更を生じる場合がある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義を受ける前に教科書・講義レジュメを予習した上で講義に出席すること。講義前にMoodleに講義レジュメ、資料等をアップするので、これに目を通し、予習して講義に出席すること。予習せずに講義を聞いただけで、金融商品取引法の問題を理解することは困難である(金融商品取引法のみならず、他の法律分野の問題も、同様だと推量するが...)。受講者は予習を行い、よく分からない点、疑問に感じたこと等を講義中に解決し、もし講義を聞いても疑問が解消しない場合は、質問をするなどして、講義の場を疑問解決の場として活用すると、学習効果が高くなる。予習時間60分。
 講義後は、講義中に採った講義ノートを整理し、適宜、復習しておくこと。復習時間60分。

履修上の注意 /Remarks

講義中に、判例に代表される紛争事件について、受講者の意見を聞くことがある。法律の問題を理解するためには、暗記ではなく、「自分だったら問題をどのように解決するか」を考えることが必要である。丸暗記をするのではなく、考えてみること(プロセス)が重要である。「なぜこのようなルールとなり、制度になっているのか」、考えるプロセスがあって、はじめて知識は、身についたものとなり、役に立つ知識となる。
 講義中に、金融商品取引法、金融商品の販売等に関する法律、消費者契約法、会社法、商法、手形法、刑法等の条文を参照する。従って、講義に出席する際は、(金融商品取引法は毎年のように改正されるので)最新の六法(但し、コンパクトなものでよい)を持ってくること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

金融商品 有価証券 株式 株券 社債 デリバティブ取引 セキュライゼーション 粉飾決算 有価証券報告書虚偽記載 内部統制システム 公認会計士 TOB 相場操縦 インサイダー取引 証券会社 証券市場 適合性原則 説明義務 指導助言義務 金融庁 証券取引等監視委員会 金融商品取引法 証券取引

企業法の現代的展開 【昼】

担当者名 高橋 衛 / 法律学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	企業法の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える企業法上の諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業法の現代的展開

LAW371M

授業の概要 /Course Description

今年度の「企業法の現代的展開」は、会社法の応用的・発展的な内容とし、会社法の講義では扱わなかった問題等を取り上げて解説することとします。前半は株式会社のガバナンスに関連する問題、後半はM&A関係の問題を扱う予定です。既に会社法を履修済みであることを前提に講義を進めますので、会社法を履修していない方は、まずは会社法を受講するようにしてください。

【知識】 企業法の現代的な課題を理解するための知識を身につけている。

【技能】 企業法の現代的・応用的な分野における法令の解釈・適用の基礎的な技法を身につけている。

【思考・判断・表現力】 企業法の現代的な課題を発見し、法的思考に基づいた判断を行うことができる。

教科書 /Textbooks

最初の講義で指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最初の講義で指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 上場会社のガバナンス(1)【コーポレートガバナンス・コード】
- 3回 上場会社のガバナンス(2)【内部統制】
- 4回 親子会社
- 5回 閉鎖会社のガバナンス
- 6回 スタートアップのガバナンス
- 7回 小テスト
- 8回 株式会社の組織再編・M&A(1)【総論】
- 9回 株式会社の組織再編・M&A(2)【組織再編の手続】
- 10回 株式会社の組織再編・M&A(3)【債権者保護】
- 11回 株式会社の組織再編・M&A(4)【組織再編手続の瑕疵】
- 12回 株式会社の組織再編・M&A(5)【M&A契約】
- 13回 株式会社の組織再編・M&A(6)【キャッシュ・アウト】
- 14回 会社の目的
- 15回 まとめ

なお、授業のスケジュールは進捗状況等に応じて変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...40%、期末試験...60%

小テスト・期末試験を全て欠席した場合、評価不能(-)となります。

企業法の現代的展開 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

履修上の注意 /Remarks

「会社法」の講義を履修済みであること。会社法の基礎的な話しは「会社法」の講義で扱いますので、未履修の方は、まずは「会社法」を受講してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

政治学 【昼】

担当者名 /Instructor 上條 諒貴 / KAMIJO, Akitaka / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政治学の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政治上の課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	政治現象が抱える課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政治学

PLS100M

授業の概要 /Course Description

本講義は、政治の基本的な仕組み・ルールである「政治制度」の紹介を通じて、政治学の基礎的な概念を学び、日本やその他の民主主義諸国の政治に対する見方を養うことをその目的とします。

より具体的には、導入として政治そして民主主義とは何かということについて考えたうえで、①政治制度にはどのようなものがあり、その違いが民主政治の在り方にどのような影響を与えるかについて学ぶ中で、政治学の基礎的な知識を身に着けること、②政治“学”の知識を蓄えるにとどまらず、そうして学んだ政治制度の知識に基づいて日本や各国の実際の政治について考察する力を身に着けることを目指していきます。

(到達目標)

【知識】政治制度についての基礎的な知識を身につけている。

【技能】各国の政治制度の理解に必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】制度設計の観点から社会的諸問題を論理的に検討し、その解決策について自らの意見を表現することができる。

教科書 /Textbooks

建林正彦・曾我謙悟・待鳥聡史 (2008) 『比較政治制度論』有斐閣アルマ

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

レイプハルト, アーレント (粕谷裕子, 菊池啓一訳) (2014) 『民主主義対民主主義 (原著第2版)』勁草書房

久米郁男・川出良枝・古城佳子・田中愛治・真淵勝 (2011) 『政治学 (補訂版)』有斐閣

砂原庸介・稗田健志・多湖淳 (2015) 『政治学の第一歩』有斐閣ストゥディア

政治学 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN：政治とはなんだろうか
【権力】【政治と経済】【公共財】
- 第2回 政治制度：民主主義というルール、民主主義のルール
【体制論】【本人-代理人関係】【合理的選択制度論】
- 第3回 選挙制度：政治家はどう選ばれるか
【小選挙区制】【大選挙区制】【比例代表制】【混合制】
- 第4回 執政制度①：トップリーダーに何ができるか
【執政長官】【議院内閣制】【大統領制】【半大統領制】
- 第5回 政党システム：政治の勢力図
【二大政党制】【多党制】【デュヴェルジエの法則】【ダウズモデル】
- 第6回 政党組織：政治のチーム・マネジメント
【議会政党】【議会外政党】【集権-分権】【党内民主主義】
- 第7回 執政制度②：執政制度のヴァリエーション
【議院内閣制の多様性】【大統領制の多様性】【半大統領制の多様性】
- 第8回 議会制度：政策を審議する
【立法過程の効率性】【立法過程の開放性】【二院制】
- 第9回 中央地方関係：自治と画一性
【単一国家】【連邦国家】【地方分権】
- 第10回 行政官僚制：民意と専門性
【能力・専門性】【官僚の政治的統制】【官僚の自律性】
- 第11回 政治制度から日本を眺める①：55年体制
【55年体制】【中選挙区制】【派閥】
- 第12回 政治制度から日本を眺める②：政治改革以後
【選挙制度改革】【小選挙区比例代表並立制】【行政改革】【政権交代】
- 第13回 政治制度から世界を眺める
【多数決型（ウエストミンスター型）民主主義】【コンセンサス型民主主義】
- 第14回 国際制度：政府のない世界の政治制度
【主権国家】【集団安全保障】【グローヴァル・ガヴァナンス】
- 第15回 政治学方法論：数理分析を中心に
【数理分析】【ゲーム理論】【ナッシュ均衡】【公共財ゲーム】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：100%
(オンラインの場合 期末レポート：100%)

*期末試験不受験(オンラインの場合は期末レポート不提出)の場合は「評価不能(一)」とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書の中から次回授業に該当する部分を探して読み、疑問点・よくわからなかった点はどこかを考えてみたくて講義に参加(オンラインの場合は講義動画の視聴を)してください。事後学習については以下の履修上の注意の内容を参照してください。

履修上の注意 /Remarks

- ・教科書は専門用語を多く含んだ「政治学の言葉」で書かれています。それに対して講義(オンラインの場合講義動画)ではできる限りかみくだいて説明するよう努めますので、各回授業への取り組みが講義の理解にとって極めて重要です。復習時に、教科書の内容が理解できるか、「自分の言葉」で説明できるか確認してみてください。
- ・教科書の該当部分、スライド内で引用した文献の出典は教員のホームページにて示します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義は政治学の学習の入り口に位置づけられるものですが、その後に履修するであろう「発展的な」科目に比して平易というわけではありません。むしろ、政治の基本的な仕組み/ルールである「政治制度」という切り口から、政治という複雑な営みについて体系的・学問的に考えるための一つの見方を提供する高度な内容であるといえます。大学での知的生活における早い段階で触れつつも、それを咀嚼・理解して自分のものとするために何度も戻ってくる、そういう価値のある内容を提供できればと思います。

キーワード /Keywords

民主政治 政治制度 本人-代理人関係 合理的選択制度論

都市環境論 【昼】

担当者名 吉田 舞 / Mai Yoshida / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 都市環境（水・大気・廃棄物など）に関しての体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 都市環境に関する政策課題を見極め、政策的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える都市環境の政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

都市環境論

PLC111M

授業の概要 /Course Description

本授業は「環境未来都市」北九州市に居住・通学する人間として、それにふさわしい生活態度や行動に連動させていくといった実践力を養うことを目的としています。本授業では、まず、自らの生活における環境意識を分析し、授業に臨みます。本授業では、「都市環境と生活」という視点から、特に近隣のアジア諸国で起きている環境にかかわる問題を取り上げ、そこで生活している人々が抱える問題などを考察します。さらに、これら問題の背景を、グローバルな観点から学ぶことを通して、日本で暮らす自分たちの<地続き>の問題として考察することを目指します。これにより、私たち自身が持続可能な都市生活を続けるためにも、本分野を生涯にわたって学習するという姿勢に連動することを望みます。

- { 知識 } 都市で生活する上で基礎となる知識を最低限身に付けている。
- { 技能 } 持続可能な都市を作る上での技能を獲得する。
- { 思考・判断・表現力 } 持続可能な都市の一員として政策に積極的に関与できる。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 石井正子 『甘いバナナの苦い現実』 2020, コモンズ.
- 鶴見良行 『バナナと日本人』 1982, 岩波新書.
- 長田華子 『990円のジーンズがつくられるのはなぜ?』 2016, 合同出版.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回「都市環境論」の授業内容とねらい：簡単な環境意識度チェック【環境意識】
- 第2回グローバル化と都市環境【気候変動と私たち】
- 第3回途上国の都市環境問題【途上国と日本】
- 第4回フェミニズムの立場からみる環境問題【ジェンダーと環境】
- 第5回生活と水を考える：世界の水事情【安全な水】
- 第6回フィリピンの庶民バスが消える？コロナと大気汚染【大気汚染】
- 第7回フィリピンのゴミ山から考える私たちの暮らし【途上国と廃棄物】
- 第8回私たちが寄付した古着はどこに行く？【ファッションと環境】
- 第9回自然災害における危険とリスク【防災とコミュニティ】
- 第10回バナナと日本人：エシカルバナナと日本企業【食と農】
- 第11回ドキュメンタリー「スマホの真実」から考える【環境破壊】
- 第12回環境保全に取り組む人々とグローバルな連帯【環境保全運動】
- 第13回北九州市の環境の現状【北九州市】
- 第14回エコツーリズムと環境保全【エコツーリズム】
- 第15回まとめ

都市環境論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト/課題/ワークシート50%、期末試験50%

※ 授業を5回以上欠席した場合、期末試験未受験者は「評価不能(-)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各種メディアを通じて提供される国内外の時事問題に関する情報に関心に向け、その概要を把握すること。

履修上の注意 /Remarks

受講生の人数や理解度、問題関心によって授業の内容が変更されることがあります。
私語厳禁。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な授業への参加を期待します！

キーワード /Keywords

都市環境、生活、途上国、グローバル化

日本政治論 【昼】

担当者名 /Instructor 上條 諒貴 / KAMIJO, Akitaka / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	日本政治の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	日本政治上の政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	日本の政治が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本政治論

PLS110M

授業の概要 /Course Description

現代の民主主義諸国の多くに共通する低投票率などの現象を以て、現代には「政治不信」が蔓延している、などといわれることがあります。我々はもはや民主政治という統治の手法に対して信頼がおけなくなっているのでしょうか。日常的な「文化」という言葉の語感とはやや異なるかもしれませんが、このような我々市民が政治というものに対して持つ見方や考え方のことを「政治文化 (political culture)」と呼びます。本講義では、こうした意味での政治文化について考えていきます。

より具体的には、まず前半では、政治文化に対する古典的な理解を紹介したのち、より広い観点から、有権者が政治に対してどのように態度を形成するのか、また、特定の政治的態度や知識をもつ有権者がどのように行動するのか、といったことを検討する政治行動論と呼ばれる分野の概説を行います。後半では、有権者の政治への見方に関連するさまざまなトピックを扱っていきます。有権者がもはや政治に信頼を置けなくなったとするならば、それはなぜなのでしょう。政治という営みに根本的に困難があるのか、選挙というものがうまく機能していないのか、あるいは我々有権者と政治エリートの間に分断がもはや甚だしくなりすぎたのか。様々な角度から、我々有権者からみた政治、というものに接近していきます。

(到達目標)

【知識】政治文化に関する幅広い知識を身につけている。

【技能】有権者の行動/態度形成の理解に必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】政治的諸問題の解決において有権者がどの程度役割を果たしているのかについて論理的に検討し、自らの意見を表現することができる。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

前半については

飯田健・松林哲也・大村華子 2015. 『政治行動論-有権者は政治を変えられるのか』有斐閣ストウディア

後半については多岐にわたるため各回で適宜指示します。

日本政治論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン
【政治文化】【比較政治文化研究】【政治文化論アプローチへの批判】
- 第I部 政治行動論
- 第2回 民意と政治的知識
【民意】【政治知識量】【ヒューリスティックス】
- 第3回 党派性とイデオロギー
【政党帰属意識】【右派と左派】【無党派】
- 第4回 政治的社会化と政治的価値観
【政治的社会化】【脱物質主義的価値観】
- 第5回 投票参加と集合行為
【calculus of voting】【投票しないパラドックス】【集合行為】
- 第6回 投票行動と有権者の合理性①
【政策投票】【有権者の合理性】【コロンビアモデル】【ミシガンモデル】
- 第7回 投票行動と有権者の合理性②
【業績投票】【経済投票】
- 第II部 各論的トピック
- 第8回 集合的意思決定
【中位投票者定理】【カオス定理】【structure-induced equilibria】
- 第9回 アカウンタビリティ
【選挙の規律効果】【選挙の選択効果】【迎合 (pandering)】
- 第10回 政治腐敗
【政治腐敗 (汚職) の要因論】【汚職対策機関】
- 第11回 民主主義の質と政府の質
【フリーダムハウスとV-dem】【QoGプロジェクト】
- 第12回 ポピュリズム
【ポピュリズム】【ポピュリズムと党派性】【ポピュリズムの合理的説明】
- 第13回 ソーシャル・キャピタル
【ソーシャル・キャピタル論】【橋渡し型】【結束型】
- 第14回 代議制民主主義のオルタナティブ
【直接民主主義】【熟議民主主義】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：100%

*期末試験不受験の場合は「評価不能（－）」とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前半については参考文献の中から次回授業に該当する部分を探して読み、疑問点・よくわからなかった点はどこかを考えてみてください。講義の復習に加えて、参考文献のうち関心を持ったものを読んでみて下さい。

履修上の注意 /Remarks

スライド内で引用した文献は教員のホームページにて出典を示します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者の方の中には「政治なんてどうでもいいよ！」という方もおられると思います。（ではなぜこんな学部に来てこんな講義をとっているのだという疑問も成り立たないではありませんが、私自身がさしたる理由も関心もなく法学部、そして政治学に流れ着いた学生でした）。もちろん、（いろんな考え方がありますが）民主政治というのは全ての人が全身全霊を込めて政治に対して愛を以て取り組まなければ機能しないというものでもありませんから、それはそれで一つの見識というものです。しかしせっかくご縁があったのですから、さて、ではなんで政治なんてどうでもいい、というような考えに行きついたのか、一緒に少し考えてみませんか。

キーワード /Keywords

政治文化 政治行動論 政治不信

行政学 【昼】

担当者名 /Instructor 黒石 啓太 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 行政学の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政学

PA0100M

授業の概要 /Course Description

今日の私たちの生活は、行政の諸活動と切っても切れない関係にあります。しかし、行政がどのようなものであり、どのような活動を行っているのかを把握し、理解することは容易ではありません。そこで、本講義では、行政の機構や活動に関する基本的な知識を提供し、受講者がこれらをもとに、現実の社会の動きについて自らの意見を持てるような進进行を心がけます。

(到達目標)

- DP3 思考・判断・表現力：行政学について、総合的、論理的に思考して解決策を探索し、自分の考えや判断を明確に表現することができる。
- DP2 技能：行政についての分析に必要な情報を収集、分析することができる。
- DP1 知識：行政学に関する幅広い知識を総合的に身につけている。

教科書 /Textbooks

伊藤正次・出雲明子・手塚洋輔（2016）『はじめての行政学』有斐閣
※講義は、上記教科書を基本として行うが、適宜関連する事項を補足しながら行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西尾勝（2001）『行政学（新版）』有斐閣
※このほか、参考となる文献は適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【授業の進め方など】
- 2回 政治と行政の関係性
- 3回 行政の発展と福祉国家
- 4回 官僚制の形成と発展
- 5回 行政学の形成と展開
- 6回 議院内閣制と中央省庁
- 7回 中央省庁の組織と再編
- 8回 中央地方関係をめぐる理論
- 9回 国家公務員の制度と改革
- 10回 地方公務員の制度と改革
- 11回 国と自治体の意思決定過程
- 12回 国と自治体の予算編成過程
- 13回 行政改革と地方分権
- 14回 公共サービス提供主体の多様化
- 15回 「危機」と行政

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100%（試験では、単純な知識に加え、習得した知識を活かして現実の事象を検討・分析する能力を問う予定である。）
※学期末試験を受験しなかった場合には、「評価不能（-）」となります。

行政学 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：教科書および参考書の関連箇所を通読する。
事後学習：関連するニュースに触れ、自分の意見を整理する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

できるだけ身近なニュース等を事例として取り上げ、知識と実践の両面を踏まえた授業を心がけます。
この授業はSDGsの「住み続けられるまちづくりを」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

NPO論【昼】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科, 狭間 直樹 / 政策科学科
黒石 啓太 / 政策科学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● NPOの理解に必要な基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	● 市民社会が抱える課題に対する自らの関心を高め、市民社会と政策・NPOとのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

NPO論

PLC114M

授業の概要 /Course Description

NPOという言葉は、今日いたるところで耳にすることと思います。しかしながら、NPOとは何かについて本当に理解しているかというところ必ずしもそうとはいえないのではないのでしょうか。本講義の目的は、NPOとは何かについての基本的知識を提供することにあります。

本講義は、①3人の担当する教員による講義、②NPO関係者を招いての講演会（8回程度予定）、③希望者によるNPO現場の視察、④社会貢献・奉仕プログラムなどから構成されます。また、本講義の受講者は、学部・学科等多様であることが予想されますので、なるべくわかりやすい説明および映像などを取り入れたものにしたいと考えています。

* 『北九州NPOハンドブック（第6版）』作成プロジェクトを進めておりますので、興味のある方はぜひご参加ください。

（到達目標）

【知識】NPOに関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】NPOについて必要な情報を収集し、分析することができる。

【思考・判断・表現力】NPOについて複眼的に思考し、自分の考えや意見を表現することができる。

教科書 /Textbooks

使用しない予定。担当教員がその都度、プリント教材を配布する等、指示します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○榎原真二編集代表『北九州NPOハンドブック[第5版]』（2010年）。

坂本治也編『市民社会論-理論と実証の最前線-』（法律文化社、2017年）。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入及びNPOの基礎知識(1)ー講義のすすめかた、成績評価、自己紹介など
- 2回 NPOの基礎知識(2)
- 3回 第1回NPO講演会
- 4回 福祉NPO(1)
- 5回 第2回NPO講演会
- 6回 福祉NPO(2)ー社会福祉法人
- 7回 第3回NPO講演会
- 8回 NPOを考える視点(1)
- 9回 第4回NPO講演会
- 10回 第5回NPO講演会
- 11回 NPOを考える視点(2)
- 12回 第6回NPO講演会
- 13回 NPOを考える視点(3)
- 14回 第7回NPO講演会
- 15回 第8回NPO講演会

NPO論【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業貢献度 ... 50% レポート... 50%

期末レポートを提出しなかった場合には「評価不能(－)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

それぞれの担当教員の指示にしたがって前もって指定箇所を読む等をして授業に参加してください。また、各教員が授業中に配布したレジュメ等の教材の復習を必ず行うようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

第1回の講義で授業の進行および成績評価について説明しますので必ずご視聴ください。また、授業計画は学生の理解によって変更することがありますのでご了承ください。
本年はやむを得ない理由から、授業のスケジュールを変更せざるを得ない可能性があります。こうした事情をご了承のうえご参加下さいますようお願いいたします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業はSDGsの「貧困をなくそう」「すべての人に健康と福祉を」「住み続けられるまちづくりを」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

NPO、NGO、福祉NPO、アドボカシー、ミッション、寄付

政策構想論 【昼】

担当者名 /Instructor 大澤 津 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 政策構想の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 政策構想にかかわる政策的諸問題を見極め、適切に分析し、現実的な解決策を提案しかつ評価する能力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 政策構想についての関心を高める。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策構想論

PLC110M

授業の概要 /Course Description

政策の作成と実施によって、社会の諸問題に適切に対処する際には、様々な価値観に基づいて「あるべき未来の社会」が構想されます。このような価値観の理論を、政策規範理論と呼びます。そもそも政策にできること・できないことを了解した上で、政策を支える価値観の理論を理解することが、最終的な授業の目的です。

授業では、まず、政策に期待できることの可能性と限界を学びます。その上で、現代の政策の規範理論として最も参照されることの多い、リベラルな平等・リバタリアニズム・共和主義の基礎理論を学びます。そして、現代日本の具体的な問題について、これらの立場からどのような政策の提案が可能かを考えていきます。

なお、リベラルな平等・リバタリアニズム・共和主義などの価値観の理論は一括して「正義論」と呼ばれる分野ですが、それらの展開のされ方は政治学的なもの、哲学的なもの、法学的なものまで含めてさまざまです。この授業では、机上の空論は避け、あくまで政策上の実践の観点から、これらの理論を使いこなせるようになることを目指します。

(到達目標)

【知識】政策規範に関する専門的な知識を総合的に身につけている。

【技能】政策規範の理解に必要な情報を収集、分析できる。

【思考・判断力・表現力】政策規範の観点から、社会的問題について適切な解決策を論理的に考え、自らの意見を発信することができる。

教科書 /Textbooks

Moodleを用いてレジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 政策規範論へのイントロダクション
- 第2回 政策の構造と価値
- 第3回 社会設計と政策
- 第4回 デモクラシーと政策
- 第5回 功利主義と政策
- 第6回 功利主義への批判
- 第7回 リベラルな平等の基礎理論I 【不平等の意味】
- 第8回 リベラルな平等の基礎理論II 【正義の二原理】
- 第9回 リベラルな平等の展開 【財産所有のデモクラシー】
- 第10回 リバタリアニズムの基礎理論I 【最小国家論】
- 第11回 リバタリアニズムの基礎理論II 【自己所有権】
- 第12回 共和主義の基礎理論 【共同体と美德】
- 第13回 日本の貧困問題
- 第14回 貧困問題への政策構想
- 第15回 まとめ

政策構想論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート：100%
(期末レポートを提出しない場合には、「評価不能(-)」となります。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、該当回のパワーポイントを通読しておくこと。また講義の内容を適宜ノートに取り、授業後にはノートとパワーポイントをもとに復習すること。(質問は授業後などに受け付けています。)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

政策には様々な価値観が織り込まれています。その仕組みや内容を学び取り、現代の日本において、実りある政策論議がどのように可能か、考えてみてください。

* この授業はSDGsの以下の目標に関連しています：

「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」「すべての人に健康と福祉を」「質の高い教育をみんなに」「ジェンダー平等を実現しよう」「働きがいも 経済成長も」「人や国の不平等をなくそう」「平和と公平をすべての人に」

キーワード /Keywords

政治過程論 【昼】

担当者名 /Instructor 上條 諒貴 / KAMIJO, Akitaka / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政治過程の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政治過程の視座から政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力	●	政治過程上の課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。	
	コミュニケーション力			
※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。			政治過程論	PLS210M

授業の概要 /Course Description

政治過程論とは、“市民が選挙で投票をしたり、デモをしたりすることによって政治家に働きかけを行い、それを受けて政治家や官僚が政策を決定・実施し、その政策を受けて市民が再び投票などを行う”、といったような政治が機能する過程を、理論的・実証的に分析する政治学の一分野です。本講義では、後述するように政治過程を「入力過程」と「出力過程」に大きく分けて解説していくことで政治過程論における基礎的な概念を身につけ、民主主義体制における政治過程の概形を把握することをその目的とします。

より具体的には、まず前半では、政治過程を理論的・実証的に分析するとは一体どのような営みなのかということ考えたのち、有権者や利益団体といった市民からなる集団が実際に政治的決定を行う政治エリートに働きかけを行う「入力過程」を扱います。後半では、議員や官僚といった政治エリートたちが政策を決定・実施することで我々市民の生活に影響を与える「出力過程」を扱います。

(到達目標)

【知識】政治過程に関する専門的な知識を身につけている。

【技能】政治的意思決定の理解に必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】政治過程論の観点から、政治現象について論理的に検討し、自らの見解を表現することができる。

教科書 /Textbooks

松田憲忠・岡田浩編 2018. 『よくわかる政治過程論』ミネルヴァ書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊藤光利・田中愛治・真淵勝 2000. 『政治過程論』有斐閣アルマ

建林正彦・曾我謙悟・待鳥聡史 2008. 『比較政治制度論』有斐閣アルマ

山田真裕 2016. 『政治参加と民主政治』東京大学出版会

谷口将紀 2015. 『政治とマスメディア』東京大学出版会

政治過程論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン
【政治過程論】【民主主義】【政治システム論】
- 第2回 権力
【権力】【非決定権力】【予測的対応】【観察同値問題】
- 第3回 政治学方法論入門
【因果関係】【理論と実証】【数理分析】【計量分析】
- 第I部 入力過程
- 第4回 政治参加
【投票参加】【投票外政治参加】
- 第5回 投票行動
【政策投票】【コロンビアモデル】【ミシガンモデル】【業績投票】
- 第6回 選挙制度
【多数代表制】【比例代表制】【混合制】
- 第7回 利益団体
【利益団体と圧力団体】【多元主義】【ネオ・コーポラティズム】
- 第8回 マスメディア
【メディア効果論】【プライミング】【フレーミング】
- 第II部 出力過程
- 第9回 政党
【政党システム】【政党組織】【選挙制度と政党】
- 第10回 執政制度とリーダーシップ
【議院内閣制】【大統領制】【拒否権プレイヤー】
- 第11回 議会制度と立法過程
【変換型とアリーナ型】【委員会型と本会議型】【日本の国会】
- 第12回 政策決定過程
【(完全)合理性と限定合理性】【ゴミ缶モデル】【アリソンの3モデル】
- 第13回 官僚制と政策ネットワーク
【官僚優位論と政党優位論】【官僚の政治的統制】【鉄の三角形】
- 第14回 政策実施と政策評価
【実施のギャップ】【第一線公務員論】【政策評価と行政評価】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：100%

*期末試験不受験の場合は「評価不能(一)」とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書の中から次回授業に該当する部分を探して読み、疑問点・よくわからなかった点はどこかを考えてみたくて講義に臨んでください。
事後学習については以下の履修上の注意の内容を参照してください。

履修上の注意 /Remarks

- ・本講義では基礎的な事項の効率的な定着を図るために教科書を指定していますが、講義では教科書の内容に追加・補足をします。講義中のノートテイキング及び復習を重視してください。
- ・スライド内で引用した文献は教員のホームページにて出典を示します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義では公務員試験などを念頭に置いて、先端的な分析ではあまり有用とはみなされていないような古典的な概念なども多く紹介します。しかしそこで試験のための単なる暗記ゲームに堕してしまうのは非常にもったいないですから、どういった点が分析上の欠点となりうるのか、それでもなお現実の政治の一面をよく捉えているといえる部分はないのかなど色々思索をしてみましょう。言論空間はすでに無用な概念でいっぱいですから、むやみに新しい名前を付けたり、使えるものをみだりに捨ててしまったりしないという工口な知的態度を共に身につけていきましょう。

キーワード /Keywords

政治過程 入力過程と出力過程

福祉国家論 【昼】

担当者名 /Instructor 狭間 直樹 / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	福祉国家、社会保障制度の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	社会保障制度の問題点を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	社会保障制度が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

福祉国家論

PLC112M

授業の概要 /Course Description

この講義では、日本の社会保険・公的扶助を中心に日本の福祉国家の特徴とそのあり方を考えます。テーマは次の2つです。①日本の社会保険・公的扶助の制度概要・政策動向（どのような課題があり、どのような解決策が議論されているのか？）、②日本の社会保険の特徴（諸外国と比較してどのような特徴があると言えるか？）。なるべく身近な事例から、これらのテーマを考えていくのが、この講義のねらいです。

（到達目標）

【知識】社会保障制度を総合的に理解している。

【技能】社会保障制度を利用するうえで必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】社会保障制度について論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を明確に発信することができる。

（授業方法）

原則として、対面授業により実施する予定です。新型コロナウイルス感染状況、自然災害などにより変更となることもあります。大学の掲示板、この授業のMoodleなどによる連絡に注意してください。

レジュメは講義当日の教室にてB4判で配布します。前回、前々回分のレジュメに限り、再配布します。講義後一週間を目処に、レジュメの空所部分を紹介した動画（5分程度）をMoodleに掲載する予定です。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介した図書や資料が参考文献となります。

福祉国家論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回「福祉国家とは」 個人の責任、国家の責任
- 第2回「自由と平等の規範」 自由主義、社会主義
- 第3回「社会保障の行財政」 社会保障の行政組織、社会保障給付費
- 第4回「年金保険」 被保険者、保険料、保険給付
- 第5回「年金保険」 財政悪化
- 第6回「年金保険」 空洞化（無年金・低年金）
- 第7回「年金保険」 世代間格差
- 第8回「年金保険」 世代内格差
- 第9回「年金保険」 改革の論点
- 第10回「医療保険」 年金と共通する問題
- 第11回「医療保険」 診療報酬をめぐる問題
- 第12回「生活保護」 原理・原則
- 第13回「生活保護」 扶助の種類
- 第14回「生活保護」 健康で文化的な最低限度の生活
- 第15回「福祉国家の種類」 3つの福祉国家

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験（筆記試験）・・・100%
新型コロナウイルス感染状況の収束が見通せないため、今年度の授業では出欠の確認をしません。
欠席による減点はありません。

試験は空所補充問題と論述問題で構成されます。レジュメ、講義中に示したスライド、映像などから出題されます。
13回目ぐらいの講義で、試験範囲などについてお知らせする予定です。

新型コロナウイルス感染状況、自然災害などにより、レポート課題提出に変更される場合もあります。
大学の掲示板、この授業のMoodleなどによる連絡に注意してください。

学期末試験を受験しなかった場合（もしくはレポート課題を提出しなかった場合）は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

年金や医療のしくみについて関心をもっておいってください。また、授業終了後は、配布資料をよく読み、知識や自分の考えを整理してください。

履修上の注意 /Remarks

9時20分までに入室してください。ご協力をおねがいします。

私語厳禁。繰り返し注意してもやめない人や授業態度が悪い受講生には、期末試験得点から減点したり、単位を認定しない場合がある。

授業時間中におけるパソコン・携帯電話・スマートフォンによる通話、写真・動画撮影などを禁止する。

レジュメや録音・録画した講義内容・講義動画を他人に譲渡・送信したり、インターネット上などで公開することを禁止する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特になし。

西洋政治史【昼】

担当者名 /Instructor 村上 悠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	西洋政治史の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

西洋政治史

PLS111M

授業の概要 /Course Description

この授業では、18世紀から20世紀前半までのヨーロッパ政治の展開を扱います。イギリス産業革命、フランス革命の展開を確認したうえで、ドイツ史を中心に、ヨーロッパ各国の政治の展開、相互の影響、第二次世界大戦へと至る過程を対象とします。過去の事象をただ知るのではなく、それが「なぜ」起きたのかという因果関係や、当事者の意図を理解することに重点を置いて、ヨーロッパの歴史を検討します。加えて、市民が政治の主体となる自由民主主義体制の形成と変容について、政治学の基本的な理解枠組みを用いながら検討していきます。

この講義の到達目標は次の通りとなります。

【知識】 西洋政治史に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】 西洋政治史の理解に必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】 西洋政治史について総合的に思考し、自らの考えや意見を表現することができる。

教科書 /Textbooks

特定の教科書は使用しません。授業に際しては、レジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 篠原一 『ヨーロッパの政治—歴史政治学試論』 東京大学出版会、1986年9月刊 (3,200円 + 税)。
 - 杉本稔編 『西洋政治史』 弘文堂、2014年02月刊 (2,000円 + 税)。
 - R・A・ダール著、高島通敏・前田脩訳 『ポリアーキー』 岩波文庫、2014年10月刊 (1,080円 + 税)。
 - 岡義武 『国際政治史』 岩波現代文庫、2009年9月刊 (1,480円 + 税)。
- その他、適宜授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . ガイダンス、近代ヨーロッパの歴史と政治史について
- 2 . イギリス産業革命 (1) : 産業革命とイギリス議会主義
- 3 . イギリス産業革命 (2) : 資本主義と社会主義
- 4 . フランス革命 (1) 食糧危機と民衆の騒乱
- 5 . フランス革命 (2) 革命の進展とナポレオン
- 6 . フランス革命 (3) ウィーン体制の確立
- 7 . ドイツ帝国の展開 (1) : ドイツ帝国の誕生
- 8 . ドイツ帝国の展開 (2) : ドイツ帝国の政治と社会
- 9 . ドイツと世界大戦 (1) : 第1次世界大戦と革命
- 10 . 戦間期の世界 : ヴェルサイユ体制とワシントン体制
- 11 . 戦間期のドイツ (1) : ヴァイマル期の政治と社会
- 12 . 戦間期のドイツ (2) : 社会主義の脅威とナチズム
- 13 . ドイツと世界大戦 (2) : 第2次世界大戦の勃発
- 14 . ドイツと世界大戦 (3) : 大戦の終焉と東西世界の分断
- 15 . まとめ : 福祉国家の成立

西洋政治史 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末筆記試験（100％）で行います。
期末筆記試験は自筆のノートやメモの持ち込みを許可します。

なお、5回以上欠席された方は「評価不能（－）」となりますので、ご注意ください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回授業時に次回のテーマとキーワードを提示するので、それを基に、情報収集や関連項目等の事前学習を行ってください。
授業終了後は復習を必ず行い、授業で配布したレジュメや、各自がとったノートなどを見直し、要点をまとめ、知識の定着を行ってください。
自筆で作成したノートは筆記試験に際して持ち込み可能なので、作成を推奨します。

履修上の注意 /Remarks

初回授業の際に授業の進捗や、成績評価について説明するので履修予定者は留意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市経済論 【昼】

担当者名 田代 洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地方財政の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	地方財政の諸課題を認識し、課題解決に必要な判断力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	地域経済への関心を高め、市民生活と地方財政制度とのつながりを再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

都市経済論

PLC113M

授業の概要 /Course Description

人口減少・高齢化、都市間競争の激化など都市を巡る課題は深刻さを増しています。

本講義は、都市の経済的問題を基軸としながらも、地域経済と社会との共創性、環境経済や文化経済など都市（地域）政策との関係性にも言及します。

講義では、まず、都市がおかれた現状と課題を概観した後、都市の形成や構造、都市の成長と衰退など都市経済の基礎理論に関する理解を深めます。次に、地域経済が活性化するとはどういうことか、域内産業の特性との関連で見ていきます。

さらに、都市の空間特性が企業行動にどのような影響を与えているのかを検討し、都市の魅力の向上など経済活性化に向けた新しい事業創造の動きを捉えるほか、都市経済の実際として、商店街活性化と観光振興を取り上げます。

本講義を通して、都市経済に関する基礎的な理解を行うほか、分析能力、政策提案能力を身につけることを目的とします。

(到達目標)

【知識】

都市経済に関する基礎的な専門知識を身につけている。

【技能】

都市経済に関する情報を収集し、分析することができる。

【思考・判断・表現力】

都市経済に関係する現象を説明するとともに、理論的、学術的な知見を踏まえた解決策を探索し、自分の意見を論理的に表現できる。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。Moodle等で適宜、学習資料を提供します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 田代洋久(2022)『文化力による地域の価値創出 - 地域ベースのイノベーション理論と展開』水曜社
 - 中村良平(2014)『まちづくり構造改革』日本加除出版
 - 川端基夫(2013)『立地ウォーズ 改訂版』新評論
 - 小長谷一之(2005)『都市経済再生のまちづくり』古今書院
- その他、適宜講義の中で紹介します。

都市経済論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション - 本講義の目的と概要
2. 競争の激化と地域格差の拡大
3. 都市の経済的課題
4. 都市の社会的課題
5. 都市はなぜできるのか? - 都市の発展
6. 都市空間の形成 - 都市システム
7. 都市の成長と衰退① - 土地利用、都市の内部構造
8. 都市の成長と衰退② - 都市の発展段階モデル
9. 地域経済活性化と産業構造① - 域外マネーの獲得と域内経済循環
10. 地域経済活性化と産業構造② - 基盤産業と非基盤産業
11. 立地戦略と都市経済① - 場所の価値
12. 立地戦略と都市経済② - 立地創造
13. 都市経済の実際① - 商店街活性化
14. 都市経済の実際② - 観光振興とまちづくり
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 受講レポート50%、期末レポート50%
- ・ 一回も受講レポートを提出しない者、期末レポートを期限内に所定の方法で提出しない者（期末試験を受験しない者）、不正行為を行った者は単位認定の対象外で、成績評価で「-」と表示します。
- ・ 新型コロナウイルスの発生状況等により、期末レポートは期末試験に変更する可能性があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業開始までにMoodleによりレジュメを配布するので、プリントして事前学習をしてください。
授業終了後は事後学習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 大学が規定する新型コロナウイルス対策により対面授業ができなくなった場合は、オンデマンド方式に切り替えます。
- ・ 遅刻、私語、食事は他の受講生の迷惑になるため厳禁です。
講義中、教員の指導に従わない行動をとった場合、退室していただきます。
- ・ 教員の許可を得ない講義の撮影、録音は厳禁です。
- ・ 受講レポートの代筆は、依頼した者、実施した者、双方とも不正行為として取り扱います。
- ・ 授業計画は、進捗状況等により変更する場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 担当教員は、経済系シンクタンクと地方自治体での政策実務経験を有し、「地域資源の活用による地域創造と都市魅力の形成」を専門としています。
「地方創生」に関する理解を深めるためにも、都市経済の状況と戦略に関する洞察は不可欠です。
- ・ 本講義と関連する図書を刊行しました。参考図書としてあげておきます。

- ・ 当科目は、SDGsの「8 働きがいも 経済成長も」「9 産業と技術革新の基盤をつくろう」「11 住み続けられるまちづくりを」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

公共政策論【昼】

担当者名 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	公共政策の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	何が公共政策の課題であるか見極め、公共政策の基本的な分析能力を身につけ、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

公共政策論

PLC211M

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、日常レベルから、公共政策について考え、分析、考察するための基礎的知識や方法論を提供することにあります。そのために、本講義では、様々な事例を用い、また、時には本格的なケース・スタディを用いて議論を展開することになります。また、本講義では、公共政策研究の第一歩ともいえる「問題発見能力」の涵養に力を入れたいと考えています。

本講義の担当教員は、公共政策を研究する目的は、第一に、よりよき未来社会の構築にあると考えています。つまり、公共政策研究の根本には、「問題解決」「問題解き」というものがあるのです。また第二に、個別の公共政策を研究することは、デモクラシーの発展にも寄与することになると考えています。今日、公共政策についての知識なくして、有効な政治参加などできないからです。受講生には、何が自分にとって問題であり、そのために自分はそのような研究をするのかということ意識して講義に参加すること、あるいは、この講義を通してそうした問題意識をもつことを望んでいます。

(到達目標)

【知識】公共政策を学ぶ上で必要となる基礎的な知識を身につけている。

【技能】公共政策を考察する上で必要な情報を収集し、分析することができる。

【思考・判断・表現力】公共政策について、複眼的に思考して解決策を探求し、自分の考えや意見を論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

テキストは使いません。毎回、プリント教材を配布します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度指示する予定です。とりあえず以下のものを挙げておきます。

秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉(2010)『公共政策学の基礎』有斐閣。

伊藤修一郎(2022)『政策リサーチ入門—仮説検証による問題解決の技法—(増補版)』東京大学出版会。

ユージン・バーダック著、白石賢司ほか訳(2012)『政策立案の技法—問題解決を「成果」に結び付ける8つのステップ—東洋経済新報社。

阿部彩(2008)『子どもの貧—日本の不平等を考える—』岩波書店。

阿部彩(2014)『子どもの貧困II—解決策を考える—』岩波書店。

公共政策論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 問題提起・・・公共政策研究の目的および本講義の目的
- 2回 公共政策とそのアクター・・・小倉昌男の福祉革命（社会起業家論）
- 3回 小倉昌男の問題提起と日本の障害者福祉政策、ダストレスチョークと障害者
- 4回 子どもの貧困（1）・・・貧困とは何か、子どもの貧困とは何か
- 5回 子どもの貧困（2）・・・日本における子どもの貧困を考える
- 6回 子どもの貧困（3）・・・学歴と子どもの貧困：大学生の状況は？
- 7回 子どもの貧困（4）・・・比較の視座から考える子どもの貧困
- 8回 子どもの貧困（5）・・・子どもの貧困対策大綱と子どもの貧困の解決策、剥奪指標について
- 9回 子どもの貧困（6）・・・社会実験（ペリー就学前プロジェクト）とまとめ
- 10回 介護保険（1）・・・導入
- 11回 介護保険（2）・・・現状分析
- 12回 介護保険（3）・・・問題点とその検討（「介護離職」「ミッシング・ワーカー」等の問題も含む）
- 13回 介護保険（4）・・・介護保険の改革
- 14回 ヤングケアラーの問題
- 15回 まとめ～シルバーデモクラシーと若者政策～

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート ... 50 %、授業貢献度など...50%。毎回講義の終了後、コメント用紙を配布し、講義内容に対する質問・意見のある学生には書いてもらい成績評価に加えることにします。

期末レポートを提出していない場合には「評価不能（－）」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に際しては前もって配布した教材の指定箇所等を予習（事前学習）して授業に参加するようにして下さい。また、授業中に配布したレジュメや論文等の教材の復習を必ず行うようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

本年度は授業内容を若干変更する予定です。また、「シルバー・デモクラシーと若者政策」等をはじめ講義内容については、学生の理解度や講義の進捗状況などに応じて変更する可能性があります。第1回目の講義で説明する予定ですので必ずご参加ください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に出席しないと何も始まりません。担当者もそれなりの準備をして授業にのぞみますので、授業には必ず出席するようにして下さい。この授業はSDGsの「貧困をなくそう」「すべての人に健康と福祉を」「質の高い教育をみんなに」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

公共政策、社会起業家、子どもの貧困、介護保険、超高齢社会。

政策理論特講 【昼】

担当者名 森 裕亮 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政策と関連する様々な理論の体系的な理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策理論特講

PLS213M

授業の概要 /Course Description

この講義は、コンテンツツーリズム、特に今全国的に着目されている“アニメ聖地巡礼”を題材にして、学術的なスキルを身につけながら、なぜアニメが地域と関わるようになったか、アニメを通じた地域づくりのあり方を理論的な視点から、批判的、客観的に考察し、アニメ聖地巡礼の本質とまたその歴史的变化を分析します。“アニメ聖地巡礼”は観光の分野で理解されがちですが、実はとても奥が深い現象です。基本的な文献を熟読した上で、今この聖地巡礼が社会にもたらしていること、その効果と限界を理解します。特に力を入れるのは、事例研究です。具体的に事例を見ながら、生じた現象、成功の条件、変化の可能性、限界などを歴史的に追い、アニメ聖地巡礼の現象を深く理解しようという狙いがあります。

教科書 /Textbooks

岡本健編著『コンテンツツーリズム研究 増補改訂版』（2016年、福村出版）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

アニメの旅人『日本アニメ史入門』（2021年、彩流社）他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 アニメ聖地巡礼の理解【歴史】
- 第3回 アニメ聖地巡礼の理解【基本的枠組み】
- 第4回 教科書の内容議論【テキスト第1部】【ホスト・ゲスト論】
- 第5回 教科書の内容議論【テキスト第2部】【旅行行動】【アクター】【トライアングルモデル】
- 第6回 事例研究第1回【90年代から2000年代初期】【究極超人あ〜る】【セーラームーン】【耳をすませば】
- 第7回 事例研究第2回【90年代から2000年代初期】【エヴァンゲリオンがもたらしたもの】
- 第8回 事例研究第3回【2000年代初期】【聖地巡礼の原型の誕生】【おねがい☆ティーチャー】【ひぐらしのなく頃に】
- 第9回 事例研究第4回【2000年代後期：一つの到達点】【らぎ☆すた】【あの日見た花の名前を僕達はまだ知らない】
- 第10回 事例研究第5回【京アニと聖地巡礼】【けいおん!】【氷菓】【Free!】【響け! ユーフォニアム】
- 第11回 事例研究第6回【PA WORKSのパワー】【花咲くいろは】【true tears】【色づく世界の明日から】【白い砂のアクアトープ】
- 第12回 事例研究第7回【成熟へ】【輪廻のラグランジェ】【ガールズ&パンツァー】【君の名は。】
- 第13回 事例研究第8回【成熟と変化】【ラブライブ!】【結城友奈は勇者である】【ラブライブ!サンシャイン!!】
- 第14回 事例研究第9回【成熟と変化】【ゾンビランドサガ】【宇宙よりも遠い場所】【戦翼のシングルドリーヴァー】【邪神ちゃんドロップキック】
- 第15回 デステイネーションマーケティングの可能性と課題【デステイネーションマーケティング】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加を求めますが、小テスト（50%）と期末レポート(50%)で評価します。
最後のレポートを提出しなかった場合に評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書の議論と事例研究では、講義の前に必ず教科書と付随の論文資料を読んできてもらいます。特に事例研究では追加資料を読まないで議論になりません。講義の開始の際にはMoodleに事前に論文資料をあげておきます。また対象となる作品を知らないと全く議論ができませんので、事前に簡単に基本的に合法的な方法でどんな作品かを確認しておいてください。

政策理論特講 【昼】

履修上の注意 /Remarks

事前事後の復習が非常に重要な科目です。とりわけ事前学習は力を入れましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「あつまれ アニメ大好きっ子(^o-)☆」というノリではありますが、アニメを通じて地域づくりのあり方を考えるという趣旨は外さないように講義を行います。基本かなりマニアックですが、あまりアニメに詳しくない方にも受講していただけるように工夫をしています。

キーワード /Keywords

アニメ聖地巡礼 コンテンツツーリズム

政策過程論 【昼】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政策と政策過程の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策現象とその課題を見極め、政策論的な分析と論理的な思考に基づき、新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策問題に対する自らの関心を高め、日頃の市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策過程論

PLC212M

授業の概要 /Course Description

政策現象に関する理解と政策知識の取得

- ①政策学の範囲とその目的、公私の問題、政策と社会(Social Dilemma・ Free Rider)
- ②政策の分類 (Lowiによる分類)・ 政策の便益と費用 (J.Q.Wilson)について知ってもらう。

政策過程に関する専門知識の取得：

- ①政策の決定 (Elite論・ 多元主義論とIssue Network・ 制度論と合理的決定：Path dependence・ Idea・ Game theory etc.・ ゴミ箱決定Garbage Can Model、無意思決定Non-Decision Making, Agenda-Setting, Joining of Issues & Streams、政策の窓 [Policy Window]) や政策実施・ 調整 (Policy Learning &Changes)、そして政策終了・ 評価について学習する。
- ②政策過程におけるアクターの参加 (首相・ 内閣・ 官僚・ 国会・ 首長・ 専門家組織・ 世論とメディア・ 裁判・ NPO・ 国際機構)とその構造 (補助金・ Rent-Seekingのような利益誘導型政治・ 首相のLeadership、集権的政策決定システム・ 官僚[Downs・ Niskanenの官僚利益追求論・ 政府間関係]について理解してもらう。

(到達目標)

- 【知識】政策問題をめぐる政治・ 政策過程の知識を修得している。
- 【技能】政策分析に関するスキルを身につけている。
- 【思考・ 判断】政策過程に関する知識を深め、政策事例を分析し、説明する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

- 『政策過程論』(早川純貴他著 学陽書房 2004年 ¥ 2,730)
- 『公共政策学の基礎 新版』(秋吉貴雄・ 伊藤修一郎・ 北山俊哉著 有斐閣ブックス 2015年 ¥ 2,730)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『現代日本の政策過程』(中野実著 東京大学出版会 1992年 ¥ 2,940)
- 『政治過程論』(伊藤光利・ 真淵勝・ 田中愛治著 有斐閣 2000年 ¥ 2,625)
- 『日本政治の政策過程』(中村昭雄著 芦書房 2011年 ¥ 3,568)
- 『政策過程分析入門 第2版』(草野厚著 東京大学出版会 2012年 ¥ 2,625)

政策過程論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業や本の紹介など
- 2回 政策の対象、政策の必要性、政策と社会(Social Dilemma・ Free Rider)、費用と利益、政策の種類など
- 3回 政策参加者、政策資源 (事例：川辺川ダムの決定を巡る各アクターの利害関係、DVD)
- 4回 政策過程の理論1 (政策過程論・ Elite論・ 多元主義論とIssue Network・ 制度論と合理的決定 Path dependence・ Idea・ Game theory etc.)
- 5回 政策過程と事例分析1 (新聞、インターネットで検索した事例分析)
- 6回 政策過程の理論2 (アジェンダ形成・ ゴミ箱決定Garbage Can Model・ 政策の窓)
- 7回 政策過程の理論3 (無意思決定論、相互浸透理論など)
- 8回 政策過程と事例分析2 (新聞、インターネットで検索した事例分析)
- 9回 政策事例のポスター発表
- 10回 政策実施、政策調整 (実施過程の政策変数、官僚と国会、集権的政策システム・ Top-Down Approach & Street Bureaucracy Approach)
- 11回 政府間関係と自治体の政策 (政府間関係、利益誘導政治、地方の変革・ 事例：名古屋市)
- 12回 本のレポート発表
- 13回 政策終了・ 政策評価と市民参加
- 14回 SDGsのエネルギー・ 食べ物・ 水問題・ 気候危機政策など政策事例を選び、政策過程の分析
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

本のレポート 30%、 ポスター 30%、 期末試験 40%
(本のレポート発表・ ポスター発表をしない場合は、期末試験を受けることができず「評価不能(-)」となります)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前課題・ 事後学習内容については学習支援フォルダに挙げるので、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公共政策、政策問題、社会的ジレンマ、政策の決定、実施、政策調整、終了、利益・ 価値、制度、アクター、選択、メディアの役割、ガバナンス、市民社会、ネットワーク。

現代政治思想 【昼】

担当者名 大澤 津 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	現代政治思想の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代政治思想にかかわる政策的諸問題を見極め、適切に分析し、現実的な解決策を提案しかつ評価する能力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代政治思想についての関心を高める。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

現代政治思想

PLS212M

授業の概要 /Course Description

私たちが政治や政策について語る時、それは常に、政治と社会はいかにあるべきかということについてのビジョンに基づいています。このビジョンを背景から支える価値を理論化するのが、政治思想の役割です。政治のビジョン・価値は多様であり、それらが互いに異なる政治上の立場を支持することで、現実政治のダイナミズムが生まれます。

この授業は、履修者が政治や社会に関する多様な思想を理解した上で、価値と現実の緊張関係から生まれる様々な政治現象をこの観点から分析・理解できるようになることを目指します。

(到達目標)

【知識】現代政治思想に関する専門的な知識を総合的に身につけている。

【技能】現代政治思想の理解に必要な情報を収集、分析できる。

【思考・判断・表現力】現代政治思想の観点から、社会的諸問題について論理的に考え、自らの意見を発信することができる。

教科書 /Textbooks

Moodleを用いてレジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『現代政治理論 (新版)』 (川崎修・杉田敦 編、有斐閣)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 政治とは何か
- 第2回 権力とは何か(1) 【権力の種類】
- 第3回 権力とは何か(2) 【意図と権力】 【構造と権力】
- 第4回 リベラリズムの基礎(1) 【自然権】 【功利主義】 【人格発展】
- 第5回 リベラリズムの基礎(2) 【適者生存】 【ニュー・リベラリズム】
- 第6回 リベラリズムの発展と批判 【福祉国家】
- 第7回 自由とは何か(1) 【二つの自由】 【自律】
- 第8回 自由とは何か(2) 【共同体】 【共和主義】
- 第9回 自由とは何か(3) 【権力と自由】
- 第10回 平等と正義(1) 【ロールズの正義論】
- 第11回 平等と正義(2) 【リバタリアニズム】
- 第12回 平等と正義(3) 【コミュニタリアニズムと美徳の政治】
- 第13回 平等と正義(4) 【資源の平等と運の平等】
- 第14回 平等と正義(5) 【潜在能力】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート：100%

(期末レポートを提出しない場合には、「評価不能(-)」となります。)

現代政治思想 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、該当回のパワーポイントを通読しておくこと。また講義の内容を適宜ノートに取り、授業後にはノートとパワーポイントをもとに復習すること。(質問は授業後などに受け付けています。)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現代日本政治の基礎にある価値観とは「どのようなものであるか」、また、「どのようなものであるべきなのか」、本授業においてともに考えていくことができれば幸いです。

* この授業はSDGsの以下の目標に関連しています：

「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」「すべての人に健康と福祉を」「質の高い教育をみんなに」「ジェンダー平等を実現しよう」「働きがいも 経済成長も」「人や国の不平等をなくそう」「平和と公平をすべての人に」

キーワード /Keywords

地方自治論 【昼】

担当者名 黒石 啓太 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地方自治の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地方自治論

PA0211M

授業の概要 /Course Description

私たちの生活の切っても切り離せない地方自治ですが、その全体像を把握し今後のあり方を展望するためには、一定の知識が必要となります。本講義では、受講生が地方自治の基本的な制度や運用を理解したうえで、現実社会における地方自治や自治体のあり方について、自らの意見を持てるよう多角的な観点から講義を行います。

(到達目標)

DP3 思考・判断・表現力：地方自治について、総合的、論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えや意見を論理的に表現することができる。

DP2 技能：地方自治の分析に必要な情報を収集、分析することができる。

DP1 知識：地方自治に関する基盤となる知識を体系的に身につけている。

教科書 /Textbooks

幸田雅治編（2018）『地方自治論 変化と未来』法律文化社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大森彌・大杉覚（2019）『これからの地方自治の教科書』第一法規

今川晃・牛山久仁彦編著（2020）『自治・分権と地方行政』芦書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【授業の進め方など】
- 2回 地方自治制度の基礎
- 3回 地方自治の歴史①【戦前の地方自治】
- 4回 地方自治の歴史②【地方制度の戦後改革】
- 5回 地方自治の歴史③【戦後地方自治のあゆみ】
- 6回 自治体の種類と権能
- 7回 自治体の長と議会（二元的代表制）
- 8回 住民と自治体行政の関係（住民との協働）
- 9回 地方分権改革の意義と到達点
- 10回 「平成の大合併」と自治体
- 11回 国・都道府県・市町村の関係（政府間関係）
- 12回 広域連携と大都市制度
- 13回 自治体職員の制度と運用
- 14回 自治体行政と公共サービスの多様性
- 15回 「危機」と自治体

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...100%（試験では、単純な知識に加え、習得した知識を活かして現実の事象を検討・分析する能力を問う予定である。）

※学期末試験を受験しなかった場合には、「評価不能（-）」となります。

地方自治論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：地方自治に関するニュースに触れ、今日の社会における地方自治の論点を探す。
事後学習：参考書等の関連箇所を読み、授業内容の理解を深める。

履修上の注意 /Remarks

政治学関連科目、行政学関連科目も合わせて履修することを推奨する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地方自治論は、政治家や地方公務員をめざす人だけの学問ではありません。多様な自治体の全体像を学び、自らの地域のことを考える契機となるような授業運営を心がけます。
この授業はSDGsの「住み続けられるまちづくりを」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

都市経営論 【昼】

担当者名 田代 洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地方自治体の経営に関する必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	地方自治体の諸課題を認識し、自治体改革に必要な判断力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	●	地方自治体への関心を高め、市民生活と地方自治体とのつながりを再確認する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

都市経営論

PAD213M

授業の概要 /Course Description

人口減少社会、少子・高齢化の進展、都市間競争の拡大など、都市を取り巻く環境変化は著しく、かつ深刻な状況にある。地方消滅の危機が深刻化する中、漫然とした都市経営はもはや許されず、持続的な都市社会の構築に向けて、効率的な都市運営、地域社会のガバナンス、都市の魅力の向上などの戦略的な都市マネジメントが不可欠となる。

本講座では、都市マネジメントが求められる背景、行政システムに関する基礎的な知識、NPM、ガバナンスとパートナーシップ、地域課題へのビジネス手法の活用、地域資源の活用による地域創造など、今後の都市マネジメントの方向性に関する理解とともに、学際的、多角的な思考能力と構造的な理解力、政策提案能力を身につけることを目的とする。

(到達目標)

【知識】

都市マネジメントに関する専門的な知識を幅広く身につけている。

【技能】

都市マネジメントに関する情報を収集し、分析することができる。

【思考・判断・表現力】

都市マネジメントの状況を説明するとともに、ガバナンスやパートナーシップを駆使した政策展開や地域創造の意義を探索し、自分の意見を論理的に表現できる。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。Moodle等で適宜、学習資料を提供します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 田代洋久(2022)『文化力による地域の価値創出 - 地域ベースのイノベーション理論と展開』水曜社
- 吉田民雄(2003)『都市政府のマネジメント』中央経済社
- 宮脇淳(2012)『図解 財政のしくみ ver.2』東洋経済新報社
- ・ 秋吉貴雄他(2015)『公共政策学の基礎 新版』有斐閣
- ・ 秋吉貴雄(2017)『入門 公共政策学』中央公論新社
- ・ その他、講義の中で適宜紹介します。

都市経営論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション - 都市のマネジメント
2. 都市の現状と課題
3. 都市の成長と都市マネジメント
4. 地方自治制度
5. 地方財政制度
6. 地方自治体の諸制度
7. 地方公務員の人材マネジメント
8. 地方行財政改革
9. 公共部門の民営化
10. 公共施設・空間のマネジメント
11. ガバナンスとパートナーシップ
12. ビジネス手法の活用による地域課題の解決
13. 企業と社会の関わりと市民事業への支援
14. 地域資源の活用による地域創造
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 受講レポート50%、期末レポート50%
- ・ 一回も受講レポートを提出しない者、期末レポートを期限内に所定の方法で提出しない者（期末試験を受験しない者）、不正行為を行った者は単位認定の対象外で、成績評価で「-」と表示します。
- ・ 新型コロナウイルスの発生状況等により、期末レポートは期末試験に変更する可能性があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業開始までにMoodleによりレジュメを配布するので、プリントして事前学習をしてください。
授業終了後は事後学習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 大学が規定する新型コロナウイルス対策により対面授業ができなくなった場合は、オンデマンド方式に切り替えます。
- ・ 遅刻、私語、食事は他の受講生の迷惑になるため厳禁です。
講義中、教員の指導に従わない行動をとった場合、退室していただきます。
- ・ 教員の許可を得ない講義の撮影、録音は厳禁です。
- ・ 受講レポートの代筆は、依頼した者、実施した者、双方とも不正行為として取り扱います。
- ・ 授業計画は、進捗状況等により変更する場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 担当教員は、経済系シンクタンクと地方自治体での政策実務経験を有することから、都市マネジメントのポイントと行政、企業、住民の協働の実際をわかりやすく解説します。都市政策論と併せて受講されることをお勧めします。
- ・ 本講義と関連する図書を刊行しました。参考図書としてあげておきます。
- ・ 当科目は、SDGsの「11 住み続けられるまちづくりを」「17 パートナーシップで目標を達成しよう」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

途上国開発論 【昼】

担当者名 吉田 舞 / Mai Yoshida / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 途上国が直面している諸課題と解決に関して体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 途上国において何が政策課題を見極め、政策論的な分析と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 途上国が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、日本人の市民生活と日本政府の政策とどのようにつながっているかを再確認する。
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

途上国開発論

PLC215M

授業の概要 /Course Description

本授業では、グローバル化と途上国開発という視点から、社会を読み解く視点や方法を修得します。具体的には、担当教員がこれまでフィリピンと日本で行ってきたフィールドワークの事例を中心に、グローバル化のなかでの都市（国）づくりが、そこに暮らす人々にどのような影響を及ぼしているのかについて考えます。そのために、都市で生活する人々の経済、社会、政治、政策などさまざまな側面について理解していきます。後半は、グローバルな「開発」を念頭に、私たちの生活に身近な問題について、メディア資料などを通して理解する力を養います。

- { 知識 } 途上国の政治経済の現状を理解している
- { 技能 } 途上国の政治経済上の情報を入手し、分析できる
- { 思考・判断・表現力 } 途上国の持続可能な開発に理解を示し、積極的に支援する

教科書 /Textbooks

特に指定しません。必要に応じてレジュメや資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 日下渉『反市民の政治学：フィリピンの民主主義と道徳』2013, 世界思想社.
- 山口恵子ほか『グローバル化のなかの都市貧困』2020, ミネルヴァ書房.
- 吉田舞『先住民の労働社会学：フィリピン市場社会の底辺を生きる』2018, 風響社.
- ニール・スミス『ジェントリフィケーションと報復都市：新たな都市のフロンティア』原口剛訳, 2014, ミネルヴァ書房.
- 長田華子『バングラデシュの工業化とジェンダー：日系縫製企業の国際移転』2014, 御茶の水書房.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス：今「途上国」でなにが起きているのか【コロナと途上国】
- 第2回開発とはなにか：開発概念の検討【開発と貧困】
- 第3回フィリピンにおける開発研究の歴史的経緯【植民地経験と近代化】
- 第4回グローバル化と都市開発① ギグ・エコノミーと渋滞問題【ジェントリフィケーション】
- 第5回グローバル化と都市開発② スクワッターと強制撤去【住居問題】
- 第6回グローバル化と都市開発③ 美化政策と路上の人びと【ホームレスの国際比較】
- 第7回グローバル化と都市開発④ 美化政策と物売りの人びと【公共空間の利用と階層化】
- 第8回グローバル化と都市開発⑤ 都市統治と道徳的イデオロギー【近代的都市づくり】
- 第9回グローバル化と地域開発① 先住民の生業と労働【観光開発】
- 第10回グローバル化と地域開発② 資本主義のハビトゥス【価値変容】
- 第11回グローバル化と地域開発③ 包摂・排除される人々【開発政策】
- 第12回日本からアジアをみる①990円のジーンズのカラクリ: 映画『True cost』から考える【ファストファッション】
- 第13回日本からアジアをみる② 途上国開発と移民労働者【出稼ぎ労働者】
- 第14回日本からアジアをみる③ 「国際貢献」と外国人受け入れ政策【経済連携】
- 第15回まとめ：開発と援助

途上国開発論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト50%、課題レポート20%、ワーク 30%

※ 授業を5回以上欠席した場合、期末試験未受験者は「評価不能(-)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各種メディアを通じて提供される国内外の時事問題に関する情報に関心に向け、その概要を把握すること。

履修上の注意 /Remarks

受講生の人数や問題関心などにより授業内容を一部変更することがあります。私語厳禁。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています！

キーワード /Keywords

途上国、開発、路上、生活と仕事

政策評価論 【昼】

担当者名 /Instructor 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科, 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 政策評価の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 政策評価のために必要な情報を収集・調査・分析する基本的なスキルを身につける。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、政策を体系に評価するための基礎的で総合的な評価方法を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政策評価論

PLC310M

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、政策評価について、学部レベルで理解しておくべき基礎的な知識を提供することにあります。ただし、基礎的といっても評価研究は、理解しづらいところもあるので、そのつもりで参加するようにして下さい。

講義では、第一に、アメリカを中心とした評価研究や評価手法を分析・検討します。その際、「セオリー評価」あるいは「ロジック・モデル」を中心として説明を行い、次に説明する「行政評価」の基礎的な知識を提供することにします。（前半7回、榎原担当）

第二に、現代日本で最も頻繁に行われている行政評価とその問題点を検討し、今後の日本における行政評価のあり方や新しい評価手法についてみていくことにします。（後半8回、横山担当）

（到達目標）

【知識】政策評価に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】政策評価に必要な情報を収集し、分析することができる。

【思考・判断・表現力】政策評価について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切に表現することができる。

教科書 /Textbooks

教科書は使いません。ほぼ、毎回プリント教材を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

石原俊彦編著（2005）『自治体行政評価ケーススタディ』東洋経済新報社。

○龍慶昭・佐々木亮（2004）『「政策評価」の理論と技法』多賀出版。

○安田節之・渡辺直登（2008）『プログラム評価研究の方法』新曜社。

○古川俊一・北大路信郷（2004）『新版・公共部門評価の理論と実践—政府から非営利組織まで—』日本加除出版株式会社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入-「評価」とは何か？

第2回 「実験としての改革」-アメリカのプログラム評価の古典の意味するものは何か？！

第3回 政策過程の中の評価-評価はいつ行うのか-

第4回 セオリー評価（ロジック・モデル）

第5回 より複雑なロジック・モデルについて

第6回 プロセス評価

第7回 前半のまとめ-ロジック・モデル再考（NPOとの関連も含めて）

第8回 「行政評価」とは何か？

第9回 先進事例の検討-三重県を中心に

第10回 事務事業評価の考察-公開されている評価結果の比較・検討

第11回 「評価結果」の評価

第12回 評価者に必要なものとは何か？

第13回 評価システムを支える外部評価制度？（1）-地方自治体での外部評価の実際

第14回 評価システムを支える外部評価制度？（2）-第三者による評価がもたらすもの

第15回 小テスト・後半のまとめ-行政評価総括

政策評価論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート35%、小テスト35%、 授業貢献度...30%。 授業に出席しない学生には単位は与えない(単位修得は不可能です)のでそのつもりで履修して下さい。

*それぞれの教員が課すレポート提出していない(あるいは小テストを受けていない)場合には、「評価不能(一)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配布するプリント教材の復習を必ず行って下さい。また、授業に際しては前もって教材の指定した箇所を予習して授業に参加するようにして下さい。毎回の講義の復習をしない学生は授業についていくことが難しくなるので十分に注意して下さい。

履修上の注意 /Remarks

履修に際しては、行政学、地方自治論、公共政策論、自治体政策研究などの講義を受講しておくことがのぞましい。授業の進め方をはじめ履修にあたって重要となることを述べるので、第1回目の講義には必ず出席して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

評価、セオリー評価、ロジック・モデル、アウトプット、アウトカム、行政評価、業績測定(パフォーマンス・メジャーメント)

政党政治論 【昼】

担当者名 /Instructor 中井 遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政党政治の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政党政治論

PLS211M

授業の概要 /Course Description

本講義では政党政治の諸相について、①政党間の競争②政党内の個々の議員の行動、の双方を基軸にして、国際比較と実証性を重視しつつ検討します。現代民主主義の政治は政党を中心として展開しており、政策形成を理解するためにも政党政治の分析能力が必要です。それは、企業を知らずして現代経済を理解できない事と似ているかもしれません。政党システム論と政党組織論の双方に依拠し、適宜事例を踏まえつつ（必ずしも日本とは限りませんが）、現代民主主義に関する理論や分析視座の習得を目指します。

受講者はこの授業を通じて、1. 政党システム論の基礎を習得し、国や地方自治体によって違う政党システム・議会状況の違いが、その国や地方自治体の政治・行政の展開にどのような影響を与えるのか、自ら批判的に検討できるようになる；2. 一市民あるいは一専門家として、議会状況の特徴や差異を自分自身で指標として算出でき、選挙制度によって異なる議席配分や定数配分を計算できるようになる；3. 政党組織論の基礎を習得し、国や地方自治体によって違う選挙制度との相互関係の中で、議員のインセンティブ構造と行動に変化が現れることを理解する（ひいては将来、一市民や一専門家として彼ら代理人とともに仕事をできるための予備知識を身に付けておく）ことが求められます。

本学ディプロマポリシー上の到達目標は「政党・議会・選挙に関する専門的知識を身に着けている」「国や地域の政党政治の特徴を算出・数値化でき」「政治過程を通じた社会問題の解決を思考し探求できる」となっており、そのためにも上記の3要件を満たすことが期待され、またそれが成績評価と授業設計の基盤をなすものと理解してください。

教科書 /Textbooks

特定の教科書はありません。授業資料はこちらで用意します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 川人貞史・吉野孝・平野浩・加藤淳子(2011)『現代の政党と選挙(新版)』有斐閣
- 待鳥聡史(2018)『民主主義にとって政党とは何か』ミネルヴァ書房
- 待鳥聡史(2015)『政党システムと政党組織』東京大学出版会
- 砂原庸介(2015)『民主主義の条件』東洋経済新報社

政党政治論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクションならびに政党と民主主義について。本講義全体の位置づけやゴールを説明し、本講義の主題であるところの政党と民主主義の関係について、そもそもいかなる機能を果たしているのか、歴史的な否定論に言及しつつも、プロフェッショナルな観点からはポジティブな効果や機能がいくつかあることを理解する。マディソンの【多元主義】的民主主義観や、政党の機能論、民主的統制との関連が重視される。
2. 政党と政府形成①：政党の定義や多義的な側面について理解する。政党は選挙を媒介とした合法的手段を中心に政策主張を展開する政組織でもある。その一つの機能は政府形成機能にあり一国の政治を左右する。様々な政党（やその政策・立ち位置）のデータベースの代表例としての「比較マニフェストプロジェクト（CMP）」を知り、民主政治への含意を理解する。【政党と政策についての課題提出あり】
3. 政党と政府形成②：CMPを通じ、世界に様々な政党があることを知り、またその政治の展開にどのような影響を与えたのか知見を広める。日本を事例に政党政策位置の理解を深め、政党間競争や連立形成が各政党の政策位置やそれに規定される政党間距離に影響を受けるということを理解する。
4. 政党と政府形成③：議会の政党間競争が重要なのは、それが最終的に多数派形成の基盤となり実現する/しない政策が決まるからである。議会多数派形成にかんする連立形成理論とくに最少勝利連合の概念について理解し、仮想的な状況で形成されうる多数派を自ら予想できるようになる（このことは現実とのギャップを見出した時に、「何が理論と違う状況をもたらしたのか」という個別の現実政治の個性を理解することにもつながる）。ここでは、政党の数も重要であることが理解される。
5. 政党システム①：議会で競争する存在としての政党ならびに、その全体的な競争状況を表すものとしての政党システム（政党制）概念について理解する。古典的かつ質的なサルトーリの分類論を理解したのち、より近代のかつ量的な指標としての有効政党数を紹介し、その計算方法を習得する。【政党システムについての課題提出あり】
6. 政党システム②：提出課題から政党システムの多様性を理解する。そこから、なぜ国や地域や時代によって政党システムは異なり変化するのかへと問を深める。説明要因として古典的な「凍結仮説」（社会構造的説明）と、選挙制度の効果とくにM+1ルールについて理解する。日本や地方自治体の選挙結果をもとに、制度の効果についての実証的知見を身につける。
7. 政党システム③：有効政党数に対する制度要因をさらに追及し、様々な政治制度がその国の政党間競争に与える影響について理解する。選挙制度だけではなく、その国の執政制度も影響を与える事をしり、さらに同じ比例代表でも算出方法「ドント式」「サン＝ラゲ式」「ヘア方式」等によって異なる議席数となることを、実際の算出方法の習得と併せて実感する。最終的には有権者の投票行動とつながることに理解を広げる。
8. 政党と有権者①：政党は単に政策提示のみによって選挙を勝ち抜くのではなく、組織として固定的支持基盤を形成したり、過去の業績に基づいて支持を集める。業績投票も重要である。それを媒介する利益団体とは何で、政党に対してどのように働きかけるのか、理解を広げる。【政党と利益団体の接触に関する課題提出あり】
9. 政党と有権者②：課題から、人々の政治家に対するインプット方法はさまざまであることを理解する。しかし、現実の政治展開を見た際に、そのように政党が有権者や利益団体から様々なインプットを受けつつも、その意向を重視したり軽視したりすることがある。逆説明責任や利益媒介の在り方に関する理論に基づき、そのメカニズムの理解を深める。
10. 政党と有権者③：政党が有権者や利益団体の意向にグラデーションを付けるように、有権者の側も複数の政党の中から投票先を選択する（あるいは選択しないという選択を行う）。そもそもどのように有権者は投票先を決定し、またその際にどのような情報環境や政治経済的背景が影響を与えているのか、理解を深める。
11. 政党という組織①：政党も一つの組織であり、その内部に様々な人間や利害や理念を抱えている。政党の中で存在する個々の議員の意見の多様性がいかなる形態をとるか理解する。すなわち、政党の「一体性party cohesion」や「政党規律party discipline」の問題である。特に党首選出を題材に、ルールの違いが政党組織の違いに与える影響を理解する。【政党執行部と議員についての課題提出あり】
12. 政党という組織②：課題提出を受けて、政党という組織と各議員によって異なる異論や議論がどのように処理されたのか理解を深める。この際、大統領制と議院内閣制で政党内部の議論の可視化には差異があり、またそれは委員会制・本会議制によっても異なってくる。関連して、日本を中心に党の中の政務調査会や総務会がどのような機能を果たしているか理解する。
13. 政党という組織③：個々の議員が政党に従属したり反旗を翻したりするのは何故か、個々の議員の資質ではなく、制度（特に選挙制度）との連関で理論的に分析できるようになる。日本の場合は小選挙区制と比例代表制の差異だけではなく中選挙区制の効果理解が必要であり、また同じ比例代表制でも拘束名簿と非拘束名簿で、議員のいづくインセンティブは真逆といってよいほどに変わることを理解する。
14. 講義内容理解の定着：政党組織論を中心とした第10-13回の講義内容の定着を図る。授業進度の回復・休講/補講の対応・イベント授業との調整は、この回（に相当する回）を用いて調整する。
15. 2022年度は参議院選挙がこの時期に予定されており、授業内容をもとに現実政治の分析を試みる。ただしシラバス記入段階では正確な投票日が未定のため、授業日まで投票がなされなかった場合には、別途対応を検討する。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業中に行う4回の小課題：40%（各回：未提出0点，可5点，優10点で評価）
- ・ 期末試験：60%（テークホームイグザムになる可能性あり）

政党政治論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

この他、時節の政治的状況を用いた授業積極参加措置に対し、プラスの加点措置を取る可能性があります。詳細は第1回授業でアナウンスします。

小課題提出なし+期末試験未受験の場合、評価不能「一」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業最後に次回内容を予告しますので適宜予習してきてください。講義レジュメは講義前にアップロードいたします。全4回の小課題を提出する予定です。これらはmoodle上で締め切りを設定し実施します(また次回授業で活用します)。

また、事前事後学習とは座学だけではなく、本講義の知見を念頭におきつつ、様々な書籍や新聞を読解したり、マスメディアやネット等での政治報道に触れて自身の見解を形成することも含みます。政党や議員の行動を報ずるTV番組などを見て考えを深めることも広義の事前事後学習時間に含まれます。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 昨年までと授業形式を大幅に変えます。既履修者の意見を参考にせず、本シラバスを履修選択の参考資料にしてください。
- ・ 図表をスライドに投影しつつ、レジュメを基礎として授業を進行します。講義レジュメは講義前にアップロードいたします[スライドは授業後の場合もあります]
- ・ 政治学/政治過程論を履修し単位習得済である学生の知識レベルを念頭に授業を実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDG16, 政党・選挙・比較政治学・実証政治学

都市政策論【昼】

担当者名 田代 洋久 / Hirohisa Tashiro / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 都市の政策に関する専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 都市の諸課題と政策を理解し、新たな政策提案等を行う力を身につける。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力） 生涯学習力 コミュニケーション力	● 都市に対する関心を高め、市民生活と政策とのつながりを理解する。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

都市政策論

PLC219M

授業の概要 /Course Description

グローバル化や人口減少社会が深刻化する中、多くの都市では、経済分野、社会分野、環境分野をはじめとする多彩な政策課題が存在する。本講義では、「都市」についての基本的な理解や都市の現状と課題、都市政策の手法等を概観した後、地域産業政策、地域コミュニティ政策、安全安心まちづくり、空き家対策、環境政策、文化観光政策などの様々な政策分野の状況と政策展開の実際を学んでいく。都市政策に関する表層的な理解にとどまらず、歴史の変遷や都市のダイナミズム、多重性・多層性を有する都市政策の構造的な理解、政策提案能力を身につけることを目的とする。また、脅威となっている大規模地震災害や新型コロナウイルスに対する政策についても言及する予定である。

(到達目標)

【知識】

都市政策に関する専門的な知識を幅広く身につけている。

【技能】

都市政策に関する情報を収集し、分析することができる。

【思考・判断・表現力】

都市政策の現状を説明し、都市政策課題の解決に向けた学際的なアプローチを探索し、自分の意見を論理的に表現できる。

教科書 /Textbooks

・ 特に指定しません。Moodle等で適宜、学習資料を提供します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 田代洋久(2022)『文化力による地域の価値創出 - 地域ベースのイノベーション理論と展開』水曜社
- 石原武政・西村幸夫編(2010)『まちづくりを学ぶ - 地域再生の見取り図』有斐閣
- 秋吉貴雄他(2015)『公共政策学の基礎 新版』有斐閣
- ・ 秋吉貴雄(2017)『入門 公共政策学』中央公論新社
- ・ その他、講義の中で適宜紹介します。

都市政策論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション - 都市政策とはなにか
2. 人口減少と都市政策課題
3. 都市政策の変遷と都市ビジョン
4. 都市政策と政策手法 (1) - 政策の構造化
5. 都市政策と政策手法 (2) - 政策手法とプロセス
6. 地域産業政策
7. 社会保障制度と少子化対策
8. 地域コミュニティと市民活動
9. 安全安心のまちづくり
10. 社会資本の老朽化と空き家対策
11. 環境創造と持続可能性
12. インバウンドと観光まちづくり
13. 都市文化政策と文化創造
14. 町並み景観の保存と活用
15. まとめ

※新型コロナウイルスの状況が落ち着けば、「政策展開の実際」ということでゲスト講師を招聘することも考えています。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 受講レポート50%、期末レポート50%
- ・ 一回も受講レポートを提出しない者、期末レポートを期限内に所定の方法で提出しない者（期末試験を受験しない者）、不正行為を行った者は単位認定の対象外で、成績評価で「-」と表示します。
- ・ 新型コロナウイルスの発生状況等により、期末レポートは期末試験に変更する可能性があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業開始までにMoodleによりレジュメを配布するので、プリントして事前学習をしてください。
授業終了後は事後学習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 大学が規定する新型コロナウイルス対策により対面授業ができなくなった場合は、オンデマンド方式に切り替えます。
- ・ 遅刻、私語、食事は他の受講生の迷惑になるため厳禁です。
講義中、教員の指導に従わない行動をとった場合、退室していただきます。
- ・ 教員の許可を得ない講義の撮影、録音は厳禁です。
- ・ 受講レポートの代筆は、依頼した者、実施した者、双方とも不正行為として取り扱います。
- ・ 授業計画は、進捗状況等により変更する場合があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 担当教員は、地方自治体での豊富な政策実務経験を有することから、都市政策の理論と実際をわかりやすく解説します。都市マネジメント論と併せて受講されることをお勧めします。
- ・ 本講義と関連する図書を刊行しました。参考図書としてあげておきます。

・ 当科目は、SDGsの「8 働きがいも 経済成長も」「9 産業と技術革新の基盤をつくろう」「11 住み続けられるまちづくりを」「12 つくる責任 つかう責任」「15 陸の豊かさを守ろう」「17 パートナリーシップで目標を達成しよう」の目標に広く関連しています。

キーワード /Keywords

福祉政策論 【昼】

担当者名 狭間 直樹 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 社会福祉サービスに関わる政策の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 社会福祉サービスの政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 社会福祉サービスが抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

福祉政策論

PLC217M

授業の概要 /Course Description

この講義では、日本の社会福祉サービス（高齢者福祉・児童福祉・障害者福祉サービスなど）の制度概要と政策動向を解説し、その日本の特質を考えます。政府体系（政治行政関係、中央地方関係、政府民間関係）や行政管理など行政学・政策科学の視点から、社会福祉サービスの現状と課題を考えます。

（到達目標）

【知識】社会福祉サービスについて基礎的な知識を身につけている。

【技能】社会福祉サービスを利用するうえで必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】社会福祉サービスの課題について論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を明確に発信することができる。

（授業方法）

原則として、対面授業により実施する予定です。新型コロナウイルス感染状況、自然災害などにより変更となることもあります。大学の電子掲示板、この授業のMoodleなどによる連絡に注意してください。

レジュメは講義当日の教室にてB4判で配布します。前回、前々回分のレジュメに限り、再配布します。
講義後一週間を目処に、レジュメの空所部分を紹介した動画（5分程度）をMoodleに掲載する予定です。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介した図書や資料が参考文献となります。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「社会福祉の意味」
- 第2回 「社会福祉の行財政」 社会福祉の専門機関
- 第3回 「社会福祉の行財政」 社会福祉の民間組織
- 第4回 「高齢者福祉と介護保険」 介護保険のしくみ、在宅・施設サービス
- 第5回 「高齢者福祉と介護保険」 介護サービスと民間企業
- 第6回 「高齢者福祉と介護保険」 介護は社会化されたか？
- 第7回 「児童福祉」 児童福祉のサービス
- 第8回 「児童福祉」 保育所改革（公立保育所民営化など）
- 第9回 「児童福祉」 保育所改革（幼保一体化）
- 第10回 「児童福祉」 児童虐待
- 第11回 「児童福祉」 少子化対策。男女共同参画をめぐる議論
- 第12回 「障害者福祉」 障害の定義
- 第13回 「障害者福祉」 障害者福祉のサービス
- 第14回 「障害者福祉」 障害者の雇用
- 第15回 まとめ

福祉政策論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験(筆記試験)・・・100%

新型コロナウイルス感染状況の収束が見通せないため、今年度の授業では出欠の確認をしません。
欠席による減点はありません。

試験は空所補充問題と論述問題で構成されます。レジュメ、講義中に示したスライド、映像などから出題されます。
13回目ぐらいの講義で、試験範囲などについてお知らせする予定です。

新型コロナウイルス感染状況、自然災害などにより、レポート課題提出に変更される場合もあります。
大学の電子掲示板、この授業のMoodleなどによる連絡に注意してください。

学期末試験を受験しなかった場合(もしくはレポート課題を提出しなかった場合)は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

福祉サービスについて関心をもっておいください。また、授業終了後は、配布資料をよく読み、知識や自分の考えを整理してください。

履修上の注意 /Remarks

13時20分までに入室してください。ご協力をおねがいします。

私語厳禁。繰り返し注意してもやめない人や授業態度が悪い受講生には、期末試験得点から減点したり、単位を認定しない場合がある。

授業時間中におけるパソコン・携帯電話・スマートフォンによる通話、写真・動画撮影などを禁止する。

レジュメや録音・録画した講義内容・講義動画を他人に譲渡・送信したり、インターネット上などで公開することを禁止する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特になし。

環境政策論 【昼】

担当者名 /Instructor 申 東愛 / Shin,Dong-Ae / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 2年次
単位 /Credits 2単位 2単位
学期 /Semester 2学期 2学期
授業形態 /Class Format 講義 講義
クラス /Class 2年 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	環境政策の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	環境問題とその構造を見極め、政策論的な分析と論理的な思考に基づき、新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える環境問題に対する自らの関心を高め、市民生活と経済活動そして政策とのつながりを再認識する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

環境政策論

PLC216M

授業の概要 /Course Description

人間と社会経済、人間と環境・自然との関係について理解し、原因を分析する（分析能力の習得）。

- ① 日本における環境問題と歴史、環境問題の特性と環境問題の要素（環境、社会構造と制度、技術、自然、人口）について理解する。
- ② われわれの日常生活・消費がもたらす環境への影響とその関係についても考えてみる。
- ③ 地球温暖化、コロナ感染症と気候変動、国家間移動、放射能の大気汚染について理解し原因を分析する。
- ④ 環境問題の変化：産業公害型環境問題・都市政策型環境問題・科学技術・リスク型環境問題について考え、環境政策を比較、考察する。
- ⑤ 環境問題におけるグローバルな要素、ローカルな要素について考え、環境政策を比較分析する。
- ⑥ SDGsのエネルギー（原子力、再生エネルギー）・食べ物・水問題・気候危機政策と生活の関係について考え、持続可能なエネルギー政策を形成する（再生エネルギーと地域活性化）。
- ⑦ アメリカ、ドイツ、韓国、中国の環境政策を比較調査する。

（到達目標）

- 【知識】 環境問題に関する理解を深め、その対策に必要な専門的な知識を修得している。
- 【技能】 環境関連の試験や資格に必要な情報やスキルを身につけている。
- 【思考・判断】 環境問題における多様な観点や利害関係を理解し、問題解決力を身につけている。

教科書 /Textbooks

『環境政策論』（森 晶寿・孫 穎・竹歳 一紀・在間 敬子著 ミネルヴァ書房 2014年 ¥3,240）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『再生可能エネルギーの政治経済学』（大島堅一著 東洋経済新報社 2010年 ¥3,990）
- 『環境問題の社会史』（飯島伸子著 有斐閣 2000年 ¥2,310）
- 『自動車の社会的費用』（宇沢弘文著 岩波新書 1974年 ¥735）
- 『環境保護の法と政策』（山村恒年著 信山社 2006年 ¥7,748）
- 『環境共同体としての日中韓』（東アジア環境情報発信所著 集英社 ¥735）
- 『欧州のエネルギーシフト』（脇坂紀行著 岩波新書 2012年 ¥840）

環境政策論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業や本の紹介など(自分の環境概念について、書いてもらう)
- 2回 公害、環境(問題)とその構造(被害者、加害者等)
環境問題の特性とその構造(環境、社会構造と制度、技術、自然=資源、人口)
- 3回 環境問題と社会的ジレンマ
環境権、環境政策の特徴1(日本、アメリカ、ドイツとEU、韓国、中国、SDGs)
- 4回 各国の環境組織、予算 利害関係者とアクター
- 5回 環境権、環境政策の特徴2(日本、アメリカ、ドイツとEU、韓国、中国、SDGs)
- 6回 環境政策の手段(間の比較分析)1: 補助金、賦課金、税金、規制、取引権、買い上げ等
- 7回 環境政策の手段(間の比較分析)2: 道路有料化、都市計画、スマートシティ等
- 8回 ポスター発表会
- 9回 自治体の環境政策(環境計画、公害防止規制、横だし、上乗せの条例等)、環境自治体
- 10回 廃棄物はどこにいくのか(アジアへ、私の食卓へ、そして体へ)
- 11回 自動車と道路、ダイオキシン問題、大気汚染
- 12回 SDGsとエネルギー政策
- 13回 企業の環境対策とISO、環境ビジネス
- 14回 水・川・ダムによる水資源、干潟、地域再生
- 15回 本の発表とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

本のレポート 20%、ポスター発表30%、期末試験 50%
(本のレポート・ポスター発表をしない場合は、期末試験を受けることができず「評価不能(-)」となります)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前課題・事後学習内容については学習支援フォルダに挙げるので、準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

以前、ゼミ生と一緒に、小倉駅で、原発事故とエネルギーに関するアンケートを取った。その調査では、「電力量に対する認識の差」、「原発事故等に関する話し合いの有無」、「参加意志にみえる政治参加システム」について興味深い傾向が読み取れた。ある高校生は、迷うことなく、電力不足に引き続き、原発必要論にマルを付けた。こういう傾向は、女性より男性の方に多く、若いほど電力不足論に票を入れている。これに対し、「40代」の「女性」の方では、電力は不足なんかしない(原発なくても)と答えた。同じ時間軸にいる人々のなかでも、現況を把握するのに、これほどの差が出る。これは、な～ぜ～!!
あなたは、どう思う？

では、エネルギーで地域経済を支えるって本当!!
また、エネルギーナシで生活できないって、だったら、地域エネルギーで就職もできるの??

キーワード /Keywords

環境、環境問題、社会的ジレンマ、環境政策(政策手段)、環境影響、国際環境問題、産業公害型環境問題、都市政策型環境問題・科学技術・リスク型環境問題、地域エネルギーと原子力。

アジア地域社会論 【昼】

担当者名 /Instructor 三宅 博之 / MIYAKE HIROYUKI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アジア諸国の地域社会の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、アジアの地域社会と主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	●	アジアの地域社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アジア地域社会論

PLC222M

授業の概要 /Course Description

アジア諸国は、第2次世界大戦後、多くの国々が植民地支配から抜け出し、今世紀に入り、政治・経済・社会面で大きく変化している。また、私たちにあって、通信技術の発達や航空運賃の廉価から、外国に出かけることは難しくなくなってきた。言葉の壁も、性能がいいポータブルな翻訳機を使えば、乗り越えられるようになった。よって、アジア諸国との結びつきが格段に容易になった。本授業は、気軽にアジアに出かけたり、また、アジア諸国の人々を迎え入れたりすることができるように、お隣の韓国と講師の研究対象国でもあるバングラデシュに焦点をあて、授業を進めたい。

本授業を通じて、知識としてアジア諸国の社会構造などの基礎的知識を獲得し、アジア諸国に出かけ、人々と交流、もしくは、定住外国人と共生できる技能を身につけることができる。さらに、アジア諸国の社会の在り方を総合的に理解・発信することで、自らの今後の生活や仕事を豊かにすることが可能となる。

教科書 /Textbooks

園田茂人『アジアの国民感情～データが明かす人々対外認識』中公新書、2020年、968円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○三宅博之『開発途上国の都市環境-バングラデシュ・ダカ 持続可能な社会の希求』明石書店、2008年
 沖浦和光他編『アジアの身分制と差別』解放出版社、2004年
 金栄勲『韓国人の作法』集英社新書、2010年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「アジア地域社会論」の紹介～韓国とバングラデシュに焦点を当てて
- 第2回 アジア諸国の政治・経済・社会の概説
- 第3回 韓国映画『ラブストーリー（原題：クラシック）』前半の鑑賞
- 第4回 韓国映画『ラブストーリー（原題：クラシック）』後半の鑑賞と内容説明
- 第5回 韓国の現代史の紹介
- 第6回 韓国社会の特徴～少子高齢化と移民社会の到来
- 第7回 韓国社会の特徴～学歴社会と就職難
- 第8回 韓国社会の特徴～SDGsやESDに積極的に取り組む地域紹介→スタディ・ツアーを通して
- 第9回 バングラデシュの歴史（政治と経済）
- 第10回 バングラデシュの社会～各宗教の紹介と地域社会でのイスラム教の信仰
- 第11回 バングラデシュの都市と農村の発展と問題
- 第12回 バングラデシュの地理と環境問題
- 第13回 バングラデシュの社会発展への取り組み～日本人の若者による（イク・マトラとマザー・ハウス）
- 第14回 韓国とバングラデシュとで遊ぼう～今までの授業を聞いての振り返り＝グループ・ディスカッション
- 第15回 「アジア地域社会論」のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に取り組む日常的な姿勢：30%、小課題の提出：30%、レポート：40%
 成績評価での{ }は、小課題の提出が全くなされていない、レポートが提出されていない場合に付される。

アジア地域社会論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業の最初と最後に教員から様々な説明や指示が行われるので、それに基づいて、復習と予習をする。

履修上の注意 /Remarks

新型コロナウイルスの感染状況にもよるが、できるだけ多く、グループ・ディスカッションを入れ、自らが考えるという授業をするので、積極的に参加する姿勢を持つこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

今までに誰も経験しなかった新型コロナウイルスの感染拡大で、外国には行けないが、行けるようになったら、好奇心をもっと旺盛にして、アジア諸国や他の地域にも出かけてほしい。

キーワード /Keywords

アジア 社会 社会発展 SDG s 教育 韓国 バングラデシュ

地域統合論 【昼】

担当者名 /Instructor 中井 遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2単位 /Semester 2学期 2学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地域統合の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地域統合論

PLS214M

授業の概要 /Course Description

日本人を母にもつオーストリア貴族クーデンホフ・カレルギーが「汎ヨーロッパ」(1923)を著してからおよそ100年が経つ。その後、ヨーロッパ政治は国境を越えた地域統合を進めてきたように見える。しかし一方で、近年の欧州政治の状況が示すように、ナショナリズムをめぐる論点、移民・難民をめぐる論点、新たな政治勢力の台頭は顕著である。世界は均質にまじりあっているわけではない。この論点は、これからの日本や東アジアの政治を見る上でも重要な視点になるだろう。

地域統合が進むときには、統合を目指す利害と統合に反発する利害のせめぎあいが起こる。単なる経済的利害だけではなく、人の政治的信念や心理もここには影響を与える。ナショナリズムという問題を改めて深く問い直すところから始め、地域的事例としてと欧州の戦後政治についての理解を深め、国内マイノリティの統合に関する政治経済的ダイナミズムや理論を学ぶことを通じ、地域統合が抱える成果や問題点を考察する。

本講義の受講者は、1)国内政治と国際政治の相互関係、とくにナショナリズム・自由貿易理論・2レベルゲームに関する基礎的理解を理解・説明できるようになり、2)国境より小さな単位の地域主義と国内統合の問題に関する、諸事例の知識やその制度的介入についての基礎を持ち、3)国境より大きな単位への地域統合と国内政治の具体例である欧州統合およびその拡大について、種々の国々の基礎的な歴史・事例・具体例について基礎的な知識をもち説明できるようになる、ことが求められる。

本学ディプロマポリシー上の到達目標は「国際政治・地域政治の基礎的知識を身につけている」「多様な地域現象の情報を外国語で収集・処理できる」「国内政治と国際政治の相互関係を複眼的に思考できる」となっており、そのためにも上記の3要件を満たすことが期待され、またそれが成績評価と授業設計の基盤をなすものと理解されたい。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。参照が必要な事項については各回の授業内で指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

(どの本のどの章が、どの授業の回の参考資料となるかについて、初回授業で説明します)

- 塩川伸明『民族とネイション』岩波書店、2008
- 森井裕一『ヨーロッパの政治・経済入門』有斐閣、2014
- 久保慶一他『比較政治学の考え方』ミネルヴァ書房、2016
- 中村民雄『EUとは何か』信山社、2016
- 奥野良知編『地域から国民国家を問い直す』明石書店、2019
- 中井遼『欧州の排外主義とナショナリズム』新泉社、2021

地域統合論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクションとして科目の位置づけや授業予定について解説する。欧州を事例として地域の中にある価値感や文化の多様性に関する理解を深め、それらを政治的・公的意思決定プロセスにおいて統合することが必然的に含む課題について問題意識を共有する
2. ナショナリズム①: ナショナリズムの一般理論について解説する。文化的単位と政治的単位の一貫を目指す原則としてのナショナリズムについて、ゲルナーやアンダーソンによる基礎的な理論とその背景を学び、ナショナリズムのもつ多様性や、隣接する諸概念(愛国心やナショナルプライド)との重複と差異について、政治学や社会学の実証研究の知見から理解を深める。【課題提出あり】
3. ナショナリズム②: ナショナリズムと政治的な左右の枠組みについて考える。ナショナリズムは右派的な概念と結び付けられることが多い一方で、歴史的には左翼の主張するイデオロギーであることもあった。欧州統合を事例としつつ、政治的な左右と、ナショナルな態度にはどのような連関があるのか、データ分析をもとに理解を深める。
4. ナショナリズム③: ナショナリズムと民主主義/権威主義あるいはリベラリズムとの問題を考える。ナショナリズムは権威主義的な思想と結び付けられることもあるが、同時に民主主義の基盤でもある。この論点に関して、着目すべき事例を紹介しつつ、政治学におけるデータ分析等からの知見を加味して検討を深める。【課題提出あり】
5. ナショナリズム④: 国際化とナショナリズムの変質について理解する。グローバル化は各国のナショナリズムを時代遅れにしたのではなく、それをむしろ変質・多様化させただけである可能性を検討する。伝統的なナショナリズムの姿は確かに減少したが、地域主義的なナショナリズムや、国家を横断するようなナショナリズム、あるいは反移民のような保護主義型ナショナリズムはむしろ増していることを理解し、それぞれのナショナリズムのタイプ間の相互関係を理解する。
6. 欧州統合①: 欧州統合発足を例に国家を超える地域統合のメカニズムを理解する。政治的境界より大きな地域への統合の事例として、欧州統合を取り扱う。特に最初の欧州統合(ECSC・EEC)の発足について説明し、単にアイデンティティや欧州という共通文化が統合の推進材料だったのではなく、具体的な利害の考慮があったことを理解する。
7. 欧州統合②: 欧州統合の拡大過程を理解する。英国を例に、地域統合拡大メカニズムと国内地域主義暴発の事例を知る。イギリスや周辺北欧諸国の欧州統合参加過程について理解する。参加有無の判断が分かれた背景の一つに、国内産業の差異・多様性・統合との利益均衡の問題があったことを理解する。あわせて多文化国家イギリスの国内地域主義運動(特に北アイルランド問題)を学習し、それにどのような対応がとられたかを知る。【課題提出あり】
8. 欧州統合③: 統合の南欧・中欧への拡大を事例に経済格差と統合の軋轢を理解する。経済的後進に統合を広げることは、既存加盟国の一部世論との間に軋轢を生む。それがどのような構造の問題であるか、構造基金・結束基金という介入はどのような意味を持つのか理解する。スイス・オーストリアの欧州統合参加の判断の別れの原因を、国内背景の差異から理解する。スイス国内の地域主義問題を知る。
9. 欧州統合④: 欧州統合の東欧への拡大を事例にきわめて異質な社会を統合する困難を理解する。2004-7年のEU拡大が新興民主国・旧共産圏への地域統合拡大という意味で質量ともに重大な拡大であった事を学ぶ。加盟国・被加盟国の政治経済的な利害構造を学び、対応措置を知り、今日の欧州政治にたいしても持つ含意を理解する。旧共産圏ではないものの、このタイミングで参加したキプロスの内戦・地域主義・分断状況を事例に、国内地域主義の問題を理解する。
10. マイノリティ統合①: 欧州以外の地域を含めて、国内マイノリティが含まれる地域の自治独立運動と国家統合の相互関係について理解を深める。基礎的な国家成立要件を手掛かりに、国内において主権や統合が確立されているというのはいかなる状況なのか理解する。対外的主権と対内的主権の境界にズレが生じているケースともいえる未承認国家の問題や事例を通じて、先述の問題をより深く理解する。
11. マイノリティ統合②: 国内の地域的多様性統合の失敗ともいえる内戦を論ずる。政治的境界内部での、多様性や地域主義の統合が失敗した究極のケースが内戦である。内戦とは何かを理解し、その原因を理解した上で、制度的介入の例として連邦制も含めた議論を行う。【課題提出あり】
12. マイノリティ統合③: 移動してやってくるマイノリティに対する政治的態度の源泉を理解する。欧州諸国での反移民態度や右翼政党支持の原因を理解する。特に政党支持を中心に検討する。人が他者を排斥しようとするのは、失業や貧困といった単純な経済的動機だけではなく、よりソシオトロピックな懸念によるもの大きいことを示す。
13. マイノリティ統合④: 移動してやってくるマイノリティに対する政治的態度の源泉を理解する。欧州諸国での反移民態度や右翼政党支持の原因を理解する。特に反移民感情を中心に検討する。人が他者を排斥しようとするのは、失業や貧困といった単純な経済的動機だけではなく、よりソシオトロピックな懸念によるもの大きいことを示す。
14. 世界の地域統合枠組みと自由貿易-体制について理解を深める。自由貿易に関する政治経済学上の理論を知り、グローバル化の中における民主主義と国民国家の問題と関連させた大枠の議論(ロドリックのトリレンマ)についても理解する。
15. ここまでの内容理解を振り返り知識の定着を図る。内容について振り返り、知識の習熟を図る。授業進行のイレギュラー、休講/補講による補填の調整、他クラスとの合同授業企画などの場合、この時間(に相当する枠)を充てることで、授業進行を調整する。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業途中4回の小課題 40% (1回につき、未提出/不可0点、可5点、優10点で評価)
- ・ 期末筆記試験 60% (テークホークイグザムorオンラインになる可能性あり)

小課題提出なし+期末試験未受験の場合、評価不能「一」となります。

地域統合論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回，次回授業時の範囲にあたる文献を指定するので，それらを参照して予習する事。授業スライドはmoodleにアップする。なお，授業を通じてトータル4回の小課題提出があります（事後学習，もしくは次回授業の事前学習を兼ねていることが多いです）。

本科目の特質上，固有の政治的事実や固有名詞が頻繁に登場し，また実践科目である以上それらの知識を前提に次回授業が組み立てられていくことも想定されることから，特にそれらの知識を中心に復習に励むことを強く推奨する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

SDGs10, 16, 17に関連します

キーワード /Keywords

自治体政策研究【昼】

担当者名 榎原 真二 / NARAHARA SHINJI / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地方自治体における公共政策の体系的理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地方自治体において何が政策課題を見極め、政策論的な分析と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	地方自治体が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

自治体政策研究

PLC214M

授業の概要 /Course Description

現代日本の地方自治体における公共政策を考える上で、①人口減少社会の到来、②少子高齢化、③巨額の財政赤字、④家族構成の変容（単身世帯の急増）、といった問題は避けて通れない重要課題です。本講義では、「超高齢人口減少社会」をキーワードに、①コンパクトシティ、②中山間地域の限界集落、③都市の限界コミュニティ、④小さな自治体（地方）は消滅するのか？、⑤移住政策・関係人口等、といった視点から地方自治体を分析・検討し、これから地方自治体が直面する（あるいは直面している）政策課題について、先進的取り組みを含めて考えていくことにします。

また、「超高齢人口減少社会」の問題を考えるに際しては、様々なレベルでの「担い手」の問題が極めて重要になります。受講生は上記の問題とともに社会の「担い手」について本講義を通して考えてください。

（到達目標）

【知識】地方自治体の公共政策に関する、基礎的な知識を身につけている。

【技能】地方自治体の公共政策について、必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】地方自治体の諸問題について総合的に思考して解決策を探求し、自分の考えや判断を論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

テキストは用いません。毎回、プリント教材（レジュメおよびリーディング・テキスト）を配布します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 鈴木浩『日本版コンパクトシティ - 地域循環型都市の構築』（学陽書房、2007年）。
- 大野晃『山村環境社会学序説 - 現代山村の限界集落化と流域共同管理』（農山漁村文化協会、2005年）。
- 大野晃『限界集落と地域再生』（高知新聞社、2008年）。
- 芳賀祥泰編著『福祉の学校』（エルダーサービス、2010年）。
- 山下祐介『限界集落の真実-過疎の村は消えるのか?-』（ちくま書房、2012年）。
- 藤山浩『田園回帰1%戦略-地元にとり戻す-』（農山漁村文化協会、2015年）。

自治体政策研究【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 問題提起と本講義の目的-超高齢人口減少社会の到来
- 2回 人口減少期のまちづくり-コンパクトシティ構想の検討
- 3回 富山市のコンパクトシティ構想-串とお団子のコンパクトシティ構想
- 4回 紫川マイタウンマイリバー整備事業
- 5回 限界集落(1)-限界集落とは何か
- 6回 限界集落(2)-限界集落の事例の検討
- 7回 限界集落(3)-綾部市の「水源の里」条例
- 8回 限界集落(4)-限界集落の再生、「集落支援員制度」、「地域おこし協力隊」等の検討
- 9回 北九州市及び大都市の局地的高齢化
- 10回 都市の「限界コミュニティ」-限界コミュニティとは何か?
- 11回 限界コミュニティとその再生
- 12回 団地の超高齢化、買い物難民(買い物弱者)を考える
- 13回 都市郊外の超高齢化と地縁組織
- 14回 小さな自治体は消滅するのか?一島根県海士町から考える-
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...50% 授業貢献度...50%

*「-」は、期末レポートを提出していない場合につきます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に際しては前もって配布した教材の指定箇所等を予習(事前学習)して授業に参加して下さい。また、授業中に配布したレジュメや論文等の復習を必ず行うようにしていただきたい。

受講生の数に応じて、どの教室にするかを決めますので、第1回目の講義にはなるべく参加するようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に出席しなければ何もはじまりません。授業には必ず参加してください。

この授業はSDGsの「貧困をなくそう」「すべての人に健康と福祉を」「住み続けられるまちづくりを」「陸の豊かさを守ろう」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

人口減少社会、超高齢化、コンパクトシティ、限界集落、限界コミュニティ、買い物難民(買い物弱者)、超高齢社会の担い手

公共経営論【昼】

担当者名 狭間 直樹 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政府民間関係の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	公共サービスの民営化等の課題をふまえ、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	公共サービスの民営化などが抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

公共経営論

PAD212M

授業の概要 /Course Description

この講義では、公共経営（パブリック・マネジメント）という考え方をもとに、政府と民間の関係という視点から、様々な公共サービス分野の改革動向を学びます。公共サービスの民営化・民間委託を中心に、市場原理・企業の経営手法を取り入れた公共サービス改革の可能性と問題点を考えます。

（到達目標）

- 【知識】公共サービスの民営化・民間委託について基礎的な知識を身につけている。
- 【技能】公共サービスの課題を理解するうえで必要な情報を収集、分析することができる。
- 【思考・判断・表現力】公共サービスの課題について論理的に思考して解決策を探索し、自分の意見を明確に発信することができる。

（授業方法）

原則として、対面授業により実施する予定です。新型コロナウイルス感染状況、自然災害などにより変更となることもあります。大学の掲示板、この授業のMoodleなどによる連絡に注意してください。

レジュメは講義当日の教室にてB4判で配布します。前回、前々回分のレジュメに限り、再配布します。
講義後一週間を目処に、レジュメの空所部分を紹介した動画（5分程度）をMoodleに掲載する予定です。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介した図書や資料が参考文献となります。

公共経営論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「新公共経営の理論」 N P M (New Public Management)
- 第2回 「新公共経営の理論」 能率と責任、政策手法
- 第3回 「教育編①図書館」 図書館のしくみ
- 第4回 「教育編②図書館」 指定管理者制度
- 第5回 「教育編③図書館」 P F I
- 第6回 「教育編④図書館」 P F I の問題点
- 第7回 「教育編⑤学校」 学校のしくみ
- 第8回 「教育編⑥学校」 学校選択制
- 第9回 「公共事業編①」 道路のしくみ
- 第10回 「公共事業編②」 道路公団民営化
- 第11回 「公共事業編③」 道路の必要性
- 第12回 「公共事業編④」 入札改革
- 第13回 「公共サービス従事者編①」 特殊法人、天下りをめぐる議論
- 第14回 「公共サービス従事者編②」 非正規職員
- 第15回 「まとめ」

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験 (筆記試験)・・・100%

新型コロナウイルス感染状況の収束が見通せないため、今年度の授業では出欠の確認をしません。
欠席による減点ははありません。

試験は空所補充問題と論述問題で構成されます。レジュメ、講義中に示したスライド、映像などから出題されます。
13回目ぐらいの講義で、試験範囲などについてお知らせする予定です。

新型コロナウイルス感染状況、自然災害などにより、レポート課題提出に変更される場合もあります。
大学の掲示板、この授業のMoodleなどによる連絡に注意してください。

学期末試験を受験しなかった場合 (もしくはレポート課題を提出しなかった場合) は、評価不能 (-) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

* 図書館や学校、道路に関心をもっておいってください。また、授業終了後は、配布資料をよく読み、知識や自分の考えを整理してください。

履修上の注意 /Remarks

13時20分までに入室してください。ご協力をおねがいします。

私語厳禁。繰り返し注意してもやめない人や授業態度が悪い受講生には、期末試験得点から減点したり、単位を認定しない場合がある。

授業時間中におけるパソコン・携帯電話・スマートフォンによる通話、写真・動画撮影などを禁止する。

レジュメや録音・録画した講義内容・講義動画を他人に譲渡・送信したり、インターネット上で公開することを禁止する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特になし。

政治文化論 【昼】

担当者名 /Instructor 大澤 津 / 政策科学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政治文化の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政治文化にかかわる政策的諸問題を見極め、適切に分析し、現実的な解決策を提案しかつ評価する能力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	政治文化についての関心を高める。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

政治文化論

PLS215M

授業の概要 /Course Description

近年、世界各国で民主主義の機能不全が言われていますが、そもそも民主主義的な政治はどのような経緯で生まれてきたのでしょうか。この授業では、民主主義を作り出してきた欧米諸国の人々の「政治や社会に関するものの見方・考え方（政治思想）」に着目し、民主主義を可能にした西洋の政治思想とはどのようなものかを経験を通じて学んでいきます。また、日本において西洋の民主主義的な政治思想を導入しようとした幕末以来の試みを学び、西洋と日本の状況の違いを考えます。これらを通じて、今後の世界、特に日本社会において、よりよい民主主義的政治に必要なことは何かを、受講者が自ら考えられるようになることを目指します。

(到達目標)

【知識】政治思想史に関する専門的な知識を体系的に身につけている。

【技能】政治思想史の理解に必要な情報を収集、分析できる。

【思考・判断力・表現力】政治思想史の観点から、社会的諸事象について論理的に考え、自らの見解を発信することができる

教科書 /Textbooks

Moodleを用いてレジュメを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 政治思想とは何か
- 第2回 ヨーロッパ中世の世界観・社会観（1）【グレゴリウス改革】
- 第3回 ヨーロッパ中世の世界観・社会観（2）【法の支配】【存在のヒエラルヒー】
- 第4回 「特殊」の発展
- 第5回 ルネサンス・国家理性・主権
- 第6回 宗教改革の時代
- 第7回 ホッブズの社会契約論
- 第8回 ロックの社会契約論
- 第9回 文化芸術の発展とルソー
- 第10回 ルソーの社会契約論
- 第11回 フランス革命後の展開と保守主義
- 第12回 江戸幕府の崩壊と福沢諭吉の政治・社会観
- 第13回 丸山真男の超国家主義論
- 第14回 丸山真男の古層論
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート：100%

(期末レポートを提出しない場合には、「評価不能(-)」となります。)

政治文化論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

該当回のパワーポイントを事前に通読し、予習しておくこと。また授業内容をノートにまとめ、授業後にはノートとパワーポイントをもとに復習してください。(質問は授業後などに受け付けています。)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

民主主義社会が真つちに成立する歴史的条件を考え、今後の社会のあり方を構想できる力を身に付けてほしいと思います。

* この授業はSDGsの以下の目標に関連しています：
「平和と公平をすべての人に」

キーワード /Keywords

地方行政改革論【昼】

担当者名 黒石 啓太 / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地方行政改革の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地方行政改革論

PA0310M

授業の概要 /Course Description

本講義では、行政学や地方自治論の基礎的な理解をもとに、現実の自治体が直面している課題やこれへの取組みについて、事例を挙げながら検討していく。現実の自治体行政の動きとこの背景にある制度・理論に基づき、どのような改革的な取組みが構想されているのかを学んでいく。

(到達目標)

DP3 思考・判断・表現力：地方行政改革について、複眼的に思考して解決策を探索し、専門的見地から自分の考えや判断を論理的に表現することができる。

DP2 技能：地方行政改革の分析に必要な情報を収集、分析することができる。

DP1 知識：地方行政の改革に関する専門的応用的な知識を体系的に身につけている。

教科書 /Textbooks

受講生の関心等に応じて適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

受講生の関心等に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(授業の進め方など)
- 2回 地域コミュニティとまちづくり
- 3回 市民参加と協働
- 4回 「地域おこし協力隊」と地域社会
- 5回 「ふるさと納税」と自治体
- 6回 防災・危機管理と自治体
- 7回 人口減少と地方創生①【契機と国の施策体系】
- 8回 人口減少と地方創生②【地方創生をみる視点】
- 9回 人口減少と地方創生③【自治体の先進的な取組み】
- 10回 感染症対応と自治体①【政府間関係】
- 11回 感染症対応と自治体②【法と自治体】
- 12回 感染症対応と自治体③【行政の冗長性と連携】
- 13回 自治体職員をめぐる論点と改革
- 14回 自治体財政をめぐる論点と改革
- 15回 自治体の意思決定をめぐる論点と改革

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート...100%

※学期末レポートを提出しなかった場合には、「評価不能(-)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：地方自治や自治体の取組みに関するニュースに触れ、今日の社会における論点を見つける。

事後学習：授業内で紹介した文献や資料に触れ、授業内容の理解を深める。

地方行政改革論【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業はSDGsの「住み続けられるまちづくりを」の目標に関連しています。

キーワード /Keywords

応用政策特講 【昼】

担当者名 /Instructor 湯川 勇人 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 集中
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政策と関連する様々な領域の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

応用政策特講

PAD214M

授業の概要 /Course Description

近代の日本外交について、基礎的な知識を得るとともに、外交文書や外交官の個人文書を読み、その政策決定過程について学びます。

・ 到達目標

- 【知識】 政策実践に関する応用的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。
- 【技能】 政策実践の理解に必要な情報を収集、分析することができる。
- 【思考・判断・表現力】 具体的な政策を通じて、複眼的論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えや意見を論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

五百旗頭真編『日米関係史』有斐閣、2008年
入江昭『日本の外交』中央公論社、1966年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：明治期日本の外交①～日本の近代化と対外関係～
- 第2回：明治期日本の外交②～日清戦争と日本～
- 第3回：明治期日本の外交③～日露戦争と日本～
- 第4回：大正期日本の外交①～第一次世界大戦と日本～
- 第5回：大正期日本の外交②～第一次世界大戦期の日米関係～
- 第6回：大正期日本の外交③～ワシントン会議と日本～
- 第7回：戦間期日本の外交①～国際協調時代の日本外交～
- 第8回：戦間期日本の外交②～日中戦争へ至る日本外交～
- 第9回：戦間期の日本外交③～太平洋戦争に至る日本外交～
- 第10回：終戦に至る日本の外交①～大東亜共栄圏と日本の戦後構想～
- 第11回：終戦に至る日本の外交②～対ソ工作～
- 第12回：終戦に至る日本の外交③～原爆・ソ連参戦・聖断～
- 第13回：戦後日本の外交①～占領下の日本～
- 第14回：戦後日本の外交②～吉田ドクトリン～
- 第15回：戦後日本の外交③～戦後日本の安全保障構想～

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート試験・・・50%
日常の授業への取り組み・・・50%
期末レポート未提出の場合に「評価不能(-)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

高校レベルの日本史（特に近現代）の知識があると受講しやすいです。

応用政策特講 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本外交 日本政治 政策決定 外交文書

行政組織論 【昼】

担当者名 横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	行政組織論の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	行政学の視座から政策課題を見極め、社会科学的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

行政組織論

PA0210M

授業の概要 /Course Description

企業・大学・政府・町内会・ボランティア団体など、私たちの周りには多種多様な組織が存在しています。私たち自身が所属する組織、私たちが享受できるサービス供給を行う組織、日々の暮らしを支えるインフラを整備する組織、現代社会において、「組織」というものからの影響を受けずに生活することは不可能と言ってもよいでしょう。また1990年代以降の日本の中央省庁や地方自治体といった行政活動の著しい変化は、民間の経営手法の影響を大きく受けた結果である、という指摘があります。これらのことから、公的な部門を中心とした組織論を学ぶことは、行政組織のみならず、複雑な社会の在り様を理解する一助になると考えられます。特に政策の形成・決定・実施・評価という各過程における主要な行為者となる場合が多い行政組織に着目することは、過去から現在までの公共政策や地方自治の変化を知り、実態への洞察を深めることにもつながります。講義全体のキーワードは、「組織論を通じてみるひとと社会」、組織を形成する個人の意識・行動にも言及していきます。

(到達目標)

【知識】

組織に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】

社会の問題発見・解決に必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】

組織について、学際的・論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の考えを適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。必要に応じ、レジュメ・資料等をMoodleに掲載します。
(SDGs[特に7・12・15など]の観点から、紙媒体でのレジュメ・資料等の配布はいたしません。)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 桑田耕太郎・田尾雅夫(2010)『組織論：補訂版』有斐閣アルマ
 - 曾我謙悟(2016)『現代日本の官僚制』東京大学出版会
 - 田尾雅夫(2012)『現代組織論』勁草書房
 - 田尾雅夫(2015)『公共マネジメント：組織論で読み解く地方公務員』有斐閣ブックス
 - スティーブン・P・ロビンス[高木晴夫訳](2009)『組織行動のマネジメント：入門から実践へ』ダイヤモンド社
 - 石原俊彦・山之内稔(2011)『地方自治体組織論』関西学院大学出版会
- その他、適宜紹介します。

行政組織論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ガイダンス
2回	組織の定義と概念
3回	組織と環境・組織構造
4回	官僚制(1) 誕生と変容
5回	官僚制(2) 原則と逆機能
6回	日本の行政組織(1) 官吏と公務員、国家公務員法・地方公務員法
7回	日本の行政組織(2) 任用と身分、行政改革
8回	中間テスト
9回	中間テストの解説と復習、日本の行政組織(3) 地方公務員制度の変遷
10回	ストリート・レベルの官僚制、組織文化
11回	組織におけるリーダーシップ
12回	ひとのモチベーション
13回	組織における学習
14回	行政サービスを担う組織
15回	まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト20%、期末試験80%

※遅刻入室は厳禁、度重なる場合には減点対象、期末試験受けなかった場合は - 評価(評価不能)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業時間外の学習として、事前にこのシラバスをよく読んで全体の流れと個々の回のつながりを意識できるようにしておくこと、事後は(中間テストを実施する予定であるため)授業で配布したレジユムを見返すなど、適宜振り返りの作業を行うことをおすすめします

履修上の注意 /Remarks

受講するにあたって、特別に必要なことはありません。「行政組織」を軸に、組織の歴史的な流れや社会的な背景、あるいは組織のリーダーや構成員のモチベーションといった人間の意識・行動に関することを交えつつ、学んでいきます。本講義で扱うこれらについては、「行政学」「地方行政改革論」「公共経営論」「公共政策論」などの科目と合わせて履修することで、みなさんの理解はさらに深まるものと考えています。なお講義の進行状況により、上記スケジュールを変更することがあります(特に中間テストの実施日については、授業中にアナウンスする予定なので要注意)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この科目は、特にSDGsの目標11(住み続けられるまちづくりを)と関連しています。

キーワード /Keywords

対外政策論 【昼】

担当者名 李 鍾成 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 対外政策論の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

対外政策論

PLC213M

授業の概要 /Course Description

国際秩序は世界中の諸国家の対外政策の融合体であり、対外政策の分析は国際政治学ではミクロな考察に該当します。国際社会において国家が自国の利益を最大化するために行う対外政策を考察することは、国際関係と世界政治を有機的に理解するための基礎になります。また、国際社会の一員として日本や主要国の対外政策を理解することは、現代を生きる我々にとって重要な作業です。この授業では、国家の対外政策はどのような要因で行われるのか、また国家の対外政策の決定過程はどのような視点で把握し説明することができるのかを学ぶことを目標としています。具体的には、外交政策の基本概念、分析の視点、そして事例分析の三点を意識しつつ、外交政策に対する基本的な枠組みについて解説します。

授業の方法は講師による講義を基本としますが、授業中に小テスト（クイズや質疑応答）を行うことがあります。また、各回の講義について、履修学生の意見・感想・質問等をミニツツペーパーに記述してもらい、次回にそれに対するコメントや意見交換などを行います。

教科書 /Textbooks

指定教科書はないが、毎回の授業中にプリントを配布し、場合によっては1次資料などを紹介します。また、参考文献は講義中に随時紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- James N. Rosenau, "Pre-theories and Theories of Foreign Policy," in R. Barry Farrell (ed.), Approaches to Comparative and International Politics, Northwestern University Press, 1966.
- Halford Mackinder, "The geographical pivot of history". The Geographical Journal, 1904, 23, pp. 421-37.
- J. Goldstein and R. Keohane eds., Ideas and Foreign Policy: Beliefs, Institutions, and Political Change, Cornell University Press, 1993.
- K. Waltz, Man, The State and War, Columbia University Press, 1959.
- R. Jervis, "Do Leaders Matter and How Would We Know?" Security Studies, 22, 2, 2013.
- R. Putnam, "Diplomacy and Domestic Politics : The Logic of Two-Level Game," International Organization, Vol.42 No.3(Summer 1988), pp.427-460.
- Tim Marshall, "Prisoners of Geography: Ten Maps That Tell You Everything You Need to Know About Global Politics,"(Elliott & Thompson Limited, 2016).
- グレアム・アリソン、フィリップ・ゼリコウ著 / 漆嶋稔訳『決定の本質：キューバ・ミサイル危機の分析』（日経BP社、2016年）
- 坂野正高『現代外交の分析-情報・政策決定・外交交渉』（東京大学出版会、2013）

対外政策論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス：国際政治学と対外政策の関係について
2. 対外政策の基本概念1：地政学と対外政策論
3. 対外政策の基本概念2：地政学と対外政策論2 + 政策決定要因1
4. 対外政策の基本概念3：政策決定要因2
5. 対外政策の分析視角：Rosenau's pre-theories
6. 対外政策の分析視角：行動主義と対外政策分析モデル
7. 対外政策の分析視角3：ゲーム理論と対外政策1
8. 対外政策の分析視角4：ゲーム理論と対外政策2
9. 事例研究1：アメリカの対外政策
10. 事例研究2：日本の対外政策
11. 事例研究3：日米関係をめぐる政策決定の過程
12. 事例研究4：中国の対外政策
13. 事例研究5：韓国の対外政策と日韓関係
14. 事例研究6：環境問題をめぐる国際レジームと主要国の対応
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 定期試験60%
授業貢献度（ミニツツペーパー+小テスト）：40%
・ 定期試験では到達目標を中心に評価します。
・ 出席回数が10回未満の場合、また定期試験に応じなかった場合、「評価不能（-）」となりますので、ご注意ください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前：テレビ、新聞などで国際政治と国際事情に関する情報に常に接する。（30分）
授業中に指定される文献を読んで予習しておく。（30分）
高校の日本史、世界史の教科書の近現代史を事前に読む。（30分）
事後：毎回、配布される授業レジュメに目を通し、用語や略語の意味を中心に授業を整理しておく。（60分）

履修上の注意 /Remarks

- 毎回の授業が終わってから、必ず復習を行ってください。
授業マナーを必ず守ってください（私語など、講義の進行や他の学生の受講を妨げる行為を慎む）。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 学問というのは、最初は難しく感じられますが、それが理解できたときの喜びを味わうために、挑んでみる価値があると思います。宜しくお願いします。

キーワード /Keywords

- 対外政策、政策決定要因、ゲーム理論、政策分析

国際機構論I【昼】

担当者名 /Instructor 政所 大輔 / Daisuke MADOKORO / 国際関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際機構(主に国際連合)の諸側面について基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	国際機構(主に国際連合)に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力(チャレンジ力)		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際機構論I

IRL312M

授業の概要 /Course Description

本授業(国際機構論I・II)では、以下を目的とする。第一に、国際機構の歴史、また基本的な構造や制度、機能などについて学ぶ。第二に、現実の国際政治において、国際機構がどのような意義を持ち、いかなる役割を果たしているのかを検討する。国際機構の基本的な仕組みについての理解を深めつつ、同時に、国際機構における意思決定のダイナミクス、多様な政策分野のグローバル・ガバナンスにかかわる諸アクターとの関係、ルール設定のあり方など、国際政治との関連も重視する。

国際機構論Iでは、国際機構を理解するための基礎的な情報と視点を提供する。国際機構の歴史的な展開をまず概観したうえで、国際関係における国際機構の意義や課題を説明するための分析視角を学び、理論的な枠組みや見方について理解する。また、地域的な国際機構や非政府間の国際機構の特徴や役割、これらと普遍的な国際機構との違い、さらには国際機構の有する今日的な課題についても学習する。

(到達目標)

【知識】国際機構(主に国際連合)の諸側面について基礎的知識を修得する。

【技能】国際機構(主に国際連合)に関する情報の収集・分析をすることができる。

教科書 /Textbooks

指定しない。授業計画に従って、レジュメや資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

最上敏樹『国際機構論講義』岩波書店、2016年。

山田哲也『国際機構論入門』東京大学出版会、2018年。

○渡部茂己・望月康恵編『国際機構論[総合編]』国際書院、2015年。

横田洋三監『入門 国際機構』法律文化社、2016年。

Margaret P. Karns, Karen A. Mingst, and Kendall W. Stiles, International Organizations: The Politics and Processes of Global Governance, 3rd ed., Lynne Rienner Publishers, 2015.

Ian Hurd, International Organizations: Politics, Law, Practice, 4th ed., Cambridge University Press, 2020.

Jacob Katz Cogan, Ian Hurd, and Ian Johnstone, eds., The Oxford Handbook of International Organizations, Oxford University Press, 2016.

Bob Reinalda, ed., Routledge Handbook of International Organization, Routledge, 2019.

国際機構論I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN【国際機構は重要か？どのような意義があるか？】
- 第2回 歴史①【19世紀～国際連盟】
- 第3回 歴史②【国際連合の創設とその後の展開】
- 第4回 分析視角①【国際機構の存在論：アクター、フォーラム、リソース】
- 第5回 分析視角②【国際機構の創設：パワー、共通利益、合理性、規範】
- 第6回 分析視角③【国際機構の存続と消滅：粘着性、正当性、制度的置換】
- 第7回 普遍的国際機構①【国際連盟と国際連合】
- 第8回 普遍的国際機構②【GATT/WTO】
- 第9回 普遍的国際機構③【IMF、世界銀行】
- 第10回 映像で見る国際機構の実際
- 第11回 地域的国際機構①【EU】
- 第12回 地域的国際機構②【ASEAN】
- 第13回 地域的国際機構③【AU、OAS】
- 第14回 非政府間国際機構【INGO】
- 第15回 国際機構の諸課題【機能不全（逸脱行動、縄張り争い）、説明責任】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 授業中課題（小レポート） 20%
- ② 定期試験 80%

①②ともに未提出 / 未受験の場合は、評価不能（-）とする。いずれか一つでも提出 / 受験すれば、成績評価の対象とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業前には、前回までの授業のレジュメや資料、自作のノートを用いて自分の理解を確認すること。また授業後には、その授業のレジュメや資料、自作のノートの内容を整理すること。
- ・ 日頃から新聞の国際面や社会面に目を通すこと。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 授業で配布するレジュメは書き込むスペースが必ずしも十分ではないため、自分でノートを用意するなど、授業の理解を助ける工夫をしてください。
- ・ 授業を妨害する行為（私語、歩き回るなど）は厳禁です。場合によっては、単位を与えません。
- ・ 授業ではPPTを使用しますが、スマートフォンや携帯電話などで写真に撮ってはいけません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学の授業では、国際連合が設立されたのはいつか、欧州連合から脱退することを決めた国はどこかといった歴史的事実を単に暗記するだけでなく、国際連合はなぜ・どのように設立されたのか、英国はなぜ・どのように欧州連合を脱退することになったのかといった、現実の事象を引き起こした要因やそのメカニズム、プロセスを説明するための理論的な見方を理解することも重要です。本講義を通して、そのような見方を身に付けましょう。

キーワード /Keywords

国際機構論II 【昼】

担当者名 /Instructor 大輔 / Daisuke MADOKORO / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際機構（主に地域的機構）の諸側面について基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	国際機構（主に地域的機構）に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際機構論II

IRL313M

授業の概要 /Course Description

国際機構論IIでは、現在の国際社会において最も普遍的な国際機構である国際連合（国連）を取り上げ、その創設の歴史や仕組み、主要な機関の役割や機能などについて学習する。また、国際社会の現実にそぐわなくなってきた国連の組織構造を改良しようとする、いわゆる国連改革の歴史的な動きやその中身についても理解する。さらに、安全保障や開発、環境、人道支援といった主要な政策分野における国際機構の活動について、諸アクター間の関係性や実際の合意形成などにも着目しながら考察する。

可能であれば、外部講師による講演やディスカッションなどを適宜盛り込み、学生主体の作業を通じて国際機構の現実に触れる機会を設けたい。

（到達目標）

【知識】国際機構（主に地域的機構）の諸側面について基礎的知識を修得する。

【技能】国際機構（主に地域的機構）に関する情報の収集・分析をすることができる。

教科書 /Textbooks

指定しない。授業計画に従って、レジュメや資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

植木安弘『国際連合-その役割と機能』日本評論社、2018年。

○内田孟男編『国際機構論』ミネルヴァ書房、2013年。

吉村祥子・望月康恵編著『国際機構論 [活動編]』国際書院、2020年。

田仁揆『国連を読む-私の政務官ノートから』ジャパンタイムズ、2015年。

○明石康『国際連合-軌跡と展望』岩波書店、2006年。

Thomas G. Weiss and Sam Daws, eds., The Oxford Handbook on the United Nations, 2nd ed., Oxford University Press, 2018.

Thomas G. Weiss, David P. Forsythe, Roger A. Coate, and Kelly-Kate Pease, The United Nations and Changing World Politics, 8th ed., Routledge, 2020.

Karen A. Mingst, Margaret P. Karns, and Alynna J. Lyon, The United Nations in the 21st Century, 6th ed., Routledge, 2022.

Thomas G. Weiss and Rorden Wilkinson, eds., International Organization and Global Governance, 2nd ed., Routledge 2018.

○Jussi M. Hanhimaki, The United Nations: A Very Short Introduction, 2nd ed., Oxford University Press, 2015.

国際機構論II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN【国連はどのように運営されているか？】
- 第2回 国連の創設・目的・構造・意思決定
- 第3回 仕組み①【総会】
- 第4回 仕組み②【安全保障理事会】
- 第5回 仕組み③【経済社会理事会】
- 第6回 仕組み④【国際司法裁判所】
- 第7回 仕組み⑤【事務総長と事務局】
- 第8回 国連改革、システム一貫性、多様なアクターの参画
- 第9回 映像で見る国連の活動
- 第10回 安全保障①【核軍縮】
- 第11回 安全保障②【国連平和活動（平和維持、平和構築）】
- 第12回 人道【難民・国内避難民、人道的介入、保護する責任】
- 第13回 人権【国際人権章典、人権理事会、人権高等弁務官事務所】
- 第14回 開発【MDGs、UNDP、世銀グループ、OECD/DAC、AIIB】
- 第15回 気候変動【SDGs、UNEP、IPCC、パリ協定】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 授業中課題（小レポート） 20%
- ② 定期試験 80%

①②ともに未提出 / 未受験の場合は、評価不能（ - ）とする。いずれか一つでも提出 / 受験すれば、成績評価の対象とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業前には、前回までの授業のレジюмеや資料、自作のノートを用いて自分の理解を確認すること。また授業後には、その授業のレジюмеや資料、自作のノートの内容を整理すること。
- ・ 日頃から新聞の国際面や社会面に目を通すこと。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 授業で配布するレジюмеは書き込むスペースが必ずしも十分ではないため、自分でノートを用意するなど、授業の理解を助ける工夫をしてください。
- ・ 授業を妨害する行為（私語、歩き回るなど）は厳禁です。場合によっては、単位を与えません。
- ・ 授業ではPPTを使用しますが、スマートフォンや携帯電話などで写真に撮ってはいけません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学の授業では、国際連合が設立されたのはいつか、欧州連合から脱退することを決めた国はどこかといった歴史的事実を単に暗記するだけでなく、国際連合はなぜ・どのように設立されたのか、英国はなぜ・どのように欧州連合を脱退することになったのかといった、現実の事象を引き起こした要因やそのメカニズム、プロセスを説明するための理論的な見方を理解することも重要です。本講義を通して、そのような見方を身に付けましょう。

キーワード /Keywords

国際協力論I【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際政治経済の一領域として国際協力を捉え、専門的知識を身につけている。
技能	専門分野のスキル	●	国際協力分野における情報を収集し、分析や調査ができる。
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際協力論I

IRL211M

授業の概要 /Course Description

国際開発協力はいわゆる南北問題と切り離して論じることはできない。南の途上国と北の先進国との間に存在する格差をいかにして解消するのかが問われ、第2次世界大戦後から今日に至るまで、様々な援助方針が掲げられてきた。ただし、それらの援助方針にはその時代ごとの国際政治経済状況が反映されており、多分に援助国側の論理が優先されてきたといえる。この講義では、そのような援助がもつ政治経済的側面に焦点を当てながら、今日に至るまでの開発援助の歴史を概観し、過去からの延長線上にある現在の国際開発協力の実態把握に努める。

【到達目標】

DP1「知識」国際政治経済の一領域として国際開発協力を捉え、専門的な知識を身につけている。
DP2「技能」国際開発協力分野における情報を収集し、分析や調査ができる。

教科書 /Textbooks

特に指定はしません。第1回目の授業および各回の講義の際に関連の文献を紹介します。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 下村恭民他『開発援助の経済学(第4版)』有斐閣、2009年。
- 下村恭民、辻一人、稲田十一、深川由紀子著『国際協力:その新しい潮流(第3版)』有斐閣、2016年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション(講義の目的)、開発援助の基礎知識
- 第2回 WWII後から1960年までの開発援助【ポイント・フォア】
- 第3回 1960年代の開発援助【近代化論】【トリクル・ダウン仮説】
- 第4回 1970年代の開発援助【ベーシック・ヒューマン・ニーズ(BHN)戦略】
- 第5回 1980年代の開発援助【構造調整政策】【ワシントン・コンセンサス】【経済的コンディショナリティ】
- 第6回 冷戦の終結と援助パラダイムの変化【人間開発】【政治的コンディショナリティ】
- 第7回 グローバルな開発目標の設定【MDGs】【SDGs】
- 第8回 日本のODAの歴史(1) 援助の開始から1990年代初頭の全盛期にかけて
- 第9回 日本のODAの歴史(2) 理念と原則の提示
- 第10回 日本のODAの歴史(3) 開発援助から開発協力へ
- 第11回 グローバル・サウスによる開発協力【バンドン会議】【集団的自力更生】【第三世界】【非同盟運動】
- 第12回 新興国の台頭と変容する国際政治経済秩序【AIIB】【一帯一路】【NDB】
- 第13回 開発援助レジームの変容【OECD/DAC】【釜山ハイレベルフォーラム】【GPEDC】【UNDCF】
- 第14回 中国による開発協力【三位一体型】【債務の罠】
- 第15回 まとめ: 国際開発協力と国際政治

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...30%(10%×3回) 学期末試験...70%
小テストはMoodleを用いて授業時間外に行います。
Formsで毎回出席を取り、5回以上欠席した場合には「一」(評価不能)とします。

国際協力論I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に第2次世界大戦後の世界史について復習しておくことが望ましい。定期的に小テストを実施しますので、単元毎に復習をしてください。

履修上の注意 /Remarks

日頃から国際協力機構（JICA）やOECD（経済協力開発機構）DAC（開発援助委員会）のウェブサイト参照すると、授業理解に役立ちます。この授業では国際政治学の観点から制度としての開発協力を考察します。そのため開発の実務的側面についてはあまり触れません。
【重要】資料は事前にMoodleにアップしますので、各自ダウンロードして目を通しておくように。望ましい形としては、資料を印刷してノートの左側に貼り付け、右側には授業内で補足した説明などを書き取るなど、独自のノートづくりをお勧めします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私語厳禁。原則として途中入退室は認めません。

キーワード /Keywords

国際協力論II 【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 平和構築における開発の役割について理解し、専門的知識を有している。
技能	専門分野のスキル	● 平和構築における開発の役割について情報を収集し、分析することができる。
	英語力 その他言語力	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際協力論II

IRL212M

授業の概要 /Course Description

この講義の前半では国連による平和維持活動（PKO）に焦点を当て、いくつかの事例を通して、国連PKOの変容と限界について学習します。後半は、紛争後復興に求められる平和構築活動を取り上げ、総論として全体像を把握するとともに、各論として開発援助による紛争後復興に焦点をあて、紛争問題に開発援助がどのように関わることができるのか、そこにはどんな困難があるのかを学習します。最後の3回はアクターとしてのNGOに焦点をあて、アフガニスタンにおけるベシャワール会の活動を通して、NGOによる活動の可能性と限界について考えます。

【到達目標】

DP1「知識」平和構築における多面的な活動を体系的かつ総合的に理解している。
DP2「技能」国際社会による平和構築活動に関する情報を収集し、分析や調査ができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。随時、関連する文献を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○メアリー・B・アンダーソン『諸刃の援助 - 紛争地での援助の二面性』明石書店、2008年。(絶版のため書店購入不可)
○リンダ・ボルマン『クライシス・キャラバン-紛争地における人道援助の真実』東洋経済新報社、2012年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション 国連PKOの歴史、仕組み、役割
- 第2回 国連による国家建設：カンボジア
- 第3回 UNTAC：日本と国連PKO
- 第4回 紛争当事者としての国連：ソマリア
- 第5回 UNOSOM II
- 第6回 PKO活動におけるマンデートの壁：ルワンダ
- 第7回 UNAMIR
- 第8回 国連PKOの変容
- 第9回 平和構築：総論
- 第10回 平和構築：各論
- 第11回 リベラル・ピースビルディング
- 第12回 Do No Harm原則
- 第13回 アフガニスタンの事例研究(1)：歴史
- 第14回 アフガニスタンの事例研究(2)：国際社会の関与
- 第15回 アフガニスタンの事例研究(3)：中村哲医師とベシャワール会

国際協力論II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題の提出...30% (10%×3回) 学期末試験...70%
Formsを使って毎回出席を取ります。欠席が5回以上の場合は「-」(評価不能)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にMoodleに掲載される資料に目を通しておくこと。事後学習としては、授業中に視聴するビデオについての課題を出しますので、その課題について学習していただきます。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中の私語は厳禁です。遅刻や途中退室も他の受講生の迷惑になるので禁止します。ビデオを観た回ではグループでディスカッションをしてもらいます。積極的に発言することを心がけてください。

キーワード /Keywords

国際人権論 【昼】

担当者名
/Instructor

政所 大輔 / Daisuke MADOKORO / 国際関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
		○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際人権の諸側面について基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	国際人権に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力 コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際人権論

IRL213M

授業の概要 /Course Description

本講義では、以下を目的とする。第一に、国際的な人権規範がどのように誕生し、国際社会に普及してきたのかについて、実際に採択された宣言や条約などを取り上げながら学ぶ。第二に、現実の国際社会において、人権がどのように保護され、また推進されているのかについて、国際的・地域的なレジームでの取り組みや、国家やNGOなどの活動を分析することによって検討する。第三に、個人の権利や自由を積極的に保護しようとする国際社会の近年の動向-人間の安全保障や保護する責任など-を理解する。また、テロ対策を名目としたプライバシーの制限など、具体的な論点を取り上げ、国によって異なる視点や国際政治上の動きも紹介する。

(到達目標)

【知識】国際人権の諸側面について基礎的知識を修得する。

【技能】国際人権に関する情報の収集・分析をすることができる。

教科書 /Textbooks

指定しない。授業計画に従って、レジュメや資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 芹田健太郎他『ブリッジブック国際人権法(第2版)』信山社、2017年。
- 横田洋三編『新国際人権入門-SDGs時代における展開』法律文化社、2021年。
- 渡部茂己編著『国際人権法』国際書院、2009年。
- 阿部浩己・今井直・藤本俊明『テキストブック国際人権法(第3版)』日本評論社、2009年。
- 長有紀枝『入門 人間の安全保障-恐怖と欠乏からの自由を求めて 増補版』中央公論新社、2021年。
- 政所大輔『保護する責任-変容する主権と人道の国際規範』勁草書房、2020年。
- David P. Forsythe, Human Rights in International Relations, 4th ed., Cambridge University Press, 2018.
- Jack Donnelly and Daniel J. Whelan, International Human Rights, 5th ed., Routledge, 2017.
- Franke Wilmer, Human Rights in International Politics: An Introduction, Lynne Rienner Publishers, 2015.
- Michael Goodhart, Human Rights: Politics and Practice, 3rd ed., Oxford University Press, 2016.
- Andrew Clapham, Human Rights: A Very Short Introduction, Oxford University Press, 2016.
- David Andersen-Rodgers and Kerry F. Crawford, Human Security: Theory and Action, Rowman & Littlefield, 2018.
- Alex J. Bellamy and Edward C. Luck, The Responsibility to Protect: From Promise to Practice, Polity, 2018.

国際人権論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN【人権は普遍か?どのような考え方や実行があるか?】
- 第2回 歴史【人権の国際化へ】
- 第3回 国際的な人権保障制度①【世界人権宣言、国際人権規約】
- 第4回 国際的な人権保障制度②【ジェノサイド、難民、人種、女性、子ども】
- 第5回 国際的な人権保障制度③【国連人権理事会、国連人権高等弁務官事務所】
- 第6回 欧州の人権レジーム【欧州評議会、欧州人権条約】
- 第7回 米州における人権保障【米州人権委員会、人権外交】
- 第8回 アジア・アフリカ諸国と人権【ASEAN人権宣言、バンジュール憲章】
- 第9回 NGOによる人権推進活動【アドボカシー、社会的圧力、ネットワーク】
- 第10回 映像で見る国際人権保障の実際
- 第11回 人間の安全保障【概念の登場と拡散】
- 第12回 保護する責任①【規範の形成と普及】
- 第13回 保護する責任②【国連における実行】
- 第14回 人道犯罪者の処罰【移行期正義、国際刑事裁判】
- 第15回 テロリズムと人権【テロとの戦い、テロ対策のジレンマ】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ①中間レポート 30%
- ②期末レポート 70%

①②ともに未提出の場合は、評価不能(-)とする。いずれか一つでも提出すれば、成績評価の対象とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業前には、前回までの授業のレジюмеや資料、自作のノートを用いて自分の理解を確認すること。また授業後には、その授業のレジюмеや資料、自作のノートの内容を整理すること。
- ・ 日頃から新聞の国際面や社会面に目を通すこと。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 授業で配布するレジюмеは書き込むスペースが必ずしも十分ではないため、自分でノートを用意するなど、授業の理解を助ける工夫をしてください。
- ・ 授業を妨害する行為(私語、歩き回るなど)は厳禁です。場合によっては、単位を与えません。
- ・ 授業ではPPTを使用しますが、スマートフォンや携帯電話などで写真に撮ってはいけません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現代の国際社会では、人権や人間の安全保障といった、個人の権利や自由の尊重に重きを置く考え方が理念としては共有されてきた一方で、地域や国家のレベルでは異なる立場や実行が依然として根強く残っています。前者のような国際的な理念についてのみ理解するのではなく、各国・地域のさまざまな取り組みや実際の争点を考察することによって、多面的な見方を知ることも重要です。本講義を通して、普遍的な(とされる)考え方を相対化する姿勢を養いましょう。

キーワード /Keywords

国際紛争論 【昼】

担当者名 /Instructor 川上 耕平 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 3年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	紛争とそれに関連する事項について専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	紛争に関する情報の収集・分析をすることができる。
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
関心・意欲・態度	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際紛争論

IRL214M

授業の概要 /Course Description

国際関係の研究は、戦争と平和の研究といっても過言ではない。そのアプローチには、歴史的な方法と理論的な方法の2つがあると思われるが、本講義は、その両方を意識しながら進めていく。具体的には、まず紛争を研究するための視座にあたるようなものを、「覇権」や「分析レベル」といったキーワードに基づいて簡潔にみていく。そうした検討を踏まえながら、具体的な紛争（授業計画を参照）を個別に取り上げ、史学上の学説などを整理することによって、受講者には国際紛争を多面的に捉える力を習得してもらう。

(到達目標)

【知識】紛争とそれに関連する事項について専門的な知識を修得する。

【技能】紛争に関する情報の収集・分析をすることができる。

教科書 /Textbooks

教科書は指定せず、各回のテーマごとにレジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各回のテーマごとに関連文献を紹介するが、講義全体に関わるものとして以下の文献を挙げておく（著者名の五十音順）。

- G.アリソン（藤原朝子 訳）『米中戦争前夜—新旧大国を衝突させる歴史の法則と回避のシナリオ』ダイヤモンド社、2017年。
- K.ウォルツ（河野勝、岡垣知子 訳）『国際政治の理論』勁草書房、2010年。
- K.ウォルツ（渡邊昭夫、岡垣知子 訳）『人間・戦争・国家—国際政治の3つのイメージ』勁草書房、2013年。
- 菅英輝『アメリカの世界戦略』中公新書、2008年。
- 黒川修司『現代国際関係論』国際書院、2009年。
- J.ゴールドSTEIN（岡田光正 訳）『世界システムと長期波動論争』世界書院、1997年。
- 篠田英朗『国際紛争を読む五つの視座』講談社選書メチエ、2015年。
- J.ナイ他（田中明彦、村田晃嗣 訳）『国際紛争—理論と歴史』原書第10版、有斐閣、2017年。
- G.モデルスキー（浦野起央、信夫隆司 訳）『世界システムの動態—世界政治の長期サイクル』晃洋書房、1991年。

国際紛争論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 国際紛争を考えるための視角(1)：【分析レベル】、【ウォルツ】
- 第3回 国際紛争を考えるための視角(2)：【覇権】、【トゥキディデスの罠】
- 第4回 三十年戦争：【主権国家】、【ウェストファリア体制】
- 第5回 覇権と国際紛争(1)―スペインからオランダの覇権へ：【世界システム】
- 第6回 覇権と国際紛争(2)―バックス・ブリタニカの時代：【第二次英仏百年戦争】
- 第7回 第一次世界大戦(1)：【帝国主義】
- 第8回 第一次世界大戦(2)：【三国同盟】、【三国協商】
- 第9回 第二次世界大戦(1)：【ナチズム】
- 第10回 第二次世界大戦(2)：【連合国】、【枢軸国】
- 第11回 冷戦期の国際紛争(1)―二つのドイツ：【ベルリン封鎖】【NATO】
- 第12回 冷戦期の国際紛争(2)―中東①：【パレスチナ問題】
- 第13回 冷戦期の国際紛争(3)―中東②：【イラン・イラク戦争】、【湾岸戦争】
- 第14回 冷戦後の国際紛争―「イスラム国」をめぐる問題：【テロリズム】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...70% 小テスト...30% (事情によってオンラインで行う場合は、両方ともレポートに代える)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各テーマのレジюмеが事前に配られた場合には、それについて目を通しておくこと。そして講義が終わった後は、講義内容を自分の頭できちんと整理しなおし、講義で紹介した文献のいずれかにも当たってみること。

履修上の注意 /Remarks

進み方のペースによってスケジュールの変更もありうるので、その点は了承いただきたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

高校で世界史などを履修したことがなくても問題はないが、講義後の発展的な学習(復習はもちろん、講義で紹介した文献を読むことなど)に力を入れていただきたい。

キーワード /Keywords

上記の授業計画の【 】内に書かれていることばを参照。

倫理学 【昼】

担当者名 清水 満 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	倫理学について基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	倫理に関する情報を収集・分析をすることができる。
	英語力		
思考・判断・表現	その他言語力		
	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	プレゼンテーション力		
	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		

※国際関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

倫理学

PHR210M

授業の概要 /Course Description

ヨーロッパの倫理思想史の概説を行うが、三つの部に分けて、第1部は宗教から政治と倫理の区別、すなわち倫理学、法学の成立、第2部は近代の学問の分化独立にもかかわらず、政治と宗教が融合している事態、第3部は、それらの学問と美学、芸術の関係を思想史を見ることで学ぶ。中世・近代・現代ヨーロッパの倫理思想をカバーするものになっている。

- 【DP1 知識】倫理学について基礎的知識を修得する。
- 【DP2 技能】倫理に関する情報を収集・分析をすることができる。

教科書 /Textbooks

なし。
資料を配付。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

清水 満 『フィヒテの社会哲学』（九大出版会）○
ハインリヒ・マイヤー著、中道壽一、清水 満訳 『政治哲学が、政治神学が カール・シュミットの通奏低音』（風行社）○

倫理学 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1講 インTRODクシヨN

古代ギリシヤにおいては、真・善・美・聖が融合していたことを理解する。

第2講

第1部 聖と善の分離(1)

中世から近世にかけて、聖と善の分離が分離していく様を、トマス・アクィナス、マキアヴェリ、ルターを通して学ぶ。

第3講 聖と善の分離(2)ホッブズ

ホッブズの「リヴァイアサン」を使い、聖と善の分離、主権概念の誕生を理解する。

第4講 第1部 聖と善の分離(3)スピノザ:宗教と国家の分離

『神学・政治論』を使い、ホッブズを受け継いで、近代の政治と宗教の分離の様を学ぶ。

第5講 聖と善の分離(4)カント

カントの主著『実践理性批判』で、宗教の道德への還元、『理性の限界内における宗教』で理性宗教の確立を理解する。

第6講 聖の善への取り込み(5)フィヒテ:理性宗教の確立

カントをさらに推し進めたフィヒテの思想を学ぶ。

第7講 第2部 法と善と聖の分離とせめぎあい(1):ジャン=ジャック・ルソー

近代において確立した聖と善の分離が、分離しつつも根底では融合している様をルソーを切り口に理解する。

第8講 法と善と聖の分離とせめぎあい (2)カント

カントの「適法性」と「道徳性」の概念を学ぶ。カントは近代法学の定礎者でもあった。

第9講 法と善と聖の分離とせめぎあい (3)フィヒテ

フランス革命の哲学者ともいえるフィヒテの思想を『自然法の基礎』を中心に学ぶ。

第10講 法と善と聖の分離とせめぎあい(4)カール・シュミット

分離・独立したはずの近代の学問が根底では融合して、宗教性を背後にもつことをシュミットを通して学ぶ。「例外状態」「政治神学」を理解する。

第11講 第3部 美と人倫 「美しき共同体」を求めて(1)カント

第3部は美学・芸術の哲学的考察を行う。まずはカントの美の概念と目的論を学ぶ。

第12講 美と人倫 「美しき共同体」を求めて(2)シラーの美と人倫

シラーの美の概念、公共性と芸術の関係を学ぶ。

第13講 美と人倫 「美しき共同体」を求めて(4)マルクス

マルクスの思想が誤解されてきたこと、彼が提唱したのはコミュニケーション主義としてのコミュニズムであることを理解する。

第14講 美と人倫 「美しき共同体」を求めて(5)ウィリアム・モリス

マルクスの継承者としてモダン・デザインの創始者モリスの民衆の芸術の思想を学ぶ。

第15講 美と人倫 「美しき共同体」を求めて(6)ハーバマス

ハーバマスのコミュニケーション的理性を学ぶ。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 59%

小レポート、確認テストの状況 31%

出席 10%

5回以上講義を欠席した場合は、評価不能(-)とします。

試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義レジメに、文献案内をつけるので、その中の一部を自分で読む。

履修上の注意 /Remarks

内容が硬いので、意欲のある学生の参加を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

わかりやすいプレゼンテーションを心がけます。

質問などは遠慮なくして下さい。

キーワード /Keywords

政治と宗教 政治神学 美と人倫 目的論

障害者に対する支援と障害者自立支援制度【昼】

担当者名 /Instructor 伊東 良輔 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	障がいのある人に対する支援と自立支援制度についての基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	障がいのある人に関する諸課題を的確に捉え考察し、支援策を導くことができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	障がいのある人のライフサイクルとライフステージ上の課題を理解することを通して、人間の生活課題を把握することができる。
	コミュニケーション力		

*人間関係学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

障害者に対する支援と障害者自立支援制度 SOW222M

授業の概要 /Course Description

障がいのある方を支援する制度・サービスの知識について学び、現代社会でどのような支援を行うことができるのか考える力を身につけることを目標とします。
我が国、北欧の障がい者支援の歴史を学び、現在の制度・政策について考えていきます。
その他、障がいのある方が、どのような場面で不自由を感じるのかを体験することで、実践の場でどのような支援が必要であるのかを考える疑似体験を行います。

教科書 /Textbooks

中央法規出版「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要時にお伝えします

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

教科書を利用し

- 1 : 障がい者を取り巻く社会情勢
- 2 : 障がい者の生活実態
- 3 : 障がい者にかかわる法体系 (戦前)
- 4 : 障がい者にかかわる法体系 (戦後)
- 5 : 障がい者自立支援制度 (支援費制度)
- 6 : 障がい者自立支援制度 (障害者自立支援法)
- 7 : 障がい者自立支援制度 (障害者総合支援法)
- 8 : 障害支援区分の意味
- 9 : 組織・機関の役割 (行政機関・外郭団体)
- 10 : 組織・機関の役割 (民間企業)
- 11 : 専門職の役割と実際 (医療職)
- 12 : 専門職の役割と実際 (福祉・教育職)
- 13 : 多職種連携・ネットワーク (フォーマルサービス)
- 14 : 多職種連携・ネットワーク (インフォーマルサービス)
- 15 : ノーマライゼーションとICF

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 講義態度 80%
 - ・ 講義中の質疑応答 20%
- ※5回以上欠席した場合は「評価不能(－)」とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

障がいのある方の支援について自らの考え方をまとめておいてください。

障害者に対する支援と障害者自立支援制度 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

外国文献研究B 【昼】

担当者名 /Instructor 朝倉 拓郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
				○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	政治や政策に関する情報を外国語で理解し、知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	外国の政治現象や政策に関する議論を習得し、地域社会の政策能力につなげる。
	コミュニケーション力	●	政策現象や知識の多様性について理解し、他者とのコミュニケーション能力を高める。

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

外国文献研究B

SEM392M

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、英語圏の読者向けに書かれた日本政治の入門書を講読することを通じて、日本政治の基本的な事柄についてあらためて学び直すことである。これに加えて、文献講読によって得られた知見に基づいて現在の日本の政治状況について参加者どうして議論を行い、理解を深めていく。

(到達目標)

【知識】政策理論に関する知識や分析力を修得している。

【思考・判断・表現力】政策について多様な観点から考え、論理的に説明できる力を身につけている。

【コミュニケーション力】政策事例に関する議論を通じ、コミュニケーション能力を身につけている。

教科書 /Textbooks

Ian Neary, The State and Politics in Japan, Second Edition, Polity Press, 2019.
講義で使用する部分は、コピーを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス

参加者の確認、第2回以降の授業の進め方についての説明を行う。

時間の制約上、テキストをすべて読むことはできないので、参加者の関心等を考慮して読む範囲を決定する。

したがって、以下の授業計画はあくまで参考である。

第2回～第3回 戦後政治史

第4回～第6回 日本政治の構造

第7回～第9回 外交・安全保障政策

第10回～第12回 経済・産業政策

第13回～第15回 社会・福祉政策

成績評価の方法 /Assessment Method

事前学習の達成度 (50%)、講義での報告・議論への参加度 (50%) によって総合的に評価する。

なお、5回以上欠席した場合は評価不能 (-) とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：あらかじめ決められた範囲を読み訳文を作成する。

報告担当者は、訳文をプリントアウトして、授業開始前に参加者にコピーを配布する。

事後学習：事前学習で作成した訳文を見直し、講義で得られた理解を定着させる。

外国文献研究B 【昼】

履修上の注意 /Remarks

無断欠席は厳禁である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講を考えている学生は、必ず初回のガイダンスに参加すること。

キーワード /Keywords

日本政治、55年体制、自民党、日米安保体制、政治改革

アジアのエスニシティ政策【昼】

担当者名 徳安 祐子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
						○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	アジア諸国の民族やエスニシティ、国民統合政策の体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	市民として必要とされる社会的責任と倫理観を意識し、アジアの国家と社会に主体的にかかわることの意義を再確認する。
	生涯学習力	●	アジア諸国が抱える政策課題に対する関心を深め、グローバル社会に生きる1人の市民としての自覚を高める。
	コミュニケーション力		

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

アジアのエスニシティ政策

PLC224M

授業の概要 /Course Description

20世紀は「国民国家の時代」といわれる。「国民国家」とは、領域と主権を備えた国家の中に住んでいる人々が国民の一体性の意識（ナショナル・アイデンティティー）を共有している国家のことであり、この国民国家を創る営みを、歴史上ほとんどの国家が行ってきた。しかし、それは同時に、国内の少数民族（あるいは少数エスニック・グループ）の排除、もしくは多数派への統合や強制的な同化を意味していた。

この授業では、東南アジアの国々が、国民国家を創る営みの中でどのように少数民族を処遇してきたのか、あるいは多数派はその過程でどのように変容したのか（しなかったのか）、そして少数民族はそのなかでどのように生きてきたのかを考察する。さらに、21世紀の現在、「国民国家」が抱える問題点や課題も考える。

事例として、ラオスを中心に、インドネシア、マレーシア、ベトナム、タイ、ミャンマーを取り上げる予定である。

到達目標

- 【知識】アジアの民族問題や国家建設についての幅広い知識を総合的に身に付けている。
- 【技能】アジアの民族問題の理解に必要な情報を収集し、分析することができる。
- 【思考・判断・表現力】アジアの民族問題について学際的・複眼的に分析し、解決策を探索し、論理的に発信することができる。

教科書 /Textbooks

清水一史・田村慶子・横山豪志（編著）『東南アジア現代政治入門』改訂版、ミネルヴァ書房、2018年。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○ベネディクト・アンダーソン（白石隆・白石さや訳）『想像の共同体：ナショナリズムの起源と流行』書籍工房早山、2007年。
その他、授業時に適宜知らせる。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業内容の説明、用語の定義と説明
- 第2回 東南アジアの国民統合（1）【国民国家建設】
- 第3回 東南アジアの国民統合（2）【民族と宗教】
- 第4回 インドネシアの国民統合政策
- 第5回 マレーシアの国民統合政策
- 第6回 ベトナムの国民統合政策（1）【国民国家建設】
- 第7回 ベトナムの国民統合政策（2）【少数民族政策】
- 第8回 タイの国民統合政策（1）【国民国家建設】
- 第9回 タイの国民統合政策（2）【少数民族政策】
- 第10回 ミャンマーの国民統合政策（1）【国民国家建設】
- 第11回 ミャンマーの国民統合政策（2）【少数民族政策】
- 第12回 ラオスの国民統合政策（1）【国民国家建設】
- 第13回 ラオスの国民統合政策（2）【少数民族政策】
- 第14回 ラオス山地民と民族間関係
- 第15回 ラオス山地民の生活と文化

アジアのエスニシティ政策【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 60%、日常の授業への取り組み 40%
6回以上欠席した場合、および、期末試験を受験しなかった場合は評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前・事後には、教科書の該当ページ(あるいは章)を精読し、参考文献を図書館から借りるなどして読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日ごろからニュースなどを見て、世界で起きている民族問題などの政治的な問題に目を向けましょう。

キーワード /Keywords

国民国家、民族、エスニシティ、国家建設

公共経済学【昼】

担当者名 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	公共部門の経済分析に必要な基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	公共部門に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの公共部門に関する経済の諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの公共部門に関する経済の諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

公共経済学

ECN262M

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要（ねらい・テーマ）>

1. 公的部門（政府、地方自治体、公的企業）の経済活動について学ぶ。
2. 市場の失敗、政府の失敗について学び、その原因を理解する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ① 市場の限界、政府の限界を理解して、改善する方法を経済学的思考法に基づいて考えることができるようになる。
- ② メディアで取り上げられるような経済問題を経済学を利用して、自分で分析できるようになる。

本講義はアクティブラーニングの手法を活用します。アクティブラーニングは主体的に学習に取り組むための手法です。教員の話をお聴きだけでなく、積極的に発表、質問をしてもらいます。また、講義以外の時間帯も積極的に学習に取り組み、「何のために学ぶのか」、「何を学ぶのか」、「学んだことを現実の社会にどのような形で活用できるのか」を常に意識して、学習します。

（到達目標）

【知識】

公共経済学を（体系的かつ総合的に）理解している。

【技能】

公共経済学で取り扱う課題に対し必要な高度な分析手法を適切に運用できる能力を身につけている。

【思考・判断・表現力】

経済学の観点からの論理的な分析をもとに、公共政策を立案し、その効果を評価できる力を身につけている。

教科書 /Textbooks

寺井公子、肥前洋一（2015）、『私たちと公共経済（有斐閣ストウディア）』、有斐閣、2,160円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井堀利宏（1998）、『基礎コース 公共経済学』新成社○
井堀利宏（2005）、『ゼミナール 公共経済学入門』日本経済新聞社○
マンキュー（2005）、『マンキュー経済学I ミクロ編』（第2版）東洋経済新報社○
スティグリッツ（2003）、『公共経済学』（上・下）（第2版）○

公共経済学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：公共経済学について
- 2回 経済学の復習（1）【トレードオフ】、【インセンティブ】
- 3回 経済学の復習（2）【取引】、【市場】
- 4回 需要と供給【需要曲線】、【供給曲線】、【需要・供給曲線のシフト】
- 5回 市場と厚生【均衡】、【不均衡】、【余剰分析】
- 6回 市場の失敗【公共財】、【外部性】、【独占】
- 7回 費用便益分析、政策評価【現在価値】、【割引率】、
- 8回 独占の経済分析【自然独占】、【価格差別】
- 9回 規制の経済分析【価格規制】、【参入規制】
- 10回 政府の失敗【公共選択論】
- 11回 投票行動の経済分析【投票のパラドックス】、【選挙】
- 12回 利益団体、官僚の経済分析【レントシーキング】
- 13回 外部講師による講演 1
- 14回 外部講師による講演 2
- 15回 まとめ

講義内容は受講生の関心、理解度等により変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

原則 小テスト（12回）...40%、課題...10%、期末試験...50%
一度も出席しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義開始前までに該当する章を予め教科書を読んで下さい。確認テストを行います。また、講義終了後の内容は次回の講義で小テストを行いますので、しっかり復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks

経済学入門A・B、統計学、ミクロ経済学I・II、マクロ経済学I・IIで学んだことを前提に講義を進めますので、経済学入門A・B、ミクロ経済学I・II、マクロ経済学I・IIが履修可能であれば、必ず履修してください。

ただ知識を覚えるだけでなく、問題解決に向けて、理解して覚えた知識をいかに活用するかを考えるように心がけてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経済地理学I【昼】

担当者名 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地理的な経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	地理的な経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	自らの地域における地理的な経済の諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	自らの地域における地理的な経済の諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済地理学 I

ECN242M

授業の概要 /Course Description

経済地理学Iは、基礎理論である立地論の解説とその応用例について、平易に解説する。学生は、経済地理学Iを履修することによって、経済活動を空間や地域という観点から理解することの重要性を認識でき、立地論を中心とした専門知識を習得できる。これをもとに現実の経済地理的な現象に関わる課題を発見、分析し、その解決をはかる力を身に付けることができるようになる。また企業活動が様々な経済活動を巻き込みながら地域社会を形成する基本的なメカニズムを理解でき、実践力を養う基礎的な知識を得ることができる。

(到達目標)

【知識】立地論に関する基礎的な知識を体系的に身につけている。

【思考・判断・表現力】企業の立地法則について、論理的に思考して立地行動を探索、判断し論理的に表現することができる。

【自律的行動力】企業立地への関心と就労先としてのキャリア意識を持ち続け、学修に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション 【経済地理学】、【地域構造論】
- 2回 産業構造と産業立地 【産業構造】、【産業立地】、【経済地理学】
- 3回 企業の立地行動 (I)・・・市場圏モデル 【レッシュ】、【需要円錐】、【経済景域】
- 4回 企業の立地行動 (II)・・・市場圏モデル【クリスタラー】【中心地】、【上限】、【下限】
- 5回 商業・生活関連産業の立地【最終サービス】、【第三次産業】、【商業立地】
- 6回 1～5回の復習と課題 【企業立地】【中心地論】【サービス産業】
- 7回 企業の立地行動 (III)・・・最小コストモデル 【ウエーバー】、【輸送費】、【集積】
- 8回 素材/装置型工業の立地行動 【素材産業】、【地理的慣性】、【規模の経済】
- 9回 企業の立地行動 (IV)・・・労働力指向立地 【マッセイ】【バーノン】【空間分業】
- 10回 先端/組立型工業の立地行動 【労働力指向】【部分工程】【半導体産業】
- 11回 6～10回の復習と課題 【輸送費理論】【企業内空間分業】
- 12回 企業の立地行動 (V)・・・集積とネットワーク 【スコット】【マークセン】【ポーター】
- 13回 在来組立型工業の立地行動【基盤産業】【外部経済】【クラスター】
- 14回 現代の立地行動～オフィスの立地論 【オフィス】【知識の輸送】【対面接触】
- 15回 全体のまとめと課題

成績評価の方法 /Assessment Method

課題・・・100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

経済地理学I 【昼】

履修上の注意 /Remarks

経済地理学特講や地域経済、地域経済特講などを受講すると相互理解が深まります。
3、4、7、9、12、14回は全体の中でも特に重要な回ですので、慎重に話を聞いてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済の動きを、空間や地域という観点で考えることができるように、学習を進めていきます。

キーワード /Keywords

立地論、企業立地、産業配置

経済地理学II 【昼】

担当者名 柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	地理的な経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	地理的な経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域における地理的な経済の諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	地域における地理的な経済の諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経済地理学II

ECN243M

授業の概要 /Course Description

経済地理学特講は、日本の都市、地域構造と立地政策との関連を、具体例を交えて述べてゆくこととする。学生は、経済地理学で学習した内容をふまえて、オフィス立地を学習したうえで都市内・都市間システムの理論を学ぶことになる。これによって立地論や都市論を中心とした専門知識を習得できる。これをもとに現実の経済地理的な現象に関わる課題を発見、分析し、その解決をはかる力を身に付けることができるようになる。

都市の構造や都市間の相互作用を系統的に学習でき、地域構造の成り立ちを深く認識できることになる。後半では立地のメカニズムをもとに政策的な活用策を検討する。地域社会を形成する基本的なメカニズムを理解でき、実践力を発揮することができる能力を身に付けることができる。

なお、今年度は受講者が多くなり、コロナ感染対策からメディア授業となる可能性があります。その際は、Moodleに動画をアップし、オンデマンドで視聴していただくこととなります。

(到達目標)

【知識】都市論および地域論に関する基礎的な知識を体系的に身につけている。

【思考・判断・表現力】都市の立地法則や地域構造の成り立ちについて、論理的に思考して法則性を探求、判断し論理的に表現することができる。

【自律的行動力】都市の立地や地域の成り立ちへの関心と就労先としてのキャリア意識を持ち続け、学修に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示する。

経済地理学II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN 【経済地理学】【都市】【地域】【地域政策】
- 2回 オフィス立地と都市 【オフィス】【本社・支社】【中枢都市】【都市の階層化】
- 3回 地点をめぐる立地競争 【チューネン】【付け値曲線】【土地利用】
- 4回 都市内システム 【都市】【バージェス】【ホイト】
- 5回 都市間システムと中枢管理機能 【中枢管理機能】【ブレット】【地方中枢管理都市】
- 6回 1～5回の復習とまとめ
- 7回 企業活動と地域 【企業機能】【地域間システム】【生活圏】【公共施設立地】
- 8回 立地政策(1)・・・一全総・二全総と重化学・装置型産業 【全総】【拠点開発方式】
- 9回 立地政策(2)・・・三全総と組立型産業 【定住圏構想】【テクノポリス】
- 10回 立地政策(3)・・・四全総 【中枢管理機能】【東京一極集中】【世界都市】
- 11回 6～10回の復習とまとめ
- 12回 産業立地と今後の地域構造・・・グランドデザイン 【多軸型国土構造】【産業創出の風土】
- 13回 立地から見た地域構造の変遷(1) 【近代化】【産業構造】【国土構造】
- 14回 立地から見た地域構造の変遷(2) 【発展なき成長】【東京一極集中】
- 15回 全体のまとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

課題 ... 10% 期末試験(オンデマンドの場合は最終課題になります。) ... 90%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の進度に応じて指定された範囲の予習と、授業内容の整理、復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済地理学や地域政策などを受講していると相互理解が深まります。
2、3、4、5、8、9、10、12、14回は全体の中でも特に重要な回ですので、慎重に話を聞いてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済の動きを、空間や地域という観点で考えることができるように、学習を進めていきます。

キーワード /Keywords

立地論、都市システム、立地政策

金融論I【昼】

担当者名 /Instructor 内田 交謹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	金融に関する経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	金融に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの金融に関する経済の諸問題を発見できる。	
	生涯学習力	●	身の回りの金融に関する経済の諸問題を発見する姿勢をもつ。	
	コミュニケーション力			

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

金融論I

ECN260M

授業の概要 /Course Description

本講義では、さまざまな金融取引とそのメカニズムについて、重要な内容を解説する。金融の基本機能と直接金融・間接金融の分類から始まり、それぞれ具体的な金融取引・証券、金融機関の機能を紹介する。後半では、近年日本でも重要性を増している投資信託、資産証券化やESG等について解説し、最後に為替レート、金融政策について近年のトピックを中心に説明する。

(到達目標)

【知識】金融に関する専門的な知識を身につけている。

【技能】経済データやモデル分析から、金融に関する問題点や解決策を考察できる。

【思考・判断・表現力】専門的な知識を用いた論理的な考察により、金融・経済の動向を分析することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。オンデマンドのビデオ教材を提供する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岡村秀夫・田中敦・野間敏克・藤原賢哉『金融システム論』有斐閣。

池尾和人『現代の金融入門』ちくま新書。

岩田規久男『金融入門』岩波新書。

鹿野嘉昭『日本の金融制度』東洋経済新報社。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンスと金融の基本機能【資金余剰主体・資金不足主体】
2. 間接金融：銀行の役割【決済システム・信用創造】
3. 直接金融：証券と証券市場(1)【発行市場・流通市場・債券】
4. 直接金融：証券と証券市場(2)【株式・IPO・証券会社・機関投資家】
5. 金融規制【BIS規制・早期是正措置】
6. 日本の金融制度と不良債権問題【メインバンク・不良債権問題・銀行破綻・公的資金注入】
7. 前半まとめ
8. 中間試験
9. 投資信託【投資信託・パッシブ・アクティブ】
10. ESG投資【社会的責任投資・ESGファンド】
11. 資産証券化【資産証券化・SPV】
12. シンジケート・ローン【シンジケート・ローン】
13. 為替レート【購買力平価仮説】【金利平価仮説】
14. 金融政策と中央銀行【公開市場操作・量的緩和政策】
15. 後半まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 50%

教場試験 50%

いずれも Moodle で実施する。

金融論I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

オンデマンド・ビデオと合わせて、空白の入ったパワーポイント・ファイルも提供するので、ビデオを見る前に、関連する内容をインターネットなどで調べることを勧める。またビデオ視聴後には、空白に入る用語を確認することを勧める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

金融機関、証券、金融市場、不良債権問題・投資信託、資産証券化・ESG・為替レート、金融政策

金融論II 【昼】

担当者名 万 軍民 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	金融に関する経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	金融に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの金融に関する経済の諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの金融に関する経済の諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

金融論II

ECN261M

授業の概要 /Course Description

1980年代後半では日本経済に激しい資産（土地や株）バブルが起り、1990年代初頭にバブルが崩壊し、平成不況は30年ほど続いて、「失われた30年」と言われるようになった。バブルという問題は、金融面からどのようにとらえるのか、そして、金融が実体経済にどのように影響を及ぼすのかを理解する。

本講義では、金融の知識を広く習得することを目的としている。とくに、金融の役割と日本の金融制度の特徴を理解する。金融市場、家計貯蓄行動、資産選択理論、企業の金融活動、銀行行動、について金融の基礎を学習する。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①金融の役割を理解する。
- ②日本の金融に関する基礎知識を習得し、その制度に関する問題点を理解し、解決策を考えることができる。
- ③修得した知識を現実の社会問題に適用することができる。

教科書 /Textbooks

福田慎一著、金融論、有斐閣、2013、ISBN 978-4-461--16406-2

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

内田交謹著、コーポレート・ファイナンス、改訂版、創成社、2009.04、ISBN 9784794423122

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 教科書第1章 【金融の役割】市場と金融取引
- 2回 教科書第1章 【金融の役割】直接金融、間接金融
- 3回 教科書第1章 【金融の役割】資産変換、情報生産、取引費用の節約
- 4回 教科書第2章 【貯蓄と危険回避的行動】家計の貯蓄行動
- 5回 教科書第2章 【貯蓄と危険回避的行動】利子率変化と貯蓄
- 6回 教科書第2章 【貯蓄と危険回避的行動】期待効用仮説、危険回避度、客観的確率、主観的確率
- 7回 教科書第3章 【最適な資産選択】平均分散アプローチ
- 8回 教科書第3章 【最適な資産選択】最適なポートフォリオ
- 9回 教科書第3章 【最適な資産選択】分離定理、CAPM、貯蓄から投資へ
- 10回 教科書第4章 【資産価格と資産選択】効率的市場仮説と裁定、債券市場
- 11回 教科書第4章 【資産価格と資産選択】金利の期間構造、株式市場
- 12回 教科書第4章 【資産価格と資産選択】バブル、投機、資産価格のボラティリティ
- 13回 教科書第5章 【企業の資金調達】設備投資、資金需要
- 14回 教科書第5章 【企業の資金調達】生産の不確実性、有限責任、資金質貸市場
- 15回 教科書第5章 【企業の資金調達】情報の非対称性、不完備契約、信用割当

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内容確認課題...40%、期末試験 ... 60%

金融論II【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 1 教科書を必ず事前に入手し、予定講義内容を予習しておく。
- 2 講義後には、ノートと教科書を用いて、講義内容について復習し、理解を深めておく。
- 3 宿題を解いて、期限まで提出する。

履修上の注意 /Remarks

- 1 資料などは、MOODLEから入手しておくこと。
- 2 毎回、前回の講義内容の復習をしっかりとしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日々起こっている重大な経済社会問題に対して、受講生諸君は、「なぜ」という探求心を持っているだろうと思います。それらの問題の発生メカニズム及び対策に対して、世界各地の学者が日々に「知」を創り上げています。大学での授業は、これら最新の「知」まで触れる機会を提供しており、受講生諸君はきっと「知」に刺激され、「知」の楽しさを味わうことで、自ら「知」の創成を試みるでしょう。受講生諸君は私と一緒に楽しく頑張りましょう。

キーワード /Keywords

資産変換、情報生産、銀行、債券

経営組織論 【昼】

担当者名 山下 剛 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 経営組織の理論および実践の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 経営組織に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 経営組織に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経営組織論

BUS212M

授業の概要 /Course Description

現代は組織社会と呼ばれます。組織なしで生きていくことができる者は一人もいないと言っていい現代において、組織は社会に対して絶大な影響力をもちながら存在しています。本講義では、組織の根本的な性格について考えながら、そうした組織が現代においてどのように成り立ち運営されているか、またどのように運営されることが求められているかについて考えることを目的とします。

(到達目標)

【知識】 経営組織に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

【技能】 経営組織に必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】 経営組織について、複眼的・論理的に思考して 解決策を探索し、自分の考えや判断を論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

山下剛『マズローと経営学—機能性と人間性の統合を求めて—』文真堂、2019年、3850円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

C.I.バーナード『[新版]経営者の役割』ダイヤモンド社、1968年(○)

H.A.サイモン『経営行動』ダイヤモンド社、1989年(○)

三戸公『随伴的結果』文真堂、1994年(○)

三井泉編『フォレット』文真堂、2013年(○)

岸田民樹編『組織論から組織学へ—経営組織論の新展開』文真堂、2009年(○)

M.P.フォレット『創造的経験』文真堂、2017年(○)

中野裕治・貞松茂・勝部伸夫・嵯峨一郎編『はじめて学ぶ経営学』ミネルヴァ書房、2007年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス 【経営組織論とは?】【現代社会における組織の重要性】
- 第2回 組織とは何か 【組織の概念】【組織の3要素】
- 第3回 管理とは何か① 【プロセス・スクールの考え方】【意思決定論】
- 第4回 管理とは何か② 【関係性への対応】【存在認識】【イナクトメント】
- 第5回 現代社会における組織の問題 【職業人】【現代における自己実現】【組織人格と個人人格】
- 第6回 現代組織の諸特徴① 【支配の3類型】【官僚制の概念】
- 第7回 現代組織の諸特徴② 【法・規則の機能性】
- 第8回 現代組織の諸特徴③ 【科学的管理】
- 第9回 動機づけ理論① 【人間関係論】
- 第10回 動機づけ理論② 【ERG理論】【X-Y理論】【動機づけ - 衛生理論】
- 第11回 組織構造① 【ライン組織の基本原理解】
- 第12回 組織構造② 【コンテインジェンシー理論】【職能部門制組織】【事業部制組織】
- 第13回 現代組織における管理① 【随伴的結果の概念】【コンフリクト】【統合】【責任】
- 第14回 現代組織における管理② 【官僚制によって生成する2種の随伴的結果】【責任の組織化】
- 第15回 まとめ

経営組織論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...60% 小テスト...40%

なお、小テスト・学期末試験をまったく受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキスト該当箇所を熟読しておいてください。授業後に該当箇所を再読し、復習してください。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

また、適宜、任意のレポート課題の提出を求めます。

該当箇所の参考文献もよく読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

「経営学入門」「経営管理論」の内容を復習しておいてください。

状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では、授業中にいろいろと質問します。積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

組織の3要素 官僚制 科学的管理 環境適応 随伴的結果 自由と責任

企業ファイナンスI【昼】

担当者名 姚 智華 / YAO ZHIHUA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	企業財務の理論および実践の理解に必要な基本的専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	企業財務に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	企業財務に関する諸問題に興味・関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業ファイナンス I

BUS214M

授業の概要 /Course Description

この講義では、企業ファイナンスに関する基礎的な知識を理解し、習得することを目標とします。具体的には、企業の資金調達、投資決定、配当政策、資本構成、コーポレートガバナンスなどについて学習します。

【到達目標】

知識：財務活動に関する基礎的な知識を身につけている。

技能：証券の仕組みを説明することができる。

思考・判断・表現力：日本企業の財務政策に関する諸問題について、論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えを明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

内田交謹『すらすら読んで奥までわかるコーポレート・ファイナンス（第三版）』創成社，2021年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

砂川伸幸『コーポレートファイナンス入門（第2版）』日本経済新聞出版，2017年。（○）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【企業ファイナンスとは、講義の目的・概要、成績評価の方法】
- 第2回 投資決定①【現在価値の考え方、割引率】
- 第3回 投資決定②【資本コスト、WACC】
- 第4回 投資決定③【NPV法、IRR法、回収期間法】
- 第5回 負債による資金調達①【普通社債、新株予約権付社債】
- 第6回 負債による資金調達②【転換社債型新株予約権付社債、MSCB】
- 第7回 自己資本調達①【IPO、公募増資、第三者割当増資】
- 第8回 自己資本調達②【株主割当増資、ライツオフアリング、新株予約権】
- 第9回 資本構成【トレードオフ理論、MM理論】
- 第10回 配当政策①【配当性向、配当利回り、MMの配当政策無関連命題】
- 第11回 配当政策②【自社株買い、株式分割】
- 第12回 コーポレートガバナンス①【エージェンシー問題、モラルハザード】
- 第13回 コーポレートガバナンス②【インセンティブ報酬、ストックオプション】
- 第14回 コーポレートガバナンス③【モニタリング、敵対的買収】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...40% 期末試験...60%

なお、学期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講にあたって、事前にテキストを読んでおくこと（目安時間：60分）。

講義終了後には、必ず講義内容の復習を行うこと（目安時間：60分）。

企業ファイナンスI【昼】

履修上の注意 /Remarks

「ファイナンス入門」の内容を復習しておくこと。
学習の進捗と理解の度合いを見ながら、スケジュールを調整することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

企業ファイナンスを学ぶ以上、計算問題を避けて通ることができません。
数学を必要最小限に抑えるので、最初から無理だと決めつけないで、やってみればうまくできるはずです。

キーワード /Keywords

投資決定、資金調達、資本構成、配当政策、コーポレートガバナンス

企業ファイナンスII【昼】

担当者名 姚 智華 / YAO ZHIHUA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 企業財務の理論および実践の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 企業財務に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 企業財務に関する諸問題に興味・関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

企業ファイナンスII

BUS215M

授業の概要 /Course Description

この講義では、有価証券について勉強し、その価値評価の仕方を習得することを目標とします。具体的には、債券、株式、オプションやその他のデリバティブなどについて学習します。

【到達目標】

知識：金融・証券に関する基礎的な知識を身につけている。

技能：金融商品の理論価格に関する初歩的な分析ができる。

思考・判断・表現力：企業ファイナンスに関連する諸問題について、論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えを明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

内田交謹『すらすら読んで奥までわかるコーポレート・ファイナンス（第三版）』創成社，2021年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

井上光太郎・高橋大志・池田直史『ファイナンス』中央経済社，2020年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【講義の目的・概要、成績評価の方法】
- 第2回 企業ファイナンスIの復習【現在価値計算、資本コスト】
- 第3回 企業価値評価①【株価による評価、割引キャッシュフロー法による評価】
- 第4回 企業価値評価②【EVAとMVAによる評価】
- 第5回 債券の価値評価①【デュレーション、スポットレート、イールドカーブ】
- 第6回 債券の価値評価②【債券価格、利付債、割引債】
- 第7回 株式の価値評価【配当割引モデル、一定配当モデル、一定成長モデル】
- 第8回 効率的市場仮説【ウィーク型、セミストロング型、ストロング型】
- 第9回 マルチファクターモデル【ファーマ=フレンチの3ファクターモデル】
- 第10回 デリバティブ①【先物取引、先渡取引、スワップ取引】
- 第11回 デリバティブ②【オプション取引、リスクヘッジ】
- 第12回 オプションの価値評価【二項モデル、ブラック=ショールズモデル】
- 第13回 オプションの応用①【リアルオプション、ステージ・ファイナンス】
- 第14回 オプションの応用②【新株予約権、新株予約権付社債】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト...40% 期末試験...60%

なお、学期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講にあたって、事前にテキストを読んでおくこと（目安時間：60分）。

講義終了後には、必ず講義内容の復習を行うこと（目安時間：60分）。

企業ファイナンスII【昼】

履修上の注意 /Remarks

「ファイナンス入門」及び「企業ファイナンスI」の内容を復習しておくこと。
学習の進捗と理解の度合いを見ながら、スケジュールを調整することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

企業ファイナンスを学ぶ以上、計算問題を避けて通ることができません。
数学を必要最小限に抑えるので、最初から無理だと決めつけないで、やってみればうまくできるはずです。

キーワード /Keywords

価値評価、市場効率性、マルチファクターモデル、デリバティブ

経営戦略論【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 経営戦略の理論および実践の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 経営戦略に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 経営戦略に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経営戦略論

BUS213M

授業の概要 /Course Description

本講義では、経営戦略論の基本的な考え方を理解してもらい、それに基づいて経営戦略策定・実行に関する理論及び分析フレームワークを体系的に示すとともに、事例研究を行います。
本講義の受講をつうじて、さまざまな企業経営や社会に関する諸問題を解決するために必要とされる、経営戦略についての知識を身に付けることをねらいとしています。

(到達目標)

【知識】

経営戦略に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】

経営戦略に関する諸問題を体系的に理解することができる。

【思考・判断・表現力】

経営戦略に関連する諸問題について論理的に思考し、自分の考えを明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

講義はレジュメを中心に進めますので、テキストとしての指定ではありませんが、科目の性格上、講義中に事例の検討を多く行います。そのため以下の文献を（必携本）として指定しています。

東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学[第3版]』有斐閣、2019年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

石井淳三・奥村昭博・加護野忠男・野中郁次郎著『経営戦略論(新版)』有斐閣、1996年。(○)

大滝精一・金井一頼・山田英夫・岩田智著『経営戦略(新版) - 論理性・創造性・社会性の追求—』有斐閣、1997年。(○)

浅羽茂・牛島辰男著『経営戦略をつかむ』有斐閣、2010年。(○)

網倉久永・新宅純一郎著『経営戦略入門』日本経済新聞出版社、2011年。(○)

嶋口充輝・内田和成・黒岩健一郎編著『1からの戦略論(第2版)』碩学舎、2016年。(○)

他、参考となる文献を適宜紹介します。

経営戦略論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスおよび「経営戦略とは」
- 第2回 議論の歴史1 誕生から1970年代 【成熟化とイノベーション】【多角化の戦略】
- 第3回 議論の歴史2 1980年代以降 【競争戦略論】【戦略経営論】【プロセス戦略論】【R B V】
- 第4回 成長の戦略1 ドメインの定義 【事業構造の転換】【ドメインギャップ】
- 第5回 成長の戦略2 事業ポートフォリオの選択 【関連・非関連型】【シナジー効果】【コアコンピタンス】
- 第6回 成長の戦略3 新規事業創造の戦略 【社内ベンチャー】【M&A】【戦略提携】
- 第7回 成長の戦略4 プロダクトポートフォリオマネジメント 【P L C】【経験曲線】【マトリックス】
- 第8回 競争の戦略1 構造分析 【5フォーセス】【PEST】【戦略グループ】【VRIO】
- 第9回 競争の戦略2 基本戦略—事例研究 【コストリーダーシップ】【差別化】【集中化】【顧客価値】
- 第10回 競争の戦略3 市場地位と戦略 【リーダー】【チャレンジャー】【ニッチャー】【フォロアー】
- 第11回 競争の戦略4 製品ライフサイクルと他企業との協力 【PLC】【ビジネスモデル】
- 第12回 競争の戦略5 事業システム—事例研究 【顧客価値】【ビジネスモデル】
- 第13回 戦略と組織1 戦略と組織の適合と創造 【組織構造】【組織文化】【組織インフラ】
- 第14回 戦略と組織2 戦略と組織の変革 - 事例研究 【イノベーション】【組織学習】【知識創造】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験の結果（80％）と学期中の小レポート等提出物の結果（20％）によります。
なお、学期末試験を未受験の場合、（－）評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに次のトピックスに関するキーワードなど情報収集を行い、整理すること。
授業後はレジュメと参考文献を用いて学んだ諸概念、理論、事例などの情報を整理すること。
また、企業経営に関する新聞記事などによる復習によって、本講義の理解がより深くなります。

履修上の注意 /Remarks

「経営管理論」（2018年度生以上は「マネジメント論基礎」）で受講した内容を復習しておいて下さい。
前期に「経営組織論」を履修しておくこと、より学習効果が上がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習・復習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。
授業開始までに次のトピックスに関するキーワードなど情報収集を行い、整理すること。
授業後はレジュメと参考文献を用いて、学んだ諸概念、理論、事例などの情報を整理すること。

キーワード /Keywords

経営環境 経営戦略 成長 競争 イノベーション 組織変革

財務会計論I【昼】

担当者名 /Instructor 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	財務会計の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	財務会計に関する諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	財務会計に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	財務会計に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

財務会計論I

ACC214M

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、財務会計の基本的な考え方について学ぶことがねらいである。財務会計論Iでは、まずはじめに、財務諸表の仕組みや歴史、思想を学び、それから全体として、会計学というものがいかなる学問であるかという点について、広い角度から紹介したいと思う。木を見て森(=会計学)を見ずということにならないよう、学問としての会計学、会計を取り巻く諸問題を取り上げたい。また、財務会計論IIでは、財務会計論Iを踏まえて、会計固有の問題について深く掘り下げるので、IとIIをペアで履修することを推奨する。

また、本年度より、実際の財務諸表を見慣れるためにかんたんな財務分析の時間を可能な限り設けたいと思う。

< 到達目標 >

知識：財務会計に関する基礎的な知識を見つけている。

技能：会計学の基本的な技能を身につけている。

思考・判断・表現力：財務会計について論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

配布プリントを用いて、授業を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西澤健次『信長に学ぶ経営分析』○

西澤健次『ホスピタリティと会計』国元書房○

西澤健次『負債認識論』国元書房○

桜井久勝『財務会計講義』中央経済社○

中央経済社編『新版 会計法規集』中央経済社○

財務会計論I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務会計（会計学）とは何か？【企業の経済活動】【本体】【写像】【会計責任】
- 2回 財務会計の入門【認識】・【測定】・【伝達】
- 3回 会計の歴史【複式簿記】【古代ローマ起源説】【イタリア中世起源説】
- 4回 損益計算書について【費用】【収益】【利益】
- 5回 貸借対照表について【資産】【負債】【純資産】
- 6回 動態論と静態論【取得原価】【時価】
- 7回 会計公準とは何か【構造的な公準】【要請的な公準】
- 8回 貨幣評価の公準について【財務報告】【非財務報告】
- 9回 財務会計の基礎概念【発生主義会計】【減価償却】
- 10回 収益・費用の認識・測定【実現概念】
- 11回 収益認識基準と利益
- 12回 中間のまとめ【認識、測定、伝達】
- 13回 財務会計の諸問題 - 会計学とは何か？【学問としての会計】【学際会計】
- 14回 財務諸表の読み方(簡単な経営分析)【ステイクホルダー】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テスト、レポート等を含む）... 20% 中間試験... 20% 期末試験または期末レポート... 60%
 期末試験を受験しなかった場合または期末レポートを提出しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：簿記の復習と、財務諸表で用いる勘定科目の意味を調べ、あらかじめ会計学や財務会計の入門書を読むことをすすめる。財務会計論が簿記検定の延長ではなく、一つの学問であるということを知るために、一例として、青柳文司『会計物語と時間』多賀出版1998年『現代会計の諸相-言語・物語・演劇』多賀出版2008年等の書籍を読むことを薦める。
 事後学習：講義内容を復習し、財務会計の知識の習得と、会計の世界や考え方を理解するように努めること。

履修上の注意 /Remarks

「簿記論」「会計学入門」を既に受講した場合、財務会計論をより深く理解することができる。当該授業は簿記3級位の簿記一巡の手続きを理解していることを前提としている。簿記の未履修者は、基礎的な仕訳について、十分な事前学習が必要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中のスマホは禁止である。本年度より、徐々に、学問としての会計学を紹介する授業に変更していきたいと考えている。会計学固有のテクニカルな問題は課題として出す予定である。事前事後学習が不可欠である。

キーワード /Keywords

財務会計論II 【昼】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 財務会計の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 財務会計に関する諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 財務会計に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 財務会計に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

財務会計論II

ACC215M

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、会計固有の考え方について学ぶことがねらいである。財務会計論IIは、財務会計論Iの応用編（あくまでも動態論）である。財務会計論Iと異なる点は、会計の基本問題に限定している点である。主たるテーマについては、授業内容を参考にして欲しい。動態論の基本的思考を中心にして、現代会計について言及したいと思う。

本年度より実際の財務諸表を見慣れるために財務会計論Iに続けて様々な会社の財務諸表を読む練習の時間を設けたいと思う。

< 到達目標 >

知識：財務会計に関する専門的な知識を見つけている。

技能：会計学の専門的な技能を身につけている。

思考・判断・表現力：財務会計について論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えや判断を論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

特になし

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

笠井昭次『現代会計論』慶応義塾大学出版会○

西澤健次『信長に学ぶ経営分析』星海社○

西澤健次『負債認識論』国元書房○

西澤健次『ホスピタリティと会計』国元書房○

中央経済社編『新版 会計法規集』中央経済社

財務会計論II【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 会計の考え方【ビジネスの言語】
- 2回 繰延資産の会計【動態】【静態】
- 3回 会計のルールについて【企業会計原則】【企業会計基準】【国際会計基準】
- 4回 費用配分という考え方【期間損益】
- 5回 減価償却の会計処理について【定額法】【定率法】
- 6回 減価償却の考え方について【自己金融】
- 7回 引当金の会計(その1)【退職給付引当金】【賞与引当金】
- 8回 引当金の会計(その2)【条件付債務】【修繕引当金】
- 9回 負債概念について【退職給付会計】
- 10回 新たな負債について【繰延収益】【資産除去債務】
- 11回 実現主義の「実現」概念について【販売基準】
- 12回 工事進行基準と工事完成基準【実現主義の例外】
- 13回 財務諸表分析【貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書】
- 14回 純資産の会計【払込資本】【留保利益】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト、レポートを含む)...20% 期末試験または期末レポート...80%
 期末試験を受験しなかった場合または期末レポートを提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：簿記論のテキスト(簿記2級程度の仕訳)や、財務会計論の入門書及びわかりやすい教科書(例えば、田中弘、広瀬義州、桜井久勝、新井清光&川村義則の最新の書籍)を読むことをすすめる。
 事後学習：講義内容を復習し、財務会計の知識の習得と、会計の考え方をまとめて理解するように努めること。

履修上の注意 /Remarks

「簿記論」「会計学入門」「財務会計論I」を既に受講した場合、財務会計論IIの講義をより深く理解することができる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中のスマホは禁止である。会計の考え方について説明しているので、眠くなると思われるが、授業で話しているポイントについては、レジュメだけに終わらず、財務会計論の教科書に該当する説例(=仕訳等)を調べたり、ネットで、さらに深く調べて自分で考えてみるのが重要である。聞き流しでは、会計について考える機会を逸してしまうので、是非、自主的に勉強してもらいたい。

キーワード /Keywords

会計監査論 【昼】

担当者名 /Instructor 日下 勇歩 / マネジメント研究科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 会計監査の理論および実践の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	● 会計監査の諸問題を解決するための方法を考え、監査一巡の手続きについて、それらを理論的に修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 会計監査に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 会計監査に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力	

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

会計監査論

ACC216M

授業の概要 /Course Description

経営者は、企業の財政状態、経営成績、及び、キャッシュ・フローの状況を利害関係者に対して報告するために、財務諸表を作成する。公表される財務諸表に基づき、企業の利害関係者は様々な意思決定を行う（株主であれば株式の売買、銀行であれば企業に対して融資を行うかどうか、どのような条件で融資を行うかなど）。もし、財務諸表が企業の財政状態、経営成績、及び、キャッシュ・フローの状況を適切に表示していなければ、利害関係者の意思決定はミスリードされてしまう可能性が高い。そのため、財務諸表が適正に表示されていることを保証することは、利害関係者にとって重要である。この点について、監査人は、経営者の作成する財務諸表が適切であるかどうかについて証拠を収集・評価し、意見を表明する役割を果たす。本講義では、このような財務諸表に対する監査に関する基本的な考え方を学んでいく。

DPに基づく到達目標

- 「知識」会計監査に関する専門的な知識を身につけている。
- 「技能」会計監査に必要な情報を収集し、分析するスキルを身につけている。
- 「思考・判断・表現力」会計監査について論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えや判断を論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

山浦久司（2022）『監査論テキスト（第8版）』中央経済社
（最新版が出ている可能性もあるため、購入の際は最新版であることに注意して購入してください）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

亀岡恵理子・福川裕徳・永見尊・鳥羽至英（2021）『財務諸表監査 増補版』国元書房
このほかについては、必要に応じて、講義の際に紹介する。

会計監査論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：オリエンテーション

【講義全体の内容と進め方、監査とは何か、財務諸表とは何かについて説明する。】

第2回：監査の機能

【財務諸表の作成者及び利用者、並びに、経済社会に対して、監査がいかなる便益をもたらすかについて説明する。】

第3回：金融商品取引法に基づく監査

【金融商品取引法に基づく企業開示の内容、及び、金融商品取引法のもとで求められる監査について説明する。】

第4回：監査基準

【監査を実施する主体が準拠・遵守すべき基準である、監査基準について説明する。】

第5回：監査人の独立性

【監査人の独立性（精神的独立性、外観的独立性）について説明する。】

第6回：監査と不正

【財務諸表の重要な虚偽表示とは何か、虚偽表示の原因としての誤謬と不正の違いは何かについて説明する。】

第7回：監査プロセス

【監査をめぐる一連のプロセスについて説明する。】

第8回：監査リスク・アプローチ

【監査手続を計画・実施する際に準拠される枠組みである監査リスク・アプローチについて説明する。】

第9回：監査計画

【「監査要点」と「財務諸表全体としての適正表示」の関係について説明する。】

第10回：リスク評価と監査手続

【監査手続とは何か、実査、立会、視察、確認などの代表的な監査手続を説明する。】

第11回：監査報告書

【監査報告書の記載事項（監査報告書の構造）と監査意見の類型について説明する。】

第12回：ゴーイング・コンサーン

【企業のゴーイング・コンサーン問題に対する監査上の対応について説明する。】

第13回：監査上の主要な検討事項

【「監査上の主要な検討事項」に関する記載について説明する。】

第14回：内部統制監査

【内部統制、及び、内部統制に対する監査について説明する。】

第15回：会社法に基づく監査

【会社法に基づく企業の開示書類、及び、会社法の下で求められる監査について説明する。】

成績評価の方法 /Assessment Method

(1) 【定期試験:70%】

監査の考え方及び用語について、理解度を確認するための試験を実施する。

※試験を受験しなかった場合は、評価不能（－）とします。

(2) 【レポート：30%】

会計不正の事例に関するレポートを課す。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

(事前学習)

指定した教科書の章を読んでおくことが望ましい。

(事後学習)

講義中に説明した内容をよく復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際金融論I【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際金融の経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	国際金融に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際金融に関する諸問題を発見することができる。
	生涯学習力	●	身の回りの国際金融に関する諸問題を発見する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際金融論 I

ECN363M

授業の概要 /Course Description

現代の国際金融システムの概要を知ることが目的とする。新聞・ニュースの国際金融関係の報道内容を理解できるとともに、解説書やテキストや研究書を理解できるレベルを目標とする。なお、各講義の最後に、練習問題を解答・提出し、次の回でその解説をして理解を深めることがある。

(到達目標)

【知識】 国際金融に関する幅広く基礎的な知識を総合的に身につけている。

【技能】 国際金融の諸問題を理解するために必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】 国際金融の諸問題について、論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の考えや判断を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

奥田宏司ほか編 (2020) 『深く学べる国際金融』(法律文化社)、2400円+税(価格は変更の可能性あり)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【】はキーワード。

- 1回 円高・円安とは 【クロスレート】
- 2回 為替レートによる換算 【経常収支】 【資本収支】
- 3回 国際収支表 【フロー統計】
- 4回 国際収支表における複式簿記の原理 【貸借対照表】
- 5回 貿易取引と国際決済 【並為替と逆為替】
- 6回 貿易取引と国際決済 【信用状】 【荷為替信用制度】
- 7回 グローバル化と直接投資 【直接投資】
- 8回 国際証券投資と外貨準備 【証券投資】 【外貨準備】
- 9回 為替レートの変動 【購買力平価】 【アセットアプローチ】
- 10回 為替レートの変動 【為替リスク】 【マーシャル・ラーナー条件】
- 11回 国際収支を左右するもの 【ISバランス】
- 12回 国際収支を左右するもの 【キャリートレード】
- 13回 実質為替レートと実効為替レート 【幾何平均】
- 14回 パラッサ=サミュエルソン効果 【中所得国の罫】
- 15回 まとめと総復習 【24時間ダイニング】

※本講義の内容にかかわる産業・企業の実務について、講義中に詳細な説明を行う可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100 %

国際金融論I 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プリントの中の各授業内容に該当する箇所を授業の前に各自講読すること。さらに、専門用語が多く出てくるので、インターネットなどで用語検索すること。授業の後には、講義内容を承けて、ノートを加筆修正すること。(予習、復習それぞれ60分程度)

履修上の注意 /Remarks

担当者の個人ホームページから、授業のプリントをダウンロードすること (URLなどは最初の授業で説明する)。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際金融論II 【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際金融の経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	国際金融に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際金融の諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの国際金融の諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢を持つ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際金融論II

ECN364M

授業の概要 /Course Description

現代の国際金融システムの概要を知ることがを目的とする。新聞・ニュースの国際金融関係の報道内容を理解できるとともに、解説書やテキストや専門書を理解できるレベルを目標とする。

(到達目標)

【知識】国際金融に関する専門的かつ応用的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

【技能】国際金融の諸問題について、自分の見解を導き出すために必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】国際金融の諸問題について、総合的かつ論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の意見を適切な方法で発信することができる。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

奥田宏司ほか編 (2020) 『深く学べる国際金融』法律文化社、2400円 + 税 (価格は変更の可能性あり)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【】はキーワード。

- 1回 基軸通貨と国際通貨体制 【為替媒介通貨】
- 2回 各種の国際通貨体制 【固定相場制】 【変動相場制】
- 3回 為替リスクと為替持高・資金調整 【スクエア】 【カバー取引】
- 4回 デリバティブ取引 【先渡し】 【先物】 【オプション】 【スワップ】
- 5回 国際金融市場と国際資本移動 【オフショア市場】 【キャリー取引】
- 6回 欧州通貨統合の目的と経緯 【ユーロ】 【ERM】
- 7回 欧州通貨統合の構造的問題 【安定成長協定】
- 8回 途上国の発展と国際資金フロー 【G20】
- 9回 国際的な金融危機の種類 【資本収支型の危機】
- 10回 頻発する通貨危機・国際金融危機 【サブプライムローン危機】
- 11回 頻発する通貨危機・国際金融危機 【世界金融危機】
- 12回 デフォルトか救済か 【IMFコンディショナリティー】
- 13回 国際金融危機の予防 【自己資本比率規制】 【ブルーデンス政策】
- 14回 国際金融危機の予防 【流動性規制】 【ボルカールール】
- 15回 まとめと総復習-望ましい国際金融システムとは

※本講義の内容にかかわる産業・企業の実務について、講義中に詳細な説明を行う可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験... 100 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プリントの中の各授業内容に該当する箇所を授業の前後に講読すること。また、専門用語が多く出てくるので、日ごろからインターネットなどで用語を検索すること。(予習、復習、それぞれ60分程度)

履修上の注意 /Remarks

担当者の個人ホームページから、授業のプリントをダウンロードすること（URLなどは最初の授業で説明する）。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

産業組織論I【昼】

担当者名 佐藤 隆 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	企業や産業を分析するために必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	企業や産業に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの企業や産業に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの企業や産業に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

産業組織論 I

ECN341M

授業の概要 /Course Description

産業組織論とは、産業のあり方を市場の場で捉え、市場の構造、行動、成果の諸側面から検討し、市場をより効率的に機能させるための方策を解明することを目的としている。特に産業組織論では、独占禁止政策（競争政策）に焦点を当て、公正な競争のあり方とは何かについて考える。できるだけ個別に産業・企業をとりあげ、独占禁止法上（競争政策上）の問題をケース・スタディによって具体的にみながら、産業における市場のパフォーマンスを引き上げるためにどのような政策がとられているかについてみていく。到達目標として以下の点を掲げておく。

- ①市場メカニズムを理解し、市場構造、市場行動(企業の戦略的行動)、市場パフォーマンスの関係を理解する。
- ②独占禁止政策を理解する。
- ③独占禁止政策によって産業のパフォーマンスがどのように改善されるかについて理解する。

教科書 /Textbooks

小田切宏之著『競争政策論（第2版）』日本評論社 2017年
小田切宏之著『産業組織論』有斐閣 2019年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

花園誠著『産業組織とビジネスの経済学』有斐閣 2018年
大橋弘『競争政策の経済学』日本経済新聞出版 2021年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義全体の概略の説明
- 2回 競争政策(1) 競争政策とは何か? 独占禁止法入門
- 3回 競争政策(2) 競争政策はなぜ重要か? 独占禁止法の解説(外部講師の招へい)
- 4回 産業組織論の方法論的基礎 SCPパラダイム: 市場構造・市場行動・市場成果
- 5回 市場の諸類型(1) 市場構造と競争形態(完全競争・独占・寡占・独占的競争)
- 6回 市場の諸類型(2) 市場構造と競争形態(ハーフィンダール指数)
- 7回 コンテスタブル・マーケット 航空産業の事例
- 8回 地域独占産業の事例 日本の電力システムの構造改革
- 9回 共謀と暗黙の協調 カルテル(談合)と暗黙の協調
- 10回 M&Aについて(1) M & Aの定義・理論
- 11回 M&Aについて(2) 事例研究
- 12回 垂直的取引制限 再販と二重の限界性、販売サービスただ乗り問題、資生堂による対面販売の義務付け
- 13回 ネット取引とプラットフォーム プラットフォームという考え方、双方向市場の競争政策
- 14回 イノベーションと知的財産権 知的財産権 短期効率性と長期的効率性のトレードオフ、特許制度と競争政策
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義時のリアクションペーパーや出席状況、毎回の確認小テストおよび定期試験(論述問題・計算問題など)で総合的に評価する。
なお、感染状況によっては定期試験の代わりに期末レポートを課すこともある。その場合は、講義時のリアクションペーパーや出席状況、毎回の確認小テストおよび期末レポートで総合的に評価する。

産業組織論I 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、配布プリントなどを読む。事後学習としては、配布プリントなどのわからない点を調べたり、教科書・参考書などでさらに理解を深める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

産業組織論II 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 隆 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	企業や産業を分析するために必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	企業や産業に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの企業や産業に関する諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの企業や産業に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

産業組織論II

ECN342M

授業の概要 /Course Description

産業組織論とは、産業のあり方を市場の場で捉え、市場の構造、行動、成果の諸側面から検討し、市場をより効率的に機能させるための方策を解明することを目的としている。本講義では、現代を代表するさまざまな産業をとりあげ、その産業の歴史的発展に注意しながら、どのようなメカニズムで産業が進化・発展していくのかを産業組織論の観点から探求する。できるだけ個別に企業・産業をとりあげ、各企業の企業戦略をケース・スタディによって具体的にみながら、企業や産業の構造・戦略的行動および政府による政策的効果が市場の成果にどのような影響を及ぼすかを理解することを目標とする。とりあげる産業としては、ビール産業、自動車産業、情報通信産業などである。到達目標として以下の点を掲げておく。

- ①市場メカニズムを理解し、市場構造、市場行動(企業の戦略的行動)、市場パフォーマンスの関係を理解する。
- ②代表的な産業の歴史的な発展のメカニズムを理解する。
- ③政府による産業政策や競争政策、規制のあり方が産業のパフォーマンスにどのような影響を及ぼすかを理解する。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊丹敬之『日本産業三つの波』NTT出版
小田切・後藤『日本の企業進化』東洋経済新報社
浅羽茂『競争と協調の戦略』日本評論社
伊丹・加護野・小林・榊原・伊藤『競争と革新 自動車産業の企業成長』東洋経済新報社
丸山恵也・小栗崇資・加茂紀子『自動車産業』大月書店
奥野・南部・鈴木『日本の電気通信-競争と規制の経済学』日本経済新聞社
福家秀紀『情報通信産業の構造と規制緩和-日米英比較研究』
日経ビジネス

産業組織論II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに 講義全体の概略の説明、戦後経済・産業の歩み
- 2回 個別産業の研究 ビール産業(1) ビール産業の歴史、ビール産業のシェアの変動
- 3回 個別産業の研究 ビール産業(2) ドライ戦争：ス・パードライの事例研究
- 4回 個別産業の研究 ビール産業(3) 味覚戦争：製品差別化とは(水平的差別化と垂直的差別化) 味覚地図
- 5回 個別産業の研究 ビール産業(4) 発泡酒戦争の事例研究
- 6回 個別産業の研究 ビール産業(5) ビール産業の価格戦略(カルテルとプライスリーダーシップ)
補論：ドイツ・ネーランドの価格戦略
- 7回 個別産業の研究 自動車産業(1) 米国の自動車産業の歴史
- 8回 個別産業の研究 自動車産業(2) 日本の自動車産業の歴史、日本の産業政策
- 9回 個別産業の研究 自動車産業(3) 自動車産業の国際戦略・世界的再編
- 10回 個別産業の研究 自動車産業(4) トヨタ生産システムとその進化
- 11回 個別産業の研究 自動車産業(5) CASE戦略：自動車産業の100年に一度の大変革
- 12回 個別産業の研究 自動車産業(6) CASE革戦略による産業構造の変化
- 13回 個別産業の研究 情報通信産業(1) 規制改革と民営化の理論
- 14回 個別産業の研究 情報通信産業(2) 電電公社の民営化・規制改革-第1次情報通信改革-
- 15回 個別産業の研究 情報通信産業(3) 第2次情報通信改革 ブロードバンド・インターネット時代の規制政策
全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義時のリアクションペーパーや出席状況、毎回の確認小テストおよび定期試験(論述問題・計算問題など)で総合的に評価する。
なお、感染状況によっては定期試験の代わりに期末レポートを課すこともある。その場合は、講義時のリアクションペーパーや出席状況、毎回の確認小テストおよび期末レポートで総合的に評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、配布プリントなどを読む。事後学習としては、配布プリントなどのわからない点を調べたり、教科書・参考書などでさらに理解を深める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

証券市場論 【昼】

担当者名 久多里 桐子 / Kiriko Kudari / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	証券市場の仕組みの理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	証券市場に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	証券市場に関する諸問題に興味・関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

証券市場論

BUS330M

授業の概要 /Course Description

本講義では、証券と証券市場に関する仕組みや役割等の基礎事項を学ぶ。証券に関する理論に加えて、証券取引所における証券取引の仕組みや、わが国の株式市場の現況など、証券に関する制度および実務的側面についても触れる。

到達目標

- 【知識】証券市場に関する幅広い知識を体系的かつ総合的に身につけている。
- 【技能】証券取引に必要な情報を収集、分析することができる。
- 【思考・判断・表現力】証券市場に関する諸問題について、総合的、論理的に思考して解決策を探索し、自分の考えや判断を論理的に発信することができる。

教科書 /Textbooks

指定しない。毎回、講義資料をMoodleで配布するので各自印刷のうえ、講義に持参すること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 釜江廣志(編)(2015)『入門証券市場論(第3版補訂)』有斐閣。
- 小林 孝雄・芹田敏夫(2009)『新・証券投資論Ⅰー理論篇』日本経済新聞出版社。
- 伊藤敬介・荻島誠治・諏訪部貴嗣(2009)『新・証券投資論Ⅱー実務篇』日本経済新聞出版社。
- 手嶋宣久(2011)『基本から本格的に学ぶ人のためのファイナンス入門』ダイヤモンド社。
- 花枝英樹(2005)『企業財務入門』白桃書房。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回: 証券市場論の概要(ガイダンス)
- 第 2 回: 証券の役割と証券市場の機能
- 第 3 回: 発行市場と流通市場
- 第 4 回: 財務分析と株式の投資尺度
- 第 5 回: 評価の基本原則
- 第 6 回: 債券の評価
- 第 7 回: 中間テスト
- 第 8 回: 株式の評価
- 第 9 回: ポートフォリオ理論(1)【個別証券のリターンとリスク】
- 第 10 回: ポートフォリオ理論(2)【2つの証券の連動性】
- 第 11 回: ポートフォリオ理論(3)【ポートフォリオのリターンとリスク】【最適ポートフォリオ選択】
- 第 12 回: 資本資産評価モデル(CAPM)
- 第 13 回: デリバティブ取引
- 第 14 回: 投資家と投資戦略 & 証券市場の現状と諸問題
- 第 15 回: まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト20% + 中間テスト30% + 定期試験50%
定期試験を受験しなかった場合は評価不能(-)とする。

証券市場論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習: 毎回の講義資料を確認する。

事後学習: 講義内容を復習する。なお、一部の回では講義後の約1週間に限定して小テスト (成績評価を参照) 実施するため、Moodleで小テストを受験すること。

履修上の注意 /Remarks

* 計算問題が多いので、毎回の講義に電卓を持参すること。

* 小テストの公開期間は講義後の約1週間である。過去の小テストを遡及的に受験することはできないので忘れずに受験すること。

* 講義中の私語や騒音、スライドおよび板書の写真・動画撮影を禁止する。禁止事項を行った学生に対して注意しても改善が見られなかった場合、成績評価から減点の措置を取る場合もある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

証券市場に関する歴史、制度、理論など、体系的な知識の習得を目標としています。個別企業や証券市場に関するニュースもタイムリーに取り入れて紹介する予定です。

キーワード /Keywords

証券市場、投資家、債券、株式

中小企業論 【昼】

担当者名 /Instructor 吉村 英俊 / YOSHIMURA, Hidetoshi / 経営情報学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	中小企業の研究および実践の理解に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	中小企業に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	中小企業に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

中小企業論

BUS313M

授業の概要 /Course Description

わが国において、中小企業は圧倒的な存在であり、社会・経済・生活などのあらゆる分野に影響を及ぼしています。とくに中小企業の経営は、雇用や税収など、わが国経済に直結します。

- ・ 企業数の割合 = 99.7%
- ・ 従業員数の割合 = 68.8%
- ・ 付加価値額の割合 = 52.9% (以上、経済センサス(2016)による、個人事業主を含む)

当該授業では、さまざまな観点から、中小企業の現状を把握し展望について検討します。また中小企業の経営者などによる外部講師による講和を予定しています。

(到達目標)

【知識】

中小企業問題及びその経営の理解に必要な専門的知識を身につけている。

【思考・判断・表現力】

中小企業経営の課題をみずから発見し、その解決策について表現することができる。

【自律的行動力】

中小企業問題及び経営に関心を持ち続け、その解決に向けて取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

適宜、資料などを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 関智宏編著『よくわかる中小企業』ミネルヴァ書房
 渡辺幸男他『21世紀中小企業論』有斐閣アルマ
 安田武彦他『ライフサイクルから見た中小企業論』同友館
 商工組合中央金庫『中小企業の経済学』千倉書房
 中小企業庁編『中小企業白書』行政出版

中小企業論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 中小企業とは
 - 第3回 製造業①…製造業で働きませんか？
 - 第4回 製造業②…現状と展望
 - 第5回 非製造業(卸売業、小売業など)…現状と展望
 - 第6回 外部講師による講和①
 - 第7回 人材の確保と育成
 - 第8回 新事業展開
 - 第9回 海外展開
 - 第10回 スタートアップ
 - 第11回 ベトナムにおける中小企業支援事例
 - 第12回 外部講師による講和②
 - 第13回 資金調達と金融機関の役割
 - 第14回 国及び地方自治体による中小企業支援政策
 - 第15回 まとめ
- ※授業計画・内容に変更があるときは、事前に連絡します。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 原則、毎回レポートを課します…60%
(期末テストは行いません)
(レポートの提出回数が、3回以下の場合は、評価不能(-)とします)
日常の授業への取り組みも評価の対象にします…40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業の復習を行って下さい。

履修上の注意 /Remarks

日頃から、中小企業にかかる問題や動向などを、新聞やTVなどをつうじて情報収集するようにして下さい。
例えば、コロナ禍の中、中小企業はどういった状況におかれていますか。政府はどういった対策を講じようとしていますか。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- みなさん方は卒業した後、次のような立場で中小企業に係ることになります。
- ・ 中小企業に就職して、業務を遂行する。
 - ・ 企業などに就職して、中小企業と取引きをする。
 - ・ 自ら起業して経営する。
 - ・ 公的機関に就職して、中小企業の成長を支援する。

キーワード /Keywords

地方財政論 【昼】

担当者名 難波 利光 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解		
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	地方財政に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	地域における地方財政の諸問題を発見し、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	地域における地方財政の諸問題を発見し、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

地方財政論

ECN365M

授業の概要 /Course Description

本講義では、国と地方の政府間財政関係を中心に現代の自治体問題を明らかにしていきます。第1に、国家財政の基礎的な仕組みを概説します。第2に、地方自治体の財政の仕組みを租税と補助金の2点から述べた後に、現在話題となっている地方分権や地方行財政改革に視点をおき住民自治の在り方を解説します。近年、行政、住民、企業の新たな関係が見直されているなかで、住民として今何ができるのかについて具体的な事例をあげ一緒に考えていきます。

この講義の到達目標は、自治体における財政の在り方とは何かであり、財政の役割について理解することです。さらに、住民として自らが納める税や社会保険料がどの様に使われているのかについて知り、今後起こりうる財政問題を考え、それに対する対応策について考える。本講義は、公務員を志望する学生にとって、公務の意義や役割について理解を深めることができる。

(到達目標)

【知識】 地域財政に関する専門的な知識を体系的に身につけている。

【思考・判断・表現力】 地方財政について論理的に思考し、専門的見地から自分の考えや判断を明確に表現することができる。

【自律的行動力】 地方財政への関心とキャリア意識を持ち続け、自ら学修に取り組む意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

山本隆・難波利光・森裕亮編著『ローカルガバナンスと現代行財政』ミネルヴァ書房 2008年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.財政とはなにか
- 2.住民生活と地方財政
- 3.財政の役割と機能
- 4.公共財の理論
- 5.国と地方の財政関係
- 6.租税原則と地方税
- 7.地方財政計画
- 8.財政調整制度
- 9.中間試験
- 10.自治体財政分析
- 11.財政破綻の教訓
- 12.地方財政と地域経済
- 13.地方財政と福祉政策
- 14.財政の自治を考える
- 15.地方財政のまとめ

地方財政論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 40% 期末試験 60%
試験は、配付資料、手書きノートの持ち込み可能。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として地方財政に関する時事問題に関心をもち講義の内容と重ね合わせるようにしておく。また、事後学習として参考図書等を参考にしながら関心を持った内容についてより深めて学習する。

履修上の注意 /Remarks

新聞等のメディアを通して財政、行政に関しての現状認識を深めておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

労働経済学Ⅰ【昼】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 労働に関する経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 労働に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができています。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 身の回りの労働に関する経済の諸問題を発見できる。
	生涯学習力	● 身の回りの労働に関する経済の諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

労働経済学Ⅰ

ECN343M

授業の概要 /Course Description

多くの人間は人生の大半を「労働」に費やします。多くの人間にとって「労働」は生活の基盤であり、多くの人間にとって「労働」とは社会参加の重要なチャンネルです。しかしながら、失業、不安定雇用、低賃金、賃金格差など「労働」には多くの問題がつきものです。本講義では、「労働」に関する問題を議論するために必要な「労働市場」の考え方を中心に解説します。どのような問題があり、どのような解決策が議論され、どのような意見の不一致があるのかを理解することを目標とします。

(到達目標)

【知識】労働経済に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】経済学的分析手法を労働市場に活用するスキルを身につけている。

【思考・判断・表現力】労働市場の経済学的問題とその原因を論理的に推測し、その対策を検討することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。毎回の講義で資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『労働市場の経済学 - 働き方の未来を考えるために』, 大橋勇雄, 中村二郎著, 有斐閣.

『労働経済学』, 樋口美雄, 東洋経済新報社.

『仕事の経済学』, 小池和男著, 東洋経済新報社.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 経済学の視点から見た労働 【労働】 【給与水準】
- 第2回 社会的分業と生産性 【分業の利益】 【規模の経済】
- 第3回 労働市場という概念と機能 【労働力の取引】 【労働市場】
- 第4回 労働力の質の質と技能 【人的資本】 【一般的・企業特殊技能】
- 第5回 企業の労働需要 【労働の限界収入】 【企業の労働需要曲線】
- 第6回 市場の労働需要 【代替と補完】 【市場の労働需要曲線】
- 第7回 個人の労働供給 【労働の限界不効用】 【個人の労働供給曲線】
- 第8回 市場の労働供給 【市場の労働供給曲線】 【労働移動】
- 第9回 労働市場のメカニズム 【市場メカニズム】 【補償賃金】
- 第10回 中間課題
- 第11回 労働市場への介入とその帰結 【価格規制】 【数量規制】
- 第12回 失業の原因と対策(1) 【オークンの法則】 【賃金の下方硬直性】
- 第13回 失業の原因と対策(2) 【ミスマッチ】 【摩擦的失業】 【構造的失業】
- 第14回 公的部門の労働市場 【公的部門】 【民間準拠】
- 第15回 労働市場の内部化 【内部労働市場】 【正社員】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業内容確認テスト(20%) + 中間課題(30%) + 期末試験or期末課題(50%)

労働経済学I 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

課題を提示しますので取り組みましょう。
参考資料を提示するので各自で読みましょう。

履修上の注意 /Remarks

授業時間内に課題に取り組むことがあります。課題に回答するためにはスマートフォンやPC等が必要です。持参しましょう。毎回、Moodleコースを閲覧しましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会的分業、労働市場、失業、

労働経済学II 【昼】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 労働に関する経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 労働に関する経済の諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	● 身の回りの労働に関する経済の諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	● 身の回りの労働に関する経済の諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

労働経済学II

ECN344M

授業の概要 /Course Description

この授業扱うのは、労働経済学の中でも「人事経済学(Personnel Economics)」といわれる分野です。「人事経済学」とは、経営学の方野でいうところの「人的資源管理」について経済学的アプローチにより考察する分野であるといえます。企業の生産性を左右する主要因の一つは「ヒト」です。企業は適切な人材を採用し、適切に訓練し、適切な職務配置を行う必要があります。どのような人をどのようにして選び採用すべきなのか、誰をどの程訓練すべきか、といった人事上の基本的な課題を考えます。

(到達目標)

【知識】人事経済学に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】経済学的分析手法を人事に活用するスキルを身につけている。

【思考・判断・表現力】人事の経済学的問題とその原因を論理的に推測し、その対策を検討することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。毎回の講義で資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『組織の経済学』, ポール・ミルグロム, ジョン・ロバーツ著 (奥野正寛他 訳) NTT出版.

『人事と組織の経済学』, エドワード・ラジャー著 (樋口美雄・清家篤訳), 日本経済新聞社.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 人事マネジメントとは 【人事経済学】
- 第2回 組織構造とインセンティブ 【情報伝達】 【インセンティブ】 【権限】
- 第3回 組織とフリーライド問題(1) 【ナッシュ均衡】 【フリーライド】
- 第4回 組織とフリーライド問題(2) 【監督者】 【残余利潤請求権】
- 第5回 事業規模と雇用量 【限界基準】 【代替と補完】
- 第6回 採用選抜 【スクリーニング】 【自己選抜】
- 第7回 雇用調整(1) 【調整費用】 【長期的視野】
- 第8回 雇用調整(2) 【採用費用】 【解雇費用】
- 第9回 離職と解雇 【解雇規制】 【割増退職金】
- 第10回 インセンティブと報酬体系(1) 【参加制約】 【インセンティブ制約】
- 第11回 インセンティブと報酬体系(2) 【プロフィットシェアリング】 【モニタリング問題】
- 第12回 インセンティブと報酬体系(3) 【固定給】 【出来高給】
- 第13回 報酬体系の設計(1) 【投入量ベース】 【産出量ベース】
- 第14回 報酬体系の設計(2) 【絶対評価】 【相対評価】
- 第15回 報酬体系の事例 【俸給表】 【コミッション】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業内容確認テスト(30%) + 中間課題2回(40%) + 期末試験or期末課題(30%)

労働経済学II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

練習問題を提示するので取り組むこと。参考資料を提示するので各自で読むこと。

履修上の注意 /Remarks

授業時間内に課題に取り組むことがあります。課題に回答するためにはスマートフォンやPC等が必要です。持参しましょう。毎回、Moodleコースを閲覧しましょう。

履修済みであることが望ましい科目：労働経済学

並行学習が効果的である科目：人事管理論、経営組織論、雇用関係法

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人事経済学、インセンティブ設計、報酬体系、採用、離職、解雇

人的資源管理論【昼】

担当者名 丸子 敬仁 / Takahito Maruko / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	人的資源管理の理論および実践の理解に必要な専門的知識を理解する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	人的資源管理に関する諸問題を体系的に理解し、みずから課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	人的資源管理の諸問題に対する関心および探究心をもち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

人的資源管理論

BUS310M

授業の概要 /Course Description

昨今、日本では様々な労働に関する問題がニュースで取り上げられています。労働問題に対する切り口は様々あります。この講義では、その多々ある切り口の一つとして、人的資源管理論という視点を学びます。人的資源管理論は、企業内の人々をいかに生き活きと働けるようにするか、人事制度に着目しながら考える研究分野です。この分野を学ぶことで、企業（経営）側の視点から労働問題について考えることができるようになるでしょう。

この講義を通して、巷にあふれる労働に関する問題について、さらに深く思考する力を育みたいと考えています。

以下、各到達目標について

知識：人的資源管理の理論および実践の理解に必要な専門的知識を身につけている。

技能：人的資源管理の制度を設計し運用することができる。

思考・判断・表現力：人的資源管理に関する諸問題を体系的に理解し、みずから課題を発見しその解決策について表現することができる。

教科書 /Textbooks

配布資料をテキストとします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

平野光俊・江夏幾多郎 (2018) 『人事管理 - 人と企業、ともに生きるために - 』有斐閣ストウディア○

人的資源管理論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
授業スケジュールの確認，教科書や参考文献の使い方，試験やレポートについての注意事項などをご説明します。
- 第2回 人事制度を学ぶとはどういうことか
経営の中での人事制度の役割について学びます。
- 第3回 雇用管理
日本企業における採用・配置・異動・退職までのマネジメントを学びます。
- 第4回 能力開発
企業内の労働者の能力開発について，昇進昇格構造に着目しながら学びます。
- 第5回 ジョブディスクリプションにまつわる課題
人事等級制度の内部には考課制度と賃金制度，そして昇進昇格構造があります。ここではこれら内部のシステムのうち，考課制度について賃金制度と関連付けながら学びます。
- 第6回 人事等級制度
人事等級制度は人事管理の基本システムです。ここでは日本企業において伝統的な人事等級制度である，職能資格制度について，職務等級制度と比較しながら学びます。
- 第7回 考課制度
企業内の労働者をどう評価するか，人事考課制度に着目しながら学びます。
- 第8回 賃金制度
日本企業における賃金を決定するためのルールについて，歴史的変遷に着目しながら学びます。
- 第9回 ジョブ型・メンバーシップ型の議論
日本の人的資源管理論および人事労務管理論の分野ではこの10年「ジョブ型・メンバーシップ型」の議論が活発になっています。第9回ではこの議論について少し見ていくこととします。
- 第10回 日本の労務管理研究は“働き方”をどのように捉えてきたのか
“働き方”といってもいろいろな捉え方があります。第10回では，学術の現場では“働き方”がどのように捉えられてきたのか，またその捉え方についてのどのような問題があるのかを考えていきます。
- 第11回 多様な働き方① - キャリア論から -
近年ダイバーシティ（多様性）という言葉が世界的にも浸透してきています。働き方についても多様性はもちろんあります。第11回ではキャリア論（場合によっては雇用区分の観点から）の視点から様々な働き方について見ていきます。
- 第12回 多様な働き方② - 女性労働者の議論から -
日本の人事制度は性別役割分業を前提として制度設計がなされているということが多々あります。近年ではこの問題は徐々に解消されてきていますが，問題はまだ残っています。したがって，ジェンダーに対する理解が深まっている昨今ですが，敢えて「女性」という言葉を用いて働き方の議論について見ていきます。
- 第13回 多様な働き方実現に向けての課題 - 人事制度の本質的課題から -
11回・12回では多様な働き方について見ていきました。多様な働き方を実現するには様々な障害があります。実のところ，人事制度もその障害のうちの一つです。人事制度にまつわる障害をどのように克服するべきなのか「人事プラクティス」という概念に着目しながら学びます。
- 第14回 人的資源管理論をより高度に理解する
第14回の内容は少し高度です。人的資源管理論を専門とする研究者が今何を大きな課題として捉えているかを把握します。
- 第15回 まとめ
全体を振り返り，ポイントの整理と今後の展望を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 学期末試験50%，中間レポート50%で評価する。
60点以上の者に単位を与える。
レポートを提出しなかった者，定期試験を受験しなかった者はいずれも評価不能（－）とする。
- ※中間レポートについて，優れた内容，興味深い内容は授業内で紹介する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習（第2回以降）：事前に配布する資料を読んで疑問点等をまとめておくこと。
事後学習：配布した資料を見直して授業のポイントを確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ビジネス英語研究【昼】

担当者名 /Instructor ブルック 前田 / Brooke Maeda / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	社会の諸問題についての専門的知識を身につけている。	
技能	専門分野のスキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	英語を通して得られる情報を駆使し、諸問題を探求することができる。	
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	卒業後も、生涯にわたり学ぼうとする高い意欲を持ち続けることができる。	
	コミュニケーション力			

※英米学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ビジネス英語研究

ENG232M

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

知識：国際貿易とファイナンスに関する基礎的な知識を総合的に身につけている。

思考・判断・表現力：国際貿易の観点からの分析をもとに、自分の意見を明確に発現することができる。

自立的行動力：国際貿易への関心とキャリア意識を持ち続け、実践的な知識を有している。

In this course students will learn about the basic concepts in trade and finance from an international perspective. The benefits of foreign trade and trade restrictions will be discussed, followed by a look at exchange rates and the foreign exchange market. This knowledge will be applied to discussions about the current global situation and analysis of case studies.

教科書 /Textbooks

No set textbook. Materials will be distributed during class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Additional references may be recommended during class.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction
2. Basic concepts in economics: The production possibility frontier, comparative advantage
3. The costs and benefits of trade
4. Imports, exports and the balance of trade
5. Restrictions on trade
6. The current global trade situation
7. Group presentations: 1
8. Foreign exchange markets and exchange rates
9. Factors which affect exchange rates 1
10. Factors which affect exchange rates 2
11. Exchange rate risk
12. International investment decisions and foreign operations
13. Case studies, vocabulary test
14. Group presentations: 2
15. Group presentations: 2

(Note: Class schedule could be changed)

ビジネス英語研究 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation	20%
Group presentation 1	20%
Group presentation 2 & Group report	40%
Vocabulary test	20%

If you are absent more than five times, you will receive a failing grade (－). 5回以上欠席した場合は、評価不能(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Read the preparation handout, which includes a vocabulary list, before coming to each class.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Knowledge of economics and finance is not required, as the material will be taught at a beginners level.

キーワード /Keywords

Economics, Finance, Trade.

教職論 【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教職論は、通常の場合、4年間の教職課程への導入的性格を持つ科目である。

本授業では、教職という仕事の社会的意義と役割、また、教員に求められる資質や倫理の内容を理解するとともに、本学出身者の若手の教員の体験報告とその後の意見交流、ベテラン教員の講演と意見交流を通して、教員という仕事の喜びや困難さを理解し、自らの進路選択を検討するとともに、めざすべき教員像を探求する。

また、教員の職務内容の全体像と教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解するとともに、今日の学校が担うべき役割を実現していくために必要不可欠な教職員や多様な専門職種との連携の在り方について検討する。

なお、この科目は「教職に関する科目」のカリキュラムマップでは、1類 - 1 に該当する科目である。

到達目標 教職という仕事に関する基本的な知識を理解している。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回の授業で必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩田康之・高野和子編 「教職論」 学文社
文科省 中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション 本授業の目的と進め方、「教職課程を履修する目的」に関するアンケート
2. 教育に求められる実践的指導力と学校ボランティア体験の意義(外部講師の報告)
3. 教員に求められる資質 その1 共感的理解と対話力
4. 今日の教員に求められる役割と職務内容について(講師 森恵美先生)
5. 教員に求められる資質その2 生徒指導と学級経営(学級づくり) - 実践報告を手がかりに
6. 教員に求められる資質その3 教科指導と授業づくり(本学出身の教員の実践報告と意見交流)
7. チーム学校と専門職との連携 その1 「特別なニーズ」を持つ子どもへの支援
8. チーム学校と専門職との連携 その2 被虐待・貧困状況にある子どもと家族への支援
9. 教員に求められる資質その4 特別活動と学級づくり(本学出身の教員の報告と意見交流)
10. 学級づくりに関するグループワーク
11. 現代社会における学校教育の課題 その1 セクシュアルマイノリティの生徒と学校づくり
12. 現代社会における学校教育の課題 その2 部活動・体罰問題を考える。
13. 現代社会における学校教育の課題 その3 「道徳教育」をめぐる問題を考える。
14. 若手教員からみた教員の仕事の生きがいと悩み(本学出身の中学校教員の報告と意見交流)
15. 全体のまとめと課題の説明

* 講師の都合などにより、計画が変更になることがある点、了解されたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(授業内で実施するミニレポート等) 50点、レポート試験50点
出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。
(6回以上欠席した場合や最終レポートを提出しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 新聞記事やテレビなどを通して日常的に生じている教育の問題に関心を持ち、自分自身の見解を持つ努力をすること
- ・ 授業での現職教員との出会いを通して、自分自身が理想とする教師像を育てていくこと
- ・ 学校現場でのボランティア体験などを通して、教師としての実践的指導力の獲得に向けての自己教育の課題に取り組むこと

教職論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

この授業はすべての回に出席し、毎回のミニレポートを提出してもらうことを前提にして進めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では多くの学校現場の先生に来ていただいて、教師という仕事の魅力と困難さを語っていただきます。
この半年の授業のなかで皆さん自身がめざすべき「教師像」を育んでもらえることを願っています。

キーワード /Keywords

教職の意義と役割、教員の仕事、理想の教師像

教育原理【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

課題

発達と教育、教育思想や教育史等、教育についての基礎的な知識を習得し、現代の教育における課題について学ぶ。

到達目標

教育に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

- ①教育に関わる基礎的な専門知識を習得する。
- ②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

(以下、平成26年度以降入学生)

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-1」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ、授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：教育の関係：教育のモデル・家族・学校
- 2回 生涯にわたる発達と教育：生涯発達
- 3回 発達課題と教育支援：思春期・青年期
- 4回 教育思想①：諸外国の教育思想
- 5回 教育思想②：日本の教育思想
- 6回 教育史①：西洋の教育史
- 7回 教育史②：日本の教育史
- 8回 学ぶ意欲と教育指導
- 9回 学校教育の機能：基礎集団としての学級
- 10回 学校の制度：学校体系
- 11回 学校教育の課題：学校で生じる問題
- 12回 メディアと教育：メディアと子ども・教材・方法
- 13回 国際化と教育：言語・文化
- 14回 仕事と教育：進路形成
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小課題等) 40%

最終課題(試験) 60%

* 感染症拡大の状況等によってはレポート課題に切り替えることもある。これについては授業中に改めて指示する。

* 3分の2以上の出席が最終課題(試験)受験資格

* 6回以上欠席した場合や最終課題(試験)を受験しなかった場合は原則評価不能(-)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。

配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。

発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

教育原理 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

発達心理学【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である (Butterworth, 1994)。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。

また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「1類 - 2」に分類される科目である。

(到達目標)

【知識】発達心理学に関する基礎的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著 『発達心理学 周りの世界とかわりながら人はいかに育つか (いちばんはじめに読む心理学の本 3)』 ミネルヴァ書房 ¥2750

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文部科学省 (2011) 「生徒指導提要」

その他、授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とはどのような学問か
- 第2回 胎児期・乳児期の赤ちゃんの発達【知覚】
- 第3回 乳児期の赤ちゃんの認知と言語の発達【認知、言語】
- 第4回 赤ちゃんのもつ能力と生後1年間の変化について
- 第5回 乳児期の人との関係のはじまりについて【発達早期のコミュニケーション】
- 第6回 愛着の形成【愛着、内的作業モデル】
- 第7回 愛着の形成【成人の愛着、愛着の世代間伝達】
- 第8回 まとめ と レポート課題1
- 第9回 乳幼児期のコミュニケーション発達【共同注意】
- 第10回 他者とのコミュニケーション、心を推測する力【表象、心の理論】
- 第11回 児童期における思考の深まり【論理的思考、メタ認知】
- 第12回 自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
- 第13回 成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
- 第14回 児童生徒の心理と理解【発達障害の基本的理解】
- 第15回 まとめ と レポート課題2

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 20% レポート課題 ... 80%

6回以上欠席した場合やレポート課題(2回)を提出しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業範囲を予告するので、教科書等の該当部分を予習してくること。また、授業終了後には教科書や配布プリントを用いて各自復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育制度論 【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教育制度に関わる基礎的な知識を習得するとともに、現代の教育制度における問題について、諸外国の事例もふまえながら考察する。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 3」に分類される科目である。

到達目標

- (知識・理解) 教育制度についての基本的概念、法則を理解し、基礎的な専門知識を身に付けている。
- (思考・判断・表現) 教育制度に関わる問題や課題を的確に捉え、総合的な視点から考察して結論を導くことができる。
- (生涯学習力) 教育制度に関わる事象に問題意識をもち、主体的に学習できる。

教科書 /Textbooks

なし。必要に応じて、プリント・資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教育制度の基本原則(1) 教育制度とは
- 2回 教育制度の基本原則(2) 日本の教育法制
- 3回 学校制度の基本的事項(1) 機会均等、義務教育
- 4回 学校制度の基本的事項(2) 中等教育、学校体系
- 5回 学校制度の基本的事項(3) 就学・懲戒
- 6回 教科書に関する制度
- 7回 教員制度の基本的事項(1) 教員免許法制
- 8回 教員制度の基本的事項(2) 教員の指導力、研修
- 9回 教員制度の基本的事項(3) 公務員としての教師、教員の待遇
- 10回 教育行財政の仕組み(1) 中央教育行政、地方教育行政
- 11回 教育行財政の仕組み(2) 教育委員会と学校
- 12回 学校関係者による協力支援の制度
- 13回 地域社会の変容と学校
- 14回 教育制度改革の動向
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 平常の学習状況 40% 最終課題(試験) 60%
- * 3分の2以上の出席が最終課題(試験)受験資格
 - * 6回以上欠席した場合や最終課題(試験)を受験しなかった場合は原則評価不能(-)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 教育について興味・関心をもって臨むこと。
- 配布したレジュメ・資料をよく読んでおくこと。
- 発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めする。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育課程論【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

概要

教育課程に関わる概念や学校における教育課程編成・方法、学習指導要領に関する基礎的な知識を習得し、今日の教育課程の課題について学ぶ。

到達目標

教育課程に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

- ①教育課程に関わる基礎的な知識を習得する。
- ②教育課程の課題について整理し、対応策などを考えることができるようになる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。

プリント（講義レジュメ及び資料）を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に配布するプリントに提示するもの他、必要に応じ適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 教育課程の基本原則 (1) カリキュラムとは
- 第 2回 教育課程の基本原則 (2) カリキュラムの類型
- 第 3回 教育課程の変遷と学習指導要領
- 第 4回 学力と教育課程 (1) 教育課程設計の前提となる「力」
- 第 5回 学力と教育課程 (2) 学習状況調査の影響
- 第 6回 諸外国の教育課程
- 第 7回 教育課程の編成 (1) 教科教育
- 第 8回 教育課程の編成 (2) 教科外教育
- 第 9回 学習環境のデザイン
- 第10回 教育課程の評価
- 第11回 教育課程の開発
- 第12回 カリキュラム・マネジメントと学校改善
- 第13回 今日の課題と教育課程 (1) 異文化理解
- 第14回 今日の課題と教育課程 (2) ESD
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小課題等) 40%

最終課題 (試験) 60%

* 感染症拡大の状況等によってはレポート課題に切り替えることもある。これについては授業中に改めて指示する。

* 3分の2以上の出席が最終課題 (試験) 受験資格

* 6回以上欠席した場合や最終課題 (試験) を受験しなかった場合は原則評価不能 (-)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。

配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。

発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会科学教育法 A 【昼】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本授業では、社会科学を担当する教員に必要な基本的知識や資質について、学習指導要領に基づいて解説する。

到達目標

- ・ 学習指導要領に基づき、社会科学の教員に必要な基本的知識や資質について理解している。
- ・ 社会科学の各分野に必要とされる具体的な技能や方法（指導計画、社会科学における資料活用、教材研究の方法、学習指導案の作成）など、社会科学の授業を行っていく上での基礎的な知見を修得している。
- ・ 教師としての使命感について理解している。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

「中学校学習指導要領解説社会編」（平成29年告示・文部科学省）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 二谷貞夫・和田清司編2007『中等社会科学の理論と実践』学文社
- ・ 他に、授業で紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション 教育の目的と社会科学の役割
 - 第2回：社会科学の目標と内容 社会科学教師としての資質・能力について
 - 第3回：学習指導要領の変遷 新しい学習指導要領について
 - 第4回：地理的分野の目標と内容
 - 第5回：歴史的分野の目標と内容
 - 第6回：公民的分野の目標と内容
 - 第7回：社会科学の授業づくり 教材研究
 - 第8回：社会科学の授業づくり 地図帳・地理の学習について
 - 第9回：社会科学の授業づくり 教科書の変遷や内容の取り扱いについて
 - 第10回：社会科学の授業づくり 実生活との関連や法と政治について
 - 第11回：社会科学の授業づくり 授業研究・授業記録・実践紹介
 - 第12回：社会科学の授業づくり 社会を教えるということ 指導案の作成
 - 第13回：学習指導案の作成と実践 指導観・教材観・生徒観 模擬授業（1）
 - 第14回：学習指導案の作成と実践 授業計画 模擬授業（2）
 - 第15回：まとめ
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

- 授業への参加度（グループ発表や質疑などへの参加）・・・ 30%
- 最終試験・課題レポート・・・ 40%
- 学習指導案作成・・・ 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：学習指導要領解説の読み込み、指導案の作成など
グループワーク・発表の準備（受講人数によって課題の変更あり）
- 事後学習：学習指導要領に関する理解の確認、講義後に指示を行う

社会科学教育法 A 【昼】

履修上の注意 /Remarks

課題や発表について、期日を守るよう心掛けてもらいたい。
授業までに、報告者以外も該当箇所・資料を読んでおくこと。

授業後には、報告者以外にも要約・感想などの提出を求める。
なお出席は、3分の2以上している事が定期試験を受ける前提条件とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の中では、グループワークやディスカッションをとり入れるため、積極的な参加を望む。

キーワード /Keywords

社会科学教育法B 【昼】

担当者名 /Instructor 吉村 義則 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本講義は、社会科学教授のための基本的な知識と技能を習得することを目的とする。

◎到達目標

- ・ 学習指導要領に基づき、社会科学の教員に必要な知識や資質について十分に理解している。
- ・ 社会科学の各分野に必要とされる具体的な技能や方法（指導計画、社会科学における資料活用、教材研究の方法、学習指導案の作成）など、社会科学の授業を行っていく上で求められる知見を修得している。
- ・ 中等教育における社会科学、地理歴史科の特色とそれら各分野の関連を理論的かつ実践的に考えていくことができる。
- ・ 教師としての使命感を自覚している。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

「中学校学習指導要領解説 社会編」文部科学省（平成29年告示）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 インTRODクシヨン
- 第 2 回 学習指導要領における社会科学の位置付け
- 第 3 回 教育実習を想定した授業実践及びICT活用による教科指導について
- 第 4 回 指導案作成上の留意点
- 第 5 回 指導案作成と教材研究・教材開発
- 第 6 回 資料活用法、オリジナル教材の作成
- 第 7 回 社会科学におけるアクティブラーニング
- 第 8 回 模擬授業（地理的分野①）
- 第 9 回 模擬授業（地理的分野②）
- 第 10 回 模擬授業（歴史的分野①）
- 第 11 回 模擬授業（歴史的分野②）
- 第 12 回 模擬授業（公民的分野①）
- 第 13 回 模擬授業（公民的分野②）
- 第 14 回 模擬授業（授業研究と評価）
- 第 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ◎授業への参加・貢献度（出席・意見発表・質疑等） 70%
- ◎模擬授業の際に提出する指導案 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ◎教材研究、指導案の準備については適宜打ち合わせを行う。

履修上の注意 /Remarks

- ◎積極的な授業参加が望まれる（授業後に感想用紙提出）。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会科学教育法C 【昼】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本授業では、社会科学教育法I、IIの授業で学習した社会科学の知識と教授方法の基礎を前提として、社会科学教師としてのより実践的な指導力の育成を目指す。

〈到達目標〉

- ・ 社会科学の教員に必要な発展的な知識や資質について、学習指導要領に基づいて解説することができる。
- ・ 社会科学の各分野に必要とされる具体的な技能や方法（指導計画、社会科学における資料活用、教材研究、学習指導案の作成）を踏まえて、指導計画と学習指導案を作成することができる。
- ・ 社会科学における授業の価値について理解し、教師としての使命感を深く自覚している。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

「中学校学習指導要領解説 社会編」（平成29年告示・文部科学省）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 二谷貞夫・和田清司編 2007『中等社会科学の理論と実践』学文社
 日本教育方法学会編 2009『日本の授業研究 - Lesson Study in Japan - 授業研究の歴史と教師教育〈上巻〉』
 ・他にも、授業で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション 授業目標・成績評価の方法・進め方
 第2回：新しい学習指導要領における中学社会科学と学問領域との関係
 第3回：個が育つ教育 授業分析の視座（教師・生徒・社会の立場から）
 第4回：「単元」を意識した授業づくり 社会科学の持つ連続性
 第5回：授業研究・教材研究 素材から教材・学習材への発展・ICTの活用
 第6回：授業を捉えるために 協働的な学びとアクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）
 第7回：授業を捉えるために 授業を評価する（批判的思考とPDCAサイクル・改善の営み）
 第8回：授業のデザイン 指導案および教材の作成（1）
 第9回：授業のデザイン 指導案および教材の作成（2）
 第10回：各自の指導案の相互分析と評価・改善(1) プレゼンテーションと意見交換
 第11回：各自の指導案の相互分析と評価・改善(2) プレゼンテーションと意見交換
 第12回：模擬授業 実践と評価
 第13回：模擬授業 実践と評価
 第14回：模擬授業 実践と評価
 第15回：まとめ 教師としての学び

定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

- 授業への参加度（授業デザイン発表や意見交換への参加）・・・ 30%
 最終試験・課題レポート・・・ 30%
 学習指導案の作成および資料作成・・・ 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：講義内での配布資料の読み込み、指導案の作成など
 ペアワーク・プレゼン発表の準備（受講人数によって課題の変更あり）
 事後学習：小レポートによる振り返り

社会科教育法C 【昼】

履修上の注意 /Remarks

課題や模擬授業について、期日を守るよう心掛けてもらいたい。
授業までに、報告者以外も指示された該当箇所・資料を読んでおくこと。
授業後には、報告者以外にも要約・感想などの提出を求める。
なお出席は3分の2以上している事が、単位認定試験を受ける前提条件とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の中では、グループワークやディスカッションをとり入れるため、積極的な参加を望む。

キーワード /Keywords

社会科学教育法D 【昼】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

これまでの社会科学教育法の内容を踏まえたうえで、模擬授業や授業検討を行い授業の実践力を養っていく。

〈到達目標〉

- ① 社会科の教員に必要な基本的知識や資質について、学習指導要領に基づいて詳しく解説することができる。
- ② 社会科の各分野に必要とされる具体的な技能や方法（指導計画、社会科における資料活用、教材研究、学習指導案の作成）を踏まえて模擬授業を行うことができる。
- ③ 中等教育における社会科、地理歴史科の特色とそれら各分野の関連を理論的かつ実践的に解説することができる。
- ④ 教師としての使命感を深く自覚して、行動することができる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

「中学校学習指導要領解説 社会編」（平成29年告示・文部科学省）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 二谷貞夫・和井田清司編2007『中等社会科の理論と実践』学文社
- ・ 他に、授業で紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：社会科学教育法IVの目的・進め方・準備に関する説明
 - 第2回：社会科指導案の作成と授業づくり 1
 - 第3回：社会科模擬授業 1
 - 第4回：社会科授業省察会(体験の共有化と省察)・授業検討
 - 第5回：社会科模擬授業 2
 - 第6回：社会科授業省察会(体験の共有化と省察)・授業検討
 - 第7回：社会科模擬授業 3
 - 第8回：社会科授業省察会(体験の共有化と省察)・授業検討
 - 第9回：社会科模擬授業 4
 - 第10回：社会科授業省察会(体験の共有化と省察)・授業検討
 - 第11回：社会科模擬授業 5
 - 第12回：社会科授業省察会(体験の共有化と省察)・授業検討
 - 第13回：社会科模擬授業 6
 - 第14回：社会科授業省察会(体験の共有化と省察)・授業検討
 - 第15回：講義のまとめ
- 学期末試験

成績評価の方法 /Assessment Method

模擬授業の実践および参加・指導案などの授業デザインに関するもの：60%
期末試験：40%

なお、出席回数10回以上がテストを受ける前提条件とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習指導要領解説の読み込み、指導案の作成など
模擬授業に必要な教材開発など（受講人数によって課題の変更あり）

事後学習：学習指導要領に関する理解の確認や授業の反省についての確認。講義後に指示する。

社会科学教育法D 【昼】

履修上の注意 /Remarks

模擬授業について、期日を守るよう心掛けてもらいたい。
受講人数によって、日程が多少変わりますが、模擬授業実践⇒検討の流れで展開します。
授業後には、報告者以外にも要約・感想などの提出を求める。

なお出席は、3分の2以上している事がテストを受ける前提条件とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでの社会科学教育法で学んだことを発揮しつつ、よりよい実践としていくことがねらいとなります。
模擬授業が中心になりますので、いろいろな授業方法の工夫を期待しています。

キーワード /Keywords

道徳教育指導論【昼】

担当者名 /Instructor 船原 将太 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本講義では、道徳・道徳教育とは何かを問う作業から始め、それをもとに、現在の学校教育における道徳教育の目的と内容について学ぶ。そのために講義の前半では、私たちが日ごろ行っている些細な「正しさについての判断」を検討し、この判断の妥当性が形成される歴史的過程を追っていくこととなる。また、いくつかの現代的課題について取り上げ、道徳教育に必要な思考力を鍛える。さらに、「道徳の授業」に関する著名な教材の分析を行うとともに、実際に指導する場面を想定し、学習指導案の作成などを行っていく。このことより、道徳教育の実践的な指導力の育成をはかるものとする。

本科目の到達目標は、道徳教育指導に必要な基本的な知見を身につけているものとする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。各回、必要な資料を配布し、これをもとに講義を実施する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の際に、適宜提示するものとする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、道徳とは何か
- 第2回：社会における「正しさの基準」について
- 第3回：道徳教育の変遷①ー戦前
- 第4回：道徳教育の変遷②ー戦後
- 第5回：「道徳」の特別教科化をめぐる諸問題
- 第6回：道徳教育の目標と各教科・特別活動等における指導内容
- 第7回：道徳教育の現代的課題①(グループ討論)
- 第8回：道徳教育の現代的課題②(グループ討論)
- 第9回：道徳教育の現代的課題③(グループ討論)
- 第10回：道徳教育の現代的課題④(グループ討論)
- 第11回：道徳科の学習指導案の作成方法
- 第12回：道徳教育の教材研究①
- 第13回：道徳教育の教材研究②
- 第14回：指導案作成
- 第15回：道徳教育の今日的な意義について

成績評価の方法 /Assessment Method

学習指導案：50%
コメントシート：20%
小テスト：30%
出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。
6回以上欠席した場合や最終試験を受験しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜、指示する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育相談【昼】

担当者名 山下 智也 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本授業では、学校での教育相談の意義、生徒の問題行動の理解、教育相談の理論と技法（積極的傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など）を習得する。

また、不登校やいじめ、発達障害、非行、自傷・自殺、虐待等、様々な問題を表出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて検討するとともに、教育相談の組織的な体制づくりや関係諸機関との連携の課題を考察する。

<到達目標>

【知識】教育相談の意義を理解し、関連する専門的な知識を身につけている。

【思考・判断・表現力】教育相談に関する知識を元に、適切な支援の道筋を見出すことができる。

この科目は、履修ガイドの「教育の基礎的理解に関する科目等」カリキュラムマップの「II類-2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

虐待 いじめ 悲しみから希望へ 楠凡之（著） 高文研
その他、適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

生徒指導提要 文部科学省
Next教科書シリーズ 教育相談 津川律子、山口義枝、北村世都（著） 弘文堂
子どものこころの支援 連携・協働ワークブック 前川あさみ（編著） 金子書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：本講義のオリエンテーション、教育相談の歴史
 - 第2回：学校における教育相談の現代的意義と課題
 - 第3回：教育相談とカウンセリング（カウンセリングマインドの理解も含む）
 - 第4回：子どもの問題行動の意味（子ども理解も含む）
 - 第5回：教育相談の実際①（発達障害、不登校、いじめ等）
 - 第6回：教育相談の実際②（非行、自傷・自殺、虐待等）
 - 第7回：教育相談の基本的な理論の修得（来談者中心療法等）
 - 第8回：教育相談の基本的なスキル①（受容、傾聴、共感的理解、開かれた質問等）
 - 第9回：教育相談の基本的なスキル②（感情の明確化、共感的応答、直面化等）
 - 第10回：教育相談に役立つ心理的支援①（アサーション、ブリーフセラピー等）
 - 第11回：教育相談に役立つ心理的支援②（行動療法、認知行動療法等）
 - 第12回：教育相談に役立つ心理的支援③（ストレスコーピング、ストレスマネジメント等）
 - 第13回：教育相談のための連携と協働①（保護者との相談、学内での体制づくり等）
 - 第14回：教育相談のための連携と協働②（関係諸機関との連携）
 - 第15回：本講義全体のまとめ
- 最終試験

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・ミニレポート 40%
最終試験 60%
(出席について、原則として3分の2以上の出席を最終試験受験資格とする。)
(6回以上欠席した場合や最終試験を受験しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回回の予告を行い、関連キーワードを調べておくなど、次回までの課題を提示する（必要な学習時間の目安は60分）。
事後学習：授業の冒頭で、前回の授業内容について振り返りをしたり、グループで発表し合ったりするため、授業で学習した学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努める。（必要な学習時間の目安は90分）

履修上の注意 /Remarks

教育相談【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義だけでなく、個人ワークやペアワーク、グループワーク、ロールプレイ等を行います。
授業への主体的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

教育相談、いじめ、不登校、虐待

教育心理学【昼】

担当者名 /Instructor 山下 智也 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 2年
単位 /Credits 2単位 2学期
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教育心理学とは、教育活動を効果的に推進するために役立つ心理学的な知見や技術を提供する学問である。

この授業では、まず【学習】分野として、幼児、児童及び生徒の教育場面に関連する学習理論を学ぶことを通して、より効果的な教育活動を展開するための教育心理学の基礎的事項について理解する。次に【発達】分野として、子どもの発達段階について学んだ上で、教育現場での個々人に応じた教育及び発達支援について理解を深める。さらに、知的障害・発達障害のある幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程についても学ぶ。また、教育心理学の知見を生かした多様な【教授法】について学ぶとともに、学級集団や子ども理解、教育評価等の理解を深め、教育現場へと【応用】する術を学ぶ。

授業形態は講義とする。授業内で出される課題についてのグループディスカッション、心理学実験、プレゼンテーション等のアクティブラーニングを部分的に取り入れる。

<到達目標>

【知識】教育現場に生かすための教育心理の基礎（学習理論や教授法等）を幅広く理解している。

この科目は、履修ガイドの「教育の基礎的理解に関する科目等」カリキュラムマップの「I類-2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

やさしい教育心理学 第4版 鎌原 雅彦(著), 竹網 誠一郎(著) 有斐閣

教育心理学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：教育心理学が心理学の分野においてどのように発展してきたのか、また教育心理学とは何を目的とした学問なのかについて学ぶ。
- 第2回：【学習①】古典的条件づけやオペラント条件づけ等の基本的な学習理論（経験説）について教育との関係から学ぶ。
- 第3回：【学習②】洞察説やサイン・ゲシュタルト説等の基本的な学習理論（認知説）について教育との関係から学ぶ。
- 第4回：【学習③】学習における動機づけについて学ぶ。また動機づけを高め、維持するための働きかけ方についても学ぶ。
- 第5回：【学習④】学習における原因帰属理論について学ぶ。また、原因帰属と動機づけの関連性についても学ぶ。
- 第6回：【学習⑤】記憶に関する基礎理論（長期記憶、短期記憶、忘却等）を学ぶ。また、学習活動における記憶の役割や記憶の定着を促す学習方法について学ぶ。
- 第7回：【発達①】発達に及ぼす遺伝要因と環境要因の相互作用の影響に焦点を当てる。特に発達における環境要因としての教育が果たす役割について理解する。
- 第8回：【発達②】発達初期における養育者との愛着形成と初期経験の重要性について理解する。また、生涯発達の視点からピアジェの認知発達理論についても学ぶ。
- 第9回：【発達③】生涯発達の視点からエリクソンのライフサイクル論を理解し、特に思春期・青年期に関して、発達段階を踏まえた適切な学習方法について理解を深める。
- 第10回：【発達④】発達障害（自閉症スペクトラムや学習障害、注意欠陥多動性障害等）の特徴について学ぶとともに、発達障害児との関わりについて理解を深める。
- 第11回：【教授法①】発見学習や有意味受容学習等の学習指導法について、その特徴と提唱された理論的背景について学ぶ。
- 第12回：【教授法②】プログラム学習やバス学習、ジグソー学習等の学習指導法について、その長所と短所を理解し、実践場面での使い分け方について学ぶ。
- 第13回：【応用①】学級集団の諸相を仲間集団の発達の変容や測定方法など仲間関係の側面から学ぶ。また教師のリーダーシップや教師期待効果などの教師の役割についても学ぶ。
- 第14回：【応用②】知能の定義や考え方の変遷について学ぶ。また、教育場面での評価の形態（絶対評価、相対評価、個人内評価等）について学び、その特徴を理解する。
- 第15回：【応用④】教育心理学的観点から、子ども理解を深めるとともに、特別な支援を必要とする子ども（知的障害・発達障害等）への対応・支援や、子どもの不適応問題（いじめ・不登校等）への対応・支援についても学ぶ。
- 最終試験

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・ミニレポート・・・40%
最終試験・・・60%

（出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。）
（6回以上欠席した場合や最終試験を受験しなかった場合は、原則評価不能（-）とする。）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回次回の予告を行い、関連キーワードを調べておくなど、次回までの課題を提示する（必要な学習時間の目安は60分）。
事後学習：授業の冒頭で、前回の授業内容について振り返りをしたり、グループで発表し合ったりするため、授業で学習した学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努める。（必要な学習時間の目安は90分）

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義だけでなく、個人ワークやペアワーク、グループワークを行います。
授業への主体的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

子どもの発達、子どもの学習、子どもへの関わり方

教育社会学【昼】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

社会学的な視点から学校教育と学校教育をめぐる教育について、国内外の動向も紹介しながら、政策・実践課題について考えていきます。あわせて、子どもや子どもをめぐる社会変化についても理解を深めていきます。

日本については近年の様々な課題や政策動向など状況の変化について理解を深めます。

国外については日本との比較を念頭に置きながら、少子化への対応や、教育への考え方、取り組みの違いなどを理解し、社会全体で子どもを育成していく視点の重要性、教育の役割について説明します。

学校教育と家庭教育、社会教育（地域教育）の連携や協働についても具体的事例を取り上げながら理解を深めていきます。また、自然災害に対する子どもの安全を含めた、子どもの安全への対応についても事例を取り上げて考えます。

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

(到達目標)

【知識】

教育に関する社会学的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回オリエンテーション ー教育に関する社会学とは
- 第2回学校をめぐる近年の動向 ー初等教育
- 第3回学校をめぐる近年の動向 ー中等教育
- 第4回子どもをめぐる社会の変化 ー少子高齢化、地域・社会の変容
- 第5回諸外国の子ども・子育ての動向 ー家族支援、教育支援
- 第6回諸外国の教育 ー学校教育
- 第7回諸外国の教育 ー青少年の社会参加・参画
- 第8回日本における教育政策・改革の動向
- 第9回子どもの生活の変化と指導の課題 ー家族、少子化
- 第10回子どもの生活の変化と指導の課題 ー孤食、栄養と食育
- 第11回子どもの生活の変化と指導の課題 ーメディアと遊び
- 第12回子どもの生活の変化と指導の課題 ー社会性、自主性
- 第13回学校と地域の連携 ー地域の変化、学校と地域の連携・協働、開かれた学校づくり
- 第14回学校や子ども活動での子どもの安全
- 第15回子どもの生活安全、交通安全、災害安全

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート・・・30%、課題レポート・・・70%
6回以上欠席した場合や最終レポートを提出しなかった場合は、原則評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

子どもや教育に関する情報収集を行い、統計や社会動向、社会の反応などを踏まえて、予習に関しては授業時の小レポートに、復習に関しては課題レポートに記載すること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

履修上の注意 /Remarks

教職や社会教育主事資格の関連科目とあわせて受講すると、本講義の理解がより深いものになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実践的な取り組みを視聴覚教材を活用しながら紹介します。

キーワード /Keywords

公教育制度、地域、連携、協働、学校安全

人権教育論【昼】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / カワシマシズヨ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

受講生が自らの人権感覚を養い、人権の主体として、人権を守り行動することを通じて、一人ひとりの尊厳と多様性が認められる差別のない社会づくりを目指す。自己や他人の人権を尊重する児童・生徒を育成するための人権教育実践ができるよう、指導方法について学ぶ。「到達目標」は豊かな知識を得ることである。

①文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」を指針として、学校における人権教育の指導方法について学ぶ。②普遍的な人権課題や、「体罰」「いじめ」など、教室の中の人権課題や個別の人権課題について学ぶ。

教科書 /Textbooks

特になし、資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『わたしたちの人権と責任』福岡県人権啓発情報センター
人権教育教材集『新版いのち』北九州市教育委員会
『人権教育ハンドブック』北九州市教育委員会
『教職員のためのLGBT(Q)支援ハンドブック』北九州市教育委員会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 なぜ、教師にとって人権教育は必要か - 人権とは何か、命の尊重、個性の尊重 【世界人権宣言】
- 2回 学校や社会で何が起きているか - 体罰、いじめ、児童虐待、SNS・インターネットによる人権侵害
- 3回 学校における人権教育の目的と方法 - 文部科学省の「人権教育の指導法の在り方」
- 4回 人権教育の枠組み - 教科を通した人権教育、学級運営、生徒指導、(実践例など)
- 5回 部落差別と人権 【部落差別解消推進法】
- 6回 子どもの人権 【子どもの権利条約】【児童虐待防止法】
- 7回 障がい児・者の人権 【障害者権利条約】【障害者差別解消法】【障害者虐待防止法】
- 8回 「性の多様性」と人権 【SOGI】【性自認】【性的指向】
- 9回 外国人の人権 【ヘイトスピーチ解消法】
- 10回 男性と女性の人権 【デートDV】【セクシュアル・ハラスメント】【ストーカー規制法】
- 11回 性と人権 「性的いじめ」「子どもの性被害と性加害」
- 12回 ホームレスの人々の人権 【ホームレス自立支援法】【社会的排除・社会的包摂】
- 13回 高齢者の人権 【高齢者虐待防止法】
- 14回 コロナ禍中での人権 「エッセンシャルワーカー」「トリアージ」
- 15回 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。

6回以上欠席した場合や最終試験を受験しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。

課題、テストなど総合的に評価する。評価の割合は「テスト」(70%)、課題(20%)、授業への参加度(10%)

遠隔授業に変更になった場合は評価の方法や割合が変わる(テストから課題に)可能性もあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Teamsでの授業の場合は、moodleに示された資料、特にワークシート等は印刷しておいてください。

オンデマンドの授業では、事後学習として課題提出があります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新型コロナウイルス感染拡大の状況によって、対面ではなく、オンデマンド、Teamsなど授業形態が変わります。Moodleでお知らせします。

キーワード /Keywords

人権教育、子どもの人権 人権課題

生活世界の哲学【夜】

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	哲学の知識に基づいて人間と生活世界との関係を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生活世界に関する課題を哲学的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	生活世界に関する問題を哲学的に解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生活世界の哲学
			PHR110F

授業の概要 /Course Description

社会哲学とは、平たく言えば、「社会って何なの？」に答える学問です。哲学の一つのヴァリエーションです。西洋の哲学は、2500年以上も前に始まったと言われます。そのあいだに、社会の形もさまざまに変化してきました。今日の社会は、大戦以前の社会とは違いますよね。社会の変化に応じて、哲学が提示する答え（理論）も変化してきました。それでは、これまでにはどんな社会があり、哲学はそれをどのように説明してきたのでしょうか？この問いを考えていくのが本講義です。

今年度は、まずは、社会の構成要素である「人間」と「共同体」を、西洋哲学の歴史を辿りつつ考えます。これは基礎編ですね。次に、現代に目を移し、現代に特有の社会的な事象とそれに答える哲学的理論（ジェンダー論、フェミニズム論、優生思想、正義論など）を見ていき、私たちが直面する社会のあり方とそこに潜む問題を考察します。こちらは、応用編です。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業となります。みなさんは、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、授業に参加してください。

【到達目標】

《思考・判断・表現力》哲学的課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

特定の教科書はありません

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- プラトン『国家』(上下), 岩波文庫
- 重田園江『社会契約論 ホッブズ、ヒューム、ルソー、ロールズ』, ちくま新書
- S. サリー『ジュデイス・パトラー』, 育土社
- 米本昌平等『優生学と人間社会』, 講談社現代新書
- 植村邦彦『市民社会とは何か 基本概念の系譜』, 平凡社新書
- 神島裕子『正義とは何か』, 中公新書

などなど。

* 授業中にもご紹介します。

生活世界の哲学【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン：哲学って何？
- 第2回 【古代】人間って何？①：（プラトン、アリストテレス）
- 第3回 【古代】共同体って何？①：（プラトン、アリストテレス）
- 第4回 【中世】人間って何？②：（アウグスティヌス）
- 第5回 【中世】共同体って何？②：（アウグスティヌス）
- 第6回 【近代】共同体って何？③：（ホッブス、ロック、ルソー）
- 第7回 【近代】人間って何？③：（カント）
- 第8回 【近代】資本主義って何？（マルクス）
- 第9回 【現代】公共性って何？（ハーバーマス）
- 第10回 【現代】正義って何？（ロールズ）
- 第11回 【現代】ケアって何？
- 第12回 【現代】優生思想って何？
- 第13回 【現代】フェミニズムって何？
- 第14回 【現代】ジェンダーって何？
- 第15回 確認テスト

*（ ）の中は、その回に扱う主な思想家ですが、それ以外の思想家も扱います。書いてないところは、その理論全体をおさえることを目標にしています。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の小テスト 65%
- ・ 確認テスト 35%

* 小テストを4回欠席した場合は、評価不能（ - ）となります。
* 確認テストを受験しない場合も、評価不能（ - ）となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の最後に、その次の回に関連するキーワードをお伝えしますので、それについて辞典・事典やネットで調べてきましょう。このキーワードに関連する問題が、小テストでは出題されます。

履修上の注意 /Remarks

初回は、いわゆるイントロダクション（導入）ですが、講義全体の進め方や成績の付け方についても説明するので、必ず試聴してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

僕は、教員ですが、みなさんのリアクションや質問で学ぶことがたくさんあります（今までそうでしたので）。「教え-教えられる」関係ではなくて、「互いに教え合う」関係になりましょう。みなさんの積極的な参加を楽しみにしています！

キーワード /Keywords

哲学、倫理学、社会学、社会哲学

日本の防衛【夜】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	安全保障や防衛と国民との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	わが国の防衛上の諸問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	わが国の防衛上の課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			日本の防衛
			PLS111F

授業の概要 /Course Description

安全保障について多角的に検討する授業です。中盤からは防衛問題が中心となります。安全保障・防衛に関心がある受講者はもちろんですが、もともとあまり関心がない、全く知らない、という受講者でも理解できるように丁寧な解説を心がけます。ぜひ、受講してください。

動画は、各回、編集カットをほどこし、BGMやテロップを付け、youYube仕様で配信します。なるべく楽しく学習できるような動画を作りたいと思っています。

到達目標

- 【知識】安全保障を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断】安全保障上の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自律的行動力】安全保障に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを用意します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。適宜指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業は15回で、1回45～60分程度、動画視聴してもらいます。以下は、昨年度配信した動画タイトルですが、今年度は、多少、整理します。(19タイトルありますが、19回授業があるわけではありません)

- 1 ガイダンス / 安全保障の考え方その1 (抑止について)
- 2 安全保障の考え方その2 (国際環境について)
- 3 安全保障とは何か / 専守防衛と日本
- 4 安全保障と外交
- 5 自衛隊の海外派遣
- 6 安全保障の非軍事的な側面
- 7 日米同盟と自衛隊
- 8 自衛隊の任務
- 9 防衛出動 / 存立危機事態と集団的自衛権
- 10 海上警備行動
- 11 企画動画
- 12 安全保障流の地図の読み方
- 13 スクランプル
- 14 弾道ミサイル防衛 (BMD)
- 15 イージス・アショアと代替

日本の防衛【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

1～3回に一度、小テストを実施し、その合計点から成績評価を行います。
小テスト(6回)100%、ただし、小テストの実施回数は若干前後する可能性があります。

※小テストを一度も受験していない場合、もしくはその総合得点が0点の場合、「評価不能(-)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

掲示板を用意するので、質問や感想がある場合、書き込んでください。また、動画のコメント欄も活用できます。

頻繁に小テストがあるので、何回でも動画を視聴して、理解することが事後学習ですが、関連動画の視聴もお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

本講義は遠隔(オンデマンド)授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく退屈しないように、面白い動画づくりを心がけます。

キーワード /Keywords

生命と環境【夜】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	多様な生命とそれを生み出した環境についての基礎知識を獲得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命およびそれを生み出した環境について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	身近な生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			生命と環境
			BI0100F

授業の概要 /Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。生命とはなにか。生物は何からできており、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では、(1)宇宙と生命がどのような物質からできているか、(2)生物の多様性と影響を与えてきた環境とはどのようなものか、(3)進化の原動力となった突然変異とは何かなどについて広く学ぶとともに、(4)生命や宇宙がこれまでにどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方や考え方についても学びます。

到達目標

【知識】多様な生命とそれを生み出した環境を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】多様な生命とそれを生み出した環境について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

※本講義は遠隔(オンデマンド)授業で行います。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2020年(羊土社)3080円

○もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円

○もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円

宇宙と生命の起源—ビッグバンから人類誕生まで 嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年(岩波ジュニア新書)990円

生命と環境【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ガイダンス(日高・中尾)	
2回	自然科学の基礎(1)ミクロとマクロ(日高・中尾)	【物質の単位】【自然科学】
3回	自然科学の基礎(2)宇宙で生まれた物質(中尾)	【元素】【原子】【超新星爆発】
4回	自然科学の基礎(3)生命と分子(日高)	【DNA】【タンパク質】
5回	生物の多様性(1)生物の分類と系統(日高)	【種】【学名】【系統樹】
6回	生物の多様性(2)ウイルスは生物か(日高)	【ウイルス】
7回	生物の多様性(3)単細胞生物と多細胞生物(日高)	【細胞膜】【共生説】
8回	生物の多様性(4)生態系と進化(日高)	【食物連鎖】【絶滅】【進化】
9回	生物の多様性(5)多様な生命(日高)	【生物多様性】
10回	遺伝子の多様性(1)遺伝子の名前(日高)	【突然変異】【遺伝学】
11回	遺伝子の多様性(2)多様性を生む生殖(日高)	【有性生殖】【減数分裂】
12回	科学的な方法とは(1)科学と疑似科学(日高・中尾)	【血液型】【星座】
13回	科学的な方法とは(2)太陽と地球の環境(中尾)	【太陽活動】【地球温暖化問題】
14回	科学的な方法とは(3)人類の起源(日高)	【ミトコンドリア】
15回	質疑応答とまとめ(日高)	

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の確認テスト及びミニレポート 70%
 - ・ 授業への積極的取り組み(質問・ディスカッション等) 20%
 - ・ まとめレポート 10%
- 上記の提出が全くない場合は、評価不能(-)です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
 事後学習：授業中の課題に沿って学習し、Moodle(e-learningシステム)で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

- ・ 高校で生物を履修していない者は教科書または参考書を入手し、授業に備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基盤教育センターの専任教員・日高(生物担当)および中尾(物理担当)による自然科学の入門講座です。この分野が苦手な者や初めて学ぶ者も歓迎します。参考書やインターネットを活用し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んで下さい。暗記中心の受験勉強とは違った楽しみが生まれるかもしれません。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：
 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

情報社会への招待【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と情報社会との関係性を総合的に理解し、21世紀の市民として必要な教養を身につけている。
技能	情報リテラシー	●	情報社会の特性を理解した上で、情報及び情報システム、インターネットを活用する技能を身につけている。
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	情報社会についての総合的な分析をもとに、直面する課題を発見し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	情報社会の現在、及び、未来に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
		情報社会への招待	
		INF100F	

授業の概要 /Course Description

この授業は【遠隔】授業（オンデマンド配信など）です。授業動画を視聴するための環境を準備するか、大学内施設を利用するようにしてください。

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、現在の情報社会を俯瞰的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎とし、変化し続ける情報技術と正しくつき合えるような適応力を身につけることを目指します。

(到達目標)

【技能】情報社会を正しく理解するために必要な技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】情報社会の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

また、この授業で学ぶICT（情報通信技術）は、国連が定めたSDGs（持続可能な開発目標）のうち、「4．質の高い教育をみんなに」「8．働きがいも経済成長も」「9．産業と技術革新の基盤をつくろう」「10．人や国の不平等をなくそう」「17．パートナーシップで目標を達成しよう」に関連していると考えています。授業を通じて、これらの目標についても考えを深めてみてください。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。随時紹介する。

情報社会への招待【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル, 炎上, 個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光, 音, 匂い, 味, 触覚, 電気】
- 3回 コンピュータはどうやって情報を取り扱うか【2進数, ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置, 出力装置, 解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU, メモリ, 記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS, 拡張子とアプリケーション, 文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換, パケット交換, LAN, IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名, DNS, サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン, 位置情報, GPS, GIS, プライバシ】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス, スパイウェア, 不正アクセス, 詐欺, なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信, ファイアウォール, クッキー, セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア, 防犯カメラ, ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン, Wikipedia, フリーミアム, クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権, コンテンツのデジタル化, クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 100%

以上の観点から評価した結果が「0点」の場合は「評価不能(一)」と表示されます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「Moodle」に授業資料を提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます(必要な学習時間の目安は予習60分, 復習60分)。

その他, ICTに関するニュースを視聴するなど, 日常的, 能動的に情報社会に関する事柄に興味をもつことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会, ネットワーク, セキュリティ, SDGs 4. 質の高い教育を, SDGs 8. 働きがい・経済成長, SDGs 9. 産業・技術革命, SDGs 10. 不平等をなくす, SDGs 17. パートナースhip

戦争論 【夜】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と戦争との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	戦争について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	戦争に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			戦争論
			PLS210F

授業の概要 /Course Description

人類の歴史にとり、戦争とは何なのかを深く考えるのがテーマです。戦争形態の変化を歴史の進行に沿って考察していきます。

コロナ対応で、完全に動画配信となります。退屈にならないよう、動画作成に当たって、しっかりと編集カットを行い、BGM、テロップ付きのYouTube仕様で配信するつもりです。(シミュールです。)

到達目標

- 【知識】人間と戦争との関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断】人間と戦争との関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自律的行動力】戦争に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを用意します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。適宜指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回45~60分程度(予定)の動画を視聴してもらいます。以下、昨年度に配信した動画タイトルのリストです。今年度は、多少整理したり、よりパワーアップした新作も作りたいです(できれば)。

- 1 ガイダンス / 戦争から何を学ぶのか
- 2 ホモサピエンスと戦争の起源その1(サルからヒトへ)
- 3 ホモサピエンスと戦争の起源その2(ネアンデルタール人、文明化、戦いの始まり)
- 4 「戦争」の始まり(国家の誕生と絶対主義)
- 5 フランス革命と近代戦
- 6 ナショナリズムの時代と戦争
- 7 厭戦感情と世界大戦
- 8 総力化した戦争
- 9 総力化した戦争その2(塹壕戦の恐怖)
- 10 イデオロギー、プロパガンダ、戦争
- 11 アメリカ的戦争観の影響
- 12 全面化した戦争
- 13 企画動画
- 14 原爆開発と投下
- 15 核兵器と抑止

戦争論 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

1～3回に一度、小テストを実施し、その合計点から成績評価を行う。
小テスト(6回)100%、ただし、小テスト実施回数は若干前後する可能性がある。

※小テストを一度も受験していない場合、もしくはその総合得点が0点の場合、「評価不能(-)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

掲示板を用意するので質問はそちらに書き込んでください。また動画のコメント欄に書き込むこともできます。

頻繁に小テストがあるので、動画を何度も見てもらえると事後学習になりますし、勝手に授業とは関係なく「関連動画」が表示されますので、それも参考にしてください。

履修上の注意 /Remarks

本講義は遠隔(オンデマンド)授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく退屈しないように、動画内容を工夫したいと思います。

キーワード /Keywords

自然史へのいざない【夜】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 河野 智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科 (19~)
柳川 勝紀 / Katsunori YANAGAWA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 1年次 /1st Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2nd Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 1年 /1st Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	自然と生物の関わりについて総合的に理解する。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	自然と生物について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	自然の中の生物に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			自然史へのいざない	BI0001F

授業の概要 /Course Description

北九州市は化石の一大産地であり、多様で豊かな自然に囲まれた都市であるとともに、古くより交通の要衝として栄えてきた。本科目は北九州市立自然史・歴史博物館（愛称：いのちのたび博物館）を舞台とした、学芸員および北方・ひびきの両キャンパスの教員によるオムニバス講義である。多様な生命をはぐくんできた地球の歴史、そして人間の歴史に関する基礎的な知識を身に付けながら、学芸員や教員のそれぞれの分野の最先端のトピックについて学習し、北方・ひびきの両キャンパスの交流を通して、より多角的な視点から自然と歴史について学ぶ。

到達目標

- 【知識】自然史を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】自然史についての考え方をを用いて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自律的行動力】自然史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。関連のテーマに関して積極的に情報を仕入れ、自ら学び続けることができる。

本講義はほぼ遠隔授業（ライブもしくはオンデマンド）です。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。なお、ライブ授業の回であっても、録画したものを後から視聴し、課題に取り組むことができます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

自然史へのいざない【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義のテーマは下記の通り。

[ラ] ライブ授業、[オ] オンデマンド配信授業、[対] 対面授業、()内は担当者、【 】はキーワード

- 1回 [ラ] ガイダンス (日高)
- 2回 [ラ] 生命の起源を探る (柳川) 【極限環境】 【微生物】
- 3回 [オ] 植物を鍵とした生物間相互作用 (真鍋) 【共生】 【食物連鎖】
- 4回 [オ] 北九州市周辺の地質と化石の多様性について (太田) 【化石】 【ジオパーク】
- 5回 [オ] 博物館を楽しむ：いのちのたびで知る脊椎動物進化 (大橋) 【恐竜】 【脊椎動物】
- 6回 [オ] 鳥類の生態と進化 (中原) 【適応放散】 【進化的軍拡競走】
- 7回 [オ] 海産無脊椎動物の行動生態学 (竹下) 【無脊椎動物】
- 8回 [オ] 多様性生物学と進化 (養島) 【進化】 【生物多様性】
- 9回 [オ] アンモナイトの古生物学 (御前) 【古生態学】 【異常巻アンモナイト】
- 10回 [オ] 水辺の隣人、両生類の多様性と保全 (江頭) 【絶滅危惧】 【ホットスポット】
- 11回 [対] 博物館見学 (日高)
- 12回 [ラ] 人新世におけるヒトと植物の関係 (河野) 【人新世】 【科学史】
- 13回 [ラ] 北九州の近代史 (藤田) 【軍都】 【SDGs未来都市】
- 14回 [ラ] 課題研究・ぼけっとミュージアム (日高)
- 15回 [ラ] まとめ (日高)

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の確認テスト及びミニレポート 60%
- ・ 授業への積極的取り組み (質問・ディスカッション等) 20%
- ・ 博物館見学レポート 10%
- ・ まとめレポート 10%

上記の提出が全くない場合は、評価不能 (一) です。※北方生のみ、ひびきの生除く。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前にキーワードについて自分で調べておくこと。

事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、Moodle (e-learning システム) で提出すること。

<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

- ・ 第11回は12月3日 (土) 午後3限または4限に博物館にて見学の予定。
 - ・ 博物館までの交通費は自己負担。保険加入 (学研災など) の状況を確認しておくこと。
 - ・ 第14回はグループワークを行うのでできるだけライブで参加すること。
- 第1回に詳細について説明するので必ず参加 (視聴) すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：

13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

現代人のこころ【夜】

担当者名 /Instructor 福田 恭介 / Kyosuke Fuikuda / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	心理学についての教養的基礎知識を身につける。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	心理学的観点から課題の発見、解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	社会の諸問題を心理学的観点から解決するために学習を続けることができる。
	コミュニケーション力		
			現代人のこころ
			PSY003F

授業の概要 /Course Description

現代を生きているわれわれの「こころ」について考えていきます。「こころ」というと、通常は、笑ったり、悲しんだり、怒ったりといったことを引き起こしているものと思いがちです。

「こころ」を科学的に調べるにはどうすればいいのでしょうか？医療現場のように血液を採集してその人の「身体の状態」はわかっても、その人の「こころ」までがわかるわけではありません。

「こころ」は目に見えるものではないので、「こころ」を知るために心理学では行動を観察することから始めます。観察する対象は、行動だけでなく、質問にハイ・イエで答える単純なものから、実験室でモニター画面を見て答えてもらったり、そのときの身体反応を測ったりするものまでさまざまです。心理学の研究者は、さまざまな側面からどうすれば「こころ」のしくみが明らかになるか実験や研究を続けています。

「こころ」はそれだけではありません。目の前のテーブルに置かれたリンゴを見て指さすこと、これも「こころ」が引き起こしているものです。なぜなら、目の網膜に映ったリンゴを、目の網膜の中にあるものではなく、あそこのテーブルの上にあるものと判断しているからです。さらに、リンゴは真っ赤で、噛むと口中に果汁が染みわたり、美味しそうだと思うこと、これも「こころ」の一部です。

こういった基礎的な面を明らかにした上で、「こころ」の問題で苦しさや困難を抱えている人たちを支援していこうとするのです。この授業では、さまざまな側面から「こころ」がどのように見えるのかについて考えていきます。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】現代人のこころを取り巻く諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

【自律的行動力】現代人のこころを取り巻く課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

遠隔授業が必要になった場合は、インターネットで北九大Moodleに接続し、そこにある授業資料をよみ、授業動画を視聴した後、授業に対する所定のコメントを翌日まで提出することが求められます。授業動画については、資料内に記載されたウェブサイト (URL) をクリックすることで視聴できます。

教科書 /Textbooks

教科書はとくに指定しませんが、レポートを書くには下記の参考書を読むことで理解が深まります。

現代人のこころ【夜】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 行場次朗・箱田裕司(2014)新・知性と感性の心理 - 認知心理学最前線 - 福村出版
- 福田恭介(2018)ペアレントトレーニング実践ガイドブック - きつとうまくいく。子どもの発達支援 あいり出版
- 神奈川LD協会編(2006)ふしぎだね!?LD(学習障害)のおともだち ミネルヴァ書房
- 丸野俊一・子安増生(1998)子どもが「こころ」に気づくとき ミネルヴァ書房
- 三浦麻子・佐藤博(2018)なるほど!心理学観察法 北大路書房
- 奥村隆 息子と僕のアスペルガー物語 <https://gendai.ismedia.jp/list/serial/okumura>
- 諏訪利明・安倍陽子編(2006)ふしぎだね!?自閉症のおともだち ミネルヴァ書房
- 諏訪利明・安倍陽子編(2006)ふしぎだね!?アスペルガー症候群「高機能自閉症」のおともだち ミネルヴァ書房
- 高山恵子編(2006)ふしぎだね!?ADHD(注意欠陥多動性障害)のおともだち。 ミネルヴァ書房
- やまだようこ(1987)ことばの前のことば 新曜社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1: 序論:心理学とは:さまざまな「こころ」の側面
- 2: 知覚1:ものが見えるとは?
- 3: 知覚2:色はなぜ見える?
- 4: 知覚3:形はなぜ見える?
- 5: 知覚4:先天性盲人の開眼手術後の知覚世界
- 6: 目1:目の動きを観察して「こころ」を探る
- 7: 目2:まばたきを観察して「こころ」を探る
- 8: 注意1:どうして騒がしい中でも会話ができるのか?
- 9: 注意2:意外と見落としやすい注意の機能
- 10: 記憶1:数秒間の記憶によってストーリーは作られる
- 11: 記憶2:昔の記憶は忘れることはない
- 12: 発達1:「こころ」どのように芽生えてくる?
- 13: 発達2:「こころ」はどのようにして人とやりとりできる?
- 14: 発達3:発達に苦手さを抱えるのはなぜ?
- 15: まとめ:いろいろな「こころ」の側面

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中のコメント(15回):30点
レポート(1回):30点
期末試験:40点

6回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。
期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前:Moodleにあげた資料を読み、資料内のURLをクリックして動画を視聴してください。
事後:授業で取り上げた内容についてコメントを書いてください。

レポート:指定した参考書の中からもっとも関心のある領域を読んで、所定の書式のレポートに5,000字程度で要約し、200字程度のコメントを書いてください。図書館には1冊しか配架していないので生協で購入してください。レポートを書くのは前期で1回限りです。書式やメ切については最初の授業で紹介いたします。

履修上の注意 /Remarks

1. 授業を聞いて毎回コメントを書けてもらいます(事後学習)。
2. 次の授業時間、書かれたコメントの一部には回答したいと思います。
3. 配付資料やコメントへの回答には、関連する本やウェブサイトを紹介いたしますので、それに目を通すと理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に積極的に参加できるようないろいろな仕掛けを用意したいと思います。

キーワード /Keywords

知覚, 目の動き(眼球運動, 瞳孔運動, 瞬目), 選択的注意, 注意の見落とし, 短期記憶, 長期記憶, ワーキングメモリ, 心の発達, 発達障害

人間と生命【夜】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	生命科学の基礎知識を獲得し、身近な問題との関わりを総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	生命科学に関する基礎知識を用いて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	体や健康など、生命科学に関する身近な課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			人間と生命
			BI0002F

授業の概要 /Course Description

ヒトの体は約37兆個の細胞からなり、生命の設計図である遺伝子には2万数千もの種類がある。近年、「ヒトゲノム計画」が完了し、すべての遺伝情報が明らかとなった。個々の遺伝情報のわずかな違いが体質の違いや個性につながり、これを利用した個の医療が行われる時代も近い。そこで(1)体はどのような物質からできているのか、(2)遺伝子は体の何をどのように決めているのか、(3)細胞の社会とはどういうものでそれが破綻するとどのような疾患につながるのか、(4)体を維持し守るしくみは何かなど、人体を構成する細胞と遺伝子の不思議を学ぶことによって、新しい時代を生き抜くための生命科学の基礎知識を身につけることを目標とする。

到達目標

【知識】生命科学を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】生命科学の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自律的行動力】生命科学に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

※本講義は遠隔(オンデマンド)授業で行います。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2020年(羊土社)3080円

○もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円

○もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円

人間と生命【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	ガイダンス	
2回	体を作る物質(1)細胞の構成成分	【多糖・脂質・タンパク質・核酸】
3回	体を作る物質(2)食物分子と代謝	【酵素】【触媒】
4回	体を作る物質(3)遺伝物質DNA	【二重らせん】
5回	体を作るしくみ(1)遺伝子が働くしくみ	【RNA】【セントラルドグマ】
6回	体を作るしくみ(2)遺伝子でできること	【ゲノム】【体質】【遺伝病】
7回	体を作るしくみ(3)発生と分化	【転写因子】【クローン】【iPS細胞】
8回	細胞の社会(1)そのとき染色体は	【細胞周期】【染色体異常】
9回	細胞の社会(2)細胞のコミュニケーション	【受容体】【シグナル分子】
10回	細胞の社会(3)社会の反逆者・がん	【がん遺伝子】
11回	関連ビデオ鑑賞	
12回	体を守るしくみ(1)寿命と老化	【早老症】【テロメア】
13回	体を守るしくみ(2)免疫とウイルス	【ウイルス】【抗体】
14回	体を守るしくみ(3)私たちと微生物	【腸内細菌】
15回	質疑応答・まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の確認テスト及びミニレポート 70%
 - ・ 授業への積極的取り組み(質問・ディスカッション等) 20%
 - ・ まとめレポート 10%
- 上記の提出が全くない場合は、評価不能(-)です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
 事後学習：授業中に与えられた課題に沿って学習し、Moodle (e-learning システム) で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

高校で生物を履修していなかった者は教科書または参考書を入手して備えること。
 遠隔授業の予定です。詳細については第1回目にMoodle上で説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人体を構成する細胞やその働きを操る遺伝子について、ここ数十年程の間で驚く程いろいろなことがわかってきました。その緻密で精巧なしくみは知れば知るほど興味深いものですが、ヒトの体について良く知ること、生命科学の基礎を学ぶことは、これから皆さんが生きて行く上でも非常に大切です。苦手だからと怯まずに、一緒に頑張りましょう。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：
 3. すべての人に健康と福祉を

現代正義論【夜】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	人間と正義との関係性を総合的に理解する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力 その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	現代社会における正義の問題について総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	現代社会における正義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			現代正義論
			PHR003F

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。
 まずは、現代正義論の流れを概観する。次に、現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題を取りあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的な身近な生命倫理にかかわる諸問題を取りあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】現代社会における正義の問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

(遠隔授業)

本講義は遠隔(オンデマンド)授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』(早川書房、2010年)
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』(早川書房、2010年)
- 深田三徳、濱真一郎『よくわかる法哲学・法思想 第2版』(ミネルヴァ書房、2015年)
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』(勁草書房、2006年)
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』(創文社、1995年)
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』(講談社、1997年)
- 瀧川裕英、宇佐美誠、大屋雄裕『法哲学』(有斐閣、2014年)

現代正義論【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ~ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ~ 本講義の概観
- [第3回~第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植① ~ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ~ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ~ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ~ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ~ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ~ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ~ ロールズとノージック
- 第10回 現代正義論③ ~ ノージックのリパタリアニズム
- 第11回 現代正義論④ ~ サンデルの共同体主義
- 第12回 現代正義論⑤ ~ 共同体主義【論争】
- 第13回 現代正義論⑥ ~ アマルティア・センの正義論
- 第14回 現代正義論⑦ ~ センとロールズ・ノージック
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%
試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、当該回に扱うテーマについて、自ら予習をしておくこと。授業の後は、各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解の役にたつと思います。

キーワード /Keywords

SDGs10. 不平等をなくす SDGs16. 平和と公正 ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

市民活動論【夜】

担当者名 西田 心平 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	市民活動と地域社会との関係性について総合的に理解することができる。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	市民活動に関する総合的な考察をもとに、それが直面する課題を発見することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	地域課題の解決のために、市民活動についての学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			市民活動論 RDE001F

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものか、日本の現実を歴史的に振り返り、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしながら授業を進めて行く予定である。到達目標としては受講生が自分なりの「政治参加」のあり方を柔軟に考えられるようになることである。

「SDGs」の目標の中の「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

（到達目標）

【知識】市民活動を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【コミュニケーション】他者と協働して、市民活動に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【行動力】市民活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

市民活動論 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 検討の枠組みについて
 - 3回 枠組みを使った民衆行動の分析① - 政治と経済
 - 4回 枠組みを使った民衆行動の分析② - 市民
 - 5回 市民活動の<萌芽>① - 政治と経済
 - 6回 市民活動の<萌芽>② - 市民
 - 7回 市民活動の<再生>① - 政治と経済
 - 8回 市民活動の<再生>② - 市民
 - 9回 市民活動の<広がり>① - 政治と経済
 - 10回 市民活動の<広がり>② - 市民
 - 11回 中間まとめ
 - 12回 北九州市における市民活動のうねり
 - 13回 今日の市民活動の<展開>① - 政治と経済
 - 14回 今日の市民活動の<展開>② - 市民
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加姿勢... 50%
期末試験... 50%

※最終レポートを提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合があります。その際の積極的な参加が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

この講義は「SDGs」世界を変えるための17の目標に幅広くあてはまるものですが、とくに「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

グローバル化する経済【夜】

担当者名
/Instructor

魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科, 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科, 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程
松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
		○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	国際経済の諸問題を社会・文化と関わらせつつ理解するための基本的な知識を持っている。	
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力 その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際経済の諸問題を発見し、解決策を自立的に提示することができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力			
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	国際経済の諸問題に常に関心と興味を持ち、知識を自主的に探求する姿勢が身につけている。	
	コミュニケーション力			
			グローバル化する経済	ECN001F

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題に取り組むことが求められます。

（到達目標）

【知識】グローバル化する経済を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断】グローバル化する経済について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【行動力】グローバル化社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

グローバル化する経済【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン - グローバル化とは何か
- 2回 自由貿易【比較優位】【貿易の利益】【保護貿易】
- 3回 地域貿易協定【自由貿易協定】【関税同盟】【経済連携協定】
- 4回 企業の海外進出と立地(1)【直接投資】
- 5回 企業の海外進出と立地(2)【人件費】【為替レート】
- 6回 海外との取引の描写【経常収支と資本移動の関係について】
- 7回 先進国と途上国間の資本移動【経済成長と資本移動について】
- 8回 グローバル化とファイナンス(1)【金融市場】【外国人投資家】
- 9回 グローバル化とファイナンス(2)【資産運用】【行動ファイナンス】
- 10回 比較文化心理学(1)【文化と認知】
- 11回 比較文化心理学(2)【文化と感情】
- 12回 国際労働移動(1)【日本における外国人労働者の受け入れ】【賃金決定理論の基礎】
- 13回 国際労働移動(2)【移民と所得分配】【移民の移動パターン】【移民の経済的同化】
- 14回 グローバル化の要因とメリット【消費者余剰】
- 15回 グローバル化のデメリット【所得格差】【金融危機の伝染】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験: 100%。
学期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習を行うこと、また授業の理解に有益な読者や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけてほしい。授業で使用するプリントはMoodleにアップするので、きちんと復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDG 8. 働きがい・経済成長

国際社会と日本【夜】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 / 1 Year 単位 /Credits 2単位 / 2 Credits 学期 /Semester 2学期 / 2 Semester 授業形態 /Class Format 講義 / 講義 クラス /Class 1年 / 1 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	現代の国際社会の動向と日本の関係について総合的な理解力を有している。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	国際社会に対する批判的省察をもとに、日本が直面する問題の分析を行い、自立的に解決策を考えることができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	国際社会と日本のあり方に関して課題を自ら発見し、解決していくために学び続けることができる。
	コミュニケーション力		
			国際社会と日本
			IRL004F

授業の概要 /Course Description

戦後日本政治史を講じる。

【到達目標】

- 【知識】国際社会と日本の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】国際社会と日本の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自律的行動力】国際社会と日本のあり方に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

この講義はメディア授業です。毎週、決められた時間にMoodleから受講してください。教科書の他、必要な資料をMoodleにアップすることがあります。

教科書 /Textbooks

五百旗頭真編『第3版補訂版 戦後日本外交史』(有斐閣 2014)、定価税込み2,160円を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンスの時、あるいは授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 戦後日本外交の構図
- 3回 占領下日本の外交1【日本国憲法】【占領改革】
- 4回 占領下日本の外交2【サンフランシスコ講和】【日米安保条約】
- 5回 独立国の条件1【自主外交】【二大政党制】
- 6回 独立国の条件2【日米安保条約改定】
- 7回 経済大国外交の原型1【高度経済成長】
- 8回 経済大国外交の原型2【沖縄復帰】
- 9回 自立的協調の模索1【テタント】
- 10回 自立的協調の模索2【石油危機】
- 11回 「国際国家」の使命と苦悩1【日米同盟】
- 12回 「国際国家」の使命と苦悩2【経済摩擦】
- 13回 冷戦後の外交1【軍縮】【湾岸戦争】
- 14回 冷戦後の外交2【テロとの戦い】
- 15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 50% テスト 50%

- ・ 5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。
- ・ レポートと試験のどちらか一方でも、受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までにあらかじめ資料や教科書で授業内容を調べておくこと。授業終了後には、授業ノートと資料や教科書を照合しながら、理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

複数の先生の担当授業です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業前には予め教科書で該当箇所を学習し、終了後は復習を行うこと。

キーワード /Keywords

近現代 国際関係史 東アジア

ヨーロッパ道徳思想史【夜】

担当者名 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解	●	ヨーロッパ道徳思想史の理解に必要な一般的知識を習得する。
技能	情報リテラシー		
	数量的スキル		
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	ヨーロッパ道徳思想史について課題を発見し、総合的に分析することができる。
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観		
	生涯学習力	●	ヨーロッパ道徳思想史に関する問題を解決するための学びを継続することができる。
	コミュニケーション力		
			ヨーロッパ道徳思想史
			PHR005 F

授業の概要 /Course Description

倫理学って何でしょうか？倫理学とは、私たちが行為する際の規範や義務、行為の指標となる善悪の指針、あるいは、振る舞いのために身に着けるべき性格などを探究する学問です。みなさんは大切な約束をやぶり罪悪感を覚えたことがあるでしょう。なぜ約束をやぶることは悪いのか（あるいは、なぜ約束を守るべきなのか）、倫理学はそんな問いに答えようとしています。

倫理学の始まりは、古代ギリシアにあると言われ、その後も西洋を中心に発展してきた学問で、約2500年もの歴史があります。本講義では、その歴史を踏まえた上で、基礎的な倫理学を、いくつかの種類（義務論、功利主義、徳倫理学、メタ倫理学）に分類して紹介します。つづいて、現代社会において私たちが直面している倫理的（道徳的）問題を考察する応用倫理学を紹介します。応用の倫理学は、そのまま「応用倫理学」と呼ばれ、安楽死／尊厳死、中絶、環境破壊、ケアの問題などのより身近な問題を扱います。さまざまな行為の原理を知ってもらい、より善い人生を歩む糧にさせていただくことが、本講義の目的となります。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業となります。みなさんは、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、授業に参加してください。

【到達目標】

《思考・判断・表現力》倫理思想史における課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

特定の教科書はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 柘植尚則編『入門・倫理学の歴史 24人の思想家』, 梓出版社
- ・ 柘植尚則『プレップ倫理学』, 弘文堂
- ・ ○中島義道『悪について』, 岩波新書
- ・ 品川哲彦『倫理学入門-アリストテレスから生殖技術、AIまで』, 中公新書
- ・ 見玉聡『実践・倫理学: 現代の問題を考えるために』, 勁草書房

などなど。

* 授業中にもご紹介します。

ヨーロッパ道徳思想史【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 【基礎】倫理学って何？
- 第3回 【基礎】義務論って何？(カント)
- 第4回 【基礎】功利主義って何？(ベンタム、ミル)
- 第5回 【基礎】徳倫理学って何？(プラトン、アリストテレス、マッキンタイア)
- 第6回 【基礎】メタ倫理学って何？
- 第7回 【確認テスト①】
- 第8回 【応用】討議倫理学って何？(ハーバーマス)
- 第9回 【応用】生命医療倫理学って何？①
- 第10回 【応用】生命医療倫理学って何？②
- 第11回 【応用】環境倫理学って何？(ネス)
- 第12回 【応用】動物倫理学って何？(シンガー、レーガン)
- 第13回 【応用】ケアの倫理って何？(ギリガン、キテイ)
- 第14回 【応用】情報倫理学って何？
- 第15回 【確認テスト②】

* ()の中は、その回に扱う主な思想家です。書いてないところは、その理論全体をおさえることを目標にしています。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 確認テスト① 50%
- ・ 確認テスト② 50%

* いずれかの確認テストを受験しなかった場合は、評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の最後に、その次の回に関連するキーワードをお伝えしますので、それについて辞典・事典やネットで調べてきましょう。このキーワードに関連する問題が、テストでは出題されます。

履修上の注意 /Remarks

初回は、いわゆるイントロダクシヨN(導入)ですが、講義全体の進め方や成績の付け方についても説明するので、必ず試聴してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

僕は、教員ですが、みなさんのリアクシヨNや質問で学ぶことがたくさんあります(今までそうでしたので)。「教え-教えられる」関係ではなくて、「互いに教え合う」関係になりましょう。みなさんの積極的な参加を楽しみにしています！

キーワード /Keywords

哲学、倫理学、社会学

メンタル・ヘルスI【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解			
技能	情報リテラシー			
	数量的スキル			
	英語力			
	その他言語力			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	メンタルヘルスについて総合的に分析し、自立的に解決策を考えることができる。	
関心・意欲・態度	自己管理能力	●	自分自身で心身の健康の保持増進を行うことができる。	
	社会的責任・倫理観			
	生涯学習力	●	メンタルヘルスに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続することができる。	
	コミュニケーション力			
			メンタル・ヘルス I	PSY001F

授業の概要 /Course Description

授業のねらい、テーマ

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルなタフさがなければ生活人としての活動は難しい世相である。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされ、ストレスに関連した多くの疾病に見舞われる危険も多くなっている。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。

本講義では一般的な心理学やアドラー心理学や森田療法を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を多角的かつ発達的な視点からとらえ日々の生活と人生を充実させるためのストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。またメンタルに関連するソーシャルヘルス（社会的健康）やSDGs（持続可能な開発目標）にも触れる。具体的には青年期と成人期の心の健康（SDGs 3）や平和と暴力（SDGs 16）をテーマに持続可能な豊かな社会を求めどう行動するかを皆で考える授業である。

(到達目標) [自律的行動力] 自分自身の心の健康に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

テキスト 「こころと人生」中島俊介 編著 ナカニシヤ出版 2017 定価2000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「森田療法」 岩井 寛 著 講談社現代新書

メンタル・ヘルスI【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール

- 第1回 メンタルヘルスとは……メンタルヘルスの歴史・最近の推移・受講上の注意
- 第2回 心の健康と人生……人間の発達・社会と心理学・生涯発達の理論
- 第3回 胎児・乳幼児のこころの健康……胎児の能力・誕生の危機・乳児の課題
- 第4回 幼児期・学童期の心の健康……自律と積極性・しつけ・勤勉性と劣等感
- 第5回 思春期の心理学……思春期の特徴とその対応。適応の困難さと向き合う
- 第6回 青年期……同一性(アイデンティティ)の心理・LGBTの理解
- 第7回 若い成人期……親密性の発達。働く上でのメンタルヘルス
- 第8回 ライフスタイル診断とこころの健康……うつ病・神経症など
- 第9回 発達障害についての理解1…ADHD・LD・アスペルガーなどの基本的知識
- 第10回 発達障害についての理解2…実際の対応の仕方、留意点
- 第11回 成人期の心の健康……生きがい・職場の心理学
- 第12回 老年期の心の健康……高齢者と認知症の心理
- 第13回 平和と暴力1……社会的健康を阻害する暴力
- 第14回 平和と暴力2……人権と対話の文化を・SDGs(持続可能な開発目標)の理解
- 第15回 講義のまとめ……講義のまとめ・ふりがえり

成績評価の方法 /Assessment Method

- ①毎回の授業への参加熱意と態度(40%) ②定期試験もしくは期末課題レポート(60%)
(注意:「評価不能」について。認められた事由のない欠席回数が総授業回数の過半数を超える場合と期末定期試験を認められた事由なしに受験しなかった場合は「評価不能」とします。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

心理学一般に関する様々な知識があれば理解は深まりやすい。日頃の生活の中で心理学や社会学、また科学的手法に関わるテーマについて自分の興味を深めていくような態度を習慣にすることが大切だと考える。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に対する質問や感想を小片紙に書いてもらうので積極的な姿勢で毎回の授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

SDGs 3「健康と福祉」、SDGs 16「平和と公正」に強い関連がある。

データ処理【夜】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	総合的知識・理解		
技能	情報リテラシー	●	コンピュータやインターネットを活用するための基礎的な技能を身につけている。
	数量的スキル	●	コンピュータを使った基礎的なデータの処理技法を身につけている。
	英語力		
	その他言語力		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力		
関心・意欲・態度	自己管理能力		
	社会的責任・倫理観	●	情報社会を生きる責任感と倫理観を自覚する。
	生涯学習力		
	コミュニケーション力		
			データ処理
			INF101F

授業の概要 /Course Description

情報化社会においては、コンピュータの基礎操作を習得することと、コンピュータやネットワークを正しく安全に使える知識を持つことが必要である。この授業では、コンピュータやネットワークを効果的に使えるようになるために、実際にコンピュータを操作しながら、表計算ソフトを用いた情報処理技術や、電子メールをはじめとするネットワークコミュニケーションの技法を学習する。具体的には、以下のような知識や技術を習得する。

- タイピングの基礎
- 表計算ソフトを使った表作成、グラフ作成の基礎
- 様々なデータを目的に沿って処理・分析するための数量的スキルの基礎
- 本学が提供している電子メールの利用方法の基礎
- ネットワークを安全に利用するための情報倫理やセキュリティに関する基礎

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 本学の情報システム利用環境について【ID】【パスワード】【ポータルサイト】【北方Moodle】
- 2回 正確な文字入力と電子メールの送受信方法【タイピング】【電子メール】
- 3回 ネットワークの光と影1【情報倫理】【セキュリティ】
- 4回 ネットワークの光と影2【著作権】【個人情報保護】
- 5回 表作成の基本操作【セル】【書式】【罫線】【数式】【合計】
- 6回 見やすい表の作成【列幅】【結合】【ページレイアウト】【印刷】
- 7回 関数を活用した集計表【セルの参照】【平均】
- 8回 グラフ作成の基礎【グラフ】
- 9回 グラフ作成の応用【目的に合ったグラフ】
- 10回 表・グラフ作成演習
- 11回 データ処理の基礎【散布図】【相関】【複合グラフ】
- 12回 データ処理演習1【データ処理の計画】
- 13回 データ処理演習2【データ処理の実践】
- 14回 データ処理演習3【データ処理手法の見直し】
- 15回 まとめ

データ処理【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題への取り組み ... 50%
積極的な授業への参加（タイピング、振り返りレポートなどを含む） ... 50%
課題やタイピング、振り返りレポートなどの提出が全くない場合は、評価不能（－）です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に、それまでの授業内容について振り返っておくこと。授業終了後には、授業中に学んだことをまとめて、課題や振り返りレポートなどを提出条件に従って締め切りまでに間に合うように提出すること。タイピングや表計算ソフトExcelなどのコンピュータ操作については、自主練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

コンピュータの基本的な操作（キーボードでの文字入力、マウス操作など）ができるようになっておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。また、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もある。それらの場合は、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

表計算ソフト、タイピング、電子メール、情報倫理

法学総論【夜】

担当者名 小野 憲昭 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	法学の理論的・基礎的な問題の理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	法学上の課題を発見し、法的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える法学に関連した諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

法学総論

LAW100M

授業の概要 /Course Description

わが国の主要な法律である憲法、民法、刑法の特徴や基本原則についてお話するとともに、法の一般的な特性や構造、その機能についても講義します。法の存在や仕組みを知り、判例を通じた法律問題解決の技法、基本的な考え方を修得することを目的としています。

(到達目標)

【知識】 法学の初歩的な知識を身につけている

【技能】 法学的アプローチを行うための基礎的な技法を身につけている

【思考・判断・表現力】 社会的な問題に対し、法的に考え判断することができる

教科書 /Textbooks

佐藤幸治 = 鈴木茂嗣 = 田中成明 = 前田達明著『法律学入門 第3版補訂版』有斐閣 2008年 2,200円(税込み)
レジュメや資料も必要に応じてその都度配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 中川善之助著泉久雄補訂『[補訂版] 法学』日本評論社 1985年
- 三ヶ月章著『法学入門』弘文堂 1981年
- 星野英一著『法学入門』有斐閣 2010年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 民法の世界① 【私的自治の原則】 【契約】
- 第3回 民法の世界② 【自然人】 【法人】 【所有権】
- 第4回 民法の世界③ 【過失責任】 【損害賠償】
- 第5回 民法の世界④ 【夫婦】 【親子】
- 第6回 刑法の世界① 【罪刑法定主義】 【犯罪】
- 第7回 刑法の世界② 【刑罰】 【刑事手続き】
- 第8回 憲法の世界① 【国民主権】 【基本的人権】
- 第9回 憲法の世界② 【権力分立】 【国会】 【裁判所】
- 第10回 法の仕組みと運用① 【法の特性】 【道徳】 【法の機能】
- 第11回 法の仕組みと運用② 【裁判規範】 【法源】
- 第12回 法の仕組みと運用③ 【裁判所】 【判例】
- 第13回 法の仕組みと運用④ 【法の適用】 【事実】 【法律要件】
- 第14回 法の仕組みと運用⑤ 【法の解釈】 【類推解釈】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度・・・10% レポート・・・30% 定期試験・・・60%
定期試験を受験しなかった場合は評価不能(-)とします。

法学総論【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義に臨む際は、事前にレジюмеや参考文献の該当部分を読んでおいてください。事後は、講義内容や資料、紹介する参考文献を参照しながら、問題点ごとにノートを作成して理解を深めてください。

履修上の注意 /Remarks

講義には六法を持参してください。法学部以外の受講生には、池田真朗他編『法学六法'22』信山社(1,100円)をおすすめします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会規範 道徳 公法 私法 憲法 民法 刑法 裁判所 判例 裁判所

日本国憲法原論【夜】

担当者名 山本 健人 / 法律学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	憲法全体の体系的理解に必要な専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	課題を発見し、憲法学的な分析と論理的な思考に基づき、その解決方法等の提示に至る、総合的な判断力を身に付ける。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	現代社会が抱える憲法に関わる諸問題に対する自らの関心を高め、法と社会とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力		

※法律学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

日本国憲法原論

LAW120M

授業の概要 /Course Description

本講義では、憲法学及び日本国憲法の基礎的知識を学ぶことで、その全体像を把握することを目的とします。
とりわけ、今後憲法学を深めていく上で、躓きやすいポイントや最重要と思われる点に絞って講義します。

(到達目標)

【知識】 憲法学および近代立憲主義に関する基礎的知識を身に付ける。

【技能】 憲法学および近代立憲主義を歴史的または社会的問題と結びつける基礎的な技法を身に付ける。

【思考・判断・表現力】 憲法学および近代立憲主義に関する課題を発見し、法的または政治学的思考に基づいた判断を行うことができるようになる。

教科書 /Textbooks

大林啓吾＝小林裕紀編『ケースで学ぶ憲法ナビ〔第2版〕』（みらい、2021年）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○斎藤一久＝堀口悟郎『図録 日本国憲法〔第2版〕』（弘文堂、2021年）

○新井誠＝曾我部真裕＝佐々木くみ＝横大道聡『憲法I・II〔第2版〕』（日本評論社、2021年）

○上田健介＝尾形健＝片桐直人『憲法判例50!〔第2版〕』（有斐閣、2020年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス・憲法とは何か①—憲法の基礎
- 第2回 憲法とは何か②—近代立憲主義・日本国憲法の基本原理
- 第3回 日本国憲法史・天皇制
- 第4回 平和主義
- 第5回 統治機構①—国会 / 立法権
- 第6回 統治機構②—内閣 / 行政権
- 第7回 統治機構③—裁判所 / 司法権
- 第8回 統治機構④—地方自治制度
- 第9回 人権総論①—人権の理念と憲法上の権利
- 第10回 人権総論②—憲法上の権利の射程
- 第11回 人権総論③—憲法上の権利の限界と違憲審査の方法
- 第12回 人権各論①—国家からの自由
- 第13回 人権各論②—国家による自由・国家への自由
- 第14回 人権各論③—包括的基本権
- 第15回 憲法の改正

日本国憲法原論【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験70% + 小テスト30%
期末試験を受験しなかった場合は評価不能(－)とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業計画や講義の進行を参考に、指定教科書の次回講義該当部分を予め読んでおくこと。
また、各回の内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、SDGsの5「ジェンダー平等を実現しよう」、10「人や国の不平等をなくそう」、16「平和と公平をすべての人に」という目標に関連しています。

キーワード /Keywords

憲法総論、基本的人権、統治機構

都市環境論 【夜】

担当者名 /Instructor 吉田 舞 / Mai Yoshida / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 都市環境（水・大気・廃棄物など）に関しての体系的理解に必要な専門的な知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 都市環境に関する政策課題を見極め、政策論的な分析・評価と論理的な思考に基づき、独自の新たな政策提案等に至る、総合的な判断力を身につける。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	● 現代社会が抱える都市環境の政策課題に対する自らの関心を高め、市民生活と政策とのつながりを再確認する。
	コミュニケーション力	

※政策科学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

都市環境論

PLC111M

授業の概要 /Course Description

本授業は「環境未来都市」北九州市に居住・通学する人間として、それにふさわしい生活態度や行動に連動させていくといった実践力を養うことを目的としています。本授業では、まず、自らの生活における環境意識を分析し、授業に臨みます。本授業では、「都市環境と生活」という視点から、特に近隣のアジア諸国で起きている環境にかかわる問題を取り上げ、そこで生活している人々が抱える問題などを考察します。さらに、これら問題の背景を、グローバルな観点から学ぶことを通して、日本で暮らす自分たちの<地続き>の問題として考察することを目指します。これにより、私たち自身が持続可能な都市生活を続けるためにも、本分野を生涯にわたって学習するという姿勢に連動することを望みます。

- { 知識 } 都市で生活する上で基礎となる知識を最低限身に付けている。
- { 技能 } 持続可能な都市を作る上での技能を獲得する。
- { 思考・判断・表現力 } 持続可能な都市の一員として政策に積極的に関与できる。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 石井正子 『甘いバナナの苦い現実』 2020, コモンズ。
- 鶴見良行 『バナナと日本人』 1982, 岩波新書。
- 長田華子 『990円のジーンズがつくられるのはなぜ?』 2016, 合同出版。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「都市環境論」の授業内容とねらい：簡単な環境意識度チェック【環境意識】
- 第2回グローバル化と都市環境【気候変動と私たち】
- 第3回途上国の都市環境問題【途上国と日本】
- 第4回フェミニズムの立場からみる環境問題【ジェンダーと環境】
- 第5回生活と水を考える：世界の水事情【安全な水】
- 第6回フィリピンの庶民バスが消える？コロナと大気汚染【大気汚染】
- 第7回フィリピンのゴミ山から考える私たちの暮らし【途上国と廃棄物】
- 第8回私たちが寄付した古着はどこに行く？【ファッションと環境】
- 第9回自然災害における危険とリスク【防災とコミュニティ】
- 第10回バナナと日本人：エシカルバナナと日本企業【食と農】
- 第11回ドキュメンタリー「スマホの真実」から考える【環境破壊】
- 第12回環境保全に取り組む人々とグローバルな連帯【環境保全運動】
- 第13回北九州市の環境の現状【北九州市】
- 第14回エコツーリズムと環境保全【エコツーリズム】
- 第15回まとめ

都市環境論 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト/課題/ワークシート50%、期末試験50%

※ 授業を5回以上欠席した場合、期末試験未受験者は「評価不能(-)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各種メディアを通じて提供される国内外の時事問題に関する情報に関心に向け、その概要を把握すること。

履修上の注意 /Remarks

受講生の人数や理解度、問題関心によって授業の内容を変更することがあります。
私語厳禁。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な授業への参加を期待します！

キーワード /Keywords

都市環境、生活、途上国、グローバル化

高齢者に対する支援と介護保険制度 1 【夜】

担当者名 石塚 優 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 高齢者の支援に必要な基礎的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	● 身につけた基礎的知識が高齢者の支援や理解に適応可能であることを発見する。
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

高齢者に対する支援と介護保険制度 1 SOW220M

授業の概要 /Course Description

老人福祉論及び高齢者に対する支援と介護保険制度は以下の内容の理解をねらいとして進める。①高齢者の生活実態と社会情勢、福祉・介護需要について理解する。②高齢者福祉制度の発展過程について理解する。③高齢化の現状や介護の概念や対象及びその理念等について理解する。④介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解する。⑤認知症について理解する。⑥認知症高齢者のケアと施策について理解する。⑦高齢者虐待に関する法と現状について理解する。これにより学生は高齢化の現状、高齢者の生活実態、高齢者福祉の発展過程、介護概念などを理解することができる。

(到達目標)

【知識】高齢者の生活実態と取り巻く社会情勢に関する知識を総合的に理解している。

【思考・判断・表現力】高齢者福祉に関わる課題について、論理的に思考して解決策を探索し、専門的見地から自分の考えや意見を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

「高齢者に対する支援と介護保険制度」(社会福祉士シリーズ13) 弘文堂

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

講義の中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに 社会保障の意義と機能
- 第2回 高齢者福祉制度の発展過程【明治から福祉3法まで】
- 第3回 高齢者福祉制度の発展過程【福祉6法から日本型福祉社会】
- 第4回 高齢者福祉制度の発展過程【福祉見直し論から高齢者保健福祉推進10ヵ年戦略】
- 第5回 高齢者福祉制度の発展過程【介護保険制度の成立】
- 第6回 高齢者福祉制度の発展過程【後期高齢者医療制度創設】
- 第7回 高齢者の特性と疾病
- 第8回 少子・高齢社会の現状【高齢化の要因、人口高齢化の現状】
- 第9回 少子・高齢社会の現状【今後の人口構成の動向、人口高齢化の地域差】
- 第10回 少子・高齢社会の現状【人口高齢化の速度と国際比較、家族構成の変化】
- 第11回 高齢者の福祉ニーズと生活実態
- 第12回 介護の概念と介護予防
- 第13回 認知症高齢者の現状
- 第14回 認知症ケアの制度と施策
- 第15回 高齢者虐待と虐待予防の仕組み

成績評価の方法 /Assessment Method

評価の対象は全回数の6割以上出席し、定期試験を受験した場合とする。出席回数6割を満たさなかったり、満たしていても最終試験を受験しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。

定期試験70% 授業への参加30%

高齢者に対する支援と介護保険制度 1 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストを読んでおく

履修上の注意 /Remarks

現代社会と福祉を受講済みが望ましい

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

高齢者に対する支援と介護保険制度 2 【夜】

担当者名 /Instructor 石塚 優 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● 高齢者の支援に必要な基礎的・専門的知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	● 高齢者の支援にかかわる諸課題を発見し分析できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	社会的責任・倫理観	
	生涯学習力 コミュニケーション力	

※地域創生学群以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

高齢者に対する支援と介護保険制度 2

SOW221M

授業の概要 /Course Description

老人福祉論及び高齢者に対する支援と介護保険制度IIは介護保険制度を中心に、以下の内容の理解をねらいとして進める。①介護保険制度成立の経緯について理解する。②介護保険制度の仕組みについて理解する。③介護保険法の組織や団体など制度の運営に関わる組織や団体の役割と実際等について理解する。④地域包括支援センターの役割と地域包括ケアシステムについて理解する。これにより学生は介護保険制度の法、組織、専門職の役割等について理解することができる。

(到達目標)

【知識】高齢者への支援に関する知識を総合的に理解している。

【思考・判断・表現力】高齢者福祉に関わる課題について、論理的に思考して解決策を探索し、専門の見地から自分の考えや意見を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

「高齢者に対する支援と介護保険制度」(社会福祉士シリーズ13) 弘文堂

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

講義の中に紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義の進め方について、高齢化の現状と将来推計(認知症高齢者の将来推計)
- 第2回 介護保険制度創設の背景
- 第3回 介護保険制度創設後の見直し【介護保険法の見直し】
- 第4回 介護保険制度の枠組み【介護保険制度の基本理念】
- 第5回 介護保険制度の仕組み【保険者、被保険者】【サービスとサービス事業者】
- 第6回 介護保険制度の仕組み【介護保険制度の財源構成、保険料】
- 第7回 介護保険制度の仕組み【保険給付、介護度の判定、制度の利用】
- 第8回 介護保険制度の仕組み【給付の仕組みと利用者負担、利用できるサービス】
- 第9回 介護保険制度の仕組み【地域支援事業と権利擁護】
- 第10回 介護保険法における組織及び団体の役割と実際【介護保険制度における組織及び団体の役割と実際】
- 第11回 介護保険法における介護報酬
- 第12回 介護保険制度の運営【専門職の役割】
- 第13回 介護保険法におけるケアマネジメントと実際
- 第14回 地域包括支援センターの役割1【地域包括支援センターの組織体系】
- 第15回 地域包括支援センターの役割2【地域包括支援センターの活動の実際】

成績評価の方法 /Assessment Method

評価の対象は全回数の6割以上出席し、定期試験を受験した場合とする。出席回数6割を満たさなかったり、満たしていても最終試験を受験しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。

定期試験70% 授業への参加30%

高齢者に対する支援と介護保険制度2 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストを読んでおく。

履修上の注意 /Remarks

現代社会と福祉を受講済みであることが望ましい

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ミクロ経済学I【夜】

担当者名 /Instructor 朱 乙文 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● ミクロ経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ミクロ経済学 I

ECN112M

授業の概要 /Course Description

ミクロ経済学の入門的知識を解説する。具体的に、本講義は、「希少性から引き起こされる資源配分の問題がどのように解決されるか」という基礎的な問いに対して、基本的なミクロ経済分析ツールを用いて解答を提示し、市場メカニズムの働きやその意義などについての理解を深めることを目的とする。

(到達目標)

【知識】ミクロ経済学に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

【技能】ミクロ経済分析を行うのに必要なスキルを身につけている。

【思考・判断・表現力】ミクロ経済の諸問題について、思考して解決策を探求し、自分の考えや判断を論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』東洋経済 (○)
- ・ 金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック ミクロ経済学』新世社 (○)
- ・ J. E. スティグリッツ (藪下史郎ほか訳)『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社 (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：「ミクロ経済学」とは
- 2回 【市場メカニズム】(復習)、経済学と数学など
- 3回 需要、供給、および政府の施策(1)：【価格規制】
- 4回 需要、供給、および政府の施策(2)：【課税】
- 5回 市場と厚生(1)：【余剰】
- 6回 市場と厚生(2)：市場の【効率性】
- 7回 需給分析の応用(1)：【価格規制の余剰分析】
- 8回 需給分析の応用(2)：【課税の余剰分析】
- 9回 市場と企業行動(1)：【生産】【費用】【長期と短期】
- 10回 市場と企業行動(2)：【限界分析】【限界収入】【限界費用】
- 11回 市場と企業行動(3)：【利潤最大化】、供給曲線の導出
- 12回 様々な【市場構造】
- 13回 ミクロ経済学の展開(1)：【市場メカニズムの限界】
- 14回 ミクロ経済学の展開(2)：「ミクロ経済学II」、他の分野との関連
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

ミクロ経済学I【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

- ・ 「経済学入門A・B」の授業内容を十分に理解しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 学生証を持参すること

キーワード /Keywords

- ・ 経済学的考え方、市場均衡、比較静学、余剰分析、市場の効率性、市場構造、限界分析

ミクロ経済学II 【夜】

担当者名 朱 乙文 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	ミクロ経済分析に必要な専門知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力			
	プレゼンテーション力			
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）			
	生涯学習力			
	コミュニケーション力			

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

ミクロ経済学II EGN210M

授業の概要 /Course Description

本講義は、「ミクロ経済学I」もしくは「ミクロ経済学」（旧カリ科目）の内容をベースにし、ミクロ経済学の基礎的な知識をより深く理解することを目的とする。具体的に、ここでは、消費者行動の理論と生産者行動の理論を中心に、個別経済主体の最適行動の決定から出発するミクロ経済学の論理と基本的分析手法を理解する。

（到達目標）

- 【知識】ミクロ経済学に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。
- 【技能】ミクロ経済分析を行うのに必要なスキルを身につけている。
- 【思考・判断・表現力】ミクロ経済の諸問題について、思考して解決策を探求し、自分の考えや判断を論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ N. グレゴリーマンキュー『マンキュー経済学I ミクロ編』東洋経済 (○)
- ・ 金谷貞夫・吉田真理子『グラフィック ミクロ経済学』新世社 (○)
- ・ J. E. スティグリッツ (藪下史郎ほか訳)『スティグリッツ ミクロ経済学』東洋経済新報社 (○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：経済と経済分析手法
- 2回 ミクロ経済学と数学：微分・積分
- 3回 家計の理論【消費者行動の理論】(1)：消費と選好、効用
- 4回 家計の理論【消費者行動の理論】(2)：無差別曲線、予算線
- 5回 家計の理論【消費者行動の理論】(3)：【最適消費の決定】と需要曲線の導出など
- 6回 家計の理論【消費者行動の理論】(4)：需要の決定要因
- 7回 【消費者行動の理論】とその応用
- 8回 企業の理論【生産者行動の理論】(1)：企業の目的、生産、費用、利潤
- 9回 企業の理論【生産者行動の理論】(2)：等量曲線、等費用線
- 10回 企業の理論【生産者行動の理論】(3)：【最適生産の決定】と供給曲線の導出など
- 11回 【生産者行動の理論】とその応用
- 12回 市場と市場の効率性(1)：【パレート最適】
- 13回 市場と市場の効率性(2)：「厚生経済学」の基本的考え方
- 14回 ミクロ経済学再考、展開
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 課題・授業態度など ... 20 % 期末試験 ... 80 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業の前に、テキスト・参考書の該当する内容を読んで予習を、また授業後はノートや配布資料等をもとに授業内容を整理し、復習を行うこと

ミクロ経済学II 【夜】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 新カリの受講者は「ミクロ経済学I」の授業内容を、また旧カリ（中級ミクロ経済学）の受講者は、「ミクロ経済学」の授業内容を十分に理解しておくとともに高校レベルの数学（微分・積分）の基礎的な知識について復習しておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 学生証を持参すること

キーワード /Keywords

- ・ 消費者行動理論、生産者行動理論、パレート最適、厚生経済学

マクロ経済学I【夜】

担当者名 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● マクロ経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

マクロ経済学 I

ECN113M

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは、経済を巨視的に捉えてその運動のメカニズムを考察する経済学の基幹分野の一つで、その主要目的は景気循環や経済成長といった諸現象の解明にある。この講義では、マクロ経済学の基礎理論の解説を通じて、一国の景気の良し悪しを決定する要因は何か、株価などの資産価格の水準やその変動を規定する要因は何か、といった問題に対する理解を深めることを目的とする。

(到達目標)

【知識】マクロ経済学に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】マクロ経済分析に必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】マクロ経済について、論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の意見を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(1) 【金融取引と金融市場】
- 3回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(2) 【株式の適正価値】
- 4回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(3) 【割引現在価値計算】
- 5回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(4) 【割引現在価値計算】【債券】【リスクと流動性】
- 6回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(5) 【資産価格バブル】【楽観的期待】【投機的取引】
- 7回 金融市場の仕組みと株価の決定メカニズム(6) 【バブルと資源配分】
- 8回 GDPとマクロ経済循環(1) 【GDP】【付加価値】【最終財】
- 9回 GDPとマクロ経済循環(2) 【三面等価】【貯蓄投資バランス】
- 10回 GDPとマクロ経済循環(3) 【GDPデフレーター】
- 11回 ケインズの不況理論(1) 【GDPギャップ】【ベビーシッター組合の寓話】【45度線分析】
- 12回 ケインズの不況理論(2) 【均衡の安定性】【比較静学】
- 13回 ケインズの不況理論(3) 【貯蓄のパラドックス】【乗数効果】
- 14回 ケインズの不況理論(4) 【財政の3機能】【財政政策】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

宿題：25%、期末試験：75%

(期末試験を受験しなかった場合、評価不能(-)とする)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

復習を欠かさず行うこと。授業の理解に有益な読書や映像視聴などを行うこと。

マクロ経済学I【夜】

履修上の注意 /Remarks

経済学は「積み重ねの学問」なので、先に説明した内容がきちんと消化できていないと、後に説明する内容が理解できなくなる。したがって、毎回の復習は欠かさず行ってほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マクロ経済学II 【夜】

担当者名 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専門分野の知識・理解	● マクロ経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	
	プレゼンテーション力	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	
	生涯学習力	
	コミュニケーション力	

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

マクロ経済学II

ECN211M

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学Iに引き続き、マクロ経済学の基礎理論を講義する。講義の前半では、ケインズのな短期モデル（=45度線モデルやIS-LMモデル）を説明し、不況のメカニズムや財政・金融政策の役割について理解を深める。講義の後半では、長期の経済成長モデルについて説明し、一国の経済成長の原動力や経済成長のメカニズムなどを学ぶ。

(到達目標)

【知識】マクロ経済学に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】マクロ経済分析に必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】マクロ経済について、論理的に思考して解決策を探索し、専門的見地から自分の意見を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。配布したプリントに沿って講義を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 45度線モデル(1) 【経済循環図】【45度線モデル】【均衡GDP】
- 3回 45度線モデル(2) 【財政政策】【ケインズの財政政策の問題点】
- 4回 流動性選好理論(1) 【資産選択】【貨幣と債券】【流動性】
- 5回 流動性選好理論(2) 【貨幣供給】【貨幣需要】【均衡利子率】
- 6回 流動性選好理論(3) 【中央銀行】【公開市場操作】
- 7回 中央銀行と金融政策(1) 【中央銀行の目的と機能】【公開市場操作】【ハイパワードマネー】
- 8回 中央銀行と金融政策(2) 【貨幣乗数】【アベノミクス】
- 9回 仮想通貨について 【貨幣の条件】【仮想通貨と地域通貨】【ネットワークの外部性】
- 10回 IS-LMモデル(1) 【IS曲線】【LM曲線】
- 11回 IS-LMモデル(2) 【財政・金融政策】【クライディングアウト】
- 12回 経済成長理論(1) 【マクロ生産関数】【成長会計】
- 13回 経済成長理論(2) 【新古典派成長理論】【収束】
- 14回 経済成長理論(3) 【内生的成長理論】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

宿題：25%、 期末試験：75%

(期末試験を受験しなかった場合、評価不能(-)とする)

マクロ経済学II 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

復習を欠かさず行うこと。授業の理解に有益な読書などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済学は「積み重ねの学問」なので、先に説明した内容がきちんと消化できていないと、後に説明する内容が理解できなくなる。したがって、毎回の復習は欠かさず行ってほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際経済論I 【夜】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際経済の分析に必要な基礎的な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	国際経済に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際経済に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの国際経済に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際経済論 I

ECN240M

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、自由貿易交渉、貿易摩擦、海外直接投資など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済理論の習得が必要不可欠である。

< 本講義の概要 >

1. 国家間の貿易の発生する仕組みや貿易の利益など伝統的な貿易理論を学ぶ。
2. 輸入関税、輸出補助金など貿易政策の経済効果を部分均衡分析を用いて学ぶ。
3. 地域貿易協定締結の経済的影響について理解する。

< 本講義の主な到達目標 >

1. 国際経済に関する諸問題を理解するために必要な専門知識を習得する。
2. 貿易政策の経済効果を理解するために部分均衡分析の手法を身につける。
3. グローバル社会が抱える諸問題を考察し、いかに解決できるか経済学の視点から理解できるようになる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大川昌幸著『コア・テキスト国際経済学』（第2版）（新世社）
石川城太他著『国際経済学をつかむ（第2版）』（有斐閣）
石井安憲他著『入門・国際経済学』（有斐閣）
阿部顕三・遠藤正寛著『国際経済学』（有斐閣アルマ）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 リカード・モデル（1）【絶対優位】【比較優位】
- 3回 リカード・モデル（2）【貿易パターン】【相対価格の決定】
- 4回 リカード・モデル（3）【貿易の利益】
- 5回 ヘクシャー＝オリーン・モデル（1）【要素賦存】【要素集約度】
- 6回 ヘクシャー＝オリーン・モデル（2）【要素賦存と生産】【貿易パターン】
- 7回 ヘクシャー＝オリーン・モデル（3）【財価格と要素価格】【要素価格均等化】
- 8回 部分均衡分析【消費者余剰】【生産者余剰】
- 9回 貿易政策の分析（1）【輸入関税】
- 10回 貿易政策の分析（2）【輸入数量制限】
- 11回 貿易政策の分析（3）【輸出補助金】【輸出自主規制】
- 12回 貿易政策の分析（4）【有効保護】
- 13回 地域貿易協定（1）【自由貿易協定】【関税同盟】
- 14回 地域貿易協定（2）【貿易創出効果】【貿易転換効果】
- 15回 まとめ

国際経済論I 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常授業への取り組み 30 % 期末試験 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回予習・復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学をすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになる。
主に図解分析で講義を進めるので、国際経済論の勉強を通じて論理的思考力を身につけてほしい。
部分均衡分析に関しては、清野著『ミクロ経済学入門』（日本評論社）を参照されたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済のメカニズム及び国際経済問題を包括的に理解するためには、「国際経済論特講」と併せて履修することが望ましい。

キーワード /Keywords

比較優位、要素賦存、貿易政策、自由貿易協定

国際経済論II 【夜】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	国際経済の分析に必要な専門知識を修得する。	
技能	専門分野のスキル			
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	国際経済に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。	
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの国際経済に関する諸問題に対して、その解決策を検討できる。	
	生涯学習力	●	身の回りの国際経済に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。	
	コミュニケーション力			

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

国際経済論II

ECN241M

授業の概要 /Course Description

経済のグローバル化が進むなか、企業買収、自由貿易交渉、貿易摩擦、海外直接投資など国際経済に関するさまざまな話題が日増しに注目されてきた。これら国境を越えた取引はどのような背景があるのか、どのような影響を及ぼすかなどについてより深く理解するために、国際経済理論の習得が必要不可欠である。

<本講義の概要>

- 1、貿易政策（主に大国のケース）の経済効果を学ぶ。
- 2、国際労働移動、海外直接投資が起こる理由と経済的影響について学ぶ。
- 3、貿易政策と環境政策のお互いに与える影響を理解する。

<本講義の主な到達目標>

- 1、国際経済に関する諸問題を理解するために必要な専門知識を習得する。
- 2、貿易政策の経済効果を理解するために部分均衡分析の手法を身につける。
- 3、グローバル社会が抱える諸問題を考察し、いかに解決できるか経済学の視点から理解できるようになる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

阿部顕三・遠藤正寛著『国際経済学』（有斐閣アルマ）
大川昌幸著『コア・テキスト国際経済学』（第2版）（新世社）
石川城太他著『国際経済学をつかむ（第2版）』（有斐閣）
石井安憲他著『入門・国際経済学』（有斐閣）

国際経済論II 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 貿易政策の分析基礎(1) 【消費者余剰】 【生産者余剰】
- 3回 貿易政策の分析基礎(2) 【貿易の利益】
- 4回 貿易政策の経済分析(1) 【輸入関税政策】
- 5回 貿易政策の経済分析(2) 【最適関税】 【近隣窮乏化】
- 6回 貿易政策の経済分析(3) 【輸入数量制限】
- 7回 貿易政策の経済分析(4) 【輸出補助金】
- 8回 生産要素の国際移動(1) 【限界生産物】 【労働所得】 【資本所得】
- 9回 生産要素の国際移動(2) 【海外直接投資】
- 10回 生産要素の国際移動(3) 【国際労働移動】
- 11回 貿易と環境(1) 【貿易政策から環境への影響】
- 12回 貿易と環境(2) 【排出権取引】
- 13回 貿易と環境(3) 【環境政策から貿易への影響】
- 14回 貿易と環境(4) 【外部不経済】 【ピグー税】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常授業への取り組み 30 % 期末試験 70 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回予習・復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学、国際経済論Iをすでに受講した場合は、本講義の理解がより深いものになる。
主に図解分析で講義を進めるので、国際経済論の勉強を通じて論理的思考力を身につけてほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国際経済論Iの履修済みが望ましい。

キーワード /Keywords

貿易政策、最適関税、国際労働移動、海外直接投資、貿易と環境

経営戦略論 【夜】

担当者名 山下 剛 / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	経営戦略の理論および実践の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	経営戦略に関する諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	経営戦略に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

経営戦略論

BUS213M

授業の概要 /Course Description

現代社会は企業によって成り立っており、企業経営の成否は死活問題です。それでは企業は、競合他社のひしめく市場に身をおいて、どのように利益を上げ、生存を図っているのか。それを決定づける要因が経営戦略です。本講義では「戦略とは何か」という理解に立ちながら、経営戦略に関する基本的な理論、実践について考察していきます。

(到達目標)

【知識】

経営戦略に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】

経営戦略に関する諸問題を体系的に理解することができる。

【思考・判断・表現力】

経営戦略に関連する諸問題について論理的に思考し、自分の考えを明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

東北大学経営学グループ『ケースに学ぶ経営学（第3版）』有斐閣、2019年、2970円

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

浅羽茂・牛島辰男著『経営戦略をつかむ』有斐閣、2010年(○)

ジェイ・B・バーニー(岡田正大訳)『企業戦略論』(上・中・下)ダイヤモンド社、2003年(○)。

沼上幹+一橋MBA戦略ワークショップ『戦略分析ケースブック Vol.2』東洋経済新報社、2012年。

C.I.バーナード(山本保次郎・田杉競・飯野春樹訳)『[新訳]経営者の役割』ダイヤモンド社、1968年(○)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 経営戦略とは?① 【戦略という概念】【意思決定と戦略】【戦略的要因】
- 第3回 経営戦略とは?② 【経営戦略の概念】【経営戦略の2つのレベル】【経営戦略論史】
- 第4回 事業戦略① 【3つの基本戦略】
- 第5回 事業戦略② 【イノベーションとは何か】
- 第6回 事業戦略③ 【コスト・リーダーシップ戦略】
- 第7回 事業戦略④ 【差別化戦略】
- 第8回 事業戦略⑤ 【集中戦略】
- 第9回 企業戦略① 【多角化戦略】
- 第10回 企業戦略② 【PPM】
- 第11回 企業戦略③ 【持続的競争優位】【コア・コンピタンス】
- 第12回 企業戦略④ 【イノベーションを生み出す組織】
- 第13回 企業戦略⑤ 【資金調達戦略】【株主戦略】
- 第14回 企業戦略⑥ 【ドメイン】【破壊的技術】
- 第15回 まとめ

経営戦略論 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...60% 小テスト...40%

なお、小テスト・学期末試験をまったく受験していない場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前に、テキストの該当箇所をしっかりと熟読してください。講義後、テキストおよびレジュメによって復習し、また自分なりに他の事例がないか調べてください。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

なお、適宜、レポート課題を出します。

また該当箇所の参考文献をよく読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

状況に応じて、臨機応変に進めていきたいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

【意思決定】 【目的と環境】 【事業戦略】 【企業戦略】 【競争優位】

財務会計論I【夜】

担当者名 /Instructor 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2単位 /Semester 1学期 1学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	財務会計の理解に必要な基本的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル	●	財務会計に関する諸問題を解決するための分析手法を修得する。
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力	●	財務会計に関わる諸問題を体系的に理解し、自ら課題を発見してその解決策について考察することができる。
	プレゼンテーション力		
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）		
	生涯学習力	●	財務会計に関わる諸問題に関心を持ち続けることができる。
	コミュニケーション力		

※経営情報学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

財務会計論I

ACC214M

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

財務諸表とは、企業が利害関係者に対して財政状態や経営成績を報告する、複数の財務表のことである。財務表には様々な種類のものがある。その中でも主たる財務表、すなわち貸借対照表と損益計算書を中心に勉強する。財務会計論の基礎知識（貸借対照表＝資産、負債、純資産、損益計算書＝収益、費用）と、財務会計の基本的な考え方について学ぶことがねらいである。財務会計論Iでは、まずはじめに、財務諸表の仕組みや歴史、思想を学び、それから全体として、会計学というものがいかなる学問であるかという点について、広い角度から紹介したいと思う。木を見て森(=会計学)を見ずということにならないよう、学問としての会計学、会計を取り巻く諸問題を取り上げたい。また、財務会計論IIでは、財務会計論Iを踏まえて、会計固有の問題について深く掘り下げるので、IとIIをペアで履修することを推奨する。

本年度より実際の財務諸表を見慣れるために可能な限りかんたんな財務分析の時間を設けたいと思う。

< 到達目標 >

知識：財務会計に関する基礎的な知識を見つけている。

技能：会計学の基本的な技能を身につけている。

思考・判断・表現力：財務会計について論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

配布プリントを用いて、授業を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西澤健次『信長に学ぶ経営分析』星海社○
西澤健次『ホスピタリティと会計』国元書房○
西澤健次『負債認識論』国元書房○
桜井久勝『財務会計講義』中央経済社○
中央経済社編『新版 会計法規集』中央経済社○

財務会計論I【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務会計（会計学）とは何か？【企業の経済活動】【本体】【写像】【会計責任】
- 2回 財務会計の入門【認識】・【測定】・【伝達】
- 3回 会計の歴史【複式簿記】【古代ローマ起源説】【イタリア中世起源説】
- 4回 損益計算書について【費用】【収益】【利益】
- 5回 貸借対照表について【資産】【負債】【純資産】
- 6回 動態論と静態論【取得原価】【時価】
- 7回 会計公準とは何か【構造的な公準】【要請的な公準】
- 8回 貨幣評価の公準について【財務報告】【非財務報告】
- 9回 財務会計の基礎概念【発生主義会計】【減価償却】
- 10回 収益・費用の認識・測定【実現概念】
- 11回 収益認識基準と利益
- 12回 中間のまとめ【認識、測定、伝達】
- 13回 財務会計の諸問題 - 会計学とは何か？【学問としての会計】【学際会計】
- 14回 財務諸表の読み方(簡単な経営分析)【ステイクホルダー】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況（小テスト、レポート等を含む）... 20% 中間試験... 20% 期末試験または期末レポート... 60%
 期末試験を受験しなかった場合または期末レポートを提出しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：簿記の復習と、財務諸表で用いる勘定科目の意味を調べ、あらかじめ会計学や財務会計の入門書を読むことをすすめる。財務会計論が簿記検定の延長ではなく、一つの学問であるということを知るために、一例として、青柳文司『会計物語と時間』多賀出版1998年『現代会計の諸相-言語・物語・演劇』多賀出版2008年等の書籍を読むことを薦める。
 事後学習：講義内容を復習し、財務会計の知識の習得と、会計の世界や考え方を理解するように努めること。

履修上の注意 /Remarks

「簿記論」「会計学入門」を既に受講した場合、財務会計論をより深く理解することができる。当該授業は簿記3級位の簿記一巡の手続きを理解していることを前提としている。簿記の未履修者は、基礎的な仕訳について、十分な事前学習が必要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中のスマホは禁止である。本年度より、徐々に、学問としての会計学を紹介する授業に変更していきたいと考えている。会計学固有のテクニカルな問題は課題として出す予定でいる。事前事後学習が不可欠である。

キーワード /Keywords

財政学I【夜】

担当者名 /Instructor 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	財政に関する経済分析に必要な基礎的専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	財政に関する諸問題を理解し、その解決策を検討する準備ができている。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの財政に関する諸問題を発見できる。
	生涯学習力	●	身の回りの財政に関する諸問題を発見する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

財政学 I

ECN361M

授業の概要 /Course Description

この授業では基本的な財政の仕組みと制度、財政の問題に関して経済学的視点から議論します。内容としては財政の基本的な役割である「資源配分機能」、「再分配機能」、「景気安定化機能」について学びます。この3つの政府の役割と政策の在り方について経済理論を用いて正しく理解し、説明できることを目標とします。用いる経済理論はミクロ経済学やマクロ経済学の基本的なモデルの応用です。経済学を勉強していない人にも毎回配るレジュメにベースに基本的な内容から説明していきます。

(到達目標)

【知識】 財政に関して専門的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

【技能】 財政問題の基礎的な分析を行う理論的手法を身につけている。

【思考・判断】

財政問題について、論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えや意見を適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 1) 『財政学をつかむ』 畑農鋭矢 林正義 吉田浩 著 有斐閣
- 2) 『公共経済学』 林正義 小川光 別所俊一郎 著 有斐閣アルマ
- 3) わかる！ミクロ経済学 - レクチャーとエクササイズ - 篠原総一 著 有斐閣

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イントロダクション：財政の役割
- 2 財政の仕組み
- 3 租税の概観と財政収支について
- 4 価格メカニズムと資源配分および所得分配
- 5 市場と資源配分の効率性① 【効率性の基準：効用水準とパレート基準の考え方】
- 6 市場と資源配分の効率性② 【純粋交換経済における競争市場】
- 7 社会厚生と再分配政策
- 8 公共財① 【公共財とは何か】
- 9 公共財② 【公共財の自発的供給と非効率性】
- 10 公共財③ 【公共財の最適供給条件とリンダールメカニズムについて】
- 11 景気変動と経済成長について 【「セイの法則」と「ケインズの有効需要」】
- 12 景気安定化機能の役割
- 13 財政政策の乗数効果
- 14 演習
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験もしくは期末レポートのどちらかで100%

財政学I【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として参考文献の指定箇所を一読しておいてください。予習の目安は30分です。
事後学習として配布資料・プリントの内容の復習と練習問題を解いておいてください。復習の目安は50分です。

履修上の注意 /Remarks

- 1) 主に配布資料・プリントの復習を十分に行って次回の授業に臨むようにしてください。
- 2) 配布資料・プリントはMoodleから各自でダウンロードできます。
- 3) わからないところはどんどん質問に来てください。毎回必ず質問に来られる学生さんもおられます。練習問題の答えを教えてくださいといった申し出には応じれないことがあります。それ以外の講義内容に関する質問には必ず応じます。
- 4) 授業にほとんど出席しないで試験に臨んでもおそらく試験に対応できませんので注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済学の基本的な考え方、分析方法、財政学のエッセンスを一度に習得できるところがこの授業の売りです。
財政学と財政学特講はセットで履修することをお勧めします。

キーワード /Keywords

財政

財政学II【夜】

担当者名 /Instructor 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	専門分野の知識・理解	●	財政に関する経済分析に必要な専門知識を修得する。
技能	専門分野のスキル		
思考・判断・表現	課題発見・分析・解決力 プレゼンテーション力	●	財政に関する諸問題を理解し、その解決策を検討できる。
関心・意欲・態度	実践力（チャレンジ力）	●	身の回りの財政に関する諸問題に対して、その解決策を検討できる。
	生涯学習力	●	身の回りの財政に関する諸問題に対して、その解決策を検討する姿勢をもつ。
	コミュニケーション力		

※経済学科以外の学生は、学位授与方針における能力が異なる場合があります。
所属学科・学類の履修ガイドのカリキュラムマップで確認してください。

財政学II

ECN362M

授業の概要 /Course Description

この授業ではマクロ経済の中で議論される財政政策について講義します。講義の前半では政府が主に景気安定化対策として行う財政政策とその有効性について学びます。バブルの崩壊やリーマンショックなど国内外の経済ショックによって経済の潜在的な活動水準が低下したときに、景気安定化としての財政政策には経済全体の有効需要を作用し、失業やGDPを潜在的な水準に戻すという重要な役割があります。しかし、この財政政策の有効性について疑問視する考え方もありますのでそれについても議論したいと思います。後半では公債（政府の債務）の償還問題や公的年金制度の問題といった世代をまたいだ長期の財政問題について基本的な考え方を学びます。少子高齢化社会のなかで国の財政と公的年金制度をどう持続していくのかという問題に対して経済学的視点から議論します。この講義の到達目標は①景気安定化政策、②政府債務の問題、③少子高齢化と公的年金制度の問題について経済理論を用いて正しく理解し、説明できることです。

（到達目標）

【知識】現代の主要な財政問題に関して専門的な知識を体系的に身につけている。

【技能】現代の主要な財政問題の分析を行う理論的手法を身につけている。

【思考・判断】

財政問題について、論理的に思考して解決策を探求し、自分の考えや意見を適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『財政学をつかむ』 畑農鋭矢 林正義 吉田浩 著 有斐閣
- マンキュー マクロ経済学 I 入門編 と II 応用編 N. グレゴリー・マンキュー (著), 足立英之 (翻訳), 地主敏樹 (翻訳), 中谷武 (翻訳)
- マクロ経済学 二神孝一 堀敬一 (著) 有斐閣
- 公共経済学 林正義・小川光・別府俊一郎 (著) 有斐閣アルマ

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イントロダクション：マクロ経済政策と財政
- 2 45度線モデルと乗数効果
- 3 乗数効果：公債発行と均衡財政
- 4 IS-LMモデル 財・サービス市場の均衡 / 貨幣市場の均衡
- 5 財政政策と金融政策 (IS-LM分析からのインプリケーション)
- 6 財政政策の効果とその有効性① (政策ラグや政策当局の政策運営の観点から)
- 7 長期の経済モデル①家計による異時点間の最適化行動
- 8 長期の経済モデル②企業行動 / 金融市場 / 資本蓄積
- 9 財政政策の効果とその有効性② (リカード=バローの中立命題について)
- 10 財政赤字/累積国債残高の問題点
- 11 財政の持続可能性
- 12 財政再建の議論
- 13 公的年金の財政方式
- 14 少子高齢化と年金収益率
- 15 まとめ

財政学II 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験もしくは期末レポートのどちらかで評価します。評価割合100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として参考文献の指定箇所を一読しておいてください。予習の目安は30分です。
事後学習として配布資料・プリントの内容の復習と練習問題を解いておいてください。復習の目安は50分です。

履修上の注意 /Remarks

- 1) 主に配布資料・プリントの復習を十分に行って次回の授業に臨むようにしてください。
- 2) 配布資料・プリントはMoodleから各自でダウンロードできます。
- 3) わからないところはどんどん質問に来てください。毎回必ず質問に来られる学生さんもおられます。練習問題の答えを教えてくださいといった申し出には応じれないことがあります。それ以外の講義内容に関する質問には必ず応じます。
- 4) 授業にほとんど出席しないで試験に臨んでもおそらく試験に対応できませんので注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済学の基本的な考え方、分析方法、財政学のエッセンスを一度に習得できるところがこの授業の売りです。
財政学と財政学特講はセットで履修することをお勧めします。

キーワード /Keywords

財政

教職論【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教職論は、通常の場合、4年間の教職課程への導入的性格を持つ科目である。

本授業では、教職という仕事の社会的意義と役割、また、教員に求められる資質や倫理の内容を理解するとともに、本学出身者の若手の教員の体験報告とその後の意見交流、ベテラン教員の講演と意見交流を通して、教員という仕事の喜びや困難さを理解し、自らの進路選択を検討するとともに、めざすべき教員像を探求する。

また、教員の職務内容の全体像と教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解するとともに、今日の学校が担うべき役割を実現していくために必要不可欠な教職員や多様な専門職種との連携の在り方について検討する。

なお、この科目は「教職に関する科目」のカリキュラムマップでは、1類-1 に該当する科目である。

到達目標 教職という仕事に関する基本的な知識を理解している。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回の授業で必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩田康之・高野和子編 「教職論」 学文社
文科省 中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション 本授業の目的と進め方、「教職課程を履修する目的」に関するアンケート
2. 教育に求められる実践的指導力と学校ボランティア体験の意義(外部講師の報告)
3. 教員に求められる資質 その1 共感的理解と対話力
4. 今日の教員に求められる役割と職務内容について(講師 森恵美先生)
5. 教員に求められる資質その2 生徒指導と学級経営(学級づくり) - 実践報告を手がかりに
6. 教員に求められる資質その3 教科指導と授業づくり(本学出身の教員の実践報告と意見交流)
7. チーム学校と専門職との連携 その1 「特別なニーズ」を持つ子どもへの支援
8. チーム学校と専門職との連携 その2 被虐待・貧困状況にある子どもと家族への支援
9. 教員に求められる資質その4 特別活動と学級づくり(本学出身の教員の報告と意見交流)
10. 学級づくりに関するグループワーク
11. 現代社会における学校教育の課題 その1 セクシュアルマイノリティの生徒と学校づくり
12. 現代社会における学校教育の課題 その2 部活動・体罰問題を考える。
13. 現代社会における学校教育の課題 その3 「道徳教育」をめぐる問題を考える。
14. 若手教員からみた教員の仕事の生きがいと悩み(本学出身の中学校教員の報告と意見交流)
15. 全体のまとめと課題の説明

* 講師の都合などにより、計画が変更になることがある点、了解されたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(授業内で実施するミニレポート等) 50点、レポート試験50点
出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。
(6回以上欠席した場合や最終レポートを提出しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 新聞記事やテレビなどを通して日常的に生じている教育の問題に関心を持ち、自分自身の見解を持つ努力をすること
- ・ 授業での現職教員との出会いを通して、自分自身が理想とする教師像を育てていくこと
- ・ 学校現場でのボランティア体験などを通して、教師としての実践的指導力の獲得に向けての自己教育の課題に取り組むこと

教職論 【夜】

履修上の注意 /Remarks

この授業はすべての回に出席し、毎回のミニレポートを提出してもらうことを前提にして進めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では多くの学校現場の先生に来ていただいて、教師という仕事の魅力と困難さを語っていただきます。
この半年の授業のなかで皆さん自身がめざすべき「教師像」を育んでもらえることを願っています。

キーワード /Keywords

教職の意義と役割、教員の仕事、理想の教師像

教育原理【夜】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

課題

発達と教育、教育思想や教育史等、教育についての基礎的な知識を習得し、現代の教育における課題について学ぶ。

到達目標

教育に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

- ①教育に関わる基礎的な専門知識を習得する。
- ②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

(以下、平成26年度以降入学生)

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-1」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ、授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：教育の関係：教育のモデル・家族・学校
- 2回 生涯にわたる発達と教育：生涯発達
- 3回 発達課題と教育支援：思春期・青年期
- 4回 教育思想①：諸外国の教育思想
- 5回 教育思想②：日本の教育思想
- 6回 教育史①：西洋の教育史
- 7回 教育史②：日本の教育史
- 8回 学ぶ意欲と教育指導
- 9回 学校教育の機能：基礎集団としての学級
- 10回 学校の制度：学校体系
- 11回 学校教育の課題：学校で生じる問題
- 12回 メディアと教育：メディアと子ども・教材・方法
- 13回 国際化と教育：言語・文化
- 14回 仕事と教育：進路形成
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小課題等) 40%

最終課題(試験) 60%

* 感染症拡大の状況等によってはレポート課題に切り替えることもある。これについては授業中に改めて指示する。

* 3分の2以上の出席が最終課題(試験)受験資格

* 6回以上欠席した場合や最終課題(試験)を受験しなかった場合は原則評価不能(-)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。

配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。

発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育原理【夜】

キーワード /Keywords

発達心理学【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である (Butterworth, 1994)。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。

また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

(到達目標)

【知識】発達心理学に関する基礎的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著 『発達心理学 周りの世界とかわりながら人はいかに育つか (いちばんはじめに読む心理学の本 3)』 ミネルヴァ書房 ¥2750

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文部科学省 (2011) 「生徒指導提要」

その他、授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とはどのような学問か
- 第2回 胎児期・乳児期の赤ちゃんの発達【知覚】
- 第3回 乳児期の赤ちゃんの認知と言語の発達【認知、言語】
- 第4回 赤ちゃんのもつ能力と生後1年間の変化について
- 第5回 乳児期の人との関係のはじまりについて【発達早期のコミュニケーション】
- 第6回 愛着の形成【愛着、内的作業モデル】
- 第7回 愛着の形成【成人の愛着、愛着の世代間伝達】
- 第8回 まとめ と レポート課題1
- 第9回 乳幼児期のコミュニケーション発達【共同注意】
- 第10回 他者とのコミュニケーション、心を推測する力【表象、心の理論】
- 第11回 児童期における思考の深まり【論理的思考、メタ認知】
- 第12回 自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
- 第13回 成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
- 第14回 児童生徒の心理と理解【発達障害の基本的理解】
- 第15回 まとめ と レポート課題2

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 20% レポート課題 ... 80%

6回以上欠席した場合やレポート課題(2回)を提出しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業範囲を予告するので、教科書等の該当部分を予習してくること。また、授業終了後には教科書や配布プリントを用いて各自復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育課程論【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

概要

教育課程に関わる概念や学校における教育課程編成・方法、学習指導要領に関する基礎的な知識を習得し、今日の教育課程の課題について学ぶ。

到達目標

教育課程に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

- ①教育課程に関わる基礎的な知識を習得する。
- ②教育課程の課題について整理し、対応策などを考えることができるようになる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。

プリント（講義レジュメ及び資料）を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に配布するプリントに提示するもの他、必要に応じ適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 教育課程の基本原則 (1) カリキュラムとは
- 第 2回 教育課程の基本原則 (2) カリキュラムの類型
- 第 3回 教育課程の変遷と学習指導要領
- 第 4回 学力と教育課程 (1) 教育課程設計の前提となる「力」
- 第 5回 学力と教育課程 (2) 学習状況調査の影響
- 第 6回 諸外国の教育課程
- 第 7回 教育課程の編成 (1) 教科教育
- 第 8回 教育課程の編成 (2) 教科外教育
- 第 9回 学習環境のデザイン
- 第10回 教育課程の評価
- 第11回 教育課程の開発
- 第12回 カリキュラム・マネジメントと学校改善
- 第13回 今日の課題と教育課程 (1) 異文化理解
- 第14回 今日の課題と教育課程 (2) ESD
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小課題等) 40%

最終課題 (試験) 60%

* 感染症拡大の状況等によってはレポート課題に切り替えることもある。これについては授業中に改めて指示する。

* 3分の2以上の出席が最終課題 (試験) 受験資格

* 6回以上欠席した場合や最終課題 (試験) を受験しなかった場合は原則評価不能 (-)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。

配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。

発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

公民科教育法 A 【夜】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

現在の公民科教育の位置づけや他社会科学科目との関連について理解し、教育方法論や授業理論について学習することで、公民科科目における理論と実践に関する能力の育成を目指す。また、現代社会・倫理・政治経済に関連する諸問題を取り上げ、公民科の教材開発につなげる。

〈到達目標〉

- ・ 公民科教育の位置づけや他社会科学科目との関連に関する理論と実践に関する基礎的な知識を有している。
- ・ 現代社会・倫理・政治経済に関連する諸問題を取り上げ、公民科の教材開発につなげることの意義と課題について理解している。
- ・ 公民科の教員に必要な基本的知識や資質、学習指導要領における公民科の教育課程における位置づけと役割について理解している。
- ・ 学習指導案の作成やグループでの討論を通して、今、求められる当該教科の実践指導のあり方を習得している。
- ・ 教授活動に必要なとされる具体的な技能や方法を扱い、理論的かつ実践的に考えていくことができる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

- ・ 「高等学校学習指導要領解説 公民編」文部科学省（平成30年告示）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 二谷貞夫・和井田清司 編 『中等社会科の理論と実践』 学文社 2007
- ・ 東京都高等学校公民科「倫理」「現代社会」研究会 編 『新科目「公共」「公共の扉」をひらく授業事例集』 清水書院 2018
- ・ 他に授業で紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション 教育の目的と公民科の扱い
 - 第2回：学習指導要領と改訂のポイント
 - 第3回：公民科授業の構成 年間計画と単元計画
 - 第4回：公民科科目の取り扱いと内容 公共（現代社会）
 - 第5回：公民科科目の取り扱いと内容 倫理
 - 第6回：公民科科目の取り扱いと内容 政治経済
 - 第7回：公民科科目における持続可能な開発のための教育
 - 第8回：公民科の授業づくり 教材研究・教材活用・グループワークについて
 - 第9回：公民科の授業づくり 学習評価と授業評価・生徒観について
 - 第10回：公民科の授業づくり 授業研究・授業記録を読む（1）実践と省察
 - 第11回：公民科の授業づくり 授業研究・授業記録を読む（2）主体的・対話的で深い学びについて
 - 第12回：単元計画と学習指導案1 指導案の作成と留意点
 - 第13回：単元計画と学習指導案2 年間計画と指導案作成
 - 第14回：授業指導案作成
 - 第15回：授業指導案作成・社会科教師に求められる資質・能力
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度（グループワークや質疑などへの参加）・・・ 30％
最終試験・・・ 30％
学習指導案作成・・・ 40％

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習 学習指導要領解説を読み込んでおく
事後学習 講義で扱った内容について振り返り、実践と理論について考察する

履修上の注意 /Remarks

課題や発表について、期日を守るよう心掛けてもらいたい。
出席は10回以上している事が単位認定試験を受ける前提条件とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の中では、グループワークやディスカッションをとり入れるため、積極的な参加を望む。

キーワード /Keywords

公民科教育法B 【夜】

担当者名 /Instructor 吉村 義則 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本講義は、公民科教授のための基本的な知識と技能を習得することを目的とする。

◎到達目標

- ・ 公民科教育の位置づけや他社会科学科目との関連に関する理論と実践に関する発展的な能力を有している。
- ・ 現代社会（公共）・倫理・政治経済に関連する諸問題を取り上げ、公民科の教材を開発することができる。
- ・ 公民科の教員に必要な基本的知識や資質、学習指導要領における公民科の教育課程における位置づけと役割を踏まえて学習指導案を作成することができる。
- ・ 学習指導案の作成やグループでの討論を通して、今、求められる公民科教育の実践指導のあり方を習得している。
- ・ 教授活動に必要なとされる具体的な技能や方法を十分に踏まえた授業を展開できる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

「高等学校学習指導要領解説 公民編」文部科学省（平成30年告示）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 イン트로ダクション
- 第 2回 新学習指導要領における公民科の位置づけ
- 第 3回 社会科学的手法について
- 第 4回 シティズンシップと公民科教育
- 第 5回 授業実践及びICT活用による教科指導について
- 第 6回 学習指導案作成上の留意点
- 第 7回 学習指導案の作成
- 第 8回 模擬授業（参加型授業の展開）
- 第 9回 模擬授業（資料活用法、オリジナル教材の作成）
- 第 10回 模擬授業（公共）
- 第 11回 模擬授業（政治・経済）
- 第 12回 模擬授業（倫理）
- 第 13回 模擬授業（社会参加の授業理論）
- 第 14回 模擬授業（主権者教育）
- 第 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ◎授業への参加・貢献度（出席・意見発表・質疑等） 70%
- ◎模擬授業の際に提出する指導案 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ◎教材研究や指導案の準備については適宜打ち合わせ等を行う。

履修上の注意 /Remarks

- ◎積極的な授業参加が望まれる（授業後に感想用紙提出）。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育指導論【夜】

担当者名 /Instructor 船原 将太 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本講義では、道徳・道徳教育とは何かを問う作業から始め、それをもとに、現在の学校教育における道徳教育の目的と内容について学ぶ。そのために講義の前半では、私たちが日ごろ行っている些細な「正しさについての判断」を検討し、この判断の妥当性が形成される歴史的過程を追っていくこととなる。また、いくつかの現代的課題について取り上げ、道徳教育に必要な思考力を鍛える。さらに、「道徳の授業」に関する著名な教材の分析を行うとともに、実際に指導する場面を想定し、学習指導案の作成などを行っていく。このことより、道徳教育の実践的な指導力の育成をはかるものとする。

本科目の到達目標は、道徳教育指導に必要な基本的な知見を身につけているものとする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。各回、必要な資料を配布し、これをもとに講義を実施する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の際に、適宜提示するものとする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、道徳とは何か
- 第2回：社会における「正しさの基準」について
- 第3回：道徳教育の変遷①ー戦前
- 第4回：道徳教育の変遷②ー戦後
- 第5回：「道徳」の特別教科化をめぐる諸問題
- 第6回：道徳教育の目標と各教科・特別活動等における指導内容
- 第7回：道徳教育の現代的課題①(グループ討論)
- 第8回：道徳教育の現代的課題②(グループ討論)
- 第9回：道徳教育の現代的課題③(グループ討論)
- 第10回：道徳教育の現代的課題④(グループ討論)
- 第11回：道徳科の学習指導案の作成方法
- 第12回：道徳教育の教材研究①
- 第13回：道徳教育の教材研究②
- 第14回：指導案作成
- 第15回：道徳教育の今日的な意義について

成績評価の方法 /Assessment Method

学習指導案：50%
コメントシート：20%
小テスト：30%
出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。
6回以上欠席した場合や最終試験を受験しなかった場合は、原則評価不能(-)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜、指示する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動論【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

1. 文科省の中学校及び高等学校学習指導要領・特別活動の目標と内容、及び指導計画の作成と内容の取扱いの留意点について理解する。
 2. 学級活動や学校行事を進めていく上で求められる基本的な指導計画、指導案の作成方法を理解する。
 3. 子どものコミュニケーション能力や自治の力を育む学級活動の進め方や指導方法について学習する。
 4. 生徒集団の自治の力を育む学校行事、生徒会活動の進め方について、具体的な実践報告を手がかりにしながら学習する。
- なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

中学校学習指導要領解説 「特別活動編」(平成20年9月)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

折出健二編 2008 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ) 学文社
高旗正人他編 「新しい特別活動指導論」 ミネルヴァ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション - 特別活動の教育的意義
- 2回 学級活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章第1節他) 学級活動の実際 中学校
- 3回 学級活動の実際 その2 高等学校
- 4回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その1 対立解決プログラムについて
- 5回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その2 傾聴のスキル、アサーティブネス
- 6回 生徒のコミュニケーション能力と問題解決能力を育てる学級活動 その3 ウィン・ウィン型の問題解決
- 7回 生徒のコミュニケーションと問題解決能力を育てる学級活動 その4 対立の仲介のロールプレイ発表
- 8回 生徒会活動の目標・内容と指導計画(テキスト第3章2節他)
- 9回 学校行事の目標・内容と指導計画(テキスト第3章3節他) 学校行事の実際 中学校
- 10回 学校行事の実際 - 高等学校
- 11回 学級の荒れを克服し、お互いを大切に作る人間関係を築く学級活動の取り組み
- 12回 困難な課題を抱える生徒の居場所づくりと学級活動の取り組み
- 13回 特別活動の学習指導案の作成方法と模擬授業について
- 14回 指導計画の作成と内容の取扱い(テキスト第4章)
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点20点(課題レポートなど) 期末試験 80点
なお、出席回数が全体の2/3に満たない場合にはこの授業の単位は認められません。
授業の欠席については、一回につき5点のマイナスとします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指定するテキストの箇所は事前に予習しておくこと。
実践報告から学んだ点について、自分なりの整理をしておくこと

履修上の注意 /Remarks

受身的な授業への参加では実践的な指導力は養われません。
グループワークなども含めて、積極的な授業参加を求めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、教師としての実践的指導力の基礎を培うことを目的とした授業です。
そのためにグループワークも多く取り込んでいます。
学級づくり、子ども集団づくりの基本的な課題と方法について、しっかりと学んでもらえたら幸いです。

特別活動論 【夜】

キーワード /Keywords

特別活動の目標・内容、指導計画、指導案の作成、学級づくり、子ども集団づくりの課題と方法

教育方法学【夜】

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

近年、課題解決型授業やアクティブ・ラーニング(主体的・対話的で深い学び)といった確かな学力を求めるための、教育のあり方が議論されている。この授業では、授業の構成要素である「教材・教師・生徒」の視点からそれぞれのあり方を捉えながら、授業理論やICT教育の求められる背景を講義する。

そのために、講義形式以外にもグループ活動やペアワークなど実際に作業することで教育方法の理論の一部を体験しながら、教材開発や教材研究を行っていく。

到達目標

【知識】教育方法に関する基本的知識を身につけている

【技能】授業実践を行うための生徒観・教材観・指導観を向上させるための技能および問題解決能力を身につけている

【思考・判断】現代教育のなかで生じるさまざまな課題に対し、批判的思考に基づいた判断を行うことができる

教科書 /Textbooks

新しい時代の教育方法(有斐閣) 2019 田中 耕治(著), 鶴田 清司(著), 橋本 美保(著), 藤村 宣之(著)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で随時紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：西洋における教育思想と教育方法の歴史
- 第3回：日本における教育改革と教育方法の歴史
- 第4回：現代教育方法学の論点と課題
- 第5回：子どもは何を学ぶのか・学習とは何か
- 第6回：「学力」について考える・学力とは何か
- 第7回：授業のデザイン・教師・生徒・教材
- 第8回：教育の道具・素材・環境を考える
- 第9回：何をどう評価するのか・評価と評定・基準と規準
- 第10回：教科外活動を構想する
- 第11回：授業の研究1・学習指導案
- 第12回：授業の研究2・授業記録を読む
- 第13回：授業の研究3・授業研究
- 第14回：教師の専門性・専門職性
- 第15回：まとめ

定期試験

(2~4回は、教育方法学を支える基礎理論や社会背景を扱い、5~10回まではICT教育や学び、学力についてテキストを中心に論じる。11~14回は実践の中でどのように授業を捉えたらよいか、教材や教師の役割などを議論していく。)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度(グループワークや質疑などへの参加)・・・30%
発表・レジュメ作成・・・20%
最終試験・課題レポート・・・50%
出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。
6回以上欠席した場合や最終試験を受験しなかった場合は、原則評価不能とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

人数によって課題の方法は変化するが、テキストについてまとめた資料(レジュメ)を作成してもらう。
また担当でない者も、内容について疑問点や感想などを報告してもらいたいので、事前にテキストを読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。

教育方法学 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育方法学がどのような学問かは、簡単には説明ができません。体験を通して、教育方法学がやってきたことやできることを共に捉えていきましょう

キーワード /Keywords

生徒・進路指導論【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本授業の到達目標は、「生徒指導に必要な基本的な知見を身につけている」である。
本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義、生徒指導の3機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、問題解決的生徒指導の区別と関連などを検討していくこと
- ② 教育課程と生徒指導、生徒指導に関する法制度、生徒指導における家庭・地域・関係諸機関との連携等に関する基本的な知識・理解を修得すること
- ③ 養育環境や発達障害等の何らかの要因による困難を抱える子どもの自立を支援する生徒指導のあり方を学習すること。
- ④ 実際の生徒指導の場面や事例を想定しながら、その場面での対応のあり方を考える力を養うこと。
- ⑤ 思春期・青年期の進路指導、キャリア教育の意義と課題について、今日の若者の就労をめぐる問題状況も含めつつ検討していくこと。また、実際の進路指導の場面に関する適切な指導のあり方を考える力を養うこと。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

文部科学省編 「生徒指導提要」 教育図書
楠凡之 「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」 高文研 第1部

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
嶋崎政男 「法規+教育で考える 生徒指導ケース100」 ぎょうせい

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション + 課題レポートの説明
- 2回 生徒指導の意義と原理(生徒指導提要第1章他)、生徒指導と生活指導
- 3回 教育課程と生徒指導(生徒指導提要第2章他) その1 - 教科教育、「特設道徳の時間」と生徒指導
- 4回 教育課程と生徒指導 その2 学級活動・学校行事と生徒指導
- 5回 生徒指導に関する法制度等(第7章他) その1
- 6回 生徒指導と校則・体罰問題を考える。
- 7回 思春期の「自己形成モデル」の意義と進路指導・キャリア教育
- 8回 中学校の進路指導実践 - 「ようこそ先輩」の取組み
- 9回 今日の若者の労働実態から高校進路指導の課題を考える
- 10回 進路相談のロールプレイ実習
- 11回 ケータイ・インターネット問題と生徒指導
- 12回 性の多様性、セクシュアルマイノリティへの理解と性教育の課題
- 13回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その1 少年期
- 14回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その2 思春期
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート20%、期末試験80%
なお、授業の出席が2/3に満たない場合には単位の修得は認められません。
授業を欠席した場合には、一回につき5点の減点とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

生徒指導提要の該当箇所については事前に読み込んでおくこと

生徒・進路指導論【夜】

履修上の注意 /Remarks

受け身の受講では実践的な指導力を身につけることはできません。能動的な授業参加を期待します。
できるだけ、テキストの、その授業で取り上げるテーマに関するところを読んでおいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は教職課程を履修する学生の必修科目ですが、人間関係学科の学生でスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの援助専門職につきたいと考えている学生にも役立つ授業だと思います。積極的に受講してください。

キーワード /Keywords

生徒指導の三機能、児童虐待、様々な問題を表出する生徒への指導、進路指導

教育相談【夜】

担当者名 山下 智也 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本授業では、学校での教育相談の意義、生徒の問題行動の理解、教育相談の理論と技法（積極的傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など）を習得する。

また、不登校やいじめ、発達障害、非行、自傷・自殺、虐待等、様々な問題を表出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて検討するとともに、教育相談の組織的な体制づくりや関係諸機関との連携の課題を考察する。

<到達目標>

【知識】教育相談の意義を理解し、関連する専門的な知識を身につけている。

【思考・判断・表現力】教育相談に関する知識を元に、適切な支援の道筋を見出すことができる。

この科目は、履修ガイドの「教育の基礎的理解に関する科目等」カリキュラムマップの「II類-2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

虐待 いじめ 悲しみから希望へ 楠凡之（著） 高文研
その他、適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

生徒指導提要 文部科学省
Next教科書シリーズ 教育相談 津川律子、山口義枝、北村世都（著） 弘文堂
子どものこころの支援 連携・協働ワークブック 前川あさみ（編著） 金子書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：本講義のオリエンテーション、教育相談の歴史
 - 第2回：学校における教育相談の現代的意義と課題
 - 第3回：教育相談とカウンセリング（カウンセリングマインドの理解も含む）
 - 第4回：子どもの問題行動の意味（子ども理解も含む）
 - 第5回：教育相談の実際①（発達障害、不登校、いじめ等）
 - 第6回：教育相談の実際②（非行、自傷・自殺、虐待等）
 - 第7回：教育相談の基本的な理論の修得（来談者中心療法等）
 - 第8回：教育相談の基本的なスキル①（受容、傾聴、共感的理解、開かれた質問等）
 - 第9回：教育相談の基本的なスキル②（感情の明確化、共感的応答、直面化等）
 - 第10回：教育相談に役立つ心理的支援①（アサーション、ブリーフセラピー等）
 - 第11回：教育相談に役立つ心理的支援②（行動療法、認知行動療法等）
 - 第12回：教育相談に役立つ心理的支援③（ストレスコーピング、ストレスマネジメント等）
 - 第13回：教育相談のための連携と協働①（保護者との相談、学内での体制づくり等）
 - 第14回：教育相談のための連携と協働②（関係諸機関との連携）
 - 第15回：本講義全体のまとめ
- 最終試験

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・ミニレポート 40%
最終試験 60%
(出席について、原則として3分の2以上の出席を最終試験受験資格とする。)
(6回以上欠席した場合や最終試験を受験しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回回の予告を行い、関連キーワードを調べておくなど、次回までの課題を提示する（必要な学習時間の目安は60分）。
事後学習：授業の冒頭で、前回の授業内容について振り返りをしたり、グループで発表し合ったりするため、授業で学習した学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努める。（必要な学習時間の目安は90分）

履修上の注意 /Remarks

教育相談【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義だけでなく、個人ワークやペアワーク、グループワーク、ロールプレイ等を行います。
授業への主体的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

教育相談、いじめ、不登校、虐待

教育実習 1 【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」(実習校実習)に向けての事前指導として、実習校実習に求められる指導能力の獲得に取り組む。その課題は以下の通りである。

1. 教育実習生としての基本的な心構え、社会的責任の自覚
2. 学習指導に求められる基本的な理論・知識・技術など
3. 生徒指導・学級経営に求められる基本的な理論・知識・技術など

到達目標

- ・教育実習(実習校実習)に臨み、学習指導や生徒指導などの基本的な知識を身につけている。
- ・教育実習(実習校実習)に臨み、学習指導や生徒指導などの基本的な技能を身につけている。

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「III類-3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』(756円)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

高野和子・岩田康之共編 「教育実習」 学文社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
教育実習及び教員採用に向けての力量形成の課題
- 2回 教育実習生の1日
- 3回 教育実習の体験から学ぶ(中学)
- 4回 教育実習の体験から学ぶ(高校)
- 5回 学級づくりと学級経営案(合同授業)
- 6回 特別活動の模擬授業について(4年生の実演)
- 7回 教科教育の模擬授業について(4年生の実演)
- 8回 子どもの問題行動と生徒指導(外部講師の講演)
- 9回 教科の模擬授業(合同授業)
- 10回 特別活動の模擬授業 その1
- 11回 特別活動の模擬授業 その2
- 12回 学級づくりの実際(外部講師の講演)
- 13回 教育相談のロールプレイ
- 14回 教科に関するフィールドワーク(合同授業)
- 14回 学級経営・学級づくりの実際(外部講師の講演)
- 15回 全体のまとめと教育実習に向けての課題

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(60%) 学習指導案(特活、教科)などの提出物の評価(40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業での学習内容については必ず教育実習ノートに清書をおこなうこと。
(授業中に実習ノートに記入することは決してしないこと)

模擬授業の前には必ず指導案を作成し、十分な準備をしてから模擬授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

この授業は全回出席が原則。万一、やむを得ない事情で欠席した場合にはすみやかに教職資料室で補講を受け、学習内容を実習ノートに記載すること。

一回でも欠席し、補講を受けてその内容の学習を行っていない場合には、授業の単位が出ないこともあるので十分に留意すること。
新型コロナウイルス感染症の拡大にける授業方法の変更などがある場合はアナウンスするのでよく掲示を見ておくこと。

教育実習 1 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は実習校実習の約半年前に行われる授業であり、これまでの教職課程の授業科目や学校現場体験、指導体験を基盤にして、実習校実習に必要な実践的指導力の修得をめざす科目です。
皆さんには半年後に迫っている実習校実習に向けて、真摯な態度で授業に臨むことを期待します。

キーワード /Keywords

模擬授業、実践的指導力

教育実習 2 【夜】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な心構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

この科目は、教職課程履修ガイドのカリキュラムマップの「III-4」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード
- 1回 オリエンテーション 【勤務】 【連絡】
 - 2回 中学校における教育実習に関する諸注意(外部講師による講演)
 - 3回 高等学校における教育実習に関する諸注意(外部講師による講演)
 - 4回 教育実習に向けての課題の整理(教科の授業、生徒指導、特別支援教育)
 - 5回 実習校実習② 【教育実習指導】
 - 6回 実習校実習③ 【教育実習指導】
 - 7回 実習校実習④ 【教育実習指導】
 - 8回 実習校実習⑤ 【教育実習指導】
 - 9回 実習校実習⑥ 【教育実習指導】
 - 10回 実習校実習⑦ 【教育実習指導】
 - 11回 実習校実習⑧ 【教育実習指導】
 - 12回 実習校実習⑨ 【教育実習指導】
 - 13回 実習校実習⑩ 【教育実習指導】
 - 14回 実習校実習⑪ 【教育実習指導】
 - 15回 教育実習反省会と教職総合演習に向けての課題

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、教育実習 1 などの復習と、前回までの指導内容・確認事項をチェックしておく。
事後は、教育実習の反省点と自己教育の課題(学習指導、生徒指導)を教育実習ノートに記載すること。

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 3 【夜】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める。

この科目は、教職課程履修ガイドのカリキュラムマップの「III類-4」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード
- 1回 オリエンテーション 【勤務】 【連絡】
 - 2回 中学校における教育実習に向けての諸注意(外部講師の講演)
 - 3回 高等学校における教育実習に向けての諸注意(外部講師の講演)
 - 4回 教育実習に向けての課題の整理(学習指導、生徒指導、特別支援教育)
 - 5回 実習校実習② 【教育実習指導】
 - 6回 実習校実習③ 【教育実習指導】
 - 7回 実習校実習④ 【教育実習指導】
 - 8回 実習校実習⑤ 【教育実習指導】
 - 9回 実習校実習⑥ 【教育実習指導】
 - 10回 実習校実習⑦ 【教育実習指導】
 - 11回 実習校実習⑧ 【教育実習指導】
 - 12回 実習校実習⑨ 【教育実習指導】
 - 13回 実習校実習⑩ 【教育実習指導】
 - 14回 実習校実習⑪ 【教育実習指導】
 - 15回 教育実習反省会(実習校実習の反省点の整理と教職実践演習の課題)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、教育実習1や前回までに内容の復習
事後は、扱った内容を教育実習ノートに記載する

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと
教育実習2と同様です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育実習2と同時履修(教育実習の時間数の単位換算のため)。
教育実習3のみ受講の場合は教育実習2で指示が行われることがあるので、教職掲示板や教育実習2の内容を確認するようにしてください。

キーワード /Keywords

教職実践演習 (中・高) 【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 / 4年
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

授業のねらい

本授業では、在学中に学んだ教職に関する総合的な知見と教育実習で得られた教科指導等の基礎的指導力をもとに、教職課程履修のプロセスで見えてきた自己の資質能力の現段階の達成度と課題をそれぞれ把握させ、実践的指導力を発揮する教員としての最低限の資質能力についての確認と定着を図る。

授業内容としては、主に、①教員としての使命感、責任感、教育的愛情 ②教師に求められる社会性と対人関係能力、③生徒理解と学級経営、④教科指導、の4つの領域において、自分自身の自己教育の課題を踏まえた学習を進めるとともに、「教員としての最低限の資質」の獲得に向けての各個人で自己教育の課題を設定し、その成果について発表する取り組みを進める。

本科目の到達目標は以下の通りである。

- ① 教師に求められる使命感、責任感、コンプライアンスの能力を身につけている。
- ② 教職員や保護者と連携、協同していくために必要な対人関係能力を身につけている。
- ③ 生徒指導と学級経営に必要な知識と指導力に身につけている。
- ④ 専門教科及び道徳に関する授業をしていくための基礎的な知識と指導力に身につけている。

なお、本授業は「教職に関するカリキュラムマップ」で、Ⅲ類の4 に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

適宜、ワークシート、レジュメ、資料などを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーションとプレゼンテーション方法の説明
- 2回 教師の使命感、責任、教育的愛情に関するグループワーク
- 3回 生徒とのコミュニケーション能力を高めるためのグループワーク
- 4回 教員に求められる対人関係能力に関するグループワーク
- 5回 地域・保護者との連携に関するグループワーク
- 6回 教科の模擬授業 その1 三つの教科に分かれての模擬授業とグループワーク(中学校)
- 7回 教科の模擬授業 その2 三つの教科に分かれての模擬授業とグループワーク(高等学校)
- 8回 教科の模擬授業 その3 三つの教科に分かれての模擬授業と講師からのコメント
- 9回 学級経営案の報告と検討(教育実習1との合併授業)
- 10回 生徒指導に関するケーススタディ(グループ討論)
- 11回 保護者理解に関するグループワーク その1
- 12回 保護者理解に関するグループワーク その2
- 13回 学校現場でのフィールドワークの報告 その1(教科教育を中心に) 教育実習1との合併授業
- 14回 学校現場でのフィールドワークの報告 その2(教科外教育、生徒指導を中心に)
- 15回 学校現場でのフィールドワークの報告 その3(特別ニーズ教育を中心に)
全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学級経営案 20% フィールドワークレポート 20%
毎回のノートと期末レポート 60% で評価する。
なお、授業を欠席し、補講を受けていない回があれば、10%の減点になります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業内容についてはきっちりとノートにまとめて一冊に綴じ合わせておくこと。
模擬授業やフィールドワークの報告には十分な準備をして臨むこと

教職実践演習 (中・高) 【夜】

履修上の注意 /Remarks

本授業が始まるまでに、自己評価シートを記入し、教員としての最低限の資質を獲得していくうえでの自己教育の課題を明確化しておくこと。
。 毎回の授業内容については必ず教職実践演習ノートにまとめておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この科目はこれまでの教職課程のすべての学習の総決算と言える科目です。
卒業後に教員への道を歩む人だけでなく、他の進路を選択した人も、教員免許状を取得する社会的責任を自覚して、最後まで真摯な態度で授業に臨んでもらえることを願っています。

キーワード /Keywords

教員としての最低限の資質、自己教育力

教育心理学【夜】

担当者名 /Instructor 山下 智也 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

教育心理学とは、教育活動を効果的に推進するために役立つ心理学的な知見や技術を提供する学問である。

この授業では、まず【学習】分野として、幼児、児童及び生徒の教育場面に関連する学習理論を学ぶことを通して、より効果的な教育活動を展開するための教育心理学の基礎的事項について理解する。次に【発達】分野として、子どもの発達段階について学んだ上で、教育現場での個々人に応じた教育及び発達支援について理解を深める。さらに、知的障害・発達障害のある幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程についても学ぶ。また、教育心理学の知見を生かした多様な【教授法】について学ぶとともに、学級集団や子ども理解、教育評価等の理解を深め、教育現場へと【応用】する術を学ぶ。

授業形態は講義とする。授業内で出される課題についてのグループディスカッション、心理学実験、プレゼンテーション等のアクティブラーニングを部分的に取り入れる。

<到達目標>

【知識】教育現場に生かすための教育心理の基礎（学習理論や教授法等）を幅広く理解している。

この科目は、履修ガイドの「教育の基礎的理解に関する科目等」カリキュラムマップの「I類-2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

適宜レジユメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

やさしい教育心理学 第4版 鎌原 雅彦(著), 竹網 誠一郎(著) 有斐閣

教育心理学【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：教育心理学が心理学の分野においてどのように発展してきたのか、また教育心理学とは何を目的とした学問なのかについて学ぶ。
- 第2回：【学習①】古典的条件づけやオペラント条件づけ等の基本的な学習理論（経験説）について教育との関係から学ぶ。
- 第3回：【学習②】洞察説やサイン・ゲシュタルト説等の基本的な学習理論（認知説）について教育との関係から学ぶ。
- 第4回：【学習③】学習における動機づけについて学ぶ。また動機づけを高め、維持するための働きかけ方についても学ぶ。
- 第5回：【学習④】学習における原因帰属理論について学ぶ。また、原因帰属と動機づけの関連性についても学ぶ。
- 第6回：【学習⑤】記憶に関する基礎理論（長期記憶、短期記憶、忘却等）を学ぶ。また、学習活動における記憶の役割や記憶の定着を促す学習方法について学ぶ。
- 第7回：【発達①】発達に及ぼす遺伝要因と環境要因の相互作用の影響に焦点を当てる。特に発達における環境要因としての教育が果たす役割について理解する。
- 第8回：【発達②】発達初期における養育者との愛着形成と初期経験の重要性について理解する。また、生涯発達の視点からピアジェの認知発達理論についても学ぶ。
- 第9回：【発達③】生涯発達の視点からエリクソンのライフサイクル論を理解し、特に思春期・青年期に関して、発達段階を踏まえた適切な学習方法について理解を深める。
- 第10回：【発達④】発達障害（自閉症スペクトラムや学習障害、注意欠陥多動性障害等）の特徴について学ぶとともに、発達障害児との関わりについて理解を深める。
- 第11回：【教授法①】発見学習や有意義受容学習等の学習指導法について、その特徴と提唱された理論的背景について学ぶ。
- 第12回：【教授法②】プログラム学習やバズ学習、ジグソー学習等の学習指導法について、その長所と短所を理解し、実践場面での使い分け方について学ぶ。
- 第13回：【応用①】学級集団の諸相を仲間集団の発達の変容や測定方法など仲間関係の側面から学ぶ。また教師のリーダーシップや教師期待効果などの教師の役割についても学ぶ。
- 第14回：【応用②】知能の定義や考え方の変遷について学ぶ。また、教育場面での評価の形態（絶対評価、相対評価、個人内評価等）について学び、その特徴を理解する。
- 第15回：【応用④】教育心理学的観点から、子ども理解を深めるとともに、特別な支援を必要とする子ども（知的障害・発達障害等）への対応・支援や、子どもの不適応問題（いじめ・不登校等）への対応・支援についても学ぶ。
- 最終試験

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・ミニレポート・・・40%
最終試験・・・60%

（出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。）
（6回以上欠席した場合や最終試験を受験しなかった場合は、原則評価不能（-）とする。）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回次回の予告を行い、関連キーワードを調べておくなど、次回までの課題を提示する（必要な学習時間の目安は60分）。
事後学習：授業の冒頭で、前回の授業内容について振り返りをしたり、グループで発表し合ったりするため、授業で学習した学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努める。（必要な学習時間の目安は90分）

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義だけでなく、個人ワークやペアワーク、グループワークを行います。
授業への主体的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

子どもの発達、子どもの学習、子どもへの関わり方

障害児の心理と指導【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

「障害」とは何か。その社会的定義、障害者観を踏まえ、障害を有する人々が示す特徴について理解を深める。また、障害児・者の抱える発達課題、支援のあり方について具体的なアセスメント・臨床技法を交えて考える。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

(到達目標)

【知識】発達における障害とその支援に関する基礎的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：障害児の心理と指導について
- 第2回 障害の概念とノーマライゼーション
- 第3回 人々の障害者観：障害をどう捉えるか
- 第4回 障害の重積・深化の過程と発達援助
- 第5回 視覚障害について
- 第6回 聴覚障害について
- 第7回 知覚障害の理解と支援
- 第8回 まとめ・レポート課題1
- 第9回 姿勢・運動の障害について
- 第10回 知的障害について
- 第11回 障害のアセスメント【発達評価・心理検査】
- 第12回 発達障害について①【自閉スペクトラム症】
- 第13回 発達障害について②【注意欠如多動症・限局性学習症】
- 第14回 家族支援・地域支援について
- 第15回 まとめ・レポート課題2

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポート含む) ... 20% レポート課題 ... 80%
6回以上欠席した場合やレポート課題(2回)を提出しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業範囲を予告するので、各自予習してくる。また、授業終了後には配布プリント等を用いて各自復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育社会学【夜】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

社会学的な視点から学校教育と学校をめぐるとして、国内外の動向も紹介しながら、政策・実践課題について考えていきます。あわせて、子どもや子どもをめぐるとして社会変化についても理解を深めていきます。

日本については近年の様々な課題や政策動向など状況の変化について理解を深めます。

国外については日本との比較を念頭に置きながら、少子化への対応や、教育への考え方、取り組みの違いなどを理解し、社会全体で子どもを育成していく視点の重要性、教育の役割について説明します。

学校教育と家庭教育、社会教育（地域教育）の連携や協働についても具体的事例を取り上げながら理解を深めていきます。また、自然災害に対する子どもの安全を含めた、子どもの安全への対応についても事例を取り上げて考えます。

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

(到達目標)

【知識】

教育に関する社会学的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回オリエンテーション ー教育に関する社会学とは
- 第2回学校をめぐるとして近年の動向 ー初等教育
- 第3回学校をめぐるとして近年の動向 ー中等教育
- 第4回子どもをめぐるとして社会の変化 ー少子高齢化、地域・社会の変容
- 第5回諸外国の子ども・子育ての動向 ー家族支援、教育支援
- 第6回諸外国の教育 ー学校教育
- 第7回諸外国の教育 ー青少年の社会参加・参画
- 第8回日本における教育政策・改革の動向
- 第9回子どもの生活の変化と指導の課題 ー家族、少子化
- 第10回子どもの生活の変化と指導の課題 ー孤食、栄養と食育
- 第11回子どもの生活の変化と指導の課題 ーメディアと遊び
- 第12回子どもの生活の変化と指導の課題 ー社会性、自主性
- 第13回学校と地域の連携 ー地域の変化、学校と地域の連携・協働、開かれた学校づくり
- 第14回学校や子ども活動での子どもの安全
- 第15回子どもの生活安全、交通安全、災害安全

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート・・・30%、課題レポート・・・70%
6回以上欠席した場合や最終レポートを提出しなかった場合は、原則評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

子どもや教育に関する情報収集を行い、統計や社会動向、社会の反応などを踏まえて、予習に関しては授業時の小レポートに、復習に関しては課題レポートに記載すること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

履修上の注意 /Remarks

教職や社会教育主事資格の関連科目とあわせて受講すると、本講義の理解がより深いものになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実践的な取り組みを視聴覚教材を活用しながら紹介します。

キーワード /Keywords

公教育制度、地域、連携、協働、学校安全

生涯学習学【夜】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
			○	○	○	○	○	○				

授業の概要 /Course Description

本講義では、学校教育以外の社会教育（家庭教育を含む）、それを踏まえた学校教育を含む生涯学習の基礎的内容について説明します。その意義や歴史的背景、法制度、国内外の動向について理解を深め、社会教育施設（公民館、図書館、博物館等）の役割・状況についても考えます。

「学習権宣言」で述べられた、成り行き任せの客体から、自らの歴史つくる主体へ、という意味と、それを支援する専門性という視点から、生活課題や地域課題の解決に向けた教育・学習について理解を深めます。

そのことを通して、社会教育、学習活動の支援についての基礎的能力を養います。

授業に含まれる事項は以下の通りです。生涯学習の意義、学習者の特性と学習の継続発展、生涯学習と家庭教育、生涯学習と学校教育、生涯学習と社会教育、生涯学習社会における各教育機能相互の連携と体系化、生涯学習社会の学習システム、生涯学習関連施策の動向、社会教育の意義、社会教育と社会教育行政、社会教育の内容、社会教育の方法・形態、社会教育指導者、社会教育施設の概要、学習情報提供と学習相談の意義等

なお、この科目は、社会教育主事や学芸員資格の必修、教職課程の選択であり、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-2」に分類される科目である。

(到達目標)

【知識】

生涯学習に関する基礎的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所
- 雑誌『月刊 社会教育』旬報社
- 雑誌『公民館』全国公民館連合会
- 雑誌『社会教育』日本青年館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 生涯学習・社会教育の意義
- 第2回 生涯学習ボランティア -学習への支援と学習成果の活用-
- 第3回 社会教育の内容・方法・形態-学級・講座の企画
- 第4回 成人教育の国際的動向 -日本の特質と学習権-
- 第5回 社会教育と生涯学習関連の法制度
- 第6回 社会教育の歴史と発展-生涯学習関連施策の動向
- 第7回 社会教育行政と事業 -学習相談、サービス、学習情報の提供
- 第8回 社会教育施設 -地域公民館
- 第9回 公民館の実践 -社会教育と地域づくり
- 第10回 社会教育指導者と事業の連携・発展
- 第11回 社会教育施設-博物館
- 第12回 社会教育施設と生涯学習施設
- 第13回 社会教育施設-図書館
- 第14回 図書館、博物館における学習・グループ活動
- 第15回 住民の力量形成と地域づくり -家庭教育・学校教育・社会教育の連携-

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート...70% 課題レポート...30%
6回以上欠席した場合や最終レポートを提出しなかった場合は、原則評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に、これまでや次回、今後の講義テーマ・内容について案内するので、その指示に従い準備してのぞむこと

履修上の注意 /Remarks

学芸員資格や社会教育主事資格として受講する場合、必修科目の基本科目としてこの授業を先に受講するか、他の関連科目とあわせて受講すると、資格科目の理解が深まります。教職に関する科目として受講する場合、学校との連携、学校教育以外の教育活動を意識して受講すると視野が広がります。専門科目として受講する場合、権利としての社会教育・生涯学習という視点で考えると、理解が深まります。

生涯学習学 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法社会学専門演習I【昼】

担当者名 /Instructor 林田 幸広 / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM301M		○	○	◎	
科目名	法社会学専門演習 I				
※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連					

授業の概要 /Course Description

法社会学は、法（ルール）が現実の社会のなかで、どのような働きをしているのかについて観察・分析していく学問分野です。したがって（法典を解釈するのではなく）、社会現象として法をとらえる、という視座をとります。演習では、法解釈ではなく、広い意味での法を社会の側から眺めやることで、法／規範を多面的／批判的に見ていくことができるようなスキルの体得を目指したいと思います。そうはいつても、法社会学には体系がありません。総論／各論もありません。。。いつけん取っ付きにくそうですが、逆にいえば「入り口」（問いの立て方）はたくさんあります。本演習では、各参加者が自分に適した「入り口」を発見できるようになるために、さしあたり、法社会学的な視点（アプローチ）を扱ったテキスト、ないし現代社会の「自明性」（あたりまえなこと）を「批判的に」分析するテキストの紹介／輪読から始めて、みんなで法社会学フィールドを探索していきたいと思ひます。

（到達目標）

【技能】

法社会学に関連した文献資料を読解・分析していくための基本的な技能を身につけている

【思考・判断・表現力】

法社会学的な分析を通じて課題を発見し、それを表現することができる

【コミュニケーション力】

他の参加者と議論をしながら協働して課題の共有と解決策の考案に向けて取り組む姿勢を身につけている

教科書 /Textbooks

参加者に提示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参加者に個別に提示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※以下は、参加者の人数等によって変更となる場合があります。

- 第1回 ガイダンス（演習の目的、概要、進行方法などの説明）
- 第2回 法社会学の特徴説明
- 第3回 合議によるテキスト選定、報告順の決定
- 第4回～第8回 担当者による報告／全員による議論
- 第9回 中間地点での振り返り、後半に向けた運営等の改善点の洗い出し
- 第10回～14回 担当ゼミ生による報告／全員による議論
- 第15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ①報告の準備と内容（30％）
- ②各回の議論への貢献度（50％）
- ③学期末レポート（20％）

※無断欠席を3回以上した場合は、評価不能（-）とします。

法社会学専門演習I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】：

報告者は、テキストや資料の該当箇所を熟読した上でレジユメを作成しゼミ生分のコピーを持参してきてください。他の参加者は、同じく該当箇所を熟読し、自分なりの論点や疑問点を携えて報告後の議論に参加する準備をしてください。

【事後学習】：

ゼミ中に出た論点や問題点を整理して学期末レポートに備えてください。場合によっては、新たな文献や資料にあたってください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 分野の性質上、法解釈学的思考になることはほとんどありません。社会哲学・社会学・社会思想といった類の知見を もとに、自分で問い / 考えることが求められます。
- ・ 欠席する際は、かならず担当者に連絡してください。
- ・ 「確信犯的」フリーライダーには厳格に対処することを高らかに宣言しておきます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

法社会学には「模範解答」はありません。でも、ルールの問題点や急所を洗い出してアレコレ / グルグルと悩み続けることは無意味ではないと思います。ぜひ、自分で「問い」を立ててみてください。

キーワード /Keywords

法社会学専門演習II【昼】

担当者名 /Instructor 林田 幸広 / 法律学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM302M		○	○	◎	
科目名	法社会学専門演習II				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

法社会学演習Iに続いて、法 / 規範現象を観察・分析する視座の体得を目指します（この点につき、法社会学演習Iのシラバスも併せてご参照ください）。演習の後半では各参加者の「入り口」（問い＝テーマの設定）とおおまかな道筋（アプローチ）をご披露いただき、参加者全員でそれを「盛る」（ブラッシュアップする）作業をしたいと思っています。最終的には、4年次に完成させるゼミ論の構想と見通しを各自が報告できることをゴールとします。

（到達目標）

【技能】

法社会学に関連した文献資料を収集・整理していくための技能を身につけている

【思考・判断・表現力】

法社会的な分析を通じて課題を発見し、それを論理的に表現することができる

【コミュニケーション力】

他の参加者と議論をしながら協働して課題の共有と解決策の考案に向けて、異なる立場を意識しつつ取り組む姿勢を身につけている

教科書 /Textbooks

参加者に提示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参加者に個別に提示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※以下は、参加者の人数等によって変更となる場合があります。

第1回 ガイダンス（演習の目的、概要、進行方法などの思い出し）

第2回 法社会学演習Iの振り返り

第3回 合議によるテキスト選定、報告順の決定

第4回～第10回 報告担当者による報告 / 全員による議論

第11回 参加者全員のテーマ報告

第12回～14回 テーマに関する報告・議論

第15回 全体のまとめ（ゼミ論のテーマ決定と見通しを報告）

成績評価の方法 /Assessment Method

①報告の準備と内容（30%）

②各回の議論への貢献度（50%）

③学期末レポート（20%）

※無断欠席を三回以上した場合は、評価不能（-）とします。

法社会学専門演習II【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】：

報告者は、テキストや資料の該当箇所を熟読した上でレジュメを作成しゼミ生分のコピーを持参してきてください。他の参加者は、同じく該当箇所を熟読し、自分なりの論点や疑問点を携えて報告後の議論に参加する準備をしてください。

【事後学習】：

ゼミ中に出た論点や問題点を整理して学期末レポートに備えてください。場合によっては、新たな文献や資料にあたってください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 欠席する際は、かならず担当者に連絡すること
- ・ 「確信犯的」フリーライダーには厳格に対処することを高らかに宣言しておく

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習Iでやってきている(ハズの)ルールの問題点や急所を洗い出してアレコレ/ググルと悩み続けることの中から自分で立てた「問い」を出発点にして、今度はその「問い」からより具体的な論点を析出し、一方でゼミ論の構想を練り/他方で関連する文献を収集して、報告・議論します。議論は相手を負かすためではなく、お知恵を拝借する相互行為です。

キーワード /Keywords

法社会学専門演習Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 林田 幸広 / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM401M		○	○	◎	
科目名	法社会学専門演習Ⅲ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本演習は、法社会学演習I・IIの履修を終えた学生の受講がおおむね想定されていますので、基本的には、演習I・IIの延長線上に位置づけられます。具体的には、演習IIで各自が提出したゼミ論構想に基づいて、ゼミでは、より詳細なストーリー構成や悩んでいる点などにつき報告してもらい、議論を経て、ブラッシュアップしていくという過程を予定しています。ゼミ外においても、資料の収集や読み込みが必須です。ゼミ生には各自のテーマはもちろんのこと、他のゼミ生のテーマや報告に関しても議論に参加し、発言を求めます。2学期開始時を目途に初稿（粗原稿）を完成させることをめざします。

(到達目標)

【技能】

法社会学に関連した文献資料を主体的に収集・整理していく技能を身につけている

【思考・判断・表現力】

法社会的な分析を通じて自ら思考し課題を発見するとともに、それを論理的に表現することができる

【コミュニケーション力】

他の参加者と議論をしながら協働して課題の共有と解決策の考案に向けて、自説を批判的に吟味しつつ取り組む姿勢を身につけている

教科書 /Textbooks

参加者に提示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参加者に個別に提示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※以下は、参加者の人員等によって変更となる場合があります。

- 第1回 ガイダンス(演習の目的、概要、進行方法などの説明)
- 第2回 専門演習IIの振り返り
- 第3回 各自のテーマ設定と進捗状況の報告
- 第4回～第8回 担当者によるテーマ報告 / 全員による議論
- 第9回 中間地点での振り返り、後半に向けた運営等の改善点の洗い出し
- 第10回～14回 担当ゼミ生による報告 / 全員による議論
- 第15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ①報告の準備と内容(30%)
 - ②各回の議論への貢献度(50%)
 - ③学期末レポート(20%)
- ※合理的な理由を欠く欠席を3回以上した場合は、評価不能(-)とします。

法社会学専門演習Ⅲ 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】：

報告者は、テキストや資料の該当箇所を熟読した上でレジユメを作成しゼミ生分のコピーを持参してきてください。他の参加者は、同じく該当箇所を熟読し、自分なりの論点や疑問点を携えて報告後の議論に参加する準備をしてください。

【事後学習】：

ゼミ中に出た論点や問題点を整理して学期末レポートに備えてください。場合によっては、新たな文献や資料にあたってください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 欠席する際は、かならず担当者に連絡すること
- ・ 「確信犯的」フリーライダーには厳格に対処することを高らかに宣言しておく

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自身の「問い」を基点にして析出した諸論点のつながりを意識しましょう。資料収集と要約（レジユメ作成）と議論という従来の活動に加えて、ゼミ論を「書く」という作業が加わります。勇気を出して（？）書き始めましょう！

キーワード /Keywords

法社会学専門演習Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 林田 幸広 / 法律学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 4年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM402M		○	○	◎	
科目名	法社会学専門演習Ⅳ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

法社会学演習Ⅲに続いて、各自のテーマをゼミ論にしていくなかで作業が中心です（この点につき、法社会学演習Ⅲのシラバスも併せてご参照ください）。最終的には当人が責任を負いますが、ゼミ生全員で「知恵」を出し合い、より面白いゼミ論の完成を目指します。

（到達目標）

【技能】

法社会学に関連した文献資料を主体的に収集・整理し、分析していく技能を身につけている

【思考・判断・表現力】

法社会的な分析を通じて自ら思考し課題を発見するとともに、それを論理的に表現することができる

【コミュニケーション力】

他の参加者と議論をしながら協働して課題の共有と解決策の考案・さらなる問題点の抽出に向けて取り組む姿勢を身につけている

教科書 /Textbooks

参加者に提示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参加者に個別に提示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※以下は、参加者の人数等によって変更となる場合があります。

- 第1回 ガイダンス（演習の目的、概要、進行方法などの思い出し）
- 第2回 法社会学演習Ⅲの振り返り
- 第3回 参加者全員のテーマと進捗状況の報告
- 第4回～14回 テーマに関する報告・議論・助言
- 第15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 報告の準備と内容（30%）
 - ② 各回の議論への貢献度（30%）
 - ③ ゼミ論の内容（40%）
- ※合理的な理由を欠く欠席を3回以上した場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前学習】：

報告者は、テキストや資料の該当箇所を熟読した上でレジュメを作成しゼミ生分のコピーを持参してきてください。他の参加者は、同じく該当箇所を熟読し、自分なりの論点や疑問点を携えて報告後の議論に参加する準備をしてください。

【事後学習】：

ゼミ中に出た論点や問題点を整理して小論文に備えてください。場合によっては、新たな文献や資料にあたってください。

法社会学専門演習Ⅳ【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 欠席する際は、かならず担当者に連絡すること
- ・ 「確信犯的」フリーライダーには厳格に対処することを高らかに宣言しておく

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

書きながら足りないところを埋めたり(含、文献収集)、余計な(?)部分を削ったりして、諸論点のより有機的な連関を意識した執筆がメインです。もちろん、そのためにはゼミ生どうしの議論(知恵の出しあい)は効果的です。

キーワード /Keywords